THE KAIZO

改造

六月號

V.5-6

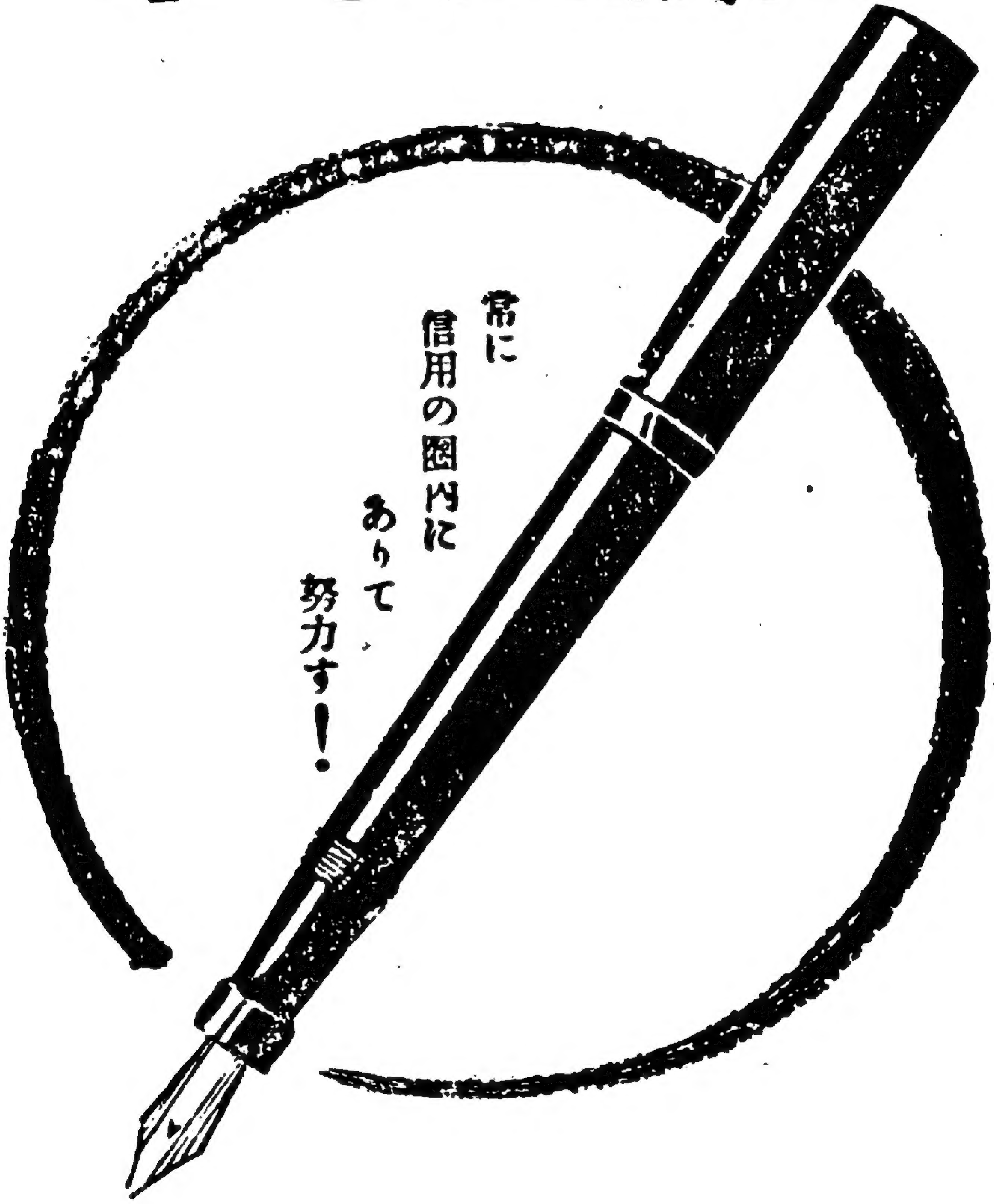
1923

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

パイロット

高級萬年筆



株式會社 並木製作所
東京日本橋

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

リッケルト原著　小川義章譯

（菊判上製）　定價貳圓八拾錢　送料二十一錢

リッケルト全集第一篇

生の哲學

忽五版

本全集の發行が我國の文化にいかなる意義を齎らすか、新理想主義の哲學が我國に紹介されていかに我哲學界に新彩を放つたか、本全集の第一卷として茲に『生の哲學』を發行するに至つたことを欣ぶものである。生の哲學が生のみにて世界觀及人生觀を確立し得るか、否かを批判したものが本書である。随つて讀者は本書によりて多様複雑なる現代の流行思潮たる生の哲學の諸傾向の根本思想を知り、そして其處に理想の魂なき生の偶像に禮讃するの愚を悟り、眞の生の意義を摑み得られ、そして眞の人生に生き得るであらう。

東京　改造社　振替東京八四〇二

長與善郎作

〰定價貳圓〰
書留送料十七錢

改造社
振替東京八四〇二番

小說 青銅の基督

第五版

丸山の遊女にうつゝを拔かす蕩兒ではあるが南蠻鑄物の術には優れた技倆のある青年が信者の改宗を試みる踏繪を造つたが其の眞に迫つてゐたが爲め信者と疑られ殉敎者と共に悲壯な死の洗禮を受ける創作であるさうした事實を藝術的に取扱つて信者及非信者の心理を深刻に描いてゐる作者の異色ある筆致により大きな感激を覺える「陸奥直次郎」「シカスの夜」「Cの話」三作と合輯されてゐる。（時事評）

ゾラ原作　三上於菟吉譯

獸人

第三十四版

戀愛の十年前の情人をさへ生かして置けぬ嫉妬狂。美女を見れば脂切つた白い肌にわが歯を立て丶ムズリと嚙み裂かずにはゐられぬ傷害狂・異性の汚物を拭いたハンケチや汚れた手袋を寶物のやうに崇める愛物狂。盜み侵されはしまいかと強迫觀念に夜の目も合はされぬ隱匿狂。戀の叶はぬ恨から列車を衝突させて自殺する怖しいはたち娘。妻の財産を横領しようとして蓄積毒殺を敢えてする老人。女といふ女を一目でたらしてしまう凄い色魔なぞが活躍して全篇血なまぐさい殺人や。ねば土のやうな情慾の匂ひで充ちた恐怖すべき大作。しかもそれを裏づけて大ゾラの深甚な人道觀念はまるで潮のやうに凄じく張るのである。この作者の三十に餘る長篇の中で一ばん人間的な魅力を持つたのは何と言つてもこの「獸人」だ。

定價參圓

送料十九錢
四六判上製

東京芝區愛宕下町　改造社　振替東京八四〇二

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

最新刊

エイ・シー・ブラッドリー氏著
文學博士 坪内雄藏氏序
鷲山弟三郎氏譯

シェイクスピア悲劇の研究

◇菊判上製本函入
◇定價金五圓五拾錢
◇送料金貳拾四錢
◇高雅なる新裝幀

人生を在るが儘に凝視すれば其處に何物か莊嚴な不可抗な力のある事がわかる。その力は名づけて神とも眞理とも云へよう。これに調和すれば人生の平静が生れ背反すれば悲劇起るが。シェイクスピアは何故に偉大であるか？彼れは人生を在るが儘に描出して、其莊嚴な絶對力をさながら吾人の面前に提出した爲である。ゲーテは『沙翁の戯曲には神が見える』と云つた。ミラーは『人生は嚴肅なり』と感銘した。眞相を語ることそれ自身が説教である。此の意味に於て沙翁劇は第二の聖書でなければならぬ。沙翁劇特に四大悲劇のこの點を遺憾なく論述したものとして、恐らく世界にブラッドリー氏のこの書程優れたものはなからう。私は聖道の壇に立つ思ひで過去二年間この書の邦譯に從事し文字通りに心血を注いだ。今これを公刊するにあたり、人生を藝術と沙翁劇の眞諦を探らんとする同志の前に心より此の書を捧げたいと思ふ。（譯者）

文學博士 山岸光宣氏著
藝術と藝術家
定價金參圓八拾錢
送料金拾八錢

カアル・ハーゲマン原著
文學士 新關良三氏譯
舞臺藝術 演劇の理論と實際
定價金五圓
送料金拾八錢

警視廳檢閲係長 橘高廣氏著
映畫劇と演劇
定價金貳圓八拾錢
送料金拾貳錢

文學士 權田保之助氏著
活動寫眞の原理及應用
定價金貳圓五拾錢
送料金拾貳錢

發行所 日本橋區大傳馬町二丁目
振替東京一二一四六番
電話堀留一一三三五番
內田老鶴圃

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

理學博士 石原純著

岡本一平畫

アインスタイン教授講演錄

第八版

定價壹圓八拾錢

書留送料十五錢

絶好の記念として各學校、各家庭の註文殺到

全世界の科學界を革命せる絶世の大偉人アインスタイン氏の來朝を記念する唯一の記念錄です、本書は博士が日本に於ける九回の大講演を尤も正確に、尤も通俗に石原博士が筆記したる者です、それにア氏に隨從せる我國唯一の漫畫家岡本一平畫伯がア氏の風貌、性癖を描いた十八葉の人物畫、人物評、ア氏自ら描ける自賛畫等を挿入しました、「相對性理論」を研究する人も、ア氏の雄大な人物を研究する人々も必ず一讀すべきです、本書は各學校各家庭より註文殺到して旬日にして八版を重ぬるの大盛況を呈しました。

東京芝區愛宕下町

改造社

振替東京八四〇二

加藤一夫著

亂舞する焰

（幾多の詩書にて本書の賣行きは嶄然頭角を拔く）

四六判布製　定價貳圓　送料十五錢

悲壯の詩集

火の如き情熱の持主である加藤一夫氏の長篇詩である「亂舞する焰」「悲劇の成長」「寂しき道づれ」「愛の復活」等の四章に分つて、最近著者の身邊に起つた離婚事件を歌つたもので、自分に叛いた者に對する愛情がしみ〴〵と一頁一頁を色どつてゐる。近來、説教のみに傾きやすい愛の問題が説教ぬきにして投げ出されてゐる。私は本書の中で始めて眞物の加藤一夫氏にめぐり合つたやうな氣がする。

――(大阪毎日評)――

東京芝區愛宕下町　**改造社**　東京振替八四〇二

谷崎潤一郎作

四六判 布装

定價貳圓 書留送料拾七錢

戲曲 愛なき人々

最近の著者の目ざましい藝術上の活動は**大正文壇の壯觀である、誠に狹隘なる日本文壇の獨占すべき作家でなく廣く全世界の光輝として尊敬するに値ひする**巨匠である、本書收むる處の戲曲すべて四篇、本牧夜話、お國と五平、白狐の湯、愛なき人々、何れも皆頗る好評を得たもので本紙上にも一々紹介し、よき批評を下したものである、戲曲を愛する人々の必讀すべき脚本集である。（萬朝評）

卅二版

『愛すればこそ』の姉妹篇出づ

東京芝區愛宕下町 改造社 振替東京八四〇二

戯曲 愛すればこそ

谷崎潤一郎氏の大傑作

變態心理を描くに獨得の手腕を持つてゐる著者がその技巧の極をつくしたかと思はれるものがこの『愛すればこそ』三幕の戯曲であるその外『永遠の偶像』(喜劇)『彼女の夫』(一幕)『或る調書の一節』(對話)の三篇がある(國民)

作者の異常な魅力を持つた藝術は恐ろしさに聲をも立て得ない光景を眼前に描いて居る(時事)

本書は大正文壇の藝術的代表作として國民文藝賞を授與さる

第八十四版

定價壹圓六拾錢
送料拾五錢

東京市芝區愛宕下町　改造社　振替東京八四〇二番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

黒人ルネ・マラン作

高瀬毅譯

（黒人の赤裸々な戀愛は我々をしてゾッとせしむ）

定價壹圓五拾錢　書留送料十五錢

參拾四版

バツアラ

黒人の書いた世界唯一の白人反抗の一大小說

單に一片の好奇心を以つて我々日本人は本書を看過してよからうか、我々有色人種として彼等白人から常に差別的待遇されてをるの時、たま〳〵此作者の如き敢然として白人に反抗、挑戰する勇猛なる國際小說の出たことは我々日本人がいかに意氣地なく、常に御都合主義なるを冷笑するものの如く感ぜらるる、殊に此著者が黒人であり此の著が藝術的に世界に巨大なる光を發した點に於て有色人種の先覺者だと自負する我々は慚愧の至りではないか　此三百萬の讀者を有せる『バツアラ』が世界第一の好評を有して居るのは、ゾラ以上に愛慾が露骨で、赤裸々で、大膽であるからである、一夫多妻の蠻地で、九人の妻妾を擁せる大酋長バツアラに愛慾を以つて挑戰したる一青年の勇敢なる戀の凱歌が、天下數百萬の讀者をしていかに血を湧かしめ、そして手に汗を握らしむるか。

東京芝區愛宕下町　改造社　振替東京八四〇二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

賀川豊彦三名著

星より星への通路

四十八版

愛の結晶とまで稱せらるゝは賀川氏である。現代の荒みに荒める精神界を根こそぎに革命せんとする著者の鋭き血の迸りは詩となり、歌となり、文章となり遂に本書となつた、氏の本色は此書の詩、歌、文章に依りて代表されると云つても宜しい。

定價貳圓
送料十七錢
四六判
布裝上製

死線を越えて

（二八四版）

定價參圓
送料十九錢

太陽を射るもの

（一八三版）

定價貳圓八十錢
送料十九錢

東京芝區愛宕下町
改造社
振替東京八四〇二

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

佛人 フラマリオン作 高瀬毅譯 （四六判上製） 定價貳圓 送料十七錢

科學小說 此世は如何にして終るか

忽十版

天文學者の世界への豫言

世界は將に更新の轉機に面してゐる、此のとき我々は將來いかなる新道德に當面し、そしていかにしてよりよき生活を建設すべきか、そして人類文明の極致は如何——、このおもしろい問題を解決せんとした本著者は世界に於て有數な天文學者である、この人が自然科學を經とし、精神科學を緯として人生觀を科學的に斷じて新生への道を豫言したのは全く空谷の跫音である。新時代の青年士女は將に此の如き有價値な小說を讀了して永遠博大の思想を養ひ、そして趣興多き人生の未來に憧憬すべきである。

東京芝 改造社 振替東京八四〇二

近代の戀愛觀

文學博士 厨川白村著

我國ほど戀愛を遊戯視する國民はなく、そして人格的に蹂躙されたる結婚を強ひられて恬として顧みない。茲に憤りを發したる著者は戀愛こそ人間の最高、善であり、人生の最高理想であると戀愛至上主義を提唱して全人的の戀愛觀を發表した。此戀愛觀が幾多の因襲と、傳統を排除していかに新時代に突躍たる巨光を發して居るかは本書のズバ抜けた賣行きに徴して明瞭である似而非戀愛や因襲的の結婚に惱める人々は眞摯にして熱情ある本書を一讀して環境の障害を斷乎として排撃すべきだ。

九十版

◇定價貳圓五拾錢◇

四六判上製◇送料十七錢◇

東京芝區愛宕下町 改造社 振替東京八四〇二

長篇小説

結婚禮讃

◇第廿二版◇武林無想庵作◇

日本のゾラとの評ある武林氏の赤裸々の愛慾觀！

虚無だ、虚無だと胸一つになつて放浪の旅に出たが「遠くへ行つちやいやよ、私は死ぬのは平氣ですよ」と媚びるが如く接吻した奥さんの姿が執拗にコビリついて又鎌倉に舞ひ戻つた、暗いわね……………と私語くやうに云つて、ホット熱い溜息をついた。

その息を感ずると私のからだはブル／＼震へた、女の髪の毛が私の頬に觸れさうになつた、そのとたん………奥さんの眼が燐のやうにキラリと光つた、思はずだき緊めた奥さんの唇の上へ熱鐵のやうに灑いだはじめての接吻より………情緒を描くに天下一品、戀の前には大膽不敵なる無想庵のいつはらざる横戀慕の實錄である。

深刻の戀、大膽な描寫で天下無敵戀！

定價貳圓卅錢
送料十七錢
四六判上製

發行所 改造社
振替東京八四〇二

尾瀬敬止譯

勞農ロシア詩集

（四六判上製）
定價二圓
送料十七錢

最新刊

日本の新しき男女は嵐の如く本書に來る

「おお、ボリシエヸキはわたしを墓へ！　はげしい風、さむさも負けぬブールジヨアは十字路で、鼻をカラーにうづめる」と歌ふ革命の都には白い粉雪が降る、風が捲く、ワニカとカチカは居酒屋で寒い黑い牆外をすかしながら友僚と私語く、胸にはまだ生々しい手傷をしながら。此詩集は蓋し全國の青年たちに嵐の如く迎へられるであらう、永らく詩のなかつた我國の青年たちは此詩を抱いて始めて血の出るやうな叫びを擧げることも出來、そして靜かに又〳〵と雪との間に元氣な微吟かつづけられやう。

心臟を貫く勞農露國青年の此意氣を見よ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新刊名著二種

エドモン・プリヴアー著
松崎克己譯
小坂狷二序
挿畫四葉

愛の人ザメンホフ

四六版二百頁
定價金壹圓・稅拾參錢

「人類主義」の大理想のために、人間が持ち得る限りの最高の愛の大旆を掲げて、全人類永遠の平和の基礎を確立せし大人格者。彼れの生涯に接して、眞の實愛が如何に絶大なる力を有するかを見よ

〔附　人類語史管見〕

模範 エスペラント獨習

定價金貳圓　書留送料拾九錢
小坂狷二
秋田雨雀　合著
布製四六版　三百五十四頁

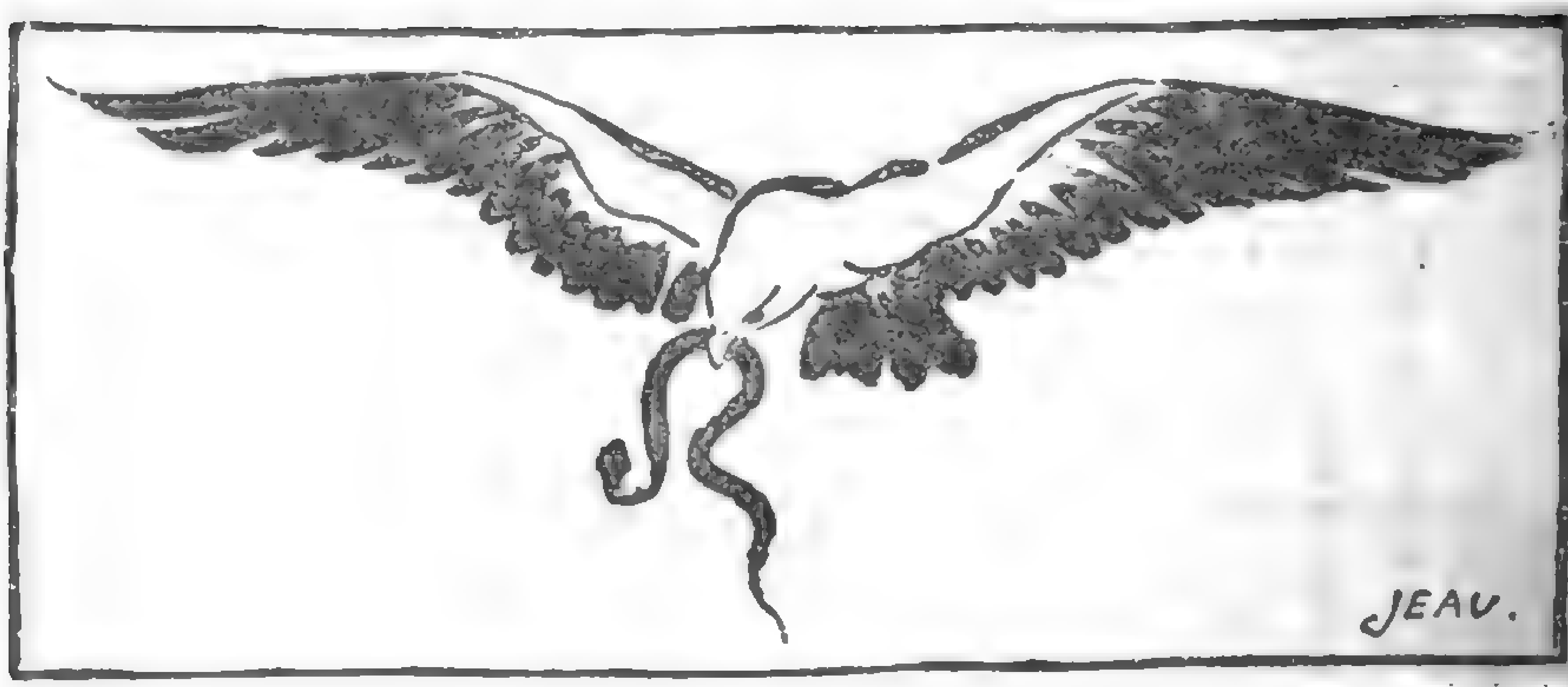
【內容一斑】

小坂狷二 語法詳解	秋田雨雀 エスペラント文集（エス和對譯詳註附）
發音	ローラン　シルレン
文法	トルストイ　フネロン
會話	イソップ　ゲーテ
作文	ザメンホフ　ワイルド
譯讀	レッシング　ハイネ
語彙	シェークスピア　ゴーゴリ
	其他

最も完全な人類語としてのエスペラントを、全く外國語の素養なき人にも十分會得され得るやう、新たなる様式の下に講述されたのが本書である。著者小坂氏はエス語界の先覺者として且つ該語の權威として、世界的に有名な人。との人の著書あつて初めて、吾がエス語研究界は完全な指針を得たわけである。

（質問券附）

東京市牛込區神樂町二ノ十一　叢文閣　振替東京四二八八九　電話牛込二五七三



承認と我社の立場

ロシア承認について別に此際事を新にする要はない、ただ政府は一日も早く北樺太の撤兵を斷行して、そして寛大の下にロシアを承認すべきだと思ふ、我社の立場は此點に於て何等過去と變りないことを聲明する。

日本の誰だつてロシアの存在は認めておろう、そしてロシアの國家的勢力も認めておろ、、それを法理的立場とか、政治的立場とから小股すくいの議論で承認にケチをつけたがる政府者の氣が知れぬ、支那が共和に變るときもこうしたケチをつけた、しかし獨逸が社會主義國となつたときは一も二もなく承認した、この調子で行けば英米が勞農制となれば直ぐに承認することとなろう、然らば我國民は形勢に左右せられ、勢力の追隨者となるやうなことになりはせぬか、こんなことは正義を標語とする人間として誠に卑むべきことだ。

我國人の口癖は正義である、自主である、人類愛である、だが前記の通りであればこれ等耳觸のよい三品がどこかに伏在してゐる。

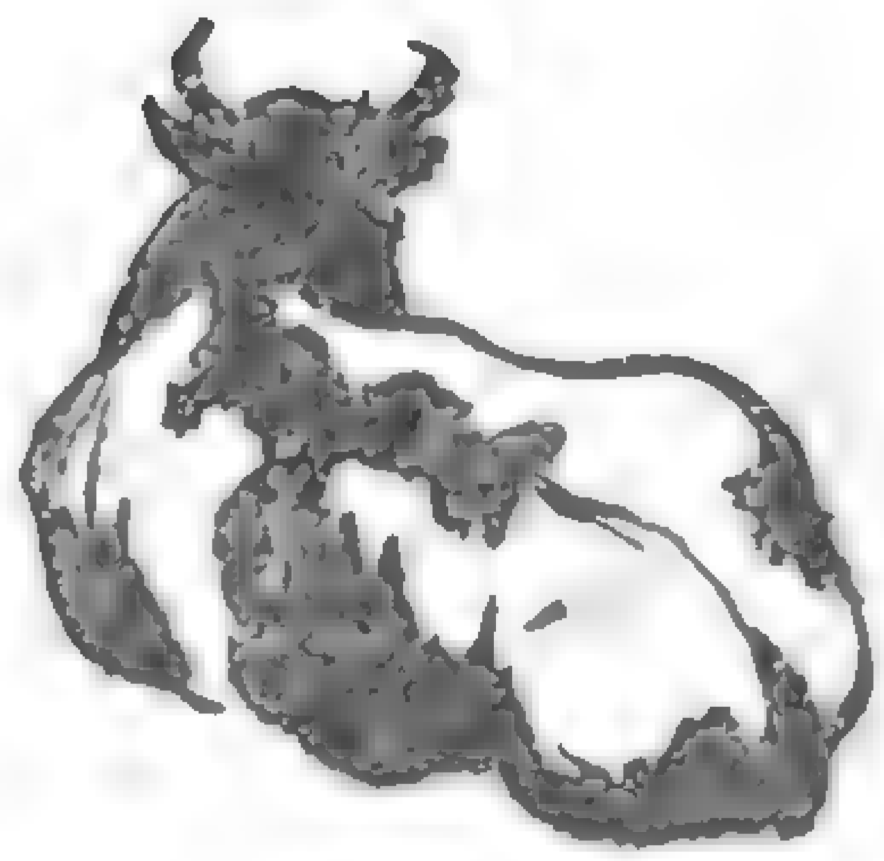
既往條約の破棄――それは當然だ――ロシアは革命した、ロシアを對等に見るたら革命の精神を買つてやるべきだ、そして既往條約なぞと古い證文を引張り出さぬことだ。それから現在のロシアに債務の履行を迫るなどもあまりにむごたらしい、我々は日本精神はモットお上品で、もつとクラシカルな者だと思つている。

幸か、不幸か我政府者が蛇蝎のやうに憎惡するヨッフエ氏は「日本政府に好感はないが日本國民廣汎の利益のため」とて漁權問題を解決した以上、おかしい話だが我政府も又我國民廣汎の利益のために憎惡をすてて日露の協商に當らねばなるまい。我國民のためにロシアの尻馬にのつて。もし政府が政友會に氣兼ねし、元老に氣兼ね、從來の小感情に囚はれて多數國民の利益を蹂躙する擧措があつたら我々は斷乎として立たなくてはならぬ、我々は政友會、元老等が自己の便宜のため、我執のため理義を無視し、友情を無視し、民人の利益を無視するものとも思はぬ。

我々の雄志は世界人類の上に光る、こんな一國を對象として幾年も幾年も頭を痛めるのは愚の骨頂だ、我々は本問題があくまで相互的に、國民的に解決されるのを翹望してやまない。（五月十二日）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

對露私見



後藤新平

一、東洋に於ける日本の地位

三箇の根本觀——天賦の使命——國力の充實が第一條件——東亞のバルカン化救濟——當來の三大焦點——不自然たる對露關係——對策の重心

二、明治大帝以來の國策

先帝の叡慮——大家族主義より四海兄弟主義へ——共產主義、自由平等主義皆一大鎔鑛爐に融化——對世界政策の根本精神

三、伊藤公と對露政策

東洋政策の第一人者——伊藤公と予——阿片政策以來の共鳴——日露戰爭は日露親善の爲め——大德本願——對策熟議——新舊兩大陸對峙論——伊藤公を哈爾賓に送る——桂公の入露

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

四、紛亂と革命の十年　支那及露國の變遷―歐羅巴氣分に囚はれたる日支關係―對日誤解は歐米式外交用語の反映―遠交近攻主義の禍―對露關係の缺裂―日露關係は英米佛と異る―先帝以來の遺業考慮―ヨッフェ氏招致
五、共産露國に對する考察　何故に對露修交は不可なりや―尊王攘夷より開國進取の例―露國の内部的統制―新經濟政策―國家資本主義への轉進―内政干渉の非―政體の差異は國交と別也
六、聯合國の對露政策と日本　日本は英米佛と歩調を一にする必要ありや―日本の特殊的立場―英米佛それ自身も一致せず―カンヌ、ゼノア、海牙會議の事―所謂國際信義問題とは何ぞ―其の解剖―法理論は水掛論のみ―日本獨り孤忠を守るか―正式承認と事實的承認―政治的解決の途なきや―大悟一番
七、露國承認と日支・日米の關係　共産露國は平和主義―赤化防止の爲にも先づ承認を與ふるが順序か―科學的絕好試驗場―日本は異端思想を恐れず―日露の修交は日支の提携となり日米の親善となる―東洋平和の鍵鑰―米國に不似合の行動―速に禍根を刈取れ
八、ヨッフェ氏招待の眞相　予が當初の發想―目的は彼我の諒解促進―國民外交の一助―單純目的の複雜化―訛傳流言の續出―意外又意外―所謂赤化防止は後藤防止の爭―國家の大罪人は誰ぞ
九、朝野の形勢概觀　輿論大に改まる―通商及承認論の勃興―政府方面の形勢又一變―暗號電報許可―政府、後藤、ヨッフェの不等式三角關係―否定も肯定もせず―今後の開展は政府及國民の決心次第―予の目的は既に達成
一〇、將來の方針に就いて　露國の主張と日本の主張―結局は所謂國際信義問題と撤兵問題―更に押詰むれば漁業問題―餘りに安價―政治的解決策なき―形式論は文字の遊戲―尼港事件は双互の諒解から―通商協定と正式承認との不可分―之を放任して我に何の益ありや―

一

對露問題の出發點は日本自身の考察であり、又同時に世界に於ける日本人の地位と責任との研究である。我々は露國

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と言ふ一國を相手とする政策を目標として對露問題を考へてはならない。それよりも更に廣汎なる綜合的立場から歩み出さなくてはならない。而して世界と廣く言つても、特に日本國民の責任を感ずる部局は東洋であるが故に、自分は先づ東洋に於ける日本の地位と言ふものを考へて見たい。而して、東洋に於ける日本の地位を考察するに方り、吾等は先づ三箇の根本觀から遠ざかつてはならない。即ち其の一は地文學的、其の二は歷史的、其の三は民族的觀察である。何れも天然自然に約束づけられたるものであつて、之を如實に理解することに依り、おのづから日本に授與せられたる特殊使命が明確に認識され得るのである。而して此の天賦の使命を成就するが爲に、吾等の特に牢記して忘るべからざるは、世界に於てユニックなる一大家族主義が極めて微妙に組織づけられ、外に發して平和的なる四海同胞主義となりつつあることとである。就中、之を支那及露國に顯現することに依つて東洋平和の華實を結び得る。所謂四海同胞主義は一大家族主義の延長である。國と國とを聯ね、歷史と歷史とを融合し、民族と民族とを通じて渾然たる世界一家族の妙致に到達する。それが人類最高の理想境たるは必らずしも古今哲人の提唱に聽くを要としない。果して然らば三千年來曾て他を侵さず、又他より犯されたることなき一大家族主義の形成、世に是れほど偉大なるものはあるまい。そは後に論ずるが如く明治大帝の中興に依つて現實に發揚せられたる日本の特殊使命を象徴せる一大奇蹟とも見らるべきではないか。而も其の淵源を究むれば矢張り天然自然の關係に依つて任運に具象化し來れるものといはねばならない。

併しながら日本が此の天賦の特殊使命を完くするが爲には先づ第一に國力の充實を絕對的必要條件とする。是れ恰も各人が國家及社會の爲に貢獻せんとする場合に於て、先づ健全なる心身を要すると同一である。若しも日本の國力が充實してゐない時は地文的、歷史的並に民族的關係上、永久に相離るべからざる露支兩國との四海兄弟的圓滿を期し能はぬからである。隨つて東洋平和の柱石たるべき日本の任務は、日本の國力充實てふ條件なしには果されない。現に北米

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

合衆國が南北兩米の平和を確保し西半球の大局を支持しつゝあるは一に彼れが國力充實の賜物である。然るに此の點に於て日本の國力が既に十二分に涵養完備されつゝありやといへば、遺憾ながら吾等は尚ほ未だしといはざるを得ない。（所謂國力の充實といふことに就ては物心兩面を通じて種々多樣の條件を具備しなければならぬが、それには露支兩國と接觸して緊密なる共存共榮を計るを先決要務とする。例へば物質原料に乏しきの一事を見ても、此の理は容易に了解せられるであらう。東西文明の融合上、最も優れたる立場を有する日本が、何を措きても露支兩國の良友たらねばならぬ理由は玆に發見せられ、玆に價値づけられねばならない。獨り科學的知識又は經濟的見地のみから之をいふのでは無い自然が之を命令し自然が之を要求してゐるのである）。

今若し眼を閉ぢて假りに日本の如き有力なる國家が無いとしたならば、東亞の全局は果して如何なる運命を辿つて居つたらうか。吾等は單に之を想像するだに戰慄を禁じがたき不祥なる大事變に遭遇して居たであらう。少くとも歐洲大戰に前んじて、歐洲大戰以上の大紛糾が東亞に勃發し、其の禍ひの及ぶ所、恐らくは夙に、第二のバルカン、否、一大新バルカニジールングを現出したことゝ思ふ。特に隣邦支那の領土保全は如何にして行はれ、將た誰に依つて確保されたるか。近年日本を誤解せる支那及列國中の或る人々等は頻りに日本を誣ふるに侵略主義の名を以てし、日本を危險物なるかの如く宣傳すれど、是れ皆事實の眞相を解せず、歷史の告ぐる所を無視し、本末正邪の判斷を逆顛するより出づるものである。即ち日本としては自衞上、列國の行ふ所を默過し得ずして支那保全の爲めに已むなく一歩を踏み込んだに過ぎない。それは列國に依つて開始され、列國に依つて分割攪亂の禍端が點火せられたるを以て、日本は唯だ消極的、受働的に後から驅け附けたといふだけである。されば日清戰後に於ける彼の大勝利、大優勢を以てしても、日本は潔く遼東を支那に還附し、敢て之に執着しなかつたのである。然るに列國は其の後に於て果して日本と同樣の雅量を示し、

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國際道義に背かざる行動を執つたであらうか如何。此問題は餘りに明白なる既知の事柄となつてゐる。更に歐洲大戰の禍因を作れる獨逸舊政府の政策は、如何に支那に胚胎し醗醸しつゝありたる乎、また西伯利より南下し來れる露國舊政府は如何なる態度を持して滿蒙に占據せし乎。吾等は往事を繰返して絮說するを要しない、唯だ日本は自衞自存の方法として遂に露國と戰ひ、而して支那のバルカン化を救つたのである。又團匪事件其の他の內亂に際して彼れが四分五裂の危機を防遏し、支那をして今日あらしめたのも、實は日本が嚴然として東洋保全の大策を把持して動かなかつたからではないか。現時の勞農露國が開放的非侵略主義を標榜しつゝあると異り、極めて大膽なる征服的帝國主義を信條とせる舊露國に對抗して、飽く迄も支那を擁護し彼れが領土を確保し得たるは日本あつての結果といはねばならない。此の熱烈なる道義觀念こそ、東洋に於ける日本の特殊使命を成就せんと欲する本然の思想であつて、之を誤解するもの尙往往日本を目して第二の獨逸たるが如く排斥するは固より大なる錯覺に外ならぬ。

此の如く日本の存在と使命とは東洋平和の重心として世界人類の福祉を增進すべき重大意義を有するものである。是れ既往に於て日本の擔當し來れる主要なる役目たりしと同時に、現在及將來に於ても亦必然に同樣であらねばならない。而して此の重大意義を具體化せんが爲めには是非とも次の三大據點に基礎を置きて之を堅固に築き上げねばならぬ。日支親善は其の一、日露親善は其の二、日米親善は其の三である。そは最早や單なる言葉にあらずして嚴肅なる事實たらざるべからざるのみならず、之を別々に切り離して置くことは造物主と雖も能くせざる所である。否、若し萬一にも日露米支の關係を紛亂せしむるを好むものありとせば、疑ひもなく邪神の振舞ひであらう。世界の平和を愛し、人類の正義を尊重することを以て神の心なりとする以上、其處に一人の異端者をも見出し得ぬ筈である。

然るに日米關係を除くの外、日支及日露の兩關係に現に世人の耳目に明らかなるが如く種々の故障に遮ぎられてゐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。就中、日露の外交關係は缺裂のまゝに放任せられて、國民と國民との交通接觸すら甚だ不自然なる狀態に障げられつゝある。或るものは勞農露國を以て恰も亂脈を極むるものゝ如く輕斷し、過激派の害毒に依つて拾收すべからざる無政府狀態に陷り到底相與に手を携へ難きかの如く危惧しつゝありと雖も、此の如きは寧ろ論者其の人が自己の狂見幻覺に驅されてゐるものといはねばならない。現時の露國は既に甦りつゝある。或る點に於ては秩序整然、鞏固なる組織的現代政治に進化し、一種無類の專制政府獨裁政治を敢てし其の實質支那に優るものあるは公平なる列國識者の認識する所である。加之、其の彈力よりいへば、世界の三大國乃至五大列強の勢を以てしても之を屈服せしむる能はざる事實的勢力を保持してゐる。此の組織あり、力あり、彼自ら驕らず、自衞的態度を破るなくんば、新興國としての機運は日々に發芽するに相違あるまい。是れ併しながら露國が東洋に於ける日支米の各國關係を除解し、相共に共存共榮の方策に誠意を開示すべきを期待しての言である。若し然らずして孤立孤往の立場を固執するが如きあらば、その禍福の覿面なる吾等の豫言を待たずして明瞭であらう。啻に東洋に於て然るのみならず、歐洲列國も亦露國對各隣國との關係に於て深く考慮しなければならない。勿論各隣國それ自身の問題は言ふまでもないことである。獨露間に締結されたるラッパロ條約を以て一時的なる經濟政策と見るは皮相論である、更に廣く世界的、共通的見地に立ちて大局の推移影響に着目しなくては決して眞の平和、眞の安定を望むことは出來ない。

之を約言するに東洋に於ける日露支米の關係は最早何れも有機的にして何れか一國の協同を決すれば、忽ち生存の脅威を感ぜねばならない程度のものとなつて居る。獨り日本又は露國等を主題として之を見るは未だし、東洋全局の上より、はた世界政策上の經驗より、其の意義及價値を考慮しなければならぬ。幸ひに此の點が適當に理解されたならば、東洋政策の重心が何處に在りて如何樣に進むべきかは極めて容易に分明するであらう。こゝに於て日本は世界の平和を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

旨とする大人道主義の爲に區々の異見を問はず大に邁往するの必要なるを悟り得べく、又こゝに於て三千年來の大家族主義が外に發して四海同胞主義となるの理を曉得せらるべしと信ずる

二

今を距る五十餘年前、日本は運命の祝福を受くべき其の日を迎へた。所謂王政維新は文字通りに行はれ、曠古不出世の大帝、明治天皇は恰も活如來の如く巍々たる大德を煥發せられたのである。此の光輝ある事實は或る國民が或る國王を詩歌的に讃美咏歎するとは異り、あらゆる文字、あらゆる言辭を超絶する神秘的垂跡の如く崇高にして莊嚴である。大帝即位の時は僅かに十六、而も敢て歐洲に見るが如き學校教育及周圍の文化的教養を受けられたるにあらず、洵に是れ生れながら天下制御の巨器を享有せる造化の直參、否、權化にあらせられた。坐して四海を呑むの大勇ありしにも拘はらず、衷心太だ侵略主義を擇ばず、已むを得ざる自衞手段の外は適度に其の國策を調節し、曾て一たびも無名の師を起されたことが無い。勿論補弼の臣僚、亦其の宜しきを得たるに由るとはいへ、大帝が天賦の大德はかの環境の寵幸に依つて其の名を贏ち得たる史上の人物とは全く選を異にする。此の故に大帝崩御の報四方に喧傳さるゝや、日本の國運は大帝の神隱れし玉へると同時に漸次下り坂に向ふべしとの評論をすら耳にする程であつた。

併しながら地上に於ける人類の歴史が一朝にして幻滅せざる限り、明治大帝の遺德は無窮に其の光を放ち、決して其の後なきを憂へないであらふ。帝王には帝王の不文律あり、民間には民間の不文律あり、其處には日本固有の國體の精華が裹まれてゐるのである。殊に大帝三千の御歌は、七千萬民の胸底に流れ〳〵て滾々たる教化の泉となり、今も尚ほ生きて在すが如く後人を激勵したまふ。朝に、夕に、之を讀み之を詠ずれば政治、外交、道德、教育は言はずものこと、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

深遠なる人生の哲理も、幽玄なる宇宙の原理も亦收めて其の中に籠り、靄氣藹然たるものあるを知らざるものは無神經の人である、現代の政治的秘訣の如きは歴々掌を見るよりも鮮かに指示されてゐるのである。

惟ふに明治大帝が大いに戰ふの力を藏して而も戰ひを好ませられず、福德圓滿を主として大家族主義的德化を布かせ給へるの事實と敎訓とは、吾等に取りて涙ぐましき感激を與へずには措かない。何となれば三千年の歴史を有する我大家族主義は現代に必要なる如何なる要素をも包含し、之を民生に利用し、之を時處位に適合せしむることに於て何等の錯誤なきを得るからである。例へば世上所謂共產主義に對し是非の論頗る喧囂の觀ありと雖も、日本は五十年前に於て、更にヨリ以上の大變革を遂行し寸毫の危險なき好試練を經てゐるのである。即ち王政維新に伴へる藩籍奉還の一擧の如き、明らかに其の一確證と爲すに足るといはねばならない。然るに之をしも理解せずして事新らしげに共產主義論を鬪はし、頻りに之に亢奮するものあるが如きは未だ明治大帝の大家族主義を味讀せざるものと言はざるを得ない。他國に於ける共產主義は强壓的又は反動的なるに對し、日本のソレは人道的且つ自發的である。掠奪的にあらずして、互讓的である。決して秩序と義務とを紊さず、寧ろ秩序と義務を整へるが爲である。(彼の勞農露國の如きすら實際には階級的觀念を全然脫却し能はざるの事實を認めて居るのであるが)此の如く國初以來尊き傳統を有する日本國民の生活中には共產主義も、自由平等主義も、又固より立憲的思想も、其の他總ての要素を集め、之を一大溶鑛爐に投じて大家族主義を形成し、更に之を四海同胞主義に開展せしむべく、明治大帝の御照鑒を得たのである。若し政治的、哲學的ラボラトリウムありて之を精細に分析せんか、反應歴々、如何なる危險思想と雖も悉く既に免疫を了せるを檢し得るであらう。他語を以て之をいふ、形は萬有の一塊にして而も一大家族主義を生じ、之を世界に施して益々微妙の靈彩あり、これ即ち明治大帝が特に取り出されたる萬代不朽の敎訓にして對世界的政策の根本精神である。此の故に今に於て徒らに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

赤化主義の宣傳に恐怖するなどは時代錯誤の誤りを免れざるのみならず、帝國の對臺方針は明治大帝の大德に基きて夙に決定し居ることを忘却せるものである。

三

前段に述べたる明治大帝の叡慮を拜體して最も深く帝國の國運に思ひを囘らしたる第一人者は故伊藤公であつた。故公の政治的功過に就ては、見る人々に依つて區々の說あらんも、公の至誠と、公が先帝陛下の殊遇に對する感激とは何人も之を否むことは出來まい。予と公との關係の如き、亦國家を思ふの一念に於て、圖らずも大に共鳴する所があつたからである。

故伊藤公の生前に於て、予が公の指導啓發を受けたる點は一にして足らない。予は必らず或る種の問題を提げて公の所見を叩くを常とし、曾て私事を以て公を勞したことは無かつた。然るに公と予との共鳴は臺灣に於ける阿片政策に關し端なくも意見の一致を見たるに始まつたのであるが、當時多くの宣教師及基督教趣味の政治家達（特に歐米人）は阿片嚴禁主義を高唱し、之を以て正義人道の第一要義だと主張しつゝあつた。併しながら予は生物學殊に生理衞生社會學の立場より見て、人類生活上に於ける急激なる進化變動の不可能なることを信じ之の爲には相當の手段方法を設けて漸次に指導するといふ漸進主義に依るの外なきを感じた。加之、若し強いて嚴禁主義を斷行せんとせば、非常なる力（恐らくは露國に行はれたる過激派の如き慘虐殺戮をも厭はざる壓力）を要することゝなり、爲に如何なる反動的現象を激發せぬとも限らないと思つた。此の故に嚴禁主義者の唱ふる所は一見頗る美なるに似て、却つて生物進化の理法並に實際情態を解せざる假君子的理想論であると認め、予は之を當時の臺灣事務局總裁たる伊藤公に提言した。然るに伊藤公は総

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

々たる世上の非難攻撃に介意せず、冷靜能く予が言を容れ、其の採量宜しきを得たる結果、幸ひに三百萬新附の民は三十年にして別天地を開き、以て今日の慶福あるを得たのである。是れ即ち明治大帝新領圖撫育の聖旨に適へるものにして其の崇高なる精神と德澤とは公平明哲なる泰西人の認めて模範とする所である。今日我國の學者及政論家は專ら歐米の事例を引きて諸事彼れに追隨するの傾向あれど、日本に在つては前者に先んじて既に貴重なる歷史と經驗とを有してゐるのである――日本の臺灣に於ける上記の成功は、其の後之を支那にも與へたいと考へ、現に袁世凱の如きは之を採用する事に依つて彼れが國政及財務を取堅めんとしたのであつたが、たまたま某國公使並に商人の反對の爲に遂に之を斷行し得なかつた。支那に取つては甚だ不幸なる禍ひながら、其處には淺薄なるヴアニチーもあり、輿論即愚論てふ妨害もあり、未だに學俗一致の功德を見出し能はずして彼れが財政は軍政に累せられ、それが又種々に變形して長く紛亂の因となつてゐる。而も若し彼れに於て阿片政策の確立を善斷せば、此の一事を以てしても、國家の面目は著しく改まり、各般の禍患は自然に取除かれると思ふ。

さて予と伊藤公との間柄は如上の事ありて以來、屢々東洋政策討議の機會を得て、公の知遇を享くること益々深厚となつた、或る時は數日數夜に亘りて大に談論を戰はしたこともあるが、特に日露戰爭を見るに至つてより、公の志業經綸は一層に雄渾深遠を加へた。該戰爭の目的は名實共に軍國主義者流と品を異にし侵略主義の爲ではなく、又夢にも帝國主義的觀念から出たものでは無かつた。明治大帝の叡慮は上に述べたる遼東還附の一斷に徵しても明瞭である如く、何處までも東洋平和擁護の大御心を離れず、故に露國に大勝したる後に於ては舊に倍して露國に親しみ、何處までも互讓妥協の精神に基きて共存共榮の途を進むる方針であつた。換言せば日露戰爭をして彼我缺裂の歷史的記錄たらしめず、寧ろ新たなる眞の親善關係を産まんが爲めの一過程たらしむべく軫念せられた。これは歐洲大戰に依つて吾等の知り得る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が如き深刻なる怨恨、報復等のそれとは全く異り、極めて醇実なる人道的觀念の發露に外ならない。勿論此の事實は西洋道徳とは趣きを異にするのみならず、又單なる東洋道徳として解釋するだけでは尚徹底的で無い。そは實に先帝の大徳より流れ出でたる恩顧示寵、四海兄弟主義の顯揚である。

されば予が命を滿鐵總裁に受くるや、先帝陛下は予を御前に召されて特に優諚を下し給はり、南滿鐵道の經營は重大にして困難なり、我が國家利害の至深なるのみならず、隣接國民の康寧福祉に關すること至大なるを以て宜しく周到なる注意を加へ福祉の恩惠を中外に洽ねからしむべしとの仰せを蒙つたのである。我國に於ける總裁は日本銀行のそれを第一位とし、滿鐵の如きは當時未だ目鼻も附かざる新設機關に過ぎなかつた。然るに不肖予の如き微臣に對し優諚を下し給はつたといふことは曾て其例なき異數の御沙汰であつて、這種先帝陛下の深厚なる思召が籠つてゐるのである。乃ち是れ先帝陛下の平和主義非侵略大主義が赫如として表明せられ、先づ隣國に對して仁慈の徳を及ぼし給はんとする聖旨と拜せられたのである。此の如きは他の戰勝國が常に執る所の態度とは天地月鼈の差あるを知るべく、洵に欽仰感佩に堪へざる次第である。

却説、予と伊藤公との會談は東洋文化の向上、東西文明の融合を主題とし、其の目的を達成せんが爲には如何なる政策方針を執るべきかを幾回乃至幾十回となく講究したのである。そは現在行はるゝ如き軍備縮少又は他の法律的目標を設くることよりも、更に根本的なる思想の諒解から出發したい、而して日本固有の人道主義を基調として世界に臨み、以て先帝陛下の大徳を奉順したい、といふに在つた。伊藤公は國家の元勳にして且朝鮮統監たり、予は其の頃滿鐵に職を把りて身自ら世界交通の大動脈を整備すべき任務を帶びつゝありしが故に、予の行はんと欲する所は、其の事自體が東西文明の接觸融合を眼目とし、之と同時に支那及露國の文化を進展せしめ、日本と直接關係ある各國民に近適し聖旨を普

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

及すべき地位に置かれて居たのである。隨つて伊藤公は予に對し世界平和の理論を如何にして成功せしむべきかに就いて熟慮論策、日の移るをも覺へざる有樣であつた。

其の頃公と予との間には次の如き談論も交換された。世界平和の理論を成功せしむるに方り、強大なる力のみを以て之を實現せんとするは寧ろ誤りである、殊に一つの力のみを以てするは間違ひである。（第三インター、ナショナルの宣言には現在ソヴイエートの專制力を世界的聯合に擴る一大國創立までの經過として云云といつてゐるが）。一方には米國てふ偉大なる新大陸があり、之に對して舊大陸が聯合し、相互平等に對峙激勵することに依つて世界平和の均衡が保障せられる。併し、之が爲には舊大陸の各國が個々の利益に執着拘泥して居つては到底其の機運は開かれない、故に先づ其の近隣より提携親善の歩を進むるの必要があり、此の意味に於ては露支の關係を最善最良ならしめねばならぬといふ意見を伊藤公との間に討議したのである。——然るに歐洲大戰役に於ける世界の形勢は改めて說くまでもなく露轉又露轉して今日は帝國主義時代の計策を許さない。同盟といひ提携といふが如き外交上の形式は徒らに假想敵を構へて他の疑惑を挑撥するものとして、何れの國民にも受け容れられざる趨勢となり、其處には協調即ちコーポレーションを要義とする新國際哲學が發生して來た。是れ平和を愛する日本國民より見て眞に喜ぶべき現象であり、四海兄弟主義の大御心を懷かせ給へる先帝陛下の御明鑑は玆に於て益々光輝を放つて來る次第である。隨つて新舊大陸の對峙論の如きも今は過去の夢物語と化したが、近隣相親和し共存共榮の道に努力しなければならぬ急務は層一層に合理的となつて來たのである。そして日露の關係に意を致し速に局面打開の爲に彼我の諒解を促進すべきことは、要に日英同盟を有したる伊藤公在世の時よりも、ヨリ緊切となつたのである。

故伊藤公が其の老軀を提げて國事に奔走し、終に哈爾賓驛頭、意外なる悲劇に遭遇されたことは實に千秋の痛恨事で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あつた。公の志は既に記述せるが如く、日露戰爭を以て兩國の關係に或る結論を與へたものとは見做さず、否之に依つて眞實有意識なる日露親善の歷史を開くの第一頁たらしめ、依つて以て東洋平和の基礎を百年不拔のものたらしむるに在つた。**而して公とコ、ウツオフとの會見を媒介したるものは即ち斯く申す予である。**誰か測らんや、當年予と公との談論より生れたる對東洋政策、對世界政策に關する打消が、此の兇變を突發し來らんとは。公薨去の日、公に隨行せる人々にして現に尙ほその光景を語り得るは時の滿鐵總裁中村是公、田中滿鐵理事、同龍居秘書の諸氏あるのみにして、此の間頻りに斡旋の勞を執りたる公の秘書官古谷久綱氏は夙に故人となられた。回想し來れば感慨無量である。

尋いで故伊藤公の志業を繼ぎ、身を挺して日露親善の爲に力を致せるは故桂公である、第二次桂內閣の辭職後、公が露國に入り歐洲を巡遊せんとせしは世人の記憶する所ならんが此の行も亦予の慫慂せし所にして、予は即ち桂公と共に旅程に上つたのである。然るに明治大帝の大喪に會し急遽歸朝の已むなきに至り、何等その懷抱を具體化する遑なかりしは返すぐ〳〵も遺憾の極みであつた。

四

以上に於て明治大帝の洪謨並に故伊藤、桂兩公が如何に日露の親善に甚深の思慮と努力とを拂はれたかの經過の一班を述べたが爾來東洋の形勢は如何なる趨勢を辿つたであらうか。指折り數ふれば星霜重ぬること既に十又一、西隣支那の國情は何の狀、北境露國の現狀は果して如何。前者は恰も紛亂と動搖とより成る走馬燈を見るが如く、後者は世界驚異の大革變を遂げたのである。而して前者の日本に對する關係は近年事毎に疎隔し、後者の日本に對する關係は現に缺裂不安の姿に放任されてゐる。先帝の優詔を拜し、伊藤、桂兩公の志業に參得せる予としては夙に夜圓やかなる夢を結

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

び得ないのである。

翻つておもふ、紛亂十年の支那、之に對する日本の方策は餘りに歐羅巴氣分に侵され、同時に支那自身に於ても又餘りに歐羅巴外交の操縱に迷ひ込んで居りはしなかつたか。元來日本の對支政策を目して或は軍國主義、或は侵略主義などゝいへるは總て是れ歐米式の外交用語である。之を本能的にいへば日本は自衞以上に何等誤解を受くべき政策を執つたことが無い。若し日本の權威ある保障がなかつとたしたならば、支那は二十年の昔に於て第二のバルカン化を演出したであらうといふことを忘れてはならない。成る程日本は一旦還附せる遼東を露國より回收した、併しながら日本若し之を行はずんば再び露國の南下を見るべきは必然に豫想せられたのである。隨つて東洋平和の脅威は永久に除かれ難く、それが朝鮮及支那の禍因となるは多言を要としない（此の事は大略前に說きたるを以て委しくは述べない）然るに拘はらず、日本の對支政策に種々の疑惑を挾み、誣ふるに非難攻擊を以てせるは、曾て歐洲各國が他國又は異民族に對して行へる所の歷史を日本に當て篏めたからである。同時に此の種の無理解なる誤解と疑惑との爲めに累せられたる日本それ自身の如きも、亦實は歐羅巴氣分に囚はれ過ぎてゐたのである。

支那は世界の老大國である、昔は日本を指導し、東洋文化の中心として誇つて居り、又誇るに足るだけの價値を備へてゐたのである。故に人情上、日本の指導を受くるを好まぬといふ感情に驅られ易き矢先に於て、歐羅巴外交が彼等の頭腦を刺戟した。所謂遠交近攻てふ文字は非常の勢を以て支那の政界に流行したのはその反映に外ならない。さなきだに支那には合縱連衡といひ、以夷制夷といふが如き傳統的智辯が未だに尊重されてゐる。或時は英、或時は獨、或る時は佛、又或る時は米國などの一國又は數國を利用し、若くは利用されて日本に牽制威迫を加へるといふ手段を執るに少しの不思議は無い、日本を目して侵略主義、軍國主義なりとする幾多の誤解は皆此の點から出て來たのである（日本

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人自身の中にも往々にして支那人又は歐米人と同様の排日的見解を持つてゐる論者を見受けるが、其の主張する所を聞けば矢張り歐米人の聲色を模倣してゐる丈である。日本の政策を正當に理解して居るのでは無くして、歐羅巴人が古來異教國に對して行ひたる歷史を學び、歐羅巴人の眼を以て日本の政策を見てゐるのである。形は日本人なれども、心は歐羅巴人である。そして過去に於ける歐羅巴人自身の罪惡、その侵略主義や、軍國主義に對しては盲啞となつてゐるのである。）

但し吾人は日本の行動に絶對の瑕瑾が無いとはいはない。神ならぬ人間の打着に何等の缺點なしとは誰れか保證し得やう。例へば日英同盟の權威を過度に利用せんとして却つて支那の反感を買つたやうなことが無からうか。支那の政治家が獨、佛、米等を利用したると同じやうに、日本も又英國を笠に着たことは無いだらうか。前者の遠交近攻主義に對するに後者の日英關係を以てしたことは無かつたか。換言せば支那の事を處理するに當りて之を相手の支那に謀らず、先づ英國又は米國などに相談したやうなことは無かつたらうか。若し日本自身にも是等の疑問を肯定せざるべからざる行動があるとするならば、是れ將た歐羅巴氣質の致す所であらねばならない。日本の外交、日本の政策では無くして、歐羅巴人の外交、歐羅巴人の政策を日本の名に於て行つてゐたのである。要するに最近十年來の支那は内外共に餘りに歐洲かぶれ、又は米國かぶれの氣流を以て掩はれつゝあつた、之が爲に舊獨逸をして黄禍を叫ばしむるが如き機會をすら彼れに與へたのである。而して其の結果は一時的には支那の爲めに利益なりしが如く想像されたとしても、そは寧ろ驚くべき近視眼的皮相觀であつた。勿論、日本としては終始言ふに忍びざる災害を被つたのである。現に支那が混亂不安定の狀態を暴露してゐること、又日本が支那の現情よりして日々に不良なる影響を受けつゝあること、それが何よりも雄辯に此の間の消息を語つてゐる。これ日支兩國共に東洋氣分の本心を失つた罪ではないか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

吾等がこゝに支那に就て多少の言を費やしたるは日本の東洋政策を觀察する上に於て缺くべからざる必要に促されたからである。明治大帝の洪模並に伊藤公等に依つて熱心に築き上げられたる日本の地位が、果して先賢の志業通りに繼紹せられて居るか否か。殊に先賢の平和精神より流れ出でたる東洋政策の基調と苦心とが果して適當に諒解し運用されて居るか否か。吾等は之を知らんと欲して紛亂十年の支那に一瞥を與へたのである。それが軈て露國に對する日本の態度方策を知る上に於て、最も重要なる背景を爲すのであるから。

記して玆に至り、吾等は近時の對露關係を詳述するに多大の苦痛を感ぜざるを得ない。日露戰爭後に於ける、彼我兩國の立場は造化自然の命ずる所に由り絕對に離れ難き接壤關係を生じた。前面に朝鮮あり支那あり、然して露國と相迩なるところ、之を英米佛伊等の何れに比しても、決して同日に語るべきでは無い。此の故に日本は列國が悉く露國より撤兵したるに拘はらず、獨り最後までも西伯利に踏み止まらざるを得ずとしたのである。古き以前に遡れば明治初頭に於ける樺太・千島の交換の如き、我が國民の對露觀念に或る種の感情を植附けたる淵源となつてゐるが、それも我に於ては唯だ自衞的消極的であつて、少しも侵略的意義を持つてゐたので無い。是れ猶露國が領土征服慾を擅まゝにしたるとは全然、性質を異にする。さればこそ日露戰爭後、我は洒然として露國と提携し兩國の協約を結びたるのみならず、故伊藤桂兩公等は先帝陛下の叡慮を拜體して日露親善の大策に誠意を傾倒したのである。而して歐洲戰爭の初期に於ては相與に聯合國の味方に立ち協同策進に努力したのであるが、革命の變一たび彼の地に起つてよりは多年の接壤國をして恰も千里相隔つるが如き關係に置かしめ、就中近隣の西伯利は世人周知の如き不安定の狀態に陷つた。

若し日露兩國の關係が英、米、佛等のそれと同樣でありしならば、何が故に日本は聯合國の露國撤兵後に於ても獨り西伯利亞に踏み留まらねばならなかつた乎。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

若し又日本は對露關係が所謂赤化主義防止の爲に兩國間に阻まれて居るものとせば、何が故に曩に日本の政府は大連會議及長春會議を開いて彼我の會商を行つたのである乎。

單に此の二つの事實を觀たゞけでも、日露の關係は英、米、佛、伊等の何れよりも特殊の性質を有すること、又所謂赤化主義の宣傳を恐るといへる名に拘泥して我國の對露政策を現狀のまゝに放棄し置くべからさる理由が容易に發見せられ得る筈である。

然るに長春會議決裂後に於ける日露の關係は何うであつた乎

特に政府當局者は露國に對して如何なる方策を講じ、如何にして接壤地域の安定を計り彼我の利害を調和せしめんとしつゝありし乎。

更に又露支兩國の當局者は長春會議に臨める露國極東全權ヨッフェ氏の北京に在るを機會として如何なる手段方策を講究しつゝあつた乎。顧みて（一）之を東洋に於ける日本の地位に照し、（二）先帝陛下並に伊藤、桂、兩公等の遺業に考へ（三）最近十年間に於ける支那及露國の變遷に徵し、（四）西伯利の不安定が彼我兩國に及ぼす影響に鑑み、（五）且つ日露兩國の關係を決裂の姿に委することの爲め生ずべき結果を考ふれば予は一日も衷心の安きを覺へることが出來なかつた。乃ち熟慮に熟慮を重ねた揚句、自ら一身を犧牲にして敢て對露政策解決の機運を疏開すべく決意したる際、養病必要のヨッフェ氏を日本に招き、以て旁ら彼我の諒解に資せんとしたのである。固より區々たる小功名心の爲でもなければ、政府當局の仕事に立入らうとするのでも無い、唯だ誠心誠意、國民の一員として國民外交の一助たるべく發意したるに外ならない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

五

轉じて予はこゝに少しく對露關係に就て考察の歩を進める必要があると思ふ。何が故に現時の露國と信交を開くは不可なる乎、帝國主義露國と提携せる日本は、共産主義露國を嫌ひて飽くまでも從來の態度を固執せざるべからざる理由ありや。又巴里會議以來列國の對露政策は或る一二を除き未決定の狀態に置かれてゐるが、露國の隣邦たる日本として獨自の方針に出づるは不可なりや。更に日露の修交は日支及日米關係に如何なる作用を生ずべき乎。上來予は既に是等の點に於て相當の見解說明を與へた積りであるが、尙ほ其の趣旨を明らかにする爲に、之を一纏めに講究して見たい。

先づ第一には勞農露國の共産主義に對する恐怖である。換言せば所謂赤化防止の必要上から現時の露國と修交を開くは果して不可なりや否やとの問題である。予は露國革命の初めより深く其の經過に留意し憂慮して居つたが、爾來彼等は破壞より漸次建設に進み、その狀恰も我王政維新が尊王攘夷を以て起り、勤王開國に變遷し繼て明治の隆運を見たると稍相似たるやの感なきを得ない。無論予は決して共産主義に贊成するものでもなければ、勞農專制を是認するものでも無い。併しながら今日の莫斯哥政府を以て依然革命當時の擾亂時代と同一狀態に在りと爲し何等秩序統制なき變態的一時現象と看做すことは、既に六箇年に亘りて露國の政權を支持し來りつゝある顯然たる事實に眼を閉づるものである。又勞農政權の主義其のものは假令何うあらうとも、他國の政治組織に容喙して彼が內政に干涉する如きは國交上の原則に反しはしない乎。成る程、革命當時の露國は混亂、騷擾、飢餓等の事實交々續出し、其處には悲慘なる現象、戰慄すべき多くの事變が現はれた。されど革命は昔より『光澤ある手袋』を以て行はれたる例なく、新勢力の勃興せんと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

するや、山嶽をも取り崩さんとする破壞力を逞しくするが寧ろ常である。此の事ありしが故に何時迄も狂暴的光景を持續するかの如く恐怖するはそも／＼大なる謬見であらう。

とにも角にも過激派政府は露國の中樞權力を掌握し、英、佛其の他の聯合軍と戰つて國內の白色軍を一掃したのみならず、現に彼等が執りつゝある政策、乃至、今後に執らんとしつゝある政策は所謂新經濟政策の名稱の下に、漸次國家資本主義に轉回してゐるのである。こは既にビアード博士の指摘せるが如く、千九百二十一年の始めに於てレーニン自ら共産黨員に對して資本主義の絕對禁止を以て「自殺を試みるが如き愚策」たりしことを告白し且つ「自由貿易並に一般的資本主義の存在する國に於て、何等かの形に於て行はれてゐる」ところの國家資本主義に首途すべきことを聲明してゐるのである。之を目して彼等が全然共産主義の標榜を撤廢し、その信條を拋棄したと認むるは或は輕卒であらう。又新經濟政策なるものが如何なる方法に依り、如何なる程度に開展すべきかの問題も未だ精密には判明してゐない。唯少くとも彼等の政權が六箇年の長きを保持したことゝ、共の內部的統制が漸々建設的に改善されつゝあること、並に列國に對して通商修交の途を開く爲めに最善の努力を試みてゐるといふ三箇の事實は、彼等が主義主張の可否如何を問はず、之を認めねばならない。（本論に關し米國上院議員ボーラー氏の意見、予と一致點あるを以て近日印刷に附すべし參考の爲めに此に一言して置く）旣に然る以上は、彼れが主義政策の他國を侵犯せざる限り、如上の事實を認めて之と修交を開くに何の差支へがあるか。

且つ夫れ政體の差異を標準として國交を特別にせざるべからずとせば、立憲君主國と專制君主國及共和國とは永久に隔絕しなければならない。共和國又は專制國との修交に何等不都合を感ぜずして獨り所謂共産露國に恐怖するは却て水禽の羽音に狼狽せる物語の類ならずや。少くとも三千年の歷史を有する日本國民は敢て他國の政體に心目を眩惑するの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

恩に倣ふを要せぬと思ふ。元來、主義は一種の信條である、宗教である。之を好むにもせよ、好まざるにもせよ、其の宗旨を棄てざる限り絕對に修交せずといふ如きは日蓮、一向の信者が如何なる場合にも他教徒と同席せずといふと異ならない。苟も同じ人類である以上、而してその地域の隣接せるにも拘はらず、主義信條の名に依つて互に面を背けてゐるといふのは寧ろ不自然的であり、狹量であらう。言ふ迄もなく吾等の對象は露國と露國の國民である、ボルシエヴイズムと修交するにあらずして露國の人民と和親通商の途を開くの可否を問ふのである、形式的には莫斯科政權を相手に交渉するとしても、その目的物は露國であり、彼れが一億の人民であることを忘れてはならない。隨つて吾等の對手は決して赤色でもなく、白色でもなく又桃色でも何でもないのである。

六

次に考察すべきは日本の對露政策をして是非とも英米佛と步調を一にせしめなければならぬかといふ問題である。歐洲大戰以來聯合國の味方となりて協同策謀を事とせる日本としては、能ふ限り國際協調の趣旨を尊重することに誰しも異論のあらう道理は無い。併しながら國家個々の特殊事情に關しては、それ〳〵特殊の立場と政策とが保持されねばならない。現に米國は自ら首唱せる國際聯盟にすら參加せず、又英佛兩國の如きも其の對獨政策に就いて大に意見を異にしてゐる、巴里講和條約の實行てふ重大事實に對してすら猶此の如し、所謂協調主義の範圍及條件は略々想像せられ得る筈である。之を日露兩國の關係よりいへば既に上にも述べたるが如く曾て英米佛が露國より撤兵したる後に於て、獨り帝國のみが駐兵したといふ一事を以てしても、他の三國とは著しく事情を異にし、其の立脚點を同じくせざる理由あるを了解し得やう。加之、英米佛三國の間に於ても、英は逸早く商務官を莫斯科に駐在せしめ、必らずしも佛米の對露

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

方策とその軌を一にしてゐない。又米國は未だ勞農露國を承認して居らぬとはいへ、シンクレア會社のサガレンに於ける石油鑛區租借問題に見るが如き個々の事實を抑止又は阻碍しては居らない。國土相接壤せる日本としては是等の點に深き注意を拂はねばならない。隨つて予は對露承認問題に關して英米佛と步調を一にせなければならぬとの主張に格別の合理的根柢ありとは認め兼ねる。況や英米佛との間に何等かの密約ありといふが如きをや。恐らくは甚だ不見識なる一片の訛傳に過ぎまいと信ずる

世にはカンヌ、ゼノア、海牙會議等に於て聯合國が露國に對し一致の行動を執つたといふことを非常に重大視してゐるものがある。されど右の行動は單に該會議に於てのみ約束づけられたるに過ぎずして、之が爲めに決して爾後の政策を拘束せられてゐるのでは無い。否、海牙會議以來各國の對露政策は既に自由となつてゐるのである。大觀し來れば巴里講和會議の開くるに方り歐亞の大國たる露國を除外して世界の平和を議定したことが實は一種の異例に屬する、寔に已むを得ざる事情があつたとはいへ、世界大亂の一大要素を爲せる露國を差措きて完全なる平和克復の基礎條件を設定することは極めて難事であつたに相違ない、（少くとも不自然であつたに相違ない）それ故にカンヌ、ゼノア、海牙等の會議が必要となつたのであるが、聯合國對勞農露國の折衝は所謂國際信義問題の一點に於て遂に物分れとなつてしまつた。而してそれが今日に於ても對露承認の難關となりつゝあるは世人の認知するが如くである。勿論長春會議缺裂の一原因も玆に在つたのは予の緊說を要としない

然らば所謂國際信義の問題とは何を意味する乎、一には勞農政府がロマノフ朝時代の舊條約を廢棄したこと、二には舊國債を破棄したこと、三には露國內に於ける外人の私有財產を沒收したことである。之を聯合國側よりいへば法理上極めて不都合なる國際信義の蹂躪だといふのであるが、勞農政府は之に對して種々の理由を設け容易に前者に下らな

い。就中聯合國が露國に出兵してデニキン、コルチヤツクその他の白色軍を援助したことが、聯合國それ自身の國際信義蹂躙だと抗辯してゐる。聯合國と露國との間には當時交戰關係が成立したのであるから、舊露國との國債條約も債權債務も將た外人の私有財産權も既に消滅してゐるといふのである。又聯合國は露國に勝つ能はずして撤兵したのであるから、露國は戰敗者で無い、隨つて列國に對し對等的地位を要求するといふのである。議論の當否は別として、若し此の種の法理論を固執して飽くまでも對露承認を不可とせば、勞農政府の崩壞せざる限り、そして勞農政府に正反對なる新政權の確立せられざる限り、何時まで經つても議論の端てしがあるまい。隨つて又ソレ迄は露國との修交及通商を斷念しなければなるまい。

今、若し日本政府が上記の如き聯合國側の法理論のみに根據を置きて之が解決を對露政策の第一要件と考へてゐるものとせば、果して如何。假りに英米佛の各國が政治的又は事實的に露國を承認したる後と雖も、日本一國だけは對露關係の回復確立を期し能はざる虞れなしとはいへない。英佛米が所謂國際信義問題を高調するには從前の歴史と利害とよりする緊切なる理由がある、殊に佛國の如きは對露戰前債權の一條のみにても強硬に主張せねばならぬ事情を有つてゐる併かし勞農露國としては聯合國の要求を容るゝことの爲めに忽ち自滅自潰の運命を取らねばならぬ立場に在る、――大戰以前の舊債務は之を承認するといふ程度にまで讓歩することゝなつたが――それでも日本は何處までもゼノア、海牙會議に於ける聯合國の主張を支持して所謂國際信義問題の法理的解決を承認の前提とするのであらうか、又それが日本の利益であると認めてゐるのであらうか。

凡そ國際上に於ける正式承認 de jure と事實上の承認 de Facto との區別は法學者も亦唯だ程度の差に過ぎずといつてゐる。其處に吾等の考へざるべからざる至深の暗示があると同時に、吾等に取つて一段の思慮を要するは如上の難關

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に對して法理的以外に、政治的解決の方法が發見せられぬものであらうかどうかと言ふことである。又政治的解決に依る對露修交の回復を不可とせねばならぬ何等かの絶對理由があるのであらうか。若し日本が假令最後の一人となつても法理的解決を固持すといふならば、それも一つの立派な理由であらうが、斯くして日本獨り國際上に孤忠を守ることが果して世界の大勢に順應し、國家の利益を增進する途なりや。且又それが正義人道の精神に適合し日露兩國民の慶福を計る所以なりや。吾等は最も愼重に判斷しなければならない。法理は空論的遊戲ではない。道德は仙人の閑是非にあらずして事實を指導するものであらねばならない。古來何れの國家が專ら法理論を以て重大困難なる外交問題を圓滑に處理し得たことがあらうや。若し是等の點に開眼し、大悟一番したならば、薩哈連撤兵や、尼港事件の如きは必らずしも解決の難きを憂へない。根本的には人類本然の性能に由り地域相接せる近隣の開發交通を圖り、以て共存共榮の途を開き、彼我兩國民の經濟的生存を成就する。是れぞ即ち世界の平和に貢獻する所以ではない乎。單なる法理論に囚はれて隣保親和の途を塞ぎ、其の接讓地を不安定の狀態に置き、延ゐて東亞大局の康寧を障げるが如きは、決して正義人道の旨に適ふとはいはれまい。此意味に於て吾等は宜しく朝野の三思を求めたい。

七

吾等は既に勞農露國の共產主義を理由として修交を開くべからずと爲すもの丶謬見に就て之の所見を述べた。又英米側と協調するにあらずんば露國を承認すべからずと主張することの甚だ不見識なるを指摘した。更に進んで考ふるに、現時の勞農露國は或る意味に於て非常に秩序整然たるものがある、假令一種の專制主義にもせよ、將た人間の弱點を捉へて巧みにカモフラージの手段を執つてゐるにもせよ、一億の民衆を統ぶるに五十萬足らずの手を以て之を治めて行く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

といふことは、恰も往時の武家階級が少數の勢力を以て農商工多數の人民を制御したると異らない。それは少くとも世界に於ける一大藩屏である。六ケ年に亘りて堅固にその基礎を構成せる一大雄藩である。此の事實を無視して徒らに白軍の擡頭を待ち、若くは主義信仰の差に執着する如きは世界の眞相を諦破せしものとはいへまい。且又た共產主義露國は領土侵略主義を排して平和主義を標榜してゐる。之を帝國主義時代の露國に比すれば全く正反對の方策を執りつゝあるのみならず、彼れが他國との條約には勞頭必ず赤化宣傳を他國に行はざることを締約してゐるのである。日本は舊時の侵略主義露國に對してすら何等の恐るゝ所なく提携握手し、數次の協約をさへ取換はしたるに拘はらず、平和主義露國に對して正式承認を與ふる能はずといふは論理の徹底を缺きはしない乎。

殊に嚴肅なる見地よりいへば、所謂赤化防止の爲にも寧ろ先づ露國を承認し、彼れが國情を明確に詳知することが論理的の順序であるまいか。換言せば先づ露國を承認して自由なる交通を開き先方の事情を審らかにしてからでなければ精確なる知識は得られない。精確なる知識なくして徒らに赤化防止を叫ぶが如きは智者の業とはいはれぬであらう。現在頻りに勞農政府を攻擊しつゝある人々の多くは、所謂過激派と稱する文字に誤られて未だその眞相を熟知せず、革命當時の反動的混亂狀態を聞き傳へて今も尙同一の破壞力を逞しくするものと看做し、その後の變遷に通曉してゐないやうである。此の如きは迂濶の甚だしきものにして、世界五大强國の一を以て居れる日本國民の誇りでは無からう。吾等は今少しく冷靜でありたい。之を科學眼より見れば新舊露國變化の迹を攻究することは曾て史上に類例稀なる興味無限の實驗である。而して如何に之を利用し、或は善導すべきかといふことは時代の勝利者たらんとする大國民に取りて此の上もなき研究の好機と題材とを提供するものである。又彼れが所謂新經濟政策の如き、如何に之を適用し、如何に列國と諧調の方法を立つべきかに就いて吾等は少からぬ望みを屬してゐる。勿論その間には種々の曲折もあらうが、それは露

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

困それ自身に於ても未だ一定の型を立てゝゐるのでは無い。彼れは變化改善の道中に在るものであつて、之を適當に開導し世界に善慮せしむるは日本の役目として最も貴重なるものである。既記の諸條約、所謂債の破産及び私有財産問題の如き法理論は英米佛にあつてこそ重大なる利害を有すとせんも、日本に在つては比較的に輕微なる問題に過ぎない。(此の點は政府當局も既に之を認めてゐる。)さすれば先づ露國承認を前提として、然る後に赤化防止の對策を講ずるに何の不可あるかを解し難い。

三千年の歴史を有する日本國民は古來既に幾多の異端的思想に鍛練せられ、印度、支那、西域その他何れの方面より如何なる主義學説が傳來し來るとも、啻も之が爲に變色又は褪色するが如き薄弱なる國民では無い。老莊揚墨悉く打つて我に陶冶し道佛神仙皆來りて我一大鎔鑛爐に投じ些の遁るゝあるを知らない。今にして假りに赤化主義の露國に高調せらるゝありとも、我が國民性の勁健を信ずること深き吾等毫も風聲鶴唳に錯愕するを要せぬのである。

偖吾等がこゝに一言を禁じ難きは日露の修交が、繼て日支の提携となり、日米の親善となることである。大戰後に於ける外交界の大勢が假想敵を條件とせる同盟協約の時代を去りて、コオペレーション本位の時代となりつゝあることは前に述べたが、それには先づ第一に隣邦同愛の精神に基き最も利害關係の接觸緊切なる方面から諒解親和の步趨を進めねばならない。何となれば同盟協約に據る外交は力と力との均衡を主眼として成立したるに反し、コオペレーションを本位とする外交は共存共榮の生活を根本主義とするが故である。而して今は、世界に於ける日本の地位環境は東に米國を控へ、西北境に支那、露國と相連つてゐる。故に日米支露の四國關係は東洋に於て恰も一連の珠數の如き聯鎖を形ち造りつゝある。特に滿蒙及西伯利は四國關係の焦點ともいふべく、直に是れ東洋平和の鍵鑰であるといふことに深き注意を怠つてはならない。米露直接の外交關係は如何にともあれ、日本帝國としては對露政策の未決定を忍ぶ能はざるも理

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

由は此處に在る。其の證據には米國は未だ露國に對して正式承認を肯んぜざるに拘はらず、シンクレア會社の石油鑛區事件の如きありて此の一問題の爲にすら、將來動もすれば意外の行違ひ又は波瀾を惹起するなきを保せない。況んや、若し現狀の儘に放任せば今後續々と同種の問題を發生するなしとせざるをや。更に況んや、滿蒙關係の重大なるは日露戰爭の一年を回想しても十二分に想像せられ能ふべきをや。

固より上記の親善關係を遺憾なく成就せしめんが爲には單に露國に對してのみならず、支那人も米國民も同じく共に隣保同愛の精神を發揮し互いにその慶福を頒たねばならない。最近支那の識者は英米人に依つて何事をか爲さんとせる從來の手段の不可なるを漸次自覺して來たやうだが、是れ最も喜ぶべき現象である、同時に日本も又專ら歐米人の後塵を拜し之に追蹤して却つて隣邦との親和を疎かにするが如き態度を一擲改善せなければならない。若し夫れ米國に於ける排日主義に至つては、如何なる意義に於ても華盛頓を國祖とする名譽ある國民に不似合なる行動である。吾等の信ずる米國人は、決して此の如き不合理なる行動に雷同するものでなく、唯だ、極めて少數なる野心家、黨略政治家、就中在支米國人中の一部分の者の功利主義的運動に惑はされて、ともすれば何等根據なき謠言を流布して居るだけである。故に所謂日米戰爭論の如きは好事者の小說的架空談に過ぎずして苟も善隣共榮の旨義を離れざる限り、一片の雲翳だに兩國間に播曳する筈はないのである。吾等は支那に對し露國に對し米國に對し如何なる場合にも神明の前に立ちて耻ぢざる態度を要する。之が爲に吾等は東洋に於ける日露支米間の修交關係を最上最善の狀態に置かねばならない。而して此の目的を達成する道程として、吾等は日露關係の缺裂を默過し得ぬのである。そは東洋平和の鍵鑰たり、焦點たる重大問題を忘却すると異るなく、隣邦同愛の根本義に閉眼せずして不測の禍ひを他日に貽すの虞なしとせざるが故である。此の禍ひを刈り取ること一日遲ければ一日の害あり、唯其の迅速なるに於てのみ有効有意義なるのみならず、若

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

し徒消機を失して他に追隨せんか、是れ寧ろ造化自然の命ずる所に背き自ら求めて天譴を招致するものたるを悟らねばならない。繰り返していふ、日露の修交は即ち日支提携の妙機を開き、日米親善の機運を齎らすものなりと。

八

さて、以上に於て予の對露見解の大要を記述したが、這次予がヨッフェ氏を招待したことに就いては、上來の説明に依つて、おのづから解さるゝであらう。予の發想は單に個人的なる情誼に出るものにして敢て初めより外交的交渉を豫期したのでは無い。ヨッフェ氏が支那に於て適當なる養療の地を得ず、その痼疾に惱んで居ることを聞きて　氣候快適なる日本の温泉場に迎へ靜かに治療を加へたならば　必らず氏の健康が回復するであらうと思ひ、その意を同氏に通じたのである。併しヨ氏は現に勞農政府の根本、全權たる任務を帶びつゝある知名の政治家たる以上、假令外交上の使節として氏の來朝を慫慂したのでは無いとしても、予は事前に於て相當の熟慮を重ね、各般の影響如何を考察したることは固より言ふを俟たぬ。そして是等の點に關し予として執るべき注意と諒解とは決して之を忽にせなかつた積りである。

ヨ氏招待の眞相を一言にして書せば、日露兩國民の諒解に資するといふ目的に外ならない。換言せば彼我の關係を如何に打開し、如何に解決すべきかは政府當局の責務にして、予は唯國民と國民との諒解を促進し、彼れをして我を知らしむると同時に、我れも亦彼れを知るの機會を作り、互ひに光風霽月の襟懐を披きて双方の誤解を取除き、自然的なる日露の狀態を鮮明にしたいと考へたのである。それが第三次日露會商を開くの機運を作り出すか、或ひは一個の後藤と一個のヨッフェ氏との交際關係に終始するかは予に於て必らずしも頓着してゐたのでは無い。唯だ予の信ずる所は一切の外交問題も、經濟問題も、總ては先づ彼我の諒解を第一步として發足しなければならない。互ひに對手國の眞相に通

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

せず、おの／＼暗中摸索の態度を脱せずして徒らに腹の探り合ひを爲してゐるやうでは、甚だ以て面白くない。殊に長春會議缺裂後、日露兩國の間には何等意思疏通の方策を講ぜず、爲めに益々行詰りて不祥なる問題を續出するあらば、遡つては先帝以來の洪謨を空しくし、退いては東洋平和の基礎を動搖するなきを保せない。加之、日露の缺裂は軈て正當の軌道を脱線せる露支の關係（特に滿蒙問題に就いて）を發生せしめ、更に進んで不合理なる米露の關係（特に利權問題の如き）を見るに至るやを知れない。これ予がその身局外に在るにもせよ、國民の一員として傍觀坐視し能はざりし所以である。

此の如く予のヨッフエ氏を招待せるは極めて單純であつたに拘はらず、同氏のいよ／＼我國に渡來するといふ一段に至つて甚だしく之を複雜ならしめたのは何が故なる乎。予は此の間の消息を詳しく物語るを好まない。世上或はヨッフエ氏の人物性行に關して種々の疑惑を挾み、權謀術數を事とする不誠意なる怪物なるが如く言ひ傳へ、若くは赤化宣傳を目的として來朝せるもの丶如く非難を加へ、中には松平歐米局長の名を藉りて是等の説に裏書を與ふる如き惡戯を以て攻撃を行つたものがあつたが、それは悉く訛傳に過ぎざるのみならず、外務當局としては却つて迷惑を感じたに相違ない。何となれば日本は既に大連及長春會議を開きて二度までも對露交渉を行つたのである。當時の會商に際し日本は果して露國民の入國禁止を條件とし永く露國と修交せざることを豫定して居つたであらう乎。若し然らずして何等かの協定が成立し、該會議の成功を告げてゐたとしたならば、其の後露國民は陸續として日本に入り込んでゐるに相違ない。其のヨッフエ氏なると何人たるとを問はず、自由に我國に渡來し今頃は多數の露人を日本の各地に發見して居るであらう。苟も失敗を最初の方針として大連及長春會議を開きたるものにあらざる限り、日露兩國民の自由なる交通々商は夙に日本政府の承認して拒まざる所であらねばならない。此の故に赤化宣傳の防止を理由としてヨ氏の來朝を阻止し、或は外

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

務當局の名を騙りてヨ氏に對し濫りに人身攻擊を加ふるが如きは、頗る奇怪の沙汰である、少くとも日本政府既定の方針に悖るものである。殊に又早かれ、晩かれ、適當なる機會に於て第三次日露會商を開かんとする外務當局としては、此の如き流言の行はるゝを不可とし、之を消滅せしむる手段を執るのが至當であらう。然るに意外又意外にも、吾等は内相の管轄下に於て極めて不可解なる行動あるを耳にするに至れる如きは、實に吾等の夢想だにせざりし所である。

之と同時に予は所謂赤化防止なるものが、實際には『後藤防止』の誤植でないかを疑はずには居られない。若し赤化防止が眞の目的であるとしたならば、彼等は何が故に大連會議の當初に於て此の運動を開始せなかつたらう。遲くとも長春會議の際には大々的猛運動を起して政府に押し迫るべき筈だつたらうと想はれる。そして日本政府の對露方針を一變せしめ、日露の會同を中止せしむるにあらざりせば、爾來露人は大手を振つて來朝すべかりし危險（？）があつたのである。幸か、不幸か、該會議は停頓に次ぐに缺裂を以てしたとはいへ、日本政府としては彼の時に於て早くも赤化宣傳の必ずしも畏怖するに足らざるを認め、「思想を擊つには思想を以てする」といふことに決定してゐたに相違ない。換言せば思想的防止の範圍を奔逸せる不穩當なる警察的又は直接行動的防止を不必要と認めてゐたればこそ、わざ／＼政府委員を彼の地に派遣して彼國と折衝せしめたのである。此の故に所謂赤化防止は恐らく『後藤防止』の誤りであり、國家の大局に眼を注がずして個人的感情若くは政黨政派の僻見に唆かされ自ら政府當局既定の方針を裏切るが如き奇異の現象を暴露せるものに外ならない。果して然らば其の有意識的たると無意識的たるとを問はず、外交を以て政爭の點に供する國家の大罪人といはねばならない——一箇の後藤は固より物の數にも足りない、且つ今回の事に就ては豫め一切の責任を予一人に負ひ、斷じて國家及政府に迷惑を及ぼさゞる覺悟の下に、挺身之が犧牲者となつたのである。併しながら後藤防止の魂膽を遂行せんが爲に、國家を名とし、道德風教に言を託するは卑怯千萬なる行爲である。是れ敢て

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

類を顧みず、こゝに之を切言し置く所以である。

九

此の如くにしてヨッフェ氏はいよ〳〵日本の土地を踏み、東京より熱海に寄遊したが、朝野の對露並に對ヨッフェ見解は何うであつた乎。其の始めに於ては多少の杞憂を懐いて居つた人々もありしなるべく、又政府として如何にヨ氏を待遇すべきかに就いて屢々種々の風聞を傳へられた。暗號電報問題の如きは其の一例に外ならない。而も予が知り得たる限りに於て、我國の有力なる知識階級及新聞紙は一齊に露國に對して好感の意を表明し、速に正式承認を與ふべしとの議論が日一日と強くなつておつた。帝國議會には對露通商建議案も現はれ、更に對露承認決議案も提出せられた。それには勿論必要なる條件の設定を要求されたが、さりとて根本的に露國に對して長く國境を封鎖して不可なしといふが如き意見は一つも見受けられなかつた。單に通商條件の交換に限定すべしといふ論者と雖も、決してゼノア及海牙會議に於ける英米佛の主張を支持し法理的に正式承認を否認したのではなく、唯だ彼れが國情未だ明確ならざるを以て先づ通商的關係に止め、其の形勢の定まるを待つて正式承認に移れといふ漸進論であつた。是れ即ち事實上の承認を默認して形式上の承認を後廻しにせよといふに異らない。輿論の趨勢既に然り、隨つてヨッフェを怪物危險視しての人身攻撃及び赤化宣傳を恐怖するが如き反動的言論は殆んど其の跡を絶つに至つた。之を一兩年前の國論に比すれば洵に隔世の感なきを得ない

然りと雖も我國の知識階級及新聞紙の對露好感は未だ日本國民の全部的意思表明とはいへない。就中、既に對露方針を決定せられ居る筈の或る方面に於て——極めて局部的であると想はれるが——動もすれば赤化防止と後顧防止とを混

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同し、或はヨッフエ氏を毛嫌ひして一日も早く日本を去らしめんとし、或はヨッフエ氏の地位を理解せずして別箇の對露政策を行はんとするが如き風聞が頻々として吾等に傳へられた。こは概ね斉東野人の言に外ならざるべしと信ずるも兎に角、政府、ヨッフエ對後藤の間にさま〲の訛傳流説の蝟集せるは事實である。

然るに最近に至つて此の方面に於ける形勢も亦一變した、即ち從來單にヨッフエ對後藤の個人的意見交換に過ぎずと看做されたる日露の關係が進一歩して或種の諒解が予と政府並にヨッフエ氏の間に成立せるが如く報ぜられ、暗號電報の許可及ヨッフエ氏の入京等に依り今にも日露の非公式交渉が行はるゝやうに觀測するものすら生じて來た。予は本文を草するに方り成るべく第三者の立場に身を置き、予自身に關する內面的消息を、語るを欲せざるを以て、世上の報道及觀測に對し否定及肯定の何れをも下さない。隨つて又外務當局がヨッフエ氏の現に日本に滯在しつゝあるにも拘はらず故らに浦鹽官憲を通じて莫斯哥政府と貿易事務官の交換を提議したといふこと、それには事實上に於て日露の通商及承認關係にまでも立入らねばならぬ性質を含んでゐたといふこと、而して莫斯哥政府はヨ氏の權能を尊重し同氏の手を經ずして何等日本との交渉を行はざる旨ヨ氏に通電したること、莫では又露領出漁の問題に關して政府より中間盡力を予に要望したといふこと、凡そこれ等各般の說に對しても予は今ノーともイエースとも言はずに置きたい。其の或る部分は既に事實其のものが之を證明し、又或る部分は予に於て之を說明したことも無いでは無いが、玆には煩を避けて暫らく其の總てを留保して置かう。唯だ現在に於て予の言明し得るところは、予は依然たる民間の一有志に過ぎない、何等政府より公式の依囑を受けたるにあらざれば、外務當局の任務に踏み込んでも居らない、又決して之に踏まんとする意思を有してもゐない、といふことだけが本旨である

然らば日露兩國の關係は今後如何に開展するであらう乎、是れ予が多くの人々より受くる所の質問ながら、目下予と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して之に答へ得べき範圍は畢竟政府の決心次第といふに止まるのみ。若くは國民の覺悟次第といふことも出來る。予の意圖は上來既に述べたる通り專ら日露兩國民の諒解を進めるといふ一點を離れない。此の故に予より觀ればヨッフエ氏招待の主要なる目的は略々之を達し得たのである。何となれば日本に於ける赤化恐怖病は事實的に一掃せられた、同時に、日本に對する露國民の誤解も著しく取除かれた。これが第一段である。日本國民はヨ氏の來朝に依つて赤化宣傳の事なきを知りたる他の一方に於て、露國々民も又ヨ氏を通じて日本の輿論が毫も露國を敵視せず、寧ろ最善の好感と最良の理解を有するの多きを知つたからである。若し夫れ兩國民の諒解に基きて善謀善斷、國際上の新局面を如何に打開し進展せしむべきかは主として政府當局の責任に屬する。是未來に屬す。随つて此の機會に於て第二次日露會商の開かるゝにもせよ、開かれざるにもせよ、予がヨッフエを迎へたる當時の目的は毫もその意義と價値とを失はない。それが現在迄に現はれたる効果である。更に明日以後に於てより大なる効果を擧げることの爲に、一層の努力を辭せざるものなれども……

一〇

述べて玆に至り予は本篇の結論として日露兩國の將來の方針に關し一應の所懐を記さうと思ふ。

カンヌ、ゼノア、ヘーグ及長春會議等を通じて露國の熱心に主張し支持しつゝある要求はさることながら一、露國を戰敗國として取扱はず、對等國として平等に對議すること、二、先づ勞農政府を承認することに依つて通商その他の經濟關係を取極めること。これが如何なる場合にも露國に取つての必要條件として固執せられゐると同時に、日本に對しては別に露領撤兵が先決要件だと唱へられてゐる。然るに之に對する日本政府の主張は第一に勞農政府に於て國際信義

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を守るべきこと、第二に尼港事件の責任を負ふこと、此の二つの條件に對し先づ誠意を示すにあらずんば承認問題及撤兵の事を考慮し能はずと爲し、途に長春會議の決裂を見たのであると露國側は主張すれども、大正十一年九月二十六日松平代表の聲明に依れば、露國が大連にて諒了したる基本協定を基礎として先づ極東共和國と締約するの先約を守らざるを以て會議決裂の原因と爲して居る――露國の第一要件たる對等的立場云々に關しては一種の抽象論なるが故に日本に於ては必らずしも之を問題視するを要しない、唯だ露國それ自身に在つては所謂撤兵並に尼港事件に對する日本の要求を以て戰敗者的待遇だと解釋したのであらう――其處で日露兩國の接衝點を押し詰めていへば結局國際信義問題と、撤兵問題の二つに歸着する。

若し所謂國際信義の問題を法理的に固執すとせば、勞農政府の存在する限り、假に英米佛が露國を承認したる後と雖も、日本獨り孤忠を守らねばならぬことは前に述べた通りである。併しながら我政府は必らずしも此の如き法理論のみを固執するのでは無く、必らずしも英米佛に追隨し迎合するものでもないといふことは、最近政府當局の既に中外に聲明せる所である。日本に關する範圍に於て、國際信義の尊重を要件とするものは舊條約の既得權例之日露漁業條約の如き其の一であり、第二に三億の對露債權である。(第三の私有財産問題に關しては其の利害が極めて稀薄と認められてゐる)、分けても日露漁業條約こそ、日本に取つて當面に差迫れる問題であつて、三億の對露債權の如きはゼノア、海牙に於ける聲明もあり尚未解決の點もあるが、當面の漁業條約――而も事實的には從來自由出漁、其の他の方法に依り之を繼續して來た――一つの爲めに、所謂國際信義問題が、非常の難關たるかの如く高調されねばならぬのであらう乎。而して此の一問題が適當に解決されぬ爲めに對露承認を不可とし、乃至は通商協約のみに止まるべしとの議論が出るのであらう乎。若し然りといふものあらば、予は其の見解の餘りに局部的にして且餘りに安價なるに驚かざるを得ない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

無論、露國としては決して日本の出漁に反對するものでは無からう。既に半解決を了して居る。否、一箇の漁業問題の如きは殆ど彼れの眼中に横はつてゐない。但双方の意思疏隔より又は手續周到を欠くより來る故障はあらう。勞農政府は自國の富源を開發せんが爲には寧ろ喜んで其の領土を開放し、鑛山森林其の他あらゆる利權を提供するを措まぬと言明してゐるのである。唯だ彼等の主義として、舊條約を繼承することは、ソレが如何に小なるものと雖も、英米佛等の各國に對する一切の舊條約を活かすことゝなるが故に、之を容認しないのである。換言せば露領出漁の事實そのものには反對せず、又日露漁業條約の内容其のものには贊成する。併し舊條約の形式そのものを繼承することに不同意を唱へるだけである。此の故に試みに一歩を轉じて之を政治的に解決、(從來の形式的法理論に執着せずに)することゝせば此の種の問題は彼我の妥協點を見出すに困難ならざるやに想像せられる。否、實質的には漁業權以上の交渉も敢て至難ならじと思はれるのである。

次には尼港事件及之と因果關係を有する撤兵問題の事である。是れ將た所謂誠意、所謂國際信義の問題と關聯してゐるのであるが、若し幸日露兩當局の諒解だに成らば、是の如きは大問題にもあらぬであらう。一方は先づ撤兵せよといひ、他方は先づ尼港事件の責任を負へといふ。恰も宴會の席上に遲速を爭ふが如く之を大局より見れば閑人の暇つぶしに類するかの感がある。吾等は決して尼港事件を不問に附せよとはいはない、無條件的に撤兵せよともいはない。併しながら尼港殉難者の靈を慰むる途は別にヨリ大なる方法が無い譯では無からう。此の事件ありしが故に露國と斷絶し露國を承認すべからずといふが如きは、殉難者各位の本志では無からう。否、吾等は遠く朔北の異域に雄圖を齎らして逝ける殉難者の志業を全うするが爲に、更に大局に眼を注ぐの必要を痛感せざるを得ぬのである。撤兵の前後を爭ふ如きはそも〳〵末である、之に依て對手國の誠意を疑ふが如きは餘りに兒戯的ではなからう乎。所謂誠意又は國際信義上

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いふが如きは畢竟兩國の諒解如何に依つて如何樣にも具體的となるのである。之を政治的に解決せずして專ら形式に拘泥する如きは文字の遊戯と異らない。若し始めより各々其の對手國を疑ひ、互ひに眼と眼とを見合はすが如くんば、假令如何に完全無缺なる新條約、新協定を相結びたればとて、何の効をも爲さぬであらう。古來懷疑哲學は活きたる人生に成立せざるものである。吾等は露國をして日本政府を信ぜしめたい、同時に日本をして露國を信ぜしめんことを欲する。要するに信不信の問題である、それは即ち双方諒解の有無に由るのである。

世上或は又對露國承認の敢て急を要せざるを唱ふるものがある。之を分つて通商協定の交換に止むべしといふものと、通商承認兩つながら現狀のまゝに放任して可なりといふものとの二種に區別される。但し之を露國側よりいへば結局は同一である、蓋し今日の勞農政府は最早や正式承認を伴はざる通商協定を肯んじないからである。現に伊露兩國間には前後二回の通商協定を結びたれども露國に於ける勞農總會議に於て之が批准を拒絕した。こゝに於て吾等の考慮せざるべからざるは日露兩國の缺裂を等閑視して日本に何の益ありや、東洋及世界の大局に何の意義ありや、といふことである。單なる漁業問題に關してすら我に於ては意外の支障を感じてゐるではない乎　旅券査證といひ、船舶の出入といひ必需品の轉送買入といひ、何れも延いては貿易事務官（事實上には領事と同樣）の交換を必要づけられてゐるではない乎、而して此の一事が圓滿に解決せなければ毎年〳〵三四千萬圓の產業と、同胞一萬數千人の生活資源とを喪失するではない乎。更にそれが鑛山、森林、其他の利權及貿易關係に及んだならば何うであらう。又第二、第三のシンクレア會社が現はれたとすれば將來如何なる影響を惹起するであらう。露國の痛苦は固より論ずる迄もないが、彼れは六年の久しきに亘り四面孤立の難境に堪へて來たのである。我れに於て日露の缺裂を意に介せずといはゞ、彼れも亦恐らく此の種の恫喝には避易せずといふかも知れぬ。是れ果して日本の爲に、東洋の爲に、世界人類の爲に賢明なる態度なりや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

借問す、歐亞に跨れる一大國と一億の國民とを永久に無視して平和發展の歷史が人類の記錄に上り得るであらう乎、その時代と形式とには遲速巧拙の差こそあれ、各國共にいづれは彼等の存在を認めずには居れぬのである。それでも日本は最後の一人となるまで踏み止まるを可とするや、英米佛の後に附隨してその足跡を追らんとするや、彼我の特殊關係を忘れて我先を制するを不利とするや、說あらば與かり聽きたいものである。

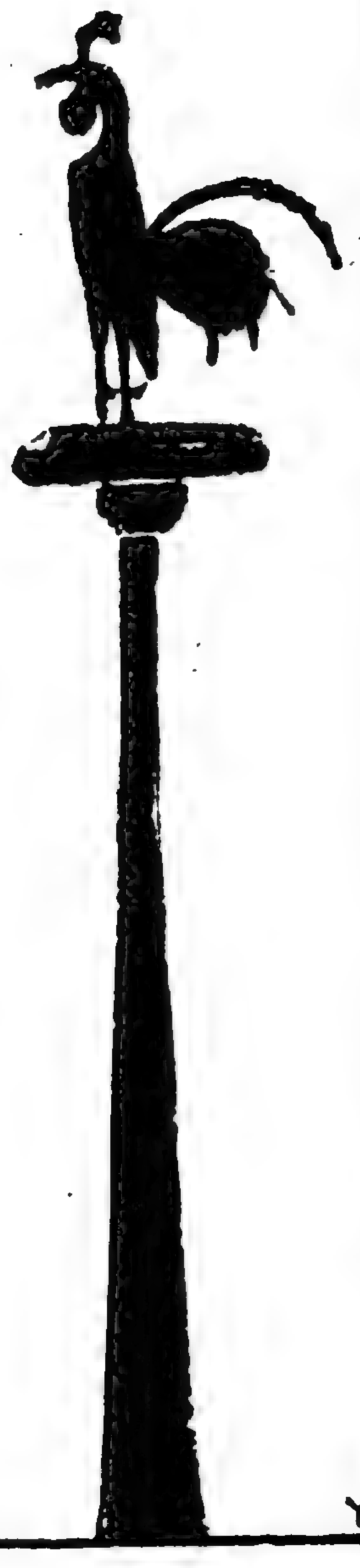
吾等の論旨は右に就て其の一斑を盡した。疎枝大葉を描きて未だ其の核心に徹せざる憾みなしとせざらんも之を東洋に於ける日本の位置に徵し、之を明治天皇以來の國策に鑑み、更に之を世界の現勢に照らし、又之を露國其の後の變遷に察し、特に日支、日米の關係に考慮して予は日露問題の解決が高等政策中の高等政策たらんことを切念して措かざるものである。區々たる個人の毀譽褒貶問ふに足らず、紛々たる政爭を超越し、一部一局の利害と同一視すべからざる國家の重大問題として識者の攻究を要望して已まないのである。（完）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

アダム・スミスの財政學說

（彼の國債論を讀みて、現時の問題に及ぶ）

堀江歸一



本年六月五日はアダム、スミスが此世に生れ出た時から、滿二百年に相當するので、慶應義塾經濟學部の所屬員は斯人の經濟學の建設並に發展に致した功勞を記念する爲め、當日記念大講演會を義塾大講堂に於て開催し、又記念出版物を刊行する計畫を立て、昨年來準備を致して居ります。私も準備の一端として、近頃久方振りでスミスの國富論第五編財政に關する部分を讀過し、當時の狀況から今日の事情に思を運して、幾多の感懷を持つことを禁ぜられませんでした 本論に述べたのは、其内の國債に關する議論でありまして、租稅に關する議論は七月一日發行の三田學會雜誌に掲載する筈でありますから、本編と共に併讀されることを讀者諸君に願つて置きます。

一、アダム・スミス以前の研究

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

アダム・スミスの時代に先だつて、國家信用又は國債に關する學說なり、政策なりに關して、稍や系統ある研究を試み、後の研究者に刺戟を與へたと認め可き二三の人のあつたことは、本論に於て、私の第一に掲げようと欲する所である。モンテスキューの如きは財政の研究から云へば、必ずしも專門家を以つて許すを得ないが、國債の弊害を指摘し、其國家に禍を及ぼすことの大なるを明にするに就て、假借する所を示さなかつた。更にジェームス・スチユアートや、デヴヰッド・ヒユームの如きに至つては、其れ〲當時に於ける最善の經濟的知識を以つて、國債に非難を加へたのである。

私は今是等兩人の內、千七百五十二年公刊された公共信用論に於けるヒユームの所說を參照して、立論すると、今日を距る百七十一年以前の時代に於て、ヒユームが能く國家信用の本質に就て、正しき理解を持ち、此理解に基いて、國債を不可なりとする議論を築き上げたことを認める。國債の發行は國家が其國民の間に有する信用を利用する一つの形態であつて、而して後世の費用負擔を以つて、現代に利益を收得する效果を生ずる。ヒユームが公債を非難したのは、專ら此點に論據を置いたのであつて、彼は「政治家が後世に向つて、手形を振出す權能を行うことは、恰も浪費を事とする息子に銀行に於けるクレヂツトを與へるの不謹愼なると撰ぶ所を知らない」と斷言した。ヒユームが此斷言を下すに就ては、深く國債の弊害に關する研究を遂げた結果であつて、彼は國債の弊害として、左の如き五個條の事實を擧げたのである。

第一、國債は利子支拂の財源を得る爲めに、地方に課稅し、而して其利子を一國の首府に向つて支拂ふが故に、富と人口とを首府に集中せしめ、首府の商業家をして他の都會に於ける者を凌駕する利益に浴するに至らしめること。

第二、國債は紙上に於ける信用の一種であるから、同一種類の貨幣に伴う總ての不利益を有せざるを得ない。即ち國債は一國の商業から、金銀を消失せしめ、斯くて總ての食料品並に勞働の價格をして高からしめること。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第三、國債利子支拂の爲めに、賦課される租税は勞働の價格を高からしめるか、然らざれば最も貧困なる階級に對して、壓迫を加へるに至ること。

第四、外國人が多額の英國公債を所有する以上は、其結果として英國公衆をして外國人に對する貢納者たらしめ、又時に英國人並に英國產業をして外國に移出せしめること。

第五、國債の大部分は常に國債の收入に衣食する懶惰なる人民の掌裡に存する爲め、國債は無用なる、又不活潑なる生活に對して、大なる奬勵を爲さざるを得ない。

右の議論には、今日の財政學的見地から判斷して、幾多非難を加へ可き點を存する、殊に英國が外債を負うた場合に英國から外國に向つて、元利金を支拂うことを不利益であるとし、一方に外債を發行した爲めに生ずる利益を看過した一事の如き、ヒユームの見解の全豹に亙るを得なかつたことを示す次第であつて、吾人の認めて、缺點とする所であるが、兎に角ヒユームは國債を嫌忌する傾向に偏倚することに於て、殆ど餘地あるを示さなかつた。ヒユームの議論は年來の思索にも依るであらうが、同時に當時に於ける公債が七年戰爭以來增加して、國家の信用を害することの甚だしかつた一事に刺戟されたものと認めざるを得ない。現に千七百五十六年から千七百六十三年に至る七年戰爭に於て、英國の支拂した經費は八千二百六十二萬三千磅に上つたが、右の期間に於て公債現在高は七千四百五十七萬五千二十五磅から一億三千二百七十一萬六千四十九磅に增加したのであつて、純增加額は五千八百十四萬一千磅を數へ、右に揭げた軍事費の七割强に當るのである。僅に七年間に公債に約二倍の增加を來し、然も其增加した公債は專ら戰爭に關聯して發行されたものであつて、當時國民が國債の發行に必要とした擔保を直接にも、間接にも備へて居らないとしたならば、此種の公債增發に對して、國民が安んずるを得なかつたことは、必然の事實であつたと考へられるのである。今、國富

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

論の出版に先立つ約百年間を通じて、英國の國債が如何なる狀態に居つたか、戰爭と平和との交互する間に於て如何なる消長を示したか、之を一表の下に掲げれば、左の如くである。（人口、國債、國富の單位は百萬）—

時期	共終了せる年月日	人口	國債	國富	國債の人口頭額（磅 志）	國富の人口頭額（磅 志）	富に對する國債の百分率
革命	一六八八年十一月五日	五、二	一、〇	三二〇	〇 四	六一 〇	、三一
ウヰリヤム三世の戰爭	一六九七年九月二十七日	五、二	一八、四	三二〇	三一 〇	六一 一〇	五、七五
平和	一七〇一年九月二十九日	五、一	一五、三	三二〇	三 〇	六二 六〇	四、七八
アンの戰爭	一七一四年九月二十九日	五、二	四八、七	三七〇	九 七	七一 三〇	一三、一七
平和	一七三九年九月二十九日	五、八	四八、四	四八〇	八 六	八二 六〇	一〇、〇八
西班牙墺地利の戰爭	一七四九年九月二十九日	六、〇	七九、九	五〇〇	一三 五	八二 一六	一五、九九
平和	一七五五年九月二十九日	六、二	七五、四	五〇〇	一二 二	七九 一七	一五、〇九
七年戰爭	一七六六年九月二十九日	六、九	一三三、一	五〇〇	一九 四	七二 三〇	二六、六二

戰爭の爲めに著しく增加した國債は戰後幾年か繼續する平和の時代に於て、多少の整理の行はれる事實を見るが、到底戰前の狀態に復歸することを許されない、戰時中に發行される國債の巨額であるに對して、戰後に整理され、減却される國債の高は甚だ寡小であつて、結局國債の人頭額を四志から十九磅四志に、富に對する國債の百分率を三分の一から二十六、六二の高きに上らしめたに至つては、何人と雖も恐怖の眼を以つて、之を見るの外なかつたこと丶想像されるのである。

二、國債制度の重要となる所以

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯る狀況や、之に對する批評を眼前に控へて、國債問題を取扱ふ場合に、アダム・スミスが國債制度を否認し國債の經濟社會に及ぼす惡しき影響を力說して、警世的教訓を加へるに至ることは、敢て異とするに足らない。然しながら他の方面に於ける議論と同じく、此點に於けるスミスの議論の規模に於て廣大であり、趣旨に於て公正であることは、吾人の感嘆を禁ずる能はざる所である。即ちスミスは國債の近代財政に起り來つた由來を明にし、其原因を（一）非常準備金の依賴するを得ざるに至つたこと、（二）國家財政に非常事變の發生して、已まざること、而して（三）租稅の收入を以つては、斯る非常事變に伴ふ要求に應ずる能はざることの三點に歸した。今スミス自身の言を藉りて、是等の諸點を說明する。即ち曰く

非常準備金を蓄積することは、最早や之を期待するを得ない。而して非常の事變が非常の經費を必要としたときには、君主は臣民に非常の援助を求めなければならぬ。普魯西の新舊王は千六百十年佛蘭西に於てアンリ第四世の死去以來、歐羅巴を通じて、巨額なる非常準備金を蓄積した歐洲大國の君主に當るのであつて、是等以外に斯る人あるを知らない。非常準備金の蓄積を誘ふ鄙吝の念は共和國に於ても、君主國に於ても、之を見ること、稀なりとするに至つた。

平和時代に於て鄙吝の念の缺けたことは戰時に於て、國債の發行を必要のものたらしめることゝ爲つた。戰爭が到來して、一方に國庫には平時の經常費を支持する外に、何等の資金がない、而して戰爭には平時に於けるものに比較して、三四倍の經費を要するとしたならば、如何なる結果を生ずるであらうか。君主にして經費の增加に比例して、收入を即時に增加せしめる方便を持たなければならぬとして、租稅の收入は其賦課されてから、十個月又は十二個月を經過しなければ、國庫に收入を齎すを得ない。斯くて此非常事件に際しては、政府は國債に依賴することを除いて、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

他に賴る可き道を見出すを得ないであらう。

右の如き事情の下に、公債は一のシステムとして、必要を生ずるものであるが、必要と云ふことのみだけでは、必ずしも制度其ものを生ぜしめるを得ない。國債が一國財政に於て、一のシステムと爲るに就ては、同時に種々の條件の存立することを必要とする。今日の財政學者をして之を云はしめれば、其條件として、第一金融市場の成立並に存在、第二國家財政に對する一般國民の信用と云ふことが擧げられる。（拙著財政學第三編第二章第一節參照）而してアダム、スミスは國富論に於て、國債の發生に關し、略ぼ是等二條件の具備されなければならぬことを認め、或る場合には朧氣に、他の場合には正確に之を論じて居る。即ちスミスの說に從へば、社會が商業的に發達したことは、一方に國民に向つて、國債に應募する能力を與へる所以であるとし、進んで商工業者に依つて充される國にして、始めて國民は自己の資本のみならず、廣く他人から預託され、又は他人から借入れた資本を取扱ふのであつて、斯る場合に國民は自己の好む所に隨つて、政府に資本を貸出すことを辭さないとするのである。金融市場の成立並に存在と云ふ言葉がスミスに依つて用ひられて居らないことは、當時の事情に徵して、已むを得ざる所とするが、尙ほ資本の流動の自由と爲つて、始めて國債の應募されると云ふ一事は明にスミスの認める所であつて、其眞意は今日の學者の金融市場云々と異なるものなしとするを得るであらう。而して商工業社會に於て、斯く國債に對する應募の行はれるに就ては、アダム・スミスは種々の條件を必要とすることを考へたのであつて、試に其條件を列擧すれば、

第一、規律ある司法行政の行はれること、

第二、國民が財產所有の安全を得ること、

第三、契約上の信用が法律に依つて、支持されて居ること、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第四、國家の權威は債務支拂の能力ある者に對して、其支拂を强要する爲めに、用ひられるものと考へられることの四個條である。然らば是等は一言にして云へば、國家財政に對する國民の信用の依つて、生ずる源泉と爲るのであつて、上記の諸條件は一方に國民の貯蓄を促進しつゝ、他の一方に於ては、斯く促進された貯蓄金をして國民の國債に對する應募資金たらしめる次第となる。アダム、スミスが十八世紀の後年に於て、此事を力說したのは、後に論ずるが如く、當時の國債事情に刺戟された結果であるに相違ないが、今日の財政家にして現在國家財政に對する國民の信用が果して確實に備へられて居るかどうか、將た又今日の國家は國民をして國家財政殊に國債に對して充分の信用を拂はしめるだけの施設を講じて居るかを考へたならば、如何なる結論に達するであらうか。如何なる國と雖も、一年の戰爭は戰前十年又は二十年、否時に數十年に亘つて行はれた公債整理の功業を埋沒せしめるの常であつて、而して今日の如く大規模の戰爭が時々國際間に行はれ、一方に或る期間を通じて國際間に平和を維持することの困難極めて大であるとすれば、國債は多く發行されて、償還されること、概して少ない。其結果として現出するものは國債市價の低落であつて、國債發行高の過剩であることゝ、現に市場に流動しつゝある國債よりも、高利率又は高利廻りの國債發行されて、市場に於て前者を壓迫することゝに依つて、斯る事實を生ずるのであるが、此場合に國家は特別の施設に依つて、國債所有者を保護するであらうか。將た又永き經濟上の經過から考へると、貨幣の價値は相次ひで低落することを免かれない。此場合に國家は如何なる施設を以つて國債所有者の利益を保障するであらうか。後者の場合に就ては、新に國債を購入し、又は之に應募しようとする者の將來の貨幣價値に對する推定を基礎として、其價値の低落の見込まれた際には、之に應じて、國家をして國債の利廻りを高き標準に置かしめる、之を其處に置かなかつたときには、國債に應募しないと云ふ態度に待つの外なき次第であるが、前者の場合に關しては、最近の歐洲戰爭に於て、英國なり、北米合衆國なりの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

採用した國債應募の方法に依つて、國債を現在所有する者の利益を保護する實例を見た。即ち甞に低利を以つて發行された國債をして後日高利を以つて發行される國債の拂込に代用せしめ、國債の高利借換を行ふに至つたのは、國債の逐次發行されるに當つて、現在の所有者の利益を保護する最も有效なる手段と爲り、國債に公正の觀念を及ぼしたものと見られる。アダム・スミスの所說を推窮すれば、此位の施設の行はれ可きは勿論であるのに、スミスの所說の世に出でゝ、百四十餘年の後に至つて、國債所有者の爲めに、公正を重んずる原則の始めて實際に用ひられたことは、一奇とす可きである。

三、國債制度に對する疑懼

アダム・スミスの國債に關する分類は甚だ簡單なるものである。當時に於ては國債の擔保付であるか、又は無擔保であるかゞ、重要なる分類の一ッであつて、スミスは無擔保國債即ち Unfunded Debt を起す力の乏しく爲つた場合に、國家は已むを得ず、擔保付公債 Funded Debt を起すものであるとし、又國家が單に支拂の方便として發行する證書の如きは、無利子であるとし、財源調達の必要に基いて發行される場合には、利付であることを要し、又將來必ず徵收され可き租稅收入を其徵收期よりも早く利用する爲めに、國債の發行され得ることを說明した。斯る分類を設けた後に、スミスの議論は將來國債元利金の支拂はれる資金を超過して、國債の發行される場合に生ずる弊害と減債基金制度との問題に及ぶのである。何故にスミスは第一の問題を提出したかと云へば、國債が如何なる形態に於て發行されるを問はず、元利金支拂の元本と爲るものは、租稅の收入でなければならぬ。斯くて國家が國債を發行する場合に、其期限を短期にし、短期日後に收納される租稅の收入を以つて、之を償還し、又其間に於ける利子を支拂ふ方法に出でたならば、所謂 Funded D.bt として、將來の收入を見越して、元利金支拂の財源とする實を現はすを得る次第であるか、アダ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ムスミスは此點に於て大なる憂慮を懷いたのであつて、以前短期間を限つて、國債元利金の支拂に豫定された租税の大部分が斯る頻繁なる豫想の下に屢次發行された公債の元金ばかりに止まらず、利子を支拂ふ永久の財源に充てられるに至ることを恐れた。隨つてスミスは此憂慮に基いて、當時の國債政策に痛切なる批評を下さゞるを得ざるに至つた。即ち曰く

國債が將來發生する收入に對する豫想に據るの外、發行せられないものとすれば、兩三年の經過を以つてして、國庫收入に餘裕を生ぜしめるであらうし、又斯る餘裕を生ぜしめるに就ては、單に政府が一定の限度内に於て、其支拂に堪へ得るよりも、多くの債務を負はないこと、最初の豫想に基く債務の償還されない間に、第二の豫想を爲さゞることとに注意すれば足れりとするのである。然るに歐洲諸國政府の多數は是等の注意に就て、全然無能力であつて、最初の豫想を以つて、將來の財源に過重の負擔を加へ、更に其負擔の除却されない間に、第二第三の豫想を試みることを常とする。斯くの如くして財源は之を豫想して起された國債の元利金を支拂ふに不充分と爲り、利子のみを支拂ふことゝするか、又は利子支拂の爲めに、永期年金を設けることゝするか、孰れにしても不謹愼なる豫想を爲し、結局永久的債務を負ふと云ふ壞敗的效果を生ぜざるを得ない。

國債殊に永久的國債の不可なることの斯の如くであるとすれば、何故に國家は戰時非常の財源として、租税を以つて國債に代らしむるを得ないのであらうか。英國に於て戰時財政を支持する收入として、國債と租税との孰れに依頼することを可なりとするやと云ふ問題は英國に於て餘程以前から多くの學者に依つて、取扱はれたが、彼等の間に大なる感興を惹くに至つたのは、對佛戰爭並に之に基く國債增加の事實あつた爲めであつて、シンクレーヤの如きは、稍や國債

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を是認する傾向を持つたが、ハミルトン・リカードーは國債を否認し、而してチャルマースは至つて、國債否認の絶頂に議論の達するのを見たのである。即ちハミルトンは「戰爭の期間と平和の期間とを、又軍事費の歲計額と平和時代に於ける貯蓄額とを比較して、其結果を斷定すれば、戰時に於て、之に次ぐ平和時代に償還されるよりも、多くの公債が發行されることは、明白の事實であつて其結果は國債の永久的增加となり、歸着する所、國債をして國民の負擔に堪へざる數量に達せしめる」と云ひ、リカードーは第一不謹愼なる經費は國民の過重なる租稅に對する嫌惡に依つて制限されること、第二國債は通例資本を蠶食するに反し、租稅は收入に負擔を歸せしめることの二點を根據として、國債に反對し、續いてチャルマースは國債の勞働市場に不利なる影響を及ぼす事實に基いて、國債に非難を加へた。即ちチャルマースは「國債の發行に就て、如何なる方法の採用されるを問はず、其全體の金額は必ず或る定まつた期間內に收納されなければならないが、租稅に於ては、其負擔は社會全體の收入に及ぶ。斯くて國債は勞働者の報酬に供される流動資本の一部を蠶食し、其必然の結果として、勞働報酬を低下し、資本家に利益を與へるに止まるとした。斯る國債否定の議論に幾何の眞理が含まれて居るかは、姑く措き、其以後英國が戰時財政に處して、如何なる方針を持したかと云ふにクリミヤ戰爭に於ては、國債に依賴するよりも寧ろ多く租稅に依賴した事實の明なるものがあり、南阿戰爭に於ては、當時の政界に於ける政府の基礎の餘りに鞏固なるを得なかつた爲めか、多く國債に依賴して、一時の財政難を彌縫したが、歐洲戰爭に於ては、英國が租稅の收入に依つて、戰時財政を支持した程度は遙に他の諸國を凌駕したのである。然らばハミルトン、リカードー、チャルマース等の議論は冥々の間に英國民の財政思想を支配し、二十世紀の今日に於て尙ほ英國をして國債政策の弊害を認める結果、財政策に租稅偏倚の傾向を帶ばしめたるものと認めなければならぬ。然しながらハミルトン以下の議論を左右したものとしては、事實上の資料に於て、對佛戰時幷に戰後に於ける英國々債の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

亂雜なる、狀態を擧げなければならないが、學說上の指導に於て、アダム・スミスの勢力の與つて大であつたことを閑却するを得ない。

四、戰時財源としての國債對租稅

即ちアダム・スミスは戰時財源としての國債對租稅の優劣問題に就ては、其時代を超越する明瞭なる態度を以つて、租稅の可なることを斷定したのである。即ち曰く

近代政府の經常費は平和時代に於ては、經常收入に略ぼ相當する爲め、一朝戰爭に際會したならば、政府は經費の增加に比例して、收入を增加することを好まないし、又增加せしめるを得ない。何故增加することを好まないかと云へば、急劇過大なる租稅の增徵に依つて、現に戰爭を嫌惡する國民の反抗を招くからであり、又何故增加せしめるを得ないかと云へば、如何なる租稅を以つてすれば、其必要とする收入を得るに充分であるかを知らないからである。隨つて國債に依賴することは、政府をして斯る恐怖と無能との齎す混亂を免かれしめる。故は國債發行に加ふるに、租稅の適度なる徵收を以つてしたならば、政府をして戰爭を遂行するに必要なる收入を收めるに難からしめないであらう。然しながら平和の克復は直に戰時に賦課された租稅の減廢を許すものではない。若しも此租稅の收入を以つて國債の利子を支拂つて、其上に剩餘があれば、之を減債基金に編入して、元金の償還に充へるを得る道理であるが、然しながら第一此減債基金は之を他の目的に供用しないとしても、平和の繼續すると想像される期間に於て、戰時に發行された國債の全部を償還し盡すには、不充分であり、第二に此基金は常に他の目的に供用される虞れの頗る多きことを免かれない。

右の敍述を前提として、アダム・スミスは千六百九十七年から千七百七十五年に於ける約八十年間に於て、英國の國債

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が平時に於ける少許の減額よりも大なる程度に於て、増發され、減債基金の效力亦不充分であつて、毫も減債の實質を擧ぐるに至らなかつたことを明にするに勉め、減債の行はれず、随つて國債山積して、其財政に及ぼす負擔は遂に國家の支拂能力を超越するに至ることを理由とし、戰時財源に國債を利用することを制限しなければならぬ議論に進み、英國の實際財政家をして後年に至るまで、戰時財源に充つる爲めに、國債よりも租税を重んぜしめる政策の基礎を築いたのである。然しながらアダム・スミスが此基礎を築くに就ては、單に國債増嵩の危險を憂惧したことが單純の原因と爲つたのではなく、國債の發行と租税の徴收とが夫れ〲金融市場なり、資本の供給なりに及ぼす影響の相違に顧みた爲めであることが擧げられる。即ちスミスの意見を以つてすれば、「國家の經費が國債の收入に依つて支辨される場合には、自然其國に以前存在した資本の破壞を生ぜざるを得ない。而して以前生産勞働者の支持に供されて居つた年々の收益は不生産勞働者の支持に轉ぜしめられざるを得ない」と云ふのであつて、此點に於ては正しくチャルマースミル等の議論に對する先驅を爲したものと認めるを得るし、此外に租税を戰時財源とするの利益として、（一）租税を戰時財源に充てれば、戰爭の終息と共に租税の廢止される結果國民の貯蓄心は必ず刺戟される（二）國民は戰時租税の負擔の重きを感じて、自然戰爭を嫌忌するに至るであらうし、政府も亦租税に對して、國民の反對の起ることを懸念し、必要なる範圍を超へて、濫に戰爭を永引かせない點に注意し、又は戰ふ可き眞實の利害關係の存しない場合に、之を敢てしないこととの二點を擧げた。流石にアダム・スミスは戰前に於ける國債の利用が如何に信用の膨脹を惹起して、社會に害毒を流布するに至るかの問題に就ては何事をも述べて居らない。是れは當時の時勢に於て、已むを得なかつた所に屬するが、スミスが此以外の方面に於て、國債の弊害に就て考へた所は現代の學者の意見と符節を合すの觀ありとせられる。現代の學説に據れば、國債に依る戰時財政と租税に依る戰時財政との間に於て、最も著しき相違點は「後者は單一なる課税

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であつて、其以後に何ものをも遺さないが、前者は資本徵課金の强固なる救濟が行はれない限り、國債の利子を支拂ひ減基金を維持する爲めに、長き期間に亙る租税の繼續を必要とする。是等の租税收入は國內に於ける軍事公債の所有者に支拂はれるのであるから、單に國內間に於ける購買力の移轉に止まり、眞實の富源を消費し了するものでない。然し租税は直接に現出せんとする眞實の所得の分量を減ずるであらう。蓋し斯る租税の賦課が豫想される以上は、其繼續する限り、或る程度に於て、產業幷に貯蓄に對する妨碍たらされば已まない。即ち戰時に於て、巨額の公債を發行し、又其收入を費消することは其直接幷に間接の結果を考へると、著しき酷烈なる勢を以つて、將來を打つものである」と云ふ點に存する。(A. C. Pigou-The Plitical Economy of War-ch.VIII) アダム・スミス亦嘗に此事を道破したものに外ならないのである。

五、國債の累加する結果

然らば國債が或る程度まで、累積したならば、如何なる結果を生ずるかと云ふに、公正に又完全に其償還し了せられる事例は甚だ稀れである。而して結局國家收入を國債の負擔から釋放するには、國家破產を以つてするの外はない。然らば眞實の國家破產は如何に假裝された形態に於て、行はれるかと云へば、アダム・スミスは國家自ら貨幣を惡質のものにし、從來の貨幣に對して、其名目價値を引上げる手段を以つて、之に當るものとし、斯る方法に依つて、國家自ら負擔を減却せんとするの愚を指摘し、假令ひ國家の負擔は價値の低減された貨幣を以つて、國債を償還することに依つて輕減される所ありとしても、國家に對する債權者以外の一般債權者にまでも、債權の價値低落に伴う損失を負はしめるの弊害を顧みなければならない。随つて英國の國債を償還するとか、又は之を減却するとか云ふ方法を案ずる場合には國家收入の一部分を自由に釋放することが必要であり、而して之を釋放するに就ては、國家收入を著しく增加する一方

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に、國家經費に著しき削減を施す外に、道あるを知らない。是れがアダム・スミスの國債整理に對する意見の要領であつて、彼の國債に關する研究の總括を以つて、見るを得るのである。アダム・スミスが國富論を著はした年に先だつ四年既にドクトル、プライスは減債基金論を主張する爲めに「國債問題に就て公衆に訴ふ」と題する冊子を公にして、世間に大なる感動を及ぼしたし、又千七百二十六年公にされたサー、ナザニエール、グールドの著はした英國々債論は實に後日プライスの主張した意見の發端と爲つたものであつて、是れ亦世論に大なる刺戟を與へた次第であるのに、スミスが毫も是等の假說に依つて、何等の影響を蒙らず、國債償還の財源は一に租稅の增徵に依つて生ずる國庫の剩餘に之を仰がしめなければならぬと論じたのは、吾人の注目に値する所である。若し其れアダム・スミス時代に貨幣の品質を劣惡にし、其名目價値を引上げることに依つて、國債の負擔を減却し、又其償還を容易ならしめようとするのは、恰も今日歐州諸國が一方に巨額の國債を負ひつゝある現狀に顧み、通貨の價値を高めて、國債の償還に大なる負擔を感ずることを虞れ、之を一の理由として、通貨の整理に步を進めるに就て、躊躇すると、同一の趣なきを得ない。スミスが斯る一種の方便論を排斥して、飽くまでも正則の方法を以つて進まんとする所に、彼の特色を見出すのである。

アダム・スミスが租稅收入を增加する種々の計畫を考量したる後、尙ほ收入の增加されなかつた場合には、英國は宜しく殖民地に關する費用を削減することに依つて、經費の節約を期す可しと論じたのは、殖民地放棄論に依つて、殖民地を脅かし、以つて本國の爲めに租稅の負擔に當ることを辭せさらしめる考に出でたものであるか、國債增加の影響に深き恐怖を懷き、國債を減却する爲めには、殖民地の放棄亦顧みるに足らずと云ふ考を懷いた爲めであるか、殖民地の本國の羈絆を脫せんとする感情の旺盛なる際、殊更に殖民地に租稅の負擔を及ぼして、本國殖民地間の關係を濃密ならしめんとしたものであらうか、スミスの云ふ所、簡單にして、其意の存する所を明にするを得ないことを遺憾とする。何れ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にしてもスミスが時代の趨勢を看取して、國債に反感を持つたことは、之を是認しなければならぬ。然も之に反感を持つの餘り、是が非でも國債を減却するに就て、努力しなければならぬ、如何なる非經濟的政策も亦採用しなければならぬと云ふが如き極端に趨らず、常に公正なる政策の下に居らうとしたことは、他の諸方面に於けるスミスの議論と同一の特色を示したものであつて、吾人の特に稱揚す可き所に屬する。今や歐洲戰爭を承け、各國共に國債增發され、國家の信用の紊亂したこと、スミス時代に比して讓る所あるを知らない。固より今日に於ても種々の奇説僻論あつて、世を誤まらうとする傾きもあるが、經濟學の進歩の致す所、幾多のアダム・スミスあつて、健全なる思想の下に、正しき學説の樹立に力めつゝあることは、吾人の大慶とする所である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

階級文化と共産文化

室伏高信

一

政治革命は革命ではない。それは嘗つては革命であつたであらう。今日においては革命ではない。今日の革命家の根本的な誤謬は政治革命を革命だと思つてゐることである。そはブルヂョアの所産ではないか。ブルヂョアとともに始まつてブルヂョアとともに終るべきである。ダントンからレニンまで一切の政治革命は一つの例外もなしにブルヂョアである。それゆえにそは革命ではなくて反革命なのである。ブルヂョア・イデイオロギイから完全に脱却せよ。そしてブルヂョア・イデイオロギイと完全に對峙せよ。今日の危險はブルヂョア階級がブルヂョアであることではない。プロレタリヤ階級が尙ほブルヂョア・イデイオロギイから脱却することのできない點である。亡びゆくものをして亡びゆかしめよ。興らんとするものをして死産たらしめること勿れ。世界は無前の巨大な建てなほしの秋に立ちながらその建てなほしのあまりに巨大なのに自ら恐れてはならない。今日は人類にとつて無前の機會である。恐怖は偉大なるものへの恐怖でなければならない。その恐怖は喜びである。そこに光がある。神が世界を創つてから四日目にして太陽や月や星ができたにしても「はじめに光ありき。」人間は長い間その光を見失つてゐた。光の喪失はブルヂョア時代に至つて窮極に達したのである。今日は人類にとつて無前の機會であると私はいふた。光を回復せよ。

文明は影である。事物ではなくして事物の影である。カアライルの「チヤアチズム」は私にとつてはしば〳〵大きな暗示である。彼はベンタム派を罵つてそれは一つの影だと云ふた。更に東風のように空虛だと云ふた。ベンタム主義はブルヂョアの原理であるごとくにまた文明の原理である。正しくいへば原理

喪失である。資本主義も社會主義もそれが文明であるかぎりにおいてベンタム以外の何ものでもない。ロシヤの恐怖主義を野蠻だと云ふこと勿れ。恐怖主義は文明の傳統である。マラア、ダントン、ロベスピイエルからヅチエルチンスキイに至るまで恐怖主義は一貫してブルヂョア政治家の血管に流れてゐるのを見よ。文明は Unurchbarkeit であつて Terrorismus である。無恐怖であつて恐怖主義である。私は反革命家について何ごとも云はない。革命家よ、ベンタム主義から脱却せよ。影の世界から完全に脱却せよ。

われ〳〵はあまりに長く影の世界に住むできた。現實と云ふ美しい言葉の魅惑のもとにわれ〳〵はひたすらに影の世界に彷徨ふてきた。歴史を回顧せよ。影から影へと人間は長い隘路に歩み疲れたではないか。自ら欺くこと勿れ。ルネサンス、宗教改革、佛蘭西革命、人はそれを蘇生と自由だと云ふた。蘇生と自由は人間を最も深い奴隷の地獄へと落としたではないか。近代人は前代の如何なる時代に於いても見ることのできない奴隷にと墜落したことを思へ。私はリンコオンの奴隷解放が奴隷を飢餓にまで導いたことを云ふてゐるのではない。アレキサンダアの農奴解放が農奴を飢餓にまで導いたことを云ふてゐるのではない。更に私はたゞ飢えたるプロレタリヤの群だけを奴隷だと云ふてゐるのではない。財の蓄積においてブルヂョア自由主義は決して失敗の記錄ではない。今日の英國民は前代の如何なる國民よりもより多くの富を積み重ねてゐる。米國もまた勿論それである。世界の如何なる國民も前代の如何なる時代よりも多くの富を積んでゐることはたしかである。若し物質の分配の問題がよく世界を救ふことができるとしたら唯物的社會主義は一日にして世界を救ふことができるかもしれない。何故なら富は積まれてゐるからである。ブルヂョア社會は富の獲得において前代の如何なる時代よりも多能な社會であつた。その富は盗める富であるであらう。盗める富だと云ふよりは盗むことのできる富だと云ふべきである。盗むことのできる富はまた再び盗むことができる。資本主義は富を盗み、社會主義は富の再盗を企てゝゐる。前者は利潤であり後者は收奪である。私はそれを道學者の立場から非難してゐるのではない。盗むことは物乞ひするよりも健全な抗議であるとはオスカア・ワイルドの有名な言葉であつた。しかも富の盗みによつて、若しくは富の再盗によつて世界を救ふことができるであらうか。ミダスは金を求めて金をえた。彼の手の觸れたものは悉く金となつた。しかも彼は天上の音樂を解することができなかつたことを思へ。現代の世界は金を求めて金をえた。現代は ミダス の文明である。ミ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ダスが地上に墮ちて人々は**天上の音樂から遠ざかつたのである**聞えてゐるものは天上の音樂ではない。市井の雜音である。人々は市井の雜音を音樂と名づけ、藝術と名づけ、文化と名づけ、そして音樂から、藝術から、文化から完全に遠ざかつた。人々は文明を自然征服だと云ふてきた。人々は文明の名においてたしかに長い間の自然征服の戰を戰つてきた。その戰は全人類を犧牲にするまでに大規模にして長期の戰であつた。それは文明人の凡てを網羅した組織的なそして絕え間のない戰であつた。アレクサンドル大王が東方征伐の戰に上つた時には軍隊軍屬のほかに學者、詩人、音樂師、俳優、妓、講釋師、奴隸の一群が常に隨從してゐたように、人間の自然征服戰は軍人軍屬のほかに科學者、政黨政治家、官僚政治家、知識階級、詩人、小說家、新聞記者、音樂家、講釋師、教師、俳優、藝娼妓、奴隸の巨大な一群を常に從へてきた。恐るべき大なる犧牲であつた。人々はその自然征服戰のために人類とその文化との一切を惜みなく犧牲としたのである。そこに文明の凱歌を聽かないと云ふのではない。文明が凱歌をあげた瞬間に人々の手に握られてゐたものがただなる影であつたと云ふのである。ブルヂョア人はこのただなる影をしつかりと握りしめてそこに富があり、文化があり、人間があると歩みてきた。人間の自己破壞は完全にまで近くなつた。カラマアゾフ兄弟の言葉をかりていへば西歐羅巴はかくして墓場となつたのである。西歐羅巴が最初に墓場となつてから次いで亞米利加が、また世界が相次いで墓場と化したのである。財と學問とが限りなく積み重ねられて世界は**一つの廣大な墓場と化したのである**。人が自然を征服したのではなくて自然が人に復讐したのである。**文明人の死の姿を見よ**。ブルヂョアもプロレタリヤも、たゞ蒼浪として光なき世界都市の劃一的大建築の間を心に飢えつゝ機械のごとくに歩みゆくのを見よ。外面的秩序が完全にまで近づいて人間がその外面的秩序の一鎖環に過ぎなくなつたことを見よ。そこに何の藝術がありうるか。何の文化がありうるか。アレクサンドル大王に隸屬した文士、俳優、音樂家、白拍子のように、現代の文士、俳優音樂家、畫家の奴隸的なのを見よ。科學的社會主義は Notwendig keit の世界から Reich der Freiheit への跳躍を叫んで立つた。しかも科學的社會主義が科學的であるかぎりそれは必然の世界から一歩も出ることはできない。「自然は跳躍しない」——Die Natur macht keine S. rünge. ——からである。それは機械化の合理化である。ブルヂョアの合理化である。革命ではなくして反革命である。革命と反革命とを峻別せよ。革命をブルヂョア・イデイオロギイから救へ。盜みから救へ。政治

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

運動から救へ。必然の世界から出でゝ自由の大地に跳躍せよ。機械化の魔手を脱して天地創造の神秘に溺れ。

二

プロレタリヤ文化、プロレタリヤ藝術の叫び聲は世界的の運動である。謂ふところのブルヂョア文化の否定、謂ふところのブルヂョア藝術の否定としてはそは既に大きな役割を演じたのである。謂ふところのブルヂョア文化、若くはブルヂョア藝術なるものゝ見苦しい敗北を見よ。そは文化でもなく藝術でもない。文化の本質的なものは宗教と藝術とである。機械化に宗教も藝術もないごとくにそこには何等の本質的な文化もあり能はぬ。宗教は恐怖であるのに對し文明は無恐怖であるからである。藝術は勞働における喜びであるのに對して文明は勞働における苦痛であるからである。科學が一歩、一歩奇蹟を征服したごとくに機械は平凡をもつて藝術のロオマンスを征服した。科學と機械とは奇蹟とロオマンスとの世界を破壞して平凡の勝利を打ちたてた。こゝに宗教はオウピアムとなり藝術家は白拍子と墮したのである。謂ふところのブルヂョアの藝術とは正しく白拍子藝術である。學者は宦官であり藝術家は白拍子である。プロレタリヤ文化とプロレタリヤ藝術とは亂れたる糸を整へて新らしい文化と藝術とをこの地上に創造すべく立つた。こゝに彼の無前の野心が横たはる。私は現代が宗教と藝術との時代でないことを主張すると同じ心をもつて來らんとする時代が文化の時代でなければならないと主張するものなのである。謂ふところのプロレタリヤ文化、若しくはプロレタリヤ藝術はこの偉大なる使命に堪へるであらうか。私はそれが否定の職分において、既に大きな役割を演じたと云ふた。ブルヂョア文化若くはブルヂョア藝術なるものゝ色の褪せたのを見よ。そはブルヂョアの社會制度のもとにおいても最早や判きの日の遠からぬことを思ふであらう。やがて文化と藝術の名において怪異なほどに巨大な建てなほしの時がきたるであらう。しかも謂ふところのプロレタリヤ文化、プロレタリヤ藝術なるものがそれに堪へうるであらうか。

プロレットクルトの運動は獨り共產ロシヤの產物ではない。一昨年の基督降誕祭にドレスデンで催うされた「文化日」――Kulturtag――のごときはプロレットクルトの運動にとつての最も紀念すべき出來事の一つである。しかも尙ほ今日のプロレットクルトの運動のうちにあつて最も指導的な精神は科學的唯物的社會主義である。英國のプレブス、米國の勞働者教育協會、ロシヤのスヘルドルフ大學のごときはその最も顯著な例證

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なのである。日本における今日のプロレツトクルト運動もまた正しくその舶來品なのである。科學的唯物的社會主義はプロレツトクルトに價ひするであらうか。自然科學的方法によつて文化の世界を測ることが可能であらうか。辨證法的唯物史觀によつて超自然の世界を證明することができるであらうか。リツカアトの文化哲學が示してゐるように若しも法律、國家、科學、經驗もまた文化客觀でありうるとしたら、文化は正しくマアクスの所謂たゞなる上部構造であらなければならぬ。ブハリンの「歷史的唯物主義の理論」は明らかに文化をしかく觀念してゐることにおいてマアクス主義の代表的論策である。しかも文化は果してたゞなる上部構造でありうるであらうか。ラツサアレはその有名な Offenes Antwortschreiben のうちで選擧權の問題を胃の腑の問題だとなしてゐる。私は選擧權の問題は胃の腑の問題でないと云ふのではない。そはベンタムのイデイオロギイではないか。法律、國家、科學、經驗、そして選擧權、そは疑もなくベンタムのイデイオロギイなのである。そは事物ではなくて事物の影なのである。事物の影こそ唯物的科學的社會主義に應はしい世界であることを私は少しも疑ふものではないのである。しかもそれが文化であるか。來るべき文化とは「東風のごとくに空虛」な文化なのであるか。それは階級文化ではありらう。アリストオトルは階級文化論の先驅者だと云ふことができるであらう。彼は高慢にも勞働と奴隸とを卑しめて曰く、勞働は奴隸のことである。市民は勞働してはならない。閑暇は奴隸に與ゆるべからず主人にのみ許可さるべきである。閑暇こそ藝術と思索との母である。勞働奴隸なくして希臘文明を考へることのできないように賃銀奴隸なくしてブルヂョア文明なるものを考へることはできない。階級社會における文化とは常に一つの階級文化であるといはねばならぬ。しかも階級文化なるものが實在することができるだらうか。そはたゞなるアイロニイとして意味あるものであることはたしかである。そしてそれ以上の如何なる意味をももつべきではない。カアル・プロエガアの言葉でいへば階級と文化とは明らかなる敵對である。階級の存在することは階級の支配することである。階級の支配することは經濟財の支配することのほかの何ものでもあり能はぬ。それゆえに階級文化とは一つの上部構造なのである。上部構造としての文化は文化ではない。文化は Merkmal ではなくして Wesen であるからである。プロレツトクルトが來るべき日の文化であるべきだとしたらそれゆえにそは Merkmal の文化から豐穣なる Wesen の文化へと行かねばならぬ。

プロレタリヤ藝術は一つの階級鬪爭の武器だと云ふの聲を聞

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

く。財の再分配のために藝術を砲彈としようとするのであるのか。奴隷國の建設のために藝術を肉彈として役立たしめようとするのであるか。私は藝術がその効果において階級鬪爭に役立つことが絶無だと云ふのではない。偉大なる藝術は直接に人間に訴へる力である。眠れる心靈を呼び醒ますことは藝術の誇りある威力なのである。しかも藝術が階級鬪爭に役立つことがあるとしたらそは階級鬪爭の具であるからではない。その逆である。手段でなくて目的であるからである。財の分配若くは再分配は手段ではありうる。目的ではあり能はぬ。藝術はそれ自體終局價値である。終局目的である。マエツの言葉を借りていへばそは instrumental value ではなくて final value なのである。如何なることの手段でもない。藝術が手段に墮した時にそは最早や藝術ではない。ブルヂョア時代は機械化の時代である。一切のものがそれ自身目的ではなくて手段である。物自體はたゞなる方法にと沈んだのである。アアトウル・ヤコブスに倣つていふ、樹木、書物、星、着物、材木、石。それ等のものは最早や各々の特性をもたぬ。それゆえにそれ等のものは最早や樹木書物、星、着物、材木、石ではあらぬ。そは多かれ少かれ金と使用價値とのためなる明らかな譬喩である。こゝに事物の世界とわれ〳〵との分離が行はれるのである。それが機械化の根本惡なのである。Mechanisierung は Entseelung であるからである。こゝに現代人の生活喪失を見よ。ブルヂョアもプロレタリヤも、知識人も無識人も、頭腦勞働者も體力勞働者も、皆等しき滅亡法則、等しき害惡、等しき生活喪失のうちに生きてゐる。たゞ法醫學的に生きてゐる。たゞなる虚生―― Scheinleben ――に生きてゐる。事物に、大地に、自然に對する關係なき、ありしものへの内的交渉と來るべきものへの信仰なき生活、有毒にしてけばけばしい裝飾のうちに、虚榮と空虚のうちに、欺僞と自己僞瞞の空氣のうちに、假面にしか過ぎない精神的價値とたゞなる使用寄觀のうちにおける概念生活、それが今日の生活の一切なのだ。再びヤコブスの言葉でいふ、そして自己を陶醉するためにプロレタリヤは活動寫眞と酒場に走り、知識あるものはベエトフエンコンツエルトとアインシタインの講演にと走るのである。その程度に相違はあつても自己陶醉であることにおいては何の異るところもないのである。彼等はカントをベルムホルツを、バツハを、ベエトフエンを、ゲエテを愛すると云ふ。それ等の人々のものに人格的關係が存してゐるからではない。それについて書き、話し、敎へ、演じなければならぬからである。金と使用價値とが舞台の中央に坐して、文化も藝術も既に亡びたのである。文化とは何か。生活の表現であ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。心靈の勝利である。自然の克服である。現代の所謂文化とは何か。酔生夢死の表象である。機械化の勝利である。人間の敗北である。それゆえに現代の所謂文化とは文化ではなくして見せかけ文化である。見せかけ文化の目的は階級合唱である。即ち目的ではなくて手段である。經濟財のためなる合唱である

こゝに文化は、そして藝術もまた意識的若しくは無意識的に階級鬪爭の武器である。階級鬪爭の武器であることがブルヂョア藝術の職分なのである。その不名譽なる職分をプロレタリヤ文化と藝術ともまた受けついでゆかなくてはならないであらうか。そこに如何なる心靈の取戻しがあるか。そこに如何なる創造性の回復がありうるか。プロレタリヤ文化と藝術とが若しも階級鬪爭の武器であるに止まるとしたら、また若しも唯物的社會主義のためなる彈丸に過ぎないとしたらそは文化ではなく藝術ではなく、また如何なる點においてもプロレタリヤではない

デイ・ケイ・シイをしていはしめよ。ボルシエヴヰキは彼等の所謂プロレタリヤ藝術なるものを押しすゝめようとしつゝあるボルシエヴヰキなるものはプロレタリヤではない。そは「就中ブルヂョア」である。都會の猶太知識階級である。嘗つて世界にプロレタリヤ藝術なるものはなかつたと。然りボルシエヴヰキがプロレタリヤでないごとくに謂ふところのプロレツトクルト、プロレツトクンストなるものも都會的唯物的政治的社會主義の武器であるかぎりにおいて明らかなる「就中ブルヂョア」である。猶太的知識階級の表徴である。抗議ではなくて摸倣である。革命ではなくて反革命なのである。政黨運動であつて文化運動ではないのである。

三

猶太的知識階級から脱却せよ。痲痺した生命を回復せよ。鎖ざされたる心靈の扉を開け。今日のプロレタリヤの根本害惡は賃銀欠乏ではなくて文化欠乏である。財的欠乏ではなくて人間欠乏である。プロレタリヤもブルヂョアも現代の根本害惡は心靈喪失である。生活の本質喪失である。Menschennot である。おしなべての Kulturnot である。何ものの痴漢か猶太的知識階級を崇拜する。何ものの愚かが機械化のうへに機械化を積み重ねようとはするか。文化の名によつて文化欠乏を合理化すること勿れ。藝術の名によつて藝術喪失の積み重ねを加へること勿れ。更にプロレタリヤの名によつて、プロレタリヤを猶太化することを止めよ。プロレタリヤの愛は政權喪失にあるのではない。生活における喜びの喪失である。生活における喜びの喪失は事物と勞働者との分離からくる。事物と勞働者との分

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

離から勞働の苦痛が生れるのである。アダム・スミスは分業の福音を說いたことにおいて最も有名である。彼は分業から幸福が生まれるであらうと云ふた。分業の福音は神の福音ではなくて惡魔の福音であつた。機械工業は勞働における享樂と生命とを殘りなく奪ひとつた。徒に勞働の神聖を口にするものは最早やその跡を絕つたであらう。勞働は今日は正しく苦痛である。墮落である。不名譽である。ウヰリアム・モリスは藝術をもつて勞働における喜びの表現――Art is man's expression of his joy in labour――だと云ふた。勞働における喜びの喪失とともに藝術は終りを告げたのである。藝術の回復はそれゆえに勞働における喜びの回復でなければならぬ。私は勞働における喜びの回復のために政治運動が全然無用だと云つてゐるのではない。政治運動は破壞であつて建設ではないと云ふのである。模倣ではあつても創造ではないと云ふのである。政治運動から嘗て新らしいものが生れたことがないように、來るべき日もまた政治運動から生れることは不可能である。文化と、そして藝術を政治運動以外に見ることのできない人は絕望的のブルヂョアである。未來の如何なる片影と雖も彼等の手によつて造り出されることはできない。騷々しい政治屋運動の崇拜者は文化を語る勿れ。文化に藝術に政談演說は無用である。共產黨の政談演說をプロレツトクルトと云ひ、若しくはプロレタリヤ藝術と云ふならばそは文化とも藝術ともプロレタリヤとも何のかゝりもあらぬ。外面生活が內面生活を獨裁することを機械化といふのである。外面生活の獨裁を破壞して人間の尊嚴に還れ。政談演說をやめて心靜に自己を凝視せよ。中央集權が藝術の母であるならばアウグスッスの墓のうへに藝術の果實が熟したであらう！ 心靈が死滅してどこに藝術がありうるか。心靈の取りもどしがなくて創造性の回復がありうるかを思へ。中央集權は如何なる文化の母でもなくてその墓なのである。グスタアブ・ヴヰンケンのプロレタリヤ文化論を讀む。中央集權はあらゆる眞實なる文化の死滅――der Tod aller wahren Kultur――であると。彼若し穀物を食べなば生き、ナイトシエイドを食べなば死ぬであらう。若し彼が善美なる物を創造するならそれ等の物は彼を再創造するであらう。また若しも彼が惡醜なる物を製造したならそは彼を殺すであらう。私はミユネラ・パルベリスの一節を引いたのである。藝術上の政黨運動は藝術のナイトシエイドのほかの何ものでもあらぬ。破壞から創造に行け。影から本質にと進め。ブルヂョアの殘肴に舌皷を打つことを止めよ。ブルヂョア・イデイオロギイの一切を土とともに葬れ。そこに自由と復活との日が來らんとして彼を待つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てゐるではないか。再創造がそこにつゞく。

四

概念のうへに文化を築くことはできない。藝術は如何なる巧妙なる概念建築でもあらぬ。藝術は概念的に理解するのではなくて直觀的に把握するのである。藝術は如何なる美學の所產でもなく如何なる心理學の所產でもない。ドストエフスキイは心理學の研究によつてカラマアゾフ兄弟を描き出したのではない直觀によつて人間性をその最奧に捕へたのである。科學の基礎は數學と概念とである。それは Homogeneität の組織であつて Heterogeneität の排斥である。從つて數と量の世界である。質の世界ではない。平凡の連續であつて怪異なるものの驅逐である。人々は計量器のように計へ、量り、組みたてねば止まぬ。概念建築が完成に近づいて驚きは失はれる。プロタアゴラス以來の實證主義が勝ち誇つて人間の內面生活をも實證し盡くさなければ止むまひとしつゝある。ソオクラテスは知識を崇拜した。知識こそ幸福の母であるとなした。ブルヂョア人は前代の如何なる時代にも百倍し千倍する知識の富をあらゆる方面に積み重ねた。學校は世界の到るところに建てられ、樹木は紙となり、紙は書物となり、書物の山は市にうづ高く積みあげられてゐる。そこに安寧がきたのであらうか。そこに天上の音樂が聽かれるであらうか。知識崇拜を止めよ。知識は心靈の簒奪者である。小さかしき智者が市に滿ちて人間の心に餓えつゝあるを見よ。近代人の蒼白にして神經のいらだつてゐる姿を見よ。就中知識階級と稱する一團の都會人が懷疑し批評し、信仰と、喜びと從つて力なくして朝に夕に浪々として街頭を行く姿の淺ましさを見よ。人間の前途の幾何なるかを見よ。國家や門閥の前途でなく、人間の前途の幾何なるかを思へ。醫術衞生の發達は人間の生命をも幾分か長くしたのかも知れない。電氣工學の發達は夜を晝にし世界を一つの鎖にと繋いだであらう。しかも自然科學の發達が人間に本質的な何ものをもたらしたのであるか。犬養毅氏の言葉のうちに共鳴を感じえたのは、私にとつてはたゞ一度である。彼は彼の三十有餘年の議會生活を回顧して、今日の代議士は往年のそれに比べて知識において優り人物において劣ると云ふた。量が加はつて質が下つたのである。獨り議會だけではない。教育家は就學兒童の比率が高まつて世は美しくなれりと思つてゐる。僧侶は伯爵となり管長となることをもつて宗敎家の名譽はこゝに盡きたりとなしてゐる。自然科學の網は地引網よりも密であることは勿論である。地引網は尙ほ小魚を逸するであらう。數學と概念の網はあらゆる人類を一網打盡にし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なければ止まないのである。仰いで天に輝く星を見よ。燦爛たる星の光も文明人にとつては神秘ではなくて星學の對象である。俯して大地の永へに靜に横はるのを見よ。それは何の喜びでもなくてたゞなる所有權の客體である。知識の積み重ねはかくして怪異なる者、神秘なる者を宇宙から除きとつて人間を天と地とから引き離した。ゲエテの言葉でいへば詩人が近くにもたらしたものを彼等は「分つて」遠くへ追ひやつたのである。文明は天と地とをそして人間それ自身さへも「分つて」遠くへ追ひやつたのである。文明の孤獨！　科學の勝利は心靈の敗北である。概念の勝利は人間の敗北である。文明の勝利はかくして文化の荒廢である。また從つて宗教と藝術との無慘なる敗北である。

精神と心靈とを區別せよ。精神は知性の下層形體を支配する。知性は entgeisteter Geist である。そこに心靈の死滅がある。心靈は機械工業と、商業主義と、若しくは權力萬能主義と一致することはできない。中世は神を恐れ、古代は人道を求めた。近代の世界は知性崇拜である。Intellektualisierung の世界なのである。一切の生活が知性化されて生活喪失が横たはるのを見よ。生活！　生活を回復せよ。生活はたゞなる生活ではない。生活は人間の現實在である。愛する行である。エロスである。心靈の自己創造的活動である。神と惡魔との間に活動する衝動である。そこに無限の鬪爭がある。そこに無限の創造がある。それは精神の如何なる建築でもない。精神の機械化からの脱却である。心靈の自由なる解放である。そこに、そしてそこにのみ文化のたゞ一つの道がある。

文化へ、從つて藝術への道は知性化と概念建築の如何なる巧妙さによつても購ふことはできない。われ〳〵は心靈の簒奪者を再び簒奪しなくてはならぬ。心靈の簒奪者を再簒奪して心靈の自己創造的活動へと向かなくてはならぬ。想像の世界を回復せよ。知性の小ざかしき魔手から脱して自由なる想像の世界に出でよ。カントのなしたるごとくに世界を人間意識のうちにとりいれようとするものは物自體を不可解の彼方へと追ひやるよりほかはない。そこにわれ〳〵は意識的主觀の限界を見なくてはならぬ。藝術の世界はかくのごとき「現象」の世界ではない。そはかくのごとき限界を突破して宇宙創造の神秘にと參加することではなくてはならぬ。そはたとへ果て知らぬ遠い道ではあるにしても、その果て知らぬ遠い道にこそ文化と從つて藝術の無限大に自由なる世界が開かれてゐるではないか。文化と、そして藝術とを語るものは意識的主觀の牢獄を突破して果てしなき直觀世界の深みへと旅してゆかねばならぬ。ディルタイがその名著——Das Erlebnis und die Dichtung——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のうちで喝破したごとくに詩の對象は認識精神におけるごとき對象ではあらぬ。認識精神は白日意識である。白日意識から潜在意識へ行けば行くほど藝術の世界が開ける。白日意識の世界は悪魔世界との直接なる結びつきである。夜は睡眠である。睡眠は夢の半兄弟である。夢は想像の双生兒である。夜の世界がより多く神への接近であることは、夜が睡眠であり、夢であり、潜在意識であり、そして想像の世界であるからである。想像の自在なる世界に出でよ。知性の小さかしき論理から本質的な如何なる藝術も生れることはできない。騒々しい政黨者流の唯物的政黨運動から文化が生れ出るもののごとくに欺くことを止めよ。想像の泉こそあらゆる文化の母である。大膽に率直に想像に最も高き價を與へよ。文化と從つて藝術の名において語る人は彼の最高の價を想像に與へなくてはならぬ。

Welcher Unsterblichen
Soll der höchste Preis sein?
Mit niemand streit' ich,
Aber ich geb' ihn
Der ewig beweglichen
Immer neuen,
Seltsamen Tochter Iovis,
Seinem Schosskinde
Der Phantasie.
——Geothe.——

五

想像の自由は對象の克服にある。對象の支配は材の支配である。對象の克服は人間の勝利である。後期ルネサンスから印象派に至るまでの藝術は材の藝術である。對象の藝術である。ヘンリイ・ルトガアス・マアシャルのいふたごとくに印象の世界において發見されるごとき眞實が彼等の所謂美の觀念であつた。印象の世界は人間ではなくて現象である。心靈ではなくてマテリイである。そこに藝術の無生命がある。そこに近代藝術の墮落が近代社會の機械化とともに横たはるのを見よ。藝術の革命はそれゆえに對象の克服でなければならぬ。對象の克服は表現主義の原理である。Tod der Materie！そこに表現主義の根本原理が存在することを思へ。ハインリッヒ・フオゲラアの言葉でいへば、印象主義は外界への從屬、印象への從屬、不自由、强制、智をとほしての壓制であつたに對し、解放として並に特性の表現としての創造、肯定、愛的行、制作をとほしての獨立が表現主義なのである。心靈の取りもどしである。物質尊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

制の打破である。知性萬能の打破である。ジダウの所謂直接神秘における世界の體驗なのである。機械化の牢獄を打破しての大自然への復歸である。自然を克服して大自然の原力への復歸なのである。エミイル・ゾラの所謂テムペラメントを通じての自然ではなくて Weltseele の把握なのである。即ち現象的自然を克服して物自體への參入なのである。こゝに表現主義の大なる野心がある。その野心は望みがたない野心ではない。そこに意識的主觀の限界が横はるであらう。しかもそは主觀そのものゝ排斥であるものではない。主觀を自然のうちに見るのである。主客の根本的調和である。自然のうちに偉大なる格言——Giosse Maximen ——を見るのである。ゲエテのいふたとほりに自然は何時でも裸體である。裸體であるのはわれ／＼自身が自然の懐中に入つてゐるからである。神的なものがわれ／＼を歡喜せしめるのは神の力がわれ／＼のうちに内在してゐるからだといふのである。こゝに主客觀の根本的調和、シンテエゼの世界が存在する。現象から本質への復歸である。大自然の原力への還元なのである。エロスの原力は律動であつた。繪畫と詩を運ぶ力は律動である。原力の取りもどしこそ、藝術のとりもどしである。表現主義は古くして若い。表現主義が獨逸に現はれたのは一九一〇年以後のことである。その意味においてそはたしかに最も新しい藝術である。しかもそは近代的なる一切のものへの一大抗議であることにおいて、原力への還元であることにおいて、最も古き藝術である。彼等は好んで原人を畫く。マックス・ペッヒシタインが南海の孤島に渡つて文明から遠く隔つた土人の生活を研究したところに表現主義の大膽なる目標を見るべきである。彼等が好んで農民を畫き、宗教畫を畫き、變態心理を畫くところに文明呪咀の大膽なる革命精神を見るべきである。心靈發奔者の再發奔である。生命のとりもどしである。大自然への復歸である。こゝにゲエテの所謂藝術と自然とがたゞ一つである。されぱこそ未來派と立體派とは終末點であり、表現主義は生誕であるといふのである。されぱこそ表現主義は新しい藝術といふよりは藝術そのものゝとりもどし運動でなければならぬ。

六

ゴシックへ歸れ。後期ルネサンスの殘骸を打破してゴシック藝術の原精神を回復せよ。私は後期ルネサンスを打破せよと云ふてゐるのである。教團僧とならんとしたピコ、教會に入つたマアシリオ・フヰキの心はゴシックの精神であるからである。十三世紀から十五世紀の間に全盛の域に達したゴシック藝術こ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そ人間凱旋の最もよき紀念塔の一つではあるまいか。ロオマ的奴隷精神が基督教の信仰によつて打ち破られた時に。人間的價値が經濟的價値のうへに優越の位置を再びした時に、心靈の光が文明の機制を破つて美しくも輝き出でた時に、ゴシック藝術がこの地上に生れ出たのである。それは「ベニスの石」の偉大なる著者が云ふてゐる如くに一つの野生の藝術である。それゆえに自然愛である。精神の機制の打破である。グロウテスクである。浪漫的精神の跳躍である。そこに心靈の勝利がある。そこに對象の克服がある。後期ルネサンス以後の藝術がマテリイの從屬にまで墮してしまつたのに對しゴシックは物質克服の藝術である。ゴシック建築は石を材する。光に奉仕する石である。ルドヴキッヒ・ア・カッピスの Philosophie des Lichtes の一文は私には最も多く暗示的なものゝ一つであつた。彼の言葉でいふ。ゴシックにおいては、石は光の奉仕者である。光は彼にとつては全宇宙の運營者である。凡ての創造史の不可思議なる素材である。一つの石は疑もなく一つの個性を意味する。それ自體一つの完體である。しかもそは一つの靈の表示によつてのみ始めて意味を完うすることができる。表現は光をとほして可能である。神光あれと云ひたまひければ光ありき。光はそれ自身世界運動のエネルギイなのであるのである。それはゴシックにとつては中心の問題である。物質に從屬するのではなく、對象に奴隷するのではなく、物質が光に從屬するのである。光なくしては死せる石である。かくしてゴシックは光と靈との藝術である。かくしてゴシックは萬象創造の神秘に突入して世界心靈とともに律動する偉大なる藝術であり得る。こゝにゴシックと表現主義との一致點を人々は見逃してはならぬ。

しかも私がゴシックへの復歸を說くことはそれがたゞなる心靈の勝利を示してゐるからであるだけではない。ゴシック藝術において見ることのできる他の一つの偉大な特質はそれが個人主義的藝術でなくて共産的藝術であることとである。そは如何なる一人の天才または如何なる一つの階級の所産でもない。言葉の正しき意味においての協同藝術である。ロオマの勞働者は今日の世界において見るごとくに專門家の設計と指揮のもとに機械的に働いた。從つてロオマにおいては石工も家根師も大工も裝飾家もみな彼自身の意志によつて働いたのではない。彼等の活動は機械の補助であつて彼等自身の美的感情の表現ではなかつたのである。これに對して中世紀の Craftsman は如何なる專門家の指揮下で働いたのでもない。彼自身設計家である。彼自身が部分でなくて完體である。クロポトキンの言葉でいへばインテグラルである。彼自身の美的感情を表現する一個の完

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

き藝術家なのである。ゴシックはかくのごとき獨立たる諸藝術家の協同的にして偕調的なる美的勞働の統一的所產である。個人的であることの代りに相互愛である。獨裁的であることの代りに協同的である。奴隷的であることの代りに同僚的である。タソリシチの藝術である。Kameradschaft の藝術である。そこにゴシック藝術の反資本主義的特質を人々は見なくてはならぬ。人々はこゝにゴシック藝術がわれ〳〵の前にきたるべき文化の時代に與へつゝある偉大なる示唆と約束とを見逃してはならぬ。われ〳〵はあらゆる點において獨裁的機械的官僚主義と個人主義的ブルヂョア・イデイオロギイとから脫却しなくてはならぬ。ゴシックの藝術は過去において示したごとくに、また來るべき直前の未來においてわれ〳〵の前に協同精神の偉大さを示してゐるではないか。ウエストミンスタア・アベイを仰ぎ見よ。ストラスブルク大伽藍の雄大なる姿を仰ぎ見よ。大地にしつかりと坐しながら高く天空に聳えてゐる石造が直接にも天なる神、地なる秘密とともに語りつゝあるのを見よ。しかも尙ほその內部における樣々の變化を見よ。そこにラスキンの所謂パライエテイの美しさを味讀せよ。パライエテイの美しさこそ協同主義の大いなる勝利でなくて何んであらう。また更に協同主義の勝利でなくて、何ものの文化が來るべき世界に生存の權利を主張することができるであらうかを思へ。

ゴシック藝術にとつての更に他の一つの偉大な特質はそれが Craft であることである。ラスキンの指摘したごとくに中世紀藝術は Handicraft の所產なのである Craft と Art との分裂はブルヂョア文明の一つの根本的な特質である。機械が Craft を征服したのである。そこに生活の美的喜悅が喪失された。その喪失された美的喜悅の廢墟のうへにブルヂョア藝術が代つたのである。ブルヂョア藝術は最早や生活の喜悅の表現ではあらぬ。生活と藝術との分離である。藝術の職業化である。職業化は貴族化と商品化である。民衆の生活感情から分離したことにおいて貴族主義である。利潤の制約に服することにおいて商品である。そは「精神の貴族」によつて制作され、「富の貴族」によつて鑑賞されるのである。藝術家は自己の生活の喜びを表現するのではなく、鑑賞家は自己の勞働に美的喜悅を思ふてゐるのではない。こゝにブルヂョア藝術はウヰリアム・モリスの所謂 Vicarious life の原理のうへに立つてゐるのである。ゴシック藝術は正しくその逆である。Craft は實生活における有用の美化である。實生活から遊離せる遊蕩美ではなくて實生活における美的表現である。こゝに生活と藝術との一致が成立する。勞働における寄生者の慰藉ではなくて勞働そのものに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おける美の喜悦の表現である。Bauer と User とのためなる生活組織の藝術なのである。即ち勞働と藝術との分離でなくて勞働と藝術との全き一致なのである。從つてその藝術は貴族の藝術ではなくして民衆藝術でありうるのである。 Kameradschaft の藝術はかくしてまた Gemeinschaft の藝術でありうるのである。ウヰリアム・モリスがクラフトを指して「社會的有機的、希望ある進歩的藝術」と云ふたのはこの意味にほかならないのである。こゝに私は來るべき時代の文化にとつての根本的な示唆の一つが與へられてゐるのを見る。

　再びいふゴシックへ歸れ。それは大自然への還元である。協同主義への復歸である。そして勞働と生活との一致である。階級文化ではなくて無階級文化である。文化の職業化ではなくして文化の平等分配である。職業藝術家がブルヂョア生活に謳歌するブルヂョア文化ではなく、また更に他の職業藝術家がプロレタリヤの生活感情をビケイリアスに表現するところの唯物的科學的マアクス主義的プロレタリヤ文化ではなくて勞働と文化との一致である。各人が各人の勞働の享樂を各自に表現するの自由と互助、互愛の協同社會との全き諧調である。否、中世紀の協同藝術が中世紀の協同的社會制度とその精神との産物であつたごとくに協同社會なくて協同文化を將へることはできない。文化とは Volksseele の、表現である。心靈生活の統一的表現である。 Volksseele が押しこめられてゐる社會制度においては、心靈生活が死にまで墮してゐる時代においては、言葉を代へていへば、唯物的機械生活が内的に及外的に人々の生活を支配してゐる間は、如何なる本質的文化も成立することはできないのである。こゝに文化と社會問題との一つの、そしてたゞ一つの本質的關係が存在するのである。文化が物質生活の上部構造だといふのではない。人間を唯物主義の專制から解放し、かくして文化をたゞなる上部構造から救ふて、協同文化の時代を展開しなくてはならないと云ふのであ。階級社會のための階級文化ではなくて協同文化の創造のためなる協同社會の建設である。協同社會のうちなる協同文化、私はそれを共産文化と名づけるのである。階級文化から共産文化へ。階級藝術から共産藝術へ。私はゴシックにおいてそれを見たごとくに來るべき文化において再びそれを見ようとするものであり、且つ見つゝあるものである。

七

　私は中世紀の悠然たる謳歌者であるのではない。中世紀において私は多くの罪悪制度の存在したのを見ないと云ふのではないその罪悪が外部的ではあつても内部的ではないと云ふのであ

ることに中世紀における敬虔の感情と職匠の勞働に於ける自由とが犯されることとなくして存在しえられたのである。それにもかからず私はペンテイとともに中世紀において一つの大きなものが欠けてゐたことを指摘しないではゐられない。農民ギルドの存在しなかつたことがそれである。農民文化の組織の欠けてゐたことがそれである、私はその欠けたものをロシヤ革命において暗示されてゐるかに思ふたしかにロシヤ革命は一つのよき方向を暗示しつゝある。ボルシエヴイキの農民壓迫にもかゝわらず農民の勝利に歸してゐることとである。唯物的科學的都會的中央集權的猶太的マアクス主義は農國ロシヤをも西歐化せんとしてあらゆる努力を費した。しかも農民はロシヤ人の理想である、トルストイやドストエフスキヤやゴルキイはレニンやトロツキイやプレハノフの何人よりも深くロシヤ農民の心を眞實に摑んでゐる。Muscik が再びロシヤの主人となりつゝあるのを見よ。政黨運動的プロレツトクルトの勝利でなくてムシイク文化の勝利こそ革命ロシヤの鬪爭の煙の中に包まれながらもやがて來るべき日の姿を豫言しつゝあるではなからうか。こゝに文化はその言葉の生れた時の姿のごとくに再び眞なる Cultura である。私たちはかくして再びこゝに Culture と agriculture との一致を見ることができるではあるまいか。── Wahre＝Volks＝Lebens＝Erdenkultur の方へ！

新刊紹介

□**哲學概論**（紀平　充譯）キュルペの原著を譯出したものである。（貳圓五拾錢、南風堂書店發行）

□**ロイス宗教哲學**（鈴木暢司譯）ロイスの原作を譯したものである。（貳圓五拾錢、日進堂發行）

□**井上ハンディ英和辭典**（井上十吉著）辭書の著者として定評のある著者が特にポケット用として多大の注意と努力を拂ひしもので印刷鮮明内容豐富現下掌中辭典中の最なるものであらう。（貳圓六十錢、至誠堂發行）

□**佛教研究法**（深浦正文著）佛教の研究方法を說いたもの。（貳圓五十錢、丙午出版社發行）

□**婦人の法律**（片山哲著）婦人に關する法律を明示した書。（二圓五十錢、新生社發行）

□**肉の榮光**（浮田十一譯）伊逸トロッサの作を譯した小說。（壹圓四十錢、大日本圖書發行）

□**民族生存の眞相**（奥田正孝著）近世に於ける民族の世相を說いたものである。（壹圓四拾錢、不二書院發行）

□**見眞大師**（大谷光瑞著）見眞大師の眞面目を描いたものである。（參圓、大乘社發行）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

弱小民族解放論

——社會主義と民族運動——

佐野學

（一）序論——社會主義思想上における民族問題

最近代にいたり資本主義の崩壊行程が甚だ急激となり、顯著となつたことが看取せられる。茲に最近代と云ふのは世界戰爭以後、ロシア革命以後を云ふのである。各國共に資本家階級が社會統制の實力を喪ひ、資本主義社會の秩序を維持することの不可能となつた兆候が歴々としてゐる。資本國家の帝國主義的侵略が露骨になつたことは、その一證である。フランスのルール占領はヴエルサイユ條約を破産せしめた。勞働階級の潮の如き失業狀態は停止する所を知らない。白色テロリズムの暴力團體は至る處に發生して、世界戰爭以前に見られたが如き、社會のブルジョア的秩序を破壞しつゝある。勞働階級の階級意識は益々尖鋭となり、社會主義運動が非常の勢を以て世界的に組織化されつゝある。かくの如く資本主義社會の統制を脅威する種々なる現象が急激に且つ一時に勃興しつゝあるのは、資本主義特にその中心をなす商品生産制度が全く今日の社會生活と抵觸するに至り、不合理のものとなるに至つたことを語るものに他ならない。

この資本主義廢頽期の新しい現象として吾人の眼前に突如として現はれて來たものは、弱小民族の波瀾の如き民族運動である。民族運動は十九世紀以來の宿題であつたが、今、吾人の眼前に波立つてゐる民族運動は多くの新しい特徴と重大な歴史的意義とを備へてゐるのである。十九世紀に於て、西歐諸國には「民族主義」「民族國家」といふが如き政治上の主張が數多くなされた。それはナポレオンの世界帝國建設の政治的計畫に反抗して起つたものであつて、社會的意義よりも政治的意義の濃厚

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なものであつた。然るに最近代の民族運動は極めて之れと異つた數々の特徴を有してゐる。アジアやアフリカ等の弱小民族がこの主なる行動者として起つに至つたことは第一の特徴である諸々の民族運動が社會主義的欲求を蔵したプロレタリア的運動に變つてきたことは第二の特徴である。それは單なる政治的獨立の要求でなくして、自己解放の原理として社會主義的國際社會の建設の要求を包含してゐる。されば最近代の弱小民族間に於ける、民族運動は、資本主義そのものが統禦力を失つたことに乘じて起つたものであると同時に、又資本主義の崩壊と必然的關係を有してゐるものである。民族運動は從來、第二義的なるものとして見捨られてゐた觀があつたが、今後の世界歴史の上に益々重要な意義を帶び來ることは明かであり、社會主義にとつても、民族問題を充分に解決することなくしてその新社會を建設することが出來ないのである。國內のプロレタリアの解放のみによりて社會主義の實現を期することは明かに不可能である。國際的プロレタリア革命は弱小民族間に於けるプロレタリアとの共同的行動に依つて完成せらるべきであり、其結果として一の資本國家內に於ける社會革命はその國の勞働階級の團結とともに、その國の支配する弱小民族間の革命分子と握手しなければ到底その目的を到達し得ないのである。

社會主義思想史上に於ける民族問題は明かに二期を劃してゐると思ふ。第一期とはマルクス及びエンゲルスが社會主義理論の完成に努力した時代を指す。此時代に於て萬國のプロレタリアが階級的に團結すべき大原理が確立せられると同時に、ポーランド、バルカン等の政治的民族運動に對して鋭い批評の矢が放たれたのであつた。

プロレタリアの國際的團結といふ思想は、社會主義的民族運動の動かすべからざる指標の一つである。それはマルクスの階級鬪爭說及び唯物史觀說に基くものであると言つてよい。共產黨宣言を讀んだ人は、資本主義生產制度の發展と共に經濟財の生產、交換、消費が世界的となり、前代の地方的國民的の產業及び市場に代つて國際的產業と世界市場の現はれて來た歷史的過程が、鋭い、生々とした文字によりて述べられてゐることを知つてゐるであらう。ブルジョアジーは世界市場の搾取によりて、あらゆる國々の生產と消費とにコスモポリチックの性質を附與する。產業の國民的地盤が崩壊して、復古主義者の大いなる悲嘆の種となる傳統的な國民的產業は破壊され、尙ほ日々破壊せられつゝある。この形勢に準應し、從つて地方的國民的であつた勞働者の鬪爭が國際的性質を帶びて來た。プロレタリアの運動は近世產業の產物であり從つて近世產業の世界化と共に勞働

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

者の運動も世界的となる。かくて「勞働者は祖國を有せず」「萬國のプロレタリア團結せよ」と云ふ結論が生れてくる。

他方に於て、當時の民族主義運動に對して盛に社會主義的批評を試みたものはエンゲルスであつた。當時、小國の政治的獨立といふ意識と運動とが甚だ盛んであつた。バクニンの如きはバルカン地方のスラヴ人を統一する運動を起してゐた。エルゲンスはこれ等の運動に對して斷乎として其純政治的方面を排斥してゐた。エンゲルスはポーランドの復興を希望してゐたのであるが、それは單なる一個のポーランド國家の成立を意味するものでなく、ポーランド内の四個の民族をしてそれ〲自主的權利を主張し確立せしむることを目的としてゐた。マルクスとエンゲルスとがポーランドの復興を希望したことは、「コンモンウエルス」誌上に於けるエンゲルスの論文や、マルクスとの書翰集に出てゐる兩者の意見に依れば、ポーランドの復興はロシアの勢力とその中歐に及ぼす勢力を弱め、中歐文化の發達を迅速ならしめ、ひいて獨逸の政治にこびり付いてゐる封建的要素を崩壞せしめるものであつた。マルクスが一八六六年に於ける第一インタナショナルの評議員會に提出した陳述書には、「民主的ポーランドの成立は現在の中歐、特に獨逸の狀態に照らして甚だ必要である。獨逸が神聖同盟の前哨たるか若くば共和國フランスの同盟者たるかは、ポーランドの再興如何にかゝつてゐる。この大いなる歐羅巴の問題が解決しなければ、勞働運動は不斷に擾亂せらるゝであらう」と云ふ意味を述べてゐる要するにこの第一期の特徴は、第一にはプロレタリアの國際的團結の原理を明かにし、第二には單なる政治的獨逸を獲得せんとする小國の民族主義運動を批難し、各民族は文化的單位としてのみ重要な意義を有し且つ自決の權利あることを明かにしたのである。しかしその自決は「國民」の自決でなく、「民族」の自決であつたのは言ふまでもない。

社會主義思想史上に於ける民族運動の第二期は最近代である第一期以後にてもカウツキイの「民族心と國際心」オットー、バウエルの「民族問題と社會民主黨」の如き著書がマルクス、エンゲルスの根本思想を說いたが、要するに民族問題は社會主義思想史上に於ける赤熱した問題ではなかつたのである。最近代に於て社會主義思想上に民族問題が重要となり來つたのは、弱小民族の運動が、普遍化し現實化し來つたことに原因する。第一期の思想は勿論第二期の基礎的原理をなすものであるが、この期の特徴は多くの現實的解決案の提與せられてゐることである。今日、社會主義は民族自決、民族同權、民族自治、民族聯合等の原則が民族合一の必然的過程であることを明かにして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゐるのみならず、又戦術上の多くの問題を論じて有力の鍵を與へてゐる。これに就ては後に述べやうと思ふ。

（二） 弱小民族と資本的搾取

民族問題と云ふ言葉は二つの方面を有してゐる。第一は民族が世界文化の單位を構成してゐることや、民族精神がいかなる要素と機能とを具へてゐるか、といふ哲學的社會心理學的方面である。第二は强大なる民族が弱小なる民族を壓迫する結果として後者の解放運動が起ると云ふ社會的政治的方面である。こゝに取扱ふものは後者である。

强大な民族が弱小民族を壓迫する現象は古代史以來、著しい現象である。凡そ民族的壓迫は二個の條件を具へてゐる。經濟的搾取及び政治的支配がそれである。壓迫の根本動機は經濟的搾取であるが、その形式は政治的支配である。民族的壓迫の歴史的形態としては、古代型及び近世型の二に分つことが出來よう。古代型の民族壓迫の心理的原因としては、暴力的な帝王の野心、異種族に對する敵對心、異教徒に對する憎惡心等を擧げることが出來る。敗者は鏖殺されるか、奴隷にされるかであつた。この時代には、人種的反感と云ふことが大いなる役目をしてゐたのである。然るに近代の民族的壓迫は、資本主義の發達と相伴ふものであつて、資本的搾取と云ふことが最大の原因をなしてゐるのである。生産、交換、交通等の經濟關係が世界化するにつれて、頑固な人種的反感が打破られて行く。近代の民族的壓迫には決して人類的反感なるものがその動機をなしてゐないのである。然し人種的反感は資本家階級によりて新しく復興された傾きがある。資本家は他國民の侵入の危險といふことを宣傳し、國民的利益の爲めに弱小民族を犠牲とすることの有利である事を煽動する。在來の國家哲學政治哲學がかくのごときものを容認するは勿論であるが、時として社會主義の陣營中よりも侵略的社會主義、國民的社會主義が飛び出して其傭兵となるのである。要するに古代型の民族壓迫は人種的反感と云ふ心理的要素が强く働いてゐたが、近代の民族的壓迫には、資本的搾取と云ふことが根本原因になつてゐるのである。

近世の民族的壓迫の對象となつてゐるものには四つある。第一は政治的に微力なる小國の群れである。例へばバルカン諸邦の如きがそうである。第二は一資本國家の政治的領域内に於て集團的單位を構成してゐる民族である。曾つてオーストリー治下にあつたチェック、獨逸の治下にあつたポーランド、英國の治下にあつたアイルランド人、××××××の如きがそうである。第三は古くより國を失ひながら民族的生命を失ふこと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なく各國に分散せる民族である。猶太人がそうである。第四は政治的經濟的に未開なる階段にある民族にして最も露骨なる資本的搾取を蒙つてゐるものである。アジア、アフリカ、印度、爪哇、台灣、アメリカのネグロの如きものがそうである。この四つのもの丶うち、特に注意しなければならないことは第二に述べた植民地民族及び第四に述べた未開民族の運動の甚だ猛烈となつて來たことである。その何れも資本の搾取を蒙ること甚だ强きものなのである。

近代の民族的壓迫は明日に資本的搾取に基くのである。資本主義國家の爪牙は、植民政策及び帝國主義の假面の下に、弱小民族の國土を鷲掴みにする。資本主義的生産制度の下にありては必然的に商品が過多となり、國内の購買力を超過するようになる。廉價にして豐富なる原料の搾取、同樣に安く且つ豊かなる勞働の搾取、並に過多に陷りたる無數の工業製品を販賣すべき市場の獲得、この三者は資本的搾取の根本目的である。

（三）弱小民族の隷屬狀態

資本主義にとつて植民政策は共助產婦であつた。近世の資本主義は共發生當初より弱小なる東方民族を餌食として生長して來たのである。植民政策とは强き民族の弱き民族に對する資本的搾取の歴史的別名なのである。しかも今日、一層悪いことは植民政策といふ假面が帝國主義といふ假面に變つたことである帝國主義とは武力を以てする、一層露骨なる資本的搾取を意味するのである。帝國主義それ自身は資本主義の最終發達階段として現はれたのであり、各國の資本家階級がその平和の假面を捨つべく强制せられた結果として發生したものである。帝國主義の出現は資本主義の頽廢と崩壞との近きことを告ぐるものであるが、しかし其對象となる弱小民族は此階段に於て甚だ悲慘なる隷屬狀態に突き落される。

弱小民族が帝國主義の餌食となるとき、その社會組織は徹底的に破壞せられるのである。弱小民族は大抵、資本主義以前の社會狀態に於て生活する。その基礎的產業は農業であり、封建的土地制度の支配してゐるのが常である。機械工業によつて成り立つ近代の資本主義はこの舊社會組織に對し、急激且つ不自然なる徹底的破壞を加へる。今、資本的帝國主義の侵入のために弱小民族の負擔せざるを得ない隷屬狀態を概觀しやう。

先づ第一に經濟的隷屬がある。資本主義は弱小民族の間に大多數を占むる農民階級を零落せしめる。土地と人とは新しい主人に隷屬せしめられる。農民は土地を失ふて農業勞働者となる台灣の農民が砂糖の栽培勞働者となつた如きはその例である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

若くは新しく作られる工場に極度の搾取を蒙る賃銀労働者となる。特に最も甚だしく搾取されるものは青年労働者である。植民地の青年労働者を酷使することは資本国家の意識的に行つてゐる所であつて、それは彼等の政治的自覚を妨げると云ふ目的をもつてゐるのである。各国ともに植民地の労働者の生活は甚だ悲惨であつて、低廉な乞食的賃銀と何等の制限の存してゐない労働時間とは彼等の八割以上の大多数者をして生活飢渇點を彷徨せしめるのである。経済的隷属につきては単に大多数者のプロレタリア化といふことばかりではない。他方に於て、弱小民族間に於ける自然的資源も、人の極度に搾取されるが如くに搾取される。弱小民族の生活基礎たるべき自然の原料は恣に資本国家のために持ち去られる。しかもその輸出價格は甚だ低廉であつて、潮の如く輸入せられる資本国家の工業製品の高價なることと決して平均をとり得ない。自然的資源の搾取し去られること、高價なる工業製品の輸入によりて生活費を昂騰せしめること、大多数者のプロレタリア化すこと、之れが弱小民族の資本国家によりて與へられた経済上の運命である。他方に於て資本主義の侵入は弱小民族の間に於ても国内的ブルジョアジーの発生を扶ける。彼等は外来の資本と競争したり、協同したり若くはその番兵になつたりする。印度や支那に於てはこの種の現象が存してゐる。このことは弱小民族間に於ける階級的自覚を生ぜしめる効果を有してゐる。

第二に政治的隷属がある。政治的隷属には三つの形式がある第一は弱小民族の国土が純然たる植民地となつてしまふことである。これにありては完全なる政治的隷属が行はれる。本国より駐屯する軍隊と特別の政治機関がその搾取行程の維持者となる。第二は勢力範囲の設定である。これは前者の如く完全ではないが、同じく政治上の隷属を強制するものである。保護国の如きもこの範疇に数へることを得るのであらう。第三は数個の資本主義国家の勢力が平衡する結果として、何れの国の植民地にも勢力範囲にもなり得ないものである。これにありては或る一国が単独に政治的支配を行ひ得ないのであるが、しかも弱小民族自身には完全なる政治的独立があるわけでなく、常にその国の政策は自己をとりまく虎狼の群たる資本国家の協定的政策によつて左右せらるるものである。従つてかくの如き弱小国民の国土と人とは資本国家の角逐場たると共に、又これ等の国家の共同的支配物と云ふことが出来る。政治的隷属と云ふことに於ては、前二者と大いなる差異はない。

第三は文化的隷属である。資本国家は自己の勢力下なる弱小民族に對して該民族特有の言語、宗教、慣習等を禁じ、自国の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

言語、宗教を強制し、自國本位の教育機關を作る。この政策は往々にして植民地に對して同化政策若くは文化政策の美名を以て呼ばれてゐるが、却て民族が文化的單位として自己特有の能力を發揮せんとすることを全々阻害するものであつて、世界文化の敵である。かくの如きものを文化政策と云ふことは卑劣な詭辯に他ならない。

（四）最近の民族運動の二體型

十九世紀に於ける、民族運動は正確に言へば民族主義の運動であつた。それはナポレオンによつて擾亂せられた政治地圖を復舊するために「民族主義」若くは「民族國家」なる名の下に行はれた、政治的色彩を多量に含んだ小國の運動であつた。それはマルクス及びエンゲルスの強く排撃したる所であつた。

最近代に於ける民族運動は以上の意義に於ける民族運動とは明かに異りたるものである。世界戰爭後にポーランドやフインランドが獨立國を形成したことは十九世紀的傳統を有するものであるが、しかもそれはフランスの資本主義の人形として担ね上げられたものに外ならぬ。かくの如きは決して最近代の民族運動の本流ではない。最近代の民族運動は、民族が世界文化の單位であると云ふ認識を意識的若くは無意識的に包含して居るのである。而して此意義に於ける民族運動に於ても明かに二個の異りたる體型の發生してゐるのが見られる。第一は小ブルジョア的改良的民族運動であり、第二はプロレタリア的革命主義的民族運動なのである。

最近代の民族運動のうち、先づ最初に起つたものは小ブルジョア的改良主義的民族運動である。弱小民族は一の全體として強大民族に依りて搾取せられるのであるが、それ自身の中に於ても強大民族の中に於けるが如くに階級的差異があり、ブルジョア及びプロレタリアの基本的階級と共に小ブルジョア階級が存する。あらゆる社會的運動の歷史的道程に於て、小ブルジョアが其先驅をなすのであるが、民族運動に就ても此點が著しい。小ブルジョアは最も早く政治的社會的自覺に到達する。彼等はこれに必要なる時間及び經濟的餘裕を有するが故に、最も早く社會制度の不合理の認識に到達するのである。然しながら其認識には一定の限界が存在するのであつて、彼等の反抗精神は改良主義の極致に達し得るけれども革命主義にまでは到達し得ないのである。民族運動についても自己の被搾取狀態を自覺し是に對する反抗を先づ試むるものは小ブルジョアである。其好例をなすものは印度のガンジーの運動である。彼は外來文化に對する印度の固有文化、國民文化の防衛と云ふ旗印を掲げ公民的

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

不服從、非協同の運動と云ふ消極的反抗を試みた。しかしガンジーの謂ふ固有的文化なるものは機械工業前の文化であり、資本主義以前の文化である。從つて其運動は復古的色彩が濃厚であつて、長く印度の民衆を惹き付けることが出來なかつた。トルコの青年黨も最初は單なる政治的獨立と云ふ國民主義的運動に滿足してゐたのであつて明かに小ブルジョア的であつた。英國に反逆するアイルランド人の運動も最初は自治を中心要求となしてゐた。其目標たる共和國は勞農共和國でなくして自由主義的共和國であつた。朝鮮の運動も最初は明かに自由主義的なる政治的獨立を以て滿足するものであつた。以上の如き、小ブルジョア的民族運動は、該民族に政治的自覺を與ふる點に於て大なる效果を有して居る。眠れる者をして目ざめしめ、絶望と疲勞と貧困との極に陷つてゐる多數の民衆の反逆精神を組織化する效果を有してゐる事を拒み得ない。然しながら民族の解放それ自身が、この意義の民族運動によりて實現せられることは到底不可能である。單に一個の資本國家より政治的に獨立しようとも、其經濟的隸屬は取り去られないであらうし、又よく該資本國家の政治的經濟的支配を脱し得たりとするも、忽ち他の資本國家が襲ひ來つて前の資本國家と同じ搾取を加へるであらう。

小ブルジョア的民族運動の到底成功し難き事が明かとなり且つ大多數の人々の階級的自覺の強度の加はるにつれて、茲に社會主義的要求を藏したプロレタリア的革命的民族運動が起つて來るのである。弱小民族の内部にも搾取者と被搾取者とがある被搾取者の利益は何れの國に於ても共通であり、總てのプロレタリアは階級的兄弟であり、資本に對する共同の敵である。プロレタリア的民族運動は此認識の上に立つ。勿論、弱小民族のプロレタリアが自己民族を搾取する強大民族のすべての階級に對して不信と敵對との感情を有することはあり得ることであるチエック人はオーストリーの資本家のみならず、其勞働者階級にも不信の情を有して居た。ポーランド人は、獨乙の資本家及び地主に對してのみならず、その勞働者と農民とに對しても不信であつた。英國人に對するアイルランド人にもこの種の現象がある。然しプロレタリア的革命的見地に到達し得た弱小民族間の反逆運動は、強大民族の間に於ける社會革命を完了しなければ、到底自己の解放を期し得ないことを認識するに到つたのであつて、茲に兩者の連帶的運動が初まつて來るのである。今日の印度の民族運動の主動者はもはやガンジーでなくして農民と勞働者である。その運動は最早消極的反抗にあらずして、暴動、示威運動、同盟罷工等の積極的反抗である。アイルラン

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ドの運動も單なる政治的共和國の建設よりもプロレタリアの獨裁を目的とする共產主義運動と化した。朝鮮に於てもこの傾向が顯著ならんとしつゝある。而して單純なる弱小民族の政治的獨立より階級鬪爭の境上に突進して來た民族運動は、單に印度、アイルランド、エジプト、朝鮮の如き國々を支配してゐるのみならず、アメリカの黑人、アフリカ、ジヤバ、蒙古、トルキスタン等の未開民族にも及んでゐるのである。第三インターナショナルの世界議會にはこれ等の弱小民族中の共產分子が代表者をモスクワに送つてゐるのである。

（五）　社會主義と民族運動

社會主義的民族運動が先づ最初に掲ぐる處のものは、プロレタリアが階級的兄弟である、といふ前提である。英國、佛國、獨逸の如き國々と、埃及、印度、支那、アフリカ等の國々とはその文化的發達の階段に多大の間隔を有してゐるが、しかし是れ等の國々の勞働階級は一樣に資本によりて搾取せられる社會階級であり、資本に對する共同の敵である。經濟的諸關係の世界化と共に、各國の搾取者同士並びに被搾取者の同士の間に必然に利益の共通といふ具體的事實が發生するのである。プロレタリアの國際的團結といふ意識及び運動は是に基いて生み出される。社會主義は民族が文化的單位たることを認むるが、政治的單位たることを決して容認しない。民族は社會主義的國際社會に於て各個の文化的單位を構成するのであるが、政治的には地球一個の「世界共和國」（ウエルト・レパブリツク）に進み入るべきことを目標とするのである。而してその民族がブルジョア的搾取者的要素を驅逐し去りたる、換言すればプロレタリア化されたる民族であるべきことは言を俟たぬ。

以上の如きはマルクス以來、社會主義思想の上に決定せられてゐる根本的見地であるが、最近代の民族運動はマルクス當時に比し、その資本主義に對する歷史的意義が明かとなり、若くは增大したのであつて、其結果として種々の現實問題が種々の現實的政策の構成を促してゐるのである。今、最近の民族運動に對する現實的政策として社會主義の容認する原則が四つある。第一は民族同權の原則である。すべての民族はその文化的階段や人種の差異を問はず、その行動上の權利が同一でなければならぬといふ原則である。第二は民族自決の原則である。それはウイルソンの唱へた如き自由主義的のものにあらずして、何れの民族も一樣に他の民族との離合につきて徹底的な自決の權利を有するといふ原則である。第三は民族自治の原則である。言語、宗教、教育其他に亘りて自己民族に關する一切の事件を自

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

已の手にて決定するといふ原則である。第四は民族聯合の原則である。各民族の自決と自治とは孤立を意味するものでなく、その上に各民族の聯合が實現せられねばならぬ。それは「世界共和國」への過渡的形態であるが、必然的に生じ來るのである。今日の世界化したる經濟關係は、必ず各民族を聯合せしめ、最後に一個の世界共和國を作り上げしむるであらう。從つて民族聯合の原則は將來のプロレタリアの國際的大團結を完成するための過渡的狀態の促進物として、特に重大の意義を有する。

社會主義は上述の意味に於て民族問題を解決せんがために、眼前の民族運動に對して、種々の社會主義的戰術を提供するのである。今、これに關する重要部分を次に列擧して見ようと思ふ。

(1)社會主義は一切の民族運動に忠實なる援助をなすべきである。未だ革命的プロレタリア的民族運動に進化せざる小ブルジョア的民族運動に對しても援助を惜んでならぬ。最近代の民族的壓迫が資本主義的生産制度に原因してゐる限り、弱小民族のいかなる反抗運動も資本主義の崩壞と密接關係を有する。

(2)社會主義は一切の弱小民族の運動に社會主義的性質を賦與することを努めねばならぬ。未だ小ブルジョア的運動に留まれるものに對しては、プロレタリア的運動に到達するように導かねばならぬ。そのためには弱小民族の革命的分子を結成せしむることが甚だ必要となる。

(3)社會主義は弱小民族の間に於ける一切の舊要素を崩壞せしむることにも力を注がねばならぬ。弱小民族が資本主義以前の社會狀態に於て生活することは上述の如くであつて、特に封建的要素が土地制度の上に殘つてゐる。また宗教がなほ大なる勢力を有してゐる。プロレタリア的意識に到達するために、それ等の舊要素の除去は甚だ必要である。基督教のミッション・スクールの影響の如きも、排除されねばならぬ要素の一つであらう。

(4)弱小民の間に於て農民運動の勃興と發達とは大に努力せられねばならぬ性質を有する。弱小民族の社會は未だ充分に農業的社會の狀態を脫してゐないものであり、從つて農民がその大多數を占める。また經濟的運動として、農民運動は唯一の可能たる方面である。されば弱小民族間に於ける農民運動の發達は舊社會的要素を崩壞せしむるものであると共に、人口の大部分を占むる民衆をして最も新しき民族運動へ導くところの大なる條件を成すものである。

(5)弱小民族は「國家的生活を許容する」といふ強國のブルジョアジーの詭計に陷つてはならぬ。フインランドやポーランドは此種の詭計に陷つてゐる。猶太人が故郷パレスチナに猶太國を建設せんとする企ての如きは、却てブルジョアジーの竊かに喜んでゐるところであらう。弱小民族が所謂列強の間に伍して國家を構成し得たりとするも、それによりて利益を受くるものは弱小民族の間のブルジョア分子に外ならない。プロレタリア群が搾取を被ることは依然たるものがあらう。

(6)社會主義は小ブルジョア的國民主義と戰はねばならぬ。彼

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

等は古代以來、猶ほ微かに殘存する人種的反感といふ、蒙昧な原始的感情に捉はれて居るものであり、被搾取民族をして強大民族のあらゆる階級に對して不信の情を抱かしむる重大の根據となる。他に於て小ブルジョア的平和主義も最後に於ては撃滅せねばならぬ性質を有してゐる。平和主義運動なるものは、解放が鬪爭を通じて行はれる原則を無視し、無鬪爭によりて解放の業を遂げんとするものであつて、無理なる注文と言はねばならぬ。しかし時としてこの平和主義運動を利用することは無意義ではない。

(7)社會主義的民族運動は大アジア主義若くは汎回教主義の如き運動と絕對に相容れることが出來ぬ。それは亞細亞に對する歐羅巴の搾取を排撃せんとするものであつて、其點に於て毫も異議はないが、日本が盟主として歐羅巴の壓迫より亞細亞の諸民族を解放すると號する大アジア主義は、其實に於て日本の大地主と大資本家とを利する結果を招くのであつて、眞のプロレタリア的民族運動の恐るべき敵である。汎回教主義もトルコの貴族と地主と僧侶とを利するに終るであらう。ジンギス汗が歐羅巴に侵入して劫掠を逞ふしたことは一種の痛快さを有するが、そのこと自身は搾取慾に溢れた野蠻人の文明破壞の蠻行に外ならない。東洋人は西洋人の搾取を撃滅すべきであるが、西洋人を搾取せんとする欲望にまで發展してはならぬ。しかも大アジア主義若くは汎回教主義は日本若くはトルコ特權階級を利するに留まり、殘余のアジアの弱小民族は今日と同じき搾取をそれらの特權階級によりて加へられるに過ぎないであらう。

(8)社會主義的民族運動は必然反軍國主義と結びつくべきである。軍國主義は帝國主義の一層露骨に表現せられたものであり帝國主義が弱小民族に對し強力を以て資本的搾取を加ふるために發生したものである以上、軍國主義はプロレタリア的民族運動の和睦し難き敵である。軍國主義との鬪ひは弱小民族の解放のために必然的に行はれねばならぬ。軍國的資本主義侵略は資本主義の最終發展形態であつて、これとの鬪ひは、直接に資本主義そのものの崩壞を導き出す效果を有するのである。

以上述べた如く近代に於ける民族運動は三個の階級を經た。第一は政治獨立を得んとする民族主義の運動であつた。第二は小ブルジョア的改良主義なる民族運動であつた。第三はプロレタリア的革命的なる民族運動であつた。第三のものは資本主義制度下に於ける民族運動の最終の形態であり、資本主義の崩壞と深き因果關係を有する。同時にそれは社會主義的國際社會の樹立と離るべからざる關係を有する。而して今はすべての民族運動がプロレタリア的色彩を濃厚にしつつある。今日の民族運動は眞に世界歷史的意義を有してゐる。それが將來の社會進化に關與する程度は、資本國家内に於けるプロレタリアの運動の進展と、弱小民族間に於けるプロレタリア分子の量的並に質的の進步との如何によるであらうと思はれる。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

リープクネヒト獄中遺稿
マルクス價値論批評

（其の三）

福田徳三

（二三）

私は以上の考察に入り込むに方つて、先づ右の樣に問題を簡潔に構成して我々に示して呉れたレキシス——エンゲルスが、問題を釋きはしなかつたが、之を大體に於いて正しく提示したと稱揚した——が、マルクスが通説を斥けて、餘剩價値説に基く説明を下した理由なりとして説く所を茲に紹介したいと思ふ。レキシスは云ふ、『兩説何れも結局は同じ事に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歸着するには相違ないが、マルクスの餘剩價値論は、社會主義的讀者に、資本主義的生產方法の非難す可きものなることと其惡しきものなることを示めすには迹かに適したものであることは言ふまでもない所である。之れによつて、資本主義が勞働者から、支拂はれざる勞働時間に於ける餘剩價値を遠慮なく絞り取る生產行程の狹き强制範圍が描き出される。それに反し通說の說明では一般普通に行はれ而して正當と認められて居る無害なる營利的賣買が描き出されるに過ぎない。即ち、資本的企業家は、原料と勞働とを一緒に買入れ、此等の要素の結合から成立する生產物を、一のより高い價格で賣ること、恰かも、商人がロシア產小麥と獨逸產小麥とを買入れ、此二者を適當に混合して、それに利を賭て賣るが如しとせられる。此くの如き觀察に從へば、資本利潤を正當なるものとする論據を擧ぐること容易である。即ち例へば、資本家が勞働者に、其の勞働力を利用す可き機會と手段とを提供するのは、勞働者に對し現實的な奉仕を爲す所以であると云ふ事、又は、資本的企業家は、生產行程の組織の負擔者たること疑ひもなく、而して此資格に於いて諸かに一の機能を果たすものであつて、若し社會秩序が今日のと異つたものであるならば、此機能を盡す可く矢張り何等かの特殊機關あることを要すると云ふ事、更らに又た、此等の企業家は其の機能を盡くすに方つて、自己の資本を少からざる危險に曝らすものであつて、此事情は現在の社會秩序に於いて甚だ重きを爲すものであること、（何んとなれば、資本家が其資本を喪失する結果プロレタリアに墮落することは、恐る可き悲慘事であるから）等それである。トコロが、マルクス及び其徒から見れば、此くの如き事實は少しも之れを認めないのである。乍併、彼等の凡ての嘲笑や議論やを以てしても、買收せられた町人經濟學者のみならず凡ての善意なる非社會主義的の經濟生活の觀者、判斷者が、此種の資本利潤の正當付けを或は大或は小なる度合に於て認識することを妨ぐることは出來ないのである」と。（コンラッド年報四十五卷四五六頁）レキシスの此の見方は、私を以て見れば、少し無造作に過ぎる、無論其樣な考慮も含まれて居るとは云ふ可くもな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

い、併し私は、マルクスが通説を斥けた理由、而して、彼れが勞働價値論に立脚する自説を立てた理由は今少しく立入つて考察せなければならぬものであると思ふ。而して其れを爲すには、マルクスの價値計算から價格計算への推移に關する算式を少し精密に吟味して見なければならぬ。此れには、ドミートリエフの研究（經濟學研究一九〇四年）ボルトキエヴヰツの研究（マルクス體系に於ける價値計算と價格計算一九〇七年）並に最近にはキューネの研究（マルクス體系の價値及價格計算一九二二年）がある。私は此等を借用して以下考へて見る。レキシスは、マルクスの算式を以つて、價値が價格に變ずるに方り、利潤の無勞所得たる本質は、何等の變化を被むらないものである理を示めすものとしてのみ考察して居る。此く觀察するときは、マルクスの算式が誤つて居る居ないは、左までの重要を持つことではない。然るにマルクスは獨り此れに止まらず、此算式を以て、利潤率漸落の理法の根據として居るのである、從つて其の當否は輕視することを許さないのである。而して、私の見る所では、玆にリーブクネヒトのマルクス評論の第一點が存する。即ち（三月號「改造」第十三頁以下）リーブクネヒトが『價値は全社會的事實であつて階級的事實ではない。此くの如き事實としては、價値は全社會の條件から説明せられ、構成せられねばならぬ。其の決定根據は、社會の全狀態を全體として其中に見出されねばならぬ。然るにマルクスの爲す樣に、之を社會の一部分なる勞働階級のみの社會的條件の中に求めるのは著しき矛盾である。マルクスの説が、勞働の産出に支出せられた商品の價値を算術的に限定して測定し得る便利ありと思ふは誤りである。何となれば、（A）勞働力産出の爲めに支出せられた商品の價値の中には、マルクスによれば、算術的に捕捉し得られざる要素なる『社會的必要』と云ふことが入つて居る。（B）其時々に考察せられる生活に際して支出せられる勞働に關しては『社會的必要』てふ要素は、算術的に捕捉し得ない。（C）其時々に歴史的に與へられた生活の程度の變遷消長も算術的に捕捉することは出來ない。此場合、マルクスは、明かに斷つて、歴史的、道德的要因を其理

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

論に引き入れることによつて、彼は社會的全生産物の分配の範圍から、一の社會的要因を、諸階級の權力闘爭の機關から一の要因を取り入れるのであつて、それは、彼の剩餘の理論に對して一の異分子たるものである。此くの如き異分子を取り入れるによつて、マルクスの理論は更らに猶一層の不徹底を構成する。此異分子は、マルクス及其の祖述者の研究に壓縮し、實に於てマルクス價値學説の構造を覆へす彈藥となるものである。』と云つて居る所が其れである。以下少し立入つて此問題を考へて見よう

以下『資本論』を引くときは、第二卷と第三卷は第一版により、第一卷は第二版による。其れが一番確かであるから。

(二四)

價値と價格との量的不一致が資本主義的經濟組織の特色であると云ふのがマルクスの出發點である。マルクスがかく云ふときの價値とは、一の商品の一定量單位が價値尺度たる財の單位數幾干と交換せられるかを示めす一の大さを意味するものである、換言すれば、交換比例の指數たるに外ならないものである。從つて其れは、マルクスの所謂『現實價値』又は『內在價値』即ち一商品の生産に要した勞働の一定量と云ふ意味にての價値とは同一物ではないのである。乍去、此二つの意味に於ける價値と價値との間には一定の量的關係が存立して居る。各種商品間の交換比例たる價値(これを相對價値と名けやう)相互間の關係は、其の『內在價値』、又は『現實價値』(之れを前者に對して、絶對價値と名けても宜からう)相互間の關係に均しく、其比率は、如何なる價値量に就ても妥當なりとするのが、マルクス價値法則の教ゆる所である。而して、其尺度としては勞働力が用ゐられる。Aなる商品の價値は、勞働時間單位の一定數(例へば十二勞働日といふように)に於いて言顯される。とすれば、其れはAと云ふ商品又は其等價を以てすれば十二勞働日に對する勞銀が支拂はれ得ると云ふことを意味する。又た、Bなる商品ありて、其の價値は六勞働日で、Aなる一商品に對して2Bが交換されるとすれば、マルクスの價値論によれば、Aなる商品はBなる商品に比して二倍の勞働支出を共

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

生産に方つて要したこと、換言すればAの絕對價値はBの絕對價値の二倍なりとの結論を生ず可きである。其れと共に此の絕對價値は決して十二勞働日又は六勞働日によつて言表はされるものでないことを注意しなくてはならぬ。今假りに餘剩價値率を五〇%とすればAの絕對價値は八勞働日、Bの絕對價値は四勞働日によつて言表はさる可きである。假りに一日の勞銀高を二圓とすれば、Aの價値は二十四圓となるが、併しAの生産に從ふ資本主は十六圓の勞銀を支出するを以て足るのである。交換比率指數としての價値即ち相對價値たりとも、其の大さは、マルクスの價値法則によつて（費された勞働量の大小によつて）定まるのが、其本質である。此點に於て相對價値（以下單に價値と略稱す）は、マルクスの所謂生産價格（以下單に價格と略稱す）とは異るのである。何んとなれば、價格は價値法則によつて支配せられず、利潤率均等の法則によつて支配せられるからである。但し此意味に於ける、價値と價格とは、共に一の交換比例の指數であること、又た純理論的構成であることに於いては一致して居るのである。強いて云へば、マルクスの生産價格なるものは、アダム、スミス等の自然價格又は必要價格（河上博士の剩餘價格論參照）と大體に於いて一致すると云ふ點に於いて、其れは以上の意味の價値よりも、實際の事實に稍近いとも見られ得るのである。之を要するに、マルクスの價値計算は、其價値法則に基く商品間の交換比例の決定の謂であり、其の價格計算は、利潤率均等の法則に基く商品間の交換比例の決定の謂である。河上博士が社會問題研究第三十九冊以下三冊に涉る長文に於いて小泉教授を批評して一顧の價値なき誤解なりと云はれたることは、寧ろ博士の誤解若くは曲解であることは讀者以下の說明に照らして容易に諒せられるであらう。

今右兩者の關係に就てのマルクス說を平易に述ぶれば粗ぼ次の如くである（『資本論』第三卷一冊百三十二——五百五十一頁）

投下資本の有機的組合せ同じからざる幾多の生産部門ありとし、各部門に於いて、不變資本の價値はcを以て、可變

資本の價値は v を以て、生産せらるる餘剩價値は m を以て、生産物の價値中に入り込む不變資本部分は c を以て、一ケ年生産物の價値は W を以て表はすとする。ソウスルト次の關係が成立つ。

$$W=c+v+m \quad \cdots\cdots(1)$$

餘剩價値率（m/v）は凡ての生産部門に亘りて均しいものと假定する。然るときは、利潤率 $\frac{m}{c+v}$ は生産部門の異るに從つて異り、各部門に於いて、不變資本が割合に弱く代表されて居るか強く代表せられて居るかによつて、其の率は或は高く或は低くなるのである。此れ即ち價値計算の原則から來る當然の歸結である。

トコロが、資本主義的經濟方法は、此の歸結を容認しないで、凡ての生産部門に亘りて通算的に生産せられた餘剩價値——之を以下 M を以て表はす——は、各部門に投下せられた全資本（$c+v$）の度合に從つて各部門に分割せられるものとするによつて、此歸結を打消して仕舞ふのである。斯く總餘剩價値額中一定の生産部門に歸着する一定部分を稱して、マルクスは利潤と名けるのである。今利潤を m' を以て、一切の不變資本の合計價値をCを以て、可變資本一切の價値をVを以て示めすとすれば、次の式が成立つのである。

$$m'=\frac{c+v}{C+V}M \quad \cdots\cdots(2)$$

價値Wを價格（生産價格）Pに換へると次の式が出來る。

$$P=c+v+m' \quad \cdots\cdots(3)$$

マルクスは此の $c+v$ のことを費用價格と名け $\frac{M}{C+V}$ (3) のことを平均利潤率と名ける以下此の平均利潤率を表はすにGの記號を以てする。此の平均利潤率は、價格計算の原則に從へば、一切の生産部門全體に對して妥當なるのみでなく、各個の生産部門に對しても妥當である。何となれば、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

$$P=c+v+G(c+v)\cdots\cdots(4)$$

であるから。次に、$\frac{m}{v}$ 及 $\frac{M}{V}$ てふ餘剰價値率を表はすに r を以てし、各生産部門に於いて、總資本に對する不變資本の割合 $\left(\frac{c}{c+v}\right)$ を表はすに q を以てし、一切の生産部門に亘つて、合計資本高に對する合計不變資本高の割合 $\left(\frac{C}{C+V}\right)$ を表はすに q_0 を以てするときは、我々は左の式を得るのである。

$$G=(1-q_0)r\cdots\cdots(5)$$

今之を(1)及(4)の式に照らすと

$$P=W+(c+v)(q-q_0)r\cdots\cdots(6)$$

と云ふ式が得られるのである。マルクスは此くの如き算式を示めしては居らぬが、此の式によつて q が q_0 より大なるか小なるかによつて、價格は價値より高きか低きかであると主張する彼の説は一目瞭然となるであらう。

（二五）

マルクスは代數式を用ゐないで單純な算術表を用ゐた。其れは資本論第三卷の百三十三頁、百三十五頁にのせてある。今其れに少し修正を加へて分り易いように並べて見よう。（表は次頁にあり）

次頁の兩表を比較して見れば、次のことが明かであるとマルクスは云ふ。一々に就て如何に區々であつても諸の生産部門を一括にして見るときは、量的比例は常に同一である。競爭の結果生ずる利潤率の均等換言すれば、各生産部門に於ける種々異つた利潤率が平均利潤に引直されると云ふのは、各生産部門又は資本家團體間に總餘剰價値（一一〇）が分配せらるゝ割合が異るのみで、總餘剰價値が一一〇たることには、些の異動も起るものではない、又た總價格Pは總價値Wと共量を同くする（何れも四二二）。價格の價値より多き差（2＋7＋17＝26）は、其より少き差（8＋18＝26）

第一表

價値計算

生産部門	不變資本 (c)	可變資本 (v)	消費する不變資本 (ac)	餘剩價値 (m)	價値 (W)	利潤率 $\left(\frac{m}{c+v}\right)$
I	80	20	50	20	90	20%
II	70	30	×50	30	110	30%
III	60	40	×52	40	132	40%
IV	85	15	40	15	70	15%
V	95	5	10	5	20	5%
I–V	390	110	202	110	422	22%

×マルクスは兩者共51としたが、何れも任意の假定であるから50と52とに換へた。

第二表

價格計算

生産部門	不變資本 (c)	可變資本 (v)	消費される不變資本 (ac)	費用價格 (ac+v)	利潤 (m′)	價格 (P)	價格と價値との差 (P−W)	利潤率 $\left(\frac{m'}{c+v}\right)$
I	80	20	50	70	22	92	+2	22%
II	70	30	50	80	22	102	−8	22%
III	60	40	52	92	22	114	−18	22%
IV	85	15	40	55	22	77	+7	22%
V	95	5	10	15	22	37	+17	22%
I–V	390	110	202	312	110	422	0	22%

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と相均しいと。然しマルクスの此の説明は誤つて居る。何んとなれば、價値計算の原則と價格計算の原則との區別が甚不十分であるから、此く云ひ得るので、それを嚴密にすると左様はならないのである。

先づ價値計算の方から吟味して見よう。右表に掲げた五部門中生産部門IとVとに於いては、勞働者の生活要品を生産するものと推定して差支あるまい。何んとなれば、其生産商品の價値(90+20)は五部門を通じての全勞働者が勞銀として支拂はれる額即ち一一〇に該當するから。次に、生産部門IIIとIVとでは、生産要具を生産するものと見よう。何んとなれば、其生産商品の價値(132+70)は、五部門に亘る總消費不變資本額(ac)即ち二〇二に均しいから。終りに生産部門IIに於いて生産せられる商品は、資本家階級の消費品を表はすものと見て差支あるまい、其價値(一一〇)は總餘剩價値額に均しいから。而して擴張再生産でなく單純再生産が行はれるものとする。

右の價値計算に對して第二表の價格計算は何を示めすか。先づ右の假定を當てはめて見れば、第二表に於いてもIとVに於いては勞働者の消費品、IIに於いては資本家の消費品、IIIとIVに於いては生産要具が生産せらるゝものと見ることが出來る。而して勞銀の額は些も變動して居ない。五部門を通計して可變資本の額は第二表に於いても一一〇である。されば、勞働者は、此の一一〇と云ふ額に對して、IとVとに於いて生産せられた商品を獲得するので其れよりも多くも少くも獲得するのではない。然るに價格計算の上に於いてはIとVとに於いて生産せられた商品の價格は一一〇でなく、92+37=129である。ソコデ勞働者から云へばIとVとに於いては生産せられた商品の全部を獲得する事が出來なくなり、其生産から云へば、生産品の一部は之を賣ることが出來なくなるわけである。かくて價格計算は辻褄が合はなくなる。獨り勞働者消費品のみではない。資本家消費に就ても、生産要品に就ても同じ様に辻褄が合はないのである。資本家の得る總利潤一一〇に對して、IIの生産商品の價格に一〇二に過ぎず、生産要具に就ては、價値

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は二〇二で、價格は一九一であつて、相當しないことになるのである。

（二六）

レキシスは資本論第二卷の公けにせられたとき、コンラッド年報上此れを批評した一文中に、自家の解釋を試みた。其大要は次の如くである。マルクスの說によるも、個々の商品の價格が、其の價値と同一であり得ないことは始めから分り切つて居ることである。併し其れと同時に、一ケ年間に生產せられる凡ての商品の價値は、其の中に體化せられた勞働の量によつて測られ而して其全量の實際の價格に比例するものなることも明かである。但し此く解釋したとて餘り役に立つものではないが、今、年々の生產物に體化せられる正準勞働の全量をAとし、此單位に對して支拂はるゝ平均勞銀をLとするときは、一ケ年の凡ての生產物の價格（P）は P=ACL（Cは適當に定めらる可き係數）と云ふ方程式で示めし得る。マルクス說に從へば此のCなる係數より精密に云へばCLと云ふ生產額は、支出せられた勞働量が夫々に異つた年度に於いても不變數である、從つて總價格P、P′、P″に就ては P：P′：P″……＝A：A′：A″……と云ふ方程式が成立つ。今此等の方程式を統計的に吟味することが可能なるならば、一の大なる社會に於て餘り長からざる時期即ち生產の方法と固定資本の勞銀資本に於ける割合が餘り變化せざる期間に就ては、此等方程式は可なり精確なるものたるを證明し得るであらう。然し其れだとても我々は資本の勞銀に對する關係に就ては、此方程式から何事をも學ぶことは出來ないのであると。ソコデ、レキシスは更らにマルクス自らの立場に立つて、資本主は、勞働者のみが作り出した價値額の一部を收得するものとして、此問題の解說を試みた。今勞働者の生產する價値總量をAとすれば、此はA_0 A_0の二部に分れる。A_0は勞銀として支拂はれる諸商品中に體化せられる勞働でA_0は餘剩價値を作り出す勞働で資本家階級の手に歸する諸商品に體化せられるものとする。今此等二種の諸商品の價格總額をPとし、右二種の夫

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

々に方る價格額を P_a P_c（從つて $P_a+P_c=P$）とすれば、次の式が成立つ。

$$P_a=A_aCL$$
$$P_c=A_cCL$$

CL は二方程式に於いて同一の値を有つ。即ち此方程式によつて、我々は、勞働商品と利潤商品との夫々の總量の實際の價格に顯はれる價値は、兩者夫々に體化せられて居る勞働の分量に比例することを知るのである。個々の取引に於ける個人的資本家に就いて眞ならざることも一階級としての勞働者に對向する一階級としての資本家全體に就ては眞である。資本家は勞働者をして餘剩價値を生産せしむ可く餘儀なくする、而して此の餘剩價値は、總價値額中勞働者の手に歸する部分同樣に、資本家と勞働者との夫々に歸着する年生産の各部分の夫々の價格によつて測られる。資本家階級が全體として得た總分け前を如何なる割合で各自間に分配するかは、勞働者に取つて全く沒交涉の事である。事實に於ては、資本家階級の各員は、其收得する總餘剩價値を各自間に分配するに、其使役勞働者數を目安とするものでない、投下した資本額の大小を目安とするものである。土地も此際資本として計上せられるは勿論である。又た直接勞働者を使役しない資本家――商人、銀行業者等――も又た其の資本高に準じて餘剩價値の分け前に預るのであると。

エンゲルスは、資本論第三卷の序文にレキシス說を評して云ふ『レキシスの此說は、實際に於てはマルクス說を言換へたものに過ぎない。レキシスの云ふ割增附け懸けは何處から支辨せられるか。其れは必竟する所勞働者の總生産物中から支辨する外に道はない。而して其れは勞働力なる商品が其價格以下に賣られると云ふことによつて支辨せられるのである。何んとなれば、生産よりはより高く賣られると云ふことが凡ての商品に共通的な性質であり、而して勞働のみが其除外例を爲して、其生産費に於いて賣られるに限るものであるならば、此の町人經濟世界の原則である價格よりは以下に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

於いて勞働は賣られるものでなければならぬ。其の結果、各個資本家又は資本家階級に歸着する餘分の利潤なるものは勞働者が彼れの勞働の價格に對する代價物を再生産した後更らに猶支拂を受くることなき餘分の生産物――餘剩生産物支拂はれざる勞働の生産物、餘剩價値――を生産せねばならぬと云ふ事情に存し、又た此事情のみから起り得るのである。レキシスは、其用語の選定に方つて非常に要愼深い人間である。彼は以上云ふ處が彼自らの見解であるとは、何れの箇所に於いても明白には言つて居らないのである。然し此れが彼れの見解でありとすれば、彼れは決して、マルクスから見た絶望的に低能な尋常一樣の町人經濟學者の亞流ではなく、町人經濟學者の名の下に匿るゝ一のマルキシストであると云はねばならぬ。……　さるにても斯くも賢い人が複本位制度の樣な馬鹿らしいことを擁護するとは』と。（序文十二十三頁）

エンゲルスの此評は最負の引倒しである。私を以て見れば、レキシスの附け懸け論、總資本家の立場から見ての價値價格兩立論は、假面を被つたマルキシストたることなくして、十分に考へ付き得ることである。而して其れはエンゲルスの言ふ樣に、單にマルクスの説を他の言葉に言換へたに過ぎないものではない。然しエンゲルスが斯く云ふは、我々にレキシスの解釋が、克くマルクスの立場に立つものであることの裏書をして呉れたようなものである。

（二七）

前に掲げた第一表（價値計算表）と、第二表（價格計算表）とが一致しないことは、マルクスが價値から價格を導き出した方法に矛盾のあることを明かに示めすものである。詳しく云へば、マルクスが價値計算表の數字を其儘價格計算に引入れたことに誤が存して居るのである。尤もマルクス自身も此點に氣が付いて居たらしく思はれることは、彼れが次の如く言つて居るに徴して推察し得られる。曰く、生産物の價格が其價値とは異る――何んとなれば、其中に實現せられた餘剩價値は、其生産物の價格に附け加へられた利潤よりも大でもありより小でもあり得るが故に――ことの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

外に、猶ほ、同一の事情は、其生産資本の不變分に對して、而して間接には勞働者の生活要品として、其の可變分を形成する商品に對しても、存するのである。其の不變分に對しては、其の價格は費用價格プラス餘剩價値即ち費用價格プラス利潤に均しく、而して此の利潤は、其れが代位する餘剩價値よりはより大又はより小であり得るのである。可變分に對しては、平均の一日勞銀は常に勞働者が其必要生活要品を生産するに要する勞働時間數の價値生産物に均しい。乍去此の時間數は、必要生活要品の生産價格が其の價値とは異るによりて僞造せらるゝものである。かくは云ふものの、一商品には過多に、他の商品には過少に入り込む餘剩價値、從つて又た諸々の商品の生産價格中に存する價値の差別なるものは、相互に相殺するものである。資本主義的生産の全體から見れば、甚だ複雜な而して略ぼ接近的な方法に於いてのみ知るを得嘗て確定的に斷言し得られざる永久的變動中の平均によつて、普遍法則が支配的傾向を遂行するのである」と。（資本論第三卷第一册百三十九頁以下）之を言ひ換へて見ると、價値を價格に換算するに方つては、價値計算其儘の數字を取らず之れに修正を加へるの必要なることを認めて居るのである。然るに彼は其れを實行せず又た修正を加へざる價格計算を無用なりともせず、却つて次の二事を以つて辨疏して居るのである。（一）かく生ずる差異は之を通算すれば相殺することになる。（二）資本主義的經濟は矛盾に富む生活範圍であつて凡て法則通り嚴密に行はれないものであると。（此點河上博士善くマルクスの口吻を模せられた。社會問題研究四十三册第三十七頁。而して其れはリープクネヒトの言を藉りれば美事なる一のチホ、プライズムである。）去り乍ら（一）價格と價値との差異のプラス諸數とマイナス諸數とが相殺すると云ふこと、換言すれば總價値額は總價格額に均しいと云ふことは、マルクスが不變、可變兩資本共に總利潤に關する價格を價値に等しいものと假定したからである。然るにマルクス自ら明言する如く、少くとも不變、可變兩資本に就いて、此の等位は精密でないのみならず、總價値と總價格と均しいと云ふことは全然誤解であるのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

價値、價格の尺度たる可き財をGを以て表はすとする。生産部門Iに於て生産せられた生産量の價値、價格を求めす數字の九〇、九一とは、其生産量が價値計算の法則によれば、Gなる財の九〇單位、價格計算の法則によれば其の九二單位に對して交換せられることを意味する。價値と價格とに此の如き差異の起るは、各異つた生産部門に投下せられた資本の有機的組合せが異るからであり、而して其差異の大小は財の生産に投下せられた資本の有機的組合せ如何によつて定められるのである。今假りにGなる財の生産に投下せられた資本の有機的組合せは、マルクスの所謂最低度のもの換言すれば不變資本分最小のものであるとせよ。然るときは、價値計算から價格計算に移るに方つては、凡ての商品は、Gなる商品の從前よりはより多き量單位數と交換することとなる可きである。然らざれば、凡ての價格は、其れに應ずる價値よりも大となる外はないのである。從つて總價格は總價値を超過する。其の反對の場合、即ちGの生産に用られる資本がマルクスの所謂最高度の有機的組合せ——不變資本分最大の割合を占める——を有するものとすれば、右と又た反對に總價格は總價値よりも小なるものとなる可きである。マルクスが此場合に於いて價値と價格とを品物でなく貨幣で言表はされるものとすると云ふことは、以上の理に些の變化をも及ぼすものでない。(資本論第三卷第一册百三十八頁) 何んとなれば、マルクスに從へば貨幣表彰は例へば金貨本位國にあつては一定の金の分量(資本論第一卷七十二頁以下)を示めすに外ならないもので、其れは他の凡ての商品と同じく一般の價値及價格法則の下に立つものであるから。

此立場から見るときは、總價値と總價格との均一を同一の貨幣單位で言表はすことと、不變的貨幣價値(リカルドの考へたような)とを結付けて考へようとするのは大なる誤である。何んとなれば、マルクス説で不變、不動の貨幣價値とは、例へば金貨本位國に在つては、一定の金量を生産するに同一の勞働量を必要とすると云ふことの意に外ならないから。(資本論第一卷七十二頁以下) 換言すれば、不變的なる貨幣價値とは、貨幣として使用せられる財の絶對價値が不變なりとの意である。さ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れば、總價格は、總價値よりも多くも少くもあり得ると云ふのは、以上のマルクスの意に於いての不變的貨幣價値の前提の下に於いて言ふことであるのは勿論のことである。從つて又た總價格は總價値とも一致することもあり得る。即ち貨幣素材――例へば金――の生産に用らるゝ資本の有機的組合せが他の資本の有機的組合せに、一定の關係を有するときは其れは起り得ることである（後に此點を運用する）然るにマルクスは此の如き限定條件を示めさず、價値、價格の尺度として用らるゝ財の生産事情を度外に置いて、唯だ一般的に總價格は總價値に等しいと云ふ。此れは何等の立證を伴はない誤つた主張である。此の誤りは、價値から價格を導き出すに方つてマルクスが用ゐた非論理的方法のために起るものであつて、前にも言つた通り、交換比率としての價値――相對價値――の概念を勞働量としての價値――絶對價値――の概念と混同したことから起ると云ふ批評は的を外れて居る。此點は單に從たる關係を有するに過ぎない。マルクスは、諸價格＝諸價値と云ふ結論を得るに方り、之れによつて、凡ての商品の價値は之を一括すれば、資本主義的計算法（價格計算の原則に基く）によつて左右せられない或ものを表はすものであるとの見解を確めるものと爲したかも知れない。然し此の見解は、凡ての商品の價値と云ふのは其の絶對價値を意味するものなりとの條件の下に於いてのみ主張され得るものであるから、此點に於いては、マルクスは混同の謗を辭することは出來ない。ボエーム・バヴエルクは總價値、總價格等と云ふこと其事を否認して居る、其は當を得て居らないが、然し假令總價値、總價格一致論が正しいものとしても、其は問題の解釋に何等の用を爲さゞるものであると主張するのは、或る意味にては然りと云はねばならぬ。總價格なるものは事實上に於ける諸商品の交換關係に就て我々に何物をも示めすことなきものである。然しマルクスが此論を爲す眞意は自ら他に存するのであつて、彼の總價値總價格一致論は諸商品の交換關係に就て具體的に致ゆる所がないから、其れは無用な議論立てであるとして斥けるボエーム・バヴエルク等の主張は、能くマルクスを理解し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たものと云ひ得ないのである。然らばマルクスが示めさんとした理法とは何であるか。答へて曰く、其は別事でもない、價格も利潤も共に商品流通から生ずる割り増附け懸けを考慮に入れなくとも十分に之を理解し得ると云ふ理で、それである。此點に關してはヒルファーデングのボェーム・バヴェルク批評『マルクス研究』第一冊三十一頁は當を得て居る。總價格は總價値と一致すると云ふことを立證すれば割増附け懸論――利潤は價格への附け懸けより成るとする通說――は之を破ることが出來るとしたのである。然し此通論を破る爲めには、總價値、總價格合致論は必ずしも必要ではないのである。何んとなれば、前に示した通り價値、價格の尺度として用らるゝ財の生産事情の如何により、總價格は總價値よりも或は大或は小であり得ることを示めした丈けで、割増附け懸け論を無用とすることが出來るから。

（二八）

此くの如くにして、價値、餘剩價値から價格と利潤とを導き出さんとするマルクスの企ては失敗に歸したものと云はねばならず、其れと共に一の特別の價格としての勞銀の價値法則的說明も亦支持することが出來ないのである。然るに堅法華のマルキシストは如上のマルクスの說明の唯一の長所たる簡明に眩惑せられて之を以つて自明の理であると主張する。ゾムバルトのマルクス辯護論の如きは其顯著なる一例である。彼曰く、マルクスの理論は經濟學に於ける極端なる客觀主義の一標本であつて、オーストリア派の主觀主義の欠點を補ふに甚だ有力なるものである。（中略）マルクスが其の價値法則を價格の事實的構成と一致せしめようとする方法は誠に自明の理に基くものである。元よりマルクスの解するような價値なるものは、經濟上の實際に對しては、決して直接の關係を有するものではない、マルクスが――資本主義的生産の初期に就て――兩者の間に關係あるように言つて居るは、或る意味にて彼自らの根本理論に不忠實なものである。マルクスの謂ふ價値なるものは、經濟學的思索の一補助手段たるに過ぎない、而して其れは一の不可缺補

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

助手段である。何となれば此くの如き價値概念の助力なくしては、使用財として質的に夫々に異なる諸商品を量的限定に於いて示すことは不可能であり、抑も又た一の統一的見地から國民經濟的狀態と經過とを學問的に考察することも不可能である」(ゾムバルト『カール・マルクス經濟體系』社會政策年報第七卷第四册五百七十二――五百九十一頁)

ゾムバルトはマルクスの價値概念と價値法則とを辯護して、勞働は客觀主義によつて經濟生活を考察するに最根本的の經濟事實であり、人類の經濟的生存は主として勞働の社會的生産力の發展によるものであるから、マルクスの價値概念は此の意味に於て最も安當なものであると云つて居る之れに就てはボエーム・バヴエルクの批評もあるが(ボエーム・バヴエルク『マルクス體系の完結』一九五頁以下) 其れは姑く措くとしても、勞働が最根本的の事實だと云ふことと、經濟現象の考察をマルクスの價値概念を以て始めねばならぬと云ふこととは、決して同一事ではない。何となれば、マルクスによるも、勞働と價値とは決して同一物ではない。否ゾムバルトの言ふように、勞働生産力の概念がマルクスの價値概念に於いて其の經濟的表現を見出すと云ふことは、マルクスの說く所ではない。一切の生産部門に一樣に起る勞働生産力の變化は、マルクスによれば、商品價値に何等の變化を惹き起さないので、又た一定の生産部門にのみ限つて起る勞働生産力の變化は、其が減ずるか增すかに從つて、其該當商品の價値を高め又は低くするのである。即ち勞働の生産力と價値とはゾムバルトの言ふように混同す可きものではない。ダカラ、勞働を最重要の生産要素としてそれから出發すると云ふことと、マルクスの價値概念から出發すると云ふとことは夫々に異つた二つの事であつて決して同一事ではないのである。前者はマルクス理論其のものには何等預る所はないものである。リーブクネヒトの批評は此點に於いて、慥かに急所を突いて居るのである。

ゾムバルトとは異るが同じくマルクスの眞意に毫も合しない解釋を下して自ら甘んずるものにジムメル門下のコッペルがある(『マルクス贊否論』一九〇五年刊)コッペルはジムメルの『價値』と『存在』との關係論に基いて、マルクス資本論第一卷と第三

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

美と健康のために

クレームレート

最上のクリーム
擦り込めば肌の
下まで溶入り…
肌美しく健康に
若返る……

レートポマード

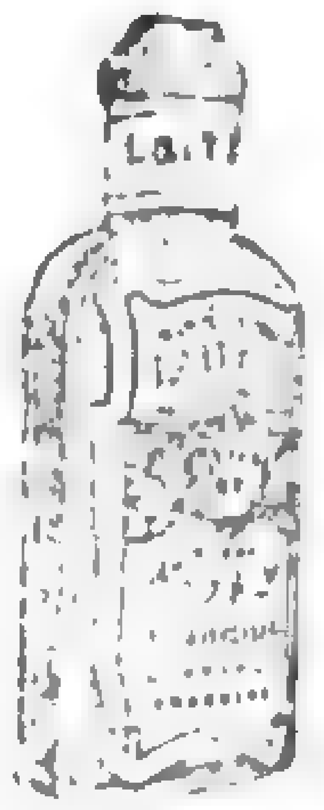
最新式の煉香油
つけ心地爽快…
落ちついた光澤
上品な芳香……
紳士の分髪にも
淑女の束髪にも

レートメリー

ただ一品で…擦り
込むだけで
肌も養ひ…
色も白くす
る…二重化
粧作用の新美粧料

レートフード

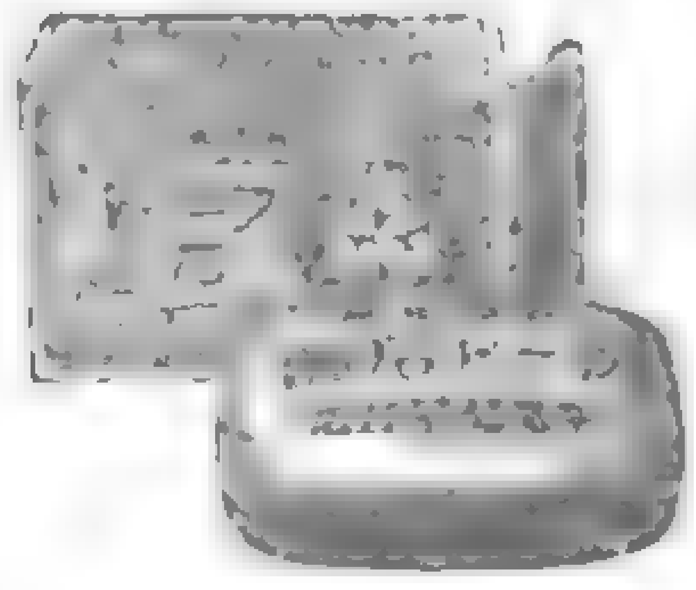
父のヒゲそり後に
母のカクシ化粧に
姉の白粉下に妹の
通學整容料に…一瓶で一家の重寶



レート化粧料四十五
種は實生活の必需品

フード石鹸

アカヌケて美
しくなる化粧
石鹸…肌を荒
さぬばかりで
なく更に艶美
にする純良品



化粧顧問!! お化粧上の事は何によらず
親切にお答えしますから、東京市日本
橋區馬喰町レート化粧料本舗美容部へ
手紙でおたづね下さい。

東京
大阪
平尾賛平商店

al Encyclopedia

royal 8vo. Volumes

特價及び
月賦支拂

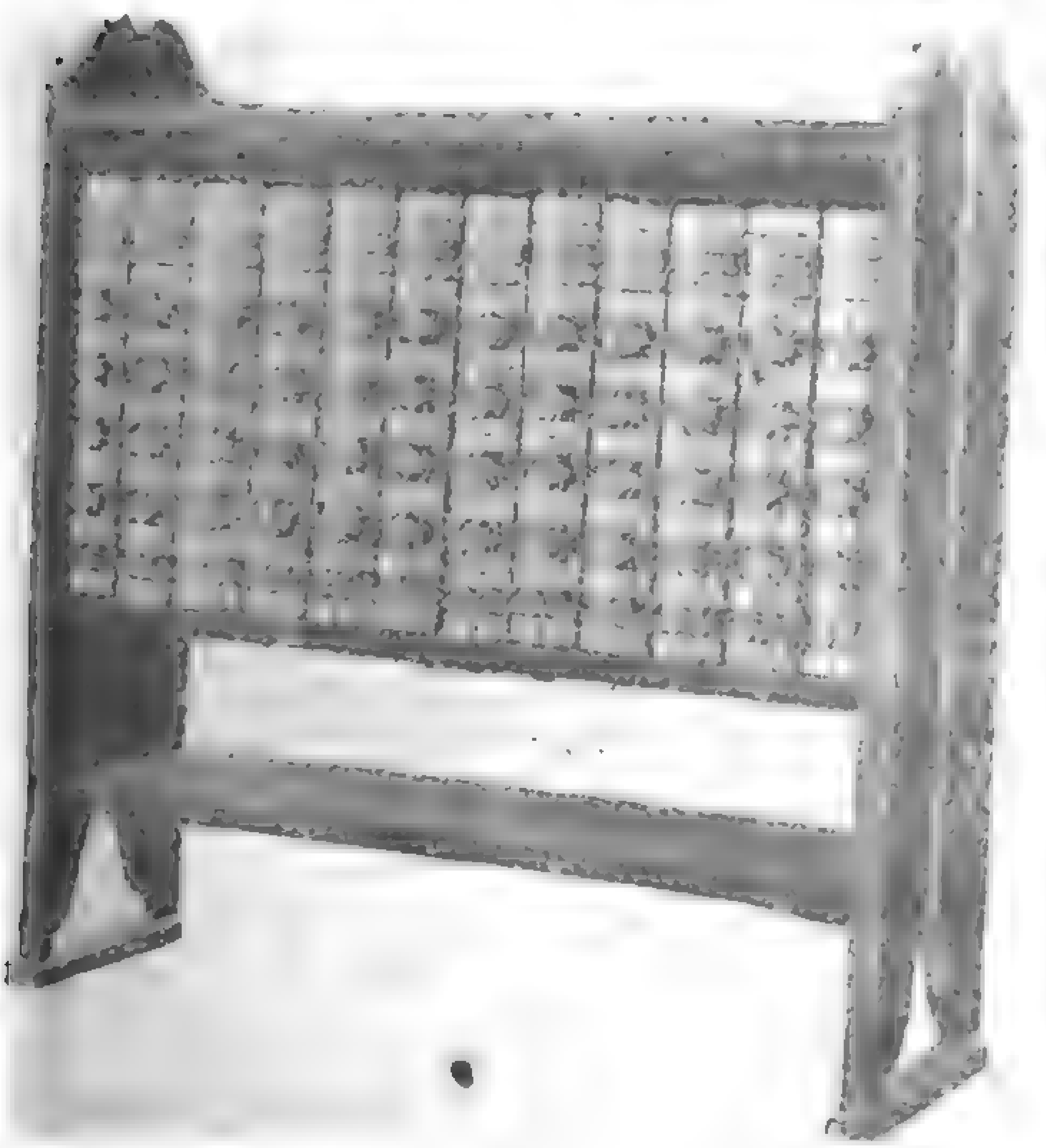
新提供

ハームスウォース萬有百科全書

一九二三年版

全部が新鮮で且獨創的なる最新百科全書（全十二冊）

新しい世界は生れた。古い知識を以て臨める四圍の環境は皆不可解である。大戰の爲め少くも中世紀以上を一足飛びに跳り越えた世界の現勢や文化の新傾向が産み出した新らしい謎は古い知識の百科全書では解けなくなつた。**ハームスウォース萬有百科全書**は大戰後根柢から改訂された**英米佛獨唯一の最新百科全書**として世界の讀書家の興味の中心となる。大戰後の世界の變局や政治上社會上思想上の各方面の新らしい問題や新らしい運動や、交通輸送上の新らしい開展や工業機械の新らしい進歩や、物理其他科學の新らしい發明や、各種の新らしい、言葉や各方面の新らしい人名や地名や皆大抵洩れなく包括せらる、AからZまでが皆新らしく、一行一カツトでも前著を踏襲したセコンドハンド



Harmsworth's Univers

12 Sumptuous

のものに無く、全部に亘つて新らしい氣分を溢らしてゐる。凡そ是等の特色は一々擧ぐるに違ないが、就中最も顯著なるは**着彩其他一〇一面の圖版と一二三五〇〇の本文挿畫**にて、此の如き挿畫の饒かは從來百科全書中匹敵するものは無い。且是等無數の挿畫は最新の資料から選擇されたので、挿畫を見るだけにて飽滿し得る最新の科學的興味と文化的清新味とは盡り難きものがある。知識を漁るは文化人の獨特の興味で、此の如き最新百科全書を備ふるは即ち文化生活を完全にする要件である。

特價月賦提供

▼總八、〇〇〇頁
▼八、〇〇〇、〇〇〇言
▼項目五〇、〇〇〇章
▼着色其他の圖版一〇一面
▼挿畫一二三、五〇〇圖
▼寄稿四五三八人
▼毎卷口畫グラビユア版
▼第一冊卷頭六名士論文

弊社は此の新らしき百科全書を各人各家庭に普及するが日本の文化の向上を裨益するを信じ、倫敦出版會社と謀りて特に或る期間或る部數を限りて算籌外の一時拂特價及び何人も負擔を感じない少額月賦法を設けて提供する。但し倫敦出版會社の出版力は世界各地からの競爭的大註文に殆んど應じ兼ねる狀勢なれば豫定の部數如何に拘らず何時提供を撤去するやも計られず。且此の如き最新百科全書は一日も速かに座右に備へるが御利益なれば此際諸君は迅速御申込あらん事を切望する。

申込金
金十圓

内容說明書及申込書
御照會次第送呈

東京市日本橋區通三丁目
丸善株式會社
東京神田・東京三田・東京丸ビル・大阪
京都・名古屋・横濱・福岡・仙臺・札幌

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

直輔の夢

里見弴作（忽十版）

題目の小說は昨年のわが文壇でヽ最も大きな收穫として騷がれたものである、肺病に惱む直輔といふ中年者の獨身生活を續けてゐる畫家と、同じく脊髓炎に惱むお愛といふ藝者と、疑獄事件に連座した某重役との、戀愛關係を描いたもので、或ひはこれがかうした書きかたの頂點ではなからうかと思はれるほど神に入つてゐる。殊に直輔が女將さんにお愛を始めて目見えにつれて出るくだりの描寫などは到底他の作家の企て及ぶべくもない出來榮えで、實に寸分の隙もない、それに女將さんが非常にいゝ、鎌倉の隱れ家などの描寫、會話のうけわたし、うまいものだ、かうなれば誰が何といつても立派な藝術で、ぐんぐん迫つて來る藝術の力はブル藝だからどうのプロ藝術だからどうのといふ爭ひの上に超越してゐるかの感がある、ブルとかプロとかの概念から離れて、藝術といふものに接するといふすなほな考へで讀まれたいものである、この書にはなほ「甘酒」といふ作が收められてゐる。（報知評）

◇四六判上製◇

定價壹圓八十錢

◇送料十七錢◇

◇

◇東京芝區愛宕下町◇

改造社

◇振替東京八四〇二◇

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

生の爲めの數學

理學博士　小倉金之助著

最新刊

圖計算及び圖表

精巧圖版百數十個挿入

定價金貳圓八拾錢　送料金二十四錢

實用數學に關する空前の名著！

之を敎育上より見れば直觀を尊重して人間生活に最も重要なる函數の觀念と幾何學思想との調和融合を徹底せしめ以て捕はれたる數學敎育の上に根本的なる革命を與へ、之を實用上より見れば物理化學、天文測量、工學、航空彈道學、醫學、理財學、保險學、統計學等苟くも數式の顯はるゝ所之に對して最も簡明直截なる解法を與へるもの、これ即ち圖計算及び圖表の學である。徒に其名を聞くこと久しくて而も其眞髓に觸るゝ所無かりし我が數學、自然科學及び應用科學界の憾みは、懇切平易なる此名著の出顯によりて永久に救はるゝことを得ん。

囚はれたる數學よりの解放！

東京市神田區
北神保町一三

山海堂出版部

振替東京二一六九一
電話九段一三一〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

長田秀雄作

戯曲 愛憎篇

四六判天金

定價壹圓六拾錢 送料十五錢

四版

法統の夲滅を期し本願寺一味を率ゐて起てる、顯如上人と法敵信長との石山合戰を題材とし、對陣中に起れる顯如父子の鬪爭、顯如の北の方と小姓との間にまつはる愛欲、放埒、淫蕩を描き、その愛欲が實子教如の爲めに妨げられたるを以つて死に瀕してまでも我實子を呪咀し、憎惡する北の方の惡魔振りを徹底的に透察したる近來稀なる趣味多き藝術的名作だ。尚本書は別に戯曲『父の別莊』の長大篇を收む。

東京芝區宕下町 改造社 振替東京八四〇二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雷鳥の目醒むる前

賀川豊彦著

氏の輝く散文を見よ。
氏の如く信仰と火の如き愛を見よ。
氏の清き魂の生活、玉の如き生活の斷想に人間最高の凱歌を包藏す。
氏は何故にかくの如き強き信仰に入つたか。何故に無抵抗の愛に終始するに至つたか。
嗚呼此の愛の映像、魂の映像は諸姉に如何なる感激を與ふるか。
本書は幾十萬の諸姉の生活に光りと、親みと、愛着とを齎らす。

忽十三版

◇定價貳圓參拾錢◇

◇四六判上製天金◇送料十七錢◇

東京芝區愛宕下町　改造社　振替東京八四〇二

◆久しく期待の的たりし井上十吉先生の新辭典◆

井上ハンディ英和辭典

現代辭典界の革命的新發見

（内容見本進呈）

井上先生の掌中辭典は出現せり。

本辭典は過去の標準辭典が、徒に形體の小に囚はれ、内容の粗悪を顧みざりしに嫌らず、研究編纂遂に一の新形式を創造せるものにして、その**内容は優に大辭典に匹敵し、外形頗る手頃なり。**しかも、印刷製版は外國の權威辭典も及ばざる**世界的大發見ＨＢ式應用**に依りたれば**鮮明にして視力を害せざること實に驚嘆に**値す。乞ふ他の辭典と比較研究あれ。

◉縱四寸三分◉横二寸四分◉約一千頁◉總革特製◉

定價金二圓六十錢也（郵稅十錢）

東京本石町

至誠堂

振替東京一七四四番

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

…ず、賃く、教育、憂主、司法、工業、商業、交通機關、軍事の諸方面に

文學博士
松本亦太郎著

四六判
上製

定價四圓五拾錢
送料廿三錢

るものは甦つた魂であり、あらゆる表現を美しくするものは解放された魂である。

北澤秀一著

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CAL

それが應用の[illegible]

各自の研究を精緻にしその考察を深刻ならしむべきである。若し夫れ最近興りつゝある精神動作學、行動學、産業心理學、精神衛生學、精神能率學、人間工學、智能測定學等の諸學の門を窺はんとするものは、本書に來たつて其序論を繙きその鍵鑰を得ねばならない。

如何にして人間の智能を測定する

出版元 東京市芝區愛宕下町 改造社（振替東京八四〇二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

卷との矛盾は次ぎの如くにして解けると云つて居る。曰く、價値は一の規範的性質を有するか又は統制的原則を表はすものであつて物の性質其ものには無關係のものであり、價格は其反對に問題としてゞなく具體的現象として、言葉としてゞなく、現實の現象として存するものであつて、從つて、經濟學の直接對象を形成するものであるが故に、兩者の間に差異の存することは毫も異とするに足らない。從來のマルクス解釋家が見て以て謎と爲した所は決して謎ではなく却つて一の必然事である。此必然的の差異なくしてはマルクスの體系は却つて其意義と重要とを失ふものである。價値と價格との乖離するのは一の必然事である。價値問題と價格問題とは全く別箇の問題である。價値法則が妥當なりと云ふことでなく、却つて其れが行はれないと云ふことがマルクスの體系に重大な重要性を與ふる所以である。從來學者が見て以て彼の說の弱點とした所は却つて其強みの存する所である』と。（右書三〇―三一頁）此れはマルクス說を解せざるも亦甚しい曲說であり、辯護論として無造作千萬なものである。マルクスは價値と價格とをコッペルの言ふ樣に無關係なものとは決して爲して居らぬのである。否彼は價値から價格を導き出して居るのである。元より彼の價値概念と價値法則とは價格成立問題との關係のみに其意義が盡されて居るのではない、否、其れは資本主義的生產方法と關聯する生產物分配を說く可き任務を有つて居るのである。コッペルの言ふ樣に價値法則は價格成立の說明に充つるものとしてでなく所得分配の說明に充つるものとして其當否を批判す可きものでありとするならば、抑も價値、價格の乖離などと云ふことを言ふのは無意義たるも亦た甚しいのである。マルクスによれば、此の乖離は、各生產部門に於ける資本の有機的組合の異るから起るので、而して其れは、資本主義的經濟組織に——其れが餘剩價値の生產と收得とに基く限り——特有な事でも何んでもないことは、マルクスが繰返して說いて居る所である。マルクスの價値法則が資本主義的經濟組織には行はれないと云ふ事實は、マルクスによれば、資本主義の本質の形式に預らず、唯之れを掩ふ所の一又は數要素の一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

果の爲めである。即ち一切の生産部門に於いて資本の有機的組合せが同一なりと假定すれば、諸々の商品の交換に就てマルクスの價値法則は直接に支配力を有するのであつて、而して勞働者に對する資本家の掠奪は依然として行はれ、生産の範圍、方向、技術が資本家の營利心によつて決定せらるゝことも依然たるのである。

されば、コッペルが價値法則の行はれないことがマルクス說による資本主義の特色なりと爲すのはマルクス說に取つては難有迷惑此上なき曲庇論であると云はねばならぬのである。

同じ事が河上博士近來のマルクス論の殆んど凡てに就て言はれなければならぬ。博士の新しいマルクス解釋論實はゾムバルト、コッペル等の舊い失敗の試みの復興——其れとしても甚だ無造作なる——に外ならぬのである。社會問題研究三十九乃至冊四十一冊「マルクスの勞働價値說（小泉教授の之に對する批評について）」同第四十三冊「剩餘價格論につき高田博士に答ふ」の二稿を見よ。的なものである。私が本文に論ずる所を熟讀した讀者は、私が更らに絮說するを須たずして河上博士の小泉教授に對する駁論なるものが、マルクス說の解釋として如何なる價値を有するものであるかを容易に看破せられるであらう。河上博士曰ふ。

（一）マルクスが『商品の價値』といふは、資本家的商品の交換價値を指すのでは無いと云ふこと。單なる商品と資本家的商品とを區別せず、またマルクスの謂ふ價値を交換價値と同一視されつゝある小泉教授は、根本的にマルクスを誤解されてゐること。（と云ふ河上博士は更らにより根本的に、マルクスを誤解及又は並びに曲解され居ることと私は附加したい）。

（二）マルクスの勞働價値說と其の利潤率平均說とを以て矛盾相容れずとなす小泉教授の批評は、前項に掲げた教授のマルクス說に對する根本的誤謬に本づくものなること。從て其は殆んど一顧の價値なきものなること（一顧の價値なきも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のを何故に社會問題研究前後三册もかゝつて一生懸命に論破するに勉められたか、此れは河上博士の自家撞着ではないか)。

(四)マルクスの所謂價値は、**人類の立場から見た使用價値に外ならざること。階級的立場から見た價値は、勿論これと相違する內容を有す可きこと。**階級社會に於いては、マルクスの所謂價値は、このまゝ價値として通用せず、從て物と物との交換は、マルクスの謂ふ價値を標準として行はれざること(前段リープクネヒトの批評と私の評論とを一讀せられた方は、河上博士の玆に人類の立場云々と言はるゝもいが、必竟、極めて無造作な又たナイーヴな、ゾムバルトや、コッペルやの遼東の豕の再輸入に過ぎないことを容易く悟られるであらう。博士の新說は一八八五年に於けるレキシスの、『理想價値論』にさへも遠く及んで居らぬものである。然るにも拘らず漫然他を評して一箇の價値なしなどとの怨言を敢てして居らるゝは誠に笑止なことである)。

次に、博士の高田博士に對する答辯は、言ひ遁れ術の標本としては實に絕好なもので、匆々の裡に博士の文のみを讀む讀者を坐興的に感服せしむるには十分事足りるが、博士は高田博士に對して唯だ言葉の上で巧みに應酬された丈けで、議論の上では殆んど一切の急所を外されて居るのである。私は博士が筆先で勝を占めんとするジョルナリズムを捨てゝ虛心平氣に眞理を求むる學者の態度に立戾つて篤と反省せられんことを卒直に切望せずに居られないものである。マルキシストたる博士が、タトヘ習作としてにもせよ、又はクラークやオッペンハイマーに一時感化せられた僞にもせよ、彼の『餘剩價格論』の如きを主張せられると云ふことが根本的に矛盾であつて、區々たる辯疏の如きは抑も末であると云はればならぬと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

價値を價格に換算せんとするマルクスの試みは失敗に歸したこと以上述ぶる如くであるが、併し價値計算・價格計算の根本思想は必ずしも無用なものとして捨つ可きではない。然し此兩種の計算を役立たせるには、資本家の生産上の支出を勞銀支出として見て考察せねばならぬ。

一生産物の一定量單位の價値をwとし、其中に體化せられる勞働單位數――例へば勞働日數――をAとし、一勞働日の勞銀をlとし、餘剩價値率をrとする。然るときは次の方程式が成立つ。

$$w = Al + rAl \quad \cdots\cdots(7)$$

此れは、不變資本を少しも用ゐないで、唯だ可變資本のみ即ち勞銀支拂用の資本のみを用ゐる場合に妥當な方程式である。

方程式(7)は、生産品の價値が如何様にして勞銀(Al)と資本家の利潤即ち餘剩價値(rAl)とから成り立つかを示めして居る。即ち之を。

$$w = (1+r)lA \quad \cdots\cdots(8)$$

と書換へれば、價値(w)は、勞働支出(A)に比例するものなることが明かである。$(1+r)l$と云ふ因數は、凡ての生産品又は商品に對して同一であつて、比例係數である。されば、一商品の一定量單位の價値、略して云へば一商品價値を決定するには、我々は次の二項を知ることを要するのである。(一)其商品の一定量單位中に體化せられた勞働量(即ちA)の大さ如何(二)其の比例係數の大さ如何、從つて餘剩價値率(r)と勞銀高(l)との大さ如何、是れである。トコロが價値決定には方程式(8)では足りない。何んとなれば餘剩價値率(r)も勞銀(l)も之を一定數として取扱ふことを許さない、兩者は、未知數であるから。ソコデ、我々は、市場に於て賣買せられる凡ての商品――其數を(n)とす――

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に就て其夫々の價値（之を $w_1, w_2, w_3 \ldots\ldots w_n$ とする）を決定せねばならぬ。各商品の一定量單位に體化せられた勞働量は既知數で、之を表はすに $A_1, A_2, A_3 \ldots\ldots A_n$ を以てする。かくて、我々は、方程式(8)から次の方程式を導き出すことが出來る。

$$\left.\begin{aligned} w_1&=(1+r)A_1 \\ w_2&=(1+r)A_2 \\ &\cdots\cdots \\ w_n&=(1+r)A_n \end{aligned}\right\} \cdots\cdots(9)$$

此場合未知數の數が方程式の數よりも二つ多いから、何とかして之を補ふ二つの方程式を求めなければならぬ。其れは次の如くにして見出される。

n生產品中には、價値尺度即ち貨幣の用を爲すものが當然に含まれて居る。今、此れを w_v を以て表はすとすると次の方程式を成立せしめることが出來る。

$$w_v=1 \cdots\cdots(10)$$

これで一つ出來た。更らに第二の方程式を見出すには、マルクスが與へられたものとした貨物勞銀を取り來らねばならぬ。貨物勞銀は n 生產品中の若干數の一定量から成るに相違ない。之を言ひ換へて、貨物勞銀は n 生產品の凡ての一定量 $\mu_1, \mu_2, \mu_3 \ldots\ldots \mu_n$ から成るもので、其等の中の或るものは $=0$ であるとしても、同じことになる。此の貨物勞銀の價値は假定によつて貨幣勞銀に均しい。然るときは、次の方程式が成り立つ。

$$\mu_1 w_1+\mu_2 w_2+\cdots\cdots+\mu_n w_n=l \cdots\cdots(11)$$

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ソコデ方程の數 $n+1$ と同數の未知數とを得ることになる。此等方程式を最も簡單に釋くには次のようにすれば宜い。方程式(9)を方程式(11)で釋けば

$$(1+r)l(\underline{\mu_1A_1+\mu_2A_2+\cdots\cdots+\mu_nA_n})=l \cdots\cdots(12)$$

下に線を引いた項をUと名づければ、

$$\mu_1A_1+\mu_2A_2+\cdots\cdots+\mu_nA_n=U \cdots\cdots(13)$$

となる。此のUは資物勞銀を形成する諸生産物の一體に體化せられた勞働量を求めすことは明である。其の大さは、マルクスの云ふ『必要勞働量』（資本論第一卷二百七頁）である。方程式(12)と(13)を約して、我々は

$$(1+r)U=1 \cdots\cdots(14)$$

又は

$$r=\frac{1-U}{U} \cdots\cdots(15)$$

を得る。剩餘價値率を此く表はすことは、マルクス說に取つて重要な事である。

（三〇）

右によつて剩餘價値率は、剩餘勞働の必要勞働に對する比例として、又た勞働中剩餘價値の生産せらるる部分の勞働者生活要品又は其の對價は對價の生産に用ゐらるる部分（必要勞働時間）に對する比例として表はされて居る。ソコデ例へば一日の勞働時間を十二時間、必要勞働時間を八時間と假定すれば、（15）のUは $2/3$ と置く可きである。從つて

$$r=\frac{1}{2}$$

即ち剩餘價値率50%を得るのである。

勞銀(l)の値を見出すには方程式(10)を次の如く書き換へれば宜い。

$$(1+r)lA_v=1$$

之を(15)によつて更らに左の如く書くことが出來る。

$$l=\frac{U}{A_v}\quad\cdots\cdots\cdots\cdots(16)$$

マルクスは『資本論』第一卷百七十六頁以下に於て、數字を以て以上の理を說いて、十二シリングの金量が二十四時間即ち二日間の勞働の產物なりとすれば云々と云つて居る。此數字を右の式に置いて見ると、

$$A_v=\frac{1}{6}$$

となり、之れに前の$U=\frac{2}{3}$を應用すると

$$l=4$$

となり、$U=\frac{1}{2}$（之れがマルクスの屢々使用する値である）とすれば、

$$l=3$$

となる。即ち勞銀は三シリングたることを知るのである。

此くて(r)と(l)とが既知數となるときは、(9)の方程式へ之を應用して$x_1, x_2, x_3\cdots\cdots x_n$なる商品價値を知ることが出來る。$(A_1, A_2, A_3\cdots\cdots$の勞働量は與へられたものと前提されて居るから)。然し又た

$$x_1=(1+r)lA_v=1$$

であるから、求むる所の商品價値は(ア)(イ)の媒介を須たず直接に次の式によつて見出すことが出來る。

$$w_1=\frac{A_1}{A_v},\quad w_2=\frac{A_2}{A_v}\cdots\cdots w_n=\frac{A_n}{A_v}\cdots\cdots(17)$$

換言すれば、諸商品の價値は、其生産に要せらるゝ勞働量によつて定めらるゝもので、勞銀と餘剩價値率の高低は商品價値に無關係であるのである。マルクスは實に此點に大いに重きを置いて居るので、而して此れによつて、商品價値の決定に方つて、勞銀支出高と資本家の利潤(Wert = Arbeitsloh・+ Profit + Rente)とから出發する通說を斥けるのである『資本論』第三卷第二冊三百七十八頁以下第三卷第二冊三百八十三頁以下並に『餘剩價値學說史論』第二卷第一冊八十頁以下。然し乍ら以上の考察は却つて、我々に數へてマルクス說と通說との間に何等の差違の存せぬことと誠にレキンスの言ふ通りであることを示めすのである。何んとなれば、我々の出立點たる方程式(7)は、商品價値は、勞銀と資本利潤との和から成立するものとの前提の上に立てられたものであつて、(9)に於て商品價値を勞銀の函數とし、(11)に於て勞銀を商品價値の函數とするのは、マルクスの言ふように「美事な詭術環」『資本論』第三卷第二冊三百八十二頁又は『憐む可き水車遊戲』『餘剩價値論說史論』第二卷第一冊八十頁ではないからである。(次號完結)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

商工黨・農民黨・勞働黨

資本主義の御者商工黨

河田嗣郎

一

商工業者が團結して黨派を造つて政治運動をするといふことは、今に始まつた現象ではない。其の團結が所謂政黨といふ實質を備へたものであると、然らざるとは暫く措き、商工業利益の保護増進の爲めに政治的行動に出づるといふ意味に於ては、從來諸國に多く其の實例を見た。就中著名なるものは前世紀の中葉に於ける英國マンチエスター商工黨の穀物税廢止同盟運動（アンチコーンローリーグ）で、其の牛耳を執つたリチャード・コブデンやジョン・ブライト等の活動の華々しかつただけ、又それが、英國に於ける商工業優越の時勢の生まれ出る警鐘と見るに足るべきものであつたただけ、其の運動は今日尙ほ世界の記憶に新たなる所なりとする

併し爾來商工業者の政治的運動は、それが商工黨として種々の名前を付けられる團結の下に行はれたにせよ、或は又普通の政黨の背後に潜む力として働きたるにせよ、諸國に於て引續き行はれ來つたもので、然かも其の實勢力は實に現時の政治の一般的色彩をして、商工支配の政治たる狀況を鮮明ならしむるに足るほどのものであつた。尤も獨逸の如きにあつては、帝國宰相カプリフイーの時代以後商工黨的な勢力が政治上に力を表はし來つたに對して、農民黨の政治運動も猛烈になつて、一時商工立國主義乎農業立國主義乎の爭が、國中を震撼するほどであつたが、彼のユンカーツームを基礎とする農民黨の勢力は當るべからざるものあるに拘らず、商工黨の勢力は、時勢の商工主義化と相伴ふて漸次拔くべからざる勢力として樹立せらるゝに至

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つた。

斯くて今や世界の進歩せる國々に在つては、其の經濟が一般的に資本主義化せられ、事實に於て商工本位の經濟となつてしまつただけ、それだけ實際政治上に於ける商工利益の尊重は一般的のものとなり、其の名稱あるとなきとに拘らず、政治の實權は商工黨の掌中に握られてしまつた有樣なりとする。即ち現今では、一時獨逸などで盛に論議爭鬪せられたやうな農業立國乎商工立國乎などといふやうな問題は、實際的に全く片が付いてしまい、何といつても商工立國的な傾向が強く、其の意味に於て商工主義は資本主義に打勝つてしまつて、斯かる問題を今更彼此いふのは、よほど時代後れの感あらしむるまでに立至つた。

先般の世界大戰の如きは、謂はゞ英國の商工主義と獨逸の商工主義との衝突に原因するものであつて、その商工主義に立脚する英吉利の帝國主義と、同じく又商工主義に據つて立たんとする獨逸の世界政策との、互に兩立し得ざる所より發源したものと見なければならぬ。併し英獨何れが勝つにしても、共に之れ商工主義内部に於ける國際的支配權に對する鬪爭たるに過ぎぬから、世界一般は依然として商工主義の支配の下に在るを免れることが出來ぬ。

二

商工主義はどう見ても資本主義である。之を縱から見ても横から見ても資本主義そのもの以外の何者でもない。元來が古典派經濟學の學説とマンチエスター流の教義とに依つて發ひ育てられたるものであるから、その完全の發育した現今の狀態に於ては、商工主義は完全に資本主義の面貌形態を備へて居る。即ち資本主義（キヤピタリズム）は一名之を Commercial—Industrialism とも稱する次第で、詮せば商工主義たるに外ならぬ。

商工主義の立場とし目的とする所は、個人主義の見地に依り之に自然主義的な見地を加味して、成るべく各個人の行動の自由を許し、所謂自由競爭制の下に、各人各々自己の發意と能力とに依て活動し、或は單獨に或は他人と團結合同して經濟業務に與はり、營利を目的として生産企業の隆盛發達を圖り、各人が富むと同時に社會をも富まし、功利主義の倫理觀を以てして、最大多數者の最大幸福を將來するといふことである。而して商工主義に據て立つ者の運動は、時に或は自由放任政策の要求を捨てゝ、保護政策の要求に向ふこともあるけれども、それはやはり營利的見地から、國内産業の保護を目的として之を要求するものたるに外ならぬ。

されば從來諸國に於て商工黨運動の目的とした所は、やはり常に個人發意の尊重、個人行動の自由の保障、理由なき國家干

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

渉政策の排斥、商工業利益増進の爲めにする租税其他公課負擔の輕減、原料獲得の自由と便宜との爲めにする國際的開放政策の要求、生産費低減の目的の爲めに勞働者生活費輕減の方策、換言すれば賃金を低廉ならしめん爲めにする物價特に食料品價格の低減方策、其他大抵之に類したものである。

そして其の要求する所は、常に必ずしも農業者其他の者の利益とする所に矛盾するといふ譯ではないが、若し矛盾するものありとせば、元來が商工主義は自由競爭制を地盤とするものであるから、商工黨が黨派的に有する實力に依て、自己主張の貫徹を圖り、之が爲めに他の産業に從事する者や一般消費者やが迷惑する所ありとも、それは個人主義的な自由競爭制の下に於ては洵に已むを得ぬ次第で、各自各々其の利益を護る爲めに起つて奮鬪する外はないと考へる。そして又彼等は此の奮鬪主義の立場からして、政府恃むに足らず、商工業者は自ら奮發し自ら力を養つて自ら自己の運命を開拓し、商工利益の維持増進の爲めに戰ふ外はないとするのである。

三

商工主義が資本主義そのものに外ならないで、商工黨の要求する所は資本主義を徹底せしむることに存するといふ事實は、吾々をして斯ういふことを考へしめる。即ち從來商工黨の政治運動に對しては、農民黨が對立するを例としたけれども、若しその農民黨なるものゝ立場とする所が、やはり又資本主義的なる見地なるに外ならざるに於ては、それはやはり資本主義内部に於ける勢力爭たるに外ならぬ。即ち若し農民黨が農本主義を主張するにしても、其の農業本位制なるものは、やはり農業が營利的産業として能く商工業以上に繁榮せんことを意味するものであるならば、之れも亦農業本位の資本主義の助長の爲めにせらるゝものたるに外ならぬといふこと之である。

けれども由來農業なるものは、其の性質上十分に資本主義化することの出來ぬものなるが爲めに、所謂農業主義なるものは純資本主義的なる商工主義に對して、やゝ非資本主義的なる對立的な主張たることが出來た。それが爲めに商工主義運動に對して農本主義運動がかなり有効に行はれる間は、それが資本主義の進行に對する牽制運動たることが出來たのである。

されば今此の牽制運動たる實質の失はれない限りは、商工黨の運動に對して農民黨運動が勃興して大いに有力に行はんことは、資本主義の徹底を妨げ、資本主義の助長より生ずる種々の時弊を救濟又は防止せんが爲めには、社會的に見て、大いに意義あることゝせなければならぬ。然しそれは、農民運動が農業本來の性質に遵據して、非營利主義の立場を守り、業務本位の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に據り、資本に對する勞働優越の見地を固持し、極端なる個人主義觀と物質的享樂觀とに對して、社會的團體主義と之に伴ふ和衷協同主義と精神生活尊重の氣風を確立することを以て本領とする限りのことである。若し此の本領が失はれるに於ては、農民の運動も亦商工黨運動同樣に　世を舉げて愈々資本主義化せん爲めに行はるゝものと見る外はない。

私は目下我國に於て問題になつて居る所の商工黨なるものが、果して如何なる主義綱領に據て立つものなるかを詳かにせぬ。一度その主張とか綱領とか稱せられるものが新聞紙上には掲げられて居たけれども、たゞ之を讀むだだけで、一々論議立をして見るほどの勇氣を持ち得なかつた。が然し自ら商工黨と銘打つて出たものであるからには、よし、然らずともその實質が商工黨たるに相違なしと見られるものであるからには、名前は實業同志會であらうとも、將又如何なるものであらうとも、大體その立場とする所は、從來諸國に其例を見たやうなものたるに外ならないであらう。

若し果して然らば、吾々一般の人々は、さなきだに近來我國に於ても商工主義の跋扈が段々著しくなり、政治の實狀も商工主義者の支配の下に在り所謂金の政治が段々露骨に行はれ、經濟界は餘りに營利主義化して、實業は虛業となり、極端なる個人主義と自由競爭制とは吾々人々をして我利々々亡者たらしめ、非社會的傾向が追々に助長せられ、社會理一的な發達は得られないで社會生活分裂の傾向が段々表はれて來て、實は今それ等の時弊に堪え得ざらんとする所なのだから、此上又商工黨など謂はれるものが出來て、更に此情を促進して與れるやうなことがあつては、實以てやり切れぬと思ふ。

私は農　黨の發生をそれ自體の意味に於て歡迎すべきものだとは信ぜぬが、若し、工黨などといふのが時代後れにも今頃になつて生れるものであるならば、その反對勢力として牽制運動を行ふに足るべき有力なる農民黨の發現をも希望せざるを得ない。然しそれよりも更に必要なことで最も望ましきものは、社會黨の建設であらねばならぬ。そしてそれは資本主義の助長運動に對する社會主義運動として、一般的なる時弊救濟作用の爲めに必要とせられ希望せられる次第である。（をはり）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

農民黨を起すべし

室伏高信

日本の現狀で商工黨を起すほど愚かなことはない。餘程に淺慮な資本家でない限り今日特に商工黨を起そうと考へる筈がない。何故なら今日の日本は商工黨の缺乏に苦しむのではなくてそれの多きに惱むでゐるからである。

政友會以下數種の既成政黨を見よ。何れか一つとして商工黨でないものがあるか。勿論彼等は商工黨だとはいはない。政友會は農民黨であるかのごとくにさへいひなしてゐる。大きな僞瞞である。革新俱樂部は既成政黨の打破を叫んで立つてはゐるがそれが商工黨であることにおいては政友會とも憲政會とも何んの異るところはない。

近代國家とは國民的國家である。即ち生活のナショナリゼエションである。ナショナリゼエションはセントラリゼエションである。セントラリゼエションは都會萬能主義である。經濟的都會萬能主義——商業主義及び工業主義——とともに政治的都會萬能主義——中央集權——が支配する。政黨とはこの政治的及び經濟的制度の必然的產物である。

都會萬能主義が政治を必要とする理由は三重である。その一つは都會自身に隣保生活の存在しないことである。その二つは階級が必在することである。その三は都會の寄生的性質である。即ち都會は自給自足ができない。都會生存のためには常に田園をそれに隷屬させて置く必要がある、その田園隷屬は經濟制度を根本とするがそれとともにこの經濟制度の維持のために政治的强制が必要である。その政治的强制が民主主義の假面をかぶつて現れたものを一つは議會と云ひ、他の一つは政黨と云ふのである。それゆえに政黨は議會と同じく常に都會的であり階級的である。

しかし階級意識が尙ほ不明瞭な時代には政黨は階級を縱斷することが可能である。こゝに政黨が被支配階級の隷屬性を永遠

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

化することの欺瞞的機能が存在する。日本の既成政黨はこの任務を意識的または無意識的に實行しつゝあるのである。こゝにまた日本の既成政黨が商工黨でありながら商工黨を標榜しない理由、國民的と名乘る國民欺瞞の政略が存在する。

この時に當つて商工黨を名乘る政黨が大阪で旗上げをした。勿論それも商工黨とは名乘つてゐないが實業家をもつて組織すること、資本の集積を要求すること、レエセイ・フエイルを標榜することにおいて、如何なる遲鈍なる人であつてもそれが商工黨であることを疑ふものはない。かくのごとき名實ともに明らかな商工黨を組織することはその正直さにおいて非難すべきことではないが、たゞ商工階級としての最高政略――階級と國民、資本家と國家、若しくは政黨と階級との關係を錯覺化することとしてこのうへもない愚かさである。世界の何處においてもかくのごとき愚擧はない。獨逸のスチンネス黨でさへフオルクス・パアタイと云ふてゐるではないか。

しかし被支配階級の側からいへば最も歡迎すべき現象である。即ち商工黨とは資本家階級として愚の骨頂ではあるが農民及びプロレタリヤにとつては最もよき機會である。何故ならそはプロレタリヤ階級及び農民階級の階級意識を刺激することにおいて最も有効なるものであるからである。

日本に勞働黨の起るであらうことは勿論である。現在においても共産黨が存在する。ロシヤと多くの共通點をもつてゐる日本において、共産黨がある種の役割を演ずるであらうことも想像に難くはないのであるが、共産黨のような獨斷的な原理とそのビユウロウクラチツクな方法とは滿足する人としない人とあるであらう。そこに別種のプロレタリヤ黨が起るであらうことも當然であらう。

しかし日本のように、ロシヤと同じく、プロレタリヤの微弱なところにあつては、革命の要素はより多く農民の任務である。農民はある種の國では頗る保守的である。フランスのごとき、若しくはバイエルン農民黨のごときはその適例である。しかし農民が常に反革命だと結論するなら大いなる誤謬である。ロシヤのごときは農民が最も多く革命的である。日本の農民がフランス型でなくてロシヤ型であることも既に過去數年の農民爭議によつて證明された事實である。

私は農民黨が起らねばならぬと考へてゐるものである。商工黨が都會で旗上げしたことは農民黨が他方に旗上げすべき好個の機會である。商工黨の成立はプロレタリヤに對してとともに農民に對する一つの挑戰であるからである。

農民にとつて緊急事は政友會が純然たる商工黨であることの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自覺である。政友會が農民黨であると考へること位ひ大いなる僞瞞はない。この僞瞞を悟ることのできない人たちは政友會の政策綱領を見よ。一つとして商業主義と工業主義との擁護の助長でないものはないではないか。

政友會が農民黨だと謬られるだけの理由はある。その鐵道政策や金融政策のうちにそれらしく見せかけてゐるものがないことはない。しかも鐵道の原理はナショナリゼエションではないか。地方金融制度を圓滑にするとは何か。例へば低利資金の問題のごときは何か。金融制度の原理は都會的商業主義である。猶太人的生活原理のもとに農民を搾取する制度である。その制度が發達すればするほど農民に對する都會の搾取は圓滑になる。金融制度の地方における圓滑は農民搾取制度の圓滑である。

農民の政治的覺醒は先づ政友會への敵對から始まらなくてはならぬ。そして農民獨自の團結を創始することでなくてはならぬ。私は必ずしもヒジオクラアトの亞流ではない。しかも農民生産のごとく重要な生産はこの地上に存在しない。アダム・スミスは商工階級の御用學者であつたが尚ほ商工業に比べて農業のより重要なることを認めざるをえなかつた。農民だけが獨立性がある。農民黨の綱領は自給自足主義であるべきである。寄生階級の廢止、從つて寄生都市への對抗であるべきである。それは最小限度の政治的組織であり、且つ政治的性質を瞬間的に具有するだけである。その組織はニイバアフッド組織であるべきである。都會萬能主義へのレヂスタンスであるとともに眞實なる農村生活の回復、都會獨裁からの農民の解放、唯物主義の排斥、農民的世界觀の樹立、創造的自由人社會の建設であるべきである。從つて一切の中央集權的官僚的奴隷的なものを否認する農民はその久しく奪はれてゐたものを回復するためにかくのごとき團結を必要とする。そして今日のごとき原理喪失の農民運動にその向ふところを示さなくてはならぬ。この機においてブルガリヤ農民黨の宣言と綱領とはわれ／＼に教ゆるところ最も多いと思はれる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

商工黨勞働黨農民黨の我が國に於ける將來

桝本卯平

生活意識の痛烈な刺戟と共同自衛の餘儀なき必要とが、我が國には近來社會の目を餘程醒まして來たのは明白な事實です。この事實に加へて人心に行動の自由が起つて來て居ります。

かういふ社會現象に伴ふて、他の一方には國家の統一が弛みがちです。國家統一力の弛緩は社會の表面に現はるゝ諸種の厭ふべき日々の事柄で、社會の目に脅威を與へてゐます。この脅威は社會の眞面目な生業者に自衛の精神を發揮させずには止みません。その一例が昨今社會に發生して來た商工黨です。商工黨の發生動機は、統一機關の弛緩に伴ふ生業者の自衛の自覺に相違ありません。勞働運動者も同じ性質の自覺に依つて動いてゐるのでせう。それが國家の統一機關に足蹈み込んで、廣義に自衛の根本を策するのは理の當然だと信じます。農民も同じ道を蹈むでせう。蹈まなければなりますまい。

問題は時です。この時に一つの煩があると考へられるのは、同一生業者間の統一です。團體は統一が主です、その統一は現在我が國の最も缺乏せる點です。そのために國家の機關が弛み、そのために生業者各自・團體的自衛の必要を起してゐます。そこに矛盾が現はれてゐる譯です。けれどもこの矛盾は夕と朝とのやうな性質でお互原因結果のいりたちごつこの姿があります。自然の理で心配は入らぬ。

社會の生業者が共同利害の自覺から統一を促され、地方的に組合その他の形に於て、政治的運動團體の地盤を造つて行くのでせうが、それと同時に生業者は、根が空中に生えてゐるやうな政治職業者とは別なために、個人として自己を統一してかゝらねば、自分の所有を却て臺なしにしてしまう。その自己統一が出來る期が、眞に社會の生業者の堅實な政治的團體の生ずる時だと信じます。私は朧げながら自己統一の芽は出かけてゐると見てゐます。之が我が國民の自主精神の芽生えでせう。

我が國の將來に生業者各自の政治運動團體の生ずる必要と又その團體の生ずる氣運とは確に疑ふ餘地はありません。さうしてそれを發生させ、堅實に造り上げ、弛緩せる國家の統一を回復して、國民生活の安全を保つ道は、別にいろ／＼考へずとも自主精神の擁護一つを主眼とすれば十分だと信じます。

（了）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

議會内の階級闘爭

馬場恒吾

武藤山治氏の造つた實業同志會なるものはまだ之を政黨と云ふ譯けには行かぬ。寧ろ之は今後生れんとする政黨の選擧母體と云ふべきである。恰も有爵議員の選擧母體の如きものである、貴族院に於て、研究會、公正會と云ふ政黨まがいのものがあるが、研究會は子爵仲間の選擧母體たる尚友會の選んだものでおり、公正會は男爵仲間の協同會が選んだものだ。議院に於て、表面に立つて活動するのは研究會若しくは公正會としてゞあるが、其研究會又は公正會に屬する議員も、重大な問題に出くわす時は、次ぎの選擧で自分等が選ばれるか否かゞ問題になるが故に、選擧母體たる尚友會、若しくは協同會の意見を聞いて初めて行動する。武藤山治氏の作つた實業同志會なるものも、行く／＼は衆議院議員を選擧すると云ふ、武藤氏自身は議員になる意志はないと云ふが、實業同志會からは多數の代表者を出す事に勉めるであらう。或は百五十名位の代議士を作る計畫であるとの話しも聞いた。これらが衆議院内に於て商工黨を組織し、實業同志會と云ふ選擧母體の命令を聞いて、日本の商工業者の利益を增進する事に勉めるのである。

武藤氏は天は自から助くるものを助けると云ふ信條に生きてゐる人であるかの如く見へる。彼は所謂政商と云ふものに對して大なる反感を抱いてゐる。彼れは東京若くは大阪の大實業家なるものが、政府の保護を願つたり、政黨と結托して金儲けをする事を、此上もなく苦々敷き事と思つて、常に商人は獨立特行して金儲けなすべきである。國家の御厄介になつたり、國民に迷惑を掛けて、金儲けをするのは商人の面汚しであると憤慨してゐる。故に彼は日本銀行の井上總裁に對しても公々然痛烈な攻擊をしてゐる。それは彼の事業の根底が紡績業であつて、直接に政府の保護を受けずして、獨立特行して大なる利益が擧げうるから、當り障りも關はず、自分氣儘の氣焔を擧げる事が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

出來るであらうか、同時に此自由主義の精神は、紡績業の本場たるマンチエスターから輸入したものとも見られる。マンチエスターは自由主義の發祥地である如く、同時に資本主義の發祥地である。自由主義の別名が資本主義であるのは今更說明する迄もない。武藤氏は天は自から助くる者を助くと云ふ原則に從つて、商工業者も、政治上に於ては、政府や既成政黨に助けを求める事は止めて、商工業自から政治に參與せねばならぬ。他人のお情けに依るのでなく、自分の力を以て、自分等の利益を保護せねばならぬと云つて居る。固より之を惡い心掛けと云ふのではない。資本主義の精神、卽ち自個の利益を極力增進し、保護する立場から云へば、かう行くのが必然であると云はれる。其必然なる所に人類發展の上に面白い意義がある。

商工業は日本の商工業者の利益を代表すと言明してゐるのだから、疑もなく之は商工業者の階級的政黨である　一種の職業團體である、此點に於て現在の政黨とは全く其性質を異にしてゐる。

現在の政黨卽ち政友會、憲政會、乃至革新俱樂部の如きは此意味に於ける職業團體でない。勿論彼等も漠然たるブルジョア代表であるとは常に批評さるゝ所であるが、彼等自身に云はしむれば、それは反對派の讒誣中傷であつて、自分等は國民全般を代表するものだと云ふ。而して彼等がさう云ひうる所以は、彼等自身にもハッキリとした階級意識がないからである。其政綱と云ひ、主義主張と云ひ、何れの階級の利益を特に代表すると云ふのではなく、八方美人主義で、何れの階級にも都合の良い事を云はんと勉める。其結果何の政黨の政綱も抽象的な、分り切つた事のみを並べてゐて、政黨間に何れを何れと區別する事が困難だ。例へば政友會の綱領に憲政會と見出しを付けた處で大して困る者もなく、憲政會の主張を革新俱樂部に云はしても、變だと思ふ人は多くあるまい。政黨は理想と主義とに依つて分れると云ふが、今の政黨の理想や主義は大抵似たり寄たりのものだ。それは何の政黨も全國民をお得意とすると云ふ看板を揭げてゐるからである。例令此看板はカムフラージであつて、實質はブルジョア自分のみの利益を代表するものであつても、看板丈けは全國民の利益を代表するかの如く標榜してゐる。彼等は決して己れ等は金持階級を擁護するもの、或は地主と資本家を代表するものとは公言しない。彼等は何でも我等は國民を代表するものだと云ふ　而して彼等の仲間の單純なる頭を有つてゐるものは、實際腹の底からさう信じて、一つはしの志士を以て自から任じてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此全國民を代表する事を以て理想とする現今の政黨に代るに商工業者と云ふ一階級のみを代表する商工黨が生れて來る。商工黨が生れる以上、之に對抗する爲めに農民黨も生れるであらう。勞働黨も生れるであらう。玆に政治上の分野に根本的な改造が行はれるのである。

即ち今迄の政黨は實質のない主義とか理想とか云ふものに依つて分れた。上下を通して、全國民を縱斷的に分割する形を採つた。然るに商工黨、農民黨、勞働黨と云ふやうな分野は無形な主義とか理想と云ふものに依つて分かれるのでなく之を組立つる人々の職業と階級に依つて、横斷的に分割されるのである。其分割の標準が、人々の有する身分に依つて決まるものであつて、其人々の趣味や趣好、乃至其人々の平生の主義や理想が何うあつても、そんな事に依つて何うともする事の出來ぬ程、實質的なものである。例令へば工場勞働者であつて見れば、如何に其人が園藝趣味を有つてゐても、或は菜食主義を抱いてゐても、其人が農民黨に入る氣遣ひはない。農民黨にしても、工場勞働者を黨員としては歡迎せぬであらう。同じく玆に大地主があるとする。其人は個人として如何に善良なる人であつても、又如何に慈悲深い人であつても、其人が直ちに土地沒收を主張する勞働黨に贊成しさうもない。政黨が今迄の如き主義主張に依つて分かれてゐる間は國民は何れの政黨に付くも自由であり、又付かぬも自由である。然るに政黨が階級的職業的になる時は國民は自から進んで政黨に入る前に已に、自分の入るべき政黨が決定されて居り、又例令自分が形式的に黨員にならずも、何かの時には黨員としての恩惠にも浴し、或は義務をも徴發される事になる。例令ば玆に勞働黨の命令、若しくは勞働黨の選擧母體たる勞働組合の命令の下に、總同盟罷業が起るやうな事があれば、勞働黨に屬さない職工を罷業の仲間入りを余儀なくされるであらうし、又之に反對なる商工黨に屬さない工場主を、商工黨幹部の指揮命令に服從する事を余儀なくされるであらう。故に今迄の政黨なれば、國民は之に對して去就の自由や、撰擇の自由はあつたが、階級的職業的の組織に對しては、國民は去就の自由も、撰擇の自由もなくなる譯である。少くとも階級の差別がなくなる迄はさう覺悟をせねばならぬ。

商工黨の生れんとする事は、政黨組織の原則を變更するものとして重要な意味がある。武藤氏は既成政黨の頼み甲斐なき事を罵つてゐる。それは武藤氏以外の人も屢々云つた事である。それで武藤氏が自由主義を唱へて、英國の自由黨の如きものを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

組織したら、それは政界に一生面を開くものであつても、彼が商工黨を組織したほどの重大な意味はなかつたであらう。何となれば英國の自由黨は其實マンチエスター派の商工黨ではあるけれども、其主義綱領は現在の日本の諸政黨と同じく、全國民に訴へる一般的のものであるからである。然るに武藤氏は此一般的の政黨に滿足せず、進んで職業的な階級的な商工黨を作らんとする。それは日本の社會に起らんとする階級鬪爭に對する資本家の準備として見るより外はない行き方である。

故に武藤氏の所謂既成政黨が賴むに足らずと云ふのは、今の政黨が腐敗したり、無能であつたりする爲めに、賴むに足らずと云ふ意味ではなく、階級鬪爭の際の資本家の味方として、戰鬪力がありや否やを考慮して賴むに足らずと云ふのであらう。政友會の中に農民黨となる素質を有する者が澤山居り、憲政會の中には、勞働黨になりかねまじき者が澤山居る。これに反つて純商工業者、純資本家の護衛兵を作らんとする事は得策でない。寧ろ商工業者自分の力を以て純商工黨を作つた方が安全であると、かう斷定すれば、武藤氏が商工黨を計畫するのは無理はない。武藤氏が果してそれ迄考へたか否かは知らぬが、氏の如き實業家が、無意識的にもさう云ふ方針に進む所に、社會變革の當然進むべき途を進んでゐる事が分るのである。

此を動機として今迄の無意義な一般的な政黨が分解作用を起し、新たに商工黨、農民黨、勞働黨と云ふ如き、階級鬪爭を目的とする諸政黨が起つて之に代るならば、議會が階級鬪爭の縮圖になる。議會に於ける階級鬪爭が議會外の階級鬪爭の代りになること、恰も種痘が天然痘の代りになるほど有效であるか、否かは疑問である。吾々はそれを有效であらしめたいと思ふ。それには思ひ切つて議會制度を改選して、議會を各職業、各階級を完全に代表するものとならしめる必要がある。今の如き議會の組織で、院外の階級鬪爭の緩和劑たらしめんと希望する如きは到底駄目な事である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

商・農・勞三黨の日本に於ける將來

高橋龜吉

一國の資本主義制産業が、主として、內地消費を相手にして繁榮する限り、而して、其の輸出が主として其國の原産品乃至特有品に依存する限り、其の國の政黨は、地主と商工資本家との共有機關たることを常とする。我が現在の政黨は、正しく此の階段に於ける産物である。英國は已に約一百年前此の經濟時代を過ぎ、米國は今尙ほ此の經濟時代に在る。

蓋し、此の時代に於ては、地主の政治的保護と商工業者の政治的保護とは、互に兩立し得るからである。尠くとも、地主と資本家との二つの搾取階級は、相提携して、小作人や勞働者を搾取することを、より利益とするからだ。例へば、地主が農業品の保護關税を設け、乃至は米の買上其他の有らゆる政治的保護をセシムれば、資本家は亦、其の製品に高率の保護關税を設け、其他有ゆる口實の下に、政府の補充を強要する。斯くて、地主と資本家とは、其の搾取物を山分けすることが出來た。兩者仲善く、一つの政黨の下に滿足することが出來るわけである。

乍併、一度、一國の資本主義制産業の繁榮が、內地相手に於て行詰り、海外相手に發展の途を拓かねばならなくなり、從つて、其の輸出も、國際競爭上一般的な資本主義的生産品に依存するに至ると、事情は全く一變する。此の場合に於ては、關税の保護は何等資本家に利益を齎らさないのみならず、地主の保護から結果する農業品の高價は、必然に勞銀を高め、資本家の國際競爭力を其れだけ低下せしむる。地主と商工資本家との利害は、玆に至て全く相反する。地主黨と資本家黨との分化が起るのは此の秋である。

武藤山治氏の旗上げした商工黨運動は、正しく、此の分化運動の先驅である。我が國民經濟は、已に此の時期、即ち、地主と商工資本家との爭鬪時代に進してゐるからである。例へば、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

去る四月廿八日號の東洋經濟新報に由ると、日露戰後に於ては、我が輸出の約三割一分迄は原産品（農、水、鑛産）及び本邦特有の雜貨類で占め、約三割二分は生絲類、殘りの約三割六分が大體に工場生産品であつた。其れが、昨大正十一年に於ては、原産品は僅かに一割三分に過ぎず、生絲類約五割六分、工場生産品は四割四分余に激增した。詳細のことは、右に引用した東洋經濟を參照してもらふ外はないが、兎に角、我が資本主義制産業が、愈々多く、海外市場に依存するに至れる事情を看取し得るであらう。尠くとも我が資本主義制産業の今後の發達が、一に輸出の發展如何に懸ることは明かである。

果して然らば、武藤氏の旗上げせる商工黨自身が、果して成功するか否かは別として、我が政黨が、今日のまゝで存續し得ない經濟事情にあることだけは明かである。何となれば、利害の兩立し得ざるに至つた地主と商工資本家とを、一政黨の下に糾合することは不可能であるからだ。我が資本家は、進んで地主を搾取することに由つて、農産價品を下げ、以て、勞銀を低下し、國際競爭に勝利を得ねばならない位地にあるのだ。且つ又、農村の荒廢に由つて、廉價な勞力を豐富に得ねばならない境遇にあるのだ。必然に、搾取階級の已存政黨は、商工黨と地主黨とに、分化せざるを得ない。其の分化の形式が、武藤氏の商工黨の成功に由つて起るか、乃至は已存政黨の內容變化に由つて起るか、或は又、政友會が農民黨に、憲政會が商工黨となるか否かと謂ふが如きは、今の私の見地からは、大した問題ではない。

乍去、必しも、商工資本家の利害は、全部一致してゐないこと勿論である。例へば、金融家、商業家、工業家の利害は相反する場合が多い。現に、英米に於て、金融及商業階級は歐洲救援を利益とし、工業家乃至農業家は之に反對してゐる。又、武藤氏の代表するが如き紡績品は平和的海外發展を利益とし、金融資本家乃至政商の種類は帝國主義を謳歌する。英國の輸出大宗品が紡織品たりし間は、自由主義が旺んであり、鐵製品乃至金融資本が同國經濟の中心となるに及んで、帝國主義が旺んとなつた如きである。從つて、等しく資本家黨も其の中で分化するかも知れない。

かゝる事情の下に於て、地主黨は始めから守勢である。何ものの攻勢的基礎を持たない。否、頼む夫に逝去りされた、據處ない女の獨立である。勝算は少しもない。何しろ、此の狹い日本で、人口は年々七十萬人から殖へるのに、出稼に行く處はなく、內地は野も山も、餘す處なく已に耕作されてゐるのだ。一人當りの耕作段別が過少で、今日でさへやつて行けずに、小作

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

爭議が頻出してゐるのに、此の上どうして、農業で、此の殖へて行く人口を支へることが出來やうぞ。どうしても商工立國の外はないとすれば、農業よりも商工業を可愛がらねば口が干上る。其の上、現に、日本で消費する農産品の自給が出來ずに、年々輸入に頼る數量は増加しつゝある。何とか、自給の出來る間は、軍國主義者流の「食料の自給自足」論の御蔭を蒙ることが出來るが、地理的に到底自給出來ないことが明かになると、其んな議論に耳を藉し手が無くなる。「濡れぬ先こそ露をも厭へ」だ。どうせ足らなければ、高い飯を喰つて保護するには及ばないと來るに違ひない。尤も、選擧法の力で、地主が其の經濟實力に伴はない政治力を持つてゐる限りは、多少の抗爭力を持つてゐるであらうか、若しそうなれば、資本家黨は勞働者を味方に引入れて、バランスを破るに違ひない。英國の資本黨が輸入穀物關税廢止を畫期として、地主黨に勝利を得たのはそうであつた。

處で、地主黨は、愈々資本黨に叶はないとなると、今度は地主黨も亦、勞働者を味方に引入れようとするに違ひない。斯様にして、勞働者は暫く、「キヤスチング・ボート」を持ち、漸次に又は急速に、其の政治的勢力を養ふであらう。かゝる裡に、地主黨は全敗すべき運命にあること謂ふ迄もない。乍併、一度、勞働黨の勢力増大せば、再び地主黨と資本家黨との提携すべきことも亦、疑ひない處であらう。勞働者の搾取に對しては、兩者は最も密接な共通利害を有するからである。

尤も、茲に深甚の注意を要する問題は、地主連が賢明にして、小作人其他の農業勞働者を糾合して、都會對農村の利害を代表する、農村黨を組織し得るか、どうかである。此の可能は、資本主義の農業搾取戰の初期に於て最も強い。此時に於ては、地主のまきぞへを喰つて、小作人も、共に尠からぬ打撃を蒙るからである。而して、若しも、小作人の利害を代表する政治機關が他にない限り、此の場合、小作人は地主黨を援ける外に、自己を保護する方法はないからだ。若し、かうした農村黨が出現せば、地主黨の勢力は尠からず増大して、資本黨、農民黨、勞働黨の均衡は、以上の豫測とは可なりに變つて來る。乍併、日本の如く、地主の小作人搾取が異例にヒドく（小作料の二三割以上の引下が現に行はれてゐる程）且つ、一般地主よりの、小作人の自覺が、より深かい現狀に於ては、若し其處に勞働黨があるとすれば、恐らく、小作人は地主黨と握手せずに、勞働黨の傘下に馳せるであらう。日本の經濟事情からは、地主を厭

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

迫して、地代を下げさす方が、より容易で、より利益が多いからだ。果してそうだとせば、勞働黨出現の前提たる普選實施の遲速は、地主にとつては、資本家にとつてよりも、更に重大脅威である。

最後に勞働黨の將來である。無論、普選實施後のことであるが、先づ第一に問題となるは、勞働者は急速に勞働黨が成立するか、又は自由主義黨に政治運動を委するか否かである。私は、至急成立するものと考へる。斯く考へる譯の一は、日本の資本主義經濟は、此の上、其の發達に由つて、勞働者の生活程度を向上せしむる餘地の乏しいことである。顧れば、英國に於ては、十九世紀半ば以來、二十世紀初期に至る迄、其の資本主義の發達に伴つて、資本家も利益を增しつゝ勞働者の生活程度を向上さした。此の限り、勞働者は政治運動に與はらず、之を自由主義者に委して、專ら勞働組合運動に從事することに由つて、資本家利益の分け前を、より多くセシムルすることが出來た。乍併、一度、廿世紀初に於て、英國の資本主義が、獨米等の競爭のため行詰り、勞働者に分け前を增加する利益源を失ふに至るや、茲に勞働者の生活程度を漸落せしむることとなつたのである。此時に於ては、勞働組合の力のみでは有効でない。斯くて、英國の勞働黨は組織されたのである。米國に於ては、其の資本主義の發達餘地未だ大にて、勞働者は其の御コボレで、今尚ほ生活程度を高め得べき時期にある。即ち、故ゴムパース一派が、勞働者の政治運動を禁じて、專ら組合運動に沒頭するわけである。然るに、日本に於ては、今日迄に於ては、大觀して、其の資本主義の發達に伴つて、勞働者の生活程度は向上した。乍併、今や、其の生活程度の向上其のもののため、内地に於ては勞銀の騰貴に苦しみ、外にありては低廉なる勞銀を武器とせる支那產業の競爭あり、加ふるに、英米其他の先進國は、從來の地盤と、政治的特惠とを以て、日本產業の競爭力を不利ならしめ、愈々激烈に競爭を試みつゝある。實に、我が資本主義經濟は内外より、行詰りつゝあるのだ。今後、資本家の利益を保證しつゝ勞働者の生活程度を向上せしむる余地は極めて乏しいと見なければならない。かゝる場合、勞働組合運動だけでは駄目だ。政權をとらなくては、勞働者の利益は保護されない。

第二は、我が勞働階級は、歐洲勞働者の經驗に敎へられた、より速く、經濟と政治との關係を理解してゐることだ。之を要するに、我が國には、勞働黨成立の物的條件も、精神的條件も具はつてゐる。勞働黨は急速に發達せざるを得ない。現に、各勞働組合の普選態度に尠からぬ變化を來しつゝある。無論、勞働黨の裡にも、將來分化作用の行はるべき、幾多の分子を含む

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であらう。或は、初めから分化して誕生するかも知れぬ。

要するに、我國に於ては、所謂、自由主義黨の全盛時代は見られないで、一足飛びに、勞働黨と資本黨との對立（數多の分化政黨を伴ひ、又は伴はず）に急進するのではあるまいか。地主黨の全盛時代は最早過ぎた。將來の我が政黨からは、段々と忘れられ行くであらう。武藤氏の商工黨運動は、之れが弔鐘である。

因に、武藤氏の商工黨は其の政策の中に地租廢止を掲げてゐる。之を以て地主との利害相反を裏切るものと見てはならない。地租とする限り、其れは農産品の原價に勘定される。地租の代りに一種の所得稅其他の收入稅を課すれば、一方に於て農産價を下げ、他方に於て地主を搾取して、資本家は、一擧兩得と謂ふ裏道がある。

無意味で有意味の商工黨

長谷川如是閑

政治の否定は、總ての近代的運動を一貫する傾向であつた。それは恰も戰爭の否定が、總ての近代的運動の反面であつたのと共通の現象であるが、然し戰爭の否定にしても決して絕對に戰爭をしないと云ふ意味ではなく、戰爭を支配の基調とする組織を否定するのであつて、或る場合に戰爭の止むを得ないことを認めてゐるのは云ふまでもない。政治の否定も傳統的階級政治を社會管理の基調とする組織の否定であつて、或る場合に於いて政治的行動の必要であることを拒むものではない。

我が國に於いても、一般の運動が政治的のそれから社會的のそれに急變した爲めに、一時政治否定の意識が非常に濃厚になつて、社會運動家は、絕對に政治運動を無視したのであつた。然し今日も尙、根柢に於いてさう云ふ傾向を潜在せしめてゐるに拘らず、實際上の形勢は自からさう云ふ極端な思想上の立場を緩和して、より多く實際的の傾向を取らしむるに至つた。在來の政黨運動は、最早や、何人にも格段の興味を惹いてはゐないが、此の因襲的の形勢を打ち破つて、新な政治的分野を作る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云ふことが稍々實際的に考究される傾きを持つて來た。それが最近の傾向のやうに思はれる。

此の傾向は恐く、謂ゆる一時の氣迷ひの狀態に基づくものであるかも知れない。隨つてその現實の影響がどれ丈歷史の上に有力に働き出すかも疑がはしいが、然も慥かに、日本の實際の形勢は、所謂革命家が、或る時期に意識した程、實質的に進んでゐないと云ふことが一般の間に知れ亘つた結果、實際的傾向の方へ大勢が向つて行つた譯である。そこで極めて超躍的な理想を懷いてゐた人々も、もつと現狀を根柢とする謂ゆる有機的進化を觀らう傾きとなつて、普通選擧の要求が熾烈となつたり、新たな政黨運動が注目されるといふやうになつて來た。普通選擧に關連しては、勢ひ勞働者の政黨小作農の政黨等が考へられる。それ等に對抗する意味に於いて純ブルジョア黨即ち地主農の政黨や商工黨やが思ひ付かれる。

勞働者、小作農、地主農、商工業者、此等の四つの中で、現代的政治組織の上に有力の地歩を持つてゐるものは、第三の地主農と第四の商工業者だけである。他の二つは、現在の政治組織からは除外された隸屬階級に屬し、從つてその要求は謂ゆる政治機關を通じて有機的に働き出す可能性に乏しい地位にある。言ひ換れば、彼等は政治的に除外された爲めに、合理的手段によつてその要求を貫徹する方法がなく、力の表示によつて示威する外はないことになつてゐる。之に反して地主農や商工業者等は、現代政治の組織の中に織り込まれてゐて、經濟的には管理者の地位にあり、政治的には所謂有權者の地位にある。現代政治は此の兩階級を除け者にして運轉する譯にはいかない。そこで今の組織に於いて直ちに新しい政黨的運動を起し得る程現代政治の中に抱擁されてゐるものは唯此の兩者だけである。

日本の既成政黨は、地主農本位に發達して來たものであるから、地主農は、現在の政治的勢力として甚だ有力な地位に在ると云つていゝが、商工業者に至つては、それが最近の顯著な產業的發達に依つたものであるだけ、その勢力は、比較的政黨的に代表されてゐないとも考へられる。これ最近に至つて、一派の商工業者の間に新らた商工黨の運動が起つて來た所以である。

然し商工黨が新たな政黨運動であるか如何は問題である。武藤氏の主唱する處に依つてもそれが新な政黨運動であると云ふ意義は唯、既成政黨が適當に彼等の職業上の地位を代表するものでないと云ふだけであつて すべての要求は畢竟之れた基點としてゐるものに過ぎない。元來、日本の國狀では、政黨が地主農の重大な地位を認めない譯に行かないかないと云ふ特別の

狀態がある爲に、既成政黨のすべてが自然、地主農本位のものとなる傾きを持つてゐた。商工業の發達は極めて最近のことに屬し、急激にその勢力を增進したには相違ないが、商工業者がその急に勃興した勢力で政黨運動に這入つて行くと、その政黨は最早や農民の勢力を中心とした傳統を持つてゐて、純商工業者本位の立場を取ることが困難であることを發見したのである。政黨の有力者は總て、その選擧關係から地主農を主とせなければならない地位にある。然し、最近に於いて商工業者は非常に有力なる地位を日本の經濟生活の下に占むるに至つたのであるから、その有力な政治上の地位が適當に現在の政黨で代表されてゐないといふことは商工業者に取つては不合理の狀態と思はれるに相違ない。

無論既成政黨はその尨大なる形態を維持する爲めには地主農を離ることとは出來ない。が然し今日の政治上の實權は既に地方分權的な農民の手を離れて、中央集權的の商工業者の手に歸してゐる。之は大商人と政黨との關係の示してゐる通りである。けれども此の關係だけでは必しも日本の商工業者と今日の支配者との完全な一致とは言はれない。大商人は唯政府との結托によつて、私利を營む手段として結合してゐるに過ぎないので、純然たる商工業者の政治がイギリスやアメリカに行はれてゐるやうに日本にも行はれてゐるといふ狀態ではない。英國の自由黨の勃興は、同國に於ける貴族と地主農との獨占的勢力に對し資本主義的商工業が謂ゆる自由主義的經濟組織の下に發展した結果であつて、自由黨の本體は純商工業者の政治そのものなのである。之に反して日本の此までの狀態は、官僚の巨頭と商人の巨頭との私的の結托であつて、政府と商工業者との結合は、イギリス流の商人政治ではなくして、專政時代の所謂御用商人の組織に依つてゐるに止まる。斯樣な組織は、資本主義的自由經濟組織が發達するに從つて、不合理を感ずるに至ることは當然である。武藤氏一派は、そこで、御用主義から自由主義に轉化する時代の代辯者として現はれた譯である。

資本主義的自由經濟の組織は、武藤氏も力說してゐる通り、政府と御用商人との結托に依つて私利を營むと云ふやうな、專政政治に於ける商業組織を脫して、國家的拘束を離れた資本主義それ自體の經濟組織を發展せしめることである。此の自由主義に於いては、資本主義經濟組織が主體であつて、國家はそれに隸屬する番犬に過ぎない。英國の自由黨の理想は即ちそれである。商工黨、少くとも武藤氏の商工黨は明かに此英國流の資本主義的自由經濟に基くリベラリズムの政治の實現を望むものである。それは即ち十九世紀の英國式商人政治を實現せしめん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とする企である。

日本の既成政黨は、一方で農民の投票に依頼すると同時に、他方で貴族及び官僚の掣肘を受けて、商工業者との間の關係はたゞ兩者の巨頭間の私的營利を目的とする結托があるのみである。だから新な商工黨は自由主義的商人政治そのもの、即ち彼等自からの政治を實現する組織を要求する順序となつたのである。

然し乍ら日本は英國と異つて、地主農の絕滅と云ふやうなことが到底實現される筈のものではない。英國の自由主義は、地主農の崩壞に比例して發達したのであるが、日本の今日の地主農も亦英國に於ける產業革命當時の地主農のやうな、窮狀に陷つて、次第に小中地主の減少を來たしつゝあるが、農業そのものゝ商工業に依る打擊の結果が英國のやうに急に進捗するか如何かは問題である。それは例へば日本人の米を常食とする習慣と、これに對し海外よりの米の供給の關係に何うであるかといふやうな問題もあつて、甚だ微妙な現像であるが、兎に角、日本の農業は日本人の主食物が小麥でなく米であると云ふこととの重大な影響を受けるに違ひない。之は言ひ換れば大地主農の農業上の地位が比較的安全であると云ふ意味である。隨つて地主農は、日本では今後も長い間、政治的に有力な地位を保つことが有り得ると思はなければならない。

處が、小中地主農の減少は明かに現在の政黨の基礎の上に影響しないわけに行かない。即ち小中地主農減少の結果、選擧權は擴張されても、農業者の投票權は在來の比例を保つことが出來なくなる恐れがある。だから或程度までは、產業革命的變化が日本の政黨政治の上にも現れて來るに違ひない。然も今日の狀態では何と言つても政黨は、地方的根抵が大切であつて、それは自ら地主農本位となる。商工業者が、新たなる政治的根據を築き上げる必要を感じてゐるのは當然である。けれども、十九世紀以來の政治的傾向は常に、數量に關係してゐる。如何なる巨頭も、數量の支配を受けないわけにいかない。政黨は殆ど、此の數量の外に何等の力を持つてゐないと言つてもいゝ位である。此の數量の關係から、謂ゆる二大政黨主義が起つたのであつて、政黨政治は如何してもさう云ふ對立狀態に趣く傾向がある。中間政黨として起つた小數黨も、此の數黨の勢力が、尨大でない間は、謂ゆるキャスチングボートを握る外に仕方のない地位にあるが、次第に彪大になれば自から對立的關係に這入り込む　英國の勞働黨のやうなものがそれである。日本の商工黨は果して、中間政黨から對立的地位に迄で尨張する可能性があるだらうか如何か。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

右の問題は畢竟、日本に於ける資本主義的經濟組織が何處まで英國流に展開するかどうかと云ふことに依つて決せらるゝのである。此點に於ては、前述の如く、日本の農業が特殊の地位にあると云ふやうな、特別の事情が妨げをなすにも係らず、或程度まで産業革命的結果が、支配することを免れないと認める外はない。何となれば、中小地主の減少は、地主農を次第に數の勢力から追ひ遣ることになり、今日のデモクラシー政治の上で彼等の勢力の狹めらるゝことは當然である。これと關聯して資本主義的潮流は、これ等の大地主をして、商工業に於ける資本家の地位に立たせるのであつて、自然の進化は、地主農と商工業者との混同を惹き起すこと、英國に於ける貴族の場合と同じ譯になるのである。故に既成政黨の進化の過程は、矢張り商工本位の方へと向ふものと見て宜い。

此の除々たる經過から見ると、新たに起る商工黨なるものは決して、新たな運動ではないので、畢竟既成政黨の進化に一致し、それに順應して起つた當然の過程であると云ふことになる。即ち日本の地主農黨が商工黨に轉化する途中の一つの現れとして商工黨なる聲が起つたとも見ていゝ。だから商工黨なるものが若し出來上つたとして、それが有力に發展したとすれば、早晩必らず、その商工黨の中心は、矢張り、既成政黨に於ける有力な中心者の分身又は本體から成つてゐると云ふ事實が暴露せらるゝに違ひない。言ひ換れば商工黨なるものは、早晩既成黨と溶け合つて、資本主義政治の中心勢力となるに相違ない。商工黨そのものがさうならなかつたら既成政黨がさうなるのである。

動もすれば既政々黨は崩壊すると云ふ聲を聞くが、根柢の事實が動かない以上は、既成政黨は崩壊しても、同じやうなものが代つて出來るのである。商工黨はその同じ様なものゝ一である。

然も右の様に、既に成立してゐる政治的勢力の運動だけが時代を方向づけてゐるのではない。既に、成立してゐる勢力の間に、その勢力が安定を失つてゐると云ふ不安が夥たゞしい　既に保つてゐる勢力を維持するにも、新たな轉化を取らなければならないと云ふことが感ぜられてゐる。之は政治哲學の進化ではなく、政治を根柢づけてゐる産業上の進化に基いた現象である。何故に彼等が普通選擧と云ふやうな、政治上無權力者の要求を、聞き入れなければならないと云ふ感じを持つかと言へばその要求者は、政治上には無權力者ではあるが、近代産業の進化が、彼等を産業的に、有力者たらしめたからである。小作農乃至勞働者で投票權を持たないに係らず、今日の政黨並に官僚

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を動かす力を持つてゐると云ふのは、唯彼等の産業上の地位によるのである。既成の政治的權力が　此の無權力者の要求に左右されんとしつゝあるのは、政治と云ふことが、産業上の根據なしに有力であり得ないと云ふことの當然の結果である。

そこで誰れものが、普通選擧を今日の日本の政治上の、當然の歸結であると考へる。而してそれが實現された結果は、恐らく玆に述べた、既成政黨の對立的形勢を根柢から變化させることになるであらうが、然も、直に英國流の變化が起ると考へる譯には行かない。

英國流の勞働黨の發生するには、勞働組合の有力な發達が基礎を爲すのであるが、日本では、勞働組合が滿足に少くとも英國の程度まで發達するには數十年を要するらしく思はれる程、これを妨害する種々なる事情がある。又小作農の有力な團結が、工業勞働者の團結以外に發達する形勢になつてゐるところも英國と異なる點である。その他専門的に事情を考察すれば、日本特有の現象がいろ〳〵認められるであらう。然し、日本の將來の傾向を豫見せしめるに足るものが、既に今日の事情の中に現はれてゐるやうに見える。言ひ換へれば、將來の政治運動を方向づける條件だけは豫想出來ないことはない。それは即ち二の條件である。

第一の條件は、將來の政治運動の基礎として、無産者の組合運動が有力な地位を占むると云ふことで、第二の條件は、勞働團體と、小作人團體とが、合同した勢力として——少くとも政治的には——働き出すと云ふことである。將來の社會進化の上で組合運動が如何云ふ地位を占むるか又、日本の勞働運動として、勞働者と小作農とが、どれだけ一致した方向を取り得るか等の問題は、無論具體的な事情が支配して居るので容易に斷言は出來ないのであるが然し、中間的政治現象としては、勞働團體の有力の地位を認めない譯けには行かない。それは動かすべからざる近代政治上の傾向である。次に小作農と勞働者との問題は、甚だ複雜で、抽象的に何といつて見ても仕方がないが、然し近代の政治組織に於ける利害の上では、要するに、政策的に兩者を近接させる傾向がある。無論個々の經濟政策に於いて、都會勞働者と地方の小作農との利害が一致もし背反もしやうが一般的には、上層で地主農と商工業者の混同が政治的に起り得る如く、下層では、勞働者と小作農との共同勢力がこれに對抗するものとして有力に働出すと考へる外はない。もつと革命的な思想傾向は政治的に働き出すやうな有機的作用を缺いてゐるので、實際政治の上には、現はれて來まい。

無論右に言ふやうな政治現象の進化は或る意味に於いて、全く過渡的であつて、そこに近代社會が組織的安定を得るものでないことは、先進文明國の現狀を見ても明　ある。日本は未だ過渡期にすら這入り込んでゐない前期的狀態にあるのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

經濟的に見たる露國の現狀

片山潛

共産黨第四大會後もう二ケ月以上になりました。僕は餘りに大會前後激務に從事したので、健康を害し爲めに續いて御報知を致すべき考へを實行することが出來ませんでした。此四五日多少氣分がよいので又筆を執つて、今度は極く雜パクではありますが、露國一般的内情を御知らせして見たいと思ふ。

一般的露國の内情と云つても唯だホンの一班であります。殊に新經濟政策實施以來は濟々新事實が實現しつゝあるので、何方を眺めても趣味ある報道があるのですが、今、僕が御報らせせんとする方面は、主として經濟に關するもので、而かも新經濟政策實行の諸結果を殆んど順序もなく、出鱈目に申上ぐるのです。それは單なる事實の報道に過ぎないのです。

モスコウに住んで居りますと、クレムリン宮城とモスコウ河、市中の建築物及其有名なる救命と其金光の塔とは依然帝政時代を偲ばせますが、其市民と市民の活動とはまるで新開地の市に彷徨ふような氣持がします。市中の交通、人は何處も勞働者や、地方から來た農民で仲々活氣がある。店舗は次ぎ〳〵と開店する、新たな辻店が出來る、行きかう何人の顏色を見ても元氣が漲つてる、希望に輝き充ちて居る、偶々悲觀的の容貌の人もあるが、其等は、主に舊知識階級に屬する人でもあろう。其服裝から然う察せらるゝ。朝夕工場に通ふ勞働者、職工等も皆何となく威嚴がある、彼等に取つて工場は自分等が雇主から搾取さるゝ場所ではない、彼等のものである、然り、啻に勞働に行くばかりではない、工場は彼等と、彼等の家族や、友人等と社會的生活を樂しむ場所である、そうだ、工場には勞働者の學校もある、倶樂部もある、劇場もある、音樂隊も、劇團も其他の社交團體もある。工場は勞働者の社交を進むる中心である、あなた方の見つゝある資本主義の工場とは雲泥の差がある、工場生活は其一班であるが、左に申上げんとするのは新經濟政策が、何う云ふ風に發展しつゝあるかを示さんとの一つの試みに過ぎないのです。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さて、露國の內情に關しては近々詳しく申上げる事として、只同國の一般概況を申上げます、同國は革命五ケ年祭をいたし國民の生々勃興して行く姿は非常のものです。昨夏、一千萬のパン公債で勞農民の信用を博して、愈々今度は一億萬の金ルーブルの內國公債を發行することゝなり、非常なる前景氣です。露國革命の首領等が、貨幣問題及金融問題に意を注ぎだしたのは、最近の事です。殊に新經濟制度を布いてからの事で、其迄は、只、便宜に任せてルーブル紙幣を發行して來たのです。國民も他に交換の、代表物とてはないから又便宜上ルーブル紙幣を使用し來たのです。

新經濟制度の實行と共に、資本主義の機關を使用する事となり、所謂國家財政なるものに必要を認め、而かもルーブルの安定を保持する爲めには、財政豫算を編成して國家財政を、整理し、豫算に依つて國家を經營して行くことの第一の要件たることを認めて、一昨年から豫算を編成して、先づ國費の節減を試むるようになつたのですが、新經濟制度實行の其最初年度に當りて、一大饑饉が來たり非常なる困難に遭遇しましたが、今では着々と其創痍を回復しつゝあります。

露國の新經濟政策は資本家國に於ては、往々誤報、又は故意に之を曲解して報道し、之を以つて勞農露國の共產主義の失敗と斷じ資本主義に逆戾りの第一步なりとして居りますが、事實は決して然らずで、新經濟政策は露國革命の取り來りたる必要の徑路であつて、資本主義より社會主義への道程を辿るのであり、決して資本主義へ降參の第一步とか、資本主義へ逆戾りするものではありません。

露國が、ボルシエヴヰ黨の許に取り來りたる所謂軍隊共產主義（ミリタリコムミユニズム）は、外敵、內亂及反動革命の爲めに止むを得ず革命維持の手段として執り來つたもので、之を以つて經濟的國家經營の出來よう筈なく、クロムシユタツト叛亂に以つて新經濟政策の必要を認めしめた。故に直ちに之を斷行せしもので、要は生產の增加と農民と勞働者間の關係を密接にして都鄙の關係——勞農の經濟關係を樹立せんとしたるもので、既に成功の道に向ひつゝありと云ふて可なりです。

それで、新經濟政策は決して資本主義に逆戾り、又は、共產主義の失敗、之が資本主義への降參でないことは左の事實に徵して明瞭であります。

一、新經濟政策實行までは、農產物の剩餘で農民の生活用の餘りは悉く之を强制的に徵發したのであるが、新經濟制度は、穀物稅として一定の額を納め、餘りは農民が自由に賣り捌くことが出來る事としたので、即ち農民と都會との間に自由貿

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

易が行はるゝ事となつたのです。

二、農産物、工業用品の自由賣買を許すと共に、通貨、市場、爲替相場、通商計算、勘定制度の必要起り、従つて産業の自由競爭的經營及勞働賃銀の高低は其の各人の力量と製産高に依つて決定する等、種々の變化は行はれたのです。

三、五ケ年間存續して來た勞農露國の經濟狀態即ち經濟基礎は左の如きものである。

イ、總べての土地（山野、耕地、河川、湖水、海水）は國家の有であつて新經濟政策は之を一點も變更せず。九割五分の總耕地は農民が、耕耘に使用して居る、昨年はライはライ麥の一作から三億萬プードの穀税を徴收して此ライ麥作は戰前平作の七割五分に相當する。

ロ、全鐵道（六萬三千ヴエルスト）は國有である、八十萬人の鐵道從業員が（戰前の三分の一）之を擔當して居る。

ハ、總べての産業經營は國家に屬して居る、此の重要産業即ち約四千の工場は百萬の勞働者を使用する、此等は、全く國家が所有及び經營するものである、他の工場は約四千個あつて八萬の勞働者を使ふて居るが、此等は貸附けた工場である、國有産業一工場の平均勞働者は二百七人、貸附けた一工場の平均勞働數は十七名である、斯の貸附けた工場の約半分が私人の經營で他は州國又は消費組合に貸したものである。

ニ、私有資本は、重に商業に卸されてある、其統計は僅かではないが、約三割が私人の放資せる資本である、七割は國家と國家と密接の關係ある消費組合團體の所有である。

ホ、外國貿易は昨年は戰前の四分一に及んで居るが、全然國家の獨占事業である。

上記は、實に勞農露國政府が、新經濟政策を實行せんとする根柢なのです。軍隊共産主義は壓迫的、強制的に生産分配と之が記錄と計算とを爲し、以つて殘存せる資本主義と内亂の形式で戰つて居たのですが、今や市場、自由貿易と自由競爭に依つて無産階級と資本階級が戰ふようになつたのです。而かも、之には前記の根柢が無産階級の方に在つて、産業の生産力も全運輸機關及貿易の獨占も國家にあつて、しかもそれが漸次に生産分配の計算を明確にして經營するの便利がある。資本家的産業は市場の需要と供給を自由競爭と思惑とに依つて決定し、週期の恐慌と産業の振興沈衰等に依つて經營するのとは大に其趣きを異にして居ます。しかも露國の新經濟政策は課税權が國家産業の上に多大の勢力を有し、國家經營の有效とは資本主義經濟に優るので、資本主義の産業も無産階級の獨裁の下には、國

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家に依つて前記の根柢の上に在る國家の優越的地位に依つて之を搾取さる事となつて居るのです。

　露國の商工信用機關もまた國家の手に獨占されて居るので、昨年下半期の成績計算に依ると、國家經營の事業に對して七割五分、消費組合事業に對して二割、個人事業に對して只五分の割合を示して居る。

　新經濟政策を最も歡迎せるものは露國人口の大多數を占むる農民であつて、彼等は之に依つて大に元氣付き其生産增加に熱心になつて來ました、從つて農民と都市即ち產業勞働者との關係が密接になつた譯です。

　去る十二月に開かれた、全露ソヴヰエット第十回大會に於てモスコウ、ソヴヒエットの會長カメネフ氏が開會演說に於てなした左の數件を示さば今日の內情を知るに便宜かと存じます。

一、今や資本家國も勞農露國が五ケ年間立派に存續し、そして今後滅亡しそうにもないので、資本家國のアメリカ政府ですら露國の狀態を研究する爲めに委員を派遣せんとの提議をなし來つた、露國でもそれに答へて、若しも米國が露國にも同一の委員を送る事を承諾するならば、露國は喜んで米國の提議に贊同すべき旨を答へた。

一、世界の資本家國は勞農露國を滅さんことを企てたが、全然彼等の失敗に終つた、今度は經濟的に露國を搾取せんとして之を殖民地化せんとして居る。此の資本家國の進撃は、なか〱手應へがある。露國は之に對して防衞する武器を一つ持て居る。其は外國貿易の獨占これである。之が維持には危險が伴ふて居るが、露國は之を以つて外國資本家の攻勢に當らねばならない、外國の資本家も露國が此有力なる武器を其手中に獨占して居ることを計算に入れざるを得まい。

一、新經濟政策を誤解して、各國の資本家は、露國は今に資本家國に逆戾りをする者と見、而かも之が利權を外國資本家に與ふることを聞くや、利權獲得に來つてゐる、今日迄に約五百の申込があつてこれが許可したもの二十五、調査中のものが二百五十ある。右多數の申込と既に許可したる者に依つて外資が露國の經濟的再建設に參與することの出來ることを示して居る。吾人は主義として又實際にも投機的資本に反對するが、生產的資本は歡迎するものである。

一、吾人に重要產業を我國家の手に維持して居る、今や個人資本家と競爭を開始したが、四千三百のトラストを吾々は所有し、其四千百に百三十萬の勞働者を使用して居る。若しし吾人が經濟委員とトラストにあらゆる事業の[illegible]を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

入るれば、國家は三百萬人の勞働者を使用して居る商業となる。

一、個人的資本家の經營事業に關しては如何、彼等は約四千の事業と七萬の勞働者を使役して居る、商業高は個人經營が約三割を取り扱ふて居る、貿易に於て本年（千九百廿二年）の輸出は昨年の六倍になつて居る、本年始めてナフサと材木を輸出した、ナフサは千四百萬金ルーブル、材木は千六百萬金ルーブル、農產物は千五百萬金ルーブルを輸出した、我輸出は千九百二十一年は輸入の五分に相當したが、本年は二割五分に當る。倚ほ未だ餘りに少ない。吾々は輸出を增加するに努力せねばならない。

一、我が運輸事業を云へば戰前の千九百十三年には日々三萬臺の貨車に積荷をしたが同十八年に七千五百臺廿一年には九千五百臺、廿二年には一萬一千五百臺の積荷をした、かくて、漸次增加して今年は戰前の三分の一以上になつて居る、本年の鐵道燃料は殆んど完全に行れた、千九百十三年の鐵道燃料は薪が一割三分であつた、同十九年は薪が八割八分を占め、同廿年は六割四分、廿一年は五割、廿二年は四割となつた、蓋し多大の進歩と云はねばならない。

一、だが、產業其者にはまだ滿足が出來ない、今や僅かに戰前の二割五分にしか達して居ない、千九百十三年の產業高は人口一に對して三十二ルーブルに相當したが、千九百二十二年は僅かに六ルーブル半に當る、千九百廿年廿一年に四四二百萬プードの石炭を生產した、廿二年は五八八百萬即ち前年の二割五分の增加である、廿一年のナフサ產高は二二三百萬プードであつたが、廿二年は二八〇百萬プードニ割增である、同期のピート產高は九〇百萬から一二五百萬に增加した、又銑鐵は七百萬プードから一〇百萬プードに增した、鐵と鋼とは一〇百萬プードから二〇百萬プードに增した、何れの方面にも增加、進歩を示して居る、そして紡績は同期間に百萬プードから二百八十萬プードに增產した。

一、昨年レーニン氏は「商業を學べ」と絶叫したが、千九百十四年の商業高は四、二〇〇百萬金ルーブル、千九百廿一年は六〇〇百萬に落下したが、廿二年は一、〇〇〇百萬（?）に增加した。戰前農民は二十億萬プードを市場に出したが、千九百廿二年は三七五百萬プードを出すに止まつてる、戰前の商業は二、五〇〇百萬（?）プードを市場に出したが、廿二年は僅かに五〇〇百萬プードに止まる。

一、商業の六割五分は國家經營、一割二分は州と消費組合、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一割二分が州と個人の營業である、最後の州と個人の營業一割三分は多過ぎる、これ新資本家の勃起を示す、吾人は斯る眞相を確めて消費組合の營業を擴張せねばならない。

一、千九百廿二年一月には財政豫算の九割は紙幣發行で補ふた、九月には五割三分が紙幣發行で補はれた、之は世界の資本主義が欲する如くでなく、國家經濟の基礎恢復に努力しつゝあることを示すものである。

一、千九百廿一年の豫算は八割四分の缺陷を示したが、本年は之が六割となり最後の三ヶ月間は五割に減じて居る、併し、此缺陷なき迄に豫算を整理してルーブルの安定を計らねばならない。

以上はカメネフ氏の用ひた數字の重なるもので、依つて以つて多少の内情を察する資料となると思ふ。

新經濟政策の結果として、資本主義の機關を應用、利用することゝなりつゝある、露國々立銀行の設立も其一つである。千九百廿一年十月の全露中央執行委員會は、國立銀行設立を決議した。そして萬難を排して之が設立を見た、銀行は金ルーブルを基礎として、ノートを發行し好狀況の時には商業手形の割引をする、又國有事業に金融を[illegible]し、農業資金を融通する、而かも農民には、其割賦[illegible]して居る、但行は農產物取引に關係して之が買付をも大いになして居る、又都鄙の家屋修繕に關係して之が經營に從事し而かも個人營業を獎勵して居る。

前記のパン公債一千萬金ルーブルが如何に分配されたかを示さば、

一	銀行の地方支店	三・九六六・六五五金留	三九・七%
二	モスコウにての販賣高	二・〇一三・〇八四同	二〇・一同
三	國家機關に賣り付けた高(工業及消費組合)	一・七七三・三二七同	一七・七同
四	國有產業と商品との交換高	七五七・六八〇同	七・六同
五	長期賃付を基礎として消費組合と機關に與へたる高	一・〇〇〇・〇〇〇同	一〇・〇同
六	各種コムミッサアに向つて月給滯り分に對して與へたる高	九九〇・二六一同	九・九同
	計	一〇・〇〇〇・〇〇〇同	一〇〇・〇同

パン公債の大多數は農民の手に握り、今や彼等は租税支拂に之を使用して居る、而して八割は金品で償還した。かくてパン公債は一大成功であつて其目的を達し、而かも銀行の廣告となり之が信用を農民の間に得た、然りパン公債は國家の經濟的信用を博したのである。

銀行は農民の馬を買ふ資金の貸付をなし、又牧馬事業を獎勵して居る、貸付利子は五分で二ヶ年二度拂ひで、其期限は何れも十二ヶ月である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

銀行の擴張と活動は左の數字で分る、露國の國立銀行は百三十三の支店を有す、此内十九は貯金銀行で、七十九が支店、三十五が代理店である。千九百廿二年一月の帳尻は、四七六、四百萬ルーブルであつたが、同年十一月一日の帳尻は七一、三二一百萬ルーブルだ、同時に通常計算勘定は同期間に一七一、〇〇〇、〇〇〇ルーブルから一七、五四九、〇〇〇、〇〇〇ルーブルに增加した、五月一日には勞農露國が發行した同額の三分五厘を所有して居つたが、十一月には一割七分を有して居る、手形割引も增加した、四月に始まり、五月一日には一二三、四〇〇、〇〇〇ルーブルに達し十一月一日には六、〇三一、七〇〇、〇〇〇ルーブルに增した、六ケ月間に信用狀發行の高は四十五倍に增加した、そして七月一日から信用取引の利子は一ケ月二分で二ケ月迄は然うであつた。

△

國立銀行の活動は漸次に其範圍を擴大しつゝある、商取引は日に月に進步發展に向ひ、實際質に於ても又量に於ても常に增加しつゝある。

最近になつて、又々、一つの新經濟機關が建設された、それは取引所である物價整理統一を計る爲めに商業取引の輕便と速進を計る爲めには、取引所の設立を必要とするので、創設することになつたのだ。委しい組織と其經營振りは他日之が設立と其經驗を經たる後に報知したいが、資本主義國の取引組織と其趣きを異にする點は取引所の目的が、實取引を輕便にして、而かも之を促進するにあつて、例のスタック、ガンブソングを目的とする所ではない。實際に產業と商業に從事する者の間に行はれる取引の仲介者となるのである。從つて其會員も嚴格に制限されて居る、資本主義國の取引所會員は、其會員組織と株式組織とに拘らず、取引從業員は多く株屋で、實業に關係し、其利害關係に直接關係する者は稀れであるが、露國の取引所員は何れも直接產業及商業に從事して居る者のみに限られて居る。從つてスタック、ガンブリングの場所と斯の取引所が墮落することは極めて少ない。

取引事業は、新經濟政策實行の一形態として必要なもので之が發展は大いに露國商工業を促進增加するであらう。そして具體的に取引所の會員を明記すれば、一、信用機關、二、國家銀行の代表者、金融及外國貿易のコンミツション、其他特別に取引所に於て株式賣買を許可されてある國家の諸機關、三、全露消費組合聯合會、及地方並に各州の消費組合にして前者の會員若しくは前者に依つて經營されて居る者四、私設商工業者にして或る稅金額以上の納入者である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

最後に取引所に於て賣買さるゝ株券有價證券は、輸出入と密接の關係を有する諸株式である、外國の有價證券の買手は露國々家である、此事實は株式取引所の上に勢力を持つ。

銀行は、國有産業に金融した、六月一日には此金額が五五〇百萬七月一日には三、二四五百萬、八月一日には六、七七三百萬、九月一日には七、九二八百萬、十月一日には一一、〇〇四百萬であつた。

三月末から、農業資金の融通を開始した、四月一日は二百萬ルーブル、五月一日、一二一百萬、八月一日、六八二百萬、十月一日、一、一三六百萬、十一月一日、一、五三四百萬ルーブルに増加した。千九百廿一年十一月以來外國に向て送達受授の取引きを開始してモスコウでは三分ペトログラードでは五分加算をする、爲替率は特別委員の手にあるが、今に市場の相場で取引するようになるであらう。

△

ナフサは露國に於ける燃料中の有數地位を占むる一である、其有名なる産地たるバク・グロスニー及ウラルーエムビンスク三ケ所に於ける昨一ケ年度(十月末)の成績を見るに多少の進歩を示して居る。

生産地(單位、一千プード)産高豫定		實産高	豫定産率
バク	一六六・一九一	一七七・八七〇	一〇七
グロスニー	九〇・三五八	八七・六五五	九七
ウラル、エムビンスク	七・二〇八	八・一七五	一一三
總計	二六三・六五七	二七三・七〇〇	平均一〇四

即ち豫算額を越ゆる僅かに四分である、新豫定産額は決定した、バクが二四〇、六七四、〇〇〇プード昨年より四割五分増し、グロスニーは八五、〇〇三、〇〇〇プードで五分減、ウラル・エムビンスクは八、六〇五、〇〇〇プードで二割増である。斯く千九百廿二―三年の豫算産額は總計三三四、二五二、〇〇〇プードで、昨年度より二割七分増、買收の其れより二割二分増である。昨年度は二億四千萬プードのナフサから一億八千五百萬プードはナフサエ産に使用されて、七千七百七十萬プードのルブリケーチング油が製造された。尙ほ、四千一百萬プードの石油とベンヂーンが産出された、然かも此外種々の副産物を得たのである、此内一千二百萬プードの燈火用の油を輸出し得るとの事である。

本年度露國が使用するナフサ額は、鐵道が一億萬プード、カスピアン及ボルガ河の船舶用が二千八百萬プード、軍備産業用千一百萬プード、而して本年度の需用豫算額は一億四千五百萬乃至一億六千二百萬プードである。次に[illegible]

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の如くである。

産額地	豫算産額單位千プード	實收額	前比率
バク	一四・二二一	一六・〇九五	一一三
グロスニー	五・七七〇	七・九四一	一三八
ウラル、エムビンスク	七〇五	七五二	一〇七
計	二〇・六九六	二四・七八八	平均一二〇

本年度初月の産高は、豫定額を超過すること二割である。昨年度八、九月の産額は豫定額より遙かに少なきに拘はらず、比率は九六及九二、五を示して居つたが、新年度は其待遇の改善と勞働者が漸次新經濟政策を理解して來たに因るものと察せられる、先づ以つて好望なりと云はねばならない。

國家財政の基礎は産業發達と之が經營を總括統一する政府及産業機關にあるが、露國は前記示す如く總括統一して居る、少ないと雖ども、着々と進歩を示して居る。今回發行せられたる年六分利付一億萬金ルーブルの內債は、パン公債で信用を博した後なれば成功すべきは期して待つべく、而かも額面發行を宣言發表せる當局者は充分の見込あるが爲である。而して五ルーブルと二十五ルーブルとの少額公債であるから、勞働者及農民が容易に應募することであらう。

尙ほルーブルの爲替相場は昨年一月以來下落するのみであるそこで昨年一月には一萬ルーブルを以て金一ルーブルと同單位とし四ヶの零を切り捨てた。爾來下落は益甚しく、本年始め尙には尙ほ二個の零を切捨て、舊貨一萬ルーブルを金一ルーブルとして新貨幣（紙幣）を發行した。無論之は日本が金貨本位採用に際して一圓を以つて米貨五十仙標準に引き直したると略ぼ一樣であるが實際に引き直したる迄で市場に影響なく、人民も尙更に之を奇異とせず、直ちに今迄百萬ルーブルと云つたのを一ルーブルと云ふて勘算を便にするに止まつて至極好都合である今、露獨通貨の比較を示さば如何に、露國が昨年十月迄の處に於ても尙ほ好地位に居るかが分る、先づ其紙幣發行高を比較すれば左の如くである。

	獨逸マーク	露國ルーブル		獨逸マーク	露國ルーブル
一月	一〇〇	一〇〇	一月	一〇〇	一〇〇
二月	二二三	一四五	七月	一、二八三	一、二二四
三月	六三三	二六一	八月	三、二四四	一、七五五
四月	五八三	三七〇	九月	三、七七八	一、七三六
五月	六五〇	六八一	十月	八、五〇〇	二、四一三
六月	一〇二一	八四八			

通貨の下落は獨り露國ばかりではない、英蘭銀行紙幣も其金貨に比すれば戰爭以來九分減を維持して來て居る、和蘭國紙幣も全然である、佛國通貨は一層下落して來た、然るに、露國ルーブルには全然除外されてある。露國政府が認めざると同時に、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

共ルーブルをも認めない、最近迄は露國通貨が餘りに甚く下落するを見て、歐洲諸國は之を以って慰安を求めて居つたが事情は變化した、獨逸のマークは露貨よりも一層激烈に下落して、其影響は他國に及び世界の經濟界を攪亂した、昨年一月に米貨一弗は一九二マーク、(伯林)四三、五ルーブル(モスコウ、一九二二年發行通貨)、七月には四九三マーク、四一一ルーブルとなり、即ちマークは前半期に二倍半の下落、ルーブルは九倍半の下落であつて、ルーブルにはマークよりも四倍も多く下落したが、後半季は一變して十二月初週マークは弗に八三九〇マークであつた、然るに十一月末には九千マークの事があつた。モスコーに於ては、自由交換市場で一弗に二、七五〇ルーブルであつた、(十二月初週)、七月から十二月迄に六倍七の下落でマークはルーブルの二倍半も多く下落した。其後の形勢は全然比較にならぬ下落である。二月一日から全十七日迄に獨貨は米弗に二萬乃至四萬五千マークを昇下して居る。

勞農露國は、他資本主義國と異り勞働者及農民本位の國である土地は實際之を耕作する農民の利益を第一として、産業は之に從事する勞働者の利益を第一とする。無論饑饉の結果とでも云ふてよいが左の結果は注意すべきである。

饑饉地方の耕地は、千[illegible]には[illegible]、四一二、〇〇〇デシヤチンであつたが、今は其約半數一〇、九八六、五〇〇デシヤチンである、牛馬も減じた、ボルガ地方丈けでも五、一二三、〇〇〇頭から二、七八九、二〇〇頭となつた、ウクライナ五郡の饑饉地方では二、一八二、五〇〇頭から一、二一八、四〇〇頭に減じた、放棄されてゐる財産は全體の三割、馬を持たぬ農民は四割ある、人口は饑饉の爲めに約一割を減じた、即ち二百五十萬減である。此内約百五十萬は近隣の洲へ移住したらう、で實際、約百萬人が餓死したらうと云ふ。ウラル地方の人口は二割五分増へた、タータ一共和國も二割増へた、クリミヤは一割六分増へたと云ふ結果である。産業は百八十八個中、今四十一が繁盛して居るのみである、放棄された子供の數は約二百萬ある。

勞農露國は饑饉、外敵、内亂、之に加ふるに經濟的封鎖で非常に困難をしたが、國が大なると、天然の富源に豐かなると而かも農民がその大多數を占めて居るのとで、よく此大艱難を切り拔けて來た、今や一陽來復進歩の姿を見せつつ漸く建設期に入つて居る。國民の自覺と其英氣は非常のものである。そして新經濟政策は、一層國民を物興奮起せしめつつある。又青年の教育熱は相僕の出來ないほど旺盛である、一二三年の間に各大學、高等學校、各専門學校は、其定員の七割五分を[illegible]

を以つて富豪や知識階級の子弟を放逐した。

今一二年もせば、全部勞農の子弟の教育場となる、反革命の教授をば昨年一時に七十餘名も國外に放逐した。彼等は專門の科學者であるが勞農露國に反對して常に轉覆を謀つて居るから放逐したのである。モスコウ府で一番目につくのは書物屋である、辻店にも書籍屋が一番多い、之は書物が一番よく賣れるからである、革命の露國民は教育に解放されたのである。日本も西南戰爭後活版で支那書籍や日本の古書が出版されるやうになつて、國民の教育は非常に盛んになつて、博文館の今日あるは之が爲めであるが、露國では教育が金儲けの機關とならず、書物は一番安い商品である。多くは政府や共產黨が發行して賣るので安直である、殊にレニン、トロツキー、ブハーレン等有名の人士の書籍は代價が二束三文の底である、以つて勞農國の眞相の在る所を推測するに足らう。

それから、勞働者の生活狀態は、無論善良と云ふことは出來ないが、其でも進步しつゝある。勞働者賃銀を今、金ルーブルに換算して見れば決して悲觀すべきではない。平均一ケ月の賃銀表、

一千九百廿二年	一月	九月
纖維職工	四・五ルーブル	八・六
鐵材工	五・五　同	一三・三二
革工	三・〇　同	一二、〇

又戰前（千九百十三年）を一〇〇として千九百廿二年十二月の賃銀率を見れば、

金屬工	四二・九	纖維工	四二・一
木工	五七・九	砂糖製造工	六六・七
靴工	三三・三	パン工	八一・九
化學工	五八・六	トバコ工	一三一・五
總平均	六〇・〇		

茲に記憶すべきは、國家事業に雇はれて働いて居る職工勞働者は特典を持つて居る即ち都市の自由セルヴイシ、市電の自由其他、薪炭代は安直、食料品は實價等である、戰前の賃銀に歸りつゝあることを示す、露國は勞農の國である總べての經濟的改善は直ちに勞農共者の生活狀態の改善となつて現はれる、露國の或る產業は維持費として之を積金とすべき資金を賃銀に差向けて居ることはある、然れども之は結局勞働者の健康狀態をよくした、生產者として適任とする上から云つて間違つては居らない。英國は昨年一億萬磅を失業救濟費に使用した。失業者救濟の資金は決して積極的支途とは云へぬ勞働者の身體は依然惡るくなる、如何となれば英國の此救濟金額は不充分であるから、然るに露國の勞働者が利益を喰ひ込むのは、積極的である、結局生產の增加を來すに至るであらう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

獨逸の勞働者（優良）は戰前一週の平均三十マークを得た、廿二年十二月一日には一週の優良職工賃銀が五千四百乃至五千八百マークであつた、千九百十四年には三十マークで、三十七封度の肉を買ふたが、去る十二月には七、八封度を買ひ得たのみだ、若しも砂糖で換算すれば戰前の一割乃至一割五分の賃銀にしか當らない。瑞西及英國の勞働者の勞働賃銀に就いて見ても、戰前に比しては餘り喜ぶべき比率とはならぬ。又露國の勞働者は產業保險を有つて居る、其保險は三種に分れて居る、即ち、一時的勞働不能、永久的不能、失業、である。

第一、保險費用は全く雇主の責任である。第二、保險は總べての勞働者と其家族を包含する。第三、保險取扱ひ、即ち保險行政には雇主は全然關係せぬ。第四、保險は如何なる種類の勞働不能又は働け得ぬことをも含む。第五、保險は失業救助の利益をも含む。第六、保險は、死亡せし被保險者の親族に及ぶ。第七、附屬的利益として被保險者又は其親族の姙娠期授乳期の母は死亡の場合保護を受く。第八、保險料は賃銀の全額に相當する額である。一時的勞働不能者は其全期賃銀の全額を得る。第九、被保險者は醫藥、病院、養成院及衞生保養地での費用は無代にて之を受ける。第十、保險掛金は仕事の性質に依つて其高を定めてある。第十一、[illegible]の賃銀を受ける、知識勞働婦人は此場合六週間の賃銀を受ける。第十二、獨身婦人又は被保險勞働者の妻は別に姙娠の時地方並に一ケ月の賃銀を受ける。此は子供の衣服等購求費の爲めである第十三、乳を與ふる母は一ケ月分の四分一の賃銀九ケ月間を別に受ける。第十四、十二歲以下の者の死亡費は平均一ケ月分賃銀の半額を受く、壯年者の死亡に對しては全一ケ月分の賃銀を受く

外に失業者は賃銀の半額に相當する保險金を受くる。但し十五週間迄繼續して貰らへる。が、一ケ年二十六週間以上は貰らへない。此外に、後家、孤兒等に對する保險がある。又保險法の下に支配されざる人にして現在國內に三千二百あつて、一萬六千の寢床を備へてある。千九百廿一年の始めには斯る場所は三百二十九ヶ所あつた。又農民の間には救濟委員がある。其性質は相互的で、而かも强制的である。無論自治的であるが、千九百廿二年二月に斯る委員が全國に四萬あつた。

尚ほ既記事實の外に注意すべきもの、新經濟政策實施と共に一層必要を見來りたるものは、法理及法律の作用であるのだが除り永くなるから只一二點を、申上げることにしよう。

露國革命は舊法律、裁判所、監獄等を全然破壞した。資本主義國の法律及之が作用は[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て居るのだから、勞働者獨裁下の法律、裁判及監獄に、無論其趣きを異にすることは當然の事である。若しも例の十一月革命後反動革命、外敵、內亂及經濟的封鎖がなく革命が順序ある發展をしてゐたならば、無論平和的手段の下に革命は進展したであらう。從つて、新社會の法規も尙一層早く且つ適當なるものが制定せられたであらう。何分內亂と外敵の爲め暴力即ち正義なる主義が行はれ例のチエカなる者が組織されて革命的法權と革命裁判が行れて來たのです。資本主義國が干戈で勞働者政府を擊破し得るや、今經濟的攻勢を熱心に取り以つて露國を降服せしめんとして居るのです、然し露國は此際自己防衛の爲め、且つや生產增加の目的を以つて新經濟政策を布いたので急に法律の必要が起つたのです。之が爲めに新に所有權設定の法律が必要となり、貸借、賣買、抵當、質入等凡ゆる資本主義國に存在する契約、利權擁護等に關する法規が出來たのですが今玆に其全部を說く要もない。只前記の如く二三要點を玆に記することとした。

然れども十一月革命以來、發布し來りたる諸法律、─憲法、土地、教育法、勞働法、結婚、家族、後見、其他の法規命令等は優に勞農露國の法律執行の目的が那邊にあるかは明瞭となるであろう。

無論、勞働者及農民社會主義共和露國の最終目的は、法律などの階段、制度を要せざる共產制度に在るのであるが、階級の存在する間、而かも過渡期に必要なる無產階級獨裁政治の行はる、間、法律の無必要なる社會に達する行程の一其とし法律は必要であるのです。所謂革命的法規は必要であつて、之が、目的は革命の成功を速成する爲めである。殊に新經濟策の實行に伴ふて必要なる法律制裁は一種特別にして決して資本主義國の其と同一ではない。

資本主義國の民、商、刑法等は主として大地主と大資本家の利益擁護の爲めに出來て居るが、勞農露國の法律は之に反して二種ある。一は共產主義的、又は社會的法律で、他は民法である。之を一層具體的に云へば、共產主義的財產の確立及之が擁護と、私有財產權の設定に關する法律とである。前者は即ち土地、都ての富源、森林、水利、鐵道、及其財產、飛行機、重要產業、大工場、鑛山等である。此等の財產は自由取引以外に存在して居る。私有財產に屬すべきものは明確に記載して之が限界範圍等は疑問の起らざるようにしてある。自由取引(國內に於て)小中產業の經營に關する法律で私有財產と見るべきものは即ち都市有とならざる建築物、商業、工業(工業經營には雇人の數が制限されてある)製造に必要なる機械、器具、通貨、貨幣、證券、及他の價値あるもの即ち金銀貨外國證券、物品(一

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

般的家具及個人用具）貨物（但し法禁にあらざるもの）

私有財産權は資本家國のそれの如く無限であるか否か、云く二方面に於て制限されてある。持主は權利を有す、之は明に記載して即ち法定の制限內に於て所有、使用及管買すべき權利を保證してある。此以上は露國のすべき權利で現法は財産を認めない。即ち、資本主義國の習慣に明かなる或命令に依つて所有權が設立さることとあるが、勞農露國の私有財産權は斯る權利を認めない。即ち利用に止まる、利用の所有である。

尙ほ、露國に於ける私有財産權は確實に社會的目的に合致した要素を包含して居らねばならない。換言せば、「國家の生産力の發展の利益の爲め」に、私有財産權は與へてあるので、財産の使用に向つても所有に向つても制限されて居るのである。故に此目的に反する時は權利は剝奪さるのである。

現私有財産權設定の一要件は、千九百二十一年五月二十二日迄に勞働者の所有に移り又は革命法律で剝奪沒收した財産は、其舊所有主が之を取り戾す要求をする權利はないと云ふ條項である。

露國に於ては、私法なるものを認めない。之に獨國ボルドウ大學教授デュギー Duguit が既に發表せる如く、露國に於ては公法のみ存在して私法なるものは存在しない。資本主義諸國の公私法の思想は個人主義の上に成立してゐる。故に二個人の契約は只二意の合致に外ならない。佛蘭西革命の深淵底から起つた此原則は、より强者が其意志をより弱者に强制すると云ふ事實が、資本家の實際的行爲に變移したのではないか、露國の民法は、例の「契約者の自由意志」なるものを打破した。露國の民法は國家に經濟的機能としての勞農露國に、明かに有害となる契約を基礎とする經濟關係は之を打破する權限を附與して居る。

尙ほ露國現民法は、個人間の契約で法廷に其曲直を決定することをせぬと云ふことは無效と認むる結果を來すのである。從つて斯る契約は民法の保護を受けない。違反するも法定に權利を主張するとは出來ないのである。露國の民法は個人の工商業經營を便利にすると同時に資本主義と戰ふ武器である。然りそれは組織的社會に無産階級の革命の物質的科學の實行する可能力、經濟を支配する可能力を與へるのであると、モスコウの一法理學者の宣言する所である。尙ほ相續權に關しては一萬金ループル迄の財産を其直接子、孫、曾孫及妻又は夫と其死亡者が既に一ヶ年間救助せる親族に讓る權利がある、それ以上は國有となる。

最後に露國は去年十二月卅日に八ヶ國の獨立勞農共和國、（社會主義の）（遠東共和勞農國をも含む）が聯盟したのである。

亞、ジョーヂャ、アルメニア、アゼルバイヂャン、ウクライナ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ホアイトルシア、トランスコーカシア、フワーイステン共和國と本勞農露國の聯合共和國である。之に依つて露國の地位は非常に鞏固になつた。又經濟的に發展することが出來る。赤衛軍は六十萬で外交、貿易、交通機關、大產業の統一など大に利する所がある。實際には五十餘の國民の聯盟で而かも此等の國民民族の自由意志の聯盟である。國境の障壁を取り去ると云ふ一大新原則が實行さるゝ譯で、此の原則は世界的に擴大する運命を持つて居るから之が前途は頗る趣味あるものである。

以上は露國の內情一班である。電化事業は豫定の如く着々と進步して居る、ペトログラードを中心とする電化工事は昨秋竣工してペトログラード先づ電化都市となり、共市中は電化の下に工、商業が發展しつゝある。ペトログラードは不凍港(實際)を有し、而かも歐洲より貨物輸出入の要港である。今や、共工業は非常なる景氣で恢復しつゝある。露都は有名なる化學工業地である、電化と共に一層の發展を開始した。而して各工場共に共雇員を增傭しつゝある、今一大化學工場ウゴリークの雇員數を示さんに、千九百廿二年一月より同十一月迄に如何に增加したかは驚くの外はない。

一月には　四、六〇〇
六月には　五、四九九
七月には　五、九四〇
八月には　六、六三〇
九月には　六、九五〇
十月には　七、四〇〇

此工場は有名なるゴム工場で現に一日平均三萬足のゴム靴を製造しつゝある。

又ラブハフ工場も十月には三千四百六十人雇ふて居たが、十一月には三千八百六十五人に增加した、スコロホド工場も亦ゴム工場である。千九百廿二年一月には二千四百六十八名の職工を有してゐたが、十一月には三千百八十四人の職工を有するやうになつた。露都化學工業の盛大になつて居ることは、勞働者間に失業者の減じたることである。昨年十月には三百二十一名の化學職工の失業者があつたが、十一月には減じて百五十六名になつた。ペトログラードには革命後新事業が起つた。之は仕立工場である。今裁縫工場が三つある、之は全く革命の子供だと云つて居る、共一の工場は一、一五〇人を雇ひ次は八一〇人最後は七九五人雇ふて居る、皆政府事業である。

斯る進步は決してペトログラードのみではない、諸方に於て之を發見する。偖序手に斯る勞農露國は何人が支配して居るかと云ふ問題の答案を左に示して之を終るであらう。

千九百廿二年に於ける各政府、(中央地方共に)の中央執行委

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

員の九割九分四厘は男子で、六厘が女子であつた。之を職業別にすれば四割八厘が手の勞働者、一割一分八厘が農民、四分一厘が技師、（中、上教育ある）二分五厘が醫士、一割一分三厘が法律家、九分九厘が教師、二割一分七厘が書記、番頭、一分六厘が兵士、三厘が自由產業者、二分五厘が學生、三分五厘が他の職業者である。又八割九分一厘が共產黨員で、一割九厘が無所屬である。全國各區の執行委員は九九、一割が男子、九厘が女子、勞働者三〇、六割、農民二六、四、技師一、三、醫士〇、六法律家〇、一、教師番頭書記等二五、九　兵士二、四、自由業〇、七　學生三、三　他の職業二、二、此の革命黨員が八一、七　他黨〇、一、無所屬一八、二

各市の中央執行委員は男子九五、一女子四、九、で此の勞働者五三、七、農民七、三　醫士四、九　書記、其他が一九、五　學生一二、二　其他の職業二、四　此の共產黨員が六一、ナンパーチー三九、七〇である。

前記全體の統計比率は、男九九、〇、女一、〇、勞働者三三〇、農民二四、〇　技師一、六、醫士一、〇、法律家〇、三、教師六、八、書記等二五、〇、兵士二、一他業二、四、自由業〇、五、學生三、三、それで共產黨員八三、五、無所屬一七、五、黨[illegible]である。

中等教育	六・七	尋常小學校程度	六六・六
最少の教育	〇・三	高等小學校程度	一・六五
自己教育	七・九		

以上が露國内情の一斑である。（以下五行削除）

（一三、一二、五）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雨七題

旅と雨

富田砕花

▽

奥日光の金精峠を越へた笈沼に天幕を張つた三日目だつた。

昨日、上州の方からの白根への登り口を探して置かうといふので、密林の中を抜けたり、熊笹のなかを潜いだりしてゐるうちに雨になつたので、這々の態で引上げて來たんだが、驟雨だと思つたのが、夜に入つて本降りになつたまゝ朝になつてしまつた。

起きる張り合ひも無い私たちも、ビスケット位では到底腹の虫が承知せず、ノコノコ這ひ出して、ジトジト降る雨のなかで火を焚いて、兎も角も、飯盒を懸けは懸けたものの、絶えず火の消えないやうに注意するために交互に天幕から這ひ出さなくてはならないで頗る閉口垂れた、尤もグループの最年長者とあつて私は特別に雨中の作業任務は勘忍して貰つた形だつたが、天幕の中で、アルコール・ランプを點火して汁粉の製造を引受けるのだつた。

『どうせかうなれや北海道と極めて……』と、別に自棄氣味になつたわけでも無いが天幕の中で盛宴を張ることに一決して、有合はせの――然し、可なり豐富に仕入れて來てあつた――鑵詰類を、氣前よく片ッ端から明けて、いづれも食氣の方は相當だから、平げるは！　平げるは！

この浮世離れた天幕のなかの住人は、まだ京都の經濟科に在學してゐたM君、學校を濟まし立てのK君、いづれもキヤムピングや、山登りのエクスパアトたちだ。それに私の三人だつたがそれから皆して歌つて、歌つて、歌ひ抜いた。『ああ、その調風と札幌の歌の合唱を二人がやれば、こつちも負けない氣になつて松前追分から出發して、づつと日本中を俗謡で旅をして歩く本州も追々唄ひ廻はつて、『出雲ぶし、八重山……』と、來た時分にはノド佛も大分参つてしまつた。毛布ですつかり身體を包ん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で、直接に濕氣を受けるのを防ぎ、仰向けに臥そべつて太平樂をやつてゐるのだ、人間の方が先に參つちまふやうに撒き散らしたキイプ・アウエイなんか屁の河童で、天幕のなかを活躍してゐる人を恐れない蠅の群れもかうなれば親友だ、夜になつたので小田原提灯の總動員おまけに裸蠟燭を幾本も立てて、先づ以つて大イルミネーションだ。外は相變らず雨のどしや降りだ、興趣は中々盡きない。

▽

幾時に函館を發つたか忘れてしまつた　何でも遠く釧路から到着した列車を棧橋で連絡して、そのまま船上の人となつたのだつた、雨を含んだ雲は低く、潮の早い津輕海峽を掩ひ被さるやうに垂れてゐた、凄まじい强風のなかを甲板に出て、吹き飛ばされるやうなのを、一生懸命に手欄にしがみついてゐたのは自分だけだつた、もうそろそろ港を出てから二三時間も經つたらう海上の少し離れたところを搖れ搖ひに馳走してゆくこれも連絡船のキャビンの電燈が、幾段かの列居を成して幻影のやうに光つてゐるのを瞳にした自分は躍り上つた、そのときもう雨は頬を痛いやうに叩きつけに來てゐた。雨の海上の、まだ全く暮れ切らないなかの、フェヤリイ・ランドのもののやうだつた船の灯よ！　私の乘船は比羅夫丸だつた。季節は初秋だつた。

▽

私たちの乘つた輕便汽車は、定時からとてつくも無く遲れて小田原を出端づれると忽ち夜になつてしまつた、物凄い波濤の響と、どしや降りの雨のなかを、身動きもならない小さい車體に鰯のやうに積み込まれて、一丁行つては停まり、二丁動いては立往生と云つた有樣で、慘憺たる暴風雨の中に、一種名狀できない氣持ちに置かれ續けてゐた、暗夜の雨を衝いて、鈍間な動物のやうに動く輕便の機關車が吐く柄にも無い黑烟や、シリンダアやピストンの立てる平常なら可笑しいほど大袈裟な音響も、時々、パアッと燃え立つ石炭の火に照らし出される機關手の動作と一緒に悲壯な感を覺えさせるのだつた。途中の海岸の低地を走るときには、線路は無論のこと、列車も波を被るか知れないといふやうな不安なことを聞かされて膽を冷やしたりするのだつた。それでも、延着も、延着夜も、十時近くに、輕便としても恐らく破天荒のことだつたらしいが、湯ケ原の驛に無事着いて、宿から迎へはされてあつた自動車上の人となつて溫泉の方へ一散に走り出したときには、ヘッド・ライトの前に來浪漫的表現で展開されてゆく畑や、路や、橋や、樹木や、時と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しての家やが、宛然、私たちをストライキングな場面へ急ぐフキルム中の人物のやうに思はしたのだつた。其處の溫泉場には旅先きで持病の急激な發作に惱まされてゐるM氏が私たちの來着を待つてゐたのだつた。

▽

車體は可なり優良なビユツクだつたが、雨後の、非道い泥濘で沼のやうな街道を二十四五里も走りつづけに走つて、朝、濱田を發つて津和野に着いたときにはもう四時を廻つてゐた。そろそろ旅に疲れてもゐたので、青野山の姿を、舊士族町の土塀のうへに仰ぐ情趣に心を惹かれながらも、そのまま石見と周防の國境の峠を越して德佐へ出やうと突嗟の間に決心して、蜜柑を五つ六つ買つて袂へ投り込んで、一日車上に揺られ通したためヒヨロつく足を急がすのだつた。

町を出端づれるとすぐ路はもう上り氣味になる。途中まで、舊道を擇んだので、近いには大分近いさうだが疲勞した身には可なりの惱みだつた、登り初める時分から、後になり、前になりしてゐた十五六ばかりの男の子がゐたが、彼れは背に大きな荷物を負うて、すつかり遠い旅に耐へるやうな身裝をしてゐた、私は一寸そこいらに出る姿のままの、和服に袴、それにマントといふ至つて不便な姿をしてゐたのだつた、磨り減つた下駄も随分歩行を辛いものにした、路は石が敷きつめてあつたりして、そのうへにはところどころ二月の初めだつたので雪などが殘つてゐた、心待にしてゐた峠の茶屋までは氣が急くけれど仲々達せられない、そのうち、その男の子と口を利き初めた、彼れは越中の藥賣で、今年初めて商賣に出て、この地方へ來たのだといふ、そして別れた一行は皆廣島に集合する筈になつてゐるので、そこへ行く途中だといふことが判つた。今日は、早朝から十四五里も歩いて來たとも云つた、そのうちにポツリポツリとやつて來たが、飛んでもない大雨になつてしまつた、雪のうへの歩みは雨を見舞はれていよいよ困難なものにされた、舊道が新道に合するところへ出たら間もなく峠の茶屋だつた、私たちはそこで休みたかつたがただ一杯の澁茶を啜つただけで、私は下駄を草鞋に代へてそのまま峠を德佐めがけて急ぎ下つた雨は熄んだ、山の麓をめぐつてゆく街道は仲々に捗取らない、國境の大きな湖水のやうな池にはまだ霧が低迷してゐて、四邊の山々の姿もさうハツキリとは仰げなかつた。來年にならなくては開通しないといふ難工事のトンネルの入口なども下の方に見えたりしたがやがて、土工列車が通るほどにはなつてゐる線路みちを街道を反れて轉がるやうに山口線の終端の德佐驛に着いたの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

七時何分かの終列車が出る三四十分前だつた。そのときにはもう雨は名残なく收まつたが、私たちは魂のやうに驟雨のうどん屋に飛び込んだ。侘びしい新開地のやうな山の村の停車場が雨上りの暗夜のなかに灯をつけてゐた。

―（七）―

山荘の雨

荻原井泉水

初夏の雨は明るくて爽やかである。僅かな緑の穂を揃へたばかりの麥畑が、ぞつくりと濡れて、いぶし銀のやうな空から錐のやうに光つた雨がしやん〳〵と注がれてゐる。いつもペチヤピイと囀つてゐる雲雀も、雨にすくんでゐる爲めか、聲を立てない。麥畑はだん〳〵と向ふ下りになつて、其裾に渕崎と土庄との町が靜かに邊を抱へてゐる。晴れた日ならば讃岐の五劍山も眼に入るのだが、沖の方は凡て雨に霞んで、水平も分たずにぼつてりとした柔かい色が無限に擴がつてゐる――。

京都から中國へかけて旅を續けてゐた私は、瀬戸内海の島に渡つて來て、此の山の一つ家に漸く腰を据ゑた自分を見出したのである。忙しく汽車に乘り降りしたりしてゐた時は、雨に逢ふ程いやな事はないが、斯うして籠り切つてゐると、雨は實に嬉しいものだ。雨は木の葉ばかりではなく、私の心までも、しつとりと濡らし、柔かにほぐして呉れる。殊に旅の先々の塵に混れて、咽喉の奥までザラ〳〵した程に感じてゐたのが、おかげで洗ひ清められたやうでもある。

山の一つ家とは云つても、村から段々に高く畑が作つてある其上の果樹園の中にあるのであるが、それから上は直きに斷崖の茂りに接してをり、あたり數丁の間に人家もないので、全く山の一つ家といふ氣がする。是は私の友人I君の別莊で、私は一つの小さな著述の筆を執る爲めに、此の隠れ家に寄せて貰つたのである、

當座は爰の麗かな眺望が、兎角私を此の山の家から里の方へ誘ひ勝ちであつた。Iと連立つて隣浦や入江の剛々とした光を浴びて歩いたりした。然し、此雨が私を初めて淋しく落付かせた。障子にぴたりと机を据ゑてゐると、窓に近くまで來て山鳩が、ボロン〳〵と弛んだ琴の絃を弾くやうに鳴く。家の周圍にあるネーブルオレンヂの樹も、快い浴みをしたもの丶やうに、雨につや〳〵して潤うた葉をいきいきとふるはしてゐる。オレンヂは既に摘み終つた後であるが、それでもIが私の來るのを待つて、私が其木から手づからもぎ取つて食べるやうにと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(そんな事も東京產れの私には珍らしからうと)わざと幾つかを枝に殘して置いて呉れた。其の金色をした大きな實さへも、强い明るい雨の爲めにぐつしよりと濡れてポタリ〳〵と雫を垂らしてゐる。

午前の中は仕事の筆をとる、午後になるとIが私宛に東京から來た郵便や新聞などを持つて、山の家へ上つて來る。さうした每日のやうに、此日もIは雨を冒して上つて來た。斯樣なしんめりとした日は友人と話してゐる事が、實に心をゆつたりとさせる。Iは此島の四十八ヶ所を巡禮するお遍路さんの話などをして呉れる。それは櫻が咲いてから農事がまだ忙しくならぬ前、丁度麥の穗が出揃ふ今頃に、多くは岡山あたりから中には若い女達も混つて此島に渡つて來る。お遍路宿といふ木賃に泊れば、僅かの金で足り、又、お遍路の爲めに接待をする所も多い、よく晴れた日など、麓の方から此の山の家までチリ〳〵と鈴の音が聞こえるのは、其のお遍路さんが振る鈴の音なのであつた。然し此雨ではお遍路さんも、麥畑の雲雀のやうに、宿にすくんでゐる事であらう、などゝ思つてゐると、ボ、ボボーと太い汽笛が聞こえた。『お、船がはいりました、けふもお遍路さんがかなり乘つて來たでせう』とIは云つた私はもう暮れるに近い障子を明けて見た、雨はまだかなり降つてゐたが、港の方はうつすりと明るくて、高松から來た汽船が其水にくつきりと浮いてゐた。そこへIの家から寄こして呉れた女中がランプと夕食の膳とを持つて來た。

一日强く降つた雨が霽れると、門の前の谷川の音が響き初めた。それは今まで聞いた事のない、ゾッ〳〵といふ快い凉しい響なのである。いつもは石がごろ〳〵として素麵のやうな水が音もなく流れてゐるばかりであるが、後ろの山から押し流して來る雨水の爲めに、瀧のやうな水音になつて、たぎり落ちてゐるらしい。それが數日前から原稿紙に向つては書き惱んでゐた私の心に、暗示的な推進力を與へてくれたやうであつた。私は心が勇むやうにして筆を執つた。雨の爲めに谷川の水が殖えた事は、雜用の水を豐かにしてくれた。それまでは麓のIの家から下男が水を荷ひ上げてくれてゐたのであつた。風呂も此水で每日ぞんぶんに沸かして貰へる事になつた。風呂好きの私には嬉しい事である。

山莊の雨はいろ〳〵な點で私を喜ばせた。私ばかりではない水に渇きつてゐたオレンヂの樹を喜ばした。而して、同じやうに濕りを欲しがつてゐた畑の麥をも喜ばしたのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ところとして濁らざるはなく、夕方ど低き屋並みより干魚を炙る臭ひただよひ、加ふるに煙のごときもの軒端を罩むるも物悲しき限りなる。まことに人さまざまなる心もちながら、その下宿してゐたるころ忘れがたきものなり。

雨さまざま

室生犀星

——雨七題——

雨にさまざまあるべし。

雨を眺むる心さまざまにて人向き向きに悲しく樂しきこともあるべし。

活動寫眞館を出でて、思ひがけなく外面に降りたる雨をながむるとき何やらむ悲しき心地す。——さきほどまであのやうに晴れたるに、いつころ降り出でし雨ならんと思ひまはせば、世の移り變りさへ端なく浮び出で、怨めしきここちす。またとや知人もなく頼みにすべき縁家とてなき淺草に、しばしば雨にあふごとき田舍より出でて人となりたる己れなど佗びしくぞ思ふ。

むかし下宿にゐたるころ、雨を聽きたるは忘れがたく、所在なさに幾度ふところ手をなしつつ外面を眺めけん。——本郷根津の雨はさびしく、谷中の雨はしぐれこそ相應しく、郊外田端の雨は若葉とすれすれなる傘指しつつ錢湯にゆくこそよけれ。——根津の雨はくされゆく心地して、あまつさへ水たまり行く

雨の寂しき夜半ひとねむりしたるあとにて、ふと眼覺めつつ最早や幾時ならんと枕時計をさぐるころ、屋根の上を叩く大粒の雨の音に聞き入るときにしくはなし。——又は晝のうちに訪ね來たる人の、雨の匂ひさせて坐りてゐたるが、夜に入りてなほいひ殘れるをそれとなく氣づきたるときも、何やらむ少し悲しくぞある。

雨の數もろもろあるべし。——新年始めての雨をお降りと言ひ、春あさきに降るは春雨といふも諸人の知るところなり。

されど夏は最も雨の數々あるべし。さみだれ、卯の花腐し、菜種雨、虎が雨、梅雨、夕立、夏の雨など歳事記を繰りたらんには、この上さまざまの雨あるべし。されど悉く何やらむ陰氣くさく淋しきはこのごろの雨のこころにて、梅雨の最も永くいふせきは、晴衣に黴の生ゆるばかりにあらず、人の心も何となくしめり勝ちに氣色すすみかぬるなり。されば一茶の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「梅雨晴れや二軒並んで煤拂」するほど、氣のくされるときなるは。今もむかしも同じかりしなるべし。

虎が雨とは五月二十八日の雨にて、大磯の虎、曾我祐成に別れし涙雨なりといへるが、信ずべからず。――唯、この入梅のさきには、いかなる植木にても植ゑかへして根はつきよく、石燈籠、敷石の類はみな苔かかるときなれば、庭に石を置かんとする人人は忘るべからず。――されば多くの金魚飼鯉などの胃腸をこはすときも、このつゆ時なりといふ。

夏の雨の、そのひと日は涼しく、夕立は濃きを思ふとき涼しかるべし。されどその落ち來たるは餘りに荒々しく好まず。

藥買ひにすこし腹痛みしかばと、立ち出て木藥屋に待ちしほどに、雨のそぼふるは多くは時雨のころなるべし。いまはカフェにて雨を晴らすひとぞ多かれど、何となくふさはしからず。――雨は軒端に身を寄せ、すこし寒氣にこゝろ悲しきを隷常とすべし。雨はらす間に家あるひとは家のこと、たまゆらに思想すべく、下宿なるひとは己が、下宿のありさまを思ひめぐらすべし。借金ある身のぬれて佇むはただ哀しかるべく、女に逢はんとして降られたる人の急ぐこころも苦ちに苦しかるべし

されど驕れる人の何かた傲慢なる振舞しつつ、同じ軒端にあるは、怜しげなる眉うすき女の魚提げて佇めるとともに、雨晴らす風流の士にあらざるべし。

われこの原稿を書きける折、雜誌記者の來たるありて原稿をさしのぞきつつ、雨の日に雨のことを書きたまふ君は仕合せなり。われら雨の中をも歩きて行かざるべからずと言へり。この人去るときわれ玄關に送らんとせしに、レインコオトに雨の痕いちじるしく、長靴の泥おびただしきを眺む。――まことに君の言へるごとく雨日雨稿を綴るは仕合せなるうちならんかと思ひ、雨の中を行きける人を氣の毒と思ひぬ。――されど暫らくして火鉢の炭火にあてられしものならんか、持病の頭いたみ出し止みがたくなりぬ。――さればわざわざ町にまで行きて歩まんには、頭冷えて痛み去らんと思ひ雨の中を立ち出でつつゆけり。いづれが仕合せなるか分らず、又いづれが不仕合せなるかを知らず。人の爲ることとおもしろく己れ爲すこと面白からず。泥と濁れる水の上に行き、かの人も濡れてあらんと思ひぬ。

雨後の水溜は樹のかげなど映しつゝ何やらむ好ましく清げなる線をたてるものなり。あのやうに淺き水たまりの、いと清

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に見ゆるはその影もろもろに映りたれば也。雨に心あらば、その姿それにふさはしからんと思ふ。

われ鹽原の山中にて、ときならぬ山雨に逢ひたることあり、――山の上に山の重なり、雨のなかに雨かさなりて降れり。その音さびしく容易に歇まんとはせず。たちまち渺い眼の前にたまりて、蝙蝠傘携てるわが姿をうつしたるとき、むかしの古き人人の詩興を思ひめぐらしぬ。身に迫るはうそ寒げなる山氣のみ又人詩を知らず、杖をもつて水溜りを碎けば己れの姿又なし、――これひとり古き詩人の心にはあらずと思ひぬ。

函嶺の雨

中里介山

ことし四月半ばの或る日、眞鶴から湯ケ原まで歩いて天野屋に泊る。

天野屋は思出のある宿である。長いこと以前、幸徳秋水が此の宿から僕に繪葉書を呉れた。その繪葉書には五言絶句が一首しるされてゐた。惜しいことに其の詩を忘れてしまつたが。花飛び人老びんとすといふやうな句のあつたことによつて時はまさに春であつたと推量する。それから、ほとんど數日の後、想像も及ばぬ彼の不祥な大事件が持ち上つた。秋水は此の宿から拘引されて、遂に斷頭臺上の露と消えた。その後、何年かあつて僕は屢々伊豆の温泉に遊びに行つた、よく下駄穿きで小田原から熱海までサツサと歩いたものである。ある時。僕は麥秀の感に堪ゆること能はずして吉濱の町から道を枉げて湯ケ原へ行つて見た。途中、收穫の蜜柑を俵に詰めてゐる農家へ立ち寄つてその蜜柑の幾つかを賣つてもらいたいと交渉したら、少し疵のあるのでよければと云つて、地に落ちて皮の少しばかり裂けたのを僕の兩方の袂へ詰められるだけ詰めて呉れた。さうして代價はと問へば二錢で宜しいと云はれて呆れた事がある。その蜜柑を袂から取り出してはかぢりかぢりして湯ケ原へ行つてから今日で二度目だ。秋水が拘引されたのは吉濱の停留所前にある天野屋の支店で休憩中の事であつた。そこの主婦が當時の模様を手に取るやうに僕に話して呉れた。

宿の番頭さんは秋水のゐた室はすぐ此の前の處ですと庭を隔てた座敷を指し示した。その後、乃木將軍が此の宿へブラリとやつて來たのを薄汚い田舎親爺と見た番頭が、すげなく門前拂ひを食はせてしまつた、乃木さんは別に不平を唱へず、附近の小さな宿屋へ行つて行燈部屋のやうな處に抛り込まれて平氣でくす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぶつてゐたといふ話もあつた。幸德秋水と乃木大將とは、さながら明治の時代の顚逆の両極端を示すものと云つて宜からう。忠臣の絶鐙と逆徒の巨魁とが同じ宿屋に逸話を残してゐる。奇しき因緣で庭前の花が頻りに散る。東京を出がけに心配してゐた空が重く、今にも雨も落しさうだ。

その翌日、こゝから二里の山越に箱根へ出る。蘆の湖畔の西内で握飯を食べながら古文書を見せてもらう、これから二里餘の舊道を湯本へ下らうとする處でポツリ〱落ちて來たが、さまでの事はあるまいと、マントの襟をかき合せて後鐵の舊道を下りて行つた。甘酒屋で丑五郎馬つなぎの杭を見ておかしがり、甘酒と鶏卵をすゝつて、人なき古道を下りて行くと、よろ〱と步いて來る一人の勞働者に出會した。面には負傷をして手に繃帶をしてゐる。その人をつかまへて、問答をした處によると年は三十四、越前福井の生れ、漂泊して東京にゐた。これから駿河の早川の電力にゐる親方をたづねて身を寄せる。東京を出る時五六十錢持つてゐた。一錢も無くなつてから、工事を見つけては立ち寄つて其處の親方にすがり飯の惠みにあづかるのだが、

『これほど落ぶれても飯を食はせて呉れと云ふことはなか〱云へるものではありません、門前まで行つて、云ひ出さうとしては引返して來ます』と其の男は云つた。彼はまた自分の今日ある運命が酒の爲だといふことを語つた。

一爺が大酒飲みで、六つ七つになつた時分から、わたしをつかまへて大きな茶碗で頻りに酒を飲ませては喜んでゐた。それから習ひ覺えて、今日この有樣になつても酒がやめられない、此の頃主に燒酎を飲みました、安燒酎なら一日一杯に飲みます』

負傷は酒の爲にころんだので喧嘩をした爲ではないと辯解をした。僕は此の男の爲に少々のおひねりをこしらへて峠を上と下へ別れた。

初花の瀧を左に見て一日、湯本へ出たが更に電車に乘つて山道を强羅までのぼり、觀光旅館といふハイカラな宿に投じた。雨はその夕から本ぶりになつた。

翌朝も雨、海拔二千尺ほどの强羅には常でも風が多い、今日は乙女峠を越えて裾野へ行くべき豫定をこゝで雨ごもりとなる。旅館の二階から明星ケ嶽、宮の下、堂ケ島の風雨の春をながめてゐる。谷々の櫻は眞盛りだ。木の芽は紫になつてゐる。以前、山中電車の出來ない時分、湯本から大平臺の枝垂櫻がしづ心なく散る下を走つてよく堂ケ島の大和屋へ泊りに來たことがある。その宿で傘を借りて新道を蘆湖へ遊びに行つたこともある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「傘さして箱根越すなり春の雨」の古人の感興が油然として身に泌みたのは其の時、「今朝還途春雨冷やかなり、輕車夢を搖かして函關をわたる」と歌つた古狂生の心腸も思ひやられる。

途中、東海道の鳴立澤で買つて來た西行法師木像の繪葉書を諸友の爲に認める。

心なき身にも哀れは知られけり　鳴立澤の春の旅人

宿のおみよさんといふハキ〳〵した秋田生れの女中さんと、秋田話から五目ならべとなる。傘を借りてそばを食べにいつたが何處にもそばが無かつた、宮城野まで行けばよかつたらとあとで思ふ。

その翌日は目のさめるほどの好天氣、宮城野から仙石、乙女峠でながめた富士は惜しげもなくその雪の肌の全部をわれ等に見せてゐる、一年のうち、富士がこれほどに衣帶を解いて人に許すことは珍らしいといふ。昨夜の雨の果報かな。（大正十二年五月二日妙音谷蝸廬にて）

雨の軍艦

水野廣德

艦は今遠州灘を東に向つて駛つて居る。水天はてしなき太平洋も、今日は雲に掩はれ、雨に塞され、視界は極めて狹い。飴色に濡れた廣い甲板には、煙突から吐き出された細かい石炭の粉が胡麻の樣に撒き散らされて居る。夫が雨の爲めに叩かれ流されて穢ない醜い樣々の形を描いて居る。歩るく度にガジヤリ〳〵と耳擾い樣な嫌やな感じを與へる。渡船橋の下に火繩を挿んだ軍艦特式の煙草盆が据へられ。其の周りにはケンパス製の折疊み椅子が五六脚並んで居る。今は何うか知らないが、以前はガンルーム士官と云つて中尉以下の士官は、腰掛けて煙草を吸ふことさへも許されなかつたものじや。階級思想も此處まで進むと滑稽な感がする。上陸すれば長官も少尉も同じ女を對等で呼ぶことが出來たのじやが……。夫でも其の當時は別に怪しみもせず。早く腕の筋が殖えて、腰掛で煙草を吸ふ身になることを、樂しみの一つに數へたものじや。

二三の立ん坊組が煙草盆を圍んで、稅金のかゝらぬ金口か何

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かを吹かして居る」一人は今當直を終つたばかりと見えて、水の滴る雨合羽を脱ぎながら、

『ア、非道い〳〵。見て呉れ！ 上着まで此の通りビショ〳〵じや。斯んな雨に會つちや、合羽など何の役にも立ちやしない。之で合羽も、外套も、廻しも、みんな濡れて仕舞つて、晩の當直にや、もう着るものが無くなつた。』

『隨分しつこい雨じやね。凡二晝夜休みなしに降り續けだから溜らない。きつと雨と一しよに走つて居るんだぜ。人の寢靜まる暗の夜中に、濡鼠になつてボンヤリ立つてるのは石の地藏さんと我々ばかりだ。あまり氣の利いた商賣ぢやないの。

『前の世の祟りさ。之だから偶に上陸した時には、チツトはね……。何が不愉快だと云つて雨降の軍艦ぐらい嫌やなものはないね。陰氣で、暗くて、お負けに臭くて、しかも冬は寒くて、夏は暑いと來て居るんだから。

『其でも雨が降ると歎んで居る男がタツタ一人、此の船にも居るぜ。

『そりや一體誰だい？』ふられて歎ぶ程覺りを開ゐた奴は、一人だつて居そうにもないが……。。。

『甲板（甲板士官）さ。奴さん、眞水を使はずに內舷洗ひが出來ると云つて大歎びさ。も一日降ると、內舷の石鹼洗がスツカリ濟むとかで、天氣になるのを心配して居たよ。乾度降れ〳〵坊主でも作つて居るに違ひない。

『運動會の彌次じやあるまいし、そうフレイ〳〵と祈られちや溜まるもんかい。他人の苦みも考へず、そんな不心得な男はガンルームからボイコツトするんだねハハ……。

『ナニ職務熱心、勤務勉勵と云ふところさ。考課表調製期が近いからのアハ……。

『どれ今晩はミツドル、ウオツチじや、今の中に少し寢て置こうかな。ブリツヂで居眠りすると考課表が恐ろしいからの。だが、寢よと思つたつて寢床はなしさ。馮驩君なら早速、長鋏歸らんか寢るに床なしと歎ふところじや……。

『でも今の赤煉化の先生達にや孟嘗君ほどの人間味のある奴は無いからの、歎ひ甲斐が無いさ。

軍艦には鐘番兵と云ふのがある。時計の番をして、毎時間及三十分毎に鐘を打つ役目で、傍ら彈藥庫其他艦內各倉庫の鍵箱の番をして居る。番兵の側には黑板が懸けられて、「一番分隊長何時起シ」「野呂木中尉何時起シ」など書き付けられてある。

寢室を與へられざる中尉以下の穀虫士官は、厚いケンバス製のハンモツクの中でバナナの夢を結ぶのじや。若い妻君にでも見せたら、痛ましさに嘘泣や泣くであらう。冬は兎に角、

—（雨　七　図）—

暑さと來たら汗で體が溶けさうじや。緣相の悪い男は折々墜落して、頭を割つたり、腕を折つたりする。先達も落つこちて死んだ水兵が何處かの艦にあつたさうじや。』

鐘番兵が『野呂木中尉！ 十一時三十分です。

『ウ…ヨ、宜しい。

返事が鈍い。番兵は去りも得せず、暫く傍で様子を窺つて居る。中尉君またグウ〳〵、

『野呂木中尉！ 十一時三十分です。

『宜しい！。雨はまだ降つてるか？。

『まだ降つて居ます。

『澤山か？。

『餘程ひどいです。

中尉は眠むさうな大欠伸を一つして、重い體をハンモックからドシリと卸ろす。艦の動搖で足がヒヨロつく。『馬鹿にガブつて居やがるなア』。よろ〳〵しながら服を着換へて、跣足にヅボンをスネまで捲くし上げ、夜食の小豆粥に眠氣を食ひ覺まし、生乾きの外套を引つ掛けて甲板に出る。大分風が強い、波が荒らい、艦が搖れる、檣が叩なる、篠の様な大粒の雨が薄暗い電燈に光つて銀箭の如く。斜めにパチ〳〵と甲板を叩いて居る。

『イヤなお天氣だなア、何時迄降るんだろ』。呟やきながら煙草一段。動搖の爲めによろめく足を一歩〳〵踏み締めて前艦橋に上つて行く。外套は早やビツショリ、

『交代!!。滅茶に時化るじやないか。

『隨分ひどい！。針路何々。原速何節。艦位何處。バロメーター幾時、僅ほ下がる。當直將校誰。航海長は海圖室、何時までに…の燈臺が見へなければ艦長に報告。當直舷左舷。艦內異狀なし。

當直交代を終り艦橋の手摺につかまつて、默つて立つて居る。強い風が外套の裾を吹き捲つて、うつかりすると體諸共吹き飛ばされさうじや。烈しい雨が砂の如くパチ〳〵と頭巾の隙から、痛い程顏に打ち付ける。迚ても眞面に目は開けられない。投節か、覆盆か、是こそ眞に御天ト様の小便じや。烏羽玉の暗の海には眞白き激浪の山が、猛然と卷き上げ、轟然と崩れて居る。雨の音、波の號び、風の叫り、嘈々囂々又轟々、艦を家とする身にも坐ろに氣味が悪い。艦首は時々浪をシヤクつて、前甲板には物凄き燐靑の怒濤が渦卷く。飛沫は飛んで高き艦橋を犯し、鹹辛き水礫をピシヤリと投げ付ける。空氣の激動で、ホーッと息がつまる。

荒天四時間の直立に足は疲れる。目は充血する。雨と飛沫とに打たれて顏は一面に脹れ上がる。首筋より流れ込む浪のしぶ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

きと雨の雫とに襦袢までも濡れる。體の動くたびに、ヒヤリ！ポチヤリ！。陸の人は翠帳紅閨、歡樂の夢閑なる眞夜中に、雨風浪と闘ふ船乘商賣も亦つらいかなじや。

「前の世の祟り、だから偶に上陸した時は……。

何時か、どこかの港で斯んな歌を聞いたことがある。

「男持つなら船頭衆はイヤじや、港々で浮氣する。

「亭主持つなら船頭衆にしようか、浮氣御免の札貰ろて。

「わたしや七夕一年一度、早く濟がんせ天の川。

雨の電車

雨の電車も亦相當貧乏人泣かしじや。「歩くと運動になつて體二合が好い」などゝ體裁を繕ひながら、其の實懐勘定のオテクリ種族も、雨の日ばかりは十五錢氣張つて電車に御乘りになる。會社役所の出勤時刻には發車點で既に滿員すし詰じや。停留場の雨に打たれて待つ程に、來る電車も〳〵、赤札ぶら下げて素通りする。見ると、車の屋根から落ちる雨垂に背の濡れるも厭はず、車掌臺の階段にさへも縋がり付いて居る猛者もある。十分遅刻しても盆暮のボーナスに影響する弱い商賣の勤人に取りては、着物の濡れるぐらい構はないと見へる。運轉手臺に唯一人悠然と立てる御巡はり樣が羨ましい。電車にはロハ乘り、メーデーには×××、惡るくねへ商賣だとは、電車を待つ勞働者の陰口じや。そんなものか知らん。

停留場には追ひ〳〵人が増して來る。巴里の樣に順序札の設備が無い東京じや。早いが賞觀、強いが勝ちの日本じや。敏捷な男は後から來て先きに乘つて行く。勇敢な男は車掌と喧嘩しながら押し込んで行く。其の機敏さ、其の勇猛さ、之では今更ら國民に軍事教育などを施して、突撃吶喊の稽古をさす必要は無い樣じや。女や小供は何時まで待つたら乘れることやら、小學校で教つた修身や、中學校で習つた倫理を馬鹿正直に守つて居たら、停留場で辯當を開かにやなるまい。遅刻缺勤に對して電氣局は證明書を書いて呉れない。ボーナス減額に對して學校では賠償の責に任じて呉れない。之を思ふと、金持が息子の學校通ひを自動車で送迎するのも、むげには責められない。一人でも自動車で運搬すれば夫れだけ貧乏人が助かる譯じや。理屈はどうにでも付けて置け。

兎にも角にも、時間の空費、體力の徒勞、道徳の破壊じや。お負けに服が傷む、靴が傷む、傘が傷む、國家の爲めに大不經濟じや。傍の掲示板には「民力涵養」「節約デー」「自治精神の養成」など、勿體ない宣傳ビラが皮肉に笑つて居る。成る程雨風の中に一時間も立たされりや、定めし民力涵養が出來るであらう。滿員電車への突撃、隣保自治精神が養はれるのであら

う。夫にしても節約デーでも無いのに、此の電車の節約振りはどうだらう、など丶閑潰しに斯んな不埒な考も起る。日本も二等國時代には電車こそ無けれ、貧乏人の生活はモツと幸福安易だつた様に思ふが、一等國になつて却つて苦痛險惡が増して來たのも、難有き不仕合せじや。此の上國家が發展したら、どんなに非道い目に會はされることかと思へば、愛國心に馬力を掛けるのも考へ物じや。一にも國家の爲め、二にも國家の爲めと煽てられて、貧乏人が汗を絞り血を流し、粒々辛苦作り上げた國家の恩惠と庇護とを、最も多量に受けるものは一體全體誰だらう。貧乏人達は雨の停留場で、おとなしく民力涵養をやつてさへ居れば、其が國家の爲めなのじやろ。文句を云ふ奴は危險思想家としてフン縛れ！。

遠慮御無用、饒舌廢止は。雨の日に東京電車に乘る者の心得置くべき第一標語じや。滿員素通り幾臺かの電車を待つた後、やつと停つた。ヤレ嬉しやと傘を疊み、雨を冒して驅け行くと、生憎自動車が突擊し來つて、我れ先きにと乘車を爭ふブロ虫共を泥爆彈で追つ拂ふ。其の虚に乘じて電車は一人か二人を拾ひ上げ、アバヨとばかりチン／＼ゴーツ。取り殘された者は恨めしさうに、電車と自動車とを右と左とに睨み分け、芝居の稽古までやらねばならぬ。外套の裾からは雫が垂れ出す。小學校行きの小供は泣き出す。……もの丶三十分も待つた上、漸く電車に縋がり付くと、何が扨て降客一人に乘客數人、押すな！潰れる！　の大混亂。肉薄爪立とは眞に此の事じや。小さい小供は息も出來ない。背の赤ん坊が押し潰されるのも不思議じやない。車掌君が泣きそうな聲を絞つて「御順に御詰めを願ひます」と叫ぶ。前の方の職人らしいのが「ベラボウめ、ゴム人形たあ違ふんでい、幾ら押したつて入れるけへ。雨の降る時や車の數を増せと電氣局へ言つて來い！」と、エライ權幕じや。指の碎ける程足駄で靴を踏まれたとて、軍人さんのピショ／＼合羽でこすられたとて、文句は言へない。命に別條が無ければ仕合せと感謝するの外はない。夫にしてもヤリ切れないのは、鼻の先きに匂ふ誰かの辨當じや、糠味噌漬の異香馥郁として鼻柱もヒン曲らんばかり。電車道德の標語の中へ「御互に臭い辨當は遠慮しませう」と、加へて貰へぬものか知ら。

夫でも四つ五つと停留場を過ぐるうち、いつしか車臺から車の中へ押し込まれる。やつと辨當の難を免れたかと思ふと、今度は枕代りの牛蒡縛に差し込んだ辨慶七つ道具式の物騷な劍鋒が目の下に峙立つて居る。こいつも序に遠慮申し付けたいものじやが、後難が恐ろしい。電車のかブる每に、隣の足駄が無警告で靴を踏み躪る。前の劍鋒が頻りに暴れ廻はる。痛くて危

危くて溜らない。扨て徐ろに車中を見渡すと、座席に就いた先占の權利者は申し合せた樣に膝の間に傘を衝つ立て、しかも着物の濡れるを防ぐ爲めか、股を擴げて思切り領域を擴張し、大に帝國主義を發揮して居る。兵隊さんのヅブ濡れ外套の隣に据つたハイカラ婦人が、頻りにコールテン、コートの袖を氣にして居る。此の混雜の中でも泰然として新聞を廣げて讀んで居る勤勉家もあるに驚く。雨の東京電車は全く以て個人主義の訓練所じや。自我主義の道場じや。扨て愈々降車となると、一停留場ぐらい前から戰鬪準備に取り掛り　孤軍奮鬪圍を破つて降りるの勇氣が必要じや。やつとこせで車から降りると、靴もヅボンも泥だらけ、之では折角來たものゝ、人の家を訪ねる譯にも行かぬわい。

京の雨

瀧井孝作

「改造社から雨と云ふ題で何か書けと云うて來ましたが、書きますか」私は此間田端で室生氏と對座して、氏に左う尋ねた。

「何書いて宜いのですかね？」

室生氏は

「何處其處で斯う云ふ雨に逢つた、雨の記憶を小品のやうにして書けば宜いのでせう」と答へた。

其對座で室生氏は斯う云ふ事を述べた。

「人間に病氣が無かつたら殺風景でせうね、病氣を知らない健康な人の氣持は、亦變な物でせうね」

私は「雨」の事を考へてゐた故、室生氏の言ふ意味の病氣、――のやうに雨は色々の風情を見せる物だと思ふた。

――

私が京都に移つて翌日、雨が降つてゐたが、二ケ月前に來てゐた橋本君の案内で、周旋屋の帳面にあるかしい間を見に出かけた。京の町は雨の道にても割に泥がなく利休下駄にて足袋が汚れない。

最初に尋ねた家は眞宗の寺で、多數の女達に裁縫を敎へてゐた寺の主婦らしい五十臺の人は、親類に借りたいと云ふ人がある故と斷つた。その家を出ると橋本君は

「かう云ふ風だから京都は厭だ、何處へ往つてもグズ／＼云つてゐて、直ぐ話のつく家はないのですよ」

と左う云うて、來た當座かし間探しで厭な目を嘗めた山を告げた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二番目に見た家は或魚屋の離二階で、生臭い土間の通路、疊の上に敷いた薄縁、凡そ落つけさうでなかつた。

三番目の家は祇園に近いある表具師の二階で、丸髷の内儀が、今主人が不在で分りませぬがと云ひ乍ら部屋を見せて呉れた。其二階座敷には行李など取散らけた、蒲團を被た人が寢てゐた。

軒に八阪の塔を仰ぐ次の家では、應對に出た主婦がこちらの身元など問質した上、躊躇してゐたが結局口實をつけて部屋も見せずに斷つた。

私達二人は雨が僅にかゝる吹降りの道の上を歩いて、こんどは淸水坂の南側の小綺麗な住居を訪ねた。表玄關の呼鈴を押して返事がない故、勝手口とある路次の戸口に顏を出し事を告げると、女中はお昇り下さいと云ふ。部屋を見せるのかと思つて昇ると主人の居間に通した。主人は三十臺の念入に梳の痕のある頭で唐木の机の向ふに坐つてゐた。部屋は棚々に其商賣かと思はれる程骨董が一杯で、床の間の掛物は幽靈の繪、その向ひの壁間には西洋女の裸體寫眞が幾つかピンで留めてある。私は無遠慮に有樣を見廻した。女中が茶を出すと主人は其を見て、もつと濃く熱くしてと直ぐ茶を押返した。主人は、けふは雨で在宅してゐるのだがと云つて、かし間は二階だが今取ちらけてゐる故明日通知をしたら見に來て呉れと述べた。左う云ふ商賣で主人の居間を見た丈けで其家を出た。

電車を待つ間、今見て來た有樣について

「毎日あゝ云ふ男と交渉があるのは堪らない。女中二人も使つて何なのだらう」

「京都の惡趣味を代表してゐる樣な男だ」

左う話し合つた。

それから、寺町丸太町で電車を下りて、近所の酒店のかし二階と云ふのを見て、尙六角堂に近いある悉皆屋の二階も覗いた。この悉皆屋の内儀と云ふのが又よく喋べる女で梟のやうに丸い目を見張りながら前に居た借主の身の上話を續け樣に語るのであつた。前の酒店の二階でもこの悉皆屋の二階でも、京の町家の薄暗い慰めのない造りで、其有樣を神經質に氣にする私は兩方共に離れた氣持になつて外に出たのであつた。

もう夕方になつたし、草臥れて來た故、雨の日で傘の多い新京極を横ぎつて、歸途、或小路で、待合席がしと書いた粗末な日立たぬ行燈が軒に吊られた家、俗に盆屋とか云ふ曖昧屋の表ての樣を、雨の蝙蝠傘の中から見かけて過ぎた。

「京都は感じが何となく猥褻だね」

私は連れに左う云つた。けふ出逢ふた人々が皆不健康な氣が

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

された。一日かし間探がしで病的な京都の一面を覗いて、私は、友人が紹介するから住んだら何うかと云ふて呉れた、隔つた山科の方の禪寺に移らうか知らと思つた。

―

旅のゆきずりに眺める京都は風情があつて面白いかも知れぬが、愈々其處に住はうとすれば風情は一面却つて堪らないものである。

「雨」それは風情があるが、實際はイヤなものである。

（五月七日、京都にて）

なまけ者と雨

若山牧水

降るか照るか、私は曇日を最も嫌ふ。どんよりと曇つて居られると、頭は重く手足はだるく、兩眼すらはつきりとあけてゐられない樣な鬱陶しさが感じがちだ。無論爲事は手につかず、されぱと云つてなまけてゐるにも息苦しい。

それが靜かに四邊を濡らして降り出して來た雨を見ると、漸く手足もそれぞれの場所に歸つた樣に身がしまつて來る。机に向ふもいゝし、寢ころんで新聞を繰りひろげるもよい。何にせよ、安心して事に當られる。

雨を好むこゝろは確に無爲を愛するこゝろである。爲事の上に心の上に、何か企てのある時は多く雨を忌んで晴を喜ぶ。すべての企てに疲れた樣な心にはまつたく雨がなつかしい。ひとつひとつ降つて來るのを仰いでゐると、いつか心はおだやかに凪いでゆく。なまけてゐるにも安心してなまけてゐられるのをおもふ。

雨はよく季節を教へる。だから季節のかはり目ごろの雨が心にとまる。梅のころ、若葉のころ、または冬のはじめの時雨など。

梅の花のつぼみの綻びそむるころ、消え殘りの雪のうへに降る彌降のあたゝかい雨がある。櫻の花の散りすぎたころの草木の上に、庭石のうへに、またはわが家の屋根、うち渡す屋並の屋根に、列を亂さず降り入つてゐる雨の明るさはまことに好ましいものである。しやあしやあと降るもよく、ひつそりと草木の葉末に露を宿して降るもよい。

わが庭の竹のはやしの淺けれど降る雨見れば春は來にけ

しみじみとけふ降る雨はきさらぎの春のはじめの雨にあらずや。

窓さきの暗くなりたるきさらぎの強降雨を見てなまけをり

門出づと傘ひらきつゝ大雨の音しげきなかに梅の花見つ

ぬかるみの道に立ち出で大雨に傘かたむけて梅の花見つ

わがこころ澄みてすがすがし三月のこの大雨のなかを歩みつゝ

しみじみと聞けば聞ゆるこほろぎは時雨ふる庭に鳴きてをるなり

こほろぎの今朝鳴く聞けば時雨降る庭の落葉の色ぞおもほる

家の窓たゞひとところあけおきてけふの時雨にもの讀み始む

障子さし電燈ともしこの朝を部屋にこもればよき時雨かな

など、春の初めの雨と時雨とを歌つたものは私に多くあるが、大好きの若葉の雨をばどうしたものかあまり詠んでゐない。僅かに、

うす日さす梅雨の晴間に鳴く蟲の澄みぬる聲は庭に起れり

雨雲の低く渡りて庭さきの草むら靑み蟲の鳴く

などを覺えてゐるのみである。

夕立をば二三首歌つてゐる。

俄かしぐゆうべの狹庭に這ひておきらけき夏の雨は降るなり

はちはちと降りはじけつゝ荒庭の穗草がうへに雨は降るなり

俄雨降りしくところ庭草の高きみじかき伏しみだれたり

澁柿のくろみ茂れるひともとに瀧なして降る夕立の雨

一日のうちで何がいゝ。朝の雨が一番心に沁む。眞直ぐに降つてゐる一すぢごとの明るさのくつきりと眼にうつるは朝の雨である。

眺むるもよいが、聽き入る雨の音もわるくない。ことに夜なかにフツと眼のさめた時、端なくこのひゞきを聽くのはありがたい。

わが屋根に俄かに降れる夜の雨の音のたぬしも醒めて聽けば

あららかにわがたましひを打つごとき此の夜の雨を聽けばなほ降る

雨はよく疲れた者を慰むる。

あかつきの明けやらぬ闇に降りいでし雨を見てをり夜伽事を終へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

遠山(とほやま)の雲(くも)、襞から襞にかけておりてゐる白雲を、降りこめられた旅籠屋の窓から眺める氣持も雨のひとつの風情である。山が若杉の山などであつたらば更らにも雨は生きて來る。

紀伊熊野浦にて。

船にして今は夜明けつ小雨(こさめ)降りけぶらふ鵜崎の御熊野の見ゆ

下總犬吠岬にて。

とほく來てこよひ宿れる海岸(みぎし)のぬくとき夜半を雨降りそゝぐ

信濃駒ヶ嶽の麓にて。

なだれたち雪とけそめし荒山に雲のいそぎて雨降りそゝぐ

上野榛名山上榛名湖にて。

山の上の榛名の湖(うみ)の水ぎはに女もの洗ふ雨に濡れつゝ

常陸霞が浦にて。

苫蔭にひそみつゝ見る雨の日の浪逆(なさか)の浦はかきけぶらへり

雨けぶる浦をはるけみひとつゆくこれの小舟に寄る浪聞ゆ

平常爲事をしなれてゐ、室内の大きなデスクが時々いやになつて、別に小さな卓を作り、それを廊下に持ち出して物を書く癖を私は持つて居る。火鉢の入らなくなつた昨日今日の季候のころ、わけてもこれが好ましい。

廊下に窓があり、窓には近く迫つて四五本の木立が茂つてゐる。なかの楓の花はいつの間にか實(み)になつた。もう二三日もすればこの鳥の翼に似た小さな實にうすい紅ゐがさして來るいであらうが、今日あたりまだ眞白のまゝでゐる。その實に葉に枝や幹に、雨がしとしと降つてゐる。昨日から降つてゐるのだが、なかなか止みさうにない。

楓の根がたの青苔のうへをば小さい辨慶蟹の子が一疋で、さつきから久しいこと遊んでゐる。

ゆきあひてけはひをかしく立ち向ひやがて別れてゆく辨慶蟹かな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戀本願

岡本一平

むかし一人の老婆があつた。瀟洒な庵を建て一僧を供養する事二十年にもなつた。いづでも給仕には年若な娘を侍らせた。ある日の事老婆は給仕の娘に旨を含め、かの庵の僧のところへ行かせいきなり僧に抱き付かせた。そして言はした。

『あなた、この場合にはどうなの』

すると僧は瞬きもせずする〳〵と言つた。

『枯木寒岩に倚り、三冬暖氣無し』

娘歸つて老婆に報告する。老婆感服すると思ひの外その僧を叩き出し庵を焼き拂つた。

そして言つた。

『わしは廿年もこんな俗僧を供養して居たのか。あつたら事だ』

これだけの話が禪門の試驗問題ともいふべき公案の中の一つにある。筆者は玆に恭しく一瓣の香を爐中に爇向し話中の婆子、二八娘、俗僧に供養する。して筆者の妄辯を鼓舞し、彼等の以後の生活に消息を通じようと企てる。翻へして公案話中の消息を覗觀するよすがにもなれかし。

亂道の罪科、諸尊宿の三十棒だも償せぬ事位はもとより覺悟の前である。都合によつて物語の時代を現代に採る。

僧は逃げ出した。袈裟文庫の擔ひ紐を片環だけ肩に穿めたから文庫は斜に背中に掛つてる。僧に笠と錫杖とを取り出す餘裕を與へて老婆は庵に火をかけたからそれ等は僧の右手にある。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一逃げ逃げた足の彈動が盡くした因緣の終りのやうに消ゆると共に僧はひとりでに立止まる。

佇立した儘僧は思ふともなく湛へる。

二十年の修業で百八の煩惱に悉く坐斷して仕舞つた。骨は生みの父へ、肉は生みの母へ還して仕舞へば、我れと思ふ何物も無い。如何に身のうちを顧みてもそれは丁度嘔吐く前の鏡のやうに透き通つて居る。或は右手の田の面が身體を透して左手の田の面に映つて居るかも知れない。その田さへも一たび眼をつける時はいふまでも無く性空である。土と思ふ何物も無い。水と思ふ何物も無い。空に空が滿へ稻株の根が腐つて居るのも空だ。この土の下に幾億萬里距て、頑石の如く横はつて居る金輪際、それさへ眼に遮へぬ。咦！。試に世界の外に跳一跳してみる。そこは果てしもなき空間の海原その絶對の空と今居るわが僧形の空と元來何處に差別のしようがあるか。

空の宇宙ゆゑ自由に撮し來つて芥子粒程に捻る事も出來れば丈六の金身に程よく仕立て上る事も譯は無い。上下左右、絶對の見地からは何時でも都合によつては取換へて誰ぜる。この解脱に居りこの妙腕を具せる僧形のわれ、僧ではない生命そのものだ。生命の云ふところ做すところ何處に缺點があるか。婆こそ報酬を求むる爲めの供養、爲めにする所あつての扶養だつたのだ。だからあまりに水際立つて執着のないわしのあの感想の言葉に目的が違つたのだらう。もつと有難味のある慈悲らしい挨拶を得たかつたのだらう。然し有難味や慈悲には終始がある。反對のものがある。執着を導く怖れがある。そんなものが附けば既に生命の本質ではない。僧は生命の無味無染、割り切れぬ片寄らぬ中心點に立つてこそ又そをむき付けに人々に開示悟入させてこそ却つて慈悲があり、有難いのだ。婆今少し功德を積みいくらか消息を伺へるやうになつたら嘸かしわが去れる方に向ひ懺悔禮拜するに違ひない。

それから、も一つ考へようがある。婆は或はわしのあの發想の言葉を嘘と思つたかも知れない。内實は女人のぬくもりに心をときめかし乍ら飾つてあの淸白な言葉を吐いたかの如く誤解したかも知れぬ。それならば一層婆の罪は深い。生命の使徒を信ぜぬ罪は生命を謗つた罪より重い事がある。謗法は逆緣なが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら後に、道へ導く便りになると經に書いてある。不信はお輪迴さまでも、もてあつかつていらつしやる。

妾の誤解する程わしのあの時の氣持ちは脫落したものであつた。若い娘で媚びのある女だとお小夜（給仕の二八娘をしばらくお小夜と名付ける）の事を近所ではいつてる。それがわしの膝へ、くの字に靠れかけても恰も松に椅る蔦、植物が植物と思ふ程にも刺戟を受けなかつた。右の肘はわしの膝に左の手でわしの肩から頸を抱へ二三度揺り動かした。そして言つた。

『あなた、こうした時はどうなの』

聞慣れぬ人界の言葉だ。要するに法堂で問話の際、曲彔牀上の諸尊宿われ等に驗問すべく『道へ看ん』と仰せある。あの旨とわしは受取つた。故に體驗をその儘敢て言葉に綴る必要も無い。答は直に

『枯木寒巖に椅り三冬暖氣無し』

である。わしが言つたとも覺えぬ。體驗が言つたとさへも思はぬ。空に空が打當つて自づと發する空な響きだ。唯生命が微笑したらう。

春日は暮れかゝる。僧の地に落す形は永くなる。僧は右の如く岑へ移つて風、過ぎた枝の水面のように元の顏に還ればその儘靠端の向く方へ風の如くに歩るき出した。

山里の春の夕暮。心ある人に見せばや。天地は潤んだ女の眼だ。峯から野へ流れる丘の傾斜の線に、暮靄、霧と交らんと欲して低き植林の杉苗にたゆたひ、酒の醉ひの上らんとして、そを身體の健康に抱きすくめらるる青年のわづかに保つうつし心のように包つて居る。霧の色は實は紫だが感じの上では西洋菓子のマシマロの薄桜微色にしか受取れぬ。丘は更に窪所々々に余地に描いた暖き水獄の色を滿へ、芝生の波のうねり、青々光琳が藝術に對する愛を忍びかね描毛を逸奔の儘に任した、それの如く、丸きが上に丸かれとこそ希ふ途中で、全幅の構圖を壞らさらんが爲めに一息描毛を拔く。と思へる樣な臆の邊に平地がある。それが洩れ日を受けて光つてる。光りの中に更に綠の光がある。これは少女の毛糸の縫ひに似てる。非常に規則正しく、正直に過ぎて思はぬ可憐な歪み方をしてる。それは畔の麥が並んでゐるのだ。ポプラが一本、土壕にすくすくと伸び立つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。全幅を日本畫に仕立てる筈を洋畫臭くして仕舞つた。

道一つ距てる。

桑畑がある。先程より忠實やかな爽かさの新芽の蒸氣を受けて居ると思つたのは實は桑が發芽して居たのだな。桑の株は最早、畑主から枝先の葉の絆を除かれ八方に枝を伸ばしてる。中に解かれるを忘れられ絆の儘別個に、それでも青蛙の掌のやうな葉をつけてるのもある。桑の木の手前の方は寛濶に、遠く望む程襲ひかゝる進軍の劍戟に似て勢ひ密集する。桑畑の枝先を遠く望むと春に似ぬ騒がしき氣持ちを起させられるものだ。劍戟のあはや突入らんあたりの敵軍の位置にびろうどの厚い陰がある。して、稍獸毛なる下げ前髪のふくよかさと丸みを幾つか陰より明るみの空へ束ね上げ、塊の一々に楕形の蔭を持つたそれは孟宗藪である。破竹は男らしい。

手を入れた三階松の上の一階だけ藪の上に拔けて居る。手を入れぬ黒松は風の爲めに片意地に南の方へのみ枝を延べてる。來年あたり藁を代へる事を忠告し度い藁屋根が、松が起した線の狂ひを、黒い塊を反對の空に控へてコンポジョンを牽制してる。總て農村中産階級の住居の態。

この家を中景にして後は暫、平蕪の地、間もあらせずまだ咲かぬ桃林、梨林、杏林が動かんとして蹴る雲の如くに細つて居る。越へて山村三四、中には灯を入れたのもある。それを圍つて丘、山、峯といふ順序である。山雲がそれ等の氣に入つたのへ一々丁寧に卷き付いて居る。峯に私語かれ笑壺によつた雲は輪廓極めて明白で無い。尙最後に胡粉で筆を加へて置かねばならぬのは中産階級のかの農家。遠近の畑中。灯の入れる入らざるに係らず三四の山村に老梅が夕闇にも著き事である。かの僧に言はしたら梅に私心なく平等性ありとでも言ふだらう。

僧はこれ等の委曲を盡した有情の景色にも關ひを與へず、僧に目前三尺を見て默つて歩いて行つた。屍子を守る鬼子の如くあるとは彼の形容の事だ。道はポプラのある麥畑と桑畑の間へ導く。後より村の娘が歩るいて來た。頓て僧を追越す。向ふの丘の裾を廻つて村の若者が揶唄うたつて來た。

坊さまよ、お山の道は、お袈裟が擦れるよ。ほい。

お袈裟よ、擦れても、お世話にやならぬよ。ほい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ゆくりなく倅の面前で若者と村娘は行き逢ふ。若者は行きずりさま娘の横顔を穴のあく程注視したが足を停めると、つと娘の傍へ押し寄り被つた手拭を剝ぐや平手で娘の頬をぴしやりと叩き付けた。そして言つた。

『可愛らしくなりあがつて、なんだ女郎』

娘は驚いて五六歩駈け出して逃げた。倅は一寸眼を上げて視た。そして想つた。これも空の上の戯れだ。娘は怒つて泣いて何れは結べぬ筈の結び目を玆に一つ結ぶ事であらう。

そして結び目から結び目へと絡まし行き、せずともの苦勞を追ふ事であらう。それも夢の中の又夢、飽くまでも見たがよい。

逃げた娘は立停つた。歸り行く若者の後姿をつくぐ\眺めて居たがしばらくして頬を掌で押へた儘にこりと一つ笑つた。それから遠く聲をかけた。

『四郎五郎さ。ちと遊びに來なんな。てばよーう』

倅は何かに打たれた。——泣かずに娘は叩付けられて居る。

『はてな』

こに又不思議な商量である。打たれて怒らず突放されて惹き付けらるゝ。何といふ巧妙な働きであらう。してその作略の中に適當な潤ひと滑らかさが自然にある。煩悶に驅られつゝ然も其處に解脱が自由以上に活きて居る。と思つた刹那から最早これに衝動を受け、省れば彼の中の空は既にその一角を壞られて居る。壞られぬ筈の空が壞れ、壞れた穴から先を覗けば其處は光り輝く世界。伎樂を奏し七彩を放つて佛も人類も、畜生も虫けらまでも生命の糸で繋ぎ合ひ生命を融通しつゝ、もとの姿に一毫の增減もない。虫けらは虫けらの形さながらに光明を放つて居る。何といふ美妙暢達の世界であらう。二十年來修業し向つて來た超越のわが世界以外に更にこんな生命の世界があらうとは倅は夢にだも思ひ付かなんだ。その世界よりわが住む空の世界を顧るとそれは頑で凍りついて居て玲瓏その度を增す毎にいよく\硬度を高める。勿論生命は押へてる。さり乍らそれは封じ込めた氷中の花だ。藥力で形態だけを保たした埃及の木乃伊である。逢うてきつすする事も出來なければそれより色香味聲觸を取出して物に應じ時に隨ひ剩も不剩もない活きた仕末をつける、融も缺いて居るのだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

頑な生命ゆゑ、自由な生命に打撃せられては壞れる筈の無い生命の一角が壞れた。罪は生命にない、總持する人間にある。

今にして想へば一つの人間が艶麗花の如き女人に抱定せられて

『枯木寒巖に椅り三冬暖氣なし』

の撥着は自己も殺して居る、相手も殺して居る。女といひ男といふこの美しき差別を與へた自然の法則を何といふ味氣ない殺し方をしたものであらう。丁度薪割りの斧で毆りつけたやうなものだ。生命は傷を袖で抑へて何處かで歔欷して居る。その聲が正しく今膓に響いて居る。居ても立つても居られないあの聲。わしは罪の中でも、もつとも重い佛種を焦る罪を行つたものである。墮地獄は必定。

怖ろしき姿だ。姿は何もかも承知して居たのだ。わしはあの時あの姿に一棒に打殺せられて狗に食はされて仕舞つてもそれは寧ろ慈悲だ。明眼の宗師の手にかゝつて生を更へば卽てその因によりわしに再び生命を模索し始める菩提心の發芽の見込みはあつたのだ。生恥を曝したまゝ追放され、庵はわしの餘蘊を殘さぬ迄め容器に掃拂はれる。今は取付く島も無い。さればとて玆に改めてかの美妙暢達の世界、それへ乘出さうと鬪つても、艪櫂となるべき煩惱を殘すところなく磨り潰して仕舞つてる『枯木寒巖に倚り三冬暖氣無し』は今、口にするだも怖毛の立つ言葉になつたがどう身體を抖擻して見ても、それより他の音の出ぬのは實情だ。いくら穿つても其處に地のぬくもりを受けて赤子の涎のように愛くるしい玉の光りを帶びた人情の泉がふつ／＼と湧き出す見込みは全く無くなつてる。頭の尖から爪の先まで畢竟『――三冬暖氣無し』になり切つてる。透明が恨めしい。超越が恨めしい。想へば二十年來の修業が恨めしい。

僧はいつかぽぷらの樹の根に腰かけて居た。とめど無く涙を流して泣いて居た。よのつねの人ならばこゝで自殺を思ひ立つところなのだが、僧の境界は過去、現在、未來共に一瞬のうち、過ぎ越し來つた時間も認めなければ越し行く先の時間もありようは今の掌の裏にある。して又その一瞬さへ前際、後際への推移を無視し去つた以上、比較が無いから何と名けて斯くと價値を認識すべき條理も感覺も缺いて居る。生として生れて來

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た、何物も採り上げて居ぬから從つて死と目差して向つて捨て去る何物も持つてない。強ゐて死んでもそれは生が衣更月の頃、綿入を袷衣に衣更へしたくらゐの心持ちに過ぎぬ。何の效能も無い。いや寧ろ、衣は着て無い元來の躶に居るのだから躶から躶へ衣更へしてもやつぱり事態は同じだ。擔つた罪や悔は生を變へても些の増減も無いといふ信條からは自殺もさつぱり當が立たぬ。こうなると解脫も却つて厄介なものだ。

日は暮れてあたりは暗くなる。四周の山は頂にのみ凸凹のある一列の黑い壁となつて天地の腰を取卷く。それがこの山里を思ひの外な險しき山間にあるように思はせる。稍風が出て、身近くはぽぷらの葉、遠く植林の杉に當り程よき寂しみを聞えさせる。村々の灯は瞬きを始めた。然し冬のように忙しく角立つては居ない。かの中產階級の藥家にて子供が訛りのある言葉で唱歌を唄ひ出した。春なのに、秋空晴れて日は高しなど、唄つてゐる。

袈裟文庫を橫に置き持佛の如意輪觀世音をそれへ安置し懺悔文を繰り返へしく唱へた後、僧はいつまでも祈念して居た。春の月が景色の構圖を考へぬ思はぬ邊にぽかりと出て追々天地を朧夜にして行く。遠村の灯の中に村の飲み屋があると見える。三味線の音が聞えて來る。拙い三味線を巧者に聞かせようと思ひ、無暗に下品な繁き手を加へる。ある手のところへ行くと乾度調子を外ずし桁を飛ばす。それが週期律のように繰り返し來るので、心待ちでもあり又神經にも觸はる。

如意輪觀世音は釋迦如來屈託の御姿。衆生を濟度せん許りに凡夫の愚痴に同じ、思案投首で頰に手を當てゝおわせらるゝ。禱りはそれ自身が既に答へである。ましてや勝妙な御姿を前にして僧に蘇息の道が開かれぬ筈はない。僧は俄に首を擡げた。そして呟いた。

『そうだ。お小夜どのに相談せう。あの娘は人並外れて濃情の女だといふ噂を聞えて居る。今のわしのこの氷のような心に草木の芽を吹かす働きは並大抵の智識では覺束ない。

お小夜どのこそ佛に導かれた煩惱の宗匠だ。よろしい。わしはこれから不惜身命にあの女の言ふ通り從つて見よう。從つて行き、あの生命が活きて動いて居る美妙融合の世界へ引上

げて貰はう。こう決心がついただけでこの天地に暖もりが出て來たこと。山があるな。畑があるな。人々が仲よく住む家があるな。家の中では父が子を膝に抱き上げ頬ずりして居る**事であらう。わしは今迄**この世の空氣を強く吸つた事が一遍もない。先づこれを吸はう。この空氣はこの世の人々が大人は大きな口を子供は小さな口。女人等は媚めかしき紅のついた脣で吸つて居る空氣だ。もとより山も河も草も木もみな吸うて居る。それと連なつた空氣だ。そう思へば身體へ牛乳のように滋味を帶びて浸み込む。空氣に滑かな匂のあるのが今判つた。わしはこれからこの空氣を吸へると思ふだけでも五體に生氣が、萠して來た。そして不思議な事はわしが斯く、冷灰より生きた生命へ修業に出ようと思ふ心持ちと同じように今この環境の天地が息を始めた事だ。彼等もみなこれから踏み出す心構へに踴躍して居る。どれもつれなき他人では無い。春の月よ。

そうだな――

扨、そしてと、お小夜どのに逢ふ手段はどうしたらいゝだらう。門を入つて庭詰めをして――これに宗門に在るうちの儀式だ。煩惱の師匠に入室を乞ふにはよのつねの慣はしに從はねばなるまい。世間で煩惱の上で男と女が逢ふ手段は。そうだ。忍び逢ふといふ**言葉がある。それは人知れず相見を遂げ**る事を云ふのであらう――』

僧は手拭を出して頬冠りをした。懐手をしたが、氣が付いて叉手を出して袈裟文庫を丘の蔭の小川へ投げ込んで仕舞つた。如意輪觀世音の御像を一つ頂いて、それからぼぶらの根を深く掘り張め御像を埋め、合掌して申すようは衲僧、佛鑑に適ひ、萬一、法成就の曉には共に出世し奉らん。若し然らざるに於ては、下々生彌勒の世を待たせ奉へ。とこう祈つた。

それから改めて懐手をして元來た道へ歩るき出し乍ら言つた。

『忍び逢ふ夜には何でも鼻唄をうたふものぢやそうなが、わしや鼻唄らしいものは一つも知らんな。經にもありやせん。だが、經全體が禪宗の鼻唄かも知れぬ。然し經はこの場合あまりうつらぬ。口慣れた大悲圓滿無礙神咒でも矢張り唱へて行こ

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

う――。』

婆の家のかなめ垣の傍へ行つた。中を覗く。かなめの葉が鼻に觸ると青臭ひ。庇の焼けたあとは黒く灰になつて焼け殘りの木杭がちろり〳〵焔の舌を出してる。舌を出す瞬間にいくらか向ふが明るくなるのでその間に要領を得ねばならぬ。庇から中庭を距て、客間がある。悉く戸が閉り、婆の例の男物の日光下駄が無いから、婆は別にかけ出した右手の奥の自分の室に居るに違ひ無い。婆の室だけは一遍借りた祖録を返しに窓際まで行つた事があるから知つてる。

お小夜の室はどの邊にあるものやら今まで氣にとめた事は無い。垣に添ふて行き枝折戸に手をかけると棧が下ろして無くすぐ開いた。それから入つて行き婆の室を除いた他の室を悉く外から見て歩るいた。婆だけは法の上で怖い處があるが、あとは人臭いとも思はぬ。

平氣でのし〳〵踏音立てゝ行くと一つの室の戸が少し開いて中の光が外へさす、より少し遅く女が顔を覗かした。お小夜だ。

『どなた』

『わしぢや』

『あら。どうなすつたの』

『お小夜どの』

『なあに』

『わしは少し頼みがあるぢや。聞いて下さい』

『言つてご覽なさい』

『わしはあなたに戀をしたいと思ふがどうでしようか』

『戀をしたの』

『いや。せうと思ふです。』

『嫌やあね。戀はするもしないも言つてをれないのが戀ですよ。しようと思ふなんて、まるで――』

『一寸待つて下さい。若しもです。わしに戀をする素質があつてそしてこんな事を申したらそれは女人に對して失禮に當ります。又戀を、わざとする事になります。

ですがぢや。わしには戀をせうにもせんにも元來感情といふものをすつかり擦り減して仕舞つて何にもありやせん。よ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いかな。今まで外の女人には前置きなしに戀をして來たながらあなたには前置きをして心下地が無くして戀をせうといふ。これならば隨分あなたを試みるもの、あなたに餘裕を持つもので失禮に當ります。ところがわしはです。戀をせうもせんも言つてをれないといふ程一本氣な戀情を起こすその種子を缺いて居る人間です。かの態度に對してこれといふ比較するものを持ちません。わしを寧ろ木の端、竹の端と云つた方が適切ぢやろう。その木石が戀の必要を感じて生命がけでお縋り申すのぢや。子供がやつと立上つてその人の處へ行つてお手々を取つて與れと申したらその人は失禮といふぢやらうか。無條件で手を取つてやつて子供の足並に揃へ、自分もあんよは上手と歩こうではないか。お小夜どの。わしは生涯に一遍の心を起して眞つ直ぐにあなたの處へ來ました。他の女人の處へは行かなかつた。因緣ではありませんか。頼みを聞いて下さい。』

『戀よりも愛にしてはどう。その方が樂だわ。』

『その區別が一寸わしにはつきかねる。どういふのです』

『戀は男と女の間の事になるのよ。愛は性を認めなくても出來てよ。もつとも同性の戀といふのもあるにはあるがあれは同性の中に異性らしい處を賴母しく思ひやつぱし自然と男と女のようになるのよ』

『どうぞ戀の方にお願ひする。わしのような木石は生やさしい煩惱ではとても息を吹き返へし兼ねるぢや。そして人と立つからには先づ性を強く喚めねば第一の出發點が定まらぬ。赤兒が生れた時は早速父母は男か女かの證據を驗めるぢやらうがな』

『餘計な事を仰しやるな』

『わしは男の生涯で一番男性を認めらるゝ頂上の時期、即ち女の戀人であるといふ事を只今急場の必要としてお願します』

『判つてよ。實はね。あたしも人並のものではないの。それをこゝの御隱居に話して聞かされ何れ不思議な戀をしなければ浮ばぬ事は夙から覺悟して居たのよ。あなたが振り戻つて來ればいよ〱その時期と承知して居たの。あの膝へより掛りそれからあなたが庵を燒かれて追出されてからもずつ——と』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『そうですか』
『ですが斷つて置いてよ。あたしは並大抵の女ぢやなくつてよ。あたしの黒い瞳をご覽なさい。火の赤がかたまり過ぎて黒くなつてるのよ。だから苦勞は生やさしい事では無いと承知してゝ下さい。よくつて』
『合掌して申します。不自惜身命です』
『その言葉の上にあなたの爲めならと入れて下さい』
『その通り申します。――扨これからどうなりますか』
『本當の順序はね。これを逢初めにしてこの後もこういふ風に内密でこの家でお互に逢つたり又、都合して他で逢つたり、いろ／＼してお互の戀情を募らせると同時に段々世間を狹くして行くのよ。その上にお互の都合を逼迫させて行くの。』
『ではそうしましよう』
『でもそれは時間がかゝつて無駄だから。今を二進も三進も行かない推しつまつた時としてすぐ駈け落ちにしましよう』
『それでよければ、どうなりとして下さい。――したがあなたの仕度に出來て居らんぢやらうがな。』
『一寸待つてゝ下さい。これが着物、これが髮の道具。それからこれがお金。』
『大變、早いのですね』
『仕度はちやんと出來てたの。その譯はいづれ御隱居にあなたが逢ふ時節が來たらその時判つてよ。時節が來なければ判らず仕舞ひ』
『はあ。そうですか』
『あなたちよいと、この荷物みんな持つて下さいな』
『はい』
『まあ嫌やあね。男となつた以上はあんまりはい／＼女のいふ事をきいては女に便りが無くつてつまらないわ。たまには我儘を張つて見せたり、ぶつきら棒に突放したり。まあその邊は今の處望んでも無理だとしてもこの位の事は仰やらなくつては』
『なんとです』
『貴樣ちつと持て。――ぐらゐはね』
『その通り申します……』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『そうよ。それからわたしの事をあなたといふのはよして頂戴。お前とか貴様とかいつて頂戴、あなたの名前は一體何といふの』
『大顚撥發』
『馬鹿々しい。直して今時のフレッシュな名前になさい』
『空の世界より色の世界への桜、桜之助とはどうです』
『それに負けてあげるわ』
『年頃はいくつ位になるのですか』
『おや。ご自分の歳を知らないの』
『坐禪して定に入りつけて居ると二十日坐つても一時、一時坐つても十年二十年を經たせる事が出來ました。だからこれと定まつた齢はありません』
『あたしが十九よ。あなたが一つ歳下になつて下さい』
『承知しました。十八歳の桜之助ですね。お小夜どの、爲しにこの腕を撫でゝご覧なさい。』
『まあ。不思議ね。急に滑らかで柔かになつたわね。』
『自在を得ると天女が男にさへ變身出來ます。維摩経といふお経に載つてゐます。』
『でもこの滑らかさは植物性だはよ。うらなりの冬瓜を撫でてるようよ。ちつとも女に向つて魅力を起して來ない』
『はゝゝだからその方面を修業して貰はふといふのです』
『もう夜が随分更けてよ。行きましようつてば』
『ではお小夜どの』
『桜之助さん』
『ほ　ほ　ほ　まるで芝居のようだわね』
お小夜は小褄を取上げ先に立つた。桜之助は荷物を抱へ後につく。枝折戸を出ると外は春の夜更け、月は中天にかゝりて今や坂とも鋭美な光を投げて朧を潤澤ならしめて居る。眺める人はよき香のクリームを顔に塗つた時の心持、僧形と娘姿の二人は道を行き如意輪観世音がぽぷらの根元に御坐しますかの麥畑の方へ行かないで途中から左手に切れた。この山間の盆地と外界の廣無の地と境を區切るところに盆地を取卷く四壁の山がある。二人の道の行く手に當る方面に於て連壁の一部が切れて居る。峠になつてる。峠に近付くにつれて渓川の水のせゝらぎの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

音が激しくなる。

『水は人なつこいものね。峯から滲み出してから瀑となつたり河となつたり、そしてどんな苦勞をしても人の住む都の側へ行きつかないでは置かないのだから。水について行きましようよ。水にね。』

お小夜は櫻之助にすり寄つてこう言つた。

せゝらぎが瀑の音に喚き消される程のところまで來ると二人の道は峠へ爪先上りとなる。

水は瀑となつて生命がけで遥か下界に落ち込み二人としばらく離れ／＼になる。峠は思ひの外難路でない。峠の茶屋の戸の閉つた外の腰かけで一と息入れて今度は下り始めた。杉の植林が木下闇を作る邊まで下つた。それかと思ふ水の音を聞き咎めたが直ぐに消えた。向ふに見ゆる羅漢の頭のような崖に新樹の香のする崖の鼻を一廻り廻ると其處は稍展望開け此方の山と彼方の山との谷間の廣き谷が望める。谷には白紗を展べたような霧が月の光を漉して居る。漉されて肌質がこまかになつた月光は霧の底に紫りを呼んだ名刀の刀身のような光を招き出してゐる。風が來たか霧の一邊を吹き剝つた。名刀の刀身は川であつた。お小夜は叫んだ。

『水よ。水よ。まあ嬉しい』

そして矢庭に櫻之助の右手を握つて掌を逆に強く反り返へした。櫻之助は堪へ切れぬ程痛さを感じたがこれも修業の一つであると思ひ默つて堪へた。お小夜は手を握つた儘しばらく櫻之助の顏を見て居たが焦立つように言つた。

『何故あなたは握り返さないの。一過無情のように荒つぽく振り拂つて、それから改めてそつと柔かくね』

『こうですか』

『ほ　ほ　ほ　ほ　ほ』

河霧を剝つた風が今こゝにも渡り來つたか林は音を立てた。これをきつかけに滿山蕭々と鳴り出した。

曉に近いのであらう。

大河があつて湖入りの湖に注ぐ。河の兩岸に亘つて市が甍を並べて居る。左岸の繁華に較ぶれば右岸に家と家との建て込みお

透けて居る。けれどもこの地の家は何れも瀟洒とした構へ、察するところ市の住宅地、乃至、別邸地と見えた。虹の如き長橋が並を持たぬものゝように輕く快き勾配の線で架つて居る。上流に架つた二之橋は橋の袂の若葉の並木に人の注目を奪はれ、橋に對する印象が薄い。流には河魚料理の船も繋つて居る。

ゆるき上げ潮に乘り湖の沖から一艘のセーリングボートが滑つて來る。白き小形の塗船それに對し紅の三角帆ははしり過ぐる後の浪をも若い青春の薫氣に一しを青く染めななさではをかぬ華やかさ。乘手の青年は左の肘を船の舷板に凭たせかけ放埒な身體を支へると同時に舵の一本い紐だけその下に押へ船が曲り過ぎた時、面倒臭そうに稍それを調整してる。右の足を舷より外へ投げ出し船が傾いて浪が靴についても白靴を浪の弄るに任して居る。だらりと下げた右手に佛蘭西の人情本の飜譯を持ち人差指を讀みかけの頁の間へ狹み入れて居る。橋の下にパステル畫の道具が一式。羅紗紙に娘の顏の描きかけがボートの横木に立てかけられてある。

青年は快よげに近頃流行の亞米利加のはやり唄を口すさんで居たが。ボートはそのうちに進み、上げ潮と河の下る流れと相逢ふて河口の水面へ斜に一列に浪がしらを立てるところへ乘入れた。急に風が無くなり帆は平らに垂れ、帆の縁だけが若布の端のようにぶる〳〵と風に縮れてる。青年はやをら立上り櫂を入れ岸に向つて漕ぎ出した。石垣の上に芝生の小堤。同じような形の小松を圖案的に程よき間隔を置き植ならべてある。庭には支那燒の陶製の腰かけ、小亭もある。外壁から屋根にかけてたつぷり花薔薇を絡ませ一見住み心持よげに見ゆるバンガローに近づくとポケットからオリーブ色のハンケチを取出して振り乍ら怒鳴つた。

『今歸つたぞ。おーい』

すると二階の窓のカアテンを分けて白い顏が現れた。これは縁へだけ薄桃色のハンケチをこまかく打振り、笑みこぼれそうな愛想を見せた。ボートを家の棧橋に横につけて行くと水面の油煙や藥屑が岸に推し寄せられて溜つた。水面が油脂で少しぎら〳〵光り皺がよる。

棧橋を上るところで青年は出迎への白い顏の女と相攜して輕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いきづすを交す。

『あなた疲れて』

『いやそれ程でも無い』

このボヘミアンネクタイをつけた青年は桜之助であつた。白い顔の女はお小夜であつた。

三年の不自惜身命の修業は姿だけでも桜之助をこれ程に變らせた。性格の内容の變化は追々説明されて行く筈だ。

頓て黄昏になる。蒼茫と暮れた湖面に暖みを與へてバンガローの軒に様々な形の岐阜提燈が掲げられた。バルコニーに食卓が持出される。桜之助は支那服の室内着。お小夜はいくらか剽軽な仕立ての子供のような洋裝。顔を見合せて笑みを交はして椅子についた。桜之助は、ナフキンを胸にかけ双手の指をぽきん〳〵音を立て乍ら女文字の献立表を見て訊いた。

『今夜は魚ばかりだねえ』

『えゝ。そうよ。女學校を途中で退學して巴里へ行つたお友達がですねえ。あちらのフイツシユ、マンジエとか何とかいふ魚料理屋のお料理を食べてきま〳〵と手紙で報告して呉れたの。で、出鱈目にやつて見たの。拙かつたらご免なさい』

『拙かつたらその損害を愛の方で差し引くから』

『あなたも仲々憎い口を利くようになつたわねえ。でも、差し引くつてあなたどれ程の愛し方をなすつていらつしやるとお思ひになつて』

『では。これでもまだ足ら無いといふのか』

『済みませんが。ちつとも肉ごたへがしてなくつてよ』

『お前は生れ付き愛の胃擴張にかゝつてる女だ』

『だから人並の女ぢやないとご隠居の家を出る前、お斷りしたのぢやなくつて』

『爺の家の話はよせよ』

『あたしの事を仰しやるけれども、あなたもまだ中々足らないところがあつてよ。あたしの望む戀人の資格に』

『何處がだね。話して呉れないか』

『話してあげるけれど。——まあ、ぽつ〳〵折角のお料理だから召しあがれな。喰べながら話さうぢやなくつて』

グラスを上向けに措直し、伊太利で醸した果物の肉の入つた

ヴエルモツトを二人に酌み分ける。天鵞絨を着た愛くるしい給仕の少年が運んで來た前菜の區分けした皿の中より酸漿ほどの**大きさの赤蕪を棧之助は抓み取り前齒に當てる。柔軟な抵抗を**もつて齒を迎へ頓て赤蕪はぱんと二つに割れる。口中へ落ち込んだ赤蕪の半身を舌で擒にして遊び乍ら指で莖を持つ他の半身を、風流めかして蠟燭に仕込んだ卓上電燈の光に翳してみる。肉の眞中は剝れ富士の萬年雪の白さを保つて居る　無垢の白さの肉に更に神秘の白さの肉が中心より放射狀に八方へ筋を引き周圍に届くと厚く緣を一面に埋めて居る。極めて薄皮の、紅色が處女の小心のように慄ゑ乍らその周圍を括つて居る。

見て居るうち剝れた肉の底に清浄な漿水が滲へられて行く。

ヴエルモツトの甘き澁き液に潤された舌は間々泥へられた果物の肉の濃厚な甘さに逢着し、芝居にて劇中劇に出逢つた見物の抱くあつけなさ、面白さ、を感ずる。酒精分の與へた刺激と芳烈とに味覺が昂奮して苦しくなつたら赤蕪の根を噛んでその冷たさと謙遜な植物性の慈味で宥めるがよい。棧之助に適度な醉ひが上つて來た。

お小夜もしばらく默つて酒を一と口二た口舐め男と晩餐の卓についた心のふくよかさを味つて居たようだがふと氣がついた**ように**

『あなた。この次に出るお料理のスープの中にローマ字の形のSPAGETTE が澤山入つて居ますから、若しね。匙で掬つてSの字が二つ入つてたらお祝ひよ。きつすよ。あなたの名前の頭字もS、あたしのもそうでしよう。よくつて』

『いゝとも。處で醉つた。もうあの話しを聞かしてもいゝ頃だらう。僕がおまへの戀人としてまだ惡い處を』

『そうね。では話してよ。あなたの身體は大分男になつて來たがまだ媚めかしい處が足らないの。男はたゞ精力的に男の力が溢れて居れば女の心を牽付けるものと思ふのは大間違ひよ。無論女のようなのもいけないが。男の力が何物かにむしばまれて陰が出來ます。強さがいつもそれと闘つて疲れが見ゑる。西日の入るのを見るような哀愁を帶びた疲れね。それを眺めた女は凝つた肩を強く揉まれた時のように媚しい辛さを感ずるのです。女は言はうようない甘い寂しい同情を起さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

せられ、どうしてもその男に對しどうにかしなくては居られなくなつて來ます。こうさせられなくては、本當に相手になる氣が女に出て來ませんよ。それから見るとあなたのは男らしさが生々しい許りで單純よ。可愛らしくはなつたようだが美青年だけよ。西洋の中世紀の貴婦人が愛物として抱へる相手にはなれるかも知れぬが、女と對等の位置に立つて女の心を捻ぢ伏せる深い美は持つてないのよ。だからあたしは、未だに本當の戀情を感發されなくて胸の中で持て扱ひ兼ね苦しくて仕樣がありやしない』

『結核菌でも飲まうか』

『それも男の美の生理的養成法としていゝかも知れないから飲むなら飲んでご覧なさい。ですがあの美しい疲れは生理的に出た許りでは力が足り無いようねゑ。矢つ張り性格から出て來なくてはならないらしくてよ。性格にも止むに止まれない生れ付きの惡があつてそれより大きい善良な性質をいつも苛めつけて居ます。從つて根性に何處か意地の惡い拗ねたところが見ゑます。內心に鬪ひが堪ゑないから與合ひの幽欝を帶び、年中秘密を抱いてるように見ゑます。こういふ男に女は惹付けられる筈だわ。何故と仰つしやるの。女は最初この男に反感を持つてよ。意地の惡い處が憎らしくて憎みの上でいつとなく自分の對照に立たせるでしよう。それから秘密といふものに女は宿命的に興味を持つ本能を與へられてるの。ですから自づとそれへ竊ひ寄ります。その男の性格は單純でないから意固地なところを無理に拔き除けて時々無邪氣な透き通るような質を見せましよう。そうなると女の心は奇蹟のように變化して來ます。意地の惡いところを頼母しいと思ふようにね。それから秘密は何處まで行つても秘密です。女は秘密崇拜者ですから自分より深い大きい秘密を持つ者に逢つては、始めは幾らか摘出しようとするぐらゐの好奇心であつたものが、終ひにはその秘密に引入れられ度く思ふようになつてよ。その秘密を自分も一しよに抱くならばどんなに魅力ある自分になるだらう。どんなに他人より優越した氣持ちに居れるだらう。まあこんなような事にも思ふのね。性格がそうな男は例の美しい疲れがある許りでなく、氣分に變化が多いか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら女を飽かさないのよ。女は時々絶望させられるほどのひどい仕打ちをされ、心を奥の底から掻き廻して貰はなければ滿足しないところがあるのよ。」美しくされゝばいゝからというて、矢張り絶望させられた時にも、男の裏(うち)に一筋の賴みの絲を見付ける男の普段(ふだん)に、賴母(たの)しい眞實な透き通つた處が無ければそれは丸で問題になりませんがねゑ』

『その方面の性格について僕はどうだね』

『もしその男を管絃樂(オーケストラ)とするならば、そをね、あなたはさしずめしの笛よ一本調子よ。』

『まだ、そんなものかなあ。だから性格を豐にするように音樂や繪も習つては居るのだか。ではまだ前途遼遠だね』

『でも此頃あなたはあたしを可愛がる事だけは覺えて來てね』

『僕も此頃お前に愛されて來たようにはなつた。氣に入つて來たのだね。それだけは判る。』

『氣に入つて來た許りぢや戀の本當の彩(いろどり)は出て來ては居ないのですよ。嫉妬の鑿を入れて固く浮彫にしなければ』

『嫉妬!? どうすればいゝの』

『それはいま、あなたがやりかけてゐらつしやる仕事ぢやなくつて』

『そうだつたねゑ』

話に深入りし過ぎて匙にSの字を見出す筈のスープは夙に過どして仕舞つた。他の皿も無意識で喰べて仕舞つて居た。いつかデザートのプリンを掬(すく)つて居る。

『あら。すつかり忘れて仕舞つたぢやない。SPAGE TEのSをよ。あたしどうしましよう。』

お小夜は椅子を立つて矢庭に棧之助に飛び付き、きつすの雨を降らせた。棧之助は三つのきつすに對して一つ、五つに對しては二つと數學的に返し終り、その傴腕を抱へ

『おい。お前の男のお講釋ですつかり頭が悶くなつて仕舞つた。ゴンドラの唄でも彈ゐて心を搖り動かさう』

お小夜はピアノに棧之助はバンジョンを、やがてゴンドラの唄が奏で出された。

初夏の闇夜、バンガローから投ぐる灯の光はバルコニーを越して湖水の面の十二三間先の處までお照してる。其處だけは水

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は蒼味がゝつてる。その先は向ふの湖岸まで宿墨の鈍ましき色に漲へて居る。墨の濃度に厚薄あつて岸に近づく程色は凝滞してる。心を澄ますと湖面の靜けさに分布の區別がある。右に延び海に切り拓ける湖の沖は靜けさが單調な大きな圓形を描いて居る。左手の陸に近づくに從ひ或は分銅に、或は羽織を坐に抛げ捨てた形に、或はヒヤシンスの花の形に、横長きものはナイフの刃を取出した形に、靜けさが纏められ澱んで居る。その分布に關係なく鰻釣る夜船の灯が、如何に考へても無意味な位置に配在してる。湖心の靜けさが沖の靜けさに吸口をつけられんとするあたりの闇に洋館の形なりに灯が鏤められて居る。覗くと背後に島影を負つてる。見ようによつては他の空間の闇が却つて陸であつて島影が其處だけ穴の明いた池か湖水のように受取れる。兎く眼に錯覺を覺えさせ易い闇の島影。

お小夜と櫻之助の奏するゴンドラの調べは靜けさの構へを亂さず間の岐路の湖面を渡つて沖へ次々に消えて行く。しんみりとした嘆きに沈まうとする事情も願ひも充分あるのだが南歐の碧玉のような晴れ渡つた空。ラテンの人種の湧沸し易い血潮。それがそうはさせない。節奏を驅つて賑やかさへ賑やかさへと浮腰立たせて行く。其處に一種の悔ひがある。悔ひを抱いて賑かさに彈む諧調。パンジョンの絃の音を聽く人は是非共こんな感想を泛ばせられる。ましてや曲は、浪の搖蕩に定め心も無く飜へりては又飜へる扁舟の面影を、今觀る如きゴンドラの曲。更、彈き返へす曲の半にお小夜はピアノを、つと離れて櫻之助のとこへ來てパンジョンの棹を亂發に採つた。音色に止まる。

『!。何をするの』

『もう。澤山。よして頂戴』

『どうして』

『あたし。でも堪へられないの。これを聽き込んで行くと。あたしは一體、音樂を音色の上だけで聽いて居られないで、調子に乘せられて感情が逸り出すと直ぐその感情を何事か實行に移さなければ堪らなくなる性分なの。』

『では。移したらいゝぢやないか。』

『でも今の程度のあなたではねえ』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『なんだ相手が要るのか』

『あなたはそれですもの。あたしといふ女がまだ判らないのよ。あたしといふ女は男が相手に居なければ何事にも人並に生きてる氣持ちがしないといふ女よ。相手に立つ男といふものが普通の男では男といふ感じがしない程男に對して強い神經を持つ女よ。』

『それで今のゴンドラの曲で起した熱情に盛る器としては僕は不足だといふんだね』

『さうよ』

『矢つ張り。さつき話したあの美しい疲れを持つ男のやうなのが今の相手にも欲しいといふのか。僕は何だかお前のその空想の男が羨やましくなつて來た。その男に對し少し敵意を挾んで來たやうだ。お小夜。これが嫉妬といふものかい。』

『まあ。嬉しい。さうなのよ。その感情を大事に育てゝ下さいねゑ。――ちやあ、その男が憎くなつたらその男に傾こうとするあたしにも憎みが移るでしよう。』

『お前は可愛いゝだけだ』

『落膽した。あなたの立場の上でそれだけの嫉妬しか起さないのは丁度牝鷄だけで生んだ玉子みたいなものよ。變態よ。嫉妬の畸形兒よ。その男と並べてあたしをも憎んで來ればあたしに對するあなたの愛に執着が強くなり二人の間は活々して來るのよ。さうなればあたしはあなたを認めて來るんですけれどもねゑ――それから今のあたしの熱情に相手になれる男といふのはあの美しい疲れを持つた男だと仰しやるのですか。いゝえ違つてます。違つてます。今あたしの欲しいのは無智で美しい不良少年。無智といつても性的には不思議な叡智を持つて居る。そして黑潮のやうな落付く先のない放浪性を持つて居る。その少年に誘拐されて處定めず舟で何處なりと捨てられに行きたい』

『厄介だな。背梁を燃く度びに一々さう違つた男が欲しくては』

『厄介だと仰つしやるなら。こんなあたしを拵らへた神樣の技倆が厄介ぢやないの。』

『その議論の説明に就てはだね。昔の僕の大顚痴狂時代はその

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

方面許り研究して居たのだから、答へてあげるのも譯は無いが。現在は榛之助の僕になつてるのだから、これはよすとしよう。そして今言つた厄介だなは世間で謂ふ輕い意味の厄介だなに聞き流して呉れ給へ」

「全くあたしはそうなの。熱情の湧きようによつて一々違つた男が欲しくなるの。けれどもね。その違つた男の性格をみんな一人でちやんと備へていつのあたしにも相手になれるような男があつたら、どうなの。その時あたしはなほ他に男を求めると思つて？」

「求めないに定つて居るさ。だがそんな男はこの世の中に居ないといふのだらう」

「居ないから育てようと思つて今雛つ子を見付け大事にしてる處よ」

「その雛つ子は僕だね」

「そんな事をぬけ〱と平氣な顔で言ふもんぢやありません。少しはお恥かしがりなさい」

二人はバルコニーの夜風に少し冷えて室内に入る。先程ボートから持つて上つた、娘の顔のパステル畫が飾棚に立てかけてあるのが眼につく

「大分出來上りましたね。島のお邸の京子さん相變らず美人ですね」

「どうだ。少し嫉妬を起して來ないか」

「いゝえちつとも。この娘さんをあなたは前に置いてもう二タ月近く描いてるのでしよう。その間何をして來たのです」

「お前の教へた通り一生懸命、心を動かさうと勉強してる」

「でも、ちつともその痕が繪に見えて來ませんね」

「僕はお前に對して心を動かさうとするのに精一杯だ。それで此頃はお前に對しては、お前の居ない時は寂しくもあるし、お前が悲しむ時は一しよに辛いし、おまへの笑顔を見れば心が晴れやかになる。そして今日はお前の空想の美しい疲れの男に對して畸形兒なりにも兎に角嫉妬らしいものを起して來る事に成功した。枯木だつた僕にこれ丈けの枝芽を吹かせた事はお前も並大抵ぢやなからうが僕だつて本當に不惜身命だから遣れたのだ。どの位骨を折つたか知れないのだ。それで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

僕はお前を離れて、他の女の顏を見る時になると、この女にはもう愛情を起す骨折をしなくてもいゝとそう思つてほつとする。お前の顏が僕に取つて戀愛の道場なら他の女の顏は京子さんだらうが誰だらうがあれは感情の休憩場だ。殊に京子さんの顏は美しいには美しいが粹に眼界がついただけで何一つ心を動かす刺戟を放射して來ない。それで僕は眼で京子さんの顏を眺めながら心はゆつくり休息して居る。時々お前の敎へを思ひ出して心を動かそうと努めても愛情の爪の引つかかるかゝりが京子さんといふ女には身體中探して何處にもないのだ』

『それでは丸であたしは反對の結果を受取る爲めにあなたを京子さんのところへやつたようなものですわね。あなた覺えてらしつて、あたしがあなたを何故京子さんのところへ遣つたかその譯を。今でも』

『覺えてるとも。僕が京子さんを寫生してるその間に京子さんに僕が心を動かして來る。その僕の心の動いた痕のある繪をしじう側に見てお前は僕に嫉妬を持ちたい。すればお前の僕に對する愛情の密度が濃くなり僕が願つて居る戀成就の手段にもなるからとこうぢやないか。そして性質の好い嫉妬を起すには餘程相手の女を選ばなくてはならぬと散々お前は苦心して漸くこの界限で美人の京子を見つけたのではないか』

お小夜は書物卓の抽出しから、南洋土人の蕃刀を小刀に仕立てたのを取出し、京子の肖像をずたずたに引切つた。そしていつた。

『梭之助さん。あなたは本當にあたしを愛してるのですか』

梭之助はいくらか脅えを覺え。小夜子の顏色を注意深く打見守り乍ら

『判つて居るではないか』

『では。あたしの爲めに眞劍に京子に心を動かさうとして下さい。あたしはどう考へても嫉妬無くして、あなたのような方を愛し切れません。あたしも繪なぞの媒を借りて嫉妬を起さうとしたのが生溫い考へでした。ですから廢します。そうしてこの活きた眼でまざまざと京子とあなたと睦しくしてるところを見屆けます。そこで起した強い嫉妬の力に推され一緒

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に愛し切りましよう。あなたも若しあたしと本當の戀をするその本願を遂げ度いとお思ひなら、生命がけて京子に打つかつてご覽なさい。あたしに向ふのと同じ熱度を出して。こういふ事を申すのはあたしに取つて實は危險なのですがこうなつては仕方ありません。いつまでも一ところで愛の足踏みして居るうち、逆に冷めて來ないとは申されません。坐禪でも體驗が熟するある時機には一氣に坐り切り、ご飯も喰べず寢もせぬとあなたが仰しやつた事がありますね。今こそ二人の間もその時です。あたしはあなたがあたしに下さつたあなたの愛情をこゝに殘らず投げ出して京子の上へ賭けます。そしてあなたの男性が熟すかどうか勝負を試みてみます。若しあなたが向ふへ向ひ過ぎ、向ふの擒になつて仕舞へばあたしは大事の雛つ子を逃がした事になりますから、あたしが唯一の望みを繋ぐものが無くなります。あたしは破滅です。從つてあなたもあたしによつて成就する筈の戀の本願が破れるのだとお思ひなさい。それから如何にあなたが向ふに向つても向ふを動かし切れぬその時は再あたしに歸る事は出來ません。他の女に失敗した男を受容れるのは女の致命的の恥です。矢張り二人の破滅です。あたしにあなたを男と認めさす嫉妬を起させる爲めの京子さんへの戀ですよ。この程合ひをよく考へて下さい。しかし又この目的を意識して京子さんに向つては方便といふ事がありありと映るから相手が動く譯はありません。で、矢つ張りその仕事の時にはあなたの胸中にすつかり、あたしといふものを無くして、京子さんがこの世界の唯一人の女。この女によらではあなたの戀本願が成就できないものとこう覺悟を極め、やつてご覽なさい』

『――』

『男と女の中は難かしいものでしよう。此の期に及んでやめますか』

『勿論、不自惜身命だ。必ず成し遂げよう』

『では又明日船で島へお出でなさい。それからこれを持つて』

お小夜は握つた短刀を差出す

『これをどうするの』

『男が申出て女がそれを受容れなかつた時には理屈も考察もあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るものですか。女を殺すのです』
『それから僕は』
『二人なら、その場を去らずその儘火の死體に折重なりあなた[illegible]
も死ぬのです』、
『さうしよう』
『然し、あなたの生命はあたしにまだ少し入用があります。あたしに使用はして下さい。で、あなたはどんな手段を取つても屹度あたしの處へ歸つて來るのですよ』
『屹度、歸つて來る』
『思へばあなたも隨分不憫な方ね。どうしてこんなに苦勞をするのでしょう』
　お小夜は棧之助の顔を兩掌で挾んで花形の笠のかゝつてる電燈の下に持つて行き顔をつくぐ\と打眺め、眩しくて閉した棧之助の眼蓋の上へ涙をはらく\と落した。薄皮の眼蓋の上へ灸を据えられたように感ずる女の涙の玉の熱さ。これを味つたものでなければ普通の花を品し月を評する態度にも何處か滲漏があるといふ事だ。

　棧之助は女の涙の玉の有難味をまだ充分感ずるところまでは行つてなかつた。で、相手が顔を放したら早速その涙を垂らさ[illegible]意して居た。

　湖の沖で一つ音がした。二人は急いで露臺へ出て見る。島の上に當る闇の空にだいあの花を逆にして花火が揚つてる。花瓣に當る中の一筋二筋は飛抜けて流れて島の頂にかゝつてる。頓て花の形の金砂子は太り浸潤み、須臾にして下敷きの紙に縮つた紋影のように界の間が癒着する。そして全體には色褪せて行く。急に一つの明星が島を斜に悠揚と流れて落ち行くのが目につく。その光の過ぐる近くだけそれは松、それは寺院、それは斷崖と認められ忽ち又闇の扉の綻びは綴ぢる。

　明星は落つるに從ひ影を薄くして行き水に落つる前は正氣と思へぬ程慘憺たる光を放つてきやらく\と笑つた。

　最後の光を失なつた後の湖の闇は前よりも一層その暗さを增した。然し湖の沈默は花火の衝動を受けて後は兎角さわつき出した。そして夏の夜の賑かさを全幅の調子の中に孕んで來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

島より一點の灯が陸へ向けて走り出した。モーターボートのエンジンの鼓動が胸に響いて來る。棧之助は始めて氣が付いたように云つた。

『そうだ。京子さんが陸へやつて來るのだ』

『おや。どうして』

『いゝね。今日晝間逢つた時にね、京子さんがそう言つてたのさ。今夜十一時から市のホテルに舞踏會があるが今にまだ氣が向かないから行くとも行かないとも定められない。で若し時間になつて行く氣が出たら合圖に島で可愛らしい花火を上げるからそれを見たら僕にもホテルへ來て呉れと』

『交情がいゝのね』

『京子さんと僕とは交情は非常にいゝんだ。テニスをしたり磯の魚を掬つて歩るいたりね。だが交情がよくなる程女性としての匂いが失せて行つてお友達としての面影が強くなつて來る。あゝいふ女もあるんだね』

『今夜とは幸です。あたしの申した事それでは今夜決行なさい』

『こつちの勝手で何も知らぬ京子さんを殺すようになつたら。それは罪惡ではなからうか』

『あなたも人並の文句をいふようになつてね。戀の立場から觀たら戀を標準にして總て善惡の價値が定まるのよ。戀を成就するものが總て善で、戀を成就させぬものが總て惡と、こう分かるのです。譬は大分違ふようですが若しユダが基督を欺く罪を冒さなかつたら基督は十字架にかゝれなくなつて從つて諸人の罪を贖ふ事は出來なくなつたではありませんか。犧牲の無い收獲はありませんよ。ユダは我欲を標準にしたから我欲を充たすものが善。それだから神の子を賣る事は彼に取つては極めて善だつたのよ。その時だけはね。そしてあの人のこの大罪が廻り廻つてとうとう世界中の人を救ふ緣となりました。あたしやいつでも思ふのよ、基督は、どんな苦勞をしてもそれはみんな自分の神性を培ふ手段となつたから苦勞の中にも樂にあつた筈です。ユダは自分が永劫地獄へ墮ちるような犧牲を拂つて基督を神に仕立て、又萬人を救ふ仕掛けの手傳ひをしたのに一言も慰をいつて呉れる人もなく、迷つたり悔いたり樂しみは僅か許りの基督の身代金を受取つた時だ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

けであとは苦しみの仕掛け。とう〳〵縊れ死んで仕舞ひました。基督だけいゝ兒になつてユダは今までも憎惡の標本にされて居ます。それを想ふとあたしはユダが可愛想で〳〵でなりません。譯知りの神様なら、世間態に一洞は地獄へ墮しても直ぐユダを天國へ迎へ取り、嘸骨が折れた事だつたらうと基督以上に慰めべき筈と思ひますがね。そんな神様は無いものでしようか』

『そうだな。法華經の中の釋尊は自分を迫害して佛身に血を出した提婆達多に對しお前は後に必ず天王如來となつて成佛すると證明を與へて居るよ』

『まあ、嬉しい。ユダも同じ迫害をするならお釋迦さまのところへ行つて迫害すればよかつた』

『基督は詩人で實行家だから、釋尊のようにその法則を哲理として説いて聞かせる技倆はなかつたかも知れないが體驗のうちには必ずやユダも神の子として迎へる丈けの愛を充分備へて居た事と思ふよ。何だ、話が大分坊主臭くなつて來たぢやないか。今は何處までもおまへはお小夜、僕は梭之助。煩悩熾烈の眞つ唯中へ飛び込む稽古中ぢやないか。釋迦も基督も邪魔だ。お小夜、お前こそ今の僕の救主なのだよ。そういつてるうち、もう京子を送りつけたボートが湖を戻つて行く。タキシードを出して與れ』

梭之助が紙刀を内隠袋に收めてる間にお小夜は蝶形のネクタイの位置を直してやる

お小夜は河岸の反對の側の表門の所まで送つて出、キュビズムの調子を採用して圖案した街燈の灯影で彩しくプロペラの形をした青楓の實の落ち散り居るのが視ゑる地上に立つ。兩乳を均整的に兩掌で抑へ、恰も埃及の彫像のよう。そして言つた。

『では行つてらつしやい。そして覺悟は』

『いつもの通り不自惜身命だ』

『それならいゝわ。さよなら』

市のホテルの舞踏場の景。これを叙するには先づ想像の畫圖を前に置く。極めて人爲的に精研した香水が一二滴づゝ壜に入つてる見本函を開ける。悉く蓋を去る。それを一度に嗅覺に受

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

け催し來る感興の儘に用意した成る可く數多くの原色を縱横無盡に畫面へ塗抹し去る。但、アカデミックの暗色を除ける。人にこましやくれた分別を起さすが故に。全幅の彩裝中に近代的の節奏を持つ跳躍する二つづゝの抱き合つた色を置く。或は離し、或は重ねて。既にこれたけで視覺想像の巧みな人はそれと悟つて滿足するだらう。鈍き人は花畑の描き損じと間違ふかも知れない。故に進んで細叙の勞を執る。

舞踏場の矩形を圍む四面の柱は紅入りの大理石。牧神に絡はる葡萄の薄肉彫刻が金を冠り柱頭を縫る。二階の欄干も金色。欄干に掴まり物珍らし氣に、馬鹿た顏をして下を覗き込む中年の男は夫である。並びて男女抱き合ふを猥褻なりと嫌惡してるのはその妻である。二人は附近の田舍の金持ち。今日しも親しきを訪ね、誘はれて異國風俗一見の爲と見えた。その誘主は卓に悠揚と茶を飲んで居る。田舍漢の金持ちに並んで一群の男女の洋人が集れて居る。老女は柄附眼鏡を出して覗き、慈愛ある微笑を洩してる。老紳士は片環の眼鏡を眼窠に挾んで居る。眼窠の眼鏡を肉で壓し支へる骨折の爲め眉間に深い皺が寄つてゐる。

それが舞踏を觀るに似合はぬ分別と威厳の顏にする。衣の全身が綻びたように見ゆる、青い羅の服を着た娘が竹の枝の尖についた風船を下の空間へ投げ抛つては嬉々として笑つてる。一群の女は何れも裾短かに、男は季節に魁した薄地の洋服を着てるところを見ると或は米國の觀光團か。

風船の眞下の卓に髪をオールバツクに撫で、鬚を型許り遺した正裝の若者が卓上のソーダ水を全く閑却し、仰いでは風船を兩掌で挾み取る仕草をしてる。兩手を手持無沙汰に下げると今度は仰いだ顏を斜に曲げしやくつて無理に愛想笑を見せる、何百年の間か日本人の感情を拔殺に努め來つた武士道の教へはこの若者の上にも成功してる。若者は完全に笑ひ切れない。強いて笑ふとすれば笑ひが綻びてその間から人を冷たくする自己防禦の石垣が現はれる。でなければ衰頽か、卑屈か、諂諛か、陥穽か、盆つて性の知れない梅雨の頃の空のようなのが現れる。

若者の向ふに肘をついてぐつたりしてるのはその妻らしい。彼女はもうすつかり披勞れ夫の擧動を頓着する精氣さへ失つてる。生欠伸をして、ソーダ水の藁管を取上げ器用な手付きで中

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を二三遍掻き廻して見たが嫌になつて飲むのはよした。一寸夫の方を見たが左右を狡猾に竊視てそれからうと〱眠りかけた。彼女の中で一つだけ精氣を失はないものがある。それは金絲銀絲で源氏香の圖の繍ひのある、お召の着物。

この若夫婦と同じ床には階上の群集に似ず人影は極めて少ない。喰べさした、サンドヰッチ、酒のグラス、紅茶々椀等が散つた卓が並んで居る。それは先頃よりチヤズバンドの音譜が彈み出し何れも場に出て居る爲めだ。

舞踏者を看よ。頰に頰を喰付け揉み合ひ押問答をしてるようなものもある。地獄の熱湯から愚痴が抱き合ひ押し上らうとしてるようなものもある。男が女を必ず押し倒さずには置かぬと挑みかゝるようなものもある。女をお守してるようなものもある。相撲の手四つの形に立上り身體を少しか動かさぬのもある。

向ふの一隅から脊の高い眞面目な顏の美青年が女盛りの肥つたマダムを抱へすばらしい勢ひで押し揉んで來た。青年の廣い歩幅に競はうとして後へ驅り出すマダムのいゝ形の太い足が活潑で媚めかしい。腰の厚い肉が左右交々、異常に隆起すると露出した肘と頸の白い肉に不自然な深い喰入つた線がいろ〱に變化するので人に肉感を起さす。この一組の勢に少し肩の先を觸れられてたゆたひ乍ら期せず組の男女ともその方を顧つて見たのは若い日本人同志だ。女はミツヨン臭い洋裝をしてる。二人ともあなたの爲めに踊つてるのだといふ鯱鉾張つた處がある。その次に廻つて來たのは矢張り邦人で、華族の若樣と實業家の令孃といつた組合せだ。若樣が男雛のような動かぬ顏で飯事らしく身體を動かす。それに引き代へ令孃は決戰のような表情で技倆以上に華やかな捌きを見せようとしてる、餘り巧まぬ洋裝が日本人にしては整つた身體によくうつる。次は洋人。穩かな老紳士と、瘠せて蒼白い顏に極めて高い鼻を持つ令孃と組合つてる。二人は二口三口私語く。振りはチヤズバンドに伴れて居ても二人の氣品は世紀を溯らした西班牙か伊太利に於ける宮廷の舞踊を見るよう。二人の速度はそろ〱前の邦人の組を拔いて行く。この組の蔭から現れて來たのは獨逸人らしい精悍な顏の大男に、髮を縮らし顏に似合はぬ派手な擬衫を着た……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人の女。女は眼隈の出來た蒼黒い顔に眼鏡をかけてる。踊は悪達者。踊り乍ら切りに甘へるような態度で相手に話しかける。それを聴けて相手の異人は嬉しそうに言葉を返へす。

一々こまかく観れば自然、批評が加はつて面白そうにも思へぬが少し離れて全體から概見すると、花鳥の睦び、藻の間に戯るゝ藏の魚、閃めき、交はす、泛ぶ、縺れる。うつし心も無き歡樂にみな〳〵餘念もないようである。ましてや音樂師は再三再四 ENCORE を受け、そのヂヤズは疲れて、焦れて甲高になつて狂獸の殺氣を帶びて來た。從つてそれに導かれる舞踏場の色彩に、藥力に醉ふて咲いた花の亂れ咲きだ。

大理石の柱の蔭に丈高きパルムの鉢が置いてある。パルムの落す原始的の蔭に半浸つて安樂椅子がある。男女の姿。棧之助と京子の間には大切話が進行して居るようである。京子は真白の洋裝をしてる。

『それでは、どうしても僕の願ひを聞いては下さらないといふのですね』

『わたくしには、全くそれが、どういふものか判らないのですもの』

『判るも判らないも無いではありませんか。先程から詳く言つた通り僕はあなたに戀したのですよ。あなたはそれを受け容れて下さればいゝのです。たゞそれ丈けです』

『それ丈けだと仰しやつても。では、一體その戀といふのはどういふものなの』

『お互に好き合ふ事です。お互でなくても一方でも關ひません』

『では今のまゝでいゝではありませんか。わたくし、あなた大好き。ちつとも嫌ひなとこはないことよ、若しこれが戀といふのなら、わたくしこそあなたにそれをお願ひしてよ」

『それだけでは戀ではありません。好く具合がも少し違ふのです。なつかしく思ふのです』

『わたくしあなたをなつかしく思つてよ。あなたが島にいらつしやらない時は本當に寂しいこと、だから今日も花火を揚げる事をお約束しましたの」

『そして僕の事を一日中思ひますか』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『寂しいから思ふのよ』

『そして僕と心が一しよになりたく思ひますか』

『それも思つてよ』

『そして僕を他の女に遣るのは死ぬほど辛く思ひますか』

『一寸待つて下さい。考へて見ますから。——そうです。思ひます。他の女の方と遊ぶのはやめてわたくしと許りと遊んで頂き度いと思ひます』

『もし他の女と僕が戀したらどうします』

『その戀といふ事がわたくしには判らないと申したでしよう』

『そうでしたね。では他の女に僕が身も心も投けたら夫婦のような關係を結んだらどうしますか』

『そうなすつても、若しわたくしと今迄通り遊んで下されば結構だと思ひますの。わたくし、あなたが結婚なすつたら、あなたの奥さんと屹度仲よくなるだらうと思つてゝよ』

『それで判りました。あなたの僕を好くのは戀ではない。あなたはわたくしと夫婦のような關係を結び度くありませんか』

「今の儘でも、あなたを好きな事に何の邪魔も無いと思ふのよ。わたくしも女ですから何れお嫁に行きます。そしたら、わたくしの夫を屹度あなたに仲よくさして見せてよ。それでいゝでしよう』

棧之助は俄に跪き京子の円い膝に手を置き頭を垂れた

『京子さん。お願ひです。わたくしと結婚して下さい。あなたにはこういふより他に戀を理解して貰ふ道が無い。結婚して下さるのがあなたが僕に對して愛する道だと思つて下さい』

京子は困つた顔をしてしばらく頭を垂れて居た。頓て靜に

『わたくしは結婚は運命だと思ひます。頼まれたり頼んだりして出來るものではないのでは無いでしようか。わたくしがあなたと結婚するのは何だか空々しいように思ふのよ。今まであんなに仲好くして居乍ら改まつて夫婦になるなんて。それが却つてあなたとわたくしの仲を悪くするような氣がします。夫婦には好かない人とでもいつでもなれてよ。世間がそうさせるわ。仲の好い方と夫婦になるのは勿體ないの。棧之助さん。そんな無理を仰しやらないで今迄通り仲好くして行つて下さい。わたくしは今迄あなた程好きな方に出遇はなか

つたのですからね。ね。ね。』

桜之助はむつくり起上つた。右手が内隠袋に入つた。

『京子さん。それでは、あなたを殺さねばなりません。死んで下さい』

京子は叱驚して立上つた。桜之助の氣配ひは冗談で無いらしい。斜に後じさりにして行き入口に達するとそこから庭へ逃る。顏で顏を追ふて續いて桜之助も出る。チユウリツプの花畑で京子を捉へる。右手は既に氣味惡く歪んだ刀渡りの鉈刀を頭上に振上げて居る。でも僧侶上りだから形が從容として佛の儀式をやつてゐるようだ。

『桜之助さん。どうしてそんな無理を仰しやるのです。あなたの日頃にも似合はない。それだけの譯で殺すのなんのと仰しやるあなたでは無いではありませんか。何か譯があるのでしよう。譯を話して下さい』

京子は握られた右の腕の桜之助の手首に兩手で確と縋り慄へ聲で云つた。しかし窓の帷から洩るゝ灯影に映し出さるる白い顏の京子の二皮瞼の眼は、まだ仲好しとしての桜之助を信ずる處あるものゝ如く甘へが除かない。

『では、言ひましよう。僕は是非共戀をする必要のある人間です。それで僕はある戀をしました。そしてその戀を活かす爲に、別にも一つの戀が必要なのです。も一つの戀が見出せねば本態の戀が死ぬといふ事情があるのです。本態の戀が死ねば僕も永劫浮ばれない事になるのです。で、その、も一つの戀を京子さんあなたに見出さうと努めました。ところがあなたは受容れて吳れません。男が戀を申出て女が受容れないときは理屈も考察もありません。殺すのです』

京子の眼からは段々甘へが消えた。處女の考深い瞳に變つた。

『よく判りました。わたくしはもう逃げも隠れも致しません。ですから手を離して下さい。それでどうあつてもわたくしを殺さねば桜之助さん、あなたがお死にならなくちやならないのですか』

『死ぬ位ではないのです。生れ更り死に更りそれを何遍操り返してもわたしは浮ばれないものになるのです』

『未來は確にあるのでしようか』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『あります』

『そしてわたくしが今あなたのために死ねばそれが何かの爲めになりますか』

『確には請合はれません。ですがあなたの死が手段となつて僕が戀に活き切る時、もし、うまく行けば、この世の中に一つの佛が生れます。そして虫けらまで生命の意識に繋がつて死さへ娛しむ極樂が來るのです。あなたが僕の戀人になつて下さればその見込はいくらかあつたのですか、さうでないので便り少なになりました。しかし、死んで下さらないより死んで下さる方が僕の浮ぶ道にはいくらか近いのです』

『わたしはあなたの仰しやる事をお信じ致します。しかしわたしも一つの魂を持つた女です。いくらあなたの爲めだと申しても自分に理解さへつかぬ戀とかいふもの丶爲めに殺されるのは嫌です。棧之助さん。あなたが好きですから死んであげましよう。』

京子は惡びれずチウリップの花を折敷いて跪き棧之助に正面して合掌した。瞳には愛の力が充々て居た。

棧之助は一時間も鎧刀を振り上げた儘その瞳と向き合つて居た。頓てだらりと腕を垂れた。うしろ向きにくるりと廻ると幻の人の如くうつら〳〵と歩き出した。

棧之助はわがバンガローの門へ歸つて來た。棧之助が外出の時でも夜深には必ず閉す筈の扉が開いた儘で居る。入つて行くと表扉も開いて居る。棧之助は居間へも客間へも行かず直ぐ寢室へ行つた。

室の中で男女の私語する聲が聞える。棧之助は帳の陰に身を潜める。

『すつかり男前が變つてねえ。どうして』

女の聲はお小夜。

『どうしてもかうしてもあるものか。貴樣がご隱居の家から居なくなつたのですつかり煩悶した』

錆のある中に若やいだ處の多量に秘むのは三十出てまだ僅かの男と見えたり。

『ほ　ほ　ほ　ほ、廢せばい丶のに』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『殺すもやるもあるものか。貴様に嫌はれ乍らあんなに貴様に執着して居た俺れがさ。貴様に逃げられたのだからもう血眼だつた。この三年間苦しんで苦しんで苦しみ抜いた。生活を變へたらいくらか氣が紛れるかと思ひ研究しかけたものを捨てゝ放浪の旅に出たのさ。一つは貴様を是非見付けて若し云條が通らなければ恨みを返さうと思つて』

『恨みを返すつて。どうする積り』

『これさ』

『ほ　ほ　ほ　ピストルとはあなたにしては大出來ねえ』

『お小夜。俺れは今は、貴様の昔見た俺ぢやないのだぞ』

『その位の事。あたしが判らない女だと思つて。だから今夜からあなたを愛して上げる事を素直に承知したのぢやなくつて
尤も條件つきではありますがね』

『聞き度いのだがお前は何故逃げたのだ。』

『修業する爲めにですよ』

『何を修業にだ』

『人間の事を』

『人間の事なら人間の偉い人に就いたらいゝぢやないか。今聞けば輕石のような坊主と一しよだといふぢやないか』

『人間の分量の足りない人間なら。それは人間の分量の多い人に就いて教へて貰ふのがいゝのよ。あたしのは少し違ふの。あたしの瞳をご覽なさい、火が集り過ぎて黑くなつてる瞳よ、人間としての血が多過ぎる、女なのよ。だからあたしのような女は人間味の少ない相手を捕へてそしてそれにあたしの熱情を吹き込み、吸ひ取られて仕舞つた處が丁度一人前の女になれる處よ。これはあたしの發明ではなくてご隱居の教へよ』

『それなら逃げ出さずとも。俺れを相手に何故しないのだ。貴樣いつも俺れを人間臭くないといつて嫌つて居たぢやないか』

『中々あなた位の人間味の少なさではあたしの熱情は吸ひ盡せないのです。今一しよに居る桟之助さんは全く人間の氣を無くなした人なの。あの人を一人前に感情のある男に仕立てるには砂漠に花を咲かせる程の骨折が要るの。まかり間違へば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

こつちも一しよに冷たい灰になるのです。それ程の危険を冒さなくてはあたしの有り餘つた熱情といふものは調節されないといふ女なのです。その修業の道連れにはあなたは駄目』

『桜之助とやらいふ坊主を仕立て上る仕事はどの程度まで行つてるのだ。そしていつ仕舞ふ積りだ。仕舞つてから俺れと一しよになると言つたな』

『そうなの。だけれど桜之助さんは戀の手習ひが始まつた許り、漸く十四か十五の小娘と同じ程度なの。この分で行けば仲々この世に生きてるうちには卒業はしそうもないらしい。で今夜から二人で生命がけの戀の賭事を始めたの。この爲にはひよつとすると今頃可愛いゝ娘さんが一人死んでるかも知れない』

『人殺しまでするのか』

『罪といふものが戀の味を深くする爲めに、時には必要な事があるのよ』

『あんなに前には嫌つて置き乍ら今夜はへた〲に俺れにすぐ承知して仕舞つたな。おれに參つたか』

『それは少し生意氣よ。あなたの男前が劣つて少し美しい疲れが出て來て好きな人にはなつたがまだほんとのあたしの願ひの人にはいろ〲の男の分量が足りないわ』

お小夜の美しい疲れといふ言葉を聞き桜之助は思はず帳の隙から覗いて見た。それは昨夜、晩餐の時、お小夜に話し聞され嫉妬を起しかけたかの幻影を現實に見る男振りであつた。

桜之助は京子の愛で既に胸底に人情の燃ゆる油を汲み出されて居た。それが茲に強い發火作用を受け正眞紛なき嫉妬の炎を揚げた。桜之助は怒りの聲で呼びかけた。

『お小夜』

お小夜は吃驚して出て來た。

『あの男はなんだ』

『あれ？　あれはあたしの許嫁の人』

聞くや否や桜之助は襟を掴んでお小夜を廊下を距てた客間に引きずつて行つた。放すを忘れ今迄握つて居た右手の鋏刀が忠慾の火に煌めいた。お小夜の左の額から黒いと思はるゝ程濃い血潮がたら〲と流れた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

——（脚　本　想）——

切付けた刹那桟之助の身體に張り詰めた嫉妬がその譬喩へるもののなき聡明さに透通つた。宇宙大に連繫がる。それは何だらう。大願掘鑿の時代に持て餘した空。又の名眞如。現代の言葉に翻譯して生命。

桟之助はよろ〱と後じさりに倒れて行き、ロココ式のソファに尻持つき、しばらく眼を見張つて居たが、頓て身體を揺り上げて——呵々大笑した。

切られた刹那、お小夜は身の内の熱情が左額の傷から殘らず奔り出るように思ひ氣を喪つた。氣がついて見ると自分は許嫁の、美しい疲れの男の肩につゝましく倚りかゝつて居る。お小夜は涙と共にしやくり笑ひをした。そして美しい疲の男に云つた。

『あなたと一しよになれる時が來ました。わたしはあなたと丁度よく釣合ひの取れる女になりなした』

それからお小夜は着物を取繕ろい。桟之助の前へ跪いて合掌し庵のもとの侍女の態度で恭しくいつた。

『彼々御隠居さまがわたくしに申されました事には、お前の煩悩を濟度する爲めに、ある禪僧がお前を連れて行かれる事があるだらう。その爲めにいつでも旅仕度の用意をして置けと。路用のお金も御隠居が下さいました。それでこの住居を整へたのです。まだ、申されるにはその御僧が濟度成就の曉には再びわしのもとに連れて來て見せよ。否よう。その骨折をするのがお前の御恩報謝であるぞと。あなたはどうぞ御隠居の所へ一度お歸りを願ひます。』

『わたしもあの庵が燒かれた原因の公案を、成就したからには婆に今一度驗せねばならぬと思ひます。ではすぐ出掛けませう。丁度夜も明けました』

二人の旅立姿が門を出るとお小夜と桟之助が住み古るしたバンガニーは火を吹き始めた。めら〱と舌を吐く焔が可成永く朝の湖面に映つて居た。

眼ぼけた給仕の美少年が眩しそうに湖岸に佇つて眺めて居た所はもとの山里。婆の構内には同じ位置に垂木一本違はぬ同じ庵が建てられた。桟之助は元の黒衣の雲水僧に戻り從容と

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して膝を組んで居る。お小夜も元の侍女の姿に戻り靜に入つて來た。そして雲水僧の前へ坐るといきなり抱きついた。そして云つた。

『あなた、この場合はどうなの』

すると僧は瞬きもせずする〳〵と言つた。

『枯木寒巖に倚り三冬暖氣無し』

室内の模樣も問答の鹽梅も三年前庵を燒く前に行はれたのと違つて居るのはたゞお小夜の額の繃帶だけである。然し、この僧の膠着、本當に三年前と意味が同じであるか同じで無いか。それは各看る人の自由に任せる。たゞ婆はお小夜からその報告を受けて俄に容をあらため庵の方へ向き拈香禮拜した。そしていふには

『これでわたしの供養も無駄にはならなかつた』

この日の午後、婆の室で關係者一同茶を飲んだ。僧がいふには

『ポプラの根に埋めた佛を掘出しませうか』

すると婆が

『御僧は境涯はお出來になつたが市で修業中薫入した煩惱の餘習がありましよう。これをお除きになるには矢張り二十年三十年の御修業が要ります。それからして佛は出世されても遲くはありません』

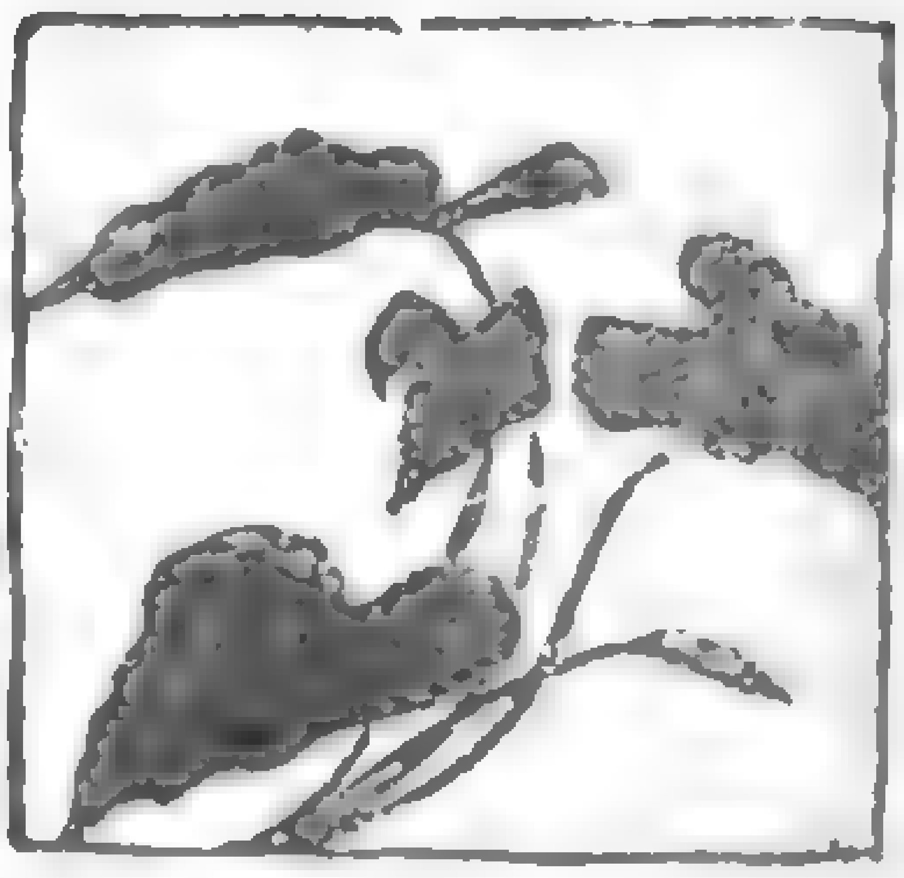
それから僧はも一つこういふ質問を出した。

『修業中のお話をした中のあの京子といふ女はどういふ女でしようか』

婆が答へた

『處女の愛から次の戀の味を經ないで直ぐに母性の愛に移る性質の女があります。戀には前世の因果で免疫性になつてる女ですね。京子といふのはそれではありますまいか、御僧のお與へになつたあの無理な衝動は京子とやらには母性の愛を打出す緣となつたかも知れません。佛の本地から看た眼には何一つこの世の中に無益なものは無いのですから』（了）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



短唱百首

與謝野晶子

凋落のさびしき味を思ふこと頻りなれどもいまだわれ得ず

人ゆゑにいまだ心の痛き間は死すらも思ふ戀の續きと

人間が手をもて立てし塔ゆゑにいみじかりけれ悲しかりわれ

あるがまま小石の道に小石をば拾ふ童の心なりわれ

いつしかと花咲くリラの續くみち夕月夜とはなりにけるかな

少年の矢車草がわが方を眞向に見たるたそがれの部屋

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

身の末の皐月と知りて快さつゆそこなはず文多く書く

快きみちしるべをばせんと云ふ初夏の風頭上にありて

柏の葉皐月の肌をやはらかに押すとも見えてなつかしきかな

ああ皐月みどりひろがる世の中に若き力の起き上りくる

白金の縄のやうにも森の木をしかと繋げる夏の月光

人の世に初めて花とひらきたる白きひとへの罌粟と思ひぬ

夢と云ふものにもあらじ苦しかる境に夜毎人を見ること

青春の唯だ一日の後として死につくことも安く思はる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

市川や鵞鳥が錠の音に似る鳴き聲立てて夕のきたる

人の世の苦しきことと悲しみが稀に醸せる酒ならんわれ

何ごとが絡むじなといふことの混る話と中庭の雨

湯の器これすら白き塔と見えかしこまれけり朝淨くして

いと小き橋より下に萬木の若葉こもれる渓の朝かな

わが家の板の廊下のなつかしさ山を踏みつつ思ふ初夏

さびしかる間を置かず樂みのつづくを戀とかつて思はず

昨日（さくじつ）となしつることが明日あらん世のここちして思ひ亂るる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

内氣なる十(とを)の童と白藤を見てしめやかにわが語る戀

青きもの夕月ころ海のうへ藤の下蔭消息の紙

わが庭の薔薇夏に入りゆくが外にもましてなまめかしけれ

能役者あまた棟をば並べたる細川邸の石垣の草

悲しめど戯れごとをなすものの類ひに見なす皐月風かな

わがさまは飽きて心の鈍れるにあらねば時に涙流るる

若葉の木ひろごるところ知りがたしいかなる戀に育つなるらん

眞白くて斷食したる法師ほど侮(あな)づらはしき一もとの罌粟

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

華やかにわれを取巻く初夏の大空の雲あをうみの波

わが心變りやすしといひながらさもあらぬをば歎くなりけり

つひに來ん死の靜けさも初夏の朝の心に浮びこそすれ

いかづちがわが住む家を一廻りすれば心のいそぐ消息

風に添ひ雲のやうにも馳けかし木立こちたくあへぐ悲しさ

身に沁みぬいつしか街の騒音の退くころの煙草の香ゆゑ

初夏の風に混らす甘にがき自らの夢まもれる煙草

わがことを人の褒むれば溜息のつかるる故も知りがたきかな

野薔薇ちる森の中ゆく曉の秋にもまさる冷たさを愛づ

天を見て泣けど天ゆゑ泣かずして離れがたかる地のために泣く

旗もちて人の騒げばおどろけどわれの怒をおそるるも無し

至るべきところにあらぬ世を見せて覺めたる夢と思ひなさまし

大膽に雨降りいでぬたをやめの白き衣とひなげしの上

柏木も楓の枝も人を呼ぶ怪しき森となりにけるかな

よしあしはさしおき男女より離れて夏の木立とあらん

目におかぬ人ともわれは云はずして凶凶しけれおとしめられぬ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

今日（こんにち）のわれ終りぬと夜更くればわれもはかなきもの怖れする

うるはしき皐月の言葉もつものは雛罌粟か否戀する女

濡れつつも泥にまみるる心地せずわが涙ゆゑなつかしきかな

戀しさを云ひかはしたるそれよりも唯ごと多く云ひかはしける

ことよろづ脆きが中にうごかざる思ひを立ててある人は誰

朝はなほ白塗りの家許すべし晝はこちたし夜は凄まじ

大海に勝りてひろき聲もてる蛙に心奪はれはてぬ

末の子が猫を見しなど云ひ出でて夜の浴室のややにすさまじ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つばくらの通へる道を低く見てものうち思ふ階上の窓

歎けども女の帶のあざやかに浮べる街のまぼろしも見る

六月や馬と駝鳥の驚かずあぢさゐいたくふためける雨

ものいひて生くるしるしを作れども物云ふことのからきこの頃

はづかしく世におくれゆく人なれど見るところのみ若やかなりや

まぼろしを描けどうつつの成りゆきにひとしきものとなりて歎かる

なつかしき十年の昔北海に船出したりし皐月となりぬ

世にあればへりくだりをば強ひられぬ人非人ぞと言ひてあらまし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雛罌粟の咲く初夏に逢ふことも殘りすくなきここちこそすれ

わがあるにふさはしき世の外の方にあるここちのみする皐月かな

野の薔薇の眞珠の色のつながれる枝を動かす六月の雨

圓形の卓罌粟の花窓掛のしら波のごとうごく部屋かな

わが心澄むてふきはに少しづつ近づきながら物思ひする

洞門を出づれば馬の跳るなり青海の波うごくに並び

此處彼處雜木の中にまろがれる深山の藤は見て寄りがたし

初夏は藥を注げる杯もいみじきものに見なさるるかな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東京の皐月は怒り易くしてともすれば砂を上ぐる南風

人の死と薔薇ことごとく落ちん日のありうべくして無きここちする

薔薇咲くをわがつかさどる世のこととなほ今年のみ思ひなさまし

或時は自らの戒保ちえぬ人とも見えずすこやかに生く

大空がわれをば捨てて過ぐるやと雲の騒ばまして苦しき

侮りて皐月がすなる光明の病と呼びぬ罌粟咲くことを

あぢきなしへりくだれども人知らず思ひ上るはまして見知らず

ここちよく長き薬をもつ草となり夏の夜明の風に靡かん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

・月近く寄り砂山を抱く夜のそゞろ覺えて海戀しけれ

わが書齋書(しよ)ゆゑをぐらく藤棚は日かげ寄さず皐月に入れば

盛りの世長きがうちの悲しみを知るはづかなる人數(ひとかず)に入る

わが道をわれの塞ぐに用ひたる手ぞ心ぞとうとむなりけり

知りがたき過去と未來をわれもまた前と後ろに置きて人戀ふ

寢ねてわれ夢見ぬ夜も無かりけり歎くあまりか眠るあまりか

小さなる羽ある虫の呼吸をして草にある見て物を思はず

何ぞともわが金堂の御佛の名を云ひがたくなりにけるかな

花を撒く心を撒くといふことの行ひ得ざることわりを知り

彼方より牧神がくるとてささめきて覗き合ふなる雛罌粟の腰

われのみはをりふしさびし天地のうたげの五月戀の皐月に

日の照ればつつしみ深き紫陽花のたぐひもあらずさびしかりけれ

わが生命預けられたる庫なれどわれ世の中の黴の香に飽く

奥山のかもめばかりの朴の花薄雲まじり散りかへる時

時經たばよしあし無しと人云へど時無き時を悲しわれ持つ

切崖の上と下とに男居てものいひかはす夕月夜かな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

初夏は山また海の思はれぬ人は見ずとも足るここちして

葉の繁り楓の枝があさましき鋏のかたちをするに至りぬ

人がする思ひ出のごと二つ三つ赤き花おくわがつつじかな

初夏のほしいままなる天地とつつましき人向ひて悲し

なつかしや文を給はず恨めしやなど云ふはても淋しからまし

おのれより推して思ふの外なくて君をいみじき戀人とする

紫の蕋もつ紅のアネモネのうつれる卓のかたへにをれど

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『明日』の考察！啄木の晩年

土岐善麿

（一）

『明日の考察！　これ實に我々が今日に於て爲すべき唯一である。さうして又總てである。』――

啄木の思想生活は、その晩年においてここに到達した。現代の社會組織、政治組織、家族制度、教育制度、その他百般の事象に亘つて、靜かに、熱心に、深く、檢覈し、討究し、批判しなければならぬ、昨日に歸らうとする舊思想家、今日に沒頭しつゝある新思想家、それらの人々の前に、新たに明日といふ問題を提示して、之を『時代』の意志と體驗に統合しなければならぬ、『君、僕はどうしても僕の思想が、時代より一歩進んでゐるといふ自惚を此頃捨てることが出來ない。』――それは決して彼の『自惚』ではなかつた。然かも當時、極めて少數の彼の周圍のみしか、彼の「新しき明日」への先驅者たる眞價は知らなかつたのである。彼は「明日」に對する欲求と、準備と、計畫とのために、焦慮し、苦闘し、絶望し、諦め、悲しみ、怒り、嘆きつゝ、身を切るやうな物質生活の窮乏の中に、僅かに廿七歳の短生涯を終つた。彼の全精神は「明日」のために極度の緊張をなしつゝその肉體は遂に「今日」のいたましい犧牲となつたのである。

新しき明日の來たるを信ずといふ
自分の言葉に
嘘はなけれど――

新しき明日に對する信念と氣魄は、理性の光りに彼を白熱化しながら、しかも、その明日の確實な足音が、いつ、何處から

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

近づいて來るか、頼みがたい不安と、懐疑と、自意識のために、彼は餘りに紛然と諸方に起りつゝある今日の雜音の中で、堪へがたい壓迫と、斷えざる疲勞から逃れきることができなかつた。

　何となく明日はよき事あるごとく
　思ふ心を
　叱りて眠る。

かうして寢床に入る、一瞬の希望が微光をもたらして來るかとおもふと、又底知れぬ闇黑の中に消えてしまふ、やつと眠れたかとおもふと、毎晩、盜汗と惡夢との連續におびやかされつつ、不快な寢覺がつゞく。

　手も足もはなればなれにあるごとき
　ものうき寢覺！
　かなしき寢覺！

『手も足もはなればなれ』な、この不快な寢覺は、たゞ安慰休息を奪はれた肉體の姿なのではない、この傷ましい姿、悲慘な生活の實情を彼は、『今日』そのものに見たのである。それは有識無産階級の青年にとつて、『時代閉塞』のあらゆる方面における狀態、彼自身もその現在の一人なのであつた。『金を握つた時でなければ、頭の輕く、明るくなることのない』生活、『自己を恃めと君は云ふかも知れない、僕も恃みたい、然しその自己が、既に健康の心配を惹起すほどの勞役に服してゐながら、猶且少しでも僕の苦痛を減じさせてくれない、』物質生活、この胸苦しい社會生活の實情を、彼は彼の環境にいやと云ふほど直視したのみでなく、彼の實際生活が、この苦惱そのものなのであつた。

　何事も金、金とわらひ、
　すこし經て
　またも俄かに不平つのり來。

若干の『金』を懷中に入れて、酒をあほれば忘れてしまへるやうな不平ではない。その『金』が現在の社會組織の中で運用されてある限り、彼の不平は決して消えてしまふやうな性質のものではなかつた。何事も金　彼は、金の力の餘りに強大な世界にあつて、『金のない世界』にあくがれた、そして、まづ當面

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に『金の世界、』その社會における支配の現象と事實を直視しようとしたのである。

『一切の空想を峻拒して、其處に殘る唯一つの眞實、——「必要」——、これ實に我々が未來に向つて求むべき一切である。我々は今最も嚴密に、大膽に、自由に、「今日」を研究して、其處に我々自身にとつての「明日」の必要を發見しなければならぬ。必要は最も確實なる理想である。』

この「必要」の内容を、社會的に、經濟的に、科學的に檢覈し、討究する時、彼は當然、唯物論者にならざるをえなかつたのである。社會主義者——彼は、彼自身をさう呼ぶことに就て、永い間躊躇してゐたのであるが、遂に、みづから敢然と、それを標示する時が來た。社會主義を最後の理想としたのではない。『人類の社會的理想の結局はアナーキスムの外にない』ことを認め、その主張ほど、『大きな、深い、そして確實にして且つ必要な哲學は外に無い』ことを知つたのであるが、——クロポトキンの著書に接して、彼がどんなに驚いたか！——彼は現實に對する實際家として、社會主義者となつたことを告白してゐる。それは一種の國家社會主義であつた。『人間の權利としての安樂の要求、』共同生活の社會的本能、道德的感情が、『必要』によつて、解放されるとき、その生活論としての樣式に、彼は國家の對立をみとめてゐたのである。

（二）

彼が、この『必要』といふ思想を『確實な理想』としてつかむ迄、それは一通りの苦勞努力ではなかつた。年少、有り餘る才情と、自負と、不平と、反抗と窮迫の中に、東北の一寒村から上京した、まだ肩揚げさへとらぬ白面の少年が、家族の生計を支へなければならぬ責任のために、花やかな都會生活と野心勃々たる文壇を去つて、インキも凍る北海道に放浪しつゝ、明治四十一年、偶ま中央の文壇に勃興した自然主義の運動を遠望して、性來の野心をおさへることの出來なかつたことは言ふ迄もない。當時、既に『あこがれ』の詩人啄木として、その莊重華麗な辭調に數多くの先蹤をもおどろかしてゐた彼は、その詩集を、『空想と幼稚な音樂と、微弱な宗教的要素と因、的感情の外に何物もなかつた』ものと冷然火中に投じて、未練から哀傷

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

へ、哀傷から自嘲へ、しかもそれを人にはあらはに見てとられまいと、傲然とやせこけた肩を聳やかしながら、再度の上京を決心して、氷と雪の中に憐れな妻子を殘し、海路遙々と、横濱に上陸したのは、彼が二十三歳の春四月であつた。漂泊と焦燥と、困憊と、『生活に適合しない男といふ現實暴露の悲哀』──これは當時自然主義論における一つの標語になつてゐた──と、薄汚れた柳行李一つの外に、何物も彼は持つてゐなかつたのである。たゞ文學、それとても、何てやらうと思ひつゝ種々な事情のためにやれなかつたところの文學をやつてみるといふ外に、適當な便宜も心頼みもなかつた。『僕は小説をかけるだらうか？』彼は小さな汽船の船室で唯この不安に泣いた。涙はとめどもなく流れるが、この強い、そしてはかない希望に對して何等自信を持つことはできなかつたのである。

ゆるぎ出づる汽車の窓より
人先に顔を引きしも
負けざらんため。

×

わかれ來てふと瞬けば
ゆくりなく
つめたきものの頬をつたへり。

一年近い地方生活の疲勞と衰退、いゝなか廻りの一小新聞記者として過した彼が、櫻さく東京の眞ン中に來て先づ第一に痛感したことは、年毎に自分が時代遅れになつたことであつた。刻々に來る刺戟、それを本質的に統一すべき綜合の力も缺けてしまつてゐた。事々物々の間の相違を鋭く看取するだけの批判の眼もにぶくなつてゐた。おづ／＼と周圍を見廻はすと、一年二年前、彼には寧ろ物のかずとも思へなかつた友人達が、今は頭のあがらないほどの、その顔を正視しえないほどの壓迫と羨望の念を起させるものとなつてゐた。彼は臆病さと、自意識のなやみと、都會生活の回避に一時は前へ進む勇氣も方角も發見しえなかつたのである。彼は夜の眼もねぬ努力を續けた、不斷の讀書と執筆の八箇月、初めて彼が『おくれを取返した、』と思つた時、物質生活の窮迫がそのために一層甚しくなつてゐたことをどうすることもできない。『小説家になる、』つもりで着のみ着

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のまゝ上京した彼が、書いても書いてもその小說が賣れず、書かうとしても自信のあるものにならなかつた。啄木全集の第一卷に收めた十篇のうち、最後の『我等の一團と彼』をのぞいては皆彼自身この涙と血の結晶を破り棄てるほかなかつたものである。『母』といふ一篇などは、齊藤の手に預けたまゝ遂に行方がわからなくなつて、遺稿のなかへも入れられてゐない。彼は自暴自棄にならざるをえなかつた。自殺のやれる男とは、自分で自分を信じかねながら『考へると死ぬ外はない』ほどであつた。『人生に定義がないから、眞とは何ぞ美とは何ぞ、皆不可解だ、藝術にも定義なく、從つて價値なく、自己にも定義なく、價値がない、虛無だ、盲動あるのみ、』物心兩面にこんなドン散生活をつゞけつゝ、その間に數百首の短歌を作つた。自由な散文の國土を死ぬほどの覺悟であこがれた彼が、傳統的な短歌の制約に返つたといふことは、小說を書いても書いても書けなかつたゝめの一種の回避には違ひない。然し、これを彼は決して盲從的な、無意識的無反省的な態度でしたのではなかつた。彼は却つて、短歌といふ一つの既成形式を勝手氣儘に虐使することによつて、一種の快感をえたのである。歌集『一握の砂』のモチーフは、この散文の世界に對する煩悶とあこがれと、詩の世界に對する反逆とかなしみとに依つて成つたものと云つてよい。こゝに詩と散文とは不思議な合一體をなして、萬葉以後、初めて社會生活における短歌の新しい存在を主張し、眞の生命をふき返されることになつたのである。『僕にとつて、歌をつくる日は不幸な日だ、刹那々々の僞らざる自己を見つけて滿足する外に滿足のない、全く有耶無耶に暮した日だ、』と彼は云つた、『正直に云へば、歌なんか作らなくてもよいやうな人になりたい、』と彼は云つた。食ふべき時、兩足をぐつと地面につけた詩、實人生と何等の間隔なき心で、日常生活のなかに日記をつけるやうな態度の詩、我々に『必要な』詩、——必要といふ彼の晩年の思想の中心が、詩人的素質を多分に持つてゐた彼にとつて、まづ『詩』に對する革命心理のうちにあらはれたことは爭はれない。空想の排斥、現實の尊重である。『詩人たる資格は三つある、詩人は先づ第一に「人」でなければならぬ、第二に「人」でなければならぬ、第三に「人」でなければならぬ、さう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して實に普通人の有つてゐる凡ての物を有つてゐるところの人でなければならぬ。』

（三）

斯うして、彼はみづから『眞の詩人』として人を直視し社會を直視しようとした。勇氣と熱心と、明敏と率直とをもつて、現實を直視した。斯うして彼は、「人」としてその檢覈を進めてゆくに從つて、彼は當時の自然主義の思想、その運動が餘りに不徹底な、その主張が餘りに無定見な混亂狀態にある事實を恣々痛切に觀取する一方、有るが儘の人生における當時の『青年』達が、滔々として現在の社會制度の下に、喘ぎ、苦しみ、疲れて、久しく鬱積し來つた自己の力を持てあましつゝ徒らに感傷と驚嘆とにふける回顧的な、內訌的な、自滅的な傾向を益々切實に感得せざるをえなかつた。然かも、この事實、この傾向こそ彼自身が最も強く、最も多く持ちあはせてゐたものなのである。この『時代』を觀察することはやがて彼自身の自己及び自己の生活を省察することであつた。不遇と失望のドン底におち窪んだ眼をあげて、彼の鋭い理性が直觀しえたものは、遂に「現實」としての動かしがたく見ゆる『強權』の力と、徒らに抽象的な理想にはしる性急な思想と、人類の共同生活體たるべき社會に、相矛盾する現在の、二元的な原則の存在、彼の謂ゆる『時代閉塞』の狀態であつた。

『現在の日本には、恰も昨日迄の私の如く、何等の深き反省なしに日本國といふものに對して反感を抱いてゐる人があります。私はそれも止むを得ぬ現象と思ふけれども、然し悲しまずにはゐられません。私は考へます、遠い理想のみを持つて自ら現在の生活を直視することの出來ぬ人は哀れな人です。然し現實に面相接して、其處に一切の人間の可能性を忘却する人も亦憐れな人でなければなりません。……既に我々は我々の現在のいかなる狀態に在るかを知りました。この狀態は決して滿足すべきものではありません。我々は乃ち進んで、このやうな狀態になつたところの原因を探究し、闡明し、そして更に創造者のやうな勇氣を以て、現在の生活を改善し、統一し、徹底させねばならぬのではありますまいか。……あらゆる思想、あらゆる議論の最後は、そして最良の結論は唯一つあります、即ち實行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

的、具體的といふことです、(と私は思ひます、)私は叙上の意味において新しい個人主義を力強く把持して行かうと思ひます、同じ理想から私は、機會があつたら、新日本主義といふものを說かうと思つてゐます。現在の日本には不滿足だらけです、然し私も日本人です、そして私自身も現在、不滿足だらけです、即ち私は自分及び自分の生活といふものを改善すると同時に、日本及び日本人の生活を改善することに努力すべきではありますまいか。……』

當時彼が、上京久濶後の一先輩に送つた長い手紙の一節に、こんな文句がある。斯うして彼の興味と熱情とがおのづと『民衆』に向つて行つたことはまた當然な徑路でなければならない。

〔四〕

『私は毎日電車に乘つてゐる。此の電車内に過す時間は、いろいろの用事を持つてゐる忙しい私の生活とよつて、民衆と接觸する唯一の時間である。私はこの時間を常に尊重してゐる。出來るだけ多くの觀察を此の時間にしたいと思つてゐる。――そして私は殆んど毎日のやうに私が電車内に於て享ける不快なる印象を回想する毎に、我々日本人の爲に、並に我々の此の時代の爲に、常に一種の悲しみを催さずにはゐられない。』……

人ありて電車のなかに唾を吐く
それにも
心いたまんとしき。

彼は常に、それほどの自己省察と敏感とをもつて毎日、民衆と接觸する唯一の時間として電車に乘つたのである。片隅に腰をおろして、或は肩と肩ともみ合ふ吊革にぶら下りながら、或はハミ出された車掌臺の黄銅の棒に危く掴まりながら、そこに展開するあらゆる事象を大小となく見逃すまいと努めた。そこには『時代』があつた、『日本』があつた。彼は或る記錄のなかに、或る時、盛裝した中年の――上流社會の人と見えるやうな服裝をした、しかも其の擧止と顏との表情の決して上品でない婦人が、既に無効であるべき乘換切符を利用して、うまく一枚をごまさうとしたことが車掌に發見されたとき、滿員の乘客の前で、その婦人が臆面なく執念く、却つて車掌に一種の屈辱を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

加へた情景に對し、すぐ彼は、一外國旅行者が露西亞で觀察した一農夫のことを連想したのである　その農夫は、込みあふ汽船の中で財布を盗まれたが、間もなくそれは乘合ひの軍人の外套から發見された。汽船の副長が、その軍人を警察の手に渡さうとしたとき、『止してごさらつせえ。』とそれをおしとめて、『確かに金はハア見つかつたもの、皆此處にあるだ。それをハア此上何が要るだね』と云つた農夫の一言が其儘事件を解決させてしまつたのである。然し彼は、この日本と露西亞との二つの事件を、たゞ兩國民の性格の比較對照と早合點してはいけないと斷つて、『私は私の研究をそんな單純な、且つ淺薄なものにしたくない』と說いてゐる。

彼は新聞の歌壇の選者になつてゐたことがある。日毎に集つてくる多數の投書を捌いて、それにも『時代』と『民衆』『日本』といふものゝ考察の資料を聚集することを彼は忘れなかつた。平凡拙劣な投書の一つに、二十首のうち七箇所まで脫字のあることを發見して、彼は、この脫字が筆者の粗忽のためばかりでないことを看過しなかつた。年少早くも痛ましい淘汰の犧牲となりつゝ、おさへ難い野心と焦慮とに元氣も顏色も衰へて、もう幸運な人が初めてこれから世の中へ出やうとする年頃に、癒し難い神經衰弱にかゝつたものゝ生活、それと脫字とを彼は別々に離して考へることはできなかつた。『二十首の歌に七箇所の脫字をする程頭の惡くなつてゐる人ならば、その平生の仕事にも、「脫字」があるに違ひない、その處世の術にも、「脫字」があるに違ひない。』――彼はミリウをはなれて、物質生活の意義と價値とを度外視して、その人を觀察することはできないやうになつたのである。

歌壇への投書家の中には、また、『憐れなる片田舍の小學敎師』があつた。その手紙には、この小學敎師が、自分の職務に對してとかく興味を持ちえない事、誰一人興味を解する者なき片田舍の味氣ない事を細々と記して、自分の愛讀する新聞紙上に歌壇の新設されたことを喜び、近頃に新聞が着くと先づ第一に歌壇を見る事、今後は『全力を擧げて歌を研究する、』『每日必ず一首づゝ投書する、』などゝ認めた文面を讀んで、選者たる彼は、同情よりも一種の反感を起さゞるをえなかつた。本能に慣れな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る田舎教師。彼の反感は更に、己れの爲る事、云ふ事、考へる事に對して直觀と反省とを缺く人の心を、生活を、寧ろ羨ましく思つたのである。この投書は、手紙にあつた通り、毎日必ず一通づゝ投函したとみえるが、それも七日か八日續いて、遂に絶えた。それはおびたゞしい數に上つたが、悉く漫然たる叙事叙景で一首も歌壇には登載されなかつた。彼は之れに就て、「私は思ふ、若し某君にして唯一つの事、例へば自分で自分を憐れだといつた事に就てゞも、そのいかに、又いかにして然るかを正面に立向つて考へ、さうして其處に動かすべからざる、隱れたる事實を承認する時、その某君の歌は自からにして生氣ある人間の歌になるであらうに。」と暗示してゐる。

いつも逢ふ電車の中の小男の
稜ある眼
このごろ氣になる。

×

公園の隅のベンチに
二度ばかり見かけし男
このごろ見えず。

×

忘られぬ顏なりしかな
今日街に
捕吏にひかれて笑める男は。

×

路傍の切石の上に
腕組みて
空を見上ぐる男ありたり。

×

何やらむ
穩かならぬ目つきして
鶴嘴を打つ群を見てゐる。

×

友よさは
乞食の卑しさ厭ふなかれ
餓えたる時は我も爾りき。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

×

一隊の兵を見送りて
かなしかり
何ぞ彼等のうれひ無げなる。

之等が彼の歌集の中で必ずしも傑れてゐるといふわけではない。唯之等の一首一首にも彼の興味の對象と思索の傾向とを窺へば足りるのである。彼のすぐれた數多くの望郷の歌、放浪回顧の歌、そこにあらはれた懐しい自然、忘れがき人々は又悉く彼の民衆に對する興味と社會生活に於ける矛盾の悲哀、人類に對する愛と哀憐の表現であると云つてよい。この點において、すべて彼の短歌が、單純な趣味感傷をはなれた特異の社會的意義と、新しい獨自性を主張するのである。

(五)

日本においては社會的に未曾有の重大事件、それが突發的に表面にあらはれたのは、この前後のことである。それが彼にいかなる程度のショックを與へたか。この重大事件の發覺で、「最も驚いたのは、かの頑迷なる武士道論者ではなくて、實にこの私」であつたと啄木自身告白してゐる通り、彼は相當の豫備知識をもち自覺を持つてゐると思つてゐたのであるが、尚且彼の革命とか暴動とか。反抗とかいふ内容に對して、科學的と云ふよりは、一種の詩的なあくがれの要素を多分に含んでゐたことを否めなかつた。彼の今迄の讀書と考察がまだ〱空疎な、淺薄な、觀照的なものであつたことをさとらさるをえなかつた
彼は當然知合ひの辯護士から事件關係の種々な調査資料を借りて、研究に夜を徹した。その裁判の一件書類は、紙數七千枚に達して、二寸五分位の厚さの謄本が十七冊にも上つたが、彼はその内容の主要部分を殆んど悉く讀んだ。彼は彼等同志の信條に就て、又一般的なソシアリスムと、彼等のアナーキスト、コンミユニスムとの區別に就て、改めて研究にかゝつたのである

赤紙の表紙手ずれし
國禁の
書を行李の底にさがす日。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

現實の尊重、從つて自己そのものゝ尊重といふ思想から、現實の一切を共體承認して、その範圍における內外生活の改善統一といふことを高唱しつゝあつた彼の考察が、この重大事件の前後から、一層唯物論的の傾向を强めて、現在の社會組織、經濟組織、家族制度に對する根底的な自由討究に進んだことは當然な歸趨でなければならない。

病氣勝ちな兩親と妻子、その多勢の一家族を僅かに支へて、『働けど働けどなほ』樂にならぬ貧乏生活、悲慘な體驗を考察の最も有力な資料としつゝ、すこしばかりの小遣錢を懷中にねぢ込んでは神田本鄕通りを探し步いて、これ迄出版された限りの研究書を手に入れることに努めたのも此時である。死後、彼のこわれかゝつた薄汚い柳行李を開くと、遂に賣れなかつた小說の原稿や、スクラップや、その他の雜多なものゝ中に、背綴ぢの破れかゝつた『平民主義』もあつた、『社會主義神髓』も、『二十世紀の怪物帝國主義』もあつた。これらの著者こそ實にかの重大事件の主謀者と目されたその人である。千山萬水樓主人の名でかゝれた今の河上博士の『社會主義評論』や堺利彦氏の『社會主義綱要』もあつた。赤いラシャ紙表紙の雜誌『社會主義研究』は數册合本して、灰色なラシャ紙表紙をつけてあつた。彼は黃ろく濁つた電燈の光の下で、得るにしたがつて讀みふけり、讀んでは賣り飛ばし、又軒並に古本をあさり廻つた。その後、退屈な病院生活の間に親しい友達の一人が貸したクロポトキンの自傳は、彼の生前の、最後の據つた殆んど唯一の讀書であつたが、『賣り賣りて手垢きたなきドイツ語の辭書のみ殘る』ほどの彼に、『本が買ひたし本が買ひたしと』妻に對して、あてつけのつもりではなく口癖のやうに云つてゐた彼に、恰度、藥のなくなつた朝遠方の友人から思ひがけなく爲替のとゞいたと同樣の喜びと昂奮を與へたものである。

新しき書を買ひ來てよむ夜半の
そのたのしさも
長く忘れぬ。

病氣が一時やゝ怠つたとき、異常の感興と熱意をもつて一氣に作つた數篇の長詩、『はてしなき議論の後』や『墓碑銘』等は全く、この事件の深大なショックと、透徹した讀書と理解から

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

産れたものに外ならない。

〔六〕

晩年の彼にとつて、唯一な『張合ひのある生活』を豫想せしめたものはパンフレット的な雜誌の發刊計畫であつた。この計畫は寧ろ突嗟の間に發案されたものであつたが、然し彼も、彼の周圍も、同時に又彼の『時代』も等しく要求してゐたものとおもはれた。彼は初めて來ようとする彼の『時代』の意識を確實に彼のものとして、その機運をとらへることに永く鬱結した心を遣り、煩瑣な一切を忘れようとしたのである。彼は熱心に、雜誌の用紙は一聯いくらで、活版の組代は一頁いくらと、こまかな計算をつゞけ、プランを立てゝ讀者の募集や資金の調達に努めたものである。『保證金を納めざる雜誌としての可能の範圍に於て』彼はこゝに『明日の考察』を發表し研究し、彼の謂ゆる確實なる理想としての『必要』の意義を闡明し、文學本位の文學から一歩進んで『人民の中に行く』といふ希望と期待とに胸をおどらした。讀者も意外に多く、雜誌の前金もやゝ纏つて居いた。

何となく
案外に多き氣もせらる、
自分と同じこと思ふ人。

×

自分より年若き人に
半日も氣焔を吐きて
つかれし心。

×

珍らしく今日は
議會を罵りつつ涙出でたり
うれしと思ふ。

打算的な先輩や舊友の殆んどすべてから疎遠になつて、孤獨の寂寥に眞實の一路を求めつゝあつた彼の周圍にはをのづと新しい同志が集つて、はげしい議論に夜の更けることも度々になつた。彼はいつもその中心になつて、一種の煽動的な聲をはげましながら冷熱を併せた氣焔を吐いたものである。

『僕は近頃腹が太つてね、ウンと張るやうな氣がするよ。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「それはいゝ。健康なのだよ。力が溜つて來たのだ。もつと肥るだらう。――何もかもこれからだな。」

彼は安机にもたれた肘をあげて、帯を解いて、着物の前をはだけて、友達にその太つたといふ腹を見せた。それは蒼黄ろく、一種異樣な緊張で、古道具屋の太鼓のやうな、皺の延びた光澤がどんよりとなつてゐた。健康と思はれた腹の太りは金持ちのでつぷりしたそれとは全く反對なものであつたことを彼自身はその時或はもう知つてゐたのかも分らない。この腹が意外な重症で、この儘ではあと一年と生命が持たない、から最初の診察で醫者が宣言した時、彼は、その腹に感じる壓迫と起居に幾分の不自由である以外、何の痛みもない病氣が、そんな致命的なものであるとはどうしても信じられなかつた。痛くない病氣で入院してみたい、生活上の責任に堪へかねて來たものが、よく斯んなことを思ふと同樣に、彼も平生そんなことを云つてゐたが、彼は今否應なしにその機會をもつことになつたのである。彼は醫學生で詩人である友達の厚意で、大學病院へ入院することになつた。それは施療室であつた。一日五圓十圓とかゝるやうな自費入院手續きなどが取れるはずもない。大きな一室に無數の寢臺が行列のやうに据ゑられ、雜多な患者が晝も夜も或は默々と、或は叫び、或は呻き、或はひそ〲と泣いてゐた。そこは宛然、病氣の標本室のやうであつたが、彼は却つて、この病院生活すら、ごみ〲と西日の一杯にさす理髪店の二階の間借生活よりは氣樂なことゝ、藥代だけぐらゐな僅かな入院費で靜養のできることを寧ろ喜んだ。

重い荷を下ろしたやうな
氣持ちなりき、
この寢臺の上に來ていねしとき。

×

それならば生命が欲しくないのかと
醫者にいはれて
だまりし心。

歌集『悲しき玩具』(啄木全集第一卷)の大部分を占める病苦の實感は一首々々讀者の胸をいためずにおかない。この歌集は彼の退院後、――施療患者の退院は患者の全快を意味するもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ではない——飲みたいと思つても貰ふことのできなかつた藥を買ふために、原稿を書肆へ持ち込んで、涙金のやうな、たつた二十圓しか得られなかつたものであるが、灰色な表紙の寂しい製本が出來上つた時、彼は一週間前、既に最後の息をひきとつてゐた、買つた藥も壜の半分程は病床の前に殘つてゐたのである。

雜誌の計畫は彼の病氣と、資金の缺乏と、印刷業者の不德義と折重なつた原因のために、遂に斷念しなければならないことになつたのであるが、せつかく意氣込んだ仕事——宿望を果さずして殆ど獻身的にかゝつた計畫の全くダメになつた失望が、彼の氣力を一層おとろへさせたことは否めない。『何か書きたいにも書く程の勇氣も出ないし、實に下らない世の中になつた。』と當時、友達へ手紙を送つたが、また一人の友達には、『毎日毎日健康が欲しい。』と書いて、『毎日きまつて僕の目に入る顏は、父の顏、母の顏、妻の顏、妹の顏、子の顏——この五つの顏の外にはない。』その單調な間に、家庭の完全な平和のえられるわけもない。病苦のために弱る心と、家庭生活のわづらはしさと、生命の愛着と、底知れぬアンニユイとになやみつゝ彼はたゞ變化をもとめてゐたのである。

　友も妻もかなしと思ふらし
　病みても猶
　革命のこと口に絶たねば。

×

　やゝ遠きものに思ひし
　テロリストの悲しき心も
　近づく日のあり。

〔七〕

『張合ひのある生活』を待ち望んだ新しい雜誌の計畫を遂に斷念したのち、一時は小康を得ながら、彼の病苦は彼を絶望に導くほかなかつた。

　……

　われらは何を爲すべきかを議論す、
　されど誰一人握りしめたる拳に卓をたたきて、
　'V NAROD' と叫びいづるものなし。

ヤーマ

此小説は曾て發賣を禁止された事あるが、決して普通の淫靡小説でない。原作者の自序に曰く『人々は此小説を以て不道德、破廉恥のものとなすを知れども、吾人は眞心より此を世の母人と青年に献ぐと』爛れ切つた惡所の女と、耽溺の場所に通ひ來る情慾の奴隷を大膽に解剖した名著である。

四六大判ポイント五八四頁
定價二圓八十錢送料十七錢

ゾラ原作 水上齊譯

酒場

（第十五版）

有名なるナナの前記にして其兩親はいかなる淫蕩者なりしか、ナナは幾歳にして既に淫蕩の味を覺へたるかゾラの長篇大傑作である

四六判六四〇頁
絹布裝幀
價二圓九十錢
送料十九錢

エレン・ケイ著 原田實譯

戀愛と結婚

（第二十版出來）

●人生の根本問題を論じて微に入り細に徹したる一大名著の全譯なり

四六判四六〇頁
洋布裝細活字
價二圓四十錢
送料十七錢

東京麹町區飯田町一の二
天佑社
振替東京一〇一二八
電話九段一一七三番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

法學博士 福田德

ボルシェヴヰズム研究

十版

◇定價貳圓九十錢◇送料十七錢◇四六判◇

レニンの國家理論、ボルシェヴヰズム、マルキシズムニ關する世界的文献で、學徒の必讀に値すべき名著、博士の說によればレニンも眞正のマルキストではない、勞農露國を學理的に研究するには本書を措いて他にない。

社會運動と勞銀制度

三．參名著

社會政策と階級闘爭

十版

◇定價參圓九十錢◇送料廿一錢◇四六判◇

世界的の經濟學者としての博士最近業の大傑作だ勞働運動は此からが眞劍に入る、そしてその指導者も俄仕込では駄目だ、嶄然斯界に卓越した博士の本著は社會運動と勞銀制度の基調をなす名著である。

廿二版

◇定價貳圓八十錢◇送料十九錢◇四六判◇

「資本主義は必然的宿命によつて崩壞するものではない、この儘に放擲する時は人生眞の厚生幸福は全くその爲に蹂躪せらるゝの外はない我々は人爲の政策を以てこれに對抗せねばならぬ」といふ立場より博士一流の卓論を以て本書は成る。

發行所　東京芝區愛宕下町　振替東京八四〇二　改造社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

PLENA ESPERANTO LEKCIARO

◆會員各位は永久の會友として御質問に應じ並に會員相互間及び全世界のエスペランチストとの文通を助け實地習練につとめます◆

正則エスペラント講義錄

◇三箇月修了◇

第一巻成る

ラムステッド博士歸國途上より遙かに日本のエスペランチストに激勵の大文字を寄せ來り、第一號の巻頭を飾れるを看よ！

内容見本 呈進

●講師 何れも吾がエスペラント學界の權威にして各々腕を揃へて最も得意とする夫々の擔當部門を講述する

●講義 正確無比、講義振り亦懇切丁寧にして平明を極め決して讀者を倦怠に陥れないやう講述を交へ、比喩を用ひて面白く説いてあるから、學んで居る教師について學ぶと何等變りなく、全然外國語の素養のない

本講義錄の特色

初學者と雖も三ケ月の講習にて優に全學科を講了し得ます

●科外 毎號科外講義欄を設け小阪講師の「國際語の常識」及び、現在海外諸國とエスペラント語にて貿易を營みつゝある上野商事會社長上野孝男氏の「通商語としてのエスペラント」を數種の挿繪附にて連載する

●記章 講習修了者には日本エスペラント協會の記章を無代で進呈する

第壹巻内容

エスペラント同人に寄す	ラムステッド博士
エスペランテイストの使命‥	秋田雨雀
發音	小坂狷二
文法	北川三郎
文例集詳解	川原次吉郎
會話	金田常三郎
作文	北川三郎
國際語常識	小坂狷二
通商語としてのエスペラント	上野孝男
質疑應答	各講師
漫錄	川原學士

エスペラント全文法表附三色版

全六卷（毎月二回 一日十五日）發行

會費

▲入會金を要しません
▲全卷前拂金 五圓
▲毎月分納金 貳圓

東京市本郷區弓町一丁目

世界思潮研究會

振替東京三八四二九番 電話小石川一九七一番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

中西伊之助作

長編小說 汝等の背後より

定價貳圓參拾錢
書留送料拾七錢

第九版

勞農ロシアの靑年たちは『人民の中へ』と强く叫んだ、彼等は『汝等の背後より』と銳く叫んだ、背後より何をなさんとする、對岸の火災に非ずして汝の母家は將に燃えんとしつゝある。萬人を魅するやうな妖艶花の如き一人の女革命家、其れを取り捲いて若き社會運動家たちが血に狂ふ虐殺、强姦、脫獄、復讐の諸闇黑面を肉太い筆に載せて百萬の讀者を牢獄へ、信仰へ、決鬪場へと引つ張つて行く作者の伎倆は從來の著作に比して百段の進境を見せて光彩陸離たるものがある。時代はこんな深刻な藝術を愛好する、そして男らしき大膽な描寫を渴望してゐる。

中西伊之助作

長篇小說 赭土に芽ぐむもの

（十一）

定價參圓
送料十九錢

東京芝區愛宕下町
改造社
振替東京八四〇二

世界三大偉人評傳と學説

山川均著　忽十版

レーニンとトロツキー

定價一圓九十錢　送料十五錢　四六判上製

曠世の大偉人――世界歴史に一大記録をつくつゝ彼レーニン、プロレタリアートの爲めに萬丈の氣を吐いた彼レーニンは輟中逝く[illegible]の嘆きを傳ふ、春日遲々として恨長きとき[illegible]は本書を携へて彼レーニンの偉業を瞑想してゐる。

文學博士鹿子木員信、鏡平名智太郎共著十版發賣

ガンヂと眞理の把持

定價貳圓卅錢　送料十九錢（四六判）

東洋が現代に有する最大の哲人として、又た印度革命の大立物としてレニンと並び稱せらるゝガンヂ氏の哲學の體系たる『眞理の把持』と最近印度に横流する理想主義的革命の本體を明にす。

鏡平名智太郎編　第六版發賣

ガンヂ審判の日

定價壹圓五十錢　送料十五錢（四六判）

理學博士石原純著　三十七版

増補　アインスタインと

相對性理論

定價貳圓貳錢　送料十七錢　四六判上製

ニュートン引力を否定して全科學界を革命せる氏の人となりと、「相對性理論」とを知ることの出來る一番評判のよい書籍は本書です、著者が石原氏であることが何より本書の權威です。

片山潛著

自傳

七版

定價壹圓八十錢　送料拾五錢

東京市芝區愛宕下町　改造社　振替東京八四〇二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

片山潛著

自傳

第七版

世界人として堅剛鐵の如き意志と、熱火の如き情熱を以つて知らるゝ彼は、露國では大臣を以つて待遇され、極東共產黨及革命黨大會に於ては議長に擧げられ今回亦たウレーナー、スコツト等老雄の上に立つて、南北全米の第三インターナショナル總指揮官に推擧された、此の世界人がレニンと並んで嵐の如く雄飛する颯爽たる英風下にも此の如き淚ににじむ思出がある。

定價壹圓八十錢
送料十七錢
四六判上製

東京芝區愛宕下町　改造社　振替東京八四二

小泉信三著

價値論と社會主義

定價參圓　送料十九錢　四六判上製

第五版

河上、山川、高畠氏等との論戰の戰鬪記錄と云ふても差支ない本書は、經濟學者中の隨一の新進たる小泉氏會心の著だ、その內容はマルクス及びロオドベルトスの學說に對する熱心な研究である、二氏が新經濟學の發達にいかに重要な人物であるかは呶々を要しない、本社は舊經濟學崩壞の時に當りて本書の如き新經濟界を高く指南する快著の上梓されたことを讀者と共に喜ぶものである。

東京芝區愛宕下町

改造社

振替東京八四〇二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

北一輝著

定價壹圓五十錢
送料十五錢

私有財産限度——[illegible]ノ私有財産限度超過者
○○○○○○

巻三　土地處分三則…………

私有地限度——私有地限度ヲ超過セル土地ノ回納——
—○○○○○○—將來ノ私有地限度超過者——徴
[illegible]地ノ民有制——都市ノ土地市有制——國有タルベ

女性

人間主義と超克主義……倉田百三

女子の建設的生活と性の道德……長谷川如是閑

Digitized by Google
Original UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小泉信三著

定價參圓
送料十九錢
四六判上製

鏡を見よ

定價五拾錢
送料貳錢

女性性教育……山本宣治

◇無風地帯内の體驗至上論 ◇貞淑な婦人の抗議
◇苦い藥はオブラートの厄介 ◇現實を見せつけられた時の恐怖
◇同性間の反撥現象 ◇啓蒙はどぶさらへ大掃除
◇女性自決は實現不可能 ◇女護の島に侵入する男
◇男心と娘の性教育 ◇未婚男女の異性觀
◇明るい人生の虫のよい夢 ◇男教師は女生徒の前のモルモット
◇處女間の同性愛 ◇師弟に起るかも知れぬ戀愛葛藤

山吹（戲曲）……泉鏡花

ピノチオ（童話）……佐藤春夫

現代出世五人男（小說）……宇野浩二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

長詩『はてしなき議論の後』四聯において、彼は、有識無産階級の青年が、その欲求と、民衆の欲求と相一致することを知つてゐるに拘らず、徒らに感情のみ高調して、一歩實行に入る勇氣のないことを痛嘆してゐる。實行を伴はない議論は空虚な喧噪に過ぎない。彼は更に、『今日は五月一日なり、われらの日なり』といふ最後の一語を遺して死んだ一個の機械職工の遺骸を栗の下に埋葬して、そこに選んだ墓碑銘は、この快活勤勉であつた若い職工の默々たる强い一語、『われには何時にても起つことを得る準備あり』であつたことをうたつて、この青年勞働者の廣い額と、鐵槌のやうな腕と、生死を直視する眼を回顧しつゝ、敬愛と思慕の情を寄せた。彼は斯うして詩的空想のなかに、「明日」のための青年の典型として意志と行動の力を信じたのであるが、彼自身の肉體は既に再び起つことを得ないほどの病菌に冒かされてしまつたのである。

今日もまた胸に痛みあり、
死ぬならば、
ふるさとに行きて死なんと思ふ。

ふるさと――彼が再度の上京後滿四年、遂に一回も憧れのふるさとへ歸る機會がなく、都會の一隅、じめ〱と薄暗い小石川高臺の窪地、病菌の一杯になつたやうな家で死んだ。家、彼には、その家も、心のふるさとも無かつたのである。

今朝も、ふと眼のさめしとき、
わが家と呼ぶべき家の欲しくなりて、
……

この長詩『家』の一篇は、彼の物心兩面における放浪生活の慘苦と、絶望ののちの靜寂と、無産者のはかない空想である。その家は、鐵道に遠くない故郷の村はづれ、西洋風の木造のさつぱりとした一構へに、質素な飾りと明るい書齋、庭苑は廣く雜草の繁茂にまかせて、一隅の木蔭には白塗りのベンチをおきたい、埃及煙草の紫の煙をゆるやかに吐いて、丸善からは四五日おきに新刊書が屆く。そこには村の子供を集めて、さま〱な話を聞かせたい……。かういふ空想は、たゞ彼のブルヂョワ氣分の隠遁生活に對する承認であつたか。

そのかずかずの滿されぬ望みと共に、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はじめより空しきことと知りながら
……

彼の一生は遂に不遇と不滿の連續であつた。彼は短歌の革命を成したと云はれる。文藝上には萬葉以後、それはまことに劃時代的な事業となつたに違ひないのであるが、然し彼にとつては、短歌は彼の「悲しき玩具」に過ぎなかつたのである。その新しい形式などは、机上の置時計や硯箱やインキ壺の位置をかへる程度のものであつて、然かもこれ以外、彼は社會生活の不便不合理に對してたゞ忍從と屈服、遂に改造の一指をも加へることができないことをなげいた。

啄木逝いて十二年、彼のふるさとには一基の尨大な花崗岩の記念碑が建てられた。一個の歌人、一個の詩人、文學者としてのみ彼を追懐することを拒否する、謂ゆる『無名青年』の手によつて、「やはらかに柳青める北上の岸邊」に建てられたのである。それは岩手の山裾、僻陬の地に立つて、碑そのものは多數の人の眼にふれないかも知れない。また、それはかならずしも形有る記念碑を必要とするのではない。たゞ、この計畫の最初

から完成の最後迄、彼等無名青年達のもつた熱烈な意志と組織的な行動こそは、地下の啄木をして、僅に微笑を催さしめるやうなものであつた。啄木が「明日」のために待ち望んでゐたものは、この『無名青年』としての自覺と、團結力ではなかつたか。形有る記念碑を更にまた建てるには及ばない。「明日」の生と希望の上に無數に建てられる形無き記念碑、彼は、その礎の下に眼をあげて、彼の絶望と死が初めて空しくなかつたことを知るであらうと思ふのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

伊勢から京都へ

近松秋江

一　鳥羽の海光

四月の初、久し振りに關西の方の旅を思ひ立ち、通例東京の方から京阪見物に出掛ける者が取る、極めて月並の順路を經て、先づ伊勢路を志して出發したのは、四月の二日の夜九時三十分東京驛發の急行であつた。

實は、近年ひどく身體の持ち運びが臆劫になり、汽車の乘り降りから手荷物の世話などに、一人若い人間を同伴したかつたのだが、都合わるく、結局一人で立つことになつた。それでも立つ日には新聞の續き物を三回と、尙ほ旅裝を調へてからも他の新聞へ送るべき雜錄などを書いて、ついでに持つて出で、赤帽に手荷物を運ばして、前日買つて置いた寢臺車に横はると、もうその晩の夕刊さへ讀むのも億劫になり、横濱へ停車したのもよくは知らず、ひどく煤烟臭いので、ふつと眼を覺まして、はゝあ箱根だなと思ひ、靜岡、濱松などゝ、夜更のプラツトフオームで窓外に驛夫の呼んで歩く聲を聞いたやうであつたが、そのまゝ又寢入り、やがて名古屋へ程近くなつて眼を覺ました時にはもう沿道の菜の花の野も、ほの〴〵と明け放れて來た。

名古屋で關西鐵道線に乘換へ、木曾揖斐の二大鐵橋を渡つてゆく頃は、曉雲尙ほ空を鎖して何となく濕りがちであつたが、時刻の移るにつれて春陰の空模樣は次第に明るくなり、東京では未だ彼岸櫻さへ咲かなかつたに比べ、此方は春の訪れるのもやゝ早いと思はれて海に近いステーションの構內にある櫻はもう滿開してゐるところもあつた。

やがて龜山に着き、そこから汽車は參宮線を南に馳せてゆく。この行、最初、自分は、どうした心機からか、ふと伊勢參宮を思ひ立つた。自分がはじめて大廟へ參拜したのは、今から

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さつと三十年ほどの昔になる。關西鐵道線路はその後たび〱乘つたことがあるが、龜山より以南は約三十年ぶりである。沿道の景色の古い記憶は全く薄れてしまつてゐるが、二十歳の時の夏、一人近江の草津から龜山を經て參宮線を乘つて來た時分のことが夢の如く思ひ起された。大廟參拜も參拜であるが、當時の旅行記などを讀んで、何となく伊勢灣の風光に親しんで見たかつたのが當時の旅行の動機であつたやうに思ふ。その時は二見の浦の海水浴の旅館に一週間ばかり滯在してゐた。

今度は志摩の鳥羽に一泊してみるつもりで、トランクの手荷物は昨夜東京驛で預け鳥羽まで送つておき、自分は山田に下車して大廟に參拜するつもりである。やがて山田驛に着車したのが十時半。そこから腕車を雇ひ、まづ外宮に詣づ。此の日恰も神武天皇祭に當り、參詣の群集雜沓してゐた。こゝでも神苑の櫻花が爛漫として咲き盛つてゐる。伊勢路の春は東京よりも大分早い。好い日に自分は來合せたと思つた。

外宮の參拜を濟まして又腕車に乘り、山田の町を、街道を經て內宮のある宇治の方に向つた。車夫は深切に、俥を挽いていきながら、いろ〱の說明をして聽かす。少しゆくと、だら〱登りの阪道にさしかゝる。そこが間の山のお杉お玉の榮えた跡であつたが、今はその名殘り殊のほか寂寥して昔の面影さらになく、それでも例年四月一ぱい、昔の頭戲事を興行し、ちやうど二三日前から又始めたところだといつて、道の傍の小屋掛けに汚れた淺黄の幕など張つて、どんちやん騒がしい音を立てゝ囃してゐたが、まだ一向客脚は寄り附きさうな景氣も見えない。電車が出來たり、新道を自働車で走つたりする急がしい客が多くなつて、かういふ昔の遺物は、近世產業革命の通り過ぎた後に憐めに餘喘を保つて、取り殘されてゐるに過ぎない。車夫は坂道を上りながら、

「それに今日ではもう昔のやうな一文錢がないやうになりましたさかい、一向あきまへん。」と、笑つて云つてゐた。

お杉とお玉とが、大きく髮を張つた頭髮で、見物が彼女達の顏に向つて投げ付ける錢を巧みにその張つた髮でうけ留めるのが興であつた。昔ながらの春は今年も又循ぐり來てゐるが、お杉お玉の姿はもう見ることは出來ない。伊勢音頭で名高い古市の備前屋は今でも女郎屋であるが、虎屋は旅館に商賣を變へてゐる。私はその虎屋の前を車の上から眺めて通りながら、そこへ一晚泊つてみてもいゝなどゝ思つて通り過ぎた。

宇治橋の手前で俥を下り、五十鈴川の清流に架した、その橋を向うに渡つて神苑を歩いて、大きな檜や杉の鬱然頭上を蔽ふた五十鈴川の御手洗場に來ると、ここには多くの參拜者が絶い

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

流れを掬んで口を漱ぎ手を清めてゐる。自分もそれに加はつて手水をつかひ、それより尚ほ深い樹林の中の參拜道を進んで拜殿の太敷き立つ檜の丸太の掘立柱の御帷幄の前に近づき數多の群集に伍してぬかづき拜した。頭を上げて御垣の奥を遠く仰ぎまつれば清淨無垢なる白木造りの萱葺の宮居の棟に金色燦爛たる鰹木が何事のおはしますかはしらねども、たゞ〳〵尊げに眼に映じた。

滯りなく大廟を拜しおはると、急に昨夜の夜汽車の睡眠不足の疲れを覺えて、少しも早く今宵の宿に落着いて樂々と休息したくなつた。宇治橋の手前から又俥に乘つて車夫の説明して聽かすのに、車上よりたゞ受けこたへをしながら、返りは古市の遊女屋の背後につゞく田圃を遠くに眺める新道を通つて山田驛まで戻り着き、丁度鳥羽ゆきの下り列車の入つてるところだつたので、急いで汽車に乘り、二見驛を一つ通り越した鳥羽の終點に着き、俥を雇ふて、停車場前の案内所について、旅館の都合を訊ねさすと、對月樓は滿員で、一人の客は謝絶する、それより、やつぱり一つ内で經營してゐる皆春樓へおいで下さいといふので、そこへ行くことにしたが、皆春樓といふのは狹い鳥羽の町の遊廓を通り越すと、すぐ向うの山端の中腹に見えてゐる甍がそれであつた。

「はゝあ、あそこまで上がるのか。」と、自分は、やゝ躊躇ふやうにいふと、俥夫も梶棒を握つて足を停めながら、

「いけまへんか。」と、いふ。

「うむ、高いなあ。」函嶺や日光に行きつけた自分は、腕で山を攀ぢ上ることなど意に介しないのであるが、今日は、もうひどく休息を欲してゐるのでそれが何となく臆劫であつた。尚ほ車夫に委しく訊ねると、設備はよさゝうなので思ひ切つて上ることにした。それに決すると、車夫はそこに自分を乘せた俥を置いといて、後を押す者を呼びにいつた。やがて戻つて來て、えつちらおつちら羊腸とした山道を押し登つていつた。なるほど登るにつれて鳥羽灣の風光は一眸の下に展けて來た。

宿は氣づかつたよりも案外清らかに洗練されてゐた。座敷から眺めると鳥羽灣に横はる島嶼がすぐ眼の下に散點してゐる。湯が出來てゐるといふので、それは何より嬉しいと、早速一浴し、浴槽の中に立つてガラス窓から眺めると、そこからも鳥羽の海は一と眼に見える。窓の外の山腹には山櫻がもう一と雨をも待てないやうに寂しく滿開して、和やかな春の風に揺れてゐるのが、いかにも東京から遠くへ春の旅に出て來る氣分にふさはしい。

やがて旅塵を洗い流して座敷へ戻り、女中を呼んで、少し中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

途半端ではあるが、今朝四日市あたりで朝の汽車辨當を使つたまゝだつたので、

「あんまり早い夕飯にすると、晩の楽みがない。まだ晝飯をやつてゐないんだが、何か握飯でもこしらへて來てもらひたい。」と、命じて鳥羽灣の風光と縁先の山櫻とを賞しながら、辨當を使つた。たれか一人同作者があつて、此の愉快を分つといゝなどゝ思ふ。

繪葉書を取寄せて、それを書きながら、微睡を催して來たので、仰向けに横はると暫くの間眠つて、眼が覺めると、ひどく元氣が囘復して頭が敏活になつてゐた。宿帳を持つて來て「どうぞ。」といふので、それに書いてやると、暫くしてから、支配人がやつて來て、「近松さんでございましたか。」といつて、いろいろな話をした。此の旅館は主として東京の資産家の株式組織の會社の經營になつてゐて、東洋遊園株式會社といひ、二人の女中も東京の者である。その支配人も茨城縣人で、いろ〳〵な文士などの來遊した話をした。そんなことから、又ずつと親しい氣持ちが生じてきた。そのうちに日もやうやく暮れて座敷の中にぱつと電燈がつくと同時に、山の下に見えてゐる鳥羽の町の燈つゞきにも無数の電燈が輝きはじめ、向うの海の沖にもそつち此方に燈火が輝いてゐる。

やがて夕飼の膳を運んで來た。四谷の産れであるといふ二十四五の女中に給仕してもらつて夕飯を認めてゐると、山下の鳥羽の町の灯が何となく暖國めいた潤みを以つて人を誘ふやうに懐しく思はれる。

「町へ降りていつて見たいなあ……でも降りて又こゝまで登つてくるのが苦しいかな。」私は、箸を動かしながら、幾たびとなく沈吟するやうにいつてゐたが、最後に、

「いつてみよう。すぐ寝るのは惜しい。」

といつて、若い男衆に同伴するやうに女中に頼んだ。

すると先刻座敷に話しに來た支配人も用事があつて下まで御一緒にまゐりますといつて多勢で山を下りた。東京にゐては、昨夜まで夜の外出は寒さを感じたのであつたが、此の、海に瀕した南方の地に來てみると、夜の氣の肌觸りが何ともいへない温柔で、少しの棘々しさを感じない。輕い綾羅で身を包まれてゐるやうな心地がする。夜の明りの中に山櫻が白く咲いてゐるのがところ〴〵に見えてゐる。春の夜らしい木の芽や嫩草の薫りがどこからともなく立ち匂ふてゐる。

旅館のある處まで山は直徑にすれば五六町の急阪であるが、九十九折りに曲折した道になつてゐるので、歩行にさまで困難でもない。すぐ麓の處に常安寺といふ禪宗の古刹があつて、一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

週間の間遠忌の法會が行はれて、毎夜の說教がある。寺は、明治天皇が昔し京都から關東へ赴かせられる時の行在所になつた由緒のある名刹である。一寸覗いてみると、近在近郷、多くは海の上の島から來て參籠してゐる老婆達が宿坊に足を踏み込む處もないまで滿ちて寢床をとつてゐる。

禪寺の門外に一歩踏み出すと、そこにはすぐ鳥羽の港の遊廓がつゞいてゐるのである。上方風によく洗ひ磨いた出格子の傍に引き手の女が立つてゐて道をゆく者を呼びかけてゐる。

清潔な、歩きよい道を歩いて、宿の男衆を伴れて私は、急がしくて東京を立つ時買ふ間のなかつた寫眞のフイルムを買つたり、先刻書いた繪葉書を郵便局に持つていつて投函したりしながら、「なるほど、これなら、郵便の便利も惡くはないし、さう寂しくもないし、仕事を持つて東京から遊びに來て滯在してゐるのもいゝ。」などゝ思ふ。やがて街を、海際の船の繫留してゐる邊まで出て來ると水に臨んだ旅館の二階で絃歌のさんざめく聲が盛に海の方に響いてゐる。何うしても春の夜の海港にふさはしい情調である。

ステーションは、そこら山の端を廻はるとすぐなので私はトランクを受取りかた〴〵ステーションまでいつて、それを受取り、中に入れた仕事道具の入るゝのだけを取出し、あとは又旅館の案內所に預けておいて、歸途についた。

山を上がり〳〵折々立ち止まつて海の方を振顧つて見ると、港の灯は人を誘ふやうに懷しく瞬きをつゞけてゐる。草木の萌える香が又しても鼻に通ふてくる。

戾つてくると、もう床は別室に設けてあつたので、私はもう一ぱい入浴して溫まつた身體を寢床に横へた。

翌朝遲く目を覺まして床を離れ、もとの座敷に出て來ると、宿の者が多勢縁側のガラス障子の所に寄つて海の方を眺めてゐるので、何事かとそちらを見ると、海上遙かに聯合艦隊の艨艟が二列の縦列をつくりながら徐々として入港してくるところであつた。支配人は、

「お目覺めですか、軍艦が大變に入つて來ました。長門は大きくつて入れないものですから、一つだけあつちの方に居ります。」

といつて指す左方の島陰を見やると、なるほど海上幾里の遠くに長い城砦を描いた巨艦が半身を顯はして横はつてゐる。その島の上空には高く大きな輕氣球が繫つてゐるのが見える。

空はやゝ曇つてゐるが、今日も天氣らしく、そこらの山の上に開けた雛段の如き畑には麥の綠、五菜の綠が麗はしい春光を浴びて輝いてゐる。

楊枝を啣へて浴室に入り山の清水を汲んで沸かした朝湯の浴槽

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に潰りながら窓から海の方を見下ろすと、そこからも聯合艦隊の艨艟が悉く見える。

輕い朝飯を濟まして、旅館の後の山上の庭園に出てみると、茶店の四阿屋に大きな望遠鏡が備付けてある それから海の方を覗いて見ると、向うの軍艦の甲板で作業をしてゐるのが一ゝ指呼することができる。肉眼では何があるとも分らない畠畑の眞青な麥の畝に女の働いてゐるのも見へる。

しかし、私はいつまでも放心して遊んでゐることは出來なかつた。東京の新聞に書いてやらねばならぬ原稿の用がある。午前十一時半の汽車で立たなければならぬ。やがて内に入つて机に凭り新聞の小説を一回書き、早々に荷物を收めて男衆に送られて山を下つて、ステーションに來た。汽車はもう發車に迫まつてゐるところであつた。大阪の湊町へ直行する汽車なので客は滿員である。私は今日は伊賀の上野まで乘るつもりである。薄曇りはしてゐるが日は暖く、車窓から眺めるとそちこちの山の麓神社の杜の木の間などに櫻が白く咲いてゐる。野の黄菜も至る處に咲いてゐるが、これはまだ咲き亂れるといふところまでにはならない。そのために尙ほ春の興の盡きないことを思はしめて、樂みは前途にある。

龜山から、いよ／＼關西線に入つた。このあたりの溪山の眺は私の氣に好むところである。

二　伊賀國

伊賀國は小國であるけれども、この國に入るには何方からゆくにも相應に深い山を踰えねばならぬ。自分はいつも汽車の中に安坐しながら、此の國を通過するのであるが、西から木津川の溪谷を溯つて來るのもいゝし、東から鈴鹿山脈を横斷して南畫めいた溪山の間を入つて來るのも興が饒い。況んや俳聖芭蕉の生地である。吾々日本人の自然觀、人生觀乃至それ等の風物に對する趣味といふやうなものが芭蕉一人の存在によつて、いかに幽邃深遠の趣きを加へたかといふことを考へると、人間の世界には、烏合の群集ばかりでは足りない、寶玉の如き一人者がなければならぬ。

私はこの伊賀國の野と山とを多年憧憬して居た。眺め飽かぬ鈴鹿山脈の溪山を横斷して汽車が伊賀の國境を踰えると、すぐ拓植の驛がある。芭蕉はこの拓植で生まれたといふことである。それを上野と拓植とで生地爭ひをしてゐるのはつまらぬことである。芭蕉はたゞ伊賀の人でよい。

汽車がその上野の驛に着いた頃には、又今晩あたり雨になりさうな空模樣になつてきた。今日これからすぐ月ケ瀬に往くつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

もりであるが、勿論梅にはもう季節は遲れてゐるが月ヶ瀨の溪山も亦多年憧憬してゐるところである。

ステーションを出て車夫に訊くと、そこから上野の町までは約一里ある。そして、すぐこれから月ヶ瀨に往くにしてもやつぱり上野の町を通過してゆくのである。手荷物を携へてゐるので、それを、今朝、鳥羽を立つ時、皆春樓で紹介狀を書いてくれた上野の宿屋へ預けて置いて、單身月ヶ瀨に直行して彼地に泊まり、今宵は梅花はなくとも、十分梅溪の山水に浸らうと思つてゐたのに、とかく荷物の爲に累せられて行動の自由を缺く感があるのを憾みつゝ、ともかくも俥を命じ一臺にはトランクを載せて走つた。南に向つて行く手の方は四圍の山々遠く平野が目も遥かに開展してゐる。そこから上野まではやゝ上り道になつてゐて、伊賀川の長橋を向うに渡ると、昔し藤堂家の支城の跡の丘陵にさしかゝる。それを向うへ出抜けると上野の町がある。皆春樓の指狀にある本町通りの友忠といふ旅館についてその狀を示し、案內せられて座敷に通ると、宿の若主人がその手紙を見て挨拶に來り、

これから月ヶ瀨まではまだ四里の道があるのみならず、最早梅花の季節は過ぎて自動車の往復も頻繁ならず、宿といつても土地の農家が、三月梅花の季間のみ片手間に客を泊めてゐるので今晩は格別見る物のない、つまらぬ處であるが當處に一泊ありて上野の町を見物し、殊に芭蕉の舊跡蓑蟲庵へは是非御一覽をお勸めするといふので、月ヶ瀨にも泊つてみたかつたけれど、もとより上野の町にも、何となく、夙に親みを抱いてゐることであつたから、有無なくそれに一決しまだ暮れには少しの間があるので、私は寫眞機を携へて市街にいで、主人に委しく教へられたとほり旅館の前を、整然たる街路を眞直に南へゆくと五六町ばかりにして、やゝ街はづれの場末、一寸横丁を左折して入つた處に芭蕉翁の舊庵があつた。

三　蓑蟲庵

道より少しく高く石垣を積んで、その上に竹の粗朶垣を結ひ繞らし、侘びたる門を入つて門小舍めいたる家の入口から訪ふと、姿は見えず奥から女房の聲がして、「そこをずつと植木の中を右へおいでやすと門がありますよつて。」といふ。十歩ばかり行くと門はすぐ取付にあつた。

門の內はやゝ荒廢した、見たところ二百坪足らずの庭園になつてゐて、芭蕉の時代からあるらしい老松が數株亭々として立つてゐる。ところ〳〵に苔の蒸した寂び石など配置してあり、庭の中央は窪地の古池になつてゐて水は枯れてゐる、その向う

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に翁遺愛の燈籠と掲示した風雅な石燈籠が立つてゐる。

門を入つて、一本の老松の幹の下を左手に迂廻すればすぐ庵室の廻椽の前に出る。庵は藁葺に廂のみ瓦を用ゐ堅固に三和土で固めた地形の上に座の低い、そして軒の低い古風な家が立つてゐる。今は、この地出身の東京の富豪鈴木氏の所有に歸し、氏の愛護の下に庵は舊形を保存せられてゐるのである。柱も床も障子も凡べて煤けて黒染んでゐるが、それでも舊形を損ぜしめぬやうに時々修繕が加へられると思はれて、存外軒のまはりなどまだ確りしてゐる。

椽先の大きな寂びた踏石の上に立つと、薄暗い座敷の中は伽籃として、留守のやうであつたが、聲を掛けて訪ふと奥の間の方からすぐそれに應ずる返事があつて、やがて立出でゝ來たのは二十ばかりと見える、才發さうな美しい娘とも小間使とも思はれる女子であつた。

行儀作法の正しい物腰で膝をつき鄭寧に挨拶をするので、此方も慇懃に來意を告げて庵の一覧を乞ふと、

「どうぞこちらへ。」といつて、座敷に通し早速襖の彼方から坐蒲團を取つて來てすゝめる。

私は何だかひどくローマンチックな興味が自然に生じて來た。寂びにさびた芭蕉翁の舊庵に、その荒廢した庭園といひ内部の暗褐色に煤けた壁や柱の色とはまるでちがつた美しい小間使がゐようとは思ひもかけないことであるが、それが何となく、此の舊庵にふさはしいやうにも思はれた。

私は坐蒲團の上に一應すはつたが、又起つてそこらの床や違ひ棚のあたりに近づいて精しく眺めた。床は一尺ばかりの幅で、木肌もわからぬやうに黒く煤けてゐる。疊數は六疊で、天井もひくゝ質素なものである。

美しい女中は烟草盆を運び、番茶をはこび、菓子を運びなどしておいて、今度は大きな手函を持つて出て來た。そして靜かに蓋を開けて中から取り出して見せたのは、翁の句を誌した短冊であつた。多分現在の庵主の手に入るまでに壁か襖のやうな處に貼り付けたまゝ隨分粗末に持扱つたものと思はれて、墨の痕も幽かに讀みわけられるやうに暗褐色に煤けてゐる。短冊は三枚で、翁の名句

あか／＼と日はつれなくも秋の風

寒菊に粉ふりかゝる臼の音

もう一句何とかいふのであつた。

その他、古池に蛙の飛込んでゐる翁の戯畫と稱せられる物や行脚の際に用ゐた頭陀袋の布地の蟲食んだものなどを數點取り出して示された。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なほ訊くと、その座敷とゝもに奥にも六疊が二た間あつて凡てゞ三室に台處の附いた草庵である。來訪者に對して六葉一組の蓑蟲庵の繪葉書を贈られ、芳名錄に署名を希望せられた。厚く謝して尚ほ庭などを歩いて見たうへ、美しい小間使に門外まで送られて辭して歸つた。

その晩宿の若い主人は、自家の所藏の芭蕉翁の手記の嵯峨日記といふものを持つて來て見せた。嵯峨の去來が落柿舍に逗留してゐる間の朝夕の事が簡素な筆に記されてゐるのが情趣却つて紙上に溢れてゐた。

夕飯を濟ませて、市街の夜況を見ようとして、繪葉書を投函しかた〳〵外に立ち出ると、今にも落ちさうでやう〳〵堪えてゐた空からぽつり〳〵と雨滴が顏を打つて來た。縣廳もない、山の上の平野の中に位した此の町は道筋など井然として、さすがに城下町らしい古風な面影が何處やらに殘つてゐるが、身は今遠い旅の空に來てゐることを思ふと、陽氣の狂つた寒い夜の雨がひどく寂しい。郵便局までいつて、そこらの暗い町筋をたゞ一と廻はりしたのみで引返した。宿の居心地も昨夕の鳥羽に比べてひどく佗しい旅愁をそゝる。

明日は月ケ瀬まで往くのだと思つて早く寢床に入り、按摩を呼んで療治をしながら、それでも快くうと〳〵してゐると、十時を過ぎる頃多勢の泊りが着いたと思はれて、此方に歩いてくる下駄の足音がして、やがて自分のすぐ頭上の二階に通る音が聞え、間もなく、土地の藝者が來て、ぽつん〳〵と鴨緑江ぶしだの、どゞ逸などを放歌する聲がしだした。私は床の中に寢返りを打つて頻りに神經を惱ましてゐた。この分では、とても今晩は安眠することは出來ない。座敷は方々に空いてゐるのに察しのない宿屋だなあと不平を抱きながら、それでも療治の効でつひに眠つてしまつた。二階の客はあまり騷ぎもせず、そのうち何時の間にか、三味線の音も聞えなくなつた。

翌朝女中に訊くと、客は土地の客ではなく、何でも埼玉縣あたりの村長さんや村の有志などが十幾人でこの國の上野在にある模範村の視察に來て、序に伊賀の藝者も見て往きたいといふので呼んだのださうである。私はそれで、女中に向つて笑ひながら、そんな遠方から模範村の視察に來るほどの村長さん達が、藝者を呼んで騷ぐとは不心得だなと云ふと、女中も、「へえ、さうでござります。私もそれで夜前いひました、あんたはん方模範村の視察やなうて、これは藝者の視察にお越しでございますかいいました。」といつて笑ふ。

四　月ケ瀬

翌朝早曉床の中で一旦雨の音に眼を覺まし、失望を感じながら、又そのまゝ暫く寢入り、今度起き出でた時には何時落ちて來るかも分らぬが、降つてはゐない。しかし春雨時の常習とて大したこともあるまいと宿の者もいふので、早々に朝飯を認め九時すごし過ぎ昨日から申込んで置きし乘合自動車の來るのを待つて月ケ瀨に往く。

月ケ瀨は上野町から恰も西南四里の處に在る。自動車は無蓋の上に雨氣を帶びた陰濕の風を切つて馳走するので興味を殺ぐこと甚だしい。加之先客二人正面の坐を占領し、自分は逆に横を向いて馳せてゐる。田圃や村落の間の田舍道を半町はおろか十間の長さの眞直なところもないカーブに次ぐにカーブを以つてする羊腸たる道路を走るのであるから、私は見てゐて獨り心の中で思つた。東京の日本橋の上を走る運轉手も此の道を往くほどの神經は勞しないであらうと一寸の間でも油斷すると、忽ち田の中か崖の下に轉落せねばならぬ暫く何等の奇趣妙景なき村落と田圃の間を通りぬけ、やがて伊賀と大和の國境になつてゐる小い峠を越す邊から山容やゝ雅趣を加へて來た。そこから月ケ瀨の關門なる尾山の村まではもうすぐである。自動車はその入口の處までしか通じない。

自動車を降りて、道を右手にとり、懸崖に寄つて家を構へた農家の間の細徑を登つてゆくと、徑の曲り角ごとに指の圖を描いた道しるべが立てゝある、それに從つて行くと、稍々六七町ばかり阪道を登りつめたところが、いつしか山の尾嶺になつてゐてすぐ向うの眼の下には深い名張川の溪谷が見下ろされる。もうそこらの山畑や人家の軒先には梅の樹が至る處に立つてゐるが花は疾くに季節を過ぎて色の褪めた花瓣がやうやく枝に散りとどまつてゐる。ところ〴〵の掛け茶屋も盛りを過ぎた今、いづれも店を畳みかけてゐるところである。梅は遲いが溪山の眺望が豫想には背かず好いので、山畑の畦道を、道しるべを賴りに先きへ〳〵と進んでゆくと、その頃から雨滴がぽつり〳〵落ちて來た。蝙蝠傘を開いてそれを凌ぎながら、時々天を仰いで「春雨はいたくな降りそ旅人の道ゆき衣ぬれもこそすれ」といふ業平の歌を口の中でいつて、春雨の晴れるのを心に祈つたが、道傍の麥畑に働いてゐる若い農夫に「この雨に、どうだな、この邊の空模樣では本降りかな?それとも直ぐ止む雨かね。」と訊ねると若い農夫は二人ゐたが、頭を振つて「本降りだす。なか〳〵止みまへん。」といふ。いよ〳〵たより少くなつて、私は氣を焦つて道を急いだが、そこはまだやう〳〵月ケ瀨の入口の尾山の取附である。蝙蝠傘をたゝく春雨の音は俄に繁くなつて、はては傘の端から瀧の如き雨垂れが流れ落ちて來た。深い名張川の溪谷

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の彼方を遠く目放すと、渓の向うにも山又山が重疊して、煙雨濛々たる中に峰の波が打ちつゞいてゐる。そのあたり一帶の渓山を月ケ瀬といつているのであるが、特に月ケ瀬の字といふのは、尾山の山の上から見渡すと、丁度川を隔てゝ西北に當る峰の中腹に據つて人家が點在してゐるのがそれである。そちらにはまだ幾らか梅花が殘つてゐると思はれて、遠くから望むと雨の煙の中に白くぼかしたやうに濡れて見えるのが月ケ瀬の梅である。春雨は容易に止みさうにないので、濡るゝを厭はず急いで、山の中腹を開鑿して通じた細徑を迂曲しつゝ眼の下に見えてゐる渓流の方に下りていつた。そこは尾山から月ケ瀬に通ずる大谷といふ處で名張川の渓流を挾んで兩岸の山の麓に人家が點在してゐる。川には此のあたりに不相應な大きなコンクリートの橋が架つてゐて、尾山の方から山の中腹に沿ふて來た街道はその橋を向うに渡つて道は向岸の裾を通ふてゐる。坦々る道路である。その道を何處までも傳ふてゆくと月ケ瀬、桃香野の渓山の村を過ぎて三里餘にして笠置に出られる。

　大谷まで下りて來ると春雨は瀧の如く傘より流れ落ちて、道はやうやく坦道に就いたが、それより進むことも退くこともならぬ。やう／＼そこにある荒物屋の軒に雨を避け、東京を出る時新調した夏外套を脫ぎ、袴の裾の泥に汚れたるを、筧の水で雪ぎ、襟頸の汗をぬぐひなどして雨の止むを待つたが、なかなかにやみそうもない。俥はあるまいかと訊くと梅花に人の出盛かる頃なれば、いくらもあるが、今は見物の客も絕えたから俥もない、たゞ一臺あるけれど、挽く者は、これから十七八町も下の月ケ瀬の山の上にゐるので、それよりも尾山の自動車の止まる處までは、わづかに七八町の道なれば、そこまで辛抱して歩いた方がよいといふ。

　雨はしきりに降りていつ止むべくも見えぬ。爲方なく腰を据えて店頭の繪葉書などを求め、且つ昨夜上野の本屋で探ねてもなかつた齋藤拙堂の「月瀨記勝」を賣つてゐるを發見し、一本を購ひ、それを披いて見たりしてゐるうちに雨もやみ小降りになつた。

　渓に沿ふて住む者はなか／＼多いと思はれ、荒物屋には後からあとから物を買いに人が入つて來る。尾山の小學校から歸つて來る子供が立ち寄つていつたり、裁縫の稽古にでも通ふらしい十七八の子娘が番傘をさして連れ立つて物を買いに立ち寄つたりしてゆく。

　空もやゝ明るくなり、川の向ふの一群の杉木立から白い霧を吐いてゐるのが雜木林の山の背を這ふて上騰しやがて上空の雲の中に融けてゆく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私は、東京の神田で買つた高價の日和下駄を泥なしにするのも惜しく、何より步行に惱むので、中齒の朴齒下駄を新にすげさせ、それを穿いて、手荷物をあづけ、橋を向うに渡つて、雨の晴れる間を月ヶ瀨から桃香野の下まで步いて見た。山の容はさまで崎嶇でもないが何となく雅致があつて、殊に月ヶ瀨のあたりは、山の上に拓り開かれた段々畑と懸崖に據つて屋を架した人家とが竹林と梅樹と杉木立と互に錯綜して籬落を綴り、見上げるやうな高い處に丸葉が見えてゐる。「月瀨記勝」の口繪に遠嶺の人家といふのが人を欺かない。先程尾山の一目千本の高嶺から煙雨の中に月ヶ瀨の人家を遠望したのがそれであつた。今又月ヶ瀨の麓まで來ると、溪流の末は山と山との折り重なつた中に隱れて、その向うの高い山の上に桃香野の人家が遠く望まれる。溪山の眺めはどこまで往つて窮まるところがない。その川が後には南山城の大河原に至つて伊賀川と合流し木津川となつて山城の木津に至り、更に山城平野を北流して淀に至り淀川に合するのである。

春雨はすつかり止んで薄日が射して來たので、私は氣が輕くなり、悠々溪に沿ふた坦道を步んで尙ほ桃香野の近くまで下つていつた。梅花はもう悉く凋落してゐるが、道の左右に嵯峨たる姿を殘してゐる樹容の一つとして雅趣よきはないのを見て月瀨記勝に遍地香雲といひ、雲濕雨香といふの決して誇張の辭でないことを察した。

しかし、一時までには必ず自動車の待つてゐる處まで歸らねばならず、明るくなつたと思つてゐた空が又暗くなつて來たので桃香野の遠嶺の人家を望みながら割愛して又一と筋の坦道を引返へして來た。そして心に思つた。月ヶ瀨に往くには通例伊賀の上野からのつてゆくことになつてゐるが、今日尾山までの道の無趣味であつたことを考へて、これは、やつぱり笠置の方からのつて來た方が好いと思つた。

春雨は又ひどく降つて來た。私は着物の裾を片手にからげながら道を急いで荒物屋まで戾り、そこで預けて置いた日和下駄などを取つて、溪に臨んだ平坦な道を迂廻しつゝ尾山の方に步いて來た。荒物屋から自動車のゐる處まではさほど遠くなかつた。

そこで、上野の旅宿に歸りついたのはもう二時を過ぎてゐた都合のいゝ發車までには、あまり時間がない。早くに勘定などを濟まして自動車で上野のステーションに走らせた。丁度、昨日下車した時の汽車であるが、やゝ遲れてゐる。汽車を待つ間に春雨は又降りさして來た。先刻月ヶ瀨で降つた雨とちがひやや嵐さへ吹き添ふて、四邊がひどく暗くなつた。プラットフォ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ームの彼方に見えてゐる田圃の菜の花が折角開きかけたところを雨に打たれて頭を垂れてゐるそちらの野は次第に北の方に段々高くなつていつて、やがて伊賀平野の北端を劃してゐる山の麓までつゞいてゐる。ところ〴〵に落着いたやうな人家が散點してゐる。

五　雨の京都へ

雨は次第に強くなつて來た。今日は、これから二三時のうちに京都の舊居に入るのだと思ふと、何となく樂みである。京都へは去年の一月以來ゆかぬ。

そのうち汽車が、屋根から瀧のやうな雨垂れを落しながら入つて來た。室内は殆ど滿員である。漸く腰を掛けられるだけの空席を見附けてほつとした。それから島ケ原の一驛を經て、伊賀と山城との國境をなす長いトンネルを向うへ出拔けると、もう地は南山城である。自分はこの邊の溪山の眺めを殊に好む。人の息と雨飛沫とに曇つた硝子窓の外を覗くと、山も畑も溪もたゞ降り頻る春雨に鎖されて糢糊としてゐる。トンネルを西へ出はづれるとすぐ大河原の停車場がある。そこから左窓にあたつて、今日月ケ瀬の溪で親しんだ名張川が濛々と雨に煙つた向うの山峽から流れ出て伊賀川に合流してゐる。雨の木津川の溪を眺めつゝ汽車は次驛の笠置についた。停車場の構内、笠置山の麓對岸の村落、そこら中に見渡す櫻が春雨の降る中に眞白く咲き誇つてゐる。何となく、華かな明るい春といふ氣持ちがして來た。それから加茂を過ぎて木津驛に來た。京都ゆきはそこで乘換へねばならぬ。

嵐雨は刻々に募り、プラツトフオームは斜風亂雨の中に吹き曝されてゐる。やうやく京都ゆきの汽車が奈良の方から入つて來たので、それに乘つた。車室は雨に鎖されて薄暗く濕つてゐる。

やがて一時間ばかりにして京都に着き雨中に自動車を走らせて東山の畔なる安井の舊廬に入つてゆくと、留守を頼む老人夫婦は、

「おゝ、おいでやす。えらい、おそをしたなあ。今日は朝おいでやす思ふて、今朝からもう火鉢に湯を沸かしておきました。」

といつて、自分の居室に充てた階下の六疊には自分の愛撫の火鉢に火をおこし、鐵瓶に湯がしやん〳〵煮立つてゐた。私は何年か振りで櫻の咲く頃の京都に來たのである。

六　峽中の大原

京都の名所は今までに大抵見てゐたが、まだいつたことのな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いのは八瀬と大原とであつた。四月の五日の晩京都に入つて三四日すると、すぐ岡山の郷里の方に往き、月末又京都に歸つて折柄大阪に來てゐた上司小劍氏と同行して大原見物にいつたのがと一月ばかりの旅行の中で最も愉快な印象を殘した。

上司君は午前中は仕事があるので、午後一時か二時までには往くといふ約束であつたから、そのつもりで待つてゐたが、雨であつたら中止といふ約束もしてあるので、どうかと思つてゐると、幸いに雨天の多い天候に雨は落ちず、たゞ薄曇りがしてゐる。此の分ならば、きつと出て來るであらうと思つて、今か〳〵と待つてゐると果してやつて來た。早速自動車を命じて寂然に東山通を走らした。出町橋の東詰から道は高野川に沿ふて溯つてゆくと、陰氣に曇つた空の下に春霞靉靆の眺望のないのは甚だ物足りなかつたが、菜の花が行々路傍に黄金の莚を敷いてゐる。それから好い匂いが自動車の中まで匂ふて來る。八瀬を過ぎて谷はいよ〳〵狭く、山はいよ〳〵深い。一と筋坦道は幾度か窮まらんとしては漸く通ずる。道傍の山裾や岩角に山吹や椿の花が咲亂れてゐる。左は鞍馬、右は比叡につゞく嶮岨な山の容が一つとして奇趣を帶びざるものはない。思つたよりも大原は深い峡中に隱れてゐた。

やがて三千院の入口にいつて自動車は停車した。寺域は清淨で閑寂を極めたものである。寺僧に頼んで内部の一覧を乞ひ、拜觀をおはつてそこを出で門前の茶店に小憩してゐるうちに雨が落ちて來た。茶店に腰を掛けながら向ふを見ると、茶の木畑と菜の花とが點綴してゐる中に、櫻が白く咲いてゐたり、竹林があつたりする。向うの方に稍く傾斜をして峡の彼方の山の麓を一條の白い道が何處までも入つていつてゐる。昔の若狭往來で、若狭までは三十里の道を往くのである。

絲の如き春雨はしと〳〵と茶畑の菜の花にふり灑いでゐる。峡中の峰は濃淡を描いて悉く模糊とした雨の中に煙つてゐる。何ともいへない靜寂である。上司氏とともに飽くことを知らず暫く峡中の雨景に眺入つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ときあかすこと一つ

久保田万太郎

一

『田原町一丁目、二丁目、三丁目。――三丁目の大通りに出ると電車がとほつてゐます。廣小路の廣い往來で、雷門あたりの、宿屋、牛屋、天麩羅屋、小料理屋がわづか一丁ばかりの間に、吳服屋、鰹節屋鼈甲屋小間物屋といつたやうな、土藏(くら)づくりの、暖簾をかけた、古い店舖(みせ)になつてならびます。その反對の側は、砂糖屋、漬物屋、絲屋、藥種屋といつたやうな、同じく古い店舖がいろ〳〵並んでゐます。少し行くと、棒屋があつて、八百屋があつて、そのさきへ行くといつも表の格子を閉めた菓子屋があります。

落語によく出る「やつこ」といふ鰻屋と、築地本願寺御用といふ札をかけた、吉見屋といふ仕出し屋があります。

町は違ひますが、その並びに、有名な本屋の淺倉屋があります。

本願寺の大きな屋根が、大通りの突きあたりに遠くみえてゐます。雷門のあたりからみると、電車の柱のかげに、ちやうど中空に霞んでなつかしくみえますが、そばに行くと、その破風の白い色が青く晴れた空にいひ知れぬさびしさを添へてゐます。

十月、十一月。――冬になると、みちの兩側に植ゑられた柳が日一日と枯れて行きます。で、だん〳〵空が、くらく時雨れるやうな氣合をもつて來ます。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

横町がたくさんにあります。

大通から、一足、横町に入ると、研屋だの、駄菓子屋だの、鍛人屋だの、道具屋だの、さうでなければ、床屋だの、米屋だの、佃屋だの、西洋洗濯屋だの。——さういつたやうなものばかり並んでゐます。二三軒、近所にかたまつて大工の棟梁のうちがあります。——その間に小さな質屋があります。紺の氣の抜けた、ねぼけた色の半暖簾が格子のまへにかゝつてゐます。

どこの土藏の壁も汚れてゐます。しかしどの横町にもその汚れた壁が何よりもさきに目につきます。——曇つた日はその壁のいろが暗くみえます。晴れた日にはその壁のいろがあかるくみえます。

雪が一度ふると、土藏の端によせて掃いて置く雪が、いつまでも解けずに固まつて殘ります。

空のよく晴れた、日の色の濃い日はかへつて横町はさびしい光景をみせます。

わたしは冬のことばかり書きます。

一軒の質屋は立ち行かないので、片手間に小切屋をはじめました。格子を半分外してそこに見世をこしらへ、軒さきに、綺麗な、刺繍をした半襟だの、お召や銘仙の前かけだのを、いろく下げるやうになりました。

角には仕立屋があります。——窓に簾をかけ、なかに五六人の弟子がいつもせつせと手をうごかしてゐます。

いまはなくなりましたが、以前その二三軒さきに山川學校といふ代用小學校がありました。——その通りには、兩側に、ずつと古着屋ばかり並んでゐます。汚い暖簾と、軒さきにつるした古着とで眞つ暗な見世の中から、なま若い番頭や小僧が往來の人をたえず呼びこんでゐます。

古着屋の番頭や小僧といへば、人を喰つたもの、目のわるいものと近所できまつてゐます。——「古着屋」といふと堅

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いうちでは毛蟲のやうに思ひます。

横町には、また細々した路次がたくさんあります。見世物の木戸番、活動寫眞の技師、仕事師、夜見世の道具屋、役物の職人、安桂庵。――さういつたものが、いろ〱、その路次の中に潜してゐます

横町に古くゐた常盤津のお師匠さんで、貰つたむすめの悪かつたばかりに、住み馴れたうちを人手にわたし、いまでは見るかげもないさまになつて、どこかの路次に引つ込みました。――とき〲なほ、近所の湯によぼ〲行くすがたがみえます。

ある路次のなかには眞間といふ代用學校が殘つてゐます。

公園の浪花踊といふ見世もの〻阪東なにがしといふ女役者の座頭のうちがありましたが、ぢき越して行つてしまひました。始終表の戸を閉めて簾をかけてゐました。あれでは隨分暗いだらうといふ近所の評判でしたが、なかで、いろ〱、立廻りの稽古なにかをしてゐたのださうです。いまでは、そのあとに、女髮結が越して來ましたが、夏になると、二階で蚊帳を釣つて、燈火をつけて、毎晩のやうに化を引いてゐます。冬ばもやつてゐるのかも知れませんが、戸を閉めてしまふから分かりません。一度手の入つたことがありましたが相變らずやつてゐるやうです。――活動寫眞の辯士といつたやうな男や、髮だけ藝者のやうに結つた公園あたりの女が、始終、出入をします。

風の加減で、どうかすると、公園の樂隊の音がとき〲、通りを一つ越して、その邊まで途切れ〲に聞えて來ます。

銀行もなければ、會社もなければ、役所もなければ、病院もありません。お寺もその居廻りにはありません。去年、市立の大きな學校が二丁目の中ほどに出來たので、建具屋と魚屋の間に學校用品を賣る見世が二三軒出來ました。學校の表の煉瓦塀と桐の木がみえるやうになつてから、横町の氣合は幾分違つてきましたが、でも、まだ、質屋の土藏の壁

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

がやつぱり目につきます。

前に書くのを忘れましたが、三丁目の大通りの角につるやといふ大きな陶物屋があります。春、凧と羽子板がすむと、すぐ、お雛さまにかゝり、それがすむと五月人形にかゝります。夏の盆提灯や廻り燈籠がすむと、すぐ、お會式の造花にかゝります。と、また、霜月になつて、凧と羽子板の仕度にかゝります。そつのない商賣です。——かうしてみると「一年」といふ月日が目にみえて早く立ちます。

わたしは、溯つて、古いことをいふつもりはありません。が、いまいつた田川だの眞間だのといふ代用學校、五六年まへまでは、かなりに繁昌しました。外にも、近所に、紅雲といふのと、有隣といふのとがありましたが、やつぱりそれ／＼に繁昌しました。——しかし田川といふと、なかでも一番古く、一番面倒がいゝといふので、どこよりも流行りました。

とにかくその時分、公立の、筋目のたゞしい學校といへば馬道まで行かなければならなかつたのです。——しかし馬道というと、雷門のさきで、道程にして、ざつと十丁ほどあります。そのあたりからでは一寸距離です。——それに、その界隈の親たちにすると、兩方のけじめが全く分らず、近所にあるものを、何も、遠くまで通はせるものはないといふ了簡で、大抵どこのうちでも、子供をこの田川にかよはせました。——だからその居廻りのうちの、いまの若い主人は、そろつて皆田川學校の出身です。

なかには、途中でそこをよして、高等科ぐらゐから馬道の學校にうつるやうな向きも後になつては出來ましたが、しかしさうすると、下の級に入れられて、一年損をしなければなりませんでした。それに、代用の氣の置けないところが通ふ當人より親たちの氣に入つてゐたもので、そのわりに學校は流行りませんでした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その間で、わたしは、はじめから田川の厄介にならず馬道の學校に入りましたが、何かあるたびにおりやうは、代用のみるから自由らしいところを羨しいと思ひました。そのくせ、市立と私立と、與普相通ずるところが氣に入らなかつたのですが、うちへ歸ると、友だちは、みんな、田川へ行つてゐるものばかりです。——ときによると肩身のせまいことがありました。

その田川學校、まへにもいつたやうに、古着屋ばかり並んだ通りの眞ん中にあつて、筋向うには大きな魚屋がありました。半分立腐れになつた二階家をそのまゝ學校にしたものです。通りに向つて窓には目かくしがしてありました。二階が高等科で階下（した）が尋常科になつてゐるのだと聞いて、どんな工合になつてゐるのかと思ひましたが、あるとき、幻燈會のあると誘はれて行つたとき、はじめて中に入つてみて驚きました。黒板が背中合せにかゝつてゐて、一面に汚い机が並んでゐるきりでした。二階にあがると、階下と同じ机が、たゞ四側に並んでゐるだけでした。——これが順に、一年、二年、三年、四年になつてゐるのだと、一しよにつれて行つてくれた友だちが教へてくれました。

が、わたしには、どうしてこれで、それ〲の稽古が出來るだらうと、納得が出來ませんでした。

正午近くに、いつも、向ふの魚屋の河岸がかへつて來て、立てた葭簾（よしず）のかげに大ぜいお客のあつまるとき、目かくしをした學校の二階からゆたかなオルガンの音が聞えて來ました。

三時に學校が退けると、今度は、御新造（ごしんぞ）がおくで、別にお弟子をとつて裁縫を教へました。校長さんはとくべつに稽古に來る生徒たちに、漢文だの算盤だのを教へました。——これを豫科と呼んでゐました。

夜は、また、夜で、近所の古着屋の小僧だの大工の弟子だのが夜學に來ました。

校長さんといふ人は、その時分、もう、六十近い、小柄な、垢ぬけのした、血色のいゝおぢいさんでした。腰が低く

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世辭のいゝので評判でした。校長さんにくらべると、御新造といふ人は若すぎるくらゐ若く、人によるとあれは校長さんの姪だなどゝいふ人がありました。しかし、いつも、大きな圓髷に結つてゐました。校長さんと同じに、やつぱり、世辭のいゝので評判でしたが、同時に、また、少しなれ〳〵しいといふ批難もありました。――わたしの母でも、たま〳〵湯なんぞであふと、それほど懇意でもないのに、さきから叮嚀にあいさつして來るのでこまると、よくいつてゐました。

高等科を敎へてゐた、四十がらみの、頭の綺麗に禿げた先生がゐました。御新造の身寄になる人とか聞きましたがこの人が、また、御新造に上越す愛想のいゝ人でした。その時分始終、わたしのうちの店に電話をかけに來たので知つてゐましたが、朝など、わたしの學校の出がけにぶつかつて靴でも穿いてゐるところに來ると「いまお出かけですか、御勉强ですね。」といふやうなことをにこ〳〵笑ひながらいひました。――さうしたことをいはれるのが、わたしに、どんなに間が惡かつたでせう。

當時、近所のくせに、やつぱり、田川學校へ行かず、馬道まで通つたのに、砂糖屋の芳ちやんといふ子がありました。級は二年ほど違ひましたが、毎朝、一しよに、誘ひ合つて行きました。と、わたしが高等三年になつたとき、もう一人、茶屋町の菓子屋の息子が急に田川から轉校して來て、わたしの級に入りました。まんざら知らない顏でもなかつたので、はじめに來たときふと口をきいたのが緣になり、する〳〵に友だちになり、一時は、朝、わざ〳〵廻りみちをして誘ひに寄つたりしました。

柄の小さい、口の輕い子で、始終戯談ばかりいつてゐました。調子がいゝので、すぐ、だれにも馴れてしまいました。學科のはうは、三年を二度やるにしては出來なさすぎましたが、話をさせるとそれはうまいものでした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雪がふつたり、雨がふつたりして體操が出來ないと、うけもちの先生が教場へ來て、代ろ〳〵に、一人づゝ、黒板のまへに出ていろ〳〵話をすることになつてゐました。錄ちやん——さういふ名まへでした——は、轉校して來て、まだ間のないとき、何か話してみろといはれて、躊躇するところなく、落語を一つやりました。先生も級のものも驚いて、それからは、さういふときにはいつも一番に引つ張り出されるやうになりました。——これは自分のうちが色物の寄席のまへで、毎晩、定連の格で遊びに行つてゐたものですから、いろ〳〵、八さんや熊さんの出て來る落語にくはしいのでした。

よく「天災」といふやつをやりました。例の隱居さんが出て來て、熊さんに心學の講義をする話で、「いゝえ、天災ぢやない、せんさい(先妻)なんだよ。」といふのが下げなのですが、その時分、その「せんさいなんだ。」といふ下げの呼吸が、はつきり、わたしたちにのみこめませんでした。しかし錄ちやんが口をとんがらかして、卷舌をつかふ工合がすつかり皆んなの氣に入つて、わづかの間に、錄ちやんは、級での有數の人氣役者になりました。

錄ちやんが四年になつたとき、錄ちやんの弟が尋常一年に入つて來ました。よく似た兄弟でしたが、この兄さん、弟を少しも構ひませんでした。構はないばかりでなく、時によると、外のものと一しよになつて、げんさいの弟をいぢめては泣かせました。

もつとも、錄ちやんは、小さいものを調戯ふのが好きで、山川學校にゐた時分でも、やつぱり、二丁目の質屋の、榮ちやんといふ音無しい子を調戯つては、始終、泣かせました。

この榮ちやんといふ子、一人つ子の上に、體があんまり丈夫でないので、うちでそれは大切にしてゐました。——榮いろのメリンスの帶を叮嚀にしめて、前だれをかけて、みるから秘藏つ子らしい恰好をしてゐました。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、そのうち、田原町きつてのものもちで、奉公人も大ぜいつかつてゐましたが、おそろしく、堅い、古風なうちで榮ちやんは、田川學校の課程をすませると、すぐ、見世に出て、ぢみちな商賣のはうをやらせられました。しかし、その、商賣のはうといつても、榮ちやんは、若旦那としての取扱ひをうけたのではなく、兵隊檢査までは、奉公人のなかに入つて、奉公人と同じ修行をさせられるのでした。

寢るから起きるまで奉公人と一しよ。――といふことは、夜、おくの人たちがひけてから木綿蒲團にくるまつて見世に寢て、朝は、おくの人たちより早く起きるのです。三度の食事も外の奉公人と一しよに臺所で喰べるのでした。

拭掃除は勿論のこと、糊入一枚、水引一本の使にも榮ちやんにいひつけるといふ風でした。

で、たまには、無理な小言もいはれるのでせうが、でも、榮ちやんは、素直にいまでも働いてゐます。

お父さんは仕方がないとしても、しかし、おつ母さんの方がよく、それで、默つてゐると思ひます。――おつ母さんのはうになつたら、素直にさう働かれゝば働かれるほど、人情にからみはしないだらうかと思ひますが………

でも、二十一の曉になると、榮ちやんは、すぐに、また、以前のとほりの祕藏つ子に返るのです。さうして兵隊がすむと、許嫁の娘さんと一しよになるのです。――その許嫁の娘さんといふのは、やつぱり、同じうちにゐるのですが、しかしこのはうは、お孃さま／＼でおくに納つてゐます。月に一度や二度は芝居にでも行くらしく、よく、おつ母さんや女中たちと一しよに車で出かけるのをみかけます。

たしか今年、榮ちやんは二十になつた筈です。――もう一年です。あともう一年で邪障が消滅します。

見世の月日と奥の月日とが、別々に經つて、やがてまた、一しよになるのです。――それにしても、その、許嫁の娘さんはどう思つてゐるのだらうと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しかし佃のつるやでは、そのうちに、もう、お雛さまをはじめて、おきにまた、五月人形をはじめます。盆提灯がすむと、すぐに今度はお葬式の造花。——さういふうちにも、断えず、月日はながれて行きます……」

二

いまをさる十一年まへ。——明治四十五年の一月に、わたしは、かうしたものを「三田文學」に書いた。明治四十五年の一月といふと、わたしの、まだ、慶應義塾にゐた時分。——「胡頽」といふ小説を、その半年前に、はじめて世の中に出したあと、一つ二つの小説と戯曲を同じく「三田文學」と「スバル」に書いた——とはいはない、書かせてもらつた時分で、在りやうは、そのころの作家のだれでもが試みた「幼き日」の回想の人眞似をしたといへば足りる。

三

が、「幼き日」の回想といつても、どれによつて、わたしは、ありがたちの、正直な、おもひでの物語を書かうとはしなかつた。——むしろ、生れた土地を語るための、それに都合のいゝわたしの空想をいろ〳〵組合せたといつたはうがいゝ。——いまにしてその十一年まへの心もちに溯ることは出來ないが、おそらくは、この、二倍、三倍ぐらゐの長さのものを、わたしは、「淺草田原町」といふ名目の下に書きつがうとしたに違ひない。——同時に、わたしの疎懶が、その、わたしの意圖を裏切つたのに違ひない。

ありがたちの、正直な、おもひでの物語でないしるしには、この篇、わたしといふものがはつきり出てゐない。わたしといふものを、あたまで、よそにしてゐる。——いふならば、これを讀んでも、肝心の、わたしといふものが田原町のどこに住んでゐたのか分らない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

四

『横町がたくさんにあります。』とわたしはさう書いた。――そのたくさんある横町の一つにわたしは住んでゐた。――『……二丁目の大通りの角につるやといふ大きな際物屋があります。』と書いた。その、大きな際物屋の横町にわたしの生れたうちはあつた。

改めていへば淺草廣小路。――そのあたりで、だれも、さう呼んでゐる、雷門と、本願寺の裏門との間の大通りの、北側に二つ、南側に四つある横町の一つ――南側の、その雷門のはうからいつて三つ目の、とくに名けられてゐない横町に、わたしの生れもすれば育ちもしたうちはあつた。

とくに名けられてゐないといふ訳は、そこを除いた外の横町は、すべて、南側の一つ目のものに松田の横町、二つ目のものに大風呂横町、四つ目のものに源水横町。――同じく北側の一つ目のものにちんやの横町、二つ目のものに傳法院横町。――さうした呼び名をいろ／＼に持つてゐたのだつた。

五

その、とくに名けられてゐない横町を入つてすぐの右側。――三丁目はわたしのうちで盡きて、小さな溝一つを境界に、わたしのうちの隣から二丁目になつた。――わたしのうちの反對の側は、田原町でなく、東仲町といふ名で呼ばれた。

『……横町に入ると、硯屋だの、駄菓子屋だの、端入屋だの、道具屋だの、さうでなければ、床屋だの、米屋だの、俥屋だの、西洋洗濯屋だのといつたやうなうち』の並んでゐることを書いたのは、いはず語らずに、わたしは、つるやといふ大きな際物屋』の横町のことばかりを書いたかたちがあつた。――けだし、硯屋も、床屋も、米屋も、道具屋も、それらは、皆、わたしのうちの手近にあつまつた、小さな、寂しい店舗だつた。

もらつた娘のわるかつたばかりに零落した常盤津の師匠は、わたしが覺えて、あとで床屋になつたところに、わたしの十二三の時分まで、格子のそとに御神燈をさげてゐた。――その二三げん置いてとなりの道具屋、じやんこの、愛想つ氣のない主人を持つた古道具屋は、後に、わたしの十五六の時分に、幾多の轉變のあつたあとで、そのころ流行りか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

けた洋食屋になつた。――その前後に、以前髷入屋のあつたところに小さな印刷所が出來た。――そうしたことによつて横町の色合はだん〱變つて行つた。

その間にあつて、二丁目の、わたしのうちの並びながら、わたしのうちとは半丁ほど離れた大工のうち。――太いがつしりした感じのする格子をおもてに入れたうちの、毎年、七月になると、往來からみえるまどのなかに、必ず、いつも、大きな切子燈籠が下げられた。――その、しづかな、夢のやうな灯影こそ、そのあたりのおもひでを人知れず象徴するものだつた。

六

『……たゞ、わたしは、親に給金を仕送るために女中奉公に出たおたみといふ女を、その女の不幸な生涯の世の中に向けて、だん〱、展けて行く筋みちを描かうと企てたばかりだつた。――が、毎日一回づゝ書いて行くうちに、わたしは、假りにその舞臺にとつたわたしの生れたうちの來しかたがだん〱可懐しく思ひ返されて來た。わたしは思ひ出に浸りながら筆を遣つた。――わたしのおたみをみ守る眼はともすれば、よしない雲霧のためにさまたげられた。』と、書て「東京日々」に書いた「露芝」といふ小説を一冊にまとめたとき、そのあとに、わたしは、かうしたことをとくに書いた。

が、獨りこれは「露芝」にのみとゞまらない。――その以前にあつて、わたしは、「ふゆぞら」を書いたとき、「盆まへ」を書いたとき、「さゞめ雪」を書いたとき、「暮れがた」を書いたとき、「宵の空」を書いたとき、「ひとりむし」を書いたとき、「雨空」を書いたとき、「四月盡」を書いたとき、おなじく思ひ出に――生れたうちの寂しい思ひ出に浸りながら筆を遣つた。

生れたうち。――田原町の、とくに名けられてゐない横町の生れたうちに對するわたしの愛着がこれらの作をわたしにうました。――「ふゆぞら」も、「盆まへ」も、「さゞめ雪」も、「暮れがた」も、「宵の空」も、「ひとりむし」も、「雨空」も、「四月盡」も、さうして「露芝」も、偏へにそれは、大工のうちの切子燈籠の、しづかな、夢のやうな灯かげにうつし出されたわたしの悲しい「詩」だとわたしはいひたい。(つゞく)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

勞農ロシヤ承認問題

『インテンシヨンとネッセシチー』

山川均

一

昨年の五月一日の示威運動には、日本の勞働階級は『勞農露國の承認を以つて、三大要求の一つとした。一ケ年後の本年の五月一日には、大連長春の兩會議で挫折した日露交渉問題は、再度び當面の問題になつて來た。後藤氏の市長辭職につゞくヨッフエ氏の入京によつて形勢は急轉し、早くも第三次日露會議の開催が取沙汰せられて居る。

二

日露交渉問題を前にして先づ興味のあることは、日本の外交の二つの策源地と見做されてゐる參謀本部と外務省との意見が、全然相反して居ることである。反動思想の固まりにして勞農露國恐怖病の救はれざる重患者と見做されて居る參謀本部が却つて露國の承認を主張せざるを得なくなつたほど内外の形勢が變化した今日、外務省が正式承認は愚か、後藤氏によつて第三次日露會議開催の機運の促進せられることすらも恐れて、極力妨害を試みた。なるほど之では、日本に二重外交の行はれるのも尤もである。よし尤もでないまでも 少くとも外務省だけは、二重外交に不平を云ふ權利はない。

尤もこれに就ては、問題の人松平歐米局長がわざ／＼新聞紙上で、決して左樣な不心得なことは致して居らぬと打消され、この際『色々の流言蜚語の傳はるのは慨嘆に堪へない』と云はれて居る。この種の小刀細工が、どこ／＼までも隱密に行はれゝば定めし結構であらうが、兎に角色々の流言蜚語を生みやすい。誠に慨嘆の至りに相違ない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

この『流言蜚語』の一例として、四月二十九日の國民新聞の社說には、次の如き一節がある。

『…内田外相は對露問題に就いて、幾度か失敗した、ヨッフエ氏の渡來に對しては、初めから反對であつた、其行掛りで、今では日露第三協議の必要なるを知りながら、日露關係の圓滿に進むことを喜ばぬ。故に其の邪魔をすることに努力して居る……水野内相もヨッフエ氏の來ることに妨害をした一人であつた、彼は身錢を切つて、小役人や暴力團と不思議な關係を結んだとさへ傳へられるだけに、日露關係の圓滿な進展を喜ばぬ一人である……』

暴力團や反動團體の運動費とさかてとが水野内相のポケットマネーから出て居るか、それとも何處かの機密費から出て居るか、吾々は固より少しも知らぬ。けれども暴力團も反動團體も、ヨッフエ氏の來遊をまだ少しも問題にもしてゐなかつた某月某日に、外務省から上海の領事館に打つた電報には、『ヨッフエ氏及び其の家族の身邊に對する危險、日々に增大しつゝあり』、それ故にヨッフエ氏は來遊を中止するようにと云ふ、親切を極めた忠告がある。少くとも水野内相や内田外相には、暴力團の腹の底は、自分の腹の底ほどによく分つてゐるものと見える。

次には政黨の態度である。政友會の或る有力者は、露西亞の承認などゝは以ての外だと云つて居る。政友會を代表する水野内相が、内閣中に於ける最も強硬な反露西亞論者であるところに興味がある。しかし其の政友會のほんとの腹の底を斷ち割つて見たなら、この花やかな手柄を後藤にさせるとは以ての外だといふ、少し違つた本音が聞こえるかも知れぬ。

露西亞の正式承認を主張して居る革新俱樂部の進步分子と後藤氏との間に、どんな政治的の脈絡が通ふて居るかは、茲には忖度せぬ。革新俱樂部の承認論と、政友會の以ての外說との中間にぶらついて、取りつき場合がなくて困つて居るのが、吉例によつて憲政會である。通商の開始は急務であるが、承認は其の時機に非ずといふ半煮の態度が、やがて此の政黨の政治的生命を最もよく象徵したものである。どうせ桂公の傭兵として、金力と權力と情實とで驅り集められた、政治的に最も如何はしい種族の集團である。一定の階級を代表して居らぬといふ點でも、憲政會は政友會以上に存在の理由が少ない。十年一日の如く政權に渇しつゝ消えもえず燃え上がりもせず、尙ほ一時くすぶつてゐるのが此の政黨の政治的運命である。最近加藤總裁は、英米に追隨して露西亞の承認がやりきれぬのは必ずしも追隨外交でない所以を力說し、大に内田外相に同情を表せられて居る。よし世界の形勢は知らぬにせよ、少くとも加藤總裁は、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

外交家としての己れを知るだけの明がある。と云つてよい。引ずられてゆくことに特殊の技倆を有する此の在野の第二黨が、對露問題についても、見事に政友會の政治的思惑に引づられて居るのは是非もない。

三

斯ように第三次日露會議の前には幾多の障害と難關がある。早くも或る人々が、日露交渉望少しといふ悲觀說を抱いて居るのは、必ずしも無理ではない。けれども其れにも拘らず、何人も考へなければならぬことが一つある。卽ちシベリア出兵の當時から、大連長春の兩會議を經て今日に至る間に、日本の對露政策は何づれの方向に動いて來たかと云ふことである。日本の…………がシベリアを占領した當時には、大正十二年に露西亞ソヴイエツト聯邦社會主義共和國が依然として地球の上に存在しようとは、夢にも思ふてゐなかつた、大連會議の中心問題は、唯だシベリア撤兵であつた。長春會議には勞農政府の代表者を加へねばならぬ羽目にはなつたが、それでも勞農政府の承認は問題にならなかつた。ところが今日はどうだらう。對露問題は最早や露西亞と通商を開くかどうかと云ふ問題ではなくて、勞農政府を承認するか否かといふ問題である。對露問題の中心は、何時の間にか承認問題となつてゐた。

之は日本の外交が日露關係の大勢を支配して居る證據であらうか、それとも日本の外交が、大勢に引ずられて居る證據であらうか。長春會議の日本全權松平歐米局長によると、『インテンション(意圖)とネツセシチイ(必然)が成熟して兩國が眞に手を握らうとする誠意さへあれば、誰とでも喜んで話をする』用意があるそうである。唯だ不幸にして大勢といふネツセシチーは、諸君のインテンションよりも、何時でも二足三足お先きに成熟するだけである。

四

日本の外交には少くとも三つの特徴がある。そして此の特徴は對露外交の上にも、標本的に現はれて居る。

外交は畢竟妥協である。自分の立場と共に相手方の立場を理解せぬ處には外交はない。ところが何時でも自分の立場しか知らぬ日本の外交家に取つては、自分の立場を押しつけるか、相手方の立場を押しつけられること以外には外交はない。そこで相手が弱ければ威猛高になり、生憎相手が强いとぴたんこになる。若し日本の外交家が、露國の代表者が日本の事情を調べて來た程度に露國の事情を調べてゆき、露國の使節が世界の大勢を知つてゐた程度に世界の大勢に通じて居つたなら、長春會議であれ程までに子供扱ひをされずに濟んだらう。そして其の腹

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いせに、大の男がヨッフエ攻撃の宣傳に浮身をやつすがものもなかつたらう。こちらの捨て餘して居る品物だけは買つて頂かう、何なら利權も頂戴しよう、然し表門からの交際は平にお斷はり致すといふ虫のよい通商急務承認早尚論の如きは、相手方の立場を理解せぬ外交にあらざる外交の好標本であつて、この手合の外交の手腕では、支那に二十一箇條を押つける位が精々關の山である。

第二の特徴は、世界の大勢と共の推移を見渡して居らぬことである。その結果は何時でも大勢に引ずられて、大勢を指導することが出來ぬ。松平氏の言葉を借れば、何時、もインテンションとネッセシチーの成熟するのを待つて、何時でもネッセシチーに引づられてゆくことである。語學と西洋料理の食べ方だけを心得た此種の外交家は、柳の下には何時でも同じ鰌が居るものと思ふて居る。彼等は水の流れて居ることを知らぬように、大勢の推移して居ることを辨へぬ。彼等は大連會議で見た鰌が、矢つ張り長春會議にも居るものと思ふてゐた。そしてゼノア、ヘーグ、ロオザンヌの會議を經て露國の國際的地位が著しく變つたことを知らなかつた。シベリア撤兵は、大連會議の露西亞に對しては、有力な交換條件であつた。ところが日本の外交家は、露國の國際的地位が急變した長春會議でも、シベリア撤兵には同じ交換價値があると思ふて出掛けて往つた。長春會議で有効だつたサガレン撤兵も、今日まで持ち腐らせては少しの値打もない。日露交渉の中心問題は、最早やそれ等の枝葉の問題を去つて、勞農露國の正式承認の問題に推移したのである。

五

大連會議から長春會議を經て今日に至るまで、日本の對露外交は、折角握つてゐた鍵を、何時でも一囘づゝ出し後くれて居る。そして持ち腐れになつて全く値打ちを無くした上で、一つづゝ『自主的』に投り出して居る。言葉を換へて云へば、何時でもネッセシチーの『成熟』に引ずられて居るのが日本の對露外交である。

そこで今、最後に殘された唯だ一つの鍵──露國の正式承認の鍵も、ネッセシチーの『成熟』するのを待つてゐたならば……──言ひ換へれば英米佛が露國を承認するのを待つてゐたならば──最早や露國から、何等の門をも開く効果のない。錆び腐つた鍵となり、シベリア撤兵やサガレン撤兵と同じように、唯だネッセシチーに迫られて、『自主的』に投り出す外ないものとなるだらう。

これはやがて日本の外交の、第三の特徴に關聯する。いふまでもなく的傳統な英米佛の追隨外交である。日本の外交は二重

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

外交として有名である。いづくんぞ知らん、此意味に於ては日本の外交は三重四重五重の外交である。日本の外交家は、五大國の一國として、色々の國際會議のお相伴を仰せ附けられることを以つて、無上の光榮として居るようである。然し今日に至るまで日本の外交は、未だ曾て國際の形勢を指導したことがない。國際關係の局面に、活きた一目を下したことがない。そして其の機會は今、露國の承認によつて日本の前に轉ろがつて居る。

六

然しながら無産階級には、勞農露國の承認を要求する自づから別の立場がある。露國が無産階級國家である爲に、露國が勞働者と農民の國家である爲に、露國が社會主義ソヴイエット共と和國である爲に、そして露國がブルジョアジーに對する無産階級の勝利の象徴である爲に、露國の承認を要求する眞實のインテンションを持つものは、唯だ萬國の無産階級だけである。ブルジョアジーの露國承認の意圖は、多かれ少かれ形勢のネッセシチーに迫られた結果に外ならぬ。

第三次日露會議が如何なる發展を見るかは、容易に豫測することは出來ぬ。けれども假りに第三次の日露會議が、近き將來に開かれぬにしても、少くとも對露問題の中心が正式承認の問題に推移したことは、確かに無産階級の勝利である。ブルジョアジーと其の外交がネッセシチーに引づられてゆくことは、無産階級のインテンションに引づられて居ることに外ならぬ。

(五月九日)

「べし」の理由

室伏高信

日本がロシヤ政府を承認すべきかすべからざるかと問ふなら私は勿論「べきだ」と答へる。しかしそれがロシヤ「革命」を援けることとなるからだとも若くは日本に革命をもちきたす一助だも私は考へてゐるからではない。私はロシヤ承認問題にこうした効果があらうなぞとは夢にだに考へることはできない。却つてあべこべにこの承認が共産主義と世界革命とを幾分か遠くへ

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

追ひやるために一票を投ずることとなりはしないかと考へてゐるものなのである。

資本家が共產主義を恐れる。無産の民がそれを歡迎する。尙ほ雀が明を喜び梟が曉を恐れるがごとくである。資本家が共產主義を恐れるのは彼等の本能なのである。恐れるものをして恐れしめるよりほかにない。無産者でさへ共產主義を恐れるものがある位だから。

一體ソヰエト政府が共產政府であるかないかはこゝに預つておこう。假りに共產政府だとしておこう。ブルもそういふし、ボルもまたさういふてゐるのだから。だがこゝにはそんなことはどうでもいゝ。ソヰエト政府を承認してもしなくてもこの事實にかゝわりはないからである。日本が承認してもしなくてもソヰエト政府の實質が變るわけではないからである。

日本のブル、そしてその政府はソヰエト政府を恐れる。御尤な話だ。しかし承認しなくても恐怖がなくなるわけではあるまい。

承認の效果如何。それに伴ふ通商の與へる效果如何。日本が忽ち赤化するか。そうなりそうなら赤化防止團のあるあり宜しく未前に防ぐがよからう。それでも危險であつたら經綸學盟のあるあり、宜しくヨッフエを監禁して國交を絕つべきである。

近頃レニンが英國の貴族ビイバアブルック卿の機關新聞に寄りつけた論文のうちでソヰエト政府が「反革命帝國主義の西歐」と妥協するのは東洋——レニンの言葉でいふと revolutionary nationalistic East ——において既にその大多數が參加してゐる革命戰」に力を集中するためだとある。東洋の資本家たるものソヰエト政府を恐れるのは無理もないことなのだ。だがしかしそれと殆んど時を同じうして日本の「改造」にヨッフエの美辭麗句の一論文が發表されたことも忘れはしまい。ヨッフエは何といふた。最後に次のような一句のあつたことだけは忘れてはならない。曰く、たとひ國內の制度と、對外政策上に差異があつても、ソヰエト共和國と資本主義の列强との間に同盟——を作り出し、それによつて双方共に自家の本質を失はずに努力するのだと。だから騷ぐことはないのだ。西歐における妥協は東洋に於ける妥協なのだ。ソヰエト政府の右の手が歐米に、左の手が東洋に、握手を求めて差出されてゐるではないか。

ロシヤが日本に承認を求めることは、ロシヤが日本への革命宣傳を斷念したことだ。即ちソヰエト政府は日本のプロレタリヤの代りにブルヂョアとの友好關係を求めてゐるのだ。日本の革命を求めてゐるのではなくて反革命と「對等」に天長節の舞踏會に出ようとしてゐるのだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だから資本家がソヰエート政府を恐れる必要はないのだ。その政府の承認は資本家に利益にはなつても損失となるべき理由がないからである。彼等は宜しく速にソヰエト政府と友好關係に入り、砂糖でもうんど賣りつけてロシヤの無知な農民を搾取すべきだ。

ソヰエト政府が眞の人民政府でないなぞとくだらぬ三百理窟を云つたつて何んになる。世界のどこに人民の政府なんぞがあるものか。ソヰエト政府は共産黨そのものだ。徒黨の政府だ。それでもいゝぢやないか。否、それだからいゝのだ。それだから國家なのだ。それだから國際法上の人格でありうるのだ。國際法上の人格者だけがお互に承認し合ふべきだ。そして國際法上の人格者はお互に承認し合ふ「べき」なのだ。

國債破棄の宣言は嘗つて佛蘭西大革命のブルヂョア政治家がやつたことだ。その同じことをロシヤの「プロレタリヤ」外交家がやつたのだ。それも「承認」とともに消滅するであらう。

だから資本家がロシヤ承認を躊躇する必要はないのだ。そのうへにロシヤ承認とはロシヤ國家の承認ではない。ロシヤ國家はザアル時代に一度承認された國家なのだ。一度なされた國家の承認は取消されるものでないことグロシウスの言葉でいふと一つの國家はその人格を失ふことなくして革命を行ふことができるとは國際法上の原則であるからである。

ソヰエト政府は五年半に亘つてこの承認された國家における唯一の政府なのだ國際法の信奉者は正にこの政府を承認すべきである。

これを問題とする人は資本家ではなくて却つて共産主義者であるべきだ。眞正の共産主義者であるべきだ。何故なら資本主義諸國によつてのロシヤ承認はソヰエト政府の地位を政治的に鞏固にしてゆくではあらうが、この國と資本主義國との自由交通はロシヤ人民に商業主義への刺激を與へて共産主義から益々遠からしめるの危險がありうるからである。

手間の入る外交

千葉龜雄

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ラシヤを承認せぬといふ我國の意見には、大體二つの見方があるやうである。その一方の、赤化を恐れるために、全然承認してならぬといふ頑迷は、同じ頑迷でも、まだきびきびして居て好い。英米が認めてからにして。遲くないと云ふ日和見黨にいたつては、通商を先にして承認を其後にするとか。もつと進んで通商の爲めに、承認を贊成するとかいふ條件附き承認論者と共に、弱志と、無定見と、我利一點張において同一平行線にある。勿論外交といふものは、歪んだ戰鬪線であるかも知れない、少なくとも、我等が過去からの外交といふ語彙からうけとる感じは、雙方のだまし合ひ、ぺてんの競爭、僞善、僞惡、心にもない威嚇と讓步、それらを集めた字典そのものであつた。少くとも歐米の歷史がでつち上げた過去の外交史は、それでなければ收まりがつかないものであつた。外交に後進國である日本、またとかく英米の後足ばかりを拜んで居る日本が、金科玉條として、この外交の法典をその儘そつくり應用して來たのは元より必然な宿命であつた。歐米との交渉は、だから、まだ狐と狸の化け合ひでもよい。何程か十九世紀外交史の感化をぬけ切らない乍らも、それにしても西歐や米國よりはもつと卒直に、露骨に出かけて來たラシアに對しても、同じ戰法で對戰してよいものかどうか。少くとも長春會議はどう贔負目に考へて見ても、我國の立場に、十九世紀外交史の臭味があまりに濃くつきまとつて居る。いやにこせこせして、島國根性で、官僚的で、門戶開放的なものがこれほども無い、不愉快だ。七千萬國民の利福にかゝる問題だ、そう話のやうに卒直には行かぬと言ひ譯する勿れ。七千萬國民の利福にかゝる問題だからこそ、猶ほざつくばらんなものは、出來るだけざつくばらんに話をつけたらどうか。露國承認で國際列國のイニシアチイヴを採る前に、何故十九世紀外交史破壞の記錄で、優先權を採ることを考へぬものであるか。……といふのだ。

氣短かな現代の我等はもうそんな手間の入る外交といふものには飽き果てた。掛け引きの陳列場は飽きるほど見飽きた、そして裸一貫の我等の、この問題に對する答案は、だから極めて簡單だ。卒直だ。曰く卽時に露國を承認せよと云ふのだ。お互の正義と權利を傷害しないことの外は、凡て無條件で承認せよといふのだ。それは兩國の通商が出來て、殊に日本の資本家がうようよと利權獲得にあせり、資本家の富有をますます膨大するといふ樣な利益などは勿論目算に入れてはならない。またラシアが支那と同じく、土地が接觸して居るから、利益が痛切に來るからといふ直接の理由からでもない、そこでは總ての功利觀念を度外において、すべての國、すべての國民が、人類として握手

するのが現代人類生活の必然だからだ。當然だからだ。日本はよく英米が、英米がと追ひすがるが、英米が、何だ。自分の損になる時分に、他國の爲に、英米が、いつ火中から栗を拾つて吳れた例があるか。何故なら彼等の外交の不文律は、人類福利の外交ではなく、自利專門ばかりの外交だからだ。そんなものの風向きばかり氣にして居た日には、いつまでたつても世界人類の握手が出來ない許りでなく、人類生活の利福にますます枉げ歪められて行く。そして立おくればかりして居る日本などには、何一つ徳になることはない。

サガレン撤兵が、また尼港賠償が何故日本側の問題として、そうこだわらねばならぬのか。何か知ら一つこねて見るのが既存外交の常法ではあるらしいが、あれは二つとも頭から少しも理窟にならぬのではないか。ならぬ處か、横車を押すものではないか。強いて既往條約の破棄反對や、債務履行の主張も、太だしい無理においてそれと似たり寄つたりだ。北樺太の買却問題に至つては、承認することの前にはどうとも解決のつくことで、これまた議論とするに足りないほどの些事だ。

たとへラシア承認について、政友會などでも公言し、また多數の人々の胸に秘められて居る心配は、例の共産主義の宣傳であらう。政府側の承認躊躇を示數して居るのも、またよほど此點にあるらしい。これに對して後藤子は、第一に勞農政府が、新經濟政策の轉換によつて資本主義に退歩したといふ事、第二に日本國民が、共産主義から免疫性であるといふ事をもつて、凡ての心配を緩和しやうとし、またそれを公言して居るが、後藤子や其他の人々は、果して心からその公言を信仰して居るのであらうか。それを一時の便宜でなく、心からそう信じて居るとすれば、彼等は果してラシアの現狀と、レエニン政府とレエニンの主義信仰とを、正當に解釋して居るものと言へるであらうか。前者の觀察の間違つて居ることは、第三インタナショナルやレエニンが、病氣快服後の一九二二年初めの、演説によつても一件は理解されるであらう。後者にいたつては、誰よりも日本の内務省と警視廳が、一番よく正しい事實に當面して居る筈だ。だから少くとも自分は、ラシアの現狀を、一般ブルジョア資本國家の退却したものとして、それだから承認してよいなどと考へる者ではない。たとへラシヤが革命後いろいろな施政の困難から、いろいろなタクチックスは自由に應用した、またするにしても、勞農政府とレエニンの信仰する主義と信念と根本的態度は、決して退轉するものではないと私は見る。だからラシアを承認したために、共産主義思想は、我國に當然入つて來る。共産主義の我國に於ける意義については、ここに議論する自由を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

持たないが、共産主義の入る自由は、ラシアを承認すると承認しないに拘はらない。現に承認しないどこの國にも入つて居る。それは凡ての思潮と同じことで、水が物理學上の法則で、低地ならどこでも浸潤するやうに、共産主義の培床の素地のある處なら共産主義だつて何だつて自由に入つて來る。それは共産主義宣傳の努力の爲でも何でも無い。思想の必然性に反應するだけの事だ。だからどうせ入つて來るものならば、正面からぶつかつて行くのが一番よい、無理解な警察力などで、いやにこせこせと防彌することなどは、民衆の心を却つて無益に興奮し荒立てるばかりで何等防止する足しにはならない。第一共産主義がそれほどいやならば、その培床になる樣な社會組織を作つて置かぬのが先決の問題だ。充分培床をつくつて置いて、思潮の浸潤だけを御免蒙むらうなどは餘りと云へば虫が好い沙汰だ。日本はどうか。少くとも政府當局や一部日本主義論者の考へでは日本國民は忠君愛國で、國家主義の教育がよく行きわたつて、傳統の日本魂があつて、決して海外蠻夷の惡思想などに傳染しない日本文明を固執して居るさうだ。そしてその階級制度と社會組織は非常に健全で平等で……ある相だ。それならどんな千百の共産主義がたとへ束になつて來たところが少しもびくつくべき譯はない筈だ。それなら露國承認の即時決定は、猶ほ少しも議論がない話だ。

二つの勞農ロシア承認運動

野坂鐵

□

ソビエット、ロシアを承認したからと云つて、「勞働者上り」の無作法者の大使を提きあたりに伺候させたり、百姓踊りより知らぬ醜男大使を天長節の夜會に招待したり、或は、外交辭令によつて、ソビエット、ロシアの功績を賞揚せねばならぬ、といふものでは決してない。そんなことをされては、反つて先方の迷惑だ。勞働大使は、おそらく、燕尾服の着方も知らなければ、ロシア共産黨の勳章以外に金ピカの勳章の持ち合せもある

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

まい。また、いかに外交辭令とは云ひながら、現在勞働者の生き血を搾り取つてゐる資本家政府から、カラお世辭を賜つたところで、それは反つて有りがた迷惑といふものだ。

で、要するに、ロシア承認といふことは、ロシアと實質的關係を結ぶことだ。シベリアや樺太などに、挨拶なしで、ドンドン兵隊を送らぬことだ。そして、何より一番に大切なことは、現在のソビエット政府を、全露國民の正當な代表者と認めることだ。この基礎條件さへ承認すれば、その他のことは大した問題ではない。

□

しかし、莫大な犧牲を拂つたシベリア出兵が見苦しい失敗に終つた上に、更にその憎みても餘りある勞働者政府を承認するとは、どう考へても我慢ができぬ。しかも、承認の背後には、常に赤旗の妖怪がつきまとつてゐるのだ。承認などは以ての外だ。……これが、日本政府の腹の中だ。

だが、今日の形勢は、齒ぎしりして悔し涙を流してゐるだけでは濟まなくなつた。日本の殖民地のやうに考へてゐたシベリアは勿論、浦潮までも呪ふべき赤軍の手に歸し、その手は更に北樺太にまで延びやうとしてゐる。この一事は、日本の資本家に取つては、最大の打撃だ。おまけに、世界の資本家國家は、武力侵略の失敗を夙に自覺して、經濟的搾取――利權獲得――の政策をたてた。商敵アメリカの資本家は既に日本をだしぬいて樺太やシベリアの利權をつかむだ。頑迷の點では、決して日本に劣らぬフランスまでが、去年の秋から、コソ〱と内證話を始め出した。そして、口の惡いチチエリンは『日本は侵略の先陣をつとめた上に撤退の殿軍(しんがり)までつとめてゐる』などと、嘲笑を始めた。

それはかりではない、日本の對露戰線は、内部から崩れ始めた。横濱のアントノフの宿屋へは、利に敏い多數の政商、私商が密に日參する。三井がシベリアの森林と鑛山の利權を獲たとか、鈴木商店が砂糖押し賣りの契約を結むだとか、流言は兜町と内幸町を盛に飛來する。

かうした、内外の形勢を素早く觀て取り、不景氣のドン底に沈淪してゐる商工業者の利益のために、潔く東京市長の椅子を投げ出し、そして、日露の出雲の神様にならうとしてゐる、幸運兒が、即ち後藤新平だ。

□

ところが、同じく通商と承認とを要求しながら、後藤一派とは全く異つた動機と理由とを有してゐるのは、日本の勞働者だ。彼等は昨年も本年も『勞農ロシア承認』をメーデーの標語

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れ運むだ。(但し、官憲の××によつて撤回はしたが。)しかし、彼等は、これによつて日本の産業が回復し、國富が增すことを望むだのではない。また、これによつて景氣が持ちなほし、失業が減じ、勞銀も騰つて、生活が少し樂になる。といふやうなケチな考へから、この要求を掲げたのでもない。

パレスチンが基督教徒の聖地である如く、今や×××は世界の勞働者階級の××となつた。この××の空に輝く××の星に向つて、全勞働者階級は、光明と希望と、生命とを認めてゐる。この星の明滅は、直に彼等の希望の明滅だ。

言ひ換れば、ソビエット・ロシアは、全世界の勞働者階級解放運動の中心だ。いかに世界の資本家が誹謗し、いかに無政府主義者がケチをつけやうとも、ロシアの勞働者階級が完全に政權を掌握し、そして、コムミュニズムの理想に向つて、一步踏み出してゐる、といふ事實を否定することはできまい。而してこの事實から、更に、今後の世界の××運動が、ロシアを中心として發展するといふ事實が生れることを、否定することもできない。從てまた、同國の經濟上、政治上の興廢が、世界の××運動の興廢に直接の影響があることも、否むことのできぬ事實だ。

ロシアが、經濟上、政治上の勢力を强大にすることは、世界の××運動を促進させることだ。日本の勞働者が、ロシアの承認を要求する所以も、亦玆にあるのだ。

□

二つの相反した立場から、ロシア承認の運動が起つてゐる。後藤新平一味の運動は、日本の資本主義を救はむがためでありロシアがソビエット權力を等閑にすることは、最も恐るゝところである。これとは反對に、日本の勞働者はロシアの强大と資本主義崩壞の促進を目的としてロシア承認を叫むでゐる。そして、警視廳が後藤の運動を保護して、勞働者の運動を××してゐる理由は、玆にある。

が、その動機と目的は違つてもいゝ。要するにロシアが承認されて、同國が國力を增してくれゝばいゝのだ。さうすれば、資本家の御用を勤めてゐると確信してゐる後藤も、結局自己の階級自身の墓穴を掘るに急いでゐることになるのだ。これが、資本家階級の逃れることの出來ぬヂレンマだ。自己を生さむがために行ふところのあらゆる行動が、結局は自己を亡すことになるのだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

露西亞を即刻無條件にて承認せよ

中野正剛

自分は對露政策に就ては、言ひ古して新に呶々すべき必要すら認めない。今露西亞承認問題に就き世間の疑問となつて居る點及び最必要と思ふ點を條陳して、讀者をして一目瞭然たらしめたい。

一、國際信義は相見互ひ

對露交渉は國際人道の眞髓に徹底して、日露兩國の利害を合理的に實質的に按配するがよい。區々たる法理論の末に囚はるるは、官僚者流の短見である。

露西亞が『國際信義』を重んじないとか、『國債』を承認しないとか、『國際條約』を破棄したとか、此等を材料に不承認の理由を並べるは、條理の表面を上辷りした議論で、條理の眞髓には徹底して居ない。由來革命家は純理を以て因緣情實を破らうとする者である。歐米列國の露西亞に對する『國際信義』『國債』『國際條約』それが革命露西亞から見て何であるか。借金を取らうと云ふなら、露西亞の內政に武力干渉して失敗したその賠償はどうしてくれると擲ち返したチチエリンの主張は正義である。列國及び日本が革命露西亞に對して行つた脅迫は夫れ自身不條理である。不條理を盡して置いて、自分の方から見た信義のみを露西亞に强いるのは無理だ。法理論をコネ廻しても列國は露西亞に勝てない立場に居る。そこで大局から見たる因緣ぬきの人道と實利から對露方針は決定せねばならぬ。

二、承認は前提通商は副產物

對露問題は現今の交戰狀態を取り除くとが第一步で、正式承認が第二步で、通商問題、利權問題の解決は第三、第四步である。

露西亞の領土に兵を入れて置き、其の國家をも承認せずして、通商や利權を云々するは、町人根性の淺間しさを暴露して遺漏なしと云ふべきだ。物欲しさうな通商論は却つて足元が見えて可笑しいばかりだ。我々の露西亞承認は日露親善に出發する極東平和政策の最初のページである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

三、日露親交は國際政策の基調

日露の親交は對支、對米、對英關係を有利に展開すべき我國際政策の基調である。

日露親交すれば、日本の極東に於けるプレスチージは恢復せらるゝ。乃ち支那は日本の親交すべく畏敬すべきを感じ、必然的に親日政治家の力を增すべきである。日露支三國の親善は英米に對する叛逆の前提ではなくて、英米をして日本を畏敬せしめ、信頼せしむる前提である。

四、奴隷主義より友情主義へ

日露親善は强國に追隨する奴隷主義の外交方針を脱却して、列國と對等の友情を開拓するの外基礎を定むる所以である。

日本は英米に追隨して、その殘肴餘瀝を頂戴するを以て傳統的政策として來た。併し英米は斯の如き日本に殘肴餘瀝を與ふるの必要すらも認めなくなつた。今度は英米に先んじて露西亞を承認し、自力を養ひ、自ら助くるの方針を決して、英米と對等の友義を結ぶ外に我國の活路はない。

五、尼港賠償費は一文も取れぬ

尼港事件の賠償費は到底取り得られない。政府が力んでも政友會が虚勢を張つても、到底ものにならないとを豫言して置く。

故なくして他の領土に暴れ込み、故なくして赤軍を襲撃し、故なくして我居留民を武裝し、斯くして×××みたる戰に敗れて後、何の賠償の要求ぞや。尼港事件は我軍が先方の賴みも受けずして自ら治安の責に任じ、其の警備區域内にて出來したる慘劇である。日本人と同時に殺害せられたる白露の遺族など、日本軍に賠償費を要求すべきである。吾人は尼港問題につき露西亞人に愧らずして、我が當局者に愧ると甚し。

六、撤兵は無條件

サガレンより即時無條件に撤兵し、即時無條件に露西亞を承認し然る後諸種の談判を進むべし、承認せられたる露西亞にして不法を逞しうせば、我も亦之に對して相當の手段を取るを得

撤兵と承認とは無條件にして急速なるを要す。

七、當局者は方針の煩悶者

我當局者は

イ、英米に追隨せんが爲

ロ、自己の面目を維持せんが爲

承認に反對し、種々の理由は後から附會するに過ぎぬ。英米の雰圍氣的壓迫が恐ろしいか、日本國の活路が大事であるか。又當局者の面目が重いか、國民の要求が强いか。之は國民の自覺と努力とによりて決定する。當局者は此問題を解決するに就て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

多くの無能力者也

八、政友會と憲政會と後藤新平

政友會と憲政會とは内政上の自己の政權慾を基準とし、總ての國民の利害を第二次に考へる。

政友會内閣はサガレンの保障占領といふ馬鹿な芝居の張本人である。前非を悔いても居やうが、其の失敗を暴露しては投票の數が減ずるので困る次第だ。

憲政會は『我が英國』の本家である上に後藤新平と云ふ新たに蹶起した政治家が、加藤高明君の爲に、内閣取りの競爭者と目せられて居る。此の後藤に成功させては、天下の爲にはなるかも知れぬが、憲政會の爲にならぬと謂ふのである。

後藤新平君が口舌の折衝を以て、無方針の現内閣及び我利我利の政友會を屈服せしめ、其の理想の如き日露政策を遂行せしめ得べしと思はゞそれは餘りに好人物に過ぐ。後藤は國民と共に此大政策を提げ、公平無私に命がけにて努力すべし。政府も政友會も憲政會も遂に國民的大潮流に押し流され、天下は求めずして此の國策の中心たる對露政策を實行する者の手に落ちん。

高利貸の態度で

黒田禮二

承認は勿論贊成だ。（一つ日本の資本家の代辯になつて筆を執らう。）すると承認は贊成だ。いや承認は必要だし、又必ずしなくては成らぬ。今回の交渉は此の稿の締切りまでにまだ何等の眼鼻も附いて居ない樣である。今迄の政府の態度と勞農側の強硬な氣息とを綜合すれば後藤氏の交渉は不成立に了はるやうにも考へられるし、又今夕の夕刊では漁業問題も莫斯科政府の回訓に依つて出漁が遲滯なく出來る樣になつたと言ふのであるから、これが全交渉の基礎となり、延いて先行きは案外光明の方面に霽れ行くかも知れぬ。

我政府の態度では勞農露西亞をツアール帝國の延長と見る以上、其の政府を交渉の對手國として信用するに足る國際信義の保證的態度を必要とすると言ふ七ケ條を呈出し、又勞農側では

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

平等待遇と法律上事實上の普通通商條約を承認すること及び薩哈嗹撤兵の明示をなすべしとの三個條を掲げて之れに應じて居る。此の際我が政府の今回の遣り口は以前のゼノア會議に西歐諸國がチチエリンに提示したと同樣の轍を蹈んで以て對露政策の基礎として居る樣だ。ゼノア會議では(一)聯合國が勞農政府に財政的援助を與ふること、(二)戰時債務の免除及び總ての債務の利子減額、(三)戰前債務の承認及び外國人沒收財產に對する舊所有者の優先權等の條件であるが、今回の我政府の立ち場も直譯の樣に此のゼノア會議の聯合國の立場ぞの儘をプリンシプリに於て繰り返へして居るに過ぎない。それでゼノアに於て問題に決着が附かないで濟んだものを又今度其の儘に繰り返すのは會議を成立せしめる上に於て既に無意義である。あの時通りのプリンシプルをあの通りに繰り返へすならば初めから會議はしない方が賢こい。その上に抽象的な國際信義云々を口にするが如きは三百代言の寢言に似て幼稚極まる。實際事實上の國際信義が基礎になつて居ればこそ大連會議や長春會議の打合せも已にやつて見たではないか。その保證の一番の證據となつて居るものは新經濟政策の實施と其の成績の優良な點である。露國は今日麵麭の飢饉時代を通過して資本の飢饉時代に到達して居る。從て露西亞は將來日露通商條約が開かれた曉に於ける我國の將來のお得意樣である。少し位制の合はぬ條約を結んで置いた處と假定しても結局資本主義の競爭なら我國に六分の强味がある。其の邊の事情を鑑みずして徒に三百代言的言辭にこだわるのは極めて不味い。此の際、ゼノア會議等で物にならなかつた聯合國の轍を蹈まずして一步更に突込んだ處に今度の日露交渉の本質がなければならぬ。聯合國よりも特種の關係に立ち且つ債權の如きも百八十億中僅かに二三億しか持つて居ない隣接國たる日本としての、特別な立場がなければならぬ。此の特種な有利の地位を利用し、即ち他の列國の承認し能はざるに我國のみなし能ふ有利な地位を利用し、西歐諸國の形式的模倣を離れて普通々商貿易條約を結ぶことは我國資本家政府の得るとも失ふ所なき明かな事實であらう。北樺太の撤兵の如きもこれが本條約の前提條件となるならば撤兵の時期を明示したら宜いではないか。その例はツアール時代の北滿洲に於ても、青嶋に於ても澤山存在して居る。他國の領土に必要あつて兵隊を入れて居る場合、その不必要に應じて撤兵を言明するが如きは決して卑怯でないのみかさうしないのが却つて國際信義に缺けて居る　國際信義の點に於ては日本でも西歐聯合諸國でも大きな顏をして麗々しく陳べ立てる資格はない。

露西亞を承認すればソヰエトの赤化宣傳が日本に波及しやし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ないかと怖れるものがある。恰も開港攘夷の時代に開港すれば日本が夷國の爲めに蹂躙せられ頭から鹽を附けて喰はれることを怖れたと同様の恐怖病に過ぎない。何處の國でも其の國の國是がある。ソヰエトは依然として其の理想を實行するであらう。亞米利加はその共和國たるリベラリズムを以て世界を統一すべきものだと信じて居るであらう。日本の資本家政府も亦我國の精華を中外に發揚しあわよくば大亞細亞を打つて一丸としやうと考へて居るであらう。そんな事はお互ひに口に出さないでにこ／＼として、知らん顔をして居るのが當世の外交ぢやないか。大國ならそんな馬鹿氣たことを勿體らしく口に出さんこと出さんこと。

又實際問題としてもソヰエト側は日本を潰す様な宣傳をする譯がない。日本を潰す爲めなら通商條約は要らん筈だ。潰ぶさないで金が欲しいから條約を申込んで來たのだ。貧乏人に高利貸の悪口を言ふ。高利貸なんか叩き殺しちまへといきまく。然し金を借りる段になれば腹は立ち乍らも高利貸の存在が必要だ。かげでどんなことを言つて居やうがそんなことに拘泥して居ては高利貸の商賣は出來ん。其の邊の機微に明るい筈の資本家政府としてそんなことを表看板に出すと金借りはなくなるだらう。お得意様の機嫌を取る呼吸の分らぬ我が資本主義帝國の外交は圖體ほどもなくお腦味噌が足りぬ。まだ嘴は黄色い！

露國承認問題

鈴木文治

ヨツフエ氏來朝以來數ケ月、此間後藤新平氏との間に、非公式に種々の交渉が運ばれつゝある有様であるが、其今日に於て何露國との通商は即時之を開始するも可なり、然れども承認は直ちに之をなすべからずと主張するものが案外多いやうに見受けるのみならず。政府の態度も亦何れとも決定を見ないのは、何たる事ぞと言はざるを得ない。

思ふに、通商論の依つて起る所以は、露國の狀態を顧慮してといふよりは、日本の景氣挽回策に出づるものである。何とな

れば、日露の國際關係の不定は、我民間の事業家をして非常な困惑に陷れて居る。當面の漁業問題の如きは固より、森林業其他各般事業に亘りて少からぬ損失を蒙むつて居る。從つて此損失を取返すの急務なるのみならず、露國の現在需要しつゝある物資を日本の手に供給し、以て二三年來の不景氣を一息拔かうといふのである。そこで當業者は躍起となつて、一日も早く國交の恢復を計り財産利益の保障を得んとしつゝある。

通商開始の問題は、要するにかゝる消息の裡に提起されたものであるが、併し夫れは獨り我國のブルヂョアを利益のためのみならず、プロレタリアも亦、經濟的利害の立場から、熱心に之を希望して居るのである。何となればこれによりて幾分にても失業の苦痛を緩和し得んと思へばである。

併し乍ら之を露國側より觀る時は如何。物資の缺乏は明瞭なる事實である。從つて通商の開始を希ふの熱情に於ては變りはない。けれども、單なる通商の開始は、果して彼等の滿足する所であらうか。曰く、否。彼等は通商の開始のみを以ては、決して滿足せず、その前提として、是非共露國そのものゝ承認を要求して居る。此問題を除外しては、彼等は恐らく通商の開始を好まないであらう。蓋し單純なる通商の開始は(一)露國の利權の保障が不確實なること(二)劣等國視さるゝ嫌ひあること等を懸念しつゝあるものゝ如くであるからである。これは露國としては、一應尤もの懸念であると思ふ。

我國のブルヂョア政治家の露國に關する論調を伺ふにいづれも露國が國際信義を重んずることを條件として之を承認すべしといふやうなことを唱へて居る。思ふにこれは、舊外債の後始末や、尼港事件に關する露國の態度に就て云爲するのであらう。併しこれ等の問題について押問答を繰返して居ては、結局國交の恢復は當分のところ空望に歸するの外はあるまい。

察するに、我國のブルヂョア政治家が、露國承認難の理由は、單に右の原因に基づくのみならず、寧ろ更に奥深き所にある。夫れは即ち彼等の所謂過激思想──共産主義思想──の宣傳侵入を恐ることこれである。畢竟これあるために、わざ／＼西比利亞に出兵までした。併し結果は何物も得られなかつた。けれども我日本にかういふ危險思想に入り込まれては大變である。そこで先づ通商丈けを開始して、利益の取れる丈けのものは取り、承認は後廻しとし、世界の列國が、大抵よからうといふ時に、同時に之をやらうといふ腹なのである。

併し乍ら、これではあまりに相手を踏みつけた仕打ちであつて露國の立場に於て不滿を唱へるのは無理もない話である。早い話が結婚もし同棲もし、妻としてのなすべき丈けのことは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

盡してゐるがいつまでも內緣の妻で、戸籍の問題はそのまゝ放任して置くといふやり方である。これでは露國たるもの納まらう道理はない。

一體、共產主義であらうが、何であらうが、他國の內政の問題に立ち入つて干涉すべきいはれはない。たゞ國家を統一するの實が擧り、中心勢力の所在が明白になつたならば、當之を認めて、これと交通すべきである。露國は革命以來既に七年、勞農政府の基礎は牢乎として拔くべくもない。然らば即ちこれと握手し、交通するの道を取るは當然である。最近數年間不幸にして日露の間には種々の問題を發生したが、これ等の問題は、露國承認の腹を決めた上相互い誠意を披瀝して解決すべきで、又必ず解決の途ありと信ずる。これを條件として承認問題に入るべきではない。

又共產主義思想の侵入を恐るゝが如きも愚の至りである。今や此思想は世界的に瀰漫しつゝある。露國の承認をしないからといつてこれを防ぐべき途はない。これは要するに國民の胃の腑の問題である。胃の腑が健全ならば、如何なる思想と雖も恐るゝところはない。又顧みて、此思想の侵入を恐るゝ理由あらばこれは自ら改めねばならない。

無產者の立場よりすれば、露國承認の問題の如きは、全く問題ではない。問題とするのは、ブルジョアの立場よりのみである。通商は開きたし、過激主義は恐ろしいし、丸で、ふぐは喰ひたし生命は惜しゝといふ有樣である。世の中はさうこつちの都合のいゝ事ばかりはないのであるから、大抵のところで決心したらよかららうと思ふ。些々たる感情や、行がゝりを捨てゝ此際一日も早く潔く握手するの途を講ずることに、日露兩國の將來に鑑みて永久の幸福をもたらす所以である。徒らに列國の鼻息を伺うて、逡巡躊躇するは、正に國家百年の大計を過るものである。

異つた立場で

有島武郎

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

露西亞承認は當然のことであると思はれる。

然し乍ら現在唱へられてゐる承認の問題は政治的テクニックで徹底した考へ方とは思はれない。我が國の比較的目先きの見える政治家が政治的に承認すると云ふに過ぎない。而してそれは露國と我國政治家間との交渉で一時の利害を根本とする策略から出た人氣取りとも云ふべきで敢て重きを置くことでない。

露國を承認するに於いて吾等が興味あり且つ聞かんと欲することは、その國の國内に於ける施設經營を了解し、其の國是と我が國の國是とが相許容し得る所にあるのである。即ち、新經濟政策の露國と我が國是が如何なる角度の推移を以つて相許し認むることが出來るかと云ふことでなければならない。

然るに現在の問題は或る政治家が、――最も平易に云ふと、自個の地盤を扶殖する爲めに、するものと思はれるのである。

然らば何故に左うせねばならぬか、それは國内の社會狀態が自然左うせざるを得ないやうになつたのである。

要するに、露國承認の問題は、或る政治家の一時の政治的策略より出たるものでない、國是と國是との間の根本的問題でなくてはならない。

ロシア承認につき

布施勝治

一

ヨッフェ氏は日本へ來てから最初の二月間程氣の毒な程不運勝ちであつた。病氣は益々重くなるばかりである上に、周圍の政治的形勢はたゞ日を逐うて益々ヨッフェ氏のために不利となつて行くばかりであつた。病氣は癒るのか、不治なのか。形勢はいつ展開するか、或はもう行詰つて了つたのではないか。何しろ外交官にとつて何より大切な暗號電報の使用が出來なくては手の出しやうもない。さるにしても熱海ホテルの一室へ入つたきり、一歩も外へ出ずに八十餘日間ブッ通しで、肉體的と心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

的の煩悶苦惱と戰つたヨッフエ氏の隱忍力、辛抱力は驚ろくべきでないか。四十度の熱に襲はれながらも外交をすてない、政治を忘れぬ。どこまでも「乃公は勞農政府の極東全權ぞ」で押し通して了つた。「改造」誌の前號にのつたヨッフエ氏の「新舊經濟政策論」の一篇は恰かも發熱當時の作であつた。當時の病狀をよく知り、且つその原文を再讀三讀した僕等にとつては何うしてあれほどの大病人が、かやうな大作をつくり得たのかと驚くの他はない。ヨッフエ氏は不思議な辛抱力の持主である。しかしいかに多年の試練で鍛えあげた革命家だとは云へ、何のあてもなしに、たゞ步一步と暗の中へめいり込むやうな境涯にあつては、とてもあれだけの辛抱力は發揮出來ぬ筈だ。

何か肚の底に深く期する所があつてこそ、此の一念を仕遂げぬ間はどうあつても、再びモスクワへは歸らぬ、と云ふ決心がつく。病氣が無くならうが、形勢が如何に險惡とならうが、頑として動かぬ、いつまでもこゝに踏み止まつて死すともやまない……と云ふ大決心がついてこそ、あのやうな驚ろくべき辛抱力が發揮される譯である。然らばヨッフエ氏の肚の底の一物とは何である。

二

ヨッフエ氏の極東に特派されたのは日本及び支那との協商締結のためであることは云ふまでもない。しかし已に幾多の條約締結の局に當り、講和メーカーとさへ稱せられるに至つたヨッフエ氏にとつては、單に日本もしくは支那の協商を締結すると云ふことだけでは、さうたいしたことではない筈である。あのやうな重い病氣をおしてまでもやりとげねばならぬと云ふ種のことでない筈である。ところが支那との協商は別として、日本との條約—但しヨッフエ氏の切言してやまない「完全なる條約」の締結はこの際勞農政府にとつて重大なる世界的意義をもつて居る。恐らくは勞農外交はこれによつて、今日の行詰りの窮地を脫することが出來るであらう。否な、資本主義の世界をしてつひに腰を折らしめたとして凱歌を奏するかも知れぬ。少くともヨッフエ氏にして日露條約の締結に成功すれば當然再び勞農外交の第一人者となるは疑を容れない。然らば何が故に日露條約の締結はしかく重大なる意義をもつか。ヨッフエ氏にとつて何の故にさやうな大手柄となるのであるか。

三

從來勞農政府に相互對等の條約を結んだ國、換言すれば同政府を正式に承認した國は獨逸、土耳古、波斯、芬蘭、波蘭、ア

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

フガニスタン、ラトウイア、リスアニア、エストニア等、やがて十ケ國に達せんとして居る。しかしその中に協商列强はまだ一國も入つて居らぬ。今の所戰敗國もしくは小國だけしか、勞農政府を承認して居らぬ。これではレーニン等が「世界革命」の標語に代へて出した「社會主義國と資本主義」との共存てふ新標語を實現することが出來ぬ。先年英伊兩國と締結した「承認ぬき」の通商條約ぐらいでは、列國の經濟封鎖を徹底的に破壞するに足らぬ。ヨッフェ氏の切論する「國際コンプロミッス」を形成するにはまだ足らぬ。

ゼノア會議に於ける勞農外交の大方針は先づ列國をして聯合的に勞農政府を承認せしめることに努力する。而してそれがうまく行かぬは個々の國に向つて承認問題をもちかけ、旁々列强の協調を破つてやらうと云ふのであつた。然るに會議の結果は兩策共に失敗に了つた。

西歐列强に對する凡べての承認運動が悉く失敗に終つた揚句、勞農政府は眼を極東に轉じた。先づこの方面からして、國際聯盟の一角を崩してやらう、西歐に於ける失敗を極東に於てとり返へそう…と云ふことになつてつひにヨッフェ氏の極東出馬となつたのである。

四

日本と「完全なる條約を締結」すると云ふことは畢竟日本をして勞農政府を正式に承認せしめることになる。而して今日日本をして勞農政府を承認せしめることは、第一に從來あくまで勞農政府承認を忌避して已まなかつた協商列强の協調を破り、國際聯盟に一大龜裂を生ぜしめることゝなる。更らに第二には「資本主義の世界とサウエート世界との共存妥協」の新方針實現の第一歩となる譯であつて、事は決して極東だけの利害に止まらずやがては歐米列强の對露政策に對して一大衝動を與へねば已まない。ヨッフェ氏に託されたる對日交渉の使命はこの點から觀て非常の重大事である。ヨッフェ氏が非常の決心を定め、驚ろくべき辛抱力を出して、あくまでも仕遂げやうとする肚裏の秘事はまさにこの點でなくてはならぬ。この一事の遂行のためには自分の身命も惜しまぬ。場合によつては日本に對して相當の讓歩をしてもかまわぬであらう。後藤子とヨッフェ氏との間に日本をして勞農政府を承認させてやらう。その代りサガレンを賣り渡しませう…と云つたやうなアンダースタンヂングが成立したとか、しないとか云ふ說の當否は別として、お互に數寄者ながら、脉をとることには妙を得て居る。兩者のことゝ肚

の底の一番奥に何物が秘めてあるか、そこには「承認」がある、「サガレン」がある……とはつきり手ごたへがあつたに相違がない。已にして對手の目的の眼目がそれとわかつたら、それをさへ餌にすれば何でも釣れるであらう。先方でも眼目さへ仕遂げられるとすれば、他の點で如何なる讓歩をしても結局償ひがつくであらう。さうとわかつたら、外交はやりよくなつて來る。後藤子が方々の會合でヨッフェ氏招待の辯明演說をやる都度、「卒先勞農政府承認說」を切論することを決して忘れない……と同時にヨッフェ氏の方でも、後藤子の云ふことなれば何でも聞いてやる。後藤子の顏をたてるためには勞農政府の外交方針を枉げても、漁業者査證の一件をまたゝく間に解決する……と云ふ兩者態度の對照を考へて見るとたんく\興味が湧いて來る。

五

今日の日本として、勞農政府を承認することはよいことか、惡いことか。よいとした場合、果して實際に於て行ひ得られるか何うか先づ主義上から事の是非を研究し更らに實際問題として考察するが物の順序である。

然し主義上に異つた國柄の勞農露國を承認することはよいか惡いことかなど云ふ問題はもう近頃では口にするすら阿房らしい氣がする。そんな窮屈な了簡で、何うして紆餘曲折の多い國際場裏に立つて行けるか。主義上の敵は之れを打ち倒して了ふが何よりである。もしそれを打ち倒ふす力がないならばそれと何とか折合つて行く外はあるまい。已に君主國と共和國とが協商し、更らに同盟を結ぶことさへあるのに勞農政府を承認することに何の不都合がある。しかし近頃ではもうどこの國でも、主義上の見地からして勞農政府承認に反對する人は殆んどない。あつても彼等はあまりに微力である。たゞ困つたことには、承認はよいことであるとしても、愈々之れを實際に於て行はると云ふ段になると事は中々簡單には運ばぬ。

そこには種々の障害がある。ヨッフェ氏の言にもある通り露國の革命は從來の各國の革命と異つて、はるかに深刻を極め、內政上のみならず、國際關係をも顚覆した。第一、ツアール時代の全國債を廢棄した。第二革命前の國際條約一切を反古にした——ことなどが勞農政府承認上の最大障害となつて居る。

但しもし日本と露西亞丈けの干與であれば何うでも解決がつく。第一舊來の日露間の條約と云つても、直接の利害に關するは漁業條約位のものであるが、之れにて利權の貸借は元來勞農政府の外債吸收策の一ッであつて見れば格別の意義のあらう筈

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はない。現に已に一般條約の締結に先だつて何うやら始末がついたらしいではないか。而して今一ッの外債問題も日本に對してけ僅か三四億の債務に過ぎない、我が西伯利出兵費の半額にも足らぬ。たとひかりに勞農政府が日本に對する債務を承認したとても、之れが償却は決してさう難事ではなからう。いかに財政が窮乏しても、富源の無盡藏なる露國は何等かの辨償法を發見するであらう。然し露國に對して債權をもつ國はひとり日本のみでなく、英佛米その他幾多の强國も亦對露債權國である。日本にして勞農政府に對し、對日外債の帳消しを承諾すれば、英佛その他の債權國が迷惑する。日本はゼノアに於ける對露協調に背いたとして攻擊されるかも知れぬ。もし露國にして對日外債を認めんか、その結果當然英佛その他に對する債務をも認めねばならぬことになる。二億の對日債務を認めることは同時に二百億に近い他の列强に對する債務全部を認めることになる。

列國に先んじて勞農政府を承認する國はこの點に大なる責任を負はねばならぬ。しかし率先して承認する所に意義があるのであつて、列國に先手を打たれたあとで、それに追隨しての承認では何の役にも立たぬ。さやうな手後れの承認では何物も釣ることが出來まい。結局サガレンを買ひとらふなどゝ云つて越中褌は向ふから外れて來るだらう。

然し今日の日本政府に向つて列國に先んじてかやうな國際的大事を決行せよと求めるのは果して妥當であらうか、少しく無理過ぎる要求ではあるまいか。

六

その邊のことはヨッフェ氏とてもわからぬ筈はない。同氏最近の談話中にも、格別仰山な承認の宣言などを發表する必要はない。新たに締結される條現の中に承認に關する特殊の條項も必要としない。たゞ外交及領事關係の復興に關する規定だけでよいと說明して居る。なるべく形式上の承認を避けて、實質上の承認を得んことにつとめ、承認そのものをなるべく簡單に手輕くやつてのけやうとする。そして恰かも、日本が承認手續の不便に窮して貿易事務家の交換問題を持ち込んだところにつけ込んで、外交官及領事交換を以て承認そのものであるとしやうとするあたりは流石に老練の手並みではないか。然し左顧右眄容易に事を斷じ得ない我が政府に於て、果して貿易事務官の交換から、竿頭一步を進めて外交官及領事の交換まで進み得るか、何うか。單に旅劵の査證をする丈けの貿易事務官の交換條約であれば矢張り「不完全」なる對外條約に止まる。然るにヨ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ツフェ氏の主張する所は「完全なる條約」を締結しやうと云ふにある。

七

から色々考へてくると、勞農政府承認には、まだ幾多の難關があるやうだが、そこは政治家や外交家の手腕の揮ひどころである。折合ひのつけにくいところをつけるのが、彼等の手腕を必要とする所以、それが出來ねば政治家も外交家もいらなくなる。しかし實を云へば僕等はもう勞農政府の承認とか日露通商の促進とか云ふことは聞きあきた。そんなことは僕等が夙くの昔、革命の當時に叫んだことであつて、今頃それを人の口から物新らしく聞かされるは耳障りだ。それを到る所で聞かされるに至つては愈々たまらぬ。

僕等の對露觀は常に世間一般のそれより先へ先へと進んで居る。否な、世界の方が僕等に比して後れて居る。現にヨッフェ氏と肝膽相照らして御座る後藤子ですら、西伯利出兵當時の外相であつた。その後藤子は最近僕等の前で、勞農政府承認論の序でに、從來日本政府がモスクワを拔きにしてチタや浦潮政府とのみ交渉しやうとして來たことの愚をも痛罵して「×のつかひ所を違へた」とやつたのは、殊に適切な批評であつたが、「この點について日本の言論界は誰あつて政府の失策を攻撃したものがない。」と云ひ猛烈に新聞記者の「不明」を罵しり且つ嘲笑を浴びせた。

然るに僕等の所謂「モスクワ」本店論を唱へてやまなかつたのは、後藤子が時の內閣の外相として西伯利出兵を敢行した當時からの事である。大正九年から十年の始めにかけて赤露の全土を跋渉し更らに極東三州を實地に視察して歸つた時など明確に日本政府のやり口を「本末顚倒政策」と名づけ、モスクワは「本店」で「知多が支店」浦潮が「分店」であることを再三反覆して當局(その中には當時外交調査委員であつた後藤子もある)の反省を促したものである。新聞を讀まずに、新聞記者の不明を笑ふ後藤子こそ、笑ふべきではないか。近頃後藤子の配下の人達が主となつて居ると云ふ露國承認期成同盟とか、日露通商促進運動とか云ふ事にしても、無論その團事に熱心な點は、敬服の他ないけれども、諸君の考へつきがあまりに遲い。僕等が數年前、セミョノフやホルワットの如き手合を幾千人あつめて助けたところで、革命の怒濤狂瀾は到底せきとめることが出來ぬ。勞農革命の成功を既成事實として認めよ！と叫んだ頃多くの人はセミョーノフやホルワットの後押をして、革命の怒濤狂瀾をせきとめやうとして居たではないか。而して間もな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

くそれに見ん事失敗つて、今更らの如く、過去の錯誤を悔ひ、逆に今度は勞農承認を唱へ出しても　もう時期はあまりに遲い。

八

僕等の今日切望して已まないのは日露兩國の間に今少し徹底した相互關係を打ちたてたい、兩國の世界に對する使命の共通點を見出して、そこに今少し力強い提携を作りあげたいと云ふ點にある。無論今頃日露同盟など云ふ議論を持ち出したら、愈々ヘンに思はれるかも知れぬが、考へても見よ、白人世界で人種平等を主義に於て認め、事實に於て之れを實行し勇敢に實行して居るはたゞサウエート露西亞一國あるのみではないか。我等の常に高唱する「亞細亞は亞細亞人のための亞細亞！」てふ東洋民族の大理想と、ボリシエヰキーが露國の政策を一手に握つた當初から唱へ且つ實行しつゝある。「小民族を強國の覊絆から救ひ出せ！」てふ勞農標語と兩者の歸結する所はたゞ一つではないか。

他の問題はさて置き、單にこの一點だけでも、日本はもう承認とか通商とか云ふ姑息な議論をして居る時ではない。思ひ切つてモスクワと共にこの偉大なる東洋民族の大理想に向つて進んではどうか。いかに眼界の狹い帝國主義者であつてもこれには異論あるまい。白人崇拜者でない限り、又印度や波斯、その他の東洋民族が永久に歐洲列強の鐵鎖につながれて居ることを希望するものでない限り、少しく此の點に思ひをよせてもよからう。」僕等は勞農政府承認論に對して無論反對は唱へない。然し承認論だけではもの足らぬ。それだけでは滿足出來ぬ。

桃色主義者との問答

堺　利　彦

A　君等は勞農ロシア即時承認論者だね。

B　そうだ。君はそれに反對なのか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

A　イヤ、反對ではない。けれども少し君等とは違ふ樣だ。勿論、君等に同情はするが、……。

B　同情は有りがたいが、鼠色、或は桃色は餘り有りがたくない。モ少し色彩を鮮明にして呉れたまへ。

A　サアそこだ。僕等は、却つて、君等の色彩の餘り鮮明なのが善くないと思つてる。

B　色彩の鮮明がナゼ惡い。

A　君等はどうもタクチツクを知らないから困る。

B　へえ。では君のタクチツクといふのはどんな事だ。

A　今、ブルジョアの一部は盛んにロシヤ承認を主張してゐるぢやないか。

B　そうだ。鮭の爲の承認、材木の爲の承認、砂糖の爲の承認、雜貨の爲の承認、つまり不景氣救濟の爲の承認を主張してる。

A　だからさ。鮭の爲であらうと、砂糖の爲であらうと、不景氣救濟の爲であらうと、承認に相違ないのだから、奴等の運動を巧みに利用すればいゝぢやあないか。

B　利用は當然だ。我々は敢て利用に反對するものではない。利用の出來る場合は幾らでも利用する。然し我々の承認理由は明白にして置く必要がある。

A　然しそれを餘り明白にするのは、却つて承認の促進に害がありはしないか。

B　成程。では君の云ふのは、ブルジョアの人道的承認論にそのまゝ贊成して置けと云ふわけだな。

A　マアそうだ。人道的承認論と云ふのかどうか知らないが、彼等だつて直逆、鮭の爲だ、砂糖の爲だとばかりは云へないから、國際の正義だとか、人類の公道だとか、美しそうな看板を掲げてゐるのだ。何も其の看板を叩きこわす必要はあるまい。

B　所が、我々は其の看板を叩きこわす事を一つの任務と心得てる。我々は總てに於いて、僞善の假面、理想の金箔を引つぺがす事に努力してる。

A　僕等はそれが困ると云ふのだ。君等は折角、自分の目的の一部が達せられそうになつてゐる時、わざとそれの妨害をしてゐるようなものだ。

B　我々は目的の一部を達する爲に、其の全部を傷つける事を恐れる。一部を達するのは全部を達する爲でなければならぬ。全部を達する爲には、一部を妨害する場合も勿論ある。

A　ぢや君等は今、ロシヤ承認の妨害をしてゐるのか。

B　馬鹿を云ふな。我々がプロレタリヤとしての、ロシヤ承認の根本理由を明白に主張する爲に、承認の實行が後れると云ふ程なら、承認は到底出來つこはない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

A　だつて君、彼等は今、勞農ロシヤの資本主義への跡戻りを指摘して、共産主義國家の恐るに足らぬ事を說いてゐるのぢやないか。それで保守派の連中も大ぶん安心しかけてゐる所ぢやないか。そこに君等が騷ぎ立てちや、折角の形勢を逆轉させる事にならぬとも限らんぢやないか。

B　成程なア。近ごろ『社會主義は危險思想に非ず』といふ本が出てゐるが、君は僕等にもあの調子で行けと云ふのだな。

A　そうだ、全くだ。折角、ブルジョアの主張が君等の主張と少なくも或點に於て一致しかけてゐる時、その一致を破壞させようと云ふのは愚だね。

B　僕等は其の愚を守るつもりだ。社會主義は危險思想だ。危險思想でなかつたら社會主義の値打はない。ロシヤは勞働者の國家だ。勞働者の國家としてのロシヤを承認するのでなくて、どこにロシヤ承認の値打があるか。

A　マアそう云はずに落ちついて考へて見たまへ。鮭の爲の承認、砂糖の爲の承認と云つては餘り露骨だが、日本國家の利益・日本國民の幸福の名の承認だと云ふのなら暫らくそれを通してやつて置いてもいゝぢやないか。それが自然に君等の利益にもなるのぢやないか。

B　イヤお說一應御尤もだ。然し、ブルジョアの主張がたま〱外形に於いて我々の主張と一致した時、我々は猶さら其の理由の差異を明白にして置く必要がある。

A　それがタクチツクを知らんと云ふものだよ。

B　それが我々のタクチツクなんだよ。

A　だつて、自分の主張の行はれる事を妨げると云ふようなタクチツクがあるか。

B　我々は主張が外形だけに於いて行はれる事を求めてはゐない。我々は僞計を以て外形だけの勝利を得ようと考へてはゐない。外形だけの勝利が何になる。外形だけの主張實現が何になる。我々は其の外形の下に於ける實質の利益を求めてゐるのだ。

A　實質の利益は實質的にソツト求めればいいぢやないか。現にブルジョアは正義公道の名の下にソツト自分等の實質的利益を求めてゐるぢやないか。

B　だから我々はそれを摘發するのだ。國家の名に依つて、國民の名に依つて、ブルジョア階級の利益が主張され實現されてゐる事を明らかにするのが、即ち一般民衆の目を開かせる所以なのだ。

A　ぢや君等の實質的利益といふのは何だ。失業者に職業を得させるとか、勞働者の賃金を高くする。少なくとも、それを下げ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

させぬとか云ふのではないのか。

B　部分的にはそういふ事もあるだらう。然しそんな事は寧ろ末だ。

A　ぢや君等の根本の實質的利益といふのは一體何だ。

B　外でもない。ロシヤを承認するといふのは、勞働者が支配階級になつてゐる國家を承認する事だ。卽ちプロレタリヤの國家を承認する事だ。歷史上未曾有の新現象たる勞働獨裁の國家を承認する事だ。更に言葉を換へて云へば、全世界のプロレタリヤ階級が希望の星として一齊に、其の眼を向けてゐる勞農ロシヤを、ブルジョア政府に承認させる事だ。つまり我々の理想我々の目的が具體的に確立した事を、我々の敵に承認させる事だ。それが卽ち我々の實質的利益なのだ。それが卽ちプロレタリヤの大衆を教育する所以なのだ。

A　君等はそんな事を云ふから實に困るだからブルジョアがこわがつたり、保守黨があばれたりするのだ。君等がそんな事を云つてゐるのでは、ロシヤ承認も先づ六かしい。惜しい事だ。

B　何アに、奴等は、我々が遠慮すれば承認する、遠慮しなければ承認しないと云ふわけのものぢやない。自分等の利益の爲にどうにもこうにも承認せずには居られないから承認しようとしてゐるのだ。我々は只それを利用して、我々の利益を求めるのだ、どうだ。僕等も君と同じ利用論者なのだ。僕等も君と同じタクチシアンなのだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時評

勞農露國承認の意義

福田德三

(一)

勞農露國を承認せよとは、勞農主義、ボルシエヴヰズムを承認せよと云ふのとは同意義でないことは、私が玆に論ずるまでもない所である。其の反對に、其は舊露國の承認ではなく新勞農露國の承認であることも亦た多言を須たざる處と思ふ。今日となりては、勞農露國を承認したからとて、我邦に於て勞農主義、ボルシエヴヰズムが流行することとならないことは、今や大多數の識者の認むる所であらう。若し我邦にボルシエヴヰズムが流行す可きものであるならば、其れは勞農露國を承認しないからとて、流行る可きものは流行るであらう如く、承認したからとて、流行る可きでないものは決して流行ることはない。私は常に『國本は斷じて動かず』と信じて居るものである。我邦と露西亞とは國の成立を同ふして居ない。元より國家も社會も共に絕へず進化發展するものであり、其進化の道程としては、勞農主義の主張中にも取つて參考とす可きものはある。併し勞農主義其ものが、我邦に俄かに流行る可しと言ふ人あらば、其は幾千年の歷史を全く無視したる論である。歷史を無視すると云ふことは、甚だ危險なことであつて、勞農主義が今俄かに日本に流行することが、危險を意味すると言ふ重要な理由の一つは確かに、其樣の事は幾千年の歷史を無視するも亦甚しいもの

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

であると云ふことに存する。其邦の歴史的進路が勞農主義を正當付ける國に於て勞農主義の流行ると云ふことは、決して危險を意味するものでなく、其は主としてエキスペヂエンシーの問題である。世界の各國夫々に歴史あり、歴史の發展に基く特殊の國情がある。然るを其凡てに向つて、何々は必ず危險であり、何々は決して危險ならずなどと一様に斷定することは不可能である。我が人の如からざるを憂ふるを要せざると共に、人が我が如くならずとて怒るには當らないことである。我々は日本人として其歴史の正當付ける正しい道を踏んでさへ行けば宜しい。外の國が我邦の如く萬世一系の皇統を奉戴する國柄でないとて、之を蔑む可きでないことは、他の共和國民が、日本が共和國でないことを以て之を劣等視するを許さないのと其理は全く同一である。勞農露國民は其勞農國たることを誇ること、或は我々日本人が君主國たることを誇ると、同じであらう、其は決して不都合なことではない。其の代り勞農國民は、勞農國たらざる國を以て、我々日本人を蔑視したり、敵視したりす可きではない。我々は我邦が君主國たることをイタラ誇つても宜からう、唯だ外の君主國ならざるものを、其君主國たらざる所以を以て蔑む可きではない。勞農國を勞農國たる所以を以て特に劣等扱す可き所以は、斷じて存せぬのである。

(二)

此く云へば、言下に云ふものがあらう。日本は決して其君主國主義の爲めに特にプロパガンダなどを行はず、自他平等として互に敬重す可きものとして居る。然るに勞農露國では、特に外國へのプロパガンダに力を用ゐて、其のボルシエヴキズムを宣傳するに勉めて居り、又た資本主義、軍國主義、帝國主義の排撃に日も維れ足らざるの狀を呈して居るではないか。現に英國が露國と通商關係を絕つと云つて居る理由の第一として露國が其宣傳をしないと云ふ約束を破つたことをあげて居るではないかと。然り、此點非は確かに勞農露國にある。但し其宣傳を止めないと云ふのは、決して英國に於

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

けるの謂でなく、アフガニスタン、印度又は他の英國の屬領地に於ける其れである。(英本國宣傳用として送金したとか何とかあるが、其は或は反對宣傳ではあるまいか）此等の地方に於ける宣傳も一切之を廢すとは、勞農露國は一九二一年三月十六日調印の英露通商條約に於いて儼かに約束した。其文言は左の通り

『兩當事者の各一方は他方に反對する行爲又は企て、及び英帝國若くは露勞農共和國の施設に對し直接又は間接に對抗する一切の公的宣傳を、自己領域外に於て行ふことを避く可く、而して殊に露勞農政府は亞細亞の諸民族、就中印度又は獨立國アフガニスタンに於て、英國の利益又は英帝國に反する敵對行動に出でしむ可く煽動す可き一切の軍事的、外交的、若くは其外の行動又は宣傳に關はるゝ企てを避く可きこと、英政府も亦た舊露帝國に屬し今は獨立せる諸國に關しては右と同樣の特殊義務を負ふことを互に誓約す』

然るに今勞農露國が若し右の誓約を破つた事實があるならば、其罪たしかに露國に在る。故に我國が露國を承認するに方つては、此くの如き違約のないように十分配慮す可きである。朝鮮人又は臺灣人の間に反日本的思想を宣傳するが如きことないようにせねばならぬ。然し其れは、今の處露人に對してよりも寧ろ其外の國人に對して、日本が感じて居る一の必要であるのではないか。朝鮮に於て滿洲に於て、就中支那に於て排日思想を煽動しつゝある露人は、今の處殆んどなく、却つて其は、米國人其他の國人の間に若干あることが事實ではないか。然し乍ら、排日思想の宣傳をするものが若干人でもあれば、其國との國交を斷絶せよとは無法な主張である。尤も米國には山東省の土匪事件に就て、米國は支那の承認を取消す可しなどとの暴言を吐いて居る人もあるソウである、併しイクラ米國だとて、其んな氣狂染みた人の言によつて國交を左右せられることはあるまい。土匪が出て來て汽車の乘客を人質に取るのは、甚亂暴千萬な事には相違ないが、然し米國には、金匪、財匪が澤山居て、人質ドコロか、全國民の懷をかすめ取る不都合なことをして居る

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ではないか、(此頃の砂糖騒動を考へて見よ) 之れに比べれば支那の土匪の方が國民並に在留外人の側から云へば悪性は薄いのである。其土匪が一度出て來たから、支那の承認を取消すと云ふなら、財匪の澤山横行して居る故を以つて、米國を一の獨立國と認めず、横暴なキアピタル、マグネーツを征伐することが出來ないのは、米國の政府が國を治める力なき所以を立證するものだと言ふことも亦出來る可き筈ではないか。世豈に此くの如き無法のことあらんや。勞農露國が他國の屬領に於いて排本國的宣傳をやることは、無論曲事ではあるが、其れを以て直ちに勞農露國を國として認む可からざる理由とすることは出來ない。違約があつたら、其は飽迄責任を問ふ可ふべきであるが、其を以て通商斷絕などと脅すのは、決して英國の名譽ではない。保守黨政治家の世界の大義を解せざる所以である。其んな眞似を日本がせなくてはならぬ理由は一も有しない。英國が露國との通商條約を無効とするのは、其れは英國だけのことであつて、日本は其ために毫も其爲す可きことを左右せらるべき理由とはならないのである。ボルシエヴヰズムの宣傳に對しては、十分なことを防ぐ可き方法は取るが善い。勞農露國が承認す可きものであるならば、其の顧慮の爲めに、承認を躊躇す可き理由は些も見出し得ないのである。而して假りに宣傳其ものが全滅し得ないとしても、承認が宣傳を奬勵 ることにならない丈けのことは、必ず出來るものと、私共は確信して居る。更らに一歩を進めて云へば、私は露國ボルシエヴヰキの徒が如何に巧妙に宣傳――而も我國內に於て――したとて、我國本は大磐石の如く決して微動だもしないことを確信して誤らさるものである、私は我國體は所謂赤化に對しては全くプルーフであると斷言して憚らないものである。

(三)

勞農露國の承認は勞農露國の承認であつて、決して舊露國、ツアー露國の承認ではない。斯く云ふと答へるものがあらう。舊露國の延長としての勞農露國を承認するのでなければ意味を成さない。何となれば、勞農露國なるものは舊露

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

國の權利を變則的ではあるが、現に角承繼したからこそ、領土大權を有つて居るのである。其れでなければ、勞農露國とは、唯だ机上の空名に止り、一も實在のないものである。既に舊露國の權利を承繼した其の延長である以上は、舊露國の義務に屬する其の債務を承認しないと主張するのは、如何にも誠意を缺く話であつて、此一事丈けで承認は到底不可能である。勞農露國は舊露國の一切の義務を承繼すること其權利を承繼したのと同樣であるならば承認必ずしも不可でもなく又不可能でもないが、權利のみを承繼して義務を承繼しないなどと虫の善いことを主張する限りは、到底相手とす可きではないと。成程此論は一應尤に聞へる。然し勞農露國の承認は、現在勞農國民から成立して居る其の勞農露國の承認であつて、之を承認する者は其承認の相手の權利が現勞農露國にあることを認ると云ふ丈けで、其成立に就て何の責任を負ふわけではない、何等のアッサムプションを要する次第ではない。既に何十ケ月か露國の領土大權を保持して居る者を有るが儘に承認する丈けの事である。現在に於いて勞農露國を形成して居る其人民が現に其政府として承認して居るものを、我々外國が同樣に承認するに過ぎない。其以其以上外の何物もあるのではない。其を舊露國の權利を其儘に承繼したものと見る可きか、其れとも舊露國は一切滅んで仕舞つて、茲に一の新しい勞農露國が出て來つて、何等かの方法で現在の領土大權を確保したものと見る可きか、其は人々の解釋に任せる外はあるまい。國際法學者には國際法學上の意見があらう、國法學者には國法學上の意見があらう、又た社會學者には社會學上の意見があらう、經濟財政學者には、經濟財政上の意見があらう。我々は今其等一々の學說を檢討せんとするものではない。我々が專門學者としての說は如何あらうとも、勞農露國の承認と云ふことを一國民、一市民として　或は一プロレタリアとして、或は一ブルヂオアとして）考ふるとき——私は今此問題を唯だ此くの如くにのみ考へて居るのである——に於ては、其等の特殊な學說に拘泥する必要は寸毫もない。我々は一國民、一市民としては、日本國の國民として存するが如く、英國の國

家の假として存する如く、勞農露國なるもの――少くとも現在に於ては――假として存するものなるを認めざるを得ざるものである。其は一切の學説や主義やを超越する現成端的の一活事實であつて、學説や主義は此活事實を抹消する力は有して居らぬものである。舊露國の延長として此勞農露國を見ると云ふのは、無論左様見る人の見識であつて、我々は之を非なりとす可き權能は有して居らぬ、其れと共に、此く見る人々が、此く見てのみの勞農露國の承認なるもののみがあり得るので、其以外の意味に於ての勞農露國の承認なるものは有り得ないと强制す可き權能をも有して居らぬのは明かである。デアルカラ、舊露國の債務を負はない以上は、現勞農露國は、何等の權利をも有して居らぬものであると主張するのは、唯自家一流の見解を提げて、露國幾億の人が現に承認して居る勞農露國を否認せんとするもので、其は甚だ大膽な机上的學究論と云はねばならぬのである。現に勞農露國なるものが假として存在して居ると云ふ事實は、如何に强く主張せらるゝ學説を以てしても、一學説の爲めには微動だも爲し得る次第のものではない。

(四)

舊露國債務の承認と尼港事件の責任問題とは混同す可き性質のものではない。尼港事件は現露國政府になつてから起つたことで、タトヘ其れは白軍が多少有力であつた時代の出來事で、又た日本が白軍を助けた事と關連して居るとするも、兎に角勞農政府治下の露國領土内に起つたことであるから、對等の一國として承認せられんとする以上、右事件に就て負ふ可き責任あらば飽迄十分に之を負ふことを明言す可き義務は、勞農露國にある。但し其負ふべき責任は必ずしも從來傳へられて居る通りであるべきか否かは、我々には分らない、或は勞農當局者にも分るまい、此れは双方から委員をあげて、十分に調査討議すべきである。日本軍がなし崩し的にシベリア各地方で殘虐な眞似をしたと云ふ風説も聞く　其眞僞は十分に調査して、勞農露國は其負ふべき責任を負ふと同時に　日本軍に萬一非違があつたとしたならば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日本は男らしく其責任を負ふべきである。誠意を露國に責めるものは自ら先づ一切のウソを放擲しなければならぬのである。而して日本の官憲なり軍隊たり人民なり又は間諜――若しあらば、其を人民中に算入して呉れては困る――なりによる何等非違の事實なき場合には、――私は其の然かあらんことを切望する――尼港事件の責任は、現勞農露國が十分に之を負はねばならぬ。此點は斷じて糊塗曖昧を許さない。山東土匪事件に就て支那政府が責任を逃れずとする以上尼港事件の責任をゴマカスことは斷じて許し能はぬ。乍去、其れと同時に我々は篤と手を胸に置いて考へて見ることを要する。現勞農政府に反抗し之を顚覆すべく蹶起した何將軍とか彼將軍とかの所謂白軍と我日本と其軍隊との關係は如何であつたかと。我々日本國民は、シベリア出兵を欲したのではない、其或もの――私も其一人――は出兵の噂を聞いた其日から極力其不可なるを痛論してそれに反對したのである。然るに、日本の政府は、愚にもシベリアへ出兵した。初めはチエツク、スロバク救援とか何とか兎に角口實を製造してあつたが、暫くしてから、何の口實もなしに、ノンベンクラリと駐兵して最近にまで及び、其間には汽車すり替へ事件の如き大失態をさへ釀すに至つた。我々は尼港事件の遠因若くは近因中其最重要の一つを、此の無名の師を動かしたことに歸さねばならぬと信じて居るものである。人を責めんと欲するものは、同時に已れを責めることを忘れてはならぬ。尼港事件は不都合千萬たること言ふまでもないが無名の大軍を露國の領土內に動かしたことも、疑もなく不都合千萬である。而して現勞農露國に反抗した白軍を助けたことは、露國當事者から見れば、又甚だ憤慨に堪へざる事に相違ない。此等の事情と全く切離して、尼港事件だけを見るのは、我田引水の甚しいものである。然るに、此問題解決せされば、北樺太から撤兵せぬと言ふ、實に馬鹿げたことで、日本自國本位にのみ考へても、此位不利益なことはないので、我々は我々の子弟、我々の納むる租稅を、此くも愚かな間違つたことに浪費されて居るを甚だ迷惑に感じて居るものである。從つて露國の請求の有無に拘らず北樺太の撤

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

兵は即時に斷行して貰ひたいと主張するものである。現に今現在では、未だ僅かに露國の領土たる北樺太に兵を駐めて居る日本が、露國に誠意がないなどと非難して居るのは片腹痛いことである。イキナリ人の腕をねじ上げて置いて、其れで其人の言ふことが友誼的でないの誠意がないのと云ふものあらば、其人間は無法者と呼ばれるの外はなからう。我邦は露國に誠意を求むるなら、少くとも其の片腕をねじ上げて居ることを即時に廢す可きである。──浦鹽で日本のスパイをやつた嫌疑ありとか傳へられる日本の官吏が監禁せられたとて憤慨するには、同時に其人に何等のスパイ的行爲のなかつたことを立證することを勉めなければならぬ。スパイ的行爲がないものを監禁したら、其監禁者を十分責めるが宜しい。日本の官吏だから、必ずスパイ的行爲がないと初めから斷言することは無法である。要するに、人に誠意を求めんとするには、己れ先づ誠意を披瀝す可き道德的義務を有する。尼港事件は、此の意味にて、十分露國の責任を問ふ可きである。唯むやみに賠償呼はりをしたとて、相手方が無造作に之れに應ずることは望まれないことである。

(五)

私は此の尼港事件と舊露國債務承認問題とは其性質同一でないと云つた。舊露國に對する日本の債權なるものは、大別すれば、二箇の項目から成り立つて居る。第一は、日本政府が聯合國の一員として其の他の一員たる舊露國へ軍事關係費に充つ可く貸付けた金額、其第二は日本商人の露國政府商人等に對する貸金又は商品掛代金であつて、日本政府が代辨して、今日本政府の貸金の形式となつて居るもの、是れである。其第一項に就て先づ考ふ可きことは、其れは敵國よりの戰爭賠償金とは全く異る性質のものであることゝ是れである。今や世界改造の大問題は、嘗て敵たりし獨逸の償金を輕減(又は全免)するの急要なることを示して居る。敵國の債務──而して其れは舊獨逸帝國の債務を承繼したものではなく、新獨逸共和國が明かにヴエルサイユ條約に於て義務者として調印した所のものである──でさへも、之を減

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

又は免ぜねばならぬことが少くとも世界の識者の間に認めらるゝに至つた今日、敵でなく味方の一員であり、共に同一の側に戰つた露國が其戰爭の爲めに被つた債務は、其義務者たる舊露國が依然として存立して居るとするも、經濟上、財政上、其義務を果たすことができないか、果たすことが非常の苦痛を露國に與へるものである場合には、我日本は人道の上から、國際道德の上から、殊には君子國を以て自ら任ずる上から、又た經濟上のエキスペヂエンシーの考慮からも其の減又は免を他の諸聯合國に先つて斷行して範を示し、他の慾深き聯合國をして、日本の例に恥ぢて其要求を捨て又は輕減せしむ可く、日本先づイニシエーチヴを取ることは、甚だ希はしいことである。日本は聯合國の一員たるの故を以て、三國干涉の恨をさへ忘れ、否過去幾十年絕へず日本を北方から强壓して居た其の屈辱をさへ忘れて舊露國を助けたではないか。三國干涉に何等の責任なく、而して少くとも今後稍永い將來に取つて軍事上少しも日本を脅す危險のない勞農露國に對しては、タトへ其れが舊露國の債務を當然承繼したものとしても、其財政上の負擔を減又は免じてやることは當然の事ではないか。舊露國に對して減免してやる場合には、聯合國の一員として戰つたと云ふことが其を爲すが、現勞農露國其ものに對しては、其理由はないが、國家の負擔は、其國家が新舊入れ代つたとて、結局露國の人民がそれに任ずるの外はない。其人民は聯合國の一員として其子弟を亡ひ、其財産を捨てゝ戰爭に從事した其露國人である其人々の將來の財政上の負擔を減じてやることは、勞農政府を認める認めないに拘らず、人道上正さに爲す可き所ではないか。人民に對して減免してやることを、勞農政府に減免してやると云ふ形にしたとて、何の不都合がこれある。

(六)

日本の債權の第二項は、率直に云へば、日本商人の淺見、慾張りの結果が其或部分を占めて居ることを考へなくてはならぬ。私は戰爭の眞最中大阪市役所主催の商工講演會に於いて粗次の如く言つたことがある『諸君は日本の輸出が今

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

激増したとて喜ぶ、殊に大阪に於いては對露貿易の好況に夢中になつて居る。シカシ、諸君若し茲に人あり、古道具、古建築材料が値が善く賣れるとて、一切の家具家財を賣り放ち、終には自家の屋根までもはがして、之を古材木商に高き値にて——而かも其代金の回收確實ならざる——賣却す人ありとせば、諸君は之を何と評する。今日本の輸出好況に乘じて何んでも彼んでも賣れる丈け賣りはたけとする人々は、此の屋根を賣る愚人を笑ふ資格ありや否や。私は斷言する對露輸出好況なりと喜ぶ諸君は、餘り遠からざる將來に於て、其れは結局唯取られになつたものなるかを發見することを。露國は決して今買入れつゝあるものゝ代金を全部仕拂ふこと不可能なるは火を睹るよりも明なる事實であるから』云々と。日本商人の賣かけ代金の貸賣りは、其或ものは屋根をはがして賣つた愚人同様のものであつて、其れが結局貸倒れとなるのは、言はゞ自業自得なのである。政府が肩代りをしたことは他の忠實なる納稅者に取つては、迷惑千萬なことである。然し既に肩代りをして仕舞つた以上は致方ない。日本政府は適當の方法によつて成る可く其部分の債權を回收して國庫の損失を少からしめて、一般納稅者の迷惑を減ずることを勉む可きである。私は此れ丈けの要求には、勞農露國に應ずるものと思ふ。何んとなれば、其れは結局日本の人民の迷惑を輕減する所以であつて、其性質は國家と國家との間の純經濟關係の貸借とは、必ずしも同一でないから。通商を恢復し外資の輸入を待たんとする勞農國の新經濟政策の立場から見ても、此項に當る債務の承認に、當然爲す可きであらう。唯其支拂の方法なり時期なりは、理解ある寛大を以て取扱はる可きは勿論である。國際道德の通義は暫く問題外とするとしても、勞農露國自らの將來に渉る利益の上からも、此の承認はエキスペデエンシーの問題として必要である。然らざれば通商の恢復、外資の招致は圓滑に行はるゝことを望み難いのである。

（七）

勞農露國を承認せずして、唯だ通商關係の恢復丈けを爲さんと云ふことは、甚だ可笑しな話である。無い國と通商條約を結んだり、商務官を交換したりすることは出來るわけはない。條約を結び、代表官吏を交換する以上は、相手方を互に承認したことを意味する。殘る所は唯形式の問題である。卽ち非承認論者が非なりとする所は、唯に形式の上の事のみである。英國は一度此愚を敢てした。但し其れは未だ今日ほど世界の形勢が進んで居らなかつた一昨一九二一年のことである。今日とは大分違つて居る。併し英國は形式的承認をせずして露國と通商條約を締結した、而して二年後の今日になつて之を破棄せんとして居る。若しも英國が形式的にも露國を承認し、其れに基いて一切の關係をモットちやんと破棄して置いたなら恐らく今日の樣な破目には陷らなかつたであらう。責任は主として露國の側にあることとは思ふが、英國の姑息も亦多少累なる處あつたに相違ない。少くとも今日となつて我日本は、其愚を再演す可きではない。若しも通商條約を結ぶのなら必ず形式上にも勞農露國を認め、一切の關係を明確詳細に規定してかゝる可きである。而して今日世界の行詰りを救濟する道は、一方獨逸に對する聯合國の態度を根本的に改め、殊に償金支拂の諸條件を思切つて緩和する他方に勞農露國を承認し、これと通商關係を恢復し、依つて以て露國の經濟的開國を斷行することを外にして到底望む可からざることに、今や心ある者の否定し能はざる儼然の事實である——對獨問題に就ては拙著「經濟危機と經濟恢復」對露の問題に就ては「ボルシエヴヰズム研究」に其の卑見を詳述して置いた。參照を乞ふ——。聯合國は何れも其實行に躊躇して居る、否佛國は其形勢を更らにより惡くす可く色々な愚舉暴行を敢てして居る。かくて、今世界の平和を最も擾亂しつゝある者は、唯自國の利益の外何物をも眼中に置かざらんとする此の佛國であつて、英米國は何故か此れに對して抗議せぬ。支那の土匪事件で强いことを言つて居る米國が佛國のルール占領に一言も抗議を申立てず、否日本の北樺太撤兵を主張して在倫敦の日本大使館へ示威運動に押しかけたと云ふ英國の勞働運動者も佛國のルール占領

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のことは棚にあげて居る爲である。即ち今の歐米世界は、政治家も勞働者も多くは極端な錯覺に陷つて居るのである。かくて世界の行詰りは彌々深みへ深みへ陷つて行く。然し幸なことは　茲に我日本がある、若干の誤謬と過失とを除いては、世界の平和を攪亂した罪質を少しも持たぬ日本がある、歐洲各國が共に甚しい掠奪行爲を擅にした過去三百年間一回も外國を侵略したことのない光榮の過去を有する日本がある、其日本は　勞農露國を承認しそれを通商關係を恢復するにあらゆる機會、便宜　利益をこそ有すれ、之を非とす可き理由を一つも有して居らないのである。私は此の我日本が聯合國中第一者として先づ勞農露國を承認することは、其れが獨り日露兩國の利益を進むる所以たるのみならず、他の聯合國をして承認通商を躊するに能はざらしむる機運を促進することになり、其結果、世界を行詰りから救ひ出すに、日本が重大な役目を演ずる所以となる可きを深く信じて疑はざるものである。

（一九二三・五・十三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新刊　長谷川如是閑創作集　製本出來

第一輯　奇妙な精神病者の話

内容

□奇妙な精神病者の話□虎使ひ志願□一人の飾屋□京に行つて居た娘□ヘロデのユトウピア□二人の輕業師□子爵夫人と孤兒

定價壹圓八拾錢送料八錢

　著者は現文壇に於て獨自の境地を開拓して居る。彼はその創作で、科學者の如く見、哲學者の如く考へ、現實主義者の如く批判し、人道主義者の如く感じ、あるが儘の現實の裡から、新しい現實を變幻極りなく展開させて行く。そこでは自然と社會と個人との多面的な、そして瞬間的でまた永遠的な反襯抱合の姿が如實に動的に活現せられて、すべてが拒めない必然性の力に押されて、無限の時空の流れに溶け込んで行く。そこでは讀者は、彼と共に泣きつゝ笑ひ、絶望の裡に希望を恢復しつゝある自己を發見する——大山郁夫氏が著者の創作を評した言葉——

　如是閑の最近數年間に發表した創作を輯めたのが本集である、今後發表する創作も亦すべて本輯に集められる筈である。

第二輯　お猿の番人になるまで

内容

□お猿の番人になるまで
□打ちのめされた男
□虎から豹へ
□あたま

定價壹圓八拾錢送料八錢

發行所　東京市神田區鎌倉町三　振替東京三六三七六番　我等社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

懸賞募集

俳人「一茶」の研究

本懸賞は必ずしも一茶の全人的の研究ではない、彼が俳人としての藝術的研究であれば足りる、しかし一茶の人物を　として描くも、藝術を主とした研究でも、それは投稿者の隨意である。

締切　五月卅日

賞金　壹等壹百五十圓(一名)貳等五十圓(一名)

原稿　は四百字詰一枚として五十枚以下、應募原稿は全部返戻せず、應募者は「改造」編輯部係に送られたし

發表　七月號「改造」誌上にて

「改造」編輯部

「女性改造」懸賞募集

「光明皇后」の研究

光明皇后は、美しく、徳高く、信心深く、聖武天皇を輔けて天輪聖王たらしめた、人格者です、皇后が浴室に癩病患者の體を洗ひ、路傍の　丐の手を取つて惠まれた情愛は女神そのものゝ仁愛です。皇后を、東西古今を通じて眞に婦人中の典型的人格者としてその事蹟を研究することは意義あることゝ信じます。原稿は可成、皇后の人情美を基調とした物語式に綴られたし

締切　六月廿五日

賞金　壹等壹百圓（一名）貳等五十圓（一名）

原稿　は四百字詰一枚として五十枚以下、應募原稿は一切返戻せず。「女性改造」編輯部宛「光明皇后事蹟」と朱書されたし

發表　八月號「女性改造」誌上にて

「女性改造」編輯部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

創作

無限抱擁　瀧井孝作

ある男　武者小路實篤

我家の小說　宇野浩二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

無限抱擁

瀧井孝作

一

根津にある松子の母親の寓居で、元日の晝過ぎ信一が其處の隣りやお向ふ等への年禮を濟ました。信一は暮に松子と結婚し兩人は一緒に根津の母の家に居て年を越した。松子は暮に感冒の熱を發し未だ氣分がすぐれず簡單に曲げた髮で茶の間に坐つてゐた。

母親のてつは御慶に自家の聟を遣りたがつて居たから、それで今戻つたかれに「有難う」と言つた。

松子が尋で頬笑んだ。

「其麽に起きて居ても善いの？」

左う言うて信一は火鉢の側にゆき、松子の瞼を柔じて掌を額に當てると、松子が額を其方へ傾けて「熱はないのネ」と言ふた。

「氣分が惡いのを我慢してをるのぢや無い？」

「いいえ」

それから信一が年始に出た羽織と袴とをぬいですぐ母親に渡した。彼の坐は滿

圍が直された。
「お茶をあがりますか」と尋ね、頷いたので松子が急須へ口挿をした。上があけられた茶棚に西洋菓子がきのふの紙函の儘であつた。
「阿母さんは牛乳の入つた御菓子を好かないのですよ」と、母親が煙草をつけてから若い者の方へ顔を向けた。
「でも、おいしいわ」娘が間でいふた。昨日銀座へ出て、米津の風月のを土産にと考へたが、結局其を自分がたべる事になつた。左う思うて信一は濃く出たお茶を飲んだ。
三人は左様な談話でしばらく茶の間に居つた。茶の間から玄關の二疊をとほして表ての窓の外には、軒に五寸餘りの日和空が覗いてそこに下がつた旗の布があり、裏通りとは云ひながら正月の騷音が聞えるのであつた。
而して少時默つて居つた松子が又話しかけた。
「羽根をつきたいわネ。阿母さん」
「風に吹かれるよ。頭髪も其風では」
「束髪にしますわ」
母は病氣を思つて默つた。が、
「羽子板は揃へてあるけれど?」
「ねえ、よう御座んすわネ」と松子が笑窪が深んで、今度は信一へ尋ねた。
母親が揃へて居るといふ羽子板は大小三色箱が添うて玄關の間に取出して有つた。中で大振な辨天小僧のおし繪の似顔は顔が燒けない爲の薄紫を被ぶつて居た。それ等の品物は松子が過去の身の上を信一の頭にやや追憶さした。が今、花やかな品が内にあるのを惡う思ふ事はなかつた。
「ね、もう元氣なのよ」
松子が又意を促した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「からだに障らぬのならば」

「さうを。――阿母さん、頭を解かしてネ」と、娘が甘へる口氣の儘直ぐ座蒲團の上の體を浮かした。母のてつも徐ら起つて、通りへ沿う窓下に置いてある鏡臺の前へ簇て母子が寄つた。

信一は前茶の間に居た。が、湯島へ出かける由を言つて無造作に起つた。湯島の下宿へ來る郵便を見る者で、掛つた中折帽をとり玄關へ來ると、松子が鏡の裏の顏で頷いた。さうしてかれは土間へ下りた。

一時間餘り後、この根津の寓居へ信一は戻つた。

寓居で松子の母親は、松子のこれまでの毀れ物の様な不安定な暮しの身を、その結婚に由つて直したかつた。で、それには仲人を間に入れて式をなし、又良い婿として信一を迎へるのであつた。信一は好きで松子と結婚したさういふ待遇を或ひに煩はしく覺えた。

また茶の間に入り、信一は湯島の方へ言うて越した、大阪の叔父が三ケ月をすまし松の内に東京へ來る由を告げた。

「暮の時は多用で脫られなかつたが、つて。四日の朝くる塩梅なの」

松子は聽いて、母親へ

「御親類の方が、御座下さるのですわ」と詞を添へた。

「叔母も一緒のやうな手紙でした」とかれが言つた。

こんどの結婚の事を、信一がやや獨斷でやつた故、田舍の父は後で愚闘々々言ふた。叔父の出京は、其の善惡を確かめるのと、又嫁の實家へ義理をつくすのと、二つの意味があつた。

かれの頭は、親の手數なしに事を運んで、女房を貰つた事を自身隱性がある故ととつた。で、父の不本意を聞いて、親仁が我儘をいふと思つた。又叔父の遣つてくるのは、其厚意を感ずると一緒に、叔父には其勤めをさせて置く、――といふ顏があつた。

松子の母親は、竹内の親類の者が出てくる事を尤もな事と思つた。松子はかれの面を見乍ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「叔父さんと叔母さんと御座になれば、然は手狭でしよ。湯島の方に泊つて頂くのですわネ」と言つた。
信一は頷いた。丁度下宿の隣室が空いてゐた。
「私達も往つて居なければなりませんわネえ」
「さう」これから手頃な家があるまで夫婦は下宿住居なのであつた。
母親のてつは起つて電燈をネヂた。
「其までに感冒がぬけないとね」と娘に言うて、お勝手へ支度にと出た。
松子は薄く身仕舞をして居た「でも先刻表へも往かなかつたわ、ネえ」と、かれの方へ長火鉢を間にして頬笑んだ。
其翌日、松子は氣分が悪くて得う起きなかつた。午後も肩蒲團を頸筋に巻付けて寢て居た。信一はまた頭に觸はると熱があつた。様子のはつきりしないのは何者かが呪うて居る故かと憶ふた。前の復雜な境涯に居た松子と、この新婚の際に有る障礙とを想ひ到ると、信一は呪うて居る者を見る様に思へた。松子に科はないが、以前の境涯の不純な事がしきりに頭に泌むだ。前には狄田が居た、又その前にはもつと誰かが居たのだ‥‥。しかし其を松子の科とは思へなかつた。松子は已にかれの身近かに居た。
其日母親のてつは松子の寢てゐるのを見て、何時も果々しくない娘を婿の前で氣が退けた。また之ではやがて來る婿の方の身内へも立派な健康な嫁としては出せないと思へた。左様な心を裏切る松子の容態で、母親の頭は沈んだ。こうしててつは癇が起つてくる毎にある、煙草の吹がらをやけにはたく癖で、長火鉢の根に坐つて口を噤んで居た。この雜字の音は松子に分つた。
松子の病氣はこの十日程、或時は一日措いて熱が發た。歯の根がガチあふくらゐ顫へる悪寒に次でひどい上氣がくる。町醫者は風邪だといふた、其藥餌でも効目が出ないのであつた。が、信一は病源を氣勞れだと思うて居た。過去の事がある根津の陰氣な、この寓居を脱がれ、長閑の場所を想つた。
「病院へ往かうか」左う信一は口を開いて、左も右寓居を離れる氣で居た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「病院なんて、さう手輕に行かないよ」と、母親はやや憤つた。かれが露骨に年寄を餘計者と考へた。其が母親に分るのだ、――と信一は思つた。

少時默つた。母親は引目な眸を俯けた、枕の上に頭を寄けてゐた。松子は

「もうすぐ直りますわ。阿母さん」と言つた。

「お前さんの鹽梅、はつきりしないか、ネエ」

「翌日は此度直るわ。阿母さん」

娘は左うして、平常の聲音でまた續けた。

「あさつて、もうお客さんでしよ」

それを聞いて、信一は其耶の重たい頭から、平氣になるのを覺えた。母親は全く松子へ頭を傾けた。それから松子は湯島で探す事に就て、翌日の晩湯島へ移る事、持物は手周りの物だけ等、具體的に母と話して居つた。

「鏡臺、孰らにしませう？」松子は彼の面をみて尋ねた。

「小さい方も鏡に大等です、横須賀に居た時分からので」と母が側でいつた。

「左うね、姿見は持つのに役介だが？」信一は一寸迷つた。

其樣な事柄があつて其翌くる三日、――松子は廻を出た。而してその夕暮れ人力車で、夜具一組、着更入の平たい葛籠、姿見、等を湯島へ運んだ。松子は信一と作共、夜の十時過ぎ根津の母の寓居を出て、電車で上野へ來た。電車の内は正月の夜らしい醉漢が居たが、街はしづかであつた。表戸を閉ひかけた小間物屋で、丸髷に入るので松子は赤い手柄を幾筋か並べては迷つたが、しまひに信一に選ばせて買つた。松子はかれの外套にすり寄つて信一の内懷で、手を把られながら歩いて居たが、も少ししたらと云うて、水色の手柄を掛けたい樣な意を洩した。松子はとつて二十五の齡で無理ではないが、其趣味をかれは黑人じみてゐると思つた。嫌味はなくても良いが無垢な暮しを信一は望んだ。で、彼は其れは頭を振つて、襟卷に埋めた松子の顏を覗いた。道の上で一寸留つた松子は素直に彼の愛撫を待て居た。左うして二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人は湯島天神の坂を昇つた。

朝日で、東向の木綿の窓掛が赤く染んでゐる時、夫婦は其寝床を離れた。直ぐ松子は夜前の赤い手柄、髷形、など頭の物を携へて、結ひ付の根津の髮結へ往つた。今朝八時に東京驛へ著く、叔父から電報があつたので。

信一が驛の降車口から叔父を本郷へ案内して來た時、松子は未だ戻らず髮が手間どるかと思はれた。

下宿の信一の居間は、四疊半二た間が湯島の崖の中腹に造られた離座敷で、東は硝子窓、南は欄干付の縁側、其で見晴しが十分能きた。叔父は暖い日のさし込むこの室が氣に入つて、直ぐ赤革の鞄の蓋を開けた。かれの婚儀や新世帶への祝ひの物嫁さんの實家へと云うて松屋町の福島屋の煉羊羮、など孰れも水引をかけた物を擴げた。叔母は差支が出來て來れない代りに、直ぐ松子へあてて書いた手紙を品物の間へ挾んで置いた。

やがて松子が入つて來た。叔父は坐作を直してから、そのお辭儀をうけて、松子の氣品のある沈著な有様に目をつけた。たつぷりな頭の髮、玳瑁の櫛と笄、濃い眉毛と美しい目もと、下豐で厚く紅い唇、（信一ははじめて松子を見た時、曾て大阪への初旅で逢つた、この叔父の先妻にできた娘の子の俤に松子の下豐を顔立が似通うてゐると憶つた事があつた……）其は可愛くて、叔父は破顔してながめた。この嫁は叔父の心に叶つた。

それから實家へ顔出すると言ふ叔父同道で、信一夫婦は出かける事になつた。根津まで歩くので、見物がてら帝國大學の構内を拔ける道をとつた。叔父は五十臺の大阪の商人で、大學の景色は信一が案内するので興味を惹く様であつた。松子は青い手套の手で風呂敷包を前に保つて靜かに從いて來た。信一は外出には毎も銀のふちのやけた近眼鏡を掛けた。道の片側で煉瓦を敷き詰めた其上を歩き櫻の透いた梢を仰いだ。葉が茂つてこの櫻の木には櫻の實が成つてゐた頃、樹下を松子と倶に往來した事がある。その時分女の境遇は未だ宜いとはゆかなかつたが、お互の心持は漸不安がとれかけて居た……。かれの頭を其様な追憶が掠めた。彌生町の坂の上では、穏やかな午後で、上野の山と根津の屋根々々とが澄んだ、其裾に根津の町が見えた。松子は、もう來たわネ、といふ顔付をした。叔父は中折帽を冠り直し實に滿足氣な面持で、下つてゆく道に歩を運んで居た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

左右の軒並は正月飾りの竹の葉で横町が籔の様に埋つた、其ずつと奥へゆき二階建長屋の一軒が左うで、森本富と實家の名札が讀まれた。叔父は一寸佇んで居て、土間では、後むきで表付の下駄を脱ぎ揃へて上つた。

松子が來訪を告げ、小さい丸髷の母親は、眞面目た堅い表情で出迎へた。直ぐ

「座つしやいませ」と招じた。

叔父は、始ての挨拶をのべた。而して續けて、

「この度は又……」と頭を屈めた。

母親のてつは澁作つた聲で其應答をした。が、感情は亢る臨栂であつた。

「善く能きた女の樣で、叔父としても實に喜悅で御座います」

「教育もない、ゆき屆かぬ者で。――娘は稚い時、父に亡くなられ、言葉では言へませぬ苦勞を致しましたが……」

其樣な會話が有つた。松子は其間にお勝手へ起つて、其支度に掛つた。茶の間の母親は松子を顧みて、

「お支度宜しければ、むさ苦しい處ですけれど妓へ出しましよ、ネ」と左う傳へた。

軈て、邊りの仕出料理屋の物が二人前と、正月の蓋物などで食卓の上は揃つた。母親は電氣が來なくて暗いと斷つて、叔父と信一とに猪口を出した。叔父は酒は好物で、猪口を乾して、關西人故灘や伊丹の本場の事を話の材料とした。

松子は側の信一に

「おてうしと猪口、下宿へ置いて、叔父樣が召上りますわネ」と言つた。

「御事多い間で、ごゆつくりはなりますまいが？」と、母親が叔父に其滯在の事を尋ねた。母親はお體返しをする心組があつた。

「三日間の積りで出まして」叔父は無造作に答へた。

「では、あんまり、せはしなうムいますわ、叔父樣」

松子があどけない顏で、直ぐ引留めた。母親は一日延ばす樣薦めた。叔父は領いた。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

信一の顔は僅かの酒で直ぐ赤く染つてゐた。食後の脊を小窓の障子のあるその壁際に寄せて、横坐りで居た。松子と母親とは茶の間の片隅に食卓をひいて、食事をした。

その夜寓居を出てから、叔父は往來で、肩を竝べた信一に

「森本の暮しは？」と尋ねた。

信一は直ぐ

「今は、素人下宿をして、お國の學生を世話してゐる樣なの」と答へた。而して松子の事も

「初婚ではないのです」左う續いていうて置いた。

叔父は頷いた。年齢から其が自然に聞做された。少時お互に默つた。信一は其餘は口を噤んだ。叔父も訊かなかつた。

松子は二人の後に從つた。

湯島へ歸つて、草臥がある叔父の爲に次の四疊半へ直ぐ床を展べた。

松子は其隣りの居間で。叔母樣から始て頂いた手紙を開いて、信一に渡した。常の叔母の習つてない筆附で、言ふ事を飾らず直かに述べた、文面は面白く且有難かつた。

「信一は氣の取りにくい處もあるでせうがそれをお前さん心の安まる樣とりなし、又内の事は女房の役目故——こんな事書いてあるよ」

「左うを」松子は其をみて頬笑んだ。

それから寢しな、信一は此間中、松子の病氣の事を憶つた。

「けふ、熱は無かつたなア」

「いい鹽梅、ネえ」

左う言つて、寢に著いた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

朝、叔父の御膳には澤の鶴の瓶詰が上つた。叔父は其を樂みにした。而して常は福娘といふのの味に慣れてゐると言ふので、松子は邊りの酒屋の其を探す事にした。

晝過ぎに信一は、叔父を丸の內、日比谷、銀座界隈へ案內した。松子は一寸阿母さんの處までゆくと言ふたので、離れてお互に氣遣はれるのだと思つて、信一は松子を殘して來た。

日の暮れ見物を濟まして下宿へ戻ると、松子は廊下まで出迎へた。居間には福娘の大きい瓶が出窓の厚い臺に載つてゐた。

翌日、信一は社へ出勤する事があつて、松子がお客樣の案內役をした。其晩根津の母親が來た。松子は朝から叔父同道で淺草觀音、上野、三越白木屋などを見物した、其の日の出來事を細々と母親に聞かせた。松子は左うして「けふ叔父樣に買つて頂いたの」と、女物の下駄が揃つてゐる紙函を出した。其は夕方信一には「わたしの履物の古びたの、叔父樣お氣附になつたのネ」と言添へて笑つた品である。

母親は其をみて「左うですか」と愼ましく言つた。而して母親は暫らく居て、叔父の方へ更に「どうか宜しく」と賴み、あすの朝東京驛へは得う見送れぬと斷つて、土產物の海苔を置いて歸つた。

叔父は元氣で、尚信一夫婦が相手で話した。

「土產物の海苔も二百枚あるで」と叔父は、信一が十帖、根津から十帖の其を左う言ふのであつた。又、味い淺漬の大根を持歸りたいと言ふので、信一が漬物屋で其を小さい樽詰に荷造りさせた。

其夜叔父は左ういふ土產物の費用と逗留の宿料と、また朝は自動車で東京驛へ行くと言ふて其車代まで信一に渡して、「之で、用事はすんだ」と、叔父は滿足相な面持をした。

翌朝、叔父は東京驛の建物の內部を隈なく見物した。叔父は商用で各地に旅行するので驛の構へなどに興味があつた。而して八時半の特別急行の車室に入つて、自分の座席に落著いた。信一は窓へ

「淺漬は涼しい處に置くやう、ボーイに預けなさい」と氣をつけた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

松子は、窓が動いて叔父が歸る、其方をみつめ、取殘されて尙佇んでゐた。が、一寸頭を下げて、その儘信一に寄添うて來た。

夫婦はそれから、吳服橋、駿河町、白銀町と通りを步いて、荷車の繁しい撒水の多い道を、松子は草履で惱み乍ら、押して須田町まで來た。東驛の事を終へて直ぐ根津へ向ふ筈のを此朝二人は左樣な道草を欲した。須田町で體が疲れて電車の中へ入つた。

根津へ來て、信一は寓居の茶の間に坐つて頭は輕かつた。軒々は飾りの竹がとれて道端に其枝殘りの灰が散つて居た。左樣な七草の朝の片付いてをる事につけても頭が輕かつた。

松子は叔父が來て以來元氣で、熱はなく病は拔けたと思はれた。

左ういふ松子は其から後、壯健になつた。

二

六疊間の松子は、一度階下の流元へ降りて、晩飯が濟んだ皿小鉢を水につけて置いて、昇つて來た。左うして彼女は軈て一隅に坐り、翌朝の浸物にする蔬菜の下拵へをして居るのであつた。

二枚の唐紙を開けて、信一は置火燵がある奥の間に居た。信一は、松子の働作をみてゐて、自分は貧乏だが斯樣な直かな心持で夫婦が暮して居る、其が何よりだと思へた。……はじめ下宿へ松子が來て四五日も過ぎぬに、信一は其迄の居間の勝手を見失ひ、かはつて松子が物のありかなどを心得て居た。信一は其樣な松子の遣方を惟頰笑んでゐた。すると松子は、內の事は女房の役目故、と叔母樣のお手紙にありましたワ！と事を左う言うて、羞ぢて笑窪を深めた。信一は內外共に彼女が入つて來る事を平氣で居れたし、松子は安心して深入するのであつた。松子は以前あすこにゐた頃扱帶の一部分瘤を作り御守なる物を持つてゐた。信一と一緒になつて間もなく、下宿で、松子は其扱帶をこき垂れ、瘤を端へおくる事をした。松子は出た御守札を見てゐたが急に何かを引破くのであつた。傍の信一が其狼狽の故を尋ねると、彼女は次第に參り、泣顏でその手をさし伸べて、氣を惡くしないでね、茲にある事存じませんでしたわ、知らなか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つたのですもの、と言ふた。其は狹山の小舍で、その人を信一は初めて見るのであつた。信一はその肖像をみて知つて松子にむいて自信が出た。自身の結婚を自然に思へた。御免なさい、ごめんなさい、低く松子は言ふた。信一は頷いて、頭も平らかであつた。其以後松子はほかの扱帶を締めるのであつた。一月の末、信一は職業口のことで關西へ向け、夕方汽車の座席を占めて、東京を起つた。曇つた硝子窓をみて運ばれながら、彼の頭は逆に引返したくなつた。結婚後始て離れる夜で、松子と相隔る事を厭がるのだ。感情の鎚の斯樣な頭は思ひ掛なかつた。豫期にない故、信一は弱つた。松子の側を離れ難い其心持を下り列車は拘はずに動いた。斯樣な目をみるのなら來るのぢやないと思へた。信一は途中下車にて戻らうと考へて、闇の窓邊で何遍か起き上つた。段々隔たるに連れ頭は變つた。頭は移つたが、かやうな感情の鎚を見て、信一は更に妻との間柄が深く分るのであつた。大阪の叔父の家に寄り、泊らずに眞直ぐに歸京すると、松子は朝の灯が點つた電車で驛まで迎へに來た。妾、發句を作りましたワ、お待して居りました間に、と居間で其を見せた。るす中や今日もこたつのいらぬ日。たばこつけ君にあげてる心かな、しやしんとならび二人にたいようてらしてる。左樣な無稽の數句を松子に書留て居た。その頃信一は職業の口に迷つて社會的には不本意で居た。其堪らない孤獨から松子が傍に居ると、お前だけだ！と云ふ頭になる事があつた。信一は口言はずに其で惟妻を抱〆めるのであつた。打込んだ斯樣な氣持は松子に通ずると思はれた‥‥。

奥の間の信一は、松子が薔薇艸の紅い部分を揃へる、其麼ものをみてゐた。松子は面をあげ

「何、見てゐらつしやるの」と、顔を見合せた。信一の眼は直ぐ、お前さんを、と云ふ答へをした。

「大阪へ、又寫眞をお送り致しましよ、ねえ」

松子が神妙に言出した。信一はもう一遍夫婦で撮るのは氣乘せず億劫なので、斯う言ふた。

「現物の方がよいから撮直して、と云ふ叔父の手紙だが、あんな言分は半ば常談だよ。其通りにすると笑ひ草だよ」

「でも、惡ふムんすわ」

松子の詞には、手紙を眞直ぐに受入れた丈の力がこもつてゐた。信一は其には終に閉口した

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「ぢや、單りで寫した束髪のがある、其を燒增にして、遣りなさいよ」

松子は「左う致しましよ」と 頷いた。

「此間のはあなたの方本當によく撮れて居りますワ。お國のお父さんからは御便りありまして？」

「昨日こんなのが來てゐる。寫眞の返事は未だだが」

左うして渡した、端書の文句を松子は讀んだ。ひがんになつた東京はさだめてあつたかい事と思ふ高山は山に雪があるで寒い、家内皆無事である親類も皆無事である、白山神社例祭は本年五月五日と定まつたけれど又十五日に定まつた都合上十五日頃に歸高してはどうだ、廿日より新聞がこないから誠にさびしくてたまらない何卒〳〵新聞早く到著する樣にしてください、新聞社へ何か原稿の一つも月に出す樣に致し是非〳〵大至急送附して下さい此ハガキ着次第返事待居り候草々

「お前さんの事書いてないが、大阪の叔父が言うて遣つて、納得したのだ。氏神の祭に來いとあるのは、嫁への愛想だよ」

「左うを。この新聞の事？」

「社を止めたので、社で送るのを中止したのだ。其を讀んで、僕は堪へたが」

「左うを。家で取つて居る分を、毎日封じてお送り致しましよ、ねえ」

「手數だが、其なら親仁はよろこぶ」

「妾が致しますワ、ねえ」

「ぢやあ、其樣に新聞の事返事を出すよ」

松子は頷いた。其で信一は、父へ端書を書いた。松子は階下へ降りた。階下で晩の中に湯がく菜の香ひと、燃ゆるガス混爐の音が聞えてゐた。

四五日過ぎた。大阪の叔母の端書が屆いた。松子さんほんたうのお顏はしらぬけれど今日の寫眞はまことによく寫つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て居ります。先日のもわる事はありませぬ、海苔の金を送ります。其の朝かやうた黒梅のを讀んで松子は
「海苔をお送りしたのは、差上げた心算なのですか？」と、信一に尋ねた。
「僕が金がないからさ」答へは無造作で、素直に出た。松子は輕く
「びんぼう御自慢、ねえ」とにつこりして、あとへから續けた。
「妾は、一番お菜に苦勞ですワ、幾品もあると錯し相になさる」
左う云ふ松子は苦勞相な顔はしなかつた。料理の部分の新聞切拔を丹念に貼附てゐながら其獻立を一遍も用立てない。信一は通い朝飼のあとの滿腹故、其暇ことに頭は働かなかつた。
それから毎日の事で、松子が起つて衣紋棹の物を外づし、信一は褞袍を重ねてゐた湯帷子を脱ぎすてた。
「社はひまなんだから、ゆかないでおからうか」松子は佇んで顔をみてゐたが
其は、勤めより細君と遊んでゐる方が樂み故、理屈は簡單であつた。
「たうを」と、彼に惑かれて笑窪を深めた。すぐ又夫婦は腰を落付けて、特に珍らしい話もない顔を見合せて、時を過すのであつた。
左うして其近く漸と松子は六帖間で己れの仕事を撥ける時分、信一が奥の居間から表二階へ出て窓の外なる長閑な花をながめ渡し、窓敷居に尻をすゑた。やがて
「おい、椅を出して」と言ふ。云はれて細君は面をあげ其に頷いた。
而して松子は中折れ帽をとつてすぐ良人の背から梯子段を降りた。玄關で
「すぐ歸る」と言葉を殘した、其まうしろむきの姿を松子が眺めた
午後、戻つた信一が梯子段を昇ると、松子が獨り笑ひをみたやうな顔で
「お早うムいましたわ」と左う云ふて迎へた。が未だ獨り笑ひの顔面であつた。而して松子の話す處に依ると、さきほど、
起つて押入の唐紙を開けると唐突に内側の何かがドシンと突掛つて來。彼女には訳のく讀みに居間の眞中へ眞仰向にな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つた。不意で息の根が止まるやうであつた。疊の上へ起かへり漸と氣付いた。押入に積あげられてた本の嵩が棒たりに、押入の外側へたふれ出てゐた、本の類に彼女が推こかされたのだ。それで松子は笑ひが一時止まなかつたと云ふ。

「怪我しない？」

「本の方が傷んだやうですわ」松子は紅いてがらの髷をかしげ左う云うて坐つてゐた。

居間は北向の窓があり、六帖は西日がさしこんでゐた。二間を通じて世帶の道具らしい物もない片付いた住居で、一人殘される妻は可憐なのを、信一は斯時始て氣付いた。

晩、信一は、松子が三絅町の母の宅へゆくのでそこへ送り、遲くに呼びにゆく都合で、やりかけの創作の爲壁際の机に向つた。早めな夕飯の後、出掛けの松子は愚圖々々として、ずうつと彼の机へ寄つて來て、一緒に連て出たい振で、促した。

「阿母さんの裏二階へ見えた人、繪工さんですの。今晩は皆なでお花を引きますわ」と大樣な顏色に促した。

「こんどの下宿人？」

「え、繪をおかきで若い人妙に靜かな方よ。左うね沈着すぎる位よ」

「兎も角あとから往つてみるよ」

「左うを」

なほ出掛兼てゐる松子は、抱寄せられ信一の膝に腰かけるのであつた。「往つておいで」といふ、その愛撫を俟でうけた。左うして靜かに起つて離れ、松子はかへりみ顧み、梯子段の頭では嫣然とし、やがて頭の髷が降口に消えた。

信一は創作の机を壁際に押つけ坐つてゐた。少時坐つてゐたが味くゆかぬし　頭は松子の跡を逐うて迷ひ出した。信一は奥の間を起ち出で、約束の時間とならば早いが、迷ひ出いたので迷ひの種の處へゆく事にキメた。而して仕事の机の上もその儘、梯子段を降りるのであつた。

來た信一に、松子は　花合せの座で松子自身の蒲團をちき隣りへ直し、而して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「火燵に座したのでしよ。暖かいから斯う火燵の中では、芽が出ますわ」軽くそんな事を喋べつて、仲間に加へた。

信一は真むかひに坐した、二十四五位ゐな男の人の目礼をうけた。こんどの下宿人などが分つた。眼の大きい頬骨のとがつた顔で、絣の絹物の古びた膝は横坐りになつてゐた。その右は、Kといふ表二階の方に住むM鑛山の染料部の勤め人、それから次は信一、松子、母親と云ふ順なのだ。而して信一は、室内の装向の枠組、皿鉢刷毛、座右の趣味的なかざり付、左様な物の邊りまで目を遣つた。

松子は揃へた札を出して

「高業さんの番ですわ」と言ふた。

左う我のはうの名を云はれた人は、花合の数のことを不得意な塩梅で、右を遣りとりする膝元へ眼を落してゐた。

「姉さん、代つて播いて下さい」と、Kは同い齢の松子を左う呼んだ。お國訛がついてゐた。

「あ、左う」高業さんは一寸どぎまぎしてゐた。

信一はそれから母親の老けた顔へ目を移した。母親が親になると、不手際からよく札の分配を間違へるので、娘の松子が代つて播いてゐた。こんど松子は高業さんの代りをまた無造作に勤めた

松子が親の番のとき、その膝もとにはくつきで松の鶴とおかの短尺とが並び、其時、どを二が梅の赤札が取り込み、場へは松のカスがめくれた。つぎの廻り番で松子が、膝下の二十札か役を割る赤か執れかで場の松をとる都合になつたが彼女は素の松を次に廻すのであつた。信一は事柄をちつと注意してゐて、花合せに慣れてゐる譯はないが、賢い頭脳の働きだと思へた。

十一時に、夫婦が一緒に表てへ出て、通りはしづまつてゐた。妻戀坂の小路では、味噌問屋のあたり夜業で作る味噌豆の香がたち籠つてゐた。石壘の坂の半ばで、松子は自家へちか道の狭い階段を、降りようとした。きのふ其下の段に或る堆物を見掛けた、信一は

「石段には糞があつたよ、ふんづけるな」と注意した。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

松子は留められて「おかしな物、けふはお掃除してありますわ」と答へたが、良人が實い甃の上を降りてゆく其方へ従つた。

「脊のたかいお家ね」と松子がいふた、其家の横手から湯島の崖下の道を、夫婦は互に肱肩でもたれ合つて、通り過るのであつた。横丁を半分入つた煉瓦壁の下の溝へ、信一は玆が習慣になつた、小用をする。その間、松子は佇んでゐた

「ね、お前さんも爲ない？」信一は其樣な風を、この晩野蠻にしひた。

「可笑しいわ、殿方と異つて」

「代つて、番をしてゐてあげるからさ．ね」

いなめぬ松子は

「厭な方あつち向いて、ねえ」といふた。たうしてから跼んだ。煉瓦壁の夜空の高い辛夷の梢は、ぬれ紙の臘梅の花が漂ふのであつた。

四月の末、晩に、信一は奥の間で、卓にひろげた夕刊新聞の紙面へうつむいてゐた。松子が荒川堤の櫻の花の上をいふて見にゆきたがつてゐた。信一が相手にならずにゐると、その方へ

「ねえ、阿母さんがこのお休みに皆でゆきませうつて」と更に聲をかけた。

「僕は往かないよ。花見はへんに氣がうはつくからな」

「あなたが座つしやらぬのは、いや」松子は甘へた。

「お花見の趣味はきらひだ」

「では、屹度阿母さんの方もお中止ですわ。折角の皆の樂みが」

「僕は往きたくないのさ」

左樣な風で信一は新聞の紙面から顏をあげなかつた。すると松子は少時して「厭あ」といふて起つて來た。たうして信一の顏の下の紙面へぢかに素足で乘つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「どこを讀んで座つしやるの。茲、茲」と半ば本氣で、新聞を踏み破くのであつた。
一寸褰げてゐる袷の裾、踏メてゐる丸味な踵、其で顔を揚げた、信一は直ぐ傍なる、半分泣顔の有様でゐる松子が、いぢ
らしかつた。かやうな仕種の松子には前にも一遍逢ふた‥‥松子が幼時嬉戯したとのある芝山内の往時の跡を見ようと
若夫婦での外出をしたが、その日春先の雨を含んだ空が想ひになり、止さう!。と途中ばで戻つて終つた。夕食後、
松子は晝間のよそい着の儘で長火鉢の側にゐた。信一は造りかけの創作の爲時間を惜んでゐた 一寸往つて來ます!何
處へ。!どこでもないわ遊びにゆくんですわ! 會話の鹽梅が異しいので信一は机の際で顔をみ合し、!いけない!と
留めた。松子は沈んで默つて、酒鹽にとつてある酒を棚から持出して猪口で二つ三つ重ねた。どうしてそんな事をす
る!。憂さ拂ひですわ! 信一は起つて來て酒器をとりあげると、上氣して苦し氣な息をつき彼女は猶飲まうとするの
であつた。あなたは薄情ですわ、儘を自由にせようとするだけで、些とも思つて吳れないのですもの 一つ手助けをし
て頂かうと思ひますといつも、内の事は女房の役目故、と仰しやるのですもの。些とは構うて下さるのが良人の情あひ
ですのに。こんなと阿母さんにも云つて往けないし、阿母さんも斯様な鹽梅とは知らないワ! と泣いて、こんな者お
嫁でしよ、もうどこかへ往きますワ! 其戀風に掻きくどいた。信一は彼女の思詰た感情が反映するわくわくする胸で、
松子のふらふら體を起して出掛ようとするのを遮ぎつて、四僻氣ない、妻を寝かしつけようとするのであつた。その時頭
は妻の鋭い詞と駄々とを左う考へてゐて忍んででも居られたい質に賊だが、露はなのでその方がいいと判斷した。自身は
又、書生時分からの我意をその儘捨てない、非難にに堪へた。妻の詞は圖星を指してゐた。普段と異つてゐる松子は旅
れと醉ひとで胸元をはだけて今はだらしなく信一の腕にもたれてゐた。左樣な女房を介抱する圖を、左うして信一は顧
みるのであつた‥‥。
松子は、夕刊新聞のひろげた紙面を踏まへて頑固にまた踏かへた。「往つて下さるのねえ」と尋ねる聲は艶があつた。
その氣持の張りにぐひと惹寄せられて、信一は終ひに花見に行く事を領いた。
感情が漸しづまつて、松子は「御免なさいね」とあやまつた。その氣持の濟む爲信一は大きく領いた。夫婦はやがて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

穏かで、彼は斯麼事を聞いてみるのであつた。

「何故、その樣に一緒にゆきたがるの?」

「それはねえ。良人を自慢したいの」左う答へて、細君は下豐な面を染めた。

花見にと母の住居の表戸に錠掛けて、母親松子信一、Kと細君の高榮、左う云ふ五人は三組町から打連れた。Kがお手物の染料をかけたと云ふ好みの手拭を呉れたので、連中は一本づつ其を持つた。

一杯な花の八重櫻は散りぎはで、花の下の大きな灌木のひまひまに太いさくらの幹が現はれた。

信一は母や女房やを率領するので自然、連れのK繪師をも引廻す鹽梅であつた。花見の興の助けにならぬのが氣の毒であつたが、仕方がなかつた。

皆は淡い草臥れを覺えて、晴れた休みの日の夕暮が來た。歸り道廣い川ぶちで、女作れの信一達は下駄で踏込む渡船に乘つた。――この渡船で妙な圖に逢ふたのである。

花見客を滿載して船が離陸した時、板棧橋の上へひとり、洋服姿の四十歳位で口髭のある酒の醉が、ふらふら來て留つた。漸く出離れた舟へ醉漢は而てを揺る

「おをい待て!」と連れがある樣子で聲をかけた。

水の上の船はかまはず隔たり、乘客は棧橋の人に向いて聲で相手になつた。すると

「泳いでゆくぞ!」と男はその眞似をしてみせた。

「泳いで來い!」渡船の乘合は醉漢の面を面白がつた。

醉漢は中折れ帽と上は着とを脱ぎすてた。しやがんで身につけた物を段々に板棧橋の上に竝べるのであつた。遠目からも著ふるびのめりやす襯衣が露はになつた。驟てその襯衣をも剝ぎとつた。

後の土手には花見歸りの人が溜つてゐた。雁木へ降り佇んだ三人四人は、裸身の際で工合惡い鹽梅で退いて土手へ戻つた。端の水際には男が一人になり、それで可笑味よりも反つて慘酷な光景になつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

醉漢は腰のズボン下を脱がうとしたが、止した。不器用に物憂く櫓木を使り、川へ踏込んだ、ズボン下の内股まで水づき、指をボキン〳〵折り曲げ、男は沈默のなり身をのべ、泳ぎ出いた。

乘客がぎつしりの渡船は沖にゐた。河の水の上には泳ぐ人の眞黑い頭だけが出て、其は下もへ下もへゆく。門邊は不安になる。

「醉つてゐる！　流れる！　早く助けてやれ！」意地惡く目守つてゐた人々は、聲々に喚んだ。

渡船の船頭はへんに眞面目な面持で、力限り岸の方へと漕いだ。岸では船頭が一一乘客の渡し錢の銅貨を集め、助け船は手間どれた。空船になり船頭と作れらしい人とが、船を漕ぎ出した。

渡船を揚つたものは一樣に殘らず、直ぐ堤の上に登り人垣を作つた。對岸の土手の人垣は花見歸りが段々に溜つて濃くなつた。

信一はへんに一段落ついた感じと、尙見るのは堪へらない氣持とがあつて「歸らう！」とうながした。動かうとせぬ女共を棄てておいて、ひとり土手の横腹をこそこそと降りた。水に溺れて今死ぬ人をみるのは厭だし、救はれて揚つた時互に顏を合はすのも信一は恥かしかつた。河面を隱した大きな土手を顧みて「歸らう！」と皆に聲をかけた。人垣を綺麗の高聲が離れた。碎いでK、跡から母と松子とが、こそこそと土手を降りて來た。

三

暖い蒸々する夜であつた　松子の頭の生際は或部分動く墨がひかれてゐた。信一は二三日前から氣がついてゐたのだが、その晩かの女の面を見て思はず言つた。

「墨がついてゐるよ、ここ」左う云うて彼は自身の前額に手をあげた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「眉墨なの」松子は穏かに答へた。直ぐ續けて「生際が一寸拔けましたのね」と笑顏になつた。
「髮結の學校に出てから？」
松子は點頭いた。
信一は默つた。とり返しのつかぬ事をしたと思ひ、自身の失策の氣がした。松子は生際の良い髮の毛の豐富な女であつた――女髮結を志した根本はその髮の美しいのに據るのであろう――が、傷いては一つの特長がなくなるのだ。信一は髮結の學校のいけない事が分つた。髮結の學校では互交りに自身の頭髮をけいこに貸し合ふ。日日何遍か宛頭は道具代りになるのだ。(それで翌日から止めたらよいと左う言はなかつた。左う斷然と出なかつた。其時左うすれば或は遅くはなかつたであらう。後の日の肺を惡くする事だけは免かれたかも知れぬ)
「髮は減りますわね。けど多すぎる位なんです故」松子は左う心を慰めた。
彼は點頭き、漸あつて、窓の緣へ體を移した。「風が吹くか頭が重いよ」と云つた。
「今晩お仕事お休？　では阿母さんとこへゆきましよね。これ直ぐ縫ひ上りますわ」
妻は晒しの肌衣を造つてゐた。松子は一方の瞳にほしがあつて左うなる、電燈の眞下の細い針をもつて手もとに段々頭が屈みこむ。松子が髮結の仕事を選んだのは、その嗜好もあつたが、裁縫ではたう頭が屈みこむ不自然の故であつた女髮結になり、かの女自身働いて彼は彼の創作に沒頭してよいと云ふ、松子が考へをのべ左様な企を申出た時、信一は聞とりその考へを黒人の女によくある思想だと思ふた。結婚して間もない最初にその申出があつた時、松子自身の體の弱い理由で思留らせた。それから、四、五月經て押返し云はれた時、松子はその母親の爲、行末一人の母をみるので、彼は妻の働かうとする覺悟が分つた。左うして信一は、働かないと安心がゆかぬ妻の心根を合點して、その企を首肯いた。かの女は髮結の學校の六十日間速成科と云ふのへ、今日で十日間出たのである。
「今晩お仕事お休ねえ」又、松子は顏をあげた。
信一は窓敷居に腰をかけて默つてゐた。晝間は勤の身、歸宅後は壁際に仕事の机を押付て居て、何時も時間を惜む。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

信一は細君に向いて
「頭が重くて、悪い晩だな」といつた。松子は
「蒸々するから」と應じ、「外をお歩きなさいましな」といつた。
軈て松子は出來上つた晒しの肌衣を擴げ、赤襟が上いか彼に相談した。肌衣は奥の三疊の方へ仕舞こんだ。間もなく松子は外出の前掛の紐を結びながら、信一を促すのであつた。
夫婦の頭は直ぐ母の住居へ向いた。母親は茶の間に獨り居た。而して三人は笑顔になつた。その晩母が
「ねえ竹内さん。松子が髪結の學校へゆくのにも都合がよいし、往つたり來たりの面倒もなくなるわけですが。この家の二階へ引移つてはどう？　下宿人をおくよりもねえ」母親は其相談をした。
「左う」と、信一は口を噤んだ。彼の頭は、新婚直ぐの半年の間、兩人限のくらしをして其味を十分味つた故、茲で二人の間に母親が入るのを、或は丁度頃合なのかと思へた。が即座には答へが出ず默つたなりでゐた。
松子はセルの膝かるく坐し、信一に
「未だお二階あいてゐないのですし、直ぐにはねえ」といつた。松子は母と住むことを望んでゐた。この頃早朝學校へゆくので、朝飯は母の家で食べ、信一も跡でこの茶の間で食べてゐるのだ。松子は又
「月末までに空くかしら、阿母さん？」左う尋ねた。
「事情を曰へば退いて貰へるがねえ」
「さうを。なら宜いのねえ」
信一の頭は、松子の無遠作た有様に惹かれた。又彼はかの女と母親との話に向いて他意を表さないので、自然母と同居のことになる、自身の立場を思うてゐた。
「四疊半に机を置いて、誰もそのさまたげをしないとにしてね」左う母親は云つた。
彼は點頭いた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「茲へくれば入用も少しはぶけますわネ」左う曰ふ松子は、雜用を記入する紙の處々、幾圓かりましたと書いてあり、母親にその算段をさせてゐた。

「では、空きましたら移りましよねえ」かの女は母と良人との顏をみて曰つた。

信一は前刻の松子が生際を見、只點頭いた。母親はぢみな髷で一寸お時儀をした。

それから夫婦は外へ出た。松子がいうて、本郷座のさきの何地藏の緣日に足を運んだ。境内でかの女が拜んでゐる間、彼は佇んでゐた、左うして信一はもう盛り過ぎの夜店商人の品物の傍を通り、盆栽花卉の類の場所で、芝櫻と云ふ日本名がある、長い伸びた一村の渡種の草花を見いだした。軟かい好きな花であつたが、彼は臆劫で只行き過ぎた。

ある角を曲り、不意に淋しい通りになつた。水道の給水場の堤下をすぎ、學校、病院などの大きな建物の根を歩いた

「ここですわ」左う云うて松子が佇んだ。髮結の屋の軒下にゐた。硝子棚の内は、怪しい別に大きな島田髷があり其他粗惡な髮で結髮の標本があつた。信一は薄白く置いた塵埃をみた。上が教場なのだと云ひ、木綿のカーテンの窓明りを見上げて、歩きだした。歸りの道で、松子はお國から習業に來る寄宿生の上を云ふた。かの女は直ぐ通へる自身を頭に置いて云つた。

信一は默つてゐた。より添うて更けた通りを行つた。濁りのある空は風の音がする。組んだ二個の手が汗ばむので、松子は袂の紛帨をとり双方の手をふいた。

戾つた、夫婦は、居間の電燈をつけた儘疲た毎時もの通り薄く衾を開いて妻が直ぐ眠つた。信一は松子の額際の眉毛をみ、やや跡からその傍に眠つた。

四五日過ぎの夕方、松子が信一に

「けふ下のお內儀さんが、跡にお身內に借りたい方がある故つて」といふた。——母親の下宿の畫工さんと住居を交換する、其を穩當と考へて、下へ松子が計つたが其を斷られた。

松子の報告を聞いて、信一は、階下の內儀の意向を思ふた。松子が其間居ない故、二階は腰が浮いて落付がない故下

では不安なのだ。下の内儀は深切者であつた。其故に、不安が一層我慢できないのだ。彼の頭は左う考へた。
「出てゆくので、下の人は氣が惡いのだ」と云ふた。
松子は點頭いた。そして口を噤んだ。彼も少時默つてゐて、頭はほかに向けた。
月が變はり、母の二階は、もう空ける筈の畫かきの商業が旅に出てゐた。其旅の宛名が分らぬので手紙が出せなかつた。畫かきのずるけてゐるとは思はなかつたが、信一はいつまで浮腰の自分が、かなはぬ感があつた。離れた階下の人の心根も思はれた。左うして、信一は兎も角も母の住居に引移るとにした。そして杵絹などが殘つておる一間を見、信一は商業と工合惡くなる場合のあるのを覺悟した。
畫工の其人は半月程過ぎて來た。玄關の間で母が、すぐ斯う云つた。
「お便りがなかつた故、松子らをさういつて、呼寄せましたがネ」
もう薄羽織の其人は十間に佇んでゐた。茶の間の方の小窓の障子が開いてゐた故、信一は窓で互の顔をみた。
「さう!」と、商業はことばをきり間を置いて「濟まぬ譯でした。ぢや、跡から荷を貰ひに來るやうにしませう」と母親に云ふた。左うして上らずに、またすぐ外へ出た。
信一とは互に口云はなかつた。母親は留る間がなく其人は隔たつた。
何日かして松子も彼も折柄居なかつた時、畫かきの人は轉居した。轉居先は分らず跡で端書を越すのかと思ふたが其も無かつた。窓で互の顔を合せた折の商業の弱り然かも上らずして去つたとを信一は憶出し、其人が頭に殘つた。互に濟まない心根で感じあつてゐると思はれた。(その後信一は道の上で商業に逢つた。一寸頬笑合ひ、十分程立話して前の拘泥は解けた……)
松子は日日髮結の其に通うてゐた。區劃ある紙の一角毎に出校の印が捺され紙全面六十捺されると果てる。松子はその印が紙の大半になる迄通つた。そこで病氣になつた。
信一が勤から夕方戻り、平袖の湯帷子に腕をとほし疲れ氣味で裏二階にゐた時、たすき姿の妻が昇つて來、疊の上に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

仆れた。脊は疊へぢかに腕は眉の上へのせた。

「少し熱があるワ」

左う云ふ松子の額際に、信一は口を噤んで手の平を當てた。それから體溫器を挿し込んだ。それは間違かと思へる程昇つた彼は體溫器の度できよつと思つたが、寢床を造りかの女の胸から小蒲團を掛けた。信一は表二階へ目を移した未だ西日のすだれが窓口に垂れてゐた。

母親は娘の裾の方で足先を握つて見て

「足の指は冷めたいよ」といつた。

「しろ田さんを呼ばう」と云ふ彼の言葉で、母親は直ぐ梯子段を下りた。

松子は紅い面の薄目でかう云つた。

「しろ田さん厭。病院にやられるから。病院でもう逢はれないから」かの女は急性の熱から傳染病の隔離病院を考へ

「病院は厭、裏門から車で出させるから」

聽く信一は、其言葉より、自分の氣の弱りを打消す爲「大丈夫」と口で云つた。

「お盆が來るから、早く直さねば。直ぐ直るわ」お盆にかかる病人は死ぬさうなと何時か云ふた、松子はそれを氣に掛けてゐるのだ。

枕元を母親が代つて、信一は表へゆき細からげの氷をさげて戻つた。茶の間は電燈の下にお膳が出てゐたが食慾はなかつた。彼は醫者を待かねた。

母の知る町醫のしろ田さんは酒で染めた顏を見せた。しろ田醫師は容態をみてから、病人の胸元の氷袋をちやんと心臟の上に直し、胸部濕布の事を云ふた。タオルよりもネルが良いと、ネルを用ひるように繰返した。診斷のとは確と云はなかつた。家の者に眞向では物を云ふ醫者の面持から病氣は輕視出來なかつた。しろ田さんは半時間程坐つてゐて戻つて行つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

松子の胸の濕布は枕元の袂時計の時間にて正しく取替へた。彼は又氷嚢を目守り非膀胱の薄皮の上の汗を手拭では拭ひとつた。電燈は覆ひをかけた。病人の神經の休まる爲、亦室内の空氣を幾分減らす爲。

松子は前刻彼樣に何か云つたが、しろ田さんや母親には何も言はなかつた。頭は冷つい氷の袋で囲はれ、草臥れて仰向になつてゐた。十二時過ぎに熱は下りかけた。信一は下つた體温器を指に掛けて、直ぐ自身の頭がらくになるを覺えた。本當に熱の退くのを見定めて、漸く落付いた彼は母親には下で寢るように云つた。夜半に濕布を止めたが彼は枕元に尙坐つてゐた。窓の庇の空は段々に夜が明けた。

朝は、松子は水だけの低い枕で穏かに眠つてゐた。母親が交代し信一は階下へ降りた。流しの板の上は氷の殘りが鋸屑の儘とけてゐた。

松子の發病は左う云ふ有樣で、熱は一時下つたが、翌日の晝間再び昇つて夜更けて下がつた。熱が出るとかの女は「あつあ、あつあ」と呆氣づらくなる。病床の傍の者は其樣から直ぐ不安になる。熱が退くと皆がらくになるのであつた。左樣な有樣がお盆から土用にまで續いた。熱の昇り下りが斷續し松子は體が弱つた。

「氷が手のひらにひつつくんだよ」と看病の彼は云つた。

「こんなに冷やすと髮は傷むねえ」と娘の頭を指して母は云つた。

母親は瘧でないかと思ひ、隣の内儀の瘧が直つたと云ふ町醫を頼んだ。瘧かしらと其熱に間日がある故信一も考へた頼んだ醫者は腮に無精髯を生やし五十臺のちよくな人であつた。診斷のとに瘧のやうにも云はなかつたが、兎も角もキナエンをよこした。そして二度目は診て貰はなかつた。母は何處かで、胃腸の熱、野菜ソップ、左う云ふとを聞いてきてその手違をした。又、サイカク、キナエンなどの下熱劑を頑固に用つた。

松子の捗かゆかぬ病に向いて、信一の心持は離れ段々冷淡になつた。始はこの上外で働いては體をこはす故と勤を休んで看病をした。信一はその出勤をずつと怠つた。壁の間の古い夏服をとり、體につけながら自分の其冷淡な心持が分つた。が、社の數の方さう捗つては措けねので彼は出かけるのであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

而して仕合せと松子の病ひは、時日が直す工合で以てその發熱が止んだ。でかの女は後の用心をし段々體は力づいた夏の日をくらし、九月に暑さが和いできた。元氣づいた松子は、前に述べた區劃の大半捺印された髮結の學校の紙をとり出いて眺めた。もう僅かで果てるのであつた。松子は再び學校へゆく事とした。（髮結のはげしい體使ひで、病ひを出したが、――直つては、その懸念が薄かつた）

松子は二度目通ひかけて、頭の髮はずつと減つた。病氣あげくではあつたが、前に生際の傷んだ位よりも髮の毛の量がぐつと減つた。或折、信一は松子の顔に眞向で

「髮はあと、また生えるかしら」と尋ねた。

「若いうちなら生えますわ」

それは松子自身若い故と云ふのか、二十五なので時が過ぎたと云ふのか、分明しない返事であつた。其以上、もう信一は聞かなかつた。松子は

「もう髮結の方はすみ、此頃きつけの方の衣裝科へ出てをりますの、之はちきですから、うちで商賣が出來ますワ、ねえ」と云つた。

「うん」

而して松子は衣の看板などの事や、まだ後の希望をば告げるのであつた。信一は聽とり點頭いて居つた。が、妻の頭の髮の早う禿くなつたのは見る毎に憐みに思へた。

四

秋の彼岸の入りに、母、松子、信一、同伴で横須賀にまで出かけた。横須賀にある松子の養父の墓へ行くのであつた母はこの彼岸の墓參を前から口にしては、皆で暮らすやうになつた心喜びを見せてゐた。信一は松子が成人した此土地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を見たかつた。又かの女達の知合で深田の小母さんと呼ぶ、剛い性格の老婦人を見たかつた。

(二)――深田の小母さんは造船所の潜水夫の内儀だが、娘時代に何某へ嫁入し生れた女の子を殘して離縁になり、子供が忘れられないで生家を家出し、藝者、娼妓にまでなり、而して潜水夫に嫁いだ。が男と娘とにいぢめ通され　其間に戰爭が起り夫の潜水夫は旅順口へゆき其地に情婦があつて戰爭後も永く戻らなかつた。潜水夫に取殘された彼女は、始、寡い茶碗を拵込んで用ひた程の窮迫の間から、段々に仕上げ家作持ちまでなつた。家作の訴訟沙汰が起きた時彼女が公に出て辯じた程の婦人になつた。而して後に夫の眼がつぶれたと聞き滿州まで出迎へた。

また深田の小母さんは或る身緣のない女を養ひ年頃に横濱の何某へ嫁入らせた　男の子が生れたが、夫が放蕩者だと云ふ勞で子供を殘した儘離緣させた。當の女の人は横濱へ戻りたいのだが深田の小母さんは頑固で、自家の水仕女にして終つた。また松子が横須賀で養父に死なれた跡十七の年聟を貰らつたが、其聟を惡く云つて離緣の策を立てたのは深田の小母さんの由。松子はそれからさまざまの境遇を經て今は信一の妻になつたが。

潜水夫の夫の失明はその後直つた。内儀は稲荷信者であつたが、その眼病の癒えたのを自分の信心からだと云ふた。而して增々稲荷に凝り彼女は氣が狂つた。其は又直つたが、彼女の言葉では其も信心で直つたと云ふ。彼女は目下自宅に三峯様と稱する祭壇を造り、白い髭を立て盛んに信者を集めてゐるのだ。

「深田の小母さんは偉い女ですから」と云う松子は何時か云つた。信一は其婦人が逆に稲荷を利用してゐる點は剛い性格故、松子の偉い女と云ふ批評に首肯いた事がある。――(三)

午前の九時頃品川を離れた汽車の三等室の一隅に母子はゐた。松子は座席の上から時々、狡るい頰笑を信一の顔に波らしては、半紙に何か書き留て居つた。その紙の跡は萬年筆の字が讀まれた。としよりが窓からおしへる土手の萩の花汽車の窓まばらに見る栗山子や黄ろい青い栗の花、汽車の窓のそけばすかして見ろ梨の棚。向側客ら東く馬子のたるさま。幾何のやうな初お輪りもあつた。けふのおしいかな行の聲へるような心持が、かの女を即興詩人にしたのであ

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つた。信一は同じ窓から、岡、畔、道端の赤い曼珠沙華の花叢を目標とし、脚が倦まなかつた。

横須賀では汐入の長い阪を登り入不斗の寺へ行つた。門前の店屋で樒を求め本堂から廻つて裏山の墓場へ出た。墓石に信一は手桶の水をそゝいだ。かの女達はお隣の墓石を

「赤んべ爺さんの墓も掃除がしてある」

「深田の小母さんがして下さるのねえ」

さう云つて其墓石にも額附いた。爛れ目で赤んべ爺さんと綽名された獨り者が近隣の世話で茲に埋められた、その墓石と松子の養父の墓石とは、深田の小母なる家の墓場に在つた。而して漸佇んで信一の頭には松子の少女時代が覗かれた。前から折々話で聽いてゐた故かその生活の有様は身近く親しまれた。

三人連れはそれから寺の門前に戻り、聯隊の屋敷、練兵場の原、柏木田の昔の遊廓、その道筋を深田の方へ歩いた。殘暑で汗染み疲れと空腹とを覺えて來た。信一はそれを口に出した。

「何か喰はふ。つまんで喰ふやうなものでも」

やがて三人はある鮨屋の壁に造り附の長細い腰掛に並むだ、鮨の飯は少し硬かつたが、味く喰へた。表の暖簾を揚げて客が加はつた。倶に黑犬が從いてゐた。草鞋姿の女の客で横須賀在の女房らしかつた。その人は土間の犬へ海苔卷をとつては與へた。犬は耳と尾とのきつちりした眞黑な毛色の純粹の日本犬であつた。犬を見戍つた信一の頭は、考へてゐた幼な顏の松子とこの日本犬とが、頭で感じは結びつくのであつた。何故か、日本犬の感じの松子の幼な姿が思はれた。

「良い犬だナ」信一の詞に、松子は

「さうね。でもこはいわ」と小聲で答へた。

而して三人は腰掛を退き喰散の皿の前から體を離す時、地べたの犬は四肢でぐいと起き渦曲がりの精悍な尻を揚げた。

彼の頭はかの女の稚い時を此麼風に思つたが、躰で道の上では、第二番目の目標の深田の小母の家をさして步みを向け

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。海軍病院の窓下から松並木の阪道を登つて往つた。

玄關へ取次に出た初々しい髷の女の人が、――此家の養女のK子といふ松子の幼友達が

「あら、松子さん」

「まア」同時に云つたが松子は自身顔が赧むで、幼馴染の丸髷は始てゞあつた。左うして外つた。色の黒い老けた女が――横濱から出戻りの女が、カナ盥の水を運んで來た。

「小母さんは、あちら？」

額から濡手拭を除けしな松子の母は訊ね、K子が點頭いた。其は別棟の祭壇の方を云ふので母親は直に赴いた。

信一は縁側に出た。垣根の二本の松を越へて下の家々は甍が段々をなし海軍病院の窓も目の下で、湾には軍艦が三四見えた。座敷で、松子は髪結の上から相向の鴇色の手柄をかけた友の頭を賞ひ、K子は紋染をやるなどゝ又云うてゐた。母親が戻ると松子は

「あちら、伺つても宜しい？」と訊るのだつた。續いて信一の顔を促すやうに見た。松子は祭壇などみようとする彼の冷へを心得てゐた。

氷、炭の俵の上に寄進の名の挿札がある何俵か積上た土間から外り、松子は坐つて玄關の間の唐紙を開いた。座敷の上は色々の大提燈と旗とが賑かだつた。祭壇の横の小座敷から白衣の老婦が――深川の小母が、兩人を向色した。松子はまづ賽銭函に白銅を落し合掌した。信一は遠くに只坐つてゐた。香爐かね木魚、奥の龕には千帳鏡幣が有る、神佛混合の體であつた。

「爰へおいでよ」

左う云ひ小母が小座敷に招いだが、松子も信一と並んで動かぬ故、小母は起つて隣眼の白衣で出て爐の上で向相ふた。枯斑の頭髪、上下二重瞼でつよい眼色、脂肪太りの五十幾の半ば上の婦人だ。なむあみだぶ、と時々薄眼では念佛を挿むくせがある。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「お年さんの年は？」小母は松子に尋ねた。
「二十七のうまですワ」
「午、ちや馬頭觀音々々々々と云て信心をすればよい。出世が能ますぞ」
「………」
「何商賣」
「筆で何か書く……」
「小説家」
松子は點頭いた。信一は默つて見てゐた。午年故馬頭觀音云々は附すぎてゐる出鱈目であるが、仕事の圖星を云ふた詞は頭に泌むだ。小母は
「このあいだ白銅や銀貨を茶の鉢にギツシリいれ駝かり蓋して出張をして三個、三峰神社へ詣つたが」とさう云ふた。
巫女の營の辯解をした。
玄關の間の唐紙があいて、三十歳の婦人が顔を出した。信者の樣であつた。主の小母はその婦人に顔を向けたが、剛い眼色を松子達に移し
「あとからゆく故、休んでおいで」と云つた。
母屋では、湯で栗が出て開放した座敷で皮を剝ぎ、皆が各に喰つた。小母があらい久留米絣の單へ物でそこに坐し
「宜う來た〳〵」と言で、松子の母には「漸と安心ぢやな。俺のことは養子が海軍さんで（横須賀でさう云う方聞た）機關學校の事務をしてゐる、兵曹ぢや」さう聞かせた。潜水夫の夫は造船所で共監督になつてゐた。
「俺は段々脂肪がついて、この頃毎日運動に出ておるが」
「阿母さんは何時でも、阪道で穿物を脱て終ふの」横から初々しい髷のＫ子が云つた。松並木の海軍病院横の阪道が憶はれた。

三條樣なる狐、眷族のついて居る期間は、足は穿物をはき歩る。若い狐、老傭い狐、ボケた狐はお湯屋で、悲いものはうろつきたがる。活動寫眞の一番前で界隈の子供達の仲間で一しよに煎餅を噛つて折々見物をやる由で、

「子供が、小母さんはハダシだよと云た」

と、狐の事を色々と小母は無造作に云ふ。

松子は相槌打て聞た。松子の母には故の小母は古馴染故樂屋話であつた。

信一は段々自身の倦怠を感じ、松子に向て

「歸らう」と促した。家の人は留たが、信一は我儘を仕て腰を起した。

前刻彼に松子の幼た姿を日本犬に喩へたが、小母の云ふ狐も結局同じで、不器は打無かつた。利口な小母は、狐と自ら前きに云ふ。

母子の三人作は造船所の前に出た。工廠の退けの時間で通用門から青服の多勢が列作つて出、隣の方の一本道へ進んだ。長い列は先に願い倒れたが、同じ道で松子の若い婦人姿は目標になり、信一の頭はある負擔を感じた。

眺る山の上は家々がずつと並つて居た。驛前長い崖沿ひの埃深い道は心持が倦れた。

開いてゐた改札口を入り、彼は草臥て、車窓で漸く母の顔に目をやり、斯麼土地に得う住でゐたなと思ふた。

五

十二月三十日の夜、障子一重隔てた店の間で、松子はつぎつぎ髪結の客の髮を上げて居た。母親は娘に助け、梳手を勤でやる。障子一重隔てた店の間の動作は茶の間に分りそこに信一は坐つてゐた。彼は癇の出る六ケ敷顔でゐた。商賣をやつておる内の有樣故……。彼は膝元の青藁、裏白、その物に目を落し正月の飾支度をしてゐたが臆劫で、御飾は馬鹿氣てゐた。母親が男の手でする物と云ふ故彼に事をしてゐたが頭は樂ではなかつた。

たら云ふ茶の間の障子が一寸あき、松子は長火鉢に中腰で中休の煙を吸ふた。

「イヤだ」信一は云つた。女房にあたるのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

松子は何故？　と瞳は向いた。
「かういふ仕事は厭なのだ」彼は馬鹿氣ておゐ輪飾を付つたが、松子は直ぐ茶の間を出しな
「罰があたる」左う云置いた。氣の張りの嚴い口氣で。あたへた女房は氣樂では居なかつた。女房は可哀相であつた。併し彼の頭は飾造る内の用を億劫がり、厭々ひとり茶の間にゐた。
また障子があき、
「鷲見さんですソ」松子は客のあるのをつげた。「お二階がよろしい？」左うたづねた。
「茶の間でもよい」
年下の友達の鷲見は、いひなづけの女同伴であつた。信一が媒酌の口をきいて向ふの親は十九の厄年過ぎたらと言つた。その厄年はけふ明日の僅である。結綿かけた髮、野暮つたいがよい未通女である。
障子一重向ふの娘結の動作はよそに、客に向あふたが信一はズカズカと言ふた。
「内の用厭々やるのだ、鷲見サンに飾たのみたいネ」
「松子サンは忙しさうネ」鷲見は客の代に左う云つた。
「下らないことを始たものさ、こつちが氣の毒だ」
聞ながら結綿の人はほゝ笑んだ。鷲見はひろがつた裏白の一枚を青葉にゆはひ附た。直ぐちり敗いた物は理づいた。
半時間程で兩人は歸ると言出し、信一は障子越し松子に客の起つのをつげた。
「少し歩かない？」
「厭ダ」彼は玄關で答へたが、道の上に佇む友達に曳かれ、マントの襟を立從いて出た。その夜信一は道の上の薄い砂利を目にしても容股を感

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

じた。蕎麥屋の行燈にさそはれ、中で溫い物をとり腹に入れた。稍元氣をおばえ又從いて大通りに出たが市内電車の軌道を越るのが厭になり、

「失敬」と云うて彼は動かなかつた。

いひなづけの女と露見とは向側で顧みた。が、信一はくびすを轉し歸るのであつた。裾がさむく足首に觸はる。腹に饂飩がある故疲れは感じる。額に汗がで草臥れのなり友達には背を向けた。

信一は口云ふのも面倒で裏二階の居間に歸り、寢床をつけてひとりで横になつた。店の方に松子は未だゐた。彼は敷布の上に根のない手足を捨てゝ枕の上の頭腦は段々に呆やけるのであつた。何時頃か分らなかつたが、這入つた女房がとなりの枕の上に頭髮をおしつけた。暗い顏で鬢付油か何かの香ひ。松子は斯麼事を告げる。

「宵の刻、口の中は何か溜り生臭いと思つて、鼻紙に取ると紙に染つて赤い物が出ましたソ。客の髮やりかけで」

今日の夕方同朋町の戻りにも天神下の泥溝に松子は喀血があつた由で、そして、

「年の暮故、休業できないわ」といふ。

グッタリした女房の松子の肩が觸はり、彼は草臥は同感できた。が、鈍つておる彼の頭は、その喀血の事は茫やり聞く丈で、何云ふ工合にも頭腦は動かないのであつた。松子の瞼は閉て睡むつた。

元日に松子が門口に掲出た休業札は毎日掲出の儘であつて、前の飾竹がとれてすきて入用の紙札は何時か剝がした。からだのすぐれぬ松子は、程近き大學病院の診斷を聽かうと自身主張し又尻込し、診せるを未だ果さずに日暮しをしてゐた……。松子の母親は内の不淨場が鬼門なる由を何でか聞出し惡い故早う移居為用と云ひ、そして女共は貸家探しにとこしらへの出かけた。松子の體に小半日の行程は無理であつたが併しかの家は戶外へと速立つた。貸家は尋ね過し夕のこしらへの時間のなくなる場合晩の茶湯臺の上には丼の物が載つた。

二月のある晩、信一は普段のまゝ茫やりおもてに出たが、往き馴れてゐる小石川のKの宅に何時か頭向いた。小説家で劇作家であるK、Kを訪ふた。暮の時分作家仲間の噂で上野の菜亭のX女にKが惚れたと云ふ噂があつて大三十一日

の夜其亭で仲間の忘年會を催した。ボタ〳〵雪が降積り造へたやうな宵の忘年會で、噂のX女が出て酌をしたがKは猪口が一杯になつたらグイと猪口を引いた。酒は傾いた銚子から卓にこぼれた、又、鉢の漬物のお菜の中に一枚竹の枯葉が交つてゐたが其をKはしらず無造作に箸にかけて含みまた竹の葉を吐き出した……。其憶出に信一の面を今朝笑ますのである。

K、Kは不在、湯島の將棋所にでかけたさうであつた。信一は追うて眞直ぐに天神下まで電車に乘つた。目あての家は一と間に橘中仙趣、露伴の可成つよい字の額が掲出てある。額の直下にK、Kの大きい肩がみえた。互に直ぐ覺つたが口は噤むで、信一は茶の間寄の坐で見知越の主人と二枚落の手合をやつた。頭も肩も白いうゝ上手の主は一、一指を舐ては駒を動かす癖がある。やがて信一の棋の脇に深切にK、Kはきた。

その晩、二人は將棋所から松阪屋の裏の鮨屋へ廻つた。鮨屋で腹はできKはなほ

「土産包んで呉玉へ、二人前づゝ」

と云うて二包造らせた。道の上に出て包の片方は信一に渡すのであつた。信一は土産を受けたが未だ別れたくなかつた。一緒に足を運んだ。湯島天神の石の段々を外り梅樹の枝の點燈を見あげ電車通に出た。

信一は自作の短篇小説を、當時重く見てゐたX誌の創作欄で紹介して貰ふ事をその誌の主筆に賴むでゐたが、同じX誌で今月紹介した新作は餘り惡いので信一は裏切られた感じで（雜誌自體の立場では別段の事はしてないのだが）自分のはよさうなど〻語るのであつた。信一は自作の嫌な物と同列に置かれる事を厭ふ潔癖屋であつた（後、段々それは薄らいだが……）

それから信一はK、Kに向き言出うか奈何迷つてゐた、口を遂に開いた。

「僕、社をよしたいのです。創作と兩方は出來ない。兩道かけては、何方も頭が拘泥のです」

パンの問題を彼はK、Kとの間でむきだしに言へた。そして、手段として信一は、Kのかく婦人物の代作出來ないか、それをはかるのであつた。婦人物は世間の要求でかさK、Kの生活は擴がる。信一はその一部分の働きをする程の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

心組でもつて平然と事をはかつた。

聞くK、Kは下駄の音を聞いて居た。が

「君の筆は、通俗小説はダメぢやあ、ないか」

左う云ふてそれは簡單に拒絶した。が、務をよしたい感情とパンの問題は未だのこつておる故

「□□社をよせば困らうが」と、Kは相手の立場には同情した。

信一は申出た暮しの手段が務と同性質と合點出來た。で

「代作はこの立場始思た手段デスな。僕は取消ます」左う云つた。

K、Kは友達仲間のXの名をあげてあれたら書けるだと、文章を具體的に述べた。

信一は代作は斷念した。根本の問題は、一度口を開いたのであるが世に離なかつた。社をよしたいと云う亡思岡々々にはして置けぬのだ。腹に默つてある間は左程でなかつたが、宜加減でない相手に打開けた今は一箇な問題になつた。

信一は何とか世ればならぬ、自身の心の動向をはつきり味つた。

厚い外套の襟はゆがむでKは同じ足どりであつた。

「何とか考へてみよう。僕も補助はする」

「たのむ」

信一は頭を荷めた。

本郷三丁目の四ツ角でK、Kは俥屋を呼び俥の上に昇つた。その曳出されるのを見、問題が頭にある信一は佇むであたが、また、Kサンのお土産と云うて湯島の宅で松子の母の好物を出すとを思ひ、土產を提げ日和下駄を踏〆めて動き出した。

月が變つて田端に一軒住居か目當つた。詩人でまた散文をかくS、Mが引越と云、跡へ信一が移る約束をしたのである。彼岸の入に家は空いたが、松子の母が彼岸のあたまいは惡いと兆を云ひ、その過ぎるのをまつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ある夕方、社から戻つて彼は何時もの座についた。すると
「お顔の色、何かなすつて」松子は向いて尋ねた。
「何でもない」
信一は女房に左う答へたが、食後、「Kサンの處へ」と云うて、又出かけた。暗い下がり相な空に傘なしであつた。
目的の家の格子に立寄ると奥サンが出られた。Kの無造作な聲が「昇れヨ」と隔てなく聞かれ、信一は階下の居間へ通つた。
電燈の下はK、Kは物臭な風で置火燵があつた。信一はその向ふに凭つたが面はある表情が出
「けふ限り、社よした」と云つた。Kは目成つた。
「ま、四月號發賣禁止になつたので。片手間で仕事する者は社で困るのです。僕には創作の方専心にやるよう月給は當分出すと云ふ、××サンの言葉で」
信一は顚末だけ傳へて口を結んだ。境遇が變つた淡い不安があつた。互に稍默つてゐた。
「かいて出すンだね」Kは口數少なく云つた。
其一筋につながる信一は點頭いた。
Kは起つて、次の間の奥サンに左う云うて物臭な風を改めてきて
「外へ出ないか」と云つた。
玄關で信一は何時も伴うて出る故、奥サンに工合惡いのであつた。Kは何時も例の將棋所へゆくのだが、その晩は本郷座に誘ふた。
土間に太い綱が張つてある後で佇むで見物してゐると、劇作家のK、Kを座では二階棧敷へ案内した。澤村訥子は、信一は始て故その藝風を目成つた。芝居は神祇祭文。――ずつと以前歌舞伎座で歌右エ門の袖萩の折、その袖萩の肩の柔かい線の美しさから、直ぐ見物席の方の女の肩を物色して實際の女に玆の袖萩程の柔かい線のない事を見た。――彼

は訥子の袖萩から、突然直ぐ見物席を物色し舞臺の袖萩程の眼を惹つた感じの實際の女が居ない事を認めた　その安倍の貞任は木挽座の七間餘りの舞臺の上に裝束がハミ出る程で、誇張の面白味があつた。信一は、名優澤村訥子に伴はれて昔に返る心持がして愉快であつた。幕が出たらKは

「未だ見るか」と云つた。

「もう宜い」

信一は社の方を辭職して居つた、夕刻の頭の拘泥が大分とれた。雨が降出たが木挽座の前で松子の心配が思はれた。

「失敬」

「ぢやあ、又」とKは歩き出した。

戻つて信一は、女房に訥子の芝居の噂を聞せた。次ぎの朝は、田端へ移る荷拵をはじめた。翌越すので、夕食の折松子は何氣なく

「貴方、社へは？」と云つた。

「ウン、止たのだ」

「左うを」

「月給は來月とその次の月も貰へるのだ」

「今後お仕事一方ですワ、ね」

「うむ」

彼の境遇の移り變りを、松子は素直に受入る。左うして、女房に出來事は何事も聞す普段の有樣と殆異りが見え無い。

彼の頭は職業無くなした氣分が最早出て來ず、その感情を早う卒業能た事が、家族の氣分を亂さずに濟むだ。

田端の新居に引越し、髮結渡世の看板は休業の木札も添へ糸棚の上に仕舞こむだ。そして

「お前ャンが健康になつたら」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「左うねえ」

と夫婦は云つた。(それは縁柵から最う下されなかつた)松子の母はこの田端の高臺の奥を淺都故心細がつた。「山の中だネえ」左う邊りの物が考へられた。松子は一段落して氣をゆるめた故引越の二三日目臥床から出られなかつた發熱と咳嗽。信一は下田端の上原と云ふ醫師を知つてゐた故、其人を招いた。

「大分、氣管が惡いなあ」

信一は醫者の詞を聞いた。其診察の態度はヂックリと云ふ趣きがある。元軍醫として日淸、日露の役などに出働した話材をもつ、上原老人には古武士のやうな俤がある。氣の壯な老人は雜誌□□の讀者で、彼の移居を話相手が殖えた風であつた。

その翌日松子は起出、玄關の間で障子張の手傳をしてゐた處、上原醫師はきて

「勞働してはいかん」直ぐ左う云ふた。信一は勞働なる言葉に氣づいた。

松子は奥の六疊で衿文を合せ、その跡で

「先生、肺のはうは何うでせうか」と尋ねた。

「氣管支の音がエライからそれが靜まつて、何よく診ませう」と醫師は云ひ、左うして信一の方に膝を向けるのであつた。

次の日は、信一が我孫子の方の友達に招れた行く約束の日で、宅をあげ、終列車で戻つた。草臥れて彼は直ぐ寢間に行くと、かの女は

「けふ上原サンのお宅で診て貰ひました。肺が惡いのです、つて。ねえ、中ツ位なのですつて。轉地は何うでも宜い故しないが宜い」

松子は、注射、滋養食、攝生、醫者に聽いた丈の事を殘らず告げるのであつた。彼は女房を目成り、言葉を聽いた。

松子の交々抱く感情を一切汲とりたい程の思ひで聽いた。病氣は出來る丈何でもない事に考へる。頭は左う云ふ方向を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とつた。

「あすの朝僕が上原サンに逢はふ。なほ專門醫に診斷をゝたくないか、どうするか」

松子は點頭いた。

「年の暮に、夕方カツカ逆上が出ましたし。口の中に赤い物の溜つたのも、これでしたのねえ」

上原老人は彼に向いて隱すのも宜惡故本人のお尋ねで正直に云つたとの挨拶があつた。專門醫の診斷は、右肺は殆ど肺は物に丈夫。左うして絕對安靜に、と告げた。信一は肺病と聞いて驚くのは見苦しい。性の分つた病故、醫者は上原老人が安心の出來る仁故共人を賴みにする事と覺悟した。

六

五月の月末ひの暗い雨の晩、病人が頭にある信一は門まで戾りついた。玄關に母が出た。母は小聲で

「あの子が血を吐いたョ。今晩、留守で一人何うせうかと思つた」と告げた。

信一は耳を疑つたが、年寄の不安の面持は頭に映つた。六疊間の病床の松子は例の右を上にした橫臥であつた。頓服の藥がキイて睡てをると母は云ふ。宵は茶の間にゐたが寢床へ入ると十時頃ひどく咳嗽、唐突にゴクッと出た。茶碗でうけて、緣側に出してある。醫者へ漸つと往つて頓服を貰つて來たが、ひやし氷を買には勤阪故未だ得うゆかぬ。左う母は告げた。

信一は緣側に出た。四ツ折の新聞紙の蓋した洗面器の中に妙な形の茶碗に、半分強どろりとしてをる。夜十二時過であるが、信一はひやし氷を買にとまた玄關に出た。

四月此方、松子は勉てゞはあるが、御飯はよけい食べる。滋養物は能るだけ多くとる。勞働はしない。熱は七度臺を下りないが苦にはしなかつた。肺病は餘所の出來事で頭は自身のそれを半分打消してゐた。左樣であつても怯へなかつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。ところが五月上旬のある日、官製ハガキの四方黒で黒枠を造つた、一枚の死亡通知が來た。机の前で彼がそのハガキを受取と、松子は目敏く「何處から」と尋ね、「×サンの處から」と云う聞いた松子の顔の色は變つた。肺病で寢てゐた知人の死、それが同じ病氣の松子にこたへた。同じ病で手近で死んだ故假藥に出來なくなつたのである。その後は段がついてかの女に弱りが出た……。或新聞紙の雜報にかう云ふのがあつた。東北線の上り列車の洗面所で米に染つて若い男女が死むでゐた肺病患者の兄妹で轉地の途次であつたが、多量の喀血で死亡したとあつた。信一は直ぐその新聞紙を破き捨てた。小さな十行程の記事で松子が氣付まいと思ふたが、その後、かの女は早うその記事を讀むだとみえ出來事を云出した……。松子の喀血には種々原因があらうが、病氣に不安の念を持出した事が可成影響して居る。

彼が戻ると松子は目を開いた。

「いま氷買つて來たからナ、心臓の上にあてゝね」と云ふと、病人は目で肯いた。稍面を目合せた。頭をそうと上げ氷枕をかひ、胸に氷嚢を抱かせ、頂にも一個あてた。喀血の際は心臓を冷すのが肝要と聞いてゐた故、胸部には可成り大きい嚢をやつた。溶けて取換へる間、頂の分を取り假に胸に置く程の注意をした。約一時間半程で嚢に新しい氷を充し、氷枕は四時間目に取換へる。前に九度上の發熱の折の經驗で手順は割に出來たが、病ひを云はれて初めての喀血故、病の容貌の出來た様なのが、不安で堪であつた。夜中に信一はまづ母親を休ませた。

朝方熱が上外した。喀痰と共に出る塊つて暗い色のそれを、彼は紙で皆より取つてやる。食前にのむ水藥、其味を直すバナナの小切、二品を彼は口に運んでやる。二人の間に母が來

「お粥を食べなさい」

母は枕元に膳を据えた。が、松子は食事は厭と云ふ様子をした。母は

「食べねば弱る一方ぢやヨ」ときつく云ふ。

「食べさせてあげよう」と云う彼は云つた。

「起きますワ」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

松子は母親に氣兼ねして、起直り坐つた。フランネルの寐卷の袖の兩手は、膝に置いて體を支へて居る。と、はげしい咳嗽で　を押揉むだ。面は眞赤になり汗が滲み、またゴクツと出た。彼はしまつたと思つた。金盥の中に敷いた紙にとろ〳〵凡いた。「くるしい」

「あゝ」左う母は急込れて、病人の肩にすがり力限り脊骨を撫で下ろす。

信一はオブラートに頓服を包んだ。咳嗽が歇むと病人は口嗽して藥は咽下した。非儀そうと體を横に寢かし、氷をすく心臓の上に抱かせた。金盥の中は覗くと約五勺程の量である。

「昨夜もその位ヨ」

母親はたう云ふて、心持の弱りを努力し乍ら、金盥、膳の上に冷めた粥、等跡仕末をした。信一は醫者の許へと出た

外の空は暗く雨は降り續き、信一は直ぐ歸つて來た。肺に空洞が出來、血管の端が破れて、空洞に溜まる……。

午過ぎに、醫者がやる出血止の注射を、彼は目戍つた。透明なゼラチンの容器を注射針と共に湯で温め、容器の硝子は鑢で切斷し、注射器に吸ひ込せた藥液の泡は針の先に出し、それから右膝の稍上内側を酒精で濕んだ綿でよく拭いて北處を抓みあげ、溝のある針で横に深く射し込んだ。松子は一寸堪へてゐた。

手當の跡で、上原醫師は老人特有の錆びた聲で病人に

「この病氣に罹れば出血は止むを得ぬので、北を心配してはいけませんぞ」だう云つた。また田端に住むS、Kと云ふ五十幾歳の彫刻家は毎年二三回宛大略血をやつて來たが相變らず大理石を刻んでゐる、左樣な例を話した。松子は背いた。が、信一はその例は、かの女の健康者でない事がむきだしに感じられて厭であつた。併し醫者は頑固に病人として取扱ひ、安靜の爲物言ふ事を禁じ、食事は流動物に限つた。生玉子は黄味だけ。

毎日雨天であつたが六日目に穏かな日和空が出た。恰も衛生掃除の日で、母は家まはりを掃除したり、玉子の函に溜つた痰のついた紙は裏庭で燒捨てた。

松子はずつと寢たきりであつたが段々熱は下り血痰も血線も消えて、恢復期に居た。掃除の済むだ午後、松子は自で

憚りに起ち久々で縁側から庭を眺めた。

「廣々と清々したわネ」

左う云うのを信一は机の前で聞いて、かの女の病上りの心持が頭にしみた。

松子は病床の枕元に、掃除の折出て來た品の豆人形を桐箱の蓋の上に飾つた。が、

「ねえ、何か面白い事がない？　退屈しますワね」

たづねられた信一は机の傍で、何でも自由に書留る事が、病床の日ぐらしに成る、左う考へた。

「毎日發句を作つて、與げといたあの帳面に附けなさいョ」

「左うを」

松子はその後折その帳面を見せた。唯目前の様子が無雑作に書留めてある。塀ごしにやつでがはを出す。うすびさすたちふじ二三本なすのむれうす。びさすまめ人ぎよかざりつけすき間から見てなすのなへ二三本。せまい縁しぼりのゆかた風がゆするうすべら。病どこのまくら元見にくい箱やからすたき。うすぐらき庭いぬが垣をこす炊事の音。さにはの緣蚊のむれ高し日はくれる。をつとゐぬ母をらぬ座敷のひろさはたきかけ。

「おい、誰もゐないと云つてハタキを掛けたり、勞働しては駄目だョ」

「左うを」松子は薄笑を見せた。「ごめんなさい」

梅雨が明けた七月、信一は近頃の家庭の事情から得た材料で、短篇小説を書上げた。良人の貞操と云ふ題であつた。割に味く書けたと思へた。(同じ材料の物故、左に短篇小説挿入)

──良人の貞操──

「又、ヒョイヒョイ出掛けるやうに成つたね。小説書くのも飽いたのかねェ？」と、彼が門口を出た跡の玄關の、障子に添うて佇む娘の姿をみて　母親が茶の間から聲をかけた。母親はこのごろ髪を染めない共しらがは目につく、年が割に老けてみえる五十歳なのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「左うね。ですけど、色々用事があるンだわ。阿母さん！」

娘は亦た障子の傍の儘で答へた。彼女は結婚して三年經つた廿六の、小柄な體が最少し若くみせる、眉の濃い、頬の下に肉つきがあるが、いまは胸の病氣で精神的な樣子をしてゐる。

茶間で直岡地の湯帷子を縫つてゐた、母親は其返事をうけ、口を噤んだ。娘の淋しい心持に添うて婿の樣子を口にしたが娘に却つて非難されるやうな事になつた。左う思つた。

娘は物足らぬ母の顏から氣持が不安になつた。で、玄關の三疊から次の茶間へ體を移し、筒箭を脊にした母の傍へ寄つて往き、疊に牛蒡縞のネルの膝を置いた。母子が對座した。

「こんど出來た長いはうの小說が××雜誌へ賣れたのです、つて」と、娘が話しかけた。

「左っかい」眼鏡の母の親が娘へ向いた。而して「短いのがいくつも袋に入つて、本箱の上に載つとるよ。あれは？」と尋ねた。

「長いのを先に出して、跡で短いのを發表したがいい、つてお友達が云はれたとかで、とつて居るのです、つて」

「左うかい、まあ早う賣れればいいが」

左樣に話合つてるうちに、娘は母の氣持がほぐて來たと思ふた。母が口を噤んだ折其顏に頑なものが露はれ、母の氣持のヘンに拘るいつもの癖に困められてゐる娘は、斯う話をして其氣持を柔げたのであつた。而して娘は庭の方へ眼を移した。濡緣の前に一株の女竹が若竹を見せて、其藪葉の向ふに、ダリヤの花が一輪細卅な莖の端に東向いて居つた

「先程、差出人の書いてない手紙が彼の許へ來たが、何處からなの？」母が尋ねた。

「どんなの？」と娘が言ひ、娘は、母が郵便屋から郵便をうけとると打返して眺めてゐる樣を憶つた。無筆である母が此頃少し讀まうとする意向でか、質など「あさひ」と指して讀んでをる事があり、屆く郵便など差出人や宛名を注意してゐる。其氣持から訊くのだと娘は思つた。

母親は六疊間へ入つて往つて、或手紙を持つて來た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「これだよ！」

裏に縞のある洋封筒の四角な表にペンで宛名があるだけの手紙であつた。娘が「みてごらん」と云はれて擴げた、其は會社の便箋二枚に病氣見舞が書いてある、Mさんからのであつた。娘が讀んで左う聞せた。

「左うかい」母は眼鏡をかしげ、而して疊の上に置かれた其手紙を又六疊へ持つて往つた。

妙な事氣をつける？。と、娘は母親のあとをみたが、總て其文で頭から消えて、亦庭の女竹とダリヤに惹かれた彼女は手を束ねて居た。

少時經つて、母親は湯帷子のもう袖を附けるだけに成つた長いぬいかけを膝下に措いた。而して「いつも夜遲く戻るが、遲くまで何をしとるのかネ？」と言ふた。彼の事なのが娘に直ぐ分る口氣であつた。

「お友達のおうちで、お話や好きな將棋や何かで、時間の經つのを忘れるのですよ。阿母さん」娘が答へた。彼に關する事は頭に一杯で口に得う出さないで居たが、母親に問はれて穩當に言ひ、左うして自身心持が一杯になつて來た。次で娘は牛蒡縞のネルの肩を動かして咳をした。

咳が體を揉む娘を眺めて、母親は自身がつらい氣がした。「あまり咳くと、又熱が出て來るよ。あすこへ行つてジツとして寢てゐなさい」と、娘を目守り乍ら云ふた。母は其眼頭に涙を認めた。

彼の留守中彼を話題にした事で娘は頭が一杯になつたのだが、自身は咳いたので涙が出たと思ひ、母に云はれてやすむ爲、素直に起つて六疊の方へ體を移した。

茶間に殘つた母は、夕の食事などの支度にかからうと思つて、手周りを型　け始て居た。

六疊間の床間寄に敷いてある、蒲團の上に娘は體を倒した。緣側に擴げた腰屏風には、明い西日の小庭が透いてゐたダリヤの花の色が透いて見えた。

彼女は、ピンで留めて措いた髮を括枕に押付けて、額に蠅が來て又體に蒲團をかけると暑いので、擴げた新聞紙を二枚繼で細長い紙の下へ體を匿す事をした。その頭には色々の懷ひが浮んだ。娘は忘れて了つても差支へない事を憶出す

のであつた……

六疊のその娘の枕元へ、母親が冷しといた水藥の瓶を持つて來て置いた。而して母が

「あれは歸りが遲いやうぢやから、先に御飯にせうネ」と、顏を覆ふた新聞紙を持上げた。

生際に汗の玉が一杯な娘が母と顏を見合せた。其時の縁側に擴げた段梯風に罩を刷つた様に、うしろの庭には夕さびが來てゐた。

頁上に電氣がついてゐる、食卓に母子は向合うて坐り、娘は御飯一碗スープと半熟の卵二個の夕食を　た。其膝の上で食後の散藥をオブラートに包み、少時して薬湯で嚥んだ。食卓は、其儘一寸躊躇されたが跡で疊まれた。彼の歸りが遲いと思はれた。

其中に母が六疊に蚊帳を吊つた。蚊遣線香を燻くと病人が咳くので、夜は家の者が直ぐ蚊帳に入る事にしてゐた。娘は寢所へ往く前に、茶間の壁の粗末な不動様の掛地を拜んだ。それから蚊帳の前へ來て、跼んで、娘は其裾地を手で輕く打つて蚊を逐つてから、中へ入つた。

窓谷の電氣の明りが蚊帳に射しこみ、其中に敷蒲が二つ並んでゐた。常の様に母が敷いた彼の分があつて、彼と結婚して敷寢は一つであつたが、病氣が分つてから母親がさう言うて床を別にしたのである、娘はその自分の枕に頭をつけてヂツとしてゐた。彼の望まれてではあるが、一緒になつた始は別な氣もなかつた。其中に心持が惹かれて來た。今では一杯で、獨だと自身が奈こか缺けた様な氣がする。さうして娘は仰向になつて居て、彼の戻りが待たれる。出先の彼の上を殆神經的に案じて不穩な新聞記事から推して、若し此先で斬られた等と言うて戻つて來たらどうせう！。と憶ふ。「遲いわ、何故歸らないでせうね」さう云ふと「もう直ぐ歸るよ」と母が慰めた。其中に母は茶の間の蚊帳に入つて寢た。娘が彼を待つのは病氣の此頃特別なのである。——

「けふ、熱どれだけあつた？　あれから上つた？」

さういはれて娘が眼を還ると、彼が蚊帳の中にゐた。戻つたのであつた。平袖の湯帷子に兩手の袖の襟開きを容て、敷

寐の上に居た。

「否、其から、降りましたわ」

彼の枕元にある雜誌の上に灯がさして、娘は頭が覺めた。

「どちらへ往つてらしつたの？」

「本郷の方」彼がそんな答をして、猶顔を眞向に直して「僕が外で何かあると思つとる？」と云ふた。彼のいつもの素樸な言分であつた。娘は、

「あなたに限つて、こんな事無いと思ひますワ」直ぐ打消した。左様な詞でお互に貞操の意味なのが直ぐ分つた。

「ぢや、奈こへ往つて來た？つて、ついいつも訊くのは？」

「唯、早う戻つて欲しいワ。唯寂しいのですソ」娘は正直に言ふた。

「僕は又、お前さんが嫉妬深いのかと思つた。訊つて來ないでも簡單に出來る、左様な事お前さんは分つてるから」左う云うて彼は一寸赧い顔をした。自身は厭な詞を出したと思つた。

「あなたに限つて、そんな事無いと思ひますワ」

「左う！　ぢや僕の勘違ひだつた」

娘は顔をみ合せて、一寸口を噤んでゐた。眸は、何？　と訊ねてゐた。

彼は身を起して、壁際の本箱の中から何か取出して來た。原稿であつた。

「僕の勘違ひだつたが。お前さんが其事氣にかけるとつまらぬから、僕が外での實際の場合を、其事を小説に書いて、みて貰はうと思つてゐたのだ。書きかけだが」と、彼が書いた物を娘の手に渡した。

「左うしてゐて讀みなさい」と云はれて、娘は仰向で青い明りで讀み始めた。蚊帳の直ぐ外の、寢をまくつて反つた姿見の中に、上の方くつきりと筋を曳いて赤い蚊帳の縁が映つて居た。

《ある童貞》の標題がついた、原稿である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自分はこんな話を憶出す。……岐阜市の有名な旅館の玉井屋へ、主人を訪ねて或日身なりの卑しい一人の男が來た。其男は數ケ年岐阜監獄に繋がれてゐた懲役囚であつた。男の云ふには、監獄の塀高く堅固な中に住んで何一つ目を樂しませるものがないが、中に唯この家の三階の物干場だけ、自分らが長い勞役の間の、眼にこびりついた目あてであつた。其處に干される赤い衣赤いゆもじは、それを仰ぎみる日自分らの瞳がどの樣にそれを燒きつけられたらう。其處に赤い衣赤いゆもじの干されぬ日は自分らは淋しく鬱陶しかつた。獄中には未だ澤山の連中がゐる、それら囚人の功德の爲に、物干へはいつも赤い衣赤いゆもじ干す事をお忘れにならぬよう。と、其男は告げに來たのであつた。旅館の主人は左樣な事は始て聽くので、其妙な影響を及ぼしてゐるのに一寸驚いた。が、それから努めてなまめかしい衣や赤いゆもじを取揃へて干させるやうにした。と云ふ話である。

この話に出てくる、囚人のやうな切迫詰つた氣持が、此頃自分の頭にある。折折夜眠れなかつたり、庭の茂つた青いものが重たく頭に訴へて來たり、又外では異性に眼が惹かれ、竿の干場などにも瞳が吸はれる事がある。自分は結婚した當座、あまり見境がなくともいけないと考へて、豫め房事の數を定めた。二ケ月程してそれを減した。半年してそれが猶間遠になつた。自然に左うなつた。それが、彼女の病氣が分つてからは、病に毒だと云うて、全然中止する事にした。もうまる三ケ月無いのである。

胸の病氣の人は性慾が亢進すると云ふがそれは實際らしい。彼女が耐へてゐる氣持が分る。彼女の其氣持は、自分の慾望を刺戟するもので、又反對に自分に辛抱を强ひるものとなるのである。自分は[illegible]な體格をしてゐる。肉食を廢して菜食にしたらと云ふが、簡單にはいかない。氣持の方をかへる事は尙むづかしい。前の囚人と同じやうな頭になつたのである。

左う云ふ場合家庭の外で調節をつけようかと考へる事がある。其事の簡單に出來る場所がある、其處へ頭が向く。其が、足は曲らずに眞直ぐに戻るのである。家庭の外で左うしないで濟むのは、自分がある思想(?)を持つてゐるが其考が、爲ない方へ大變役立つのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自分は結婚後、今日まで全く他の女をしらない。自分ら夫婦は一緒になつて始めて異性を知り合ふた仲ではなく、自分は以前は色々な冒険をした。が、結婚を境として、自分は夫婦だけの性的生活に入り、他の異性に赴かない氣持になつて——彼女の善良な心持と、自分が惚れて娶つた自身の責任感から左うなつた——それを、一種の童貞を守るのだと、自分で左う極めたのである。左う云ふ自身が、或場合は「又いつもの細君だ」と、彼女の顔を眺めて退屈を感ずる事があつた。が其退屈は餘り根深くないものと見えて、事實の上で強いて異つたものへ赴かなかつた。一種の自分の童貞を破る事なしに済んだ。

この「一種の童貞」を守る心持が、自分の現在に非道く働きかけてゐるのである。

左ういふ自分は或晩友達と××町と呼ぶ、ある賣笑婦のゐる特別な場所へ往つた。道の悪い暗い路次へ入つて、倉庫のやうな赤煉瓦の壁を前にした、妙な一軒きりの家が左うであつた。格子が嵌つて尺程の土間があり直ぐ障子で中の三疊間に長火鉢が置かれてあつた。其處の主婦は、一尺程の土間へ入つた友達の顔を込み知つてゐた。すぐ金額の話が出た。次で友の氣に入る女がゐないらしかつた。自分は狭い土間に突立つて薄笑してゐた。暗い倉庫の煉瓦壁の前を　湯上りらしいお白粉をぬつた女が過ぎた。裏口の戸の音がした。「君はどうだ」「金はあるよ」と、友が云ふた。自分は好奇心から家の様子をみに來たので、それ以上の氣はなかつた。其場の感情で何うなるか分らぬとは思つてゐたが、心は動かなかつた。で、口を噤んでゐた。少時して「又にせう」と云ふた。自分の頭（ある童貞）は閑かつた。其儘歸つたのである。

自分は又、一夜ある遊び場所に居た。三四人連で、自分を措いては皆細君を持たない者であつた　女達も一緒に無駄口を聞いたり、懐紙を撚つて造花を作り箸など砕でそつとためては色を染めて白い枝の妙な造花を拵へたりした。そんな遊びに時間が經つたが、自分一人は連れの氣持と離れて、どうも感情が動かなかつた。皆は引揚げる事にした。自分の頭（ある童貞）が連れには迷惑をかけたのである、

——娘が、耳淅剛の縁に二つの肱を立てて讀んでゐた。原稿はこれで切れてゐた。彼は顔を真向にして、

「ある童貞と云ふ氣持が尙進んで解決がつけばこの原稿は完成するのだが、現在に此處迄しか書けないのだ。が、現も尙僕は外では何もないのだから‥‥」と言つた。

娘は仰向の儘、中たるみの蚊帳の地に眸を揚げて、

「あなたに限つて、そんな事無いと思つてゐますわ」と、又言ふた。

七

王子署警察醫‥‥の署名のある、半紙の紙のきれを持上げて、松子は「この方がお留守に見えましたの」と左う告げた。

六疊の間の信一は、戻つて汗臭い單衣は脱ぎ、裸體でゐたが目は女房に注いだ。

「警察の方で、病氣をしらべたいから、診察させて與れと仰しやいますの。麻地の夏服で折鞄を抱へた五十がらみの方でしたが、名刺を忘れた故代りにと云うて、此紙に認めたの」松子は疊の上に紋衣の膝を衝いて居た。

信一は佇つた儘、尋ねた。

「何故檢べるのか、聞いた？」

「え、ご近所から警察へ云つて、檢べるのを賴んだ人があるのですつて。ねエ」

彼は尋で第二番目の質問に移つた。

「それで、お前は承諾した」

「えゝ」妻は稍眠い面を上た。「其方お人は好さ相な方で、ヒドイ暑がり屋で汗拭き／＼くるし相故、又來て頂くのは氣の毒で、阿母サンに相談の上診て貰ふ事と致しましたの、診察済むなり歩いてお戻りでした」

何か其丈の理由があつて出向いて來たには違ひないが、主人の不在に入りこんで女の素肌を見てゆくのは無作法であ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つた。職構としても野蠻であつた。信一は王子署に出頭し、無作法者に談じようか知らと腹が立つたが、名刺を忘れたと云ふ半紙の端切れ、貧しい醫者の有樣、其が分ると信一は髭面が歪むのであつた。復事件の後で、この上複雜にするのは澤山と云ふ頭があつた。

信一は口を噤むで裸で六疊間を出た。糊の硬い湯帷子で再び戻り、机に向つた。

「一應、主人が留守故と斷るものだ」と松子に目を注いだ。「モウ宜い茶の間に往つて」

妻は一寸精消、病憔悴の眞背向で出て往つた。

信一は前刻の名刺代りの紙のきれを持上げ本箱の抽出にいれた。何だか、不寮な手にイヂラレた程の感情が頭に殘つた。――肺病傳染の危險、近隣の不安と申出、警察署の手、道理、仕打は意外。斯樣な事が慣習になれば其でよい。が不意打は慘酷である――。

茶の間の方から二人の話聲が洩出てゐた。母娘は例の申告者を詮議する風である。

「角の女醫ですワ」

「うん。何でも貧民長屋の病人の見廻りとか行つてる相ぢやから。警察につてがあるのぢやヨ」

「チキ傍で、女醫に掛らないからかねえ」

二軒長屋の平屋造で角は女醫と行商人、續いて土木の技手と彼、路地は盡きて向側は、ある私立大學の講師？と其隣に美しい細君の見える二軒、井戸、角は會社員で、隣人はまづこの範圍に限られた。彼は路地に折々縄からげの氷塊をさげ込み彼の家からはこん／＼咳嗽の音が響出る。隔てする隣人の立場は無理がない。其を咎める事は出來ない。左う云ふ風に信一は考へた。頭は理性の盾をあげ感情を抑へた。母娘の方は茶の間に蓋置いた。

晩に信一は、S、Mの宅で、S、Mが前に居た現在は彼が住む、其隣人の事が話の種になつた、例の美しいお向ふの細君からS、Mの女中が草箒を借りて來てゐたら、或日郵便端書で草箒返却の催促状が舞込み、S、Mは新しい草箒を買はせ其先に例の端書を返事代りに挿してお向ふの垣の内へ女中に入れさせた由（この草箒の話はS、Mが隨筆にものして誌

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に掲載された）隣向ひで主人は反目し、また直向ひの大學講師も妙な工合であつた由。S、Mに左様な隣人の氣風を聞いて信一は戻つた。夏の夜の路地は開いた窓々が點灯(あかり)を放つてゐる。が、草部の事件の家は戸閉してあり避暑に出て留守故、自家の申告者では無いと思つた。自家の蚊帳に這入り彼は隣向ひの反目は何故？と思つたが、際立つ事情が無くて考へに餘つた。毎日氣づかない何か積つてゐる？其は直截の悪徳ではない

警察隣はだん／＼頭に薄れたが、隣人はかの女達の氣がゝりと成つた。何日か過ぎて、母親が流し元にゐたら、勝手口のすだれに巡査が覗いて何氣なく、御病人の様子お見舞に出たが、とそれ丈云うて巡査は戻つた相であつた。

夕の茶の間で、母は信一に向ひ、

「厭だねエ」

左う云うて眉を寄せた。隣人を含むでをるのが面に出た。この母親が見た夢だが。……硝子戸に寒冷紗が張つてある、すると病氣の娘がゐて、娘は其を見乍ら、あれは黴菌除ださうながあんな物でバイキン除けには成らないでせうネ阿母さん、と云ふた……。左様な夢を見る母は寝た間も心がゝりになるのだ。

娘の松子は

「上原先生は、傳染病豫防法とか云ふ物があつて、其手續知つた者の申出であらう、と仰しやいましたワ」と云うたが、次で

「向ひの淺間と角の女醫と、兩方の間に定(きま)つてるワ」

左う憎惡の言葉が出た。母親は娘に同(おな)じ

「向ひの細君、隣の細君が寄るとは、この家へ目配で何か云つてるョ。厭だョ。誰ぢやろ、ねエ？」

と母親は例の煙管の吹がらをやけにはたき、煙管は膝の上にとろり差置いた。

左う云ふ來訪者の上でむきな母娘(おやこ)の面、其を信一は目成つたが

「宜いぢやないか。氣を除うしなさい」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と左う云つたが、彼は口を噤むだ。

一頻り咳嗽いた、病人は面をあげ

「人のなんぎをよそにして、警察署へ申出るなんてそんな不人情な、今迄聞いた事もない話だワ」

松子は傍白のやうに云つた。薄命を泣いてゐた。

九月の新涼に、例の草箒の話の家は雨戸が開いた。松子の母は待兼て何時も物和かな有様の細君に、交渉をつけた。

其細君と傍の井戸に佇む松子の母に、他の細君は遠慮する風が見えた。松子は子供好き故お向ふの四歳の女の子を自家に借りて遊ぶ。と彼は病妻の反抗心が現はれるが、無遠慮には恥ぢた。母はお向ふの細君に、警察署の詞を傳へ其となく誰の僞わざか聞出したがつた。

「やがて知れますワ、こんな惡事が知れずに居るものですか」

松子は左う云ふたが、秋の彼岸近く、母は表通の八百屋で凡ての事を聞出した。彼はS、Mの宅で同時に耳にした。

それは、すぐ眞向の私立大學の法律の先生が書類を作り、土木技手、行商人女、醫、會社員、其丈の人から書類の上に印行を繼がせ、法律の先生は所管の王子署に申告したのである。

事實を聞知つた彼は、みずしらずの醫者が顏出したと云ふ五週間程前の日に、頭は戻つた。何だか不器な手にイヂラレた程の感情が、生々と蘇つた。

晝過ぎに、松子の興奮した聲が茶の間から洩出る故、信一は机の傍を起つた。

松子は長火鉢に兩手をかけ、眞向ふの勝手口のすだれの上から凝視は移さずに

「情知らず、恩を仇で返す惡魔、淺間の奴め、惡事の張本人」

詞は松子の口を衝いて出た。頬に紅味は消え、鋭い病的な直面、水とほしたセル地の雨行。母は流しの傍に身を曲げ何かしてゐる。

「止せ」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

信一の胸により向いた、松子の顔は泣いて

「妓、私厭ですわ。鬼共がまはりにゐて。私も鬼ちや、之から皆を呪つてやるから左う思へ」

再び生眞面目で眞直に向いた。人情の消えた、その思ひは人に盡した好意が水の泡のやうで、二十何年のかの女の人生觀は破れて終ふやうであつた。信一は容色は稍で衰へたが好い精神迄滅らしたく無かつた。

「分つた。さ、こつちへ向きなさい」

信一は中腰の從妻の肩に盡いた手で、半ば木偶のやうな松子の顔の向きを變へた。

母は臺所から出て

「外を步いてみないかと些とは氣が晴れるよ、松子」と左う云つた。「ねえ竹内、連れて往つて下さいな」と頼むだ。

「左うだ。そうと往くなら、障はるまい」彼は松子に向いた。母親は

「下の方の弘法様を拜んで、歸りにお彼岸の團子を買つて來てね」と用向を出した。

松子は頷いた。で、髮は直し顔はふいて、更へたセルの上に單へ羽織の紐は結むだ。錢湯以外表には出ない松子だが。

外の日は洋傘で除け、松子は徐に體を運んだ。夫婦丈故心はひつたりした。稍落付いたので彼は、德義上してはならぬ事を向ひではしたが、向ふの立場では無理がない、左う云ふ事を靜かに説いた。木陰の坂道を下りた。大龍寺の師大師の堂に松子が上り、彼は下に佇むだ。それから変手の子規居士の墓の前に立つた、信一は「僕は孫弟子に當るのだ」といひ、松子は墓の前に頭を下げた。

門前から中里橋の方に出ると、松子は氣分が直つたか

「清々したところ、ねエ」と云つた。道端の石に手巾をあて、下を電車が二回過ぎた二十分程腰掛てゐた。

上の方の通路に出、飾金工場の前の菓子屋で松子は團子と餅菓子とを買つた。左うして戻つた。

再び茶の間では、松子は羽織を脱ぎ草臥れた横坐りで、母と三人で、茶を淹れ菓子をつまむだ。跡は無事に濟むだ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

秋は雨が多くて、信一には妻の病む今年に限り意地悪い空だつた。雨が濁んだ夕、表の窓を開けると東隣の樫群の梢に赤い虹が出た。空はもち直すかなと虹の薄れる迄仰いでをつた。と、下はお向ふの庭の電氣が二枚のすだれに映り、暮きらぬ外光と溶けて銀色のいゝ感じであつた。信一は南向窓に佇むだ。

（後、かの女の亡くなつてからであつたが、眞向だけのけ、他の細君達が判を捺した過ぎた日の事を詫つた。彼は詫言を受入れた）

八

信一とS、Mとの二人づれが田端の改札口を出た。つきあたりは崖、崖の根に沿うて左の方に道に曲つてゐるが、又右の崖の横腹にはZ字形に小徑がついてをる。今改札口を出て、下の道をゆく者と性急に崖の小徑をとる者と群れは二つに分れる。崖に登るのは近道をとるのである。

信一は家路にちかい崖の小徑の傍までゆくと、つれは引留めて「崖は疲れるから、本道を往かう」と左う云つた。聞いて、信一はある憶出からビクツとした。S、Mの疲れると云ふその言葉が頭にひゞいた。彼は崖のZ字形の小徑は見捨て、つれの方に従つた。

S、Mは柵に沿ふ道の上に足を運びながら、引留めた事について「他から戻つた時は、疲れてをるので、本道から迂回る事にしてゐる」とわけを述べた。土地に住みついた言葉であつた。

信一の頭はある憶出に捉はれてゐた。

……四月、松子を伴うて専門醫の診斷を受に出掛た折の憶出である。松子がまづ診察室を出、彼は醫師に病状を聞い

てから、次室のドアを開けると、扉の傍に妻は佇んでゐた。萎れた面に笑窪があつた。門外のだら〳〵坂を下りながら松子は

「どう？」とたづねて、例の笑窪の面を揚げた。

信一は眞實を云ふのは殘酷かしらと思つたが、たづねられて直ぐ僞は出來ず、秘密を抱く事の嫌厭感も頭に上り、彼は打開る事とした。彼は自身變な度胸を意識しながら、打開た。

「うむ。右の肺は殆駄目だつて。左は割に丈夫なんだ。醫者は、一縷の望と云ふ詞があるがそれより稍ましで二縷位の望みがある、と云つたよ」

肱肩はひつつくやうに並むでゆく、松子の頬の色は無かつた。

「絶對安靜で、憚りへ行くにも成丈ちかい、明い部屋に居たらよいつて」

信一は正直に云つた。彼は田端迄戻るには、市内電車に搖られるより山の手線の方が疲れが尠い、左樣な事を判斷せねばならなかつた。而して代々木驛の乘換の高い橋の昇り降りが又思ひであつた。

電車の中で口はきかず目は窓に向かず、漸と田端まで戻り、夫婦は改札口を出た。崖のちか道の根本で　彼は松子が弱つてゐるのは分つたが。

「妓、登るか」と尋ねた。松子は頷いた。

崖道はけづれたやうな土に處々杭と板とで昇り段が出來、Z字形に迴るのである。中途で彼は

「休む？」と尋ねると

「なんともありませぬ」妻は返事をした。左うして登つた。……

信一は、松子が土氣色の面で崖道を登つた。半年程前の唯の一遍の出來事を憶出し、其實感が頭に沁むだ。疲れてゐた故廣い道につけば宜かつた、其悔が又頭に應へた。松子の病の段々に惡い現在、原因は性急に崖道をとつて、此崖道にもあると思へた。彼は考へから心持は參つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

信一は以後は性急に無道な事をするまいと心に定めた。友の言葉の暗示からそう合點したが、直ぐ言へる思つきではない故、彼は默つてゐた。――S、Mと信一との二人づれは暗い道を僅かに山の上の通りに出て、右左に分れた。信一は崖の横出のくつついた顔で宅に戻つた。

何時もの茶の間に母と松子と居つた。戻つた彼に向いて

「お晝は？」と母は尋ねた。

「未だ」

「晩だらうと思つて、用意はしてありませんから、罐詰を開けなさい」

母親は遅い晝の食卓を出した。松子は何よりも彼の戻りが早いのが嬉しかつた。信一は柱の根に新聞紙を敷いて罐詰は柱の根に押あてゝ柱をその支へとなし罐を切開けるのであつた。が、何時ものマークと異つた罐詰で切り難いので、うむと力が要つた。左うして切開けると、背後の松子は笑ひ出した。そして

「わたしまでウーンと力むでゐるんですもの、可笑いわ」と云つた。

彼は、松子の目頭に泪のある弱い顔を覗つた。妻の心持の動きは自然であるが、病やつれの上に氣力を用ふのは惡い故

「莫迦だな」と、信一は稍本氣でいふのであつた。

十一月の末に、松子は又喀血をやつた。その四五日前から食事は進まず、頬の下半部黒い陰がついて、他からも疑な樣子が見えたが、氣遣はれたが、發熱、咳嗽が増して血が出て來た。三日間に渡り、四回余皿にうけた。醫者は血止の注射一回と、また別な藥液の皮下注射をやつた。醫者は其小さい空ビンは火鉢の中に捨てた。信一がのぞいた、灰の上の硝子容器の貼紙には morpine とあつた。彼はこの注射のあと病状に附いて居た。例の右を上にした横臥の松子は、枕の上にうとうとしかけすぐ目は開いた。何度か目を開いた、

「睡りかけると表の方で子供が泣くのですもの、睡れませんわ、ねエ」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

障子の硝子から庭の垣根越しに紙鳶が見え、子供が長の方の原つぱに居たらしかつたが、彼の耳に泣聲はしなかつた。

「何で、あんなに泣かすのでせう」松子は又目を開けた。

「うん」と彼は左う云つた。病人の神經は亢ぶつてゐる故、反對は出來なかつた。其樣な工合で時間は經ち、現の狀態は過ぎて、松子は醒めた。藥の効目の消えた事が彼に分つた。

稍よくなりかけて、何時もの六疊で信一は松子に、手の吸呑のスープを吸はせてゐると、妻の目にはある動搖が出た妻は吸呑の先を唇から退けた。其日の表情は、茶の間の方の母に氣兼する風であつた。彼は其の介抱をし乍ら心持の接觸から夫婦間の情的生活の感じを、味つたが、松子はそれを味つて、現在母に遠慮するのであつた。信一は遠慮はいらないと思へたが未だ左う云へない故、口を噤むでゐた。

松子は父に早う死別れた一人子で、母娘きりであつた。田端に引移つた當座、松子は斯麼夢見の話を彼に傳へた事がある。長い夢の續きで前の方は忘れたが、しまひに母は疲れたと云うて苦し相にしてゐる、松子が母の脊中を撫でさすつてやる、一生懸命になでゝ居る其中に夢が醒めかけ現になる、と自身(松子)が一生懸命、阿母さんの脊中でなく寢床にちかい疊の上を撫でゝゐるのであつた、疊をなでゝ居るのであるが、阿母さんが苦しむでる故、疊でも宜いからと矢張一生懸命なでてゐた。左う云ふ夢である。彼は妙に感じがあると思ひ乍ら聞いた。

病氣の松子が夜中などに非道く咳嗽く、と隔つた茶の間に寢てゐる母は「う、う、う」などゝ云ふ聲を洩す。信一は松子の傍に寢てゐて母の心持を僅に感じるのであつた。

彼は、母親に向け、ある疑問?。を抱く折が來た。不治と云はれる病、左う云ふ娘に便らねばならぬ母、松子が丈夫ならば宜いが病氣が拭ひ去れない限り、母は何うなるのか、何うすればよいのか。信一が母を見ると其疑問が餘儀なく頭に上つた。松子は其母との關係を思ふと、「?」はギユツと壓される程彼に重たくなるのであつた。此不安を松子は一層きびしく感じてゐるに相違ない。病人が神經を用ふ事を思ふと、彼には二重の負擔になるのであつた。娘と妻との二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つの務を毎日揃はせる、母親の不自然な位置が思はれた。併し不自然を逃れる爲、其で別居すれば氣を遣ふ程の母娘で、現在の事情からもそれは不可能であつた。彼は左樣な工合で母親に餘儀ない疑問？を向けた。何う極りをつけたら宜くなるか、神經衰弱の故か分らぬが、夏から秋へかけ其が頭の中の問題になつた。

秋の彼岸過ぎに箱根に在る友達の招きで、信一は其地へ出かけた。登山電車の中に腰かけてゐると、まはりの家や樹木がみんな傾いで物珍しかつた。夕方彼は緣側の硝子戸に佇むで、山の部分を取入れた庭を眺めて、梢に目をやつた。頭は自家の事を考へてゐた。不圖母に就ての問題で、左う考へない方が宜い、左う考へないでゐる處に、解決の道があると思へた。一圖な頭の向きが轉じたのである。彼はとが分つた程のかるい頭で吐とした。左うして梢の硝子戸から顔は離すのであつた。翌日は大湧谷から芦の湖に行つた。大湧谷のぶく／＼噴いてゐる箇所は物を痕跡なく一切溶かして終ふとの事、芦の湖の元箱根村の美しい篠山、それ等が彼の頭に殘つた。箱根に二泊して戻つたが、彼は仕事の上のある思つきも出來て宜かつた。

それから彼はむき出しに母に疑問？を向けなくて濟んだが、母娘と彼と位置境涯は依然としてゐた。彼は左う考へない、其意識から性格を直す風にしてゐたが、境遇から生れる感情には負かされがちであつた。で、信一は松子の病氣其由つて來たかの女の以前ゐた場所が呪はしかつた。かの女を間接ではあるが左う云ふ場所にやつた、母の上に頭はめぐつて來た。而して其は考へない事として彼の頭は打消すのであつた。左樣な鹽梅で暢氣に時を過した方が宜いとは分つても、左うは能なかつた。松子も母親もまた同じ心持であらうと考へられた。……

十二月中旬のある日、何時もの如く彼は匙で粥を口に入れてやり、食慾のない病人は少しでよした。彼は茶の間の方の母に向いて、膳を型づけさせた。母親は型づけてから再び茶の間の針箱の傍に坐つたが、

「何うして御飯を食べんのぢや。其では何時直るか。ほんとに甘へてばかりゐて厭だよ！」

左う六疊の方に向いて云つた。言葉のとがりが、病人の傍の彼の耳についた。彼は辛棒能ず茶の間の方に起つて往つた。間の敷居の上に佇むで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「そんな事、云ふものぢやあ、ない」と窘めた。
　頭から云はれた母は、面持に氣の亢ぶりが出た。外れて落ちた針仕事用の眼鏡は、庭へ投捨た。
「わたしは、居ない方が宜いのだろうからな。出ていかう。あゝあ。悔しい」母は露出に彼に向つた。針箱の傍から起つて長火鉢の根の座に體を移し、「何時からさう思つてゐたが」と云うて、泣き出した。
　信一は長火鉢の根の母の傍に近づいて坐つた。病床の松子は
「阿母さん！」と留めるやうに呼んで、六疊の方で泣くのであつた。彼は又其枕元に起つて往き
「興奮しては病氣に障るんぢやあ、ないかと制した。彼も顔に泪をつけてゐた。家の凡ての物が急に歪むだ有様であつた。
　と恰度、玄關に誰か來たが、母が出ない故信一が障子を開けた。徳永翁が土間に入つてゐた。徳永翁は彼の郷里の恩人で、毎年十二月に出京する翁に彼は四五日前に深川の方の旅宿で逢つてゐた。信一は茶の間の障子に向いて
「徳永サンだよ」と傳へた。而して翁を六疊の方に招じ入れた。徳永翁は病氣見舞であつた。
　松子は起きやうとしたが、翁に留られた故、泣腫の目元で枕の上から挨拶をした。母親は茶の器を運んで來たが、又直ぐ戻つて、間の障子を閉めた。信一は徳永翁に對座し乍ら、涙が膝の上に落る程の仕宜で、感情から聲篩つて云へなかつた。
　少時して翁は起ち上り玄關に下りてから、神明町の停留場の方面を尋ねられたので、信一は見送る爲、從いて出た。病人には「落ついて居なさい」と出がけに言置いた。
　信一は外では目隠された風で前だけ見た。狭い横町の道で伴れの一歩前に足を運んでゐたが談は仕難かつた。停留場で直ぐ電車に乘る翁に別れ、彼は矢張目隠された風で眞直ぐに戻るのであつた。
　信一が外出した間に松子は母親に口をきいた塩梅で、家の有様の歪みは稍直つてゐた。――徳永翁は鄕から手紙で「たゞならぬ御樣子は見受られ候が」と云うて慰めの言葉があつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

信一は咽喉が痛かつたが、彼行合の跡一日置いて、發熱で倒れた。松子の病牀と彼の床が並むだ。松子は六疊の床の間よりに南枕であつたが彼は逆に北枕にした。信一は熱が八度前後に昇ると目も頭腦も朦朧となつた。彼は絶えず體溫器を檢しては其目盛と自身の狀態とを考へ、松子の發熱の場合が分明分ると思つた。上原醫師は例の聽診器をつけて信一を起し、胸、背中、順に診ながら

「ほう、良い體ですなあ」と云つた。信一は結核傳染の杞惧は消えた。偏桃腺炎故、嗽ひと頸部の濕布を行つた。

彼が寢ついて三日目の朝、松子は又喀血をやつた。同じ夕方又金盥に受ける程やつた。彼は未だ頭がふらついたが、頸の濕布の儘起出、自分の寢床は型づけるのであつた。

松子は四日間續けて都合五回、之迄にない喀血をやつた。傍が耐られなかつたが顔を反向る事は出來ず、左う云ふ場合の本人松子の素直な樣子に一番惹かれた信一は其に依つて心持が支へられるのであつた。

松子の體は、健康時、六月喀血の時、十一月のそれ、彼の頭の中には其姿が型みたやうに出來てゐるが、現在衰弱を目にすると段々に本人は小さくなるのであつた。又、醫師に病人と比較されたのも氣にした信一は今は其勇氣がなかつた。

枕頭には血どめに吞む麥角浸の赤い瓶、咳嗽どめに然も日に二回以上吞めないモルフイネ劑のきつさうな無色の瓶、藥の瓶は並むだ。母親が云ふ故、彼は友人に賴みある專門醫を聘して、立會つて貰つた。

專門のM醫師の診斷の結果を、彼は友人に質して、「俗に寒と云ふあの時節は馬鹿に出來ぬ、寒を越せば持直す」左う云ふたと友人は傳へた。信一は其詞の裏の寒を越せぬ意味は胴忘れして悟れなかつた。

九

「鶯見の子供が出來たよ、女の子ダ」——前に書いた、年下の友人の鶯見は許嫁の厄年が過ぎて結婚、直ぐ子供を作つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。

「左う、何時お產があつたの？」

「八日の朝」信一は松子の母に云つた。

「お祝を持つて往かねば、ねエ」

信一は暮に鷲見に逢つた折、貧乏故出產のお祝出來ないと斷つて置いた。で。それを母につげた。義理は缺きたくなかつたが、信一の現在は弱つてゐた。

「仲人親だもの、唯ではすみませぬ」

母親は弱味が出せない方で、この五月は餅を搗き、重の物、或は羽子板まで飾立てたが、義理も丁と仕たいのだ。母の仕方は家の現狀とは凡そ不調和であつたが、信一は左うさせて置く他なかつた。

「根津の方に往つて都合して來ませうね」

左う云ふ母の詞にやがて彼は頷いた。二年前の春、信一の頑固な手前勝手について妻の松子が泣いて諫めたとがある最近、友達は信一の性格に撓ひが出て來たと評した。彼は家庭に交つて左う變つたのか知らと思へた。――娘の病ひが永引き醫者丈に便りきれない母親が色々迷信染みた事をする。信一は其に始は拘泥し干渉して禁てゐたが、現在は母の仕宜にさせて置く。何とかの行者の云ふた楽観的な言葉に信一は耳を傾ける程になつた。玆自分を枉げたのは之は看病に疲れた故――左う彼は思つた。

母は根津の質屋で都合した物で何か調へて、產には女が出向くものと稱し、鷲見の宅に往つた。鷲見は松竹キネマの社員で動坂の館に來た折、度々病人を見舞うて吳れた。(後鷲見の子供の宮參に、仲人親は犬張子をやる物と母は主張してやまなかつた。彼がもつと弱つた場合であつたが)

一月初旬に降積つた庭の雪が庭に凍りついた。信一は薄汚れの雪に目をやり、俳句を作りたがつた。永い間仕事机に坐らず、物質上の破綻、また精神上の苦痛、二つを彼は抱いてゐた。病人の介抱で氣はゆるめなかつたが制作のないの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は淋しい。制作の本能を充せる俳句を作らうと思立つたが、併し一句も出來なかつた。——昔の花屋日記なる本に、芭蕉の病床に侍し諸子に發句の出來る樣が記述してあるが、實感から噓らしく思へる。花屋日記は文献上から後の作り物との說有——

薄い冬日が消え、夕四時に電燈が點く。日の消えた、電氣のくる少し前の時刻が辛らかつた。夜の病室は電熱機、たてた炭火、兩方で湯を沸かし室を溫めた。が人が防げない寒さの芯が四方からとりつめて來る。庭の雪が幾日も寒氣を證據立てゐる。病人に一番害る寒氣。

松子の母が彼に向いて

「竹內、床を四疊半に移す方がとおもふがねエ」と相談した。

四疊半は家中で溫暖故左う云ふが、信一は母の居間に床を移して、娘にずつと近づきたい母の心持が分つた。彼は母の面を目戍れが漸く領いた。

「六疊をあけ、あなたは仕事が出來るから」

母は從來の茶の間の物を臺所と玄關の三疊に移した。三疊は茶の間になつた。夜は四疊半に松子の病牀と母の寢床が並ぶ事になつた。

その晩母は彼に、實は叱る故斷らずに行つて、池の端の卜にみて貰つたが、病人はこの寒が六ケ敷い、寒を越せば直るが六ケ敷い、左う云はれたとつげた。信一は聞いて、いくら卜者だつて左樣な無遠慮な詞は云ふまい。母がつききつめて左うとつたのであらうと考へた。松子の病の狀態を怖しくて母に細かく云はずにゐたが、母は自ら知つた。「俗に寒と云たあの時節は馬鹿に出來ぬ、寒を越せば持直すと云ふたM醫師の詞、其は卜者程不愉快でないと思へた。

松子は左枕に橫臥した下の左の方の痛みを云ふた。割に丈夫と云はれた左肺の方も浸潤して來たが、併し當人は痛い左枕は變へぬのであつた。左の耳と左の股とが糜爛れた。掛蒲團が重いと云ふ故、友禪縮緬の搔卷を出し上の掛蒲團に代へた。取て置の搔卷は「阿母さんの死ぬ時著るンだヨ」と冗談云はれた品で、今松子が著るが、其不用意な詞が讖を

なしはせぬか？と思へた。

松子は静かな病人であつた。前にも書いた、始終の素直な有様が看病人の心を励し支持力になつたが、唯一度斯う云ふた。

「外の景色を見たいわ、乳母車に乗せて連れて行つて」

左う彼に頼むだ。彼は面は笑つて其希望を打消した。と

「左うを、丈夫になつたら」と、松子は云ふのであつた。

盗汗の脂を拭ひ炙つた寝巻を著せかけようとすると、一度松子は坐つて、急に泣出し

「こんなに痩せて、阿母さん」と、下向いて骨立つ膝の上に手を居えた。

母は今に直ると云つて慰めた。

信一は、松子が咳嗽の苦痛を緩和と去熱の爲の胸部に温濕布、盗汗の寝巻腰巻など毎夜三四回程取換る故、病人は裸身は見てゐる筈だが、己れの衰弱は露骨に感じない、其が、不図氣付いて了つた。左う思つて病人を目成つた。

松子は其後、左うして蒲團の上に半身起すと、漸休んで、疲勞から目はぼろ／＼涙を落した。

食事は、粥、玉子、ソップ、ソップは毎日鶏の骨二つづゝ煮出し病人がよく飽ないと思へる程續けてゐた。が營養は、段々病勢に負けるのが目に見えた。松子は牛乳は吐く癖がついてゐたし、又食慾が少なかつた。みんながやきもきしたが本人は倚努力してゐた。傍で強いると、涙ぐんだ。傍の悩と自らキメてゐる心持とに板挾になる。藥方は主治醫が、「たゞの藥では効かなくなつてゐる故、きつくして居ます」と云ふた事がある。

寒の半ば頃、或朝松子は

「阿母さん、起して、起して」急に呼んだ。「抱きかゝへて／＼」

起されて坐つた松子は抱れて母の胸に縋りもたれ懸り、母は背に倒れ相で、尻に座蒲團を二つ折にしてかつた。寝巻の肩に褞袍を著せかける。松子の浮腫の面は苦痛の表情で、額にみる／＼泌出る汗の玉、大きい呼吸、其呼吸の毎頭は搖

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

らいだ。熱は九度程で何時もと大差ないが、容態は異つて來た。

母は寝かさうとすると、病人は抱いて〳〵と云ふ。彼が母に代つた。松子は體の量で寄懸る故、彼は反身で坐つた腰骨が痛く成つたが我慢した。松子は抱れてゐれば、未だ神經が落ついた。母と彼とが交代に抱いて居てやる。

午後に上原醫師は、カンフル二つを一緒にして、病人の左腕に注射した。信一は其を成つて最うそんな容態になつたのかと思つた、四疊半には藥の匂が迷ひ、松子はカンフル臭い息を吐いた。

・醫者は起つて、從いて出た彼に玄關で

「困難ですぞ」と云つた。

信一は、弱い事云はない醫師と思つてゐた人に、其を云はれた故應へた。上原老人は跛を曳いてゐた。片方足袋の無い、足の踝の邊繃帶してゐた。足駄の上に降りた老人に、彼は障子に摑り乍ら

「御足は」と尋ねた。

「腫物が出來てなあ」そうして俥に乘らぬ上原老人は泥濘の路地を戻るのであつた。

松子はもう横になれずに、屈めた頭はぬるい安火の上の坊主枕に居けてゐた。

「阿母さん、髮はみんな剪つてお不動様にあげて下さいな、よくなれば又生えるから」と云ふ。

已に、其髮は周りを殘し内側の大部分剪取つて、深川不動に願掛に母が持つて往つた故現在は僅かである。母は

「此間の分だけで聞いて頂けるヨ」と慰めた。其願掛の札は病室の天井に挿してある。母は不動様の他、ちかい田端の赤紙仁王にも往き、鯖大師にはお百度踏んでゐる。

「左うを」

其松子の生地のすいた割に角長い頭顱に、彼は目を移した。其は汗の玉が生地にみえる。松子は苦痛に稍慣れ、又耐へて、抱いてと云はない‥‥

六疊間の寝床に、彼は帶の結目を前に廻して横になる。母と交代に寝むのだが、枕の上で彼は樂しい空想を頭に描い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。此頭の中が外に分れば弱るぞと思つた。そんな空想、其が催眠法になる。が、寝床の隣に赤い焼けた壁、松子の病床の跡、其が目につくと眠れなかつた。

彼はそつと日剝暦の傍によつて、節分まで數へて捲り上げ、何故かその日が心あてになつた。

二月一日、母は醫者に云はれ、病人の有様から、床を座敷に移したいと云出した。黄味だけの生玉子も吐くし、腰は抜けたし、又可成潔癖な病人の、そさうを見るやうになつた。母の詞は或場合を暗示した。が、信一はそれを直ぐ肯かなかつたが。母は座敷に移したい主張を止めず、その剛い眼色に彼は反對出來なかつた。

松子を敷蒲團の上の儘曳ずつて、再び六疊の床の間寄に病床を直した。横臥の方が宜からうと云ふと病人は從つた、枕頭の品々も元の様に移した。松子は信一に向いて

「こんな病人、もう厭におなりでせう！」と、愛情の事を尋ねた。

「否、僕は厭にならないよ。厭ならから介抱はしない。何時迄も介抱をしてあげるよ」

「左うを」

其松子の顔には何の表情も浮ばない。信一は其で驚いた。質問の内容に凡ふさはぬ平靜、別な事を尋ねてゐる様！

信一は松子の神經で觸れてゐたが、抱いて〳〵と呼んだ時分から様子が異つて、かの女は別人になつた。（苦痛が一部の神經の働きを傷けた）半ば何處かに行隔つた、かの女が自ら不自然な位置に心づき、大事なとを急に質したのであらう。が、かの女の位置からは信一の答へでは半ばより腑に落ない？……

信一は又松子の薄い表情から、一人の生命の薄れる場合傍に從いて行けない其道程が、感じて慚と分るやうにもあつた。

其日の新聞紙は小田原の方に出掛てゐた有名な年寄の病死を報道してゐた。前に寒さが老體に應へたと云ふ病の報の傳つた時、彼は妻の容態から考へて、此年寄も寒を持越すやうにと思つた。が死んだ。——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夕方母親は危篤の電報を打てと云ふ故、國の父、大阪の叔父、松子の郷里の叔父、三通の電文と友達に速達を書いて山の上の道を急いで渡邊町の郵便局まで往つた。

晩、病人の手の脈を握つてゐると、不規則で激しい故、彼は醫者を聘びに起つた。足首の腫物で動けない上原醫師が、急な場合にはと云うて紹介された山の上のT醫師を聘ぶ爲。其醫者は恰度車で他へ出がけで、信一の事情を聞いて彼の宅に前廻る事にした。五十歳のT醫師は座敷に踏入るなり

「嗚呼」と顔面を歪めた。檢脈だけで、呼吸困難だから起さない方が宜いと云つた。彼がカンフル注射を頼むと、醫者は鞄を開いて

「これがカンフルですよ」左う云うて彼に指示し念を押して、彼が二つと云ふ故、その通り注射をした。カンフルは以前の折程匂はなかつた。病體の反應が弱いのかと思へた。醫者は器械の函を仕舞つて、ひげもぢやの面を歪めながら起ちかけた。彼が玄關の三疊に從いて行くと、T醫師は開いてゐる茶の間に體を入れた。云はふとする故、信一は火鉢の根に坐つた。膝を折つた氣の弱い醫者は低聲で

「奥さんですか。お氣の毒です。呼吸困難では。朝まで六ケ敷いですよ。お知らせになる處があれば」と云つた。

信一は默つてゐた。

「酸素吸入やりますか。効はしないが、呼吸は幾分和らぎます」

信一は點頭いた。醫者は吸入器械を借す約束をして起つた。

彼は直ぐ其を求めに出た。妙に悲壯なと云ふ感傷氣分に、堕ない樣に努力をしてゐた。彼は動阪の薬舗迄酸素をとりにゆく道の上で、逢ふぞと思つてゐた友人の鷲見に逢つた。——動阪の館に來る鷲見は必ずこの道を通る——友達の鳥打帽を目掛て彼は太い聲をかけた。鷲見は直ぐ事を聞いて彼の宅に向つた。信一は重い酸素の鐵棒、風呂敷包の器械の箱二つを携へて戻つた。

病室で、鷲見が手傳ひ、水に通す酸素吸入の仕掛をしたが、勢が鈍いので、鷲見は、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「醫者に聞はう」とむきな面持で起かけ、其番地を尋ねた。と松子が「金工場の横丁ですわ」左う知つてゐて云ふた。信一は氣の確かな靜かな病人に目を移した。鷲見が戻つて、疊の上に居えた鐵管の端に附く捻を直し、酸素の勢がよくなつた。病人の顔へ硝子の漏斗を當がふた。松子は

「阿母さん。鷲見サンにあちらでお茶をあげて頂戴な」左う云つた。松子は呼吸が激しい故口が渇き絶えず吸呑から番茶を呑んでゐた。

信一が云うて、鷲見は田端驛の終電車で若い細君と赤子の處に歸つた。明朝再び來る約束で。

松子は漸て幾らか楽なやうで睡眠を催した。眠れば力の經濟になる故彼はすゝめたが、病人も眠らうとした。が咽喉がかわくのと折々ゴクッと變な呼吸とで眠は妨げられた。

「眠りたいけど、駄目ねエ」松子は目を開けて左う云つた。信一は友人がペンに削るやうと云つて呉れた白い鵞の羽二枚をとり出し、それを重ねて水を掬ひ絶ず唇を濡らす様にした。

朝になり雨戸を開けた。障子は青白く、酸素吸入の瓶の水は沸續けてゐた。松子の顔は目が隠れる程浮腫れ、斷續の急を呼吸、糸のやうなかぼそい生命が目に映るやうであつた。病人は股の間を氣にし、臺所から出て來た母にそれを知らせた。母は優しく宥したが、病床の足の方に廻り、例の指卷を持上げた。動かすのは危ないと信一は感じたが、直ぐ制止するまでに頭が到らなかつた。下を拭ひとり少し足を動かしたヘヅミに、松子は

「アッ」

と云うて、瞬間醜い顔になつた。傍で手を握つてゐた彼の頭に泌こんだ。手に應へがなく病人の眼色は消え口は固く閉ぢ、齒に衝當る舌の音、咽喉の音、？

母は直ぐ手を握り耳の傍で呼んだが、變な音は絶え、唇にはづかに泡が吹出した。枕の上の顔は、彼内面的な醜さは直ぐに消えてゐたが‥‥

信一は室の有様が急激に異つたので驚いた。奈邊に往きつゝあるのだらう？　しばらく盆槍してゐたが、吹出してゐる酸素吸入の漏斗をば、其顔によくあたる様正しく直すのであつた。

（大正十二年四月）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

或る男

武者小路實篤

一六六

彼は罪なき罪と云ふ題をあまり好んでゐないが、それはこの脚本のモデルになつた自殺した友達のことを考へたからであつた。

その男は品行方正であつたために、妻が結婚する前に男を知つてゐたことに氣がついた時、非常に心を苦しめた。勿論今の時代では自分が勝手に放蕩しながら、妻の結婚する前の品行を氣にするのが習慣になつてゐるかも知れないが、自分が女をまるで知らなかつたことが、なほ相手の罪を強く感じることになり得る。その相手を責めすぎるのを罪と見て、罪なき罪と一方つけた。又一方細君の方の罪も大した罪ではなく、一寸したあやまちで、男に身體をまかせ、身重になつてゐるのを知らずに彼の處に來た、それを罪なき罪と見てもいゝと思つた。しかしどつちにしても少し屁理窟で面白くないがいゝ題もないのでそのまゝにした。彼はこゝでなにを書かうとしたか。それについてはよき批評家に任せやう。このモデルになつた彼の友

達は、又志賀や里見の小說の材料にもなり、彼は又のちに「不幸な男」をその同じ材料でかいた。

その友は殺生なことが好きな男だつたが、頭のいゝ、温和しい、自分の身體のことを常に氣にしてゐる男だつた。學習院の初等科の時彼と同級で、初等科卒業の時は一番だつた。その後大病して學校をやすみ、一年級がおくれたが、彼とは學校の歸りよく一緖になつた。大病後身體のことをたへず心配してゐて、運動とか養生とかを專門にしてゐて、彼よりもずつといゝ、身體になつてゐた。彼はその友達の處へ行つて身體を丈夫にする方面の雜誌をいくつもとつてゐるのを、からかいながら同情してゐた。「あんなに生命をおしがる人間も少い」位に思つてゐた。

處がその友が不意に死んだので同情してゐたら、それが自殺だつたと云ふことを聞いて彼達は隨分びつくりした。彼は本當のことは知らなかつたが、友及び友の妻についていろ〳〵の噂がつたはつた。本當のことを知らないだけになほいろ〳〵と考へられた。そして死ぬ二三ケ月前に久しぶりに彼の處へたづねて來た時、彼が不在で、別に氣にもかけずにゐて一度電話をかけた時その友が不在だつたので、そのまゝにして逢はなかつたことが、變に心のこりになつた。

それに彼自身の妻が彼の前に男を知つてゐたことなぞが元因になつてかいたものである。しかし彼は友の自殺する氣持を實感でかくにしては彼の自身の主觀がまだ强すぎた。それで主人公を自殺させることが出來ずに生かすことにした

その後彼の妻は一寸實家に歸り、彼は兒島喜久雄が信州で講演するのについて行つた。そして自分だけ一週間許り旅行した。彼はこの旅行で自分の女にたいする自分の心のひかれ方の簡單で、あまく、あまり見よくないことを今更に露骨に知つた。しかし彼は女にあまり好かれない質なので、安全は安全だつた。彼がもし女に誘惑されやすい男に出來てゐたら彼は創作のエネルギーを半分以上失なつたであらう。彼は三十九になる今まで女に誘惑されたことはない。彼がよしいたづらをしたことがあるにしても、それは半分以上彼の責任である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しかし彼はその弱いと云ふが、あまり見ともよくない自分の内に、更に強いものがあることを知つてゐる。それがなかつたら、彼はくづれ切りになるであらう。彼はそれを感じてハガキにこんな詩をかいて千家に出した。長與か誰かゞそのハガキを見てよくこんなハガキを平氣で出せるねと云つた。さう云ふことには彼は少し無神經らしい。彼は一方に頭が働きすぎる時には他方は忘れてゐる。彼は非常に氣がつく時と、非常に眞抜けの時とある。

「或人々は俺を
美しい、清い人間だと思つてゐるであらう。少くも性慾に關する點では。
それは嘘ではない。機會の與へられない時の表面の表面はまさしくさうだ。
が一皮はぐと、俺は恐ろしく醜い、人々は俺をつまはづきしないではおかない程醜い。
少くも性慾に關する點では俺は卑屈だ卑劣だ、さうして賤しい。
だがそれにおどろく人々よ。もう一皮はげ。しかる時に俺は又美しい。其處の玉座には、何ものをも燃やしつくす火がある、火がある、淨い火がある。
すべて醜きものはいざとなるとこの淨き火の前に跪づく。さうして祈る。
我を清めよ
その時火は燃え上る。
愛の火はもえ上る。燃え上る。
我は小兒の如くその前に跪づく。
その時の我は清い。

だがやがてその上を又醜き皮をかぶる。
自らの運命を自ら荷ひ能はざる美しき女よ。
我一人居る時、我が前にただ一人で立つな。
そは恐ろしいことである。」（三月九日）

之は彼が獨步で知つた湯が原でかいた。そして彼はこのハガキを、二枚つづきかと思ふ、他のハガキと一緒に女中に渡した。女中がよむとは彼は思つてゐなかつた。その宿屋では三人の女中が交代して客の世話をしてゐた。その内の一人を、彼は氣輕な意味で美しく思つたのだ。

その時、同宿の若い男が、センチメンタルな聲を出して歌を唄つてゐるのを聞いた時、彼はその男の心を見拔いたやうに思つた。そして自分の醜い心の姿を客觀化させたやうに思つて、あさましい氣がした。

彼はその五日目の後に、自分の醜き心の用心、或は卑劣のみが人々に通じて自分の本心にふれることの出來る人の少いことを感じた。彼は旅行するといつてもそれを感じる。彼は宿屋にゆくとへんに遠慮する性質からいつても冷淡にあしらはれる。彼は身なりもよくなく、大きな荷を自分でかついで、步いて宿屋にゆくので、その旅行の時も、小田原の大きな宿屋で斷られて、何町も重い本の入つた袋をかついでキタナイ宿屋にとめてもらつたことがあつた。それで浮氣も生かすことが出來ず、神妙に妻のありがた味を感じてゐる。そして彼はこんな詩をかいてゐる。

「お前は俺の心をとりかこむ
幾重の柵を
笑つておどり越え、のり越え

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

俺の心に忍びこめる
唯一つの人間だ。
俺の淋しい心は
お前のわきに居ることを要求する」。(三月十四日)

彼は蟲のいゝ男である。

一六七

彼はその當時、あんまり征服慾に燃え、あせつてゐるのでよく惡口を云はれた。それで彼は激流に向つて、あせるなと云ふ馬鹿をひやかしてから云ふ詩をかいた。

「おゝ川よ。川よ。
お前はそんなに性急に流れてはいかん。
よく考へてゆつくり流れよ」(三、一七、)

所がこの皮肉がわからない人があつて、本當に性急はよくありませんねと、この詩に同感した人があつた。彼はあつけにとられて、笑ひながら云つた。

「本當にさうですね」

自然を見ずにものを云ふ理想家はたまらないものである。それは生きる力を弱めることを要求する。彼はさう云ふ人にはガムシヤラにぶつかつた。

彼のかくものにはガムシヤラな、手のつけられないやうなのがよくある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

左に二つ三つぬいて見やう。

批評家に、

君が右へ行けと云ふので右へ行くのではありませんよ。

私は右に行きたいから右にゆくのですよ。私は左へゆきたくなつたら左へゆきます。

お前は天才か

「お前は天才か」

「さうだ、俺ももうそろ〳〵

自分を天才だと思つてもいゝかと思つてゐる。

君はどう思ふ」

しやうがない奴

「しやうがない奴だ」

「さうだしやうがない奴だ」

「君がだぜ」

「さうだ、僕がだ」

彼は圖々しいものゝ云ひ方をユーモアで包んで、相手になげつけて、よろこんでゐる。

しやうがない奴である。

しかしその時分はまだ天才病の流行しない、凡人病の流行した、ニセ謙遜と、人生に愛想をつかしたいぢけた空氣が四方をとりかこんでゐた時だ。其處に彼等の仲間が頭をもたげて來たのだ。いぢけ病にとつかれないことが彼には必要だつたのである。

「でるくいは打たれる」

「それなら打たれて見たい」

そんなことをずつと前に彼はかいたことがあると思ふが、德川時分のさう云ふ空氣にも彼は反抗した。

「こと勿れ主義」それが彼の弱點につけ込むことを彼は恐れたのである。

彼は弱いが故に強くなつた男である。決心せずには立ち上れぬ男である。だから立ち上れば死ぬまではすきまがあれば進む人間である。何のためかそれは彼は知らない。

杉を天に向つてのばすものにでも聞けと、彼は云ふであらう。

その時分から彼は次第に愛讀者を得て來た。

しかし批評家たちはうまず彼を輕蔑してゐた。彼はいくら考へても、批評家から敎はつたことは爪のあか程も見出すことは出來ない。

一六八

彼は旅行して歸つてから嫂のすゝめで、彼の妻の望が叶ひ、一軒家をもつことにした。五十圓で生活するので、家賃の高い家にはすめなかつた。方々搜しても氣に入るのはなかつた。やつと有島生馬に知らしてもらつて下二番町に小さい家をかりた。家賃は十四圓五十錢だつた。三十五圓でくらさなければならなかつたのに、丸善の拂ひや、白木屋の拂

ひが百二三十圓たまつてゐた。房子はその都度父の處へ無心を云つて、ごまかした。一度彼が二三十圓のつもりで注文した詩集がとゞいたら、税も加はつて九十圓あまりになつてゐたので、面喰つて、房子は又福井へ飛んで歸つて一晩も泊らずに引き上げて來たことなぞもあつた。いつも一圓の金もなく、房子の家で世話しなければならない婆さんが女中がはりに來てゐたが、その人によく一圓、二圓の金を借りてすませた。しかし彼は自分を金持のつもりでゐる。

そして夕方になると彼等は二人で散歩に出て、果物を買つたり、すしを買つたり、或は活動を見に行つたりした。そして又中央公論から原稿をたのまれて四月に「母親の心配」をかき出したが、長さが注文より少し長くなつたので、長くなつてもいゝかと聞いた返事が少し遲れたので彼は侮辱されたやうにとつて、その時分千家達がやつてゐた「エゴ」にそれを出すことにして中央公論の方を斷つた。見す／＼四五十圓損したが、彼は別に損したとも思はなかつた。たゞの原稿をかき馴れてゐたから。「母親の心配」もお貞さんからヒントを得た脚本だ。しまいが少し細くなつてゐるがあとは得意だつた。しかし彼の妻はその脚本に嫉妬を感じたが、少しも書きなほさせはしなかつた。彼の仕事は仕事として尊敬してゐた。

彼達は夫婦喧嘩を時々やつてゐた。それは半分以上生理的にくるらしい。殊に創作家は家にゐる時が、仕事をする時なので、室にゐると仕事のことを考へてゐる。だから考へてゐる時に話しかけられたり、神經にふれる音をたてられたりするとすぐ彼は怒鳴つた。それに室が二つ切りなく、それが襖一つの隣りあはせで、彼が父ゆづりの癇癪持で、細君が又負け嫌ひだから時々火の手があがつた。しかしながつゞきはしなかつた。そして和解すれば以前より仲がいゝやうに見へた。夫婦喧嘩、犬も喰はないと云ふのは尤な話である。

と云つて、彼はこの言葉をはつきりは知らないのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼はよく「猪喰つたむくい」なぞと云ふが、本當の意味は滿三十八歳十一ケ月になつた今から半月前まで知らなかつた。たゞ語呂がいゝのと感じがあるので、本當の猪の肉を喰ふと殺生の報ひでもあるのだと思つて云つてゐた。彼は時々、甚だ頓拔である。時々非常に賢い時があると云ふ方が本當かも知れない。

一六九

彼は六月に「或る日の事」と云ふ一幕物をかいた。之も中央公論にたのまれて、前腹たてたのは自分の神經の先きつぱしりなのを知つて、かくことにした。無理にかいた作である。しかし自分では得意だつた。彼が浪六の豊太閤をよんでゐてその時分の人命の大安賣りなのに不快と不安を感じ、そんな目にあふ人々に同情してかいたものである。

そして自分達が平和に生てゐることの勿體ないことを感じ、何かしなければと思ふ感じを出さうとした。

この作を安部能成君が汽車で退屈してよんだと云ふ理由で、他の同じく中央公論にのつた作と一緒に一からげにして評した中で惡口云つてゐるので、腹を立てゝ、彼はもう能成君に逢つてもお辭儀はしないと白樺の六號にかいた。

彼は能成君の人には逢ふといつも厚意をもつのだが、かくものをよむといつもこの云ひわけらしい處に腹を立てた。

その時分の氣持は今の彼にはもうわからない。この作は夏目さんもあまり賞めてゐない。少し無理があるが、しかし彼はうまく芝居にやられゝば必ずそれ等の人の知ることの出來ない感じが出るはづと思つてゐる。

あてにはならないが。

その時分から彼の嫂は第三番目の姙娠をしたが、つはりで身體が面白くなく芳子がなくなつた赤十字病院に入院した。同時に彼の母も神經痛のために大學病院に入院した。

その時のことは委しく、彼は「死」と云ふ短篇にかいてゐる。彼の母は手術を受けて、その結果がよく、まもなく退

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

院したが、嫂の方は面白くなかつた。醫者は早く胎内の子をおろすことをすゝめた。しかし嫂はそれに未練をもちすぎた。それは美しいことではあつたが、遂に時機を失した。嫂は七月になつてから、何度もあぶなかつた。彼はその時のことを「死」の内にかうかいてゐる。

「彼、今にも嫂が息をひきとるかと思つた。嫂の病室に皆集つた。皆涙ぐんで嫂の顔を見た。正視することが出來ないが顔を背けると又いひつけられるやうに嫂の顔を見た。嫂は何にも氣がつかないらしかつた。

兄は嫂の瘠せ切つた手をとつた。嫂の顔を見守つた。耐えられないで顔を嫂の胸にあてた。

「苦しかないね。氣をしつかり持つておくれ。本當に生きかへつておくれ。お前は本當に不幸な奴だつた」

兄はまたたまらないやうに泣いた。見てゐるものも泣きぢやくりした。だが嫂には兄の聲は聞へなかつた。

「かづ子、かづ子」兄は遠ざかりゆく魂を呼び戻すやうに段々聲を大きくして呼んだ、しかし嫂は正氣に歸らなかつた。

「實光に逢ひたいか、實光に逢はしてやらうか」

兄はかう云つた。さうして實光を呼びにやつた。實光は一度病室に入つたのだが誰も自分を相手にせず、泣いてゐるので、其處にじつとしてゐるのをいやがつて外へ出てゐたのだつた。實光は山口につれられて來た。

「さあお母ちやあんと云ふのだよ」實光は兄に嫂の寢臺の上に抱き上げられた。嫂の顔を見て、

「お母ちやん、お母ちやん」と云つた。

「もつと大きい聲で」

「お母ちやん、お母ちやん」

實光は段々聲を大きくした。皆泣いた。實光だけは泣かなかつた。さうしてなほくり返して呼んだ。だが嫂には矢張

りその聲は通じなかつた。

醫者はカンフルの注射をした。その後食鹽の注射をした。それが思つたよりきいた。危險期は一時過ぎたやうに見えた。人々は一先づ氣がおちついた。だが醫者は「絶對に望みはない。今晩あぶない」と云つた。

嫂は不思議にその晩はふみこたへた。醫者もそれを不思議がつた。この不思議が誇張されて僕達の間には希望が生れて來た。

「助かつてくれたらどんなに嬉しいだらう」

兄はさう云つて微笑んだ。幾分か兄の顏にもその瞬間に希望が見えた。

嫂は段々はつきりして來た。子供のやうな聲で人を見ると、ついてゐる女中にお茶を出したか、とか菓子を上げてくれとか云つた。嫂の一言一句は難有いもののやうに皆の口から口へつたへられた。さうして皆目に涙をためて望みのありさうな話をした。

「頭もしつかりしてゐる。どうも不思議だ」

兄はさう云つた。

皆今更に嫂の價値を強く感じた。自分の心の內に生きかへる嫂の姿を見て、皆嫂を生かしたかつた。その內に平氣だつたのは實光だけだつた。實光は母には緣のうすい子だつた。實光が生れて一年たつたかたゝない內に嫂は兄の後を追つて獨逸に行つた。たつ前の一年の間嫂は實光を育てるのに全力をつくしてゐた。だが自分の獨逸にまもなく行かなければならないことを知つてゐた用意のいゝ嫂は、自分が居なくなつても、實光が困らないだけの用意をしないではゐられなかつた。だから嫂のゐる時から實光は山口と一緒にゐることになつてゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬきがきはその位いにしやう。嫂はそれから三四日不思議に生てゐたが、七月七日の午前七時にとう〳〵死んでいつた。三十二だつた。

彼は嫂の葬式に喪主をつとめた。

一七〇

彼はその後まもなく夏目さんから手紙をもらつた。それには志賀が朝日に長篇をかくことになつてゐたのが、不意にかけなくなつたのでそのかはり、十人位いの人に短篇をかいてもらつて、つゞけて出したいと思つてゐる。よかつたら彼と里見にかいてほしいと云ふのだつた。彼はすぐ手紙を持つてその時分東京に歸つてゐた里見に逢ひに出かけた。里見もかく氣になつた。それで彼は承知した意味の手紙をかいた。

夏目さんは志賀を尊敬してゐた。そのことは短い文章で朝日に夏目さんがかいてゐた。その文章は全集にはのつてゐないやうに思ふが、尊敬する意味がかいてあつた。志賀の方では勿論夏目さんを尊敬してゐる。

それで夏目さんが志賀にかくことをたのんだのだが、志賀が途中までかいていやになつたので、やめることになつたのだつた。

彼はそれで嫂の死をかいた。十二三回で終るやうにと云ふ註文だつたが、彼は十六回位いになりさうなので、そのことを夏目さんに書いて十六回になつてもいゝかと云つたら、それでは他の人の關係上困ると云ふので、彼は十四回にちゞめた。しかしわりに要領よくちゞめられたから反つて十四回でよかつたかも知れない。彼は夏目さんの氣持や、手紙のかき方で、少しも不快を受けずにすんだ。

その小説が元因で彼は夏目さんに一度か二度あつた。それは小説のなかの文句をかきなほすためだつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼は友人をぬかして、先輩では矢張り夏目さんを愛してゐる。今でも夏目さんの夢を見たりすると、へんに淋しく、生きて居て下さつたらと思ふ。たしかに夏目さんは日本に生れた文學者の内で最も立派な人だと思ふ。どんな所へ出しても自己をちやんともつてゐた人と思ふ。誰の前へ出ても立派に自分の考を云へる方だつた。自分は夏目さんとは考がちがつてゐた。自分は夏目さんの寫實主義にかぶれすぎたのを惜しく思つてゐた。

寫實主義にとらはれすぎ、その寫實主義が自然とか、本當とか云ふ感じを與へずに、本當に似せやうと云ふ、ありさうなことを書かうと云ふ努力になつてゐるやうに彼は當時思つてゐて惜しい氣がした。又彼は夏目さんの論文があまりに頭のわるい人を頭においてかいてゐるのをはがゆく思ひ、忠告見たやうなことをかいたこともあつた。逢つても、お互に氣持ちよく議論出來た。之は彼許りではない。誰でも夏目さんには氣らくに自分の考が云へるらしかつた。其處に夏目さんの大きな處があつたやうにも思ふ。しかし彼は夏目さんの死ぬ前一二年は御無沙汰してゐた。死ぬ少し前には夏目さんの態度が少しくかはつたと彼は何かでよんだ。しかしそれは彼の知らない所である。

ともかく夏目さんは議論のために議論はしなかつた。眞理のために、本當のことのために議論をさけなかつた。だから話してゐても私的な感情なく、俗ぽい處なく、純粹に、人生問題、藝術問題について話が出來、そして心をひらいて話が出來るので、話してゐると歸るのを忘れた。

自分は夏目さんについてはあとでもう一度かく時があるであらう。

一七

この短篇は彼の小説が新聞に出るとまもなく、或る本屋から、それを本にして出したいと云つて來た。勿論それは朝日に出たいろ〳〵の人の短篇と同じ叢書の一つとして出すのだつた。彼は全集にのせる時のせてもかまわないかと云つた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ら、半年程厚意上他の本にのせて下さらなければ、そのあとは他の本にのせてもかまはないと云はれた。それで彼は承知した。彼はその本が出來た時、千の印稅として五十圓を受けとつた時、たゞもうけしたやうな氣がして、小說家は中々金のとれるものだなと思つた。しかしその本も再版は出なかつた。なんだか本屋に損をかけたやうな氣がした。

彼は前にかきおとしたが、その前に一度本を出したいと申し込まれたことがあつた。それは白樺を出してまもなくであつた。彼が第一巻の第二號に「ある家庭」（三幕の脚本）を出した時、それを本に出したいと申し込んで來た。彼はよろこんで承知したが、本屋が貧乏で紙が買へないと云ふので本が中々出なかつた。それで彼はあせつて、紙代を六七十圓貸した。そしたらその後ぱつたり來なくなつた。彼はその時、「矢張り俺は他人を信用してひどい目にあふ星なのか知ら」と思つた。しかしそれはこの時から見ると四五年前の話である。しかし彼はそのだまされたのを惡意にはとらないで、本當に金に困つてつい融通して、どうすることも出來なくなつて來なくなつたのかも知れないと思つて、別に腹は立てなかつた。たゞ內々本が出ると思つて、得意になつてゐた自分を恥かしく思つた。しかし一方彼は自分の信用をおとすことは、本屋にとつてより損なことにちがいないと云ふ自惚はもつてゐた。其處が彼の彼たる所である。

彼のかいたものに「人間つくりの一瞬間の對話」と云ふのがある。それにはこんなことがかいてある。

A。どんな人間をつくらう。

B。どんな人間がいゝかな。

A。天才をつくるのは厄介だらうね。

B。少し厄介だね。

A。天才はもつとあとでつくることにしやうか。

B。その方がいゝだらう。
A。天才の道を切りひらく人間をつくらうか。
B。それもいゝだらう。
A。何しろ今迄の奴は成長する慾望の少い奴ばかりだから、今度は成長する慾望の強い奴をつくらう。
B。それはいゝだらう。
A。何處までも何處までも成長しやうと思ふ奴をつくらう。
B。さうしやう。それからどうしやう。
A。成長する慾望の強い奴は、がむしやらになり易いから他人に嫌はれる。だから他人に嫌はれてもさう困らないやうにつくらう。
B。さうしやう。
A。出來たかい。
B。もう少しで出來上る。
A。それから何度までも希望を失はない人間をつくらなければいけないね。
B。それはさうだ。
A。それから何處ころがつても起き上る性質にしないといけないね。
B。不倒翁のやうにつくつておかう。
A。それがいゝだらう。

B。才能の方はどうしやう。

A。つくるのが面倒くさければ、あたりまへでもいゝだらう。

B。少しあたりまへよりつぶしのきかないやうにつくつておくよ。さもないとつくるのが厄介だから、何しろ今晩までにまだ一萬九千五百五十三人つくらなければならないからね。

A。さうだ。しかしそいつが生れたらきつと死ぬ時にはがつかりするよ。したいことが少しも出來ないので。

B。さうだね。あんまり可哀さうだから、死ぬ瞬間にも自分のした仕事は死後二三十年たつて始めて結果があらはれるのだと思へるやうにお目出たくつくつておかうか。

A。それもいゝだらう。

B。隨分蟲のいゝ人間が出來上つた。

A。さうか。それなら又いゝ加減の奴を片ぱしからつくつてゆかう。

B。さうしやう。

彼は自分を天才だと云ふ自信はなかつた。しかし珍らしく望の大きい人間につくられたことは認めないわけにはゆかなかつた。其處に悲喜劇が生れさうに一方思つた。しかし彼の本音をはかせば彼はもう少し蟲がよく出來てゐた。そこが彼の彼たる處で、それをこの會話で彼は書かうとしたのだ。

一七二

その秋、彼は「彼が三十の時」をかいた。

之は彼がそれ迄にかいた内最も長いものであるが、小説としてはまとまつたものではない。當時の彼の生活をかいた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ものとして見れば、いく分か價値があるであらう。勿論これは事實そのまゝに全部かゝれたのではない。岸田がかいてゐた水浴の畫は少年が三人ゐる畫だつたのを、彼は女の畫にした。さう云ふ風のちがへ方や、一人の人を二人にしたり日をちがへたりした。しかし同時に事實も澤山まぢりこんでゐる。始め彼はもつと小說らしいものを書かうとした。全然つくりものにしやうとした。しかし書いてゐる内に段々事實にへばりついてしまつた。飛行機が始め滑走してゐて、ある所から地上をはなれるやうに、彼は始め少し事實をかいて、それから勢が生れて來るに從つて想像の世界に入りたいと思つたのだ、しかしそれがどうも不たしかな感じがした、つくりものになりさうな氣がしたのと、事實のなかに入ることに段々興味を感じたのとで、とう／＼半分日記のやうな小說になつた。彼等の生活の記錄としてより他はあまり價値のないものになつてしまつた、

彼はこゝで自分と同じく生長慾、征服慾に燃えてゐた長與、岸田、千家と自分とを主人公にした。志賀は京都にゐたし、柳は我孫子に居たし、小泉は許嫁の人を失なつたり、父の戀の問題なぞで、彼達の仲間から少しはなれてゐた。それにあまり多くの人をかくのも厄介なので、彼は一番、當時意氣投合してゐた三人との交はりを主にしてかいた。あとは彼自身の仕事、及び家庭の生活をかいた。

『彼は益々かいた。自ら押へることの出來ない程、頭が緊張して來た。彼は七時半頃までかきつゞけた。彼は自分の仕事の完成することの出來ることを感じた。しかも自分の内にあるリズムの流れゆくさきの遠いことを感じた。彼は今度こそは物になるものが書けると思つた。彼は心の内には自己の勝利が感ぜられた。

妻が起きて顏をあらふ時分は絕頂に達してゐた、彼はもう筆をとることも出來ずに室の内を步きまはつた。彼は緣側に出た、さうして鏡に向つて楊枝をつかつてゐる妻が鏡の内から彼の顏を見てゐるのに氣がついた時、彼は妻の處にゆ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

き、後ろから肩を兩手で押へ、鏡の中の妻の顏を見た、二人は微笑んだ。

「今かいてゐるものはこんなに大きいのだよ」彼は兩手をひろげて見せた。さうして今迄かいたものはそれに比較すると

「こんなに小さいのだよ」と親指と人さし指を一寸位ひろげて見せた。

「そのかはりお前もつらいよ」彼はさうつけ加へた。

「どうして」妻は少し不安を感じたやうに云つた。

「だつて仕事の方に夢中になるだらう。するとお前のことがそれだけお不在になるからね。そのかはり今度こそいゝものが出來るよ、今度のが雜誌に出ると、雜誌が賣れるよ、さうして俺が勝利者になるよ、いゝだらう。そのかはり俺の頭を大事にしてくれないと困るよ、いゝだらう。之からが大事なのだからね」

「えゝ」と妻はこびるやうに云つた。彼は鏡の内の子供らしい妻の顏を見て、片方の目が丸く、瞳が眞中にぢつとしてゐるのに、他の目は細く、上目をつかつてゐるのを可愛く思つた。彼は又步きまはつた。頭は疲れて來たが、緊張のよどもりはのこつた。この頭をどうしたら靜まるだらう。彼は朝飯を食つて暫らくして、午睡した。」

之が彼の當時の結婚生活の一面である。

友達が集ると彼等はかう云ふ話をした。

「偉い奴は本當に仕方がないね、動かせない處に入つてゐるから。だが僕達も充實し切つてくれる瞬間を重ねてゆく内に、さう云ふ境に入れさうな氣がする。」之は彼、

「中でも自分なんか、まだ中々の氣がする。だがゆき切らなければおふない。」之は岸田がモデル。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「昨日新聞に僕の悪口が出てゐたさうだ。僕は自分の實力を空想的に築き上げておいて安心してゐると云ふやうな悪口ださうだ。僕が彼等と段がちがふ人間のやうなことを云ふので腹を立てゝゐるらしいのだ。だが事實段がちがうのだから仕方がない。そんなことを云ふ奴を早くおさへつけてやりたい。はがゆくつて仕方がない」

「しかし中々押えつけることはむづかしいね。何したつて動かない奴が澤山ゐるからね。レンブラントが出て來て展覧會に繪を一二枚出したつて、きつと平氣で悪口を云ふ奴があるね。さうして今年も之はと云ふものは何にも出なかつたと云ふ奴がありさうな氣がするね。自分の内に何にもない奴にあつては叶はない」

「さう云へばさうだ。ドストエウスキーやストリントベルヒ位ゐになれば苦情なんか出るわけはないと思ふと大きなまちがいだからね。だけど腹の底では矢張りいゝものをかけばそれだけには認められさうな氣がするね。敵は益々出來るだらうけれど、本當に感心する奴も出來るだらう。何しろ自分で私はこんな仕事をした人間ですと云へるやうなものを早くつくりたいね」

「本當に早くさう云ふものをかくより仕方がない」

一七三

彼は又時にこんな祈りをさゝげる。

「神よ、あなたは私に大任をさづけて下さいました。身分不相應に私を信用して下さいました。私はありがたく思つております。必ず大任を果す爲に私の一生を捧げます。どうか御心に叶ふやうに、私の一生をお使ひ下さい。思へば私は恐ろしい氣がいたします。しかし遠慮してゐる時では御座いません。私は御心に叶ふやうな一生を送ります。時には御心に叶はないやうな恥ち知らずなことをいたすかも知れません。けれどもそれも必ず御心に叶ふやうに生かして見せま

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

す。それも私の力では御座いません。神よ、私はありがたく思つております。どうか私の一生を御遠慮なく御使ひ下さい」(「宗教での芽」より)

人々は彼を樂天家と云つて非難する。その點で彼をほめる人もあるが、それは彼の宗教的な生れから出てゐる。

彼は一年程前にも「今に見ろ」と云ふ對話をかいてゐるが、それにはかうかいてゐる。

『或る男。貴君は私にはどうしてさう親切なのでしやう。私はこの頃になつて貴君の私を愛して下さるのを感じて來ました。しかし貴君はなぜ他の方には無情なのでしやう。

或る神。俺はお前に親切だと思つてゐるのか。俺はお前の三つの時お前の父を殺した。それでもお前は俺に感謝するのか。お前は父の死んだことを喜ぶのか。又俺はお前が十六の時にたつた一人の姉を殺した。それでもお前は俺がお前を愛してゐると思つてゐるのか。俺は又お前を三度失戀さしてやつた。それでもお前は俺がお前を愛してゐると思つてゐるのか。

或る男。それでもなんだか私は貴君に守護されてゐる氣がします。

或る神。今に見ろ。俺はお前をどのくらい愛してゐるかを示す時があるだらう。その時なほお前に俺が肥料をほどこす百姓のやうに思へるなら思つて見るがいゝ。

或る男。思へる氣がします。

或る神。今に見ろ。」

この彼の精神が本當にわかる人で、始めて彼の樂天的な性質を知ることが出來る。

三十九になつた今の彼をまだお坊ちゃんの故で樂天家のやうにとつてゐるものがあるが、彼にはさう云ふ男の頭の粗

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雜さが露骨に感じられるのは無理のないことである。

一七四

歐洲の大戰爭が始まつて日本も、ドイツに宣戰を布告した。そして日本の兵隊達は半分秘密に戰場へ送られた。

彼は「又戰爭か」と云ふ感想にかいたやうに、以前程、絶對な非戰論者ではなくなつたが、しかも戰爭の恐ろしさを彼は強く感じてゐる男なので、戰爭に贊成することは出來なかつた。彼はたゞ殺しにくるものを殺すことを正當と見てゐるだけで、こちらからせめこむことには反對である。だから戰爭には贊成しなかつた。たゞ以前よりも人類を信用してゐた。戰爭で人類は滅ぶには人類の生命の根は深かすぎると思つた。

しかし彼は戰爭へゆく個人にたいしては同情しないわけにはゆかなかつた。

彼は或る日、郊外の新開地に引越した千家の家をたづねた。方々で聞いてやつと千家の處にたどりついた。そして話してゐる時、戰場に送られる兵士の聲を聞いた。彼はそれを「彼が三十の時」の内にこうかいてゐる。

その時、汽車の通る響が聞え、同時に何百何千の人が、

「うわ！　うわ！」と異樣な聲を出してゐるのが聞えた。彼は之を聞いた時、戰ひにゆく人々のうなり聲だと思つた。

その瞬間千家は

「あれだよ！」と云つた。

「あれか」彼は立つて椽側に出た。すべての窓には兵士が重なりあつて首を出してゐた。さうして旗をふりながら、

「うわ！うわー」と云つてゐる。

「こつちへ來給へ、よく見える」千家は起きて窓からそれを見た。彼もその方へ行つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

汽車は早く走つてゐる。少しのすき間から見える處に汽車の窓はつゞいて顯はれる。どの窓にも等しく兵士の頭が重り動いてゐる。

「うわー　うわー」と云つてゐる。その聲は二人の胸に異様にふれた。隣家の女の人々の心にもふれたらしい。一種の凄い聲だつた。死を前にひかへてひきずられてゆく人々の病的な興奮のやうに思へた。彼等は嬉しいのか、悲しいのか勇ましいのか、淋しいのか、彼にはわからなかつた。たゞ異様な興奮が、等くし彼等をおそつてゐるやうに思へた。

「うわー　うわー」の聲はどの窓、どの窓からも響いた。それに答へる人々の聲は聞えなかつた。

たゞ一年位ゐ外國にゆく人々を送つても何かある不安な感じを人はうけるものだ。まして異様に興奮してゐる人々が、人々の愛を求めながら戰ひへ出かけてゆくのだ人々は異様な愛を感じて見送られ、又見送つてゐるやうに思へた。汽車がゆきすぎても異様な聲はまだ聞えてゐた。異様な聲は聞えなくなつてもまだ耳にのこつてゐた。

隣りの女達は「今度の戰爭は勝つにきまつてゐるのですし、人もさう死なないにきまつてゐるのですから安心ですね」と話しあつてゐた。

彼にはこの女の人達の心がよくわかつた。

「異様な聲だね」

「本當に凄い聲だ」

彼はこの戰爭がつゞくに從つて益々戰爭の無意義と、悲慘を感じないわけにはゆかなかつた。

「彼が三十の時」は少數の人には好かれたかも知れない。だが彼が豫期した反響を起すことは出來なかつた。だが二三の熱心な讀者から彼は訪問され、又手紙をもらつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その内の一人が彼に「その妹」をかゝすヒントを與へた。

一七五

その男は元より盲目ではなく、有望な男でもなく、美しい妹をもつてゐるわけでもなかつた。たゞしきりと原稿料をとりたがつた。そして故鄕にゐる兩親や妹をよろこばせたがつてゐた。そして故鄕にゐる妹が家の貧乏なありさまを報告して來た手紙を彼に見せた。

彼はその男の氣持に同情出來た。しかし彼はその男の作に感心は出來なかつた。

その男はその後も不遇で、彼がとめたのにもかゝはらず、何か面白いことはないかと臺灣へ行つて、其處で自殺したしかしそれは彼がその妹をかき上げてから半年程、あとの話である。彼は又、この男の手紙をおぼつて「彼が三十の時」の前半を白樺に出したのを見て、彼に近づいたのであつた。

『彼は他の手紙を讀んだ。それは知らない人の手紙だつた。彼はそれを讀んだ、さうして興奮した。

「あなたのものを初め讀まずに輕蔑してゐましたが（彼は華族のお坊ちやんと云ふので讀まずに輕蔑されることに馴れてゐた）ある友にすゝめられて讀み出してから、每月あなたのものを樂しみにしてゐます。自分の爲に書かれてゐるやうに嬉しく思ひます。あなたと同時代に生れたことを仕合だと思つてゐます。自分の友にもあなたのものと、トルストイのものとドストエウスキーのもの許り讀んでゐる人がゐます。あなたがこの日本に生れてくれたことを幸福だと思つてゐる人は存外多いかも知れないと思つてゐます。私はそれを氣丈夫に思ひ、喜んでゐます。さうしてあなたの未來に益々望みがおけることを喜んでゐる一人です。あなたはきつと勝利を得る。私逹はさう話しあつてゐます……」さう云ふ意味のことがながく愛をこめてかいてあつた。彼は立ち上つた。さうして妻にその手紙を見せた。妻もよろこんだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼は目に涙をためながら歩いた。彼は机に向つた。さうしてその返事をかいた。

「お手紙を拝見しました。嬉しく思ひました。恐ろしい氣がしましたが、私は貴君達のやうな方が居て下さることを感謝します。ひるがへつて自分のした仕事を思ひます時、貴君達にそんなに愛して戴く資格がないとしか思へません。貴君の友達の方が、トルストイとドストエウスキーと私のものをよむと云ふ言葉は私を赤面させ穴のなかに入りたくさせました。勿論嬉しくは思ひますが。私は彼等のそばにはあまりに小さく今更らしく謙遜するのさへ厚顔しい氣がいたします。何時までも彼等と段がちがふと云ふことも自分は私かに恐れてゐます。

私のかいたものがあなたの為にかいたものゝやうに感じて下さることはこの上なく嬉しく思ひます。さう云ふ方のゐて下さることは力でもあり、希望でもあります。かくて私の仕事は無意味には消えてゆかないと思ひますから。

私の生れたことを喜んで下さることにたいしてはお禮を申すのさへ恐ろしい氣がします。私は出來るだけのことはする心算です。しかし貴君が豫期して下さるやうな仕事をするかしないかはわかりません。私は他日に貴君に愛想をつかされる時が來はしないかとさへ思ひます。しかしそんなことはある力だけが知つてゐてくれることで、私達にはどうすることも出來ません。其處に不安と樂しみがあります……。

私を愛して下さる方に私の愛をお傳へ下さい。私の内に自己を見出して下さる方はきつと又自己の内に眞の私を見出して下さるでせう。私はさう云ふ方々の内に自己を見出すことをこの上なく喜びます。‥私はより私になつてゆくことで。より諸君になることを信じてゐます。それを信じることが出來ることが我々のよろこびです。希望です。それを信じさして下さるのは君達です。

より自分になることが、他人とより他人にならなければならないやうにつくられてゐたらどんなに淋しいでせう。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼はそんなことをくどくかいてゐる。

そして彼はつゞいて「彼が三十の時」にかうかいてゐる。

『彼は手紙をかき上げた。さうして立ち上つて室の内を歩いた。彼は日記に

「自分はより自分になる。自分の仕事は自分をより自分にする。さうしてそれが或人をより或人にする。さうして二つの間に愛が生れる。その時、二人の心は感謝と愛によつて滿される。それは肉體の苦痛には（瞬間的に）まけても、死には勝つ」』

彼は又室を勝利者のやうに歩きまわる。

實際ホイットマンはよりホイットマンになることで他人の心を生かす。ゲーテはよりゲーテになつて、ロダンはよりロダンになつて、ゴオホはよりゴオホになつて、他人を心の底から生かす。

彼はより彼になり、より彼を本當に生かせばいゝ。利己と利他、自愛と他愛は其處で一緒になる。人類が生るためには個人はさうつくられてなければならない。之が彼の確信である。少くも思想家とし、又藝術家としての。人間の心、精神はさうつくられてゐる。

自己を本當に生かすことを知るものは、人類の意志、自分をつくつたものゝ意志をこの地上に生かすものである。

彼はさう思つてゐる。

一七六

彼はそれをかき上げてまもなく、京都の方へ妻と旅行した。京都にその時分志賀が居て、其處に行つた。そして其處で彼の一番近い從妹にあつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それから一緒に奈良へゆき、志賀と別れて紀州へ行つた。この旅行は夫を失なつた從妹の娘を養女にもらう氣になつたのが原因で、その娘の五つになるキク子にあふために紀州に出かけたのだ。

彼夫婦には子供が出來さうもなかつた。毎月〳〵子供が出來たかも知れないと、彼の妻はよろこんでゐたが、それがぬかよろこびに終つた。彼はさう強く子をほしがらなかつたが、彼の妻は隨分子供をほしがつた。二人は知つてから足かけ三年のくれになつても子供が出來なかつたので、子供をもらうと反つて出來ることがあると云ふので妻が始めもらいたがつた。彼もキク子にとつてもそれが一番仕合せだと彼の叔父や叔母が云ふので、なほもらう氣になつた。彼も何となく女の子をもらうと華かな氣持がしさうに思つたので、ほしく思つた。それで見に出かけた。

そして彼夫婦はキク子を見て、氣に入つてもらうことにした。そして一緒に和歌の浦の方へ行つて、彼のなくなつた姉の墓にお參りした。

そして彼達は二三日紀州に泊つて二人だけで東京へ歸つた。それからまもなくキク子は東京へ出て來て、彼の家の人になつた。

最初の晩と、次の晩は夜になると淋しがつて泣かれるので困つた。彼も子供の時、母に別れてよそに泊る時の淋しさを十分知つてゐるので、大に同情した。しかしまもなく二人になれて、泣かなくなつた。時々は淋しさうにしてゐるので同情したが、思つたより早くなついて、時々面白いことを云つて皆を笑はした。

その時分彼の處に杉原が來るやうになつたが、キク子は杉原の顏と、自分の父になつた彼の顏をつく〴〵見て

「杉原さんのお顏はよそゆきで、お父ちやんの顏はふだんぎね」

などと云つた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

キタ子は一たいに身體がよわかつたので、彼達も東京にゐる必要もないので、その時分鵠沼に小泉が行つてゐたので彼も鵠沼に住む氣になつた。それで家を捜しかたく、又キク子が來て、室が二間ではものをかくにも少し都合がわるいので、家賃が安くつて室の多い家をかりるにも鵠沼がよかつたので、彼は大晦日の日に一人先に鵠沼の東屋に行つたそしていつか、白樺を四人で出す計畫してゐた時、志賀と一緒にとまつた、同じ室にとめられた。そして其處で「その妹」をかき出した。

彼はこの位い泣いて書いたものはなかつた。

「或る日の夢」をかく時、彼は隨分泣いたが、それはお貞さんのことを思ふからだ。そして一番淋しい時だつたからだ今度は何にも事實の方では泣く理由はなかつた。すべてつくりものだからである。

主人公を盲目にしたのは、いつか盲目の人の演說を聞いたことがあるのと、志賀の叔父さんから日露戰爭の時、盲目になつた人の話を聞いたのを思ひ出したからだ。志賀の叔父さん自身もその戰爭で片目をやられて、いゝ方の目ももう少しで失明する所だつた。

その妹にあたる人は一人もなかつた。其處は彼の想像である。彼は常に現在では滿足出來ず、何かに憧かれをもつ。其處から詩が生れる。

原稿を彼に見せることは前に云つた人がモデルになり、その人が叔父さんの家にゐて閉口してゐたのは事實だつたと思ふが、その家の人は悪い人ではなかつたらうと思ふ。

ともかく彼は天才のある畫家が戰爭で目をつぶした。この想像は「彼が三十の時」をかく時、一寸考へた筋であつたのだ。之だけで彼の同情は十二分に生きることが出來る。

畫家が盲目になる。自己を生かす道を新に考へなければならない。いくら目をとりもどしたくも、この事實の前に立つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た以上はさけることは出來ない。それで生る道をやつと見出したのが文學である。そしてそれには一人の助手が必要で彼はその助手としてよき妹を與へたが、そこから事件が發展しだした。彼は人間がどんなに苦しくも生きやうとするその力がかきたかつた。

よき目をもつた畫家が目を失はない、よき妹をもつてゐた畫家が妹を失ふ。そしてなほこの世にしがみついて、更に生きやうとする。共處がかきたかつた。

しかし彼はその妹をいやな男と結婚させたくはなかつた。しかし運命ととつくんで、血みどろになつて、それでも勝てない事實はこの世にも多くある。彼は田中の幽靈に勝つ所がかきたくはなかつた。現實ととつくまして、どつちでも本當の方にゆかすより仕方がなかつた。そして彼にはその妹に生かす力が自分にあるとは思へなかつた。西島は彼よりも力あるものではなかつたが、力なきものでもなかつた。そして彼は泣き〳〵、その妹を不幸な位置におとし入れた。兄の犠牲にした。

彼は之をかく時、半年程前に見た。伊庭孝一座の「マリア、マグダレナ」をよく思ひ出した。兄の廣次が一人でがんばる所は、アントンを思つた。そして妹が一人とぼ〳〵歩く所は、自殺を決心して歸つてくる時のクラヽの氣持を思つた。世界はちがうが、淋しさにたいする態度には何處か似かよいがあるかと思ふ。勿論、之に氣がついた人々はないだらうと思ふ。材料がまるでちがうし、境遇位置がまるでちがうから。

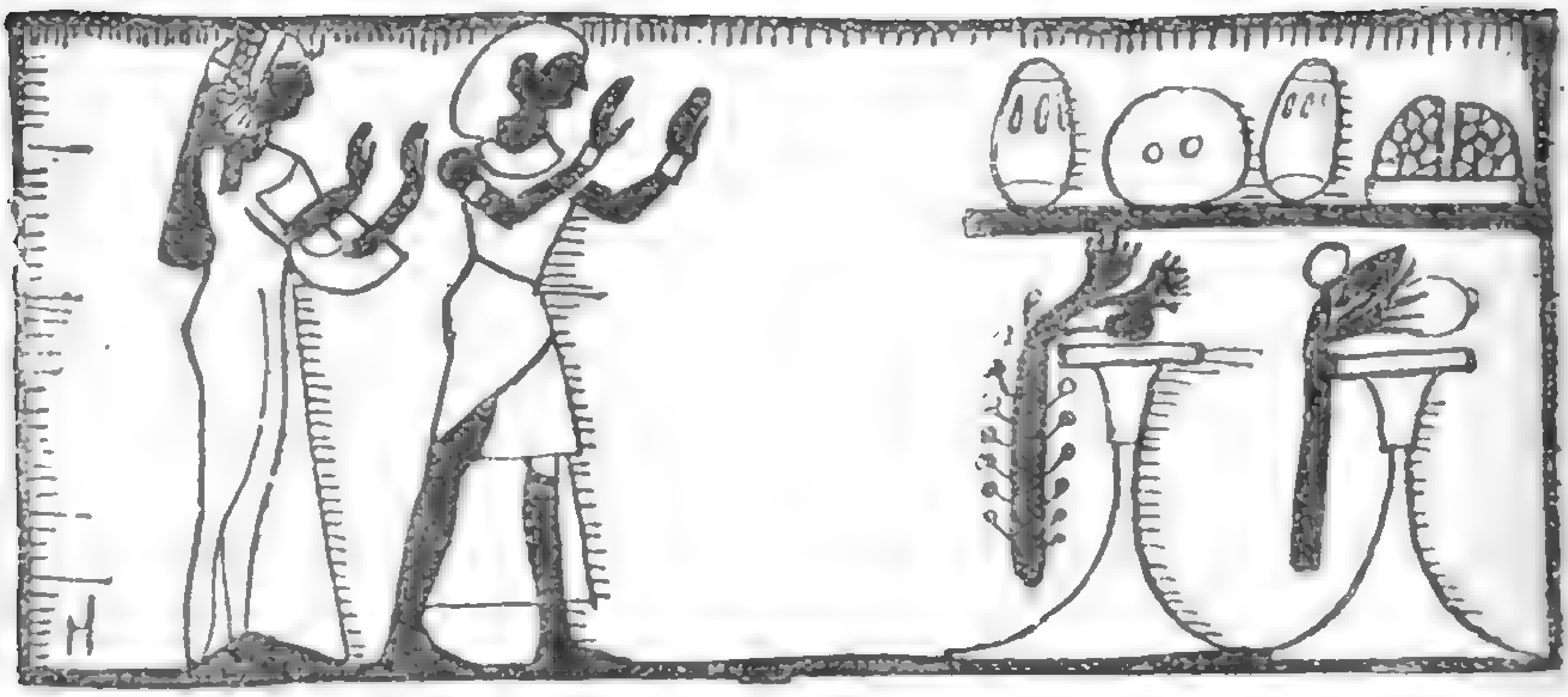
よき芝居を度々見ることが出來る所ではよき作が生れるのは當然だと思ふ。

「その妹」は五幕で百四五十枚のものと思ふ。之をかくのに一月あまりかゝつた。かき出したのは東屋で、かき上げたのは佐藤別莊であつた。

それは東屋のわきの二階家だつた。家賃は少しやすくつて、家は間かすは三間だが、中々大きな家だつた。

鵠沼の生活にはわりにこまかい思ひ出が多い。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



我家の小說

——或は從兄弟の公吉——

宇野浩二

公吉は私のたつた一人切りの從兄弟である。彼の姓は小原である。

今から十七年前の四月初めの或日の午後一時頃、私は二方が襖で他の二方が唐紙になつてゐるところの、だから何方かの隣室に面した唐紙を開けておかないと全く光線を受けることの出來ない、つまり物置としての外通用しない私の勉强部屋で、考へては且つ煩悶してゐた、それは私が中學校の三年生の免狀を貰つたばかりの時であつた。

私の父にはたつた一人切りの姉があつたが、彼女は子を生まない先に亡くなつてしまつた。母の方にもたつた一人切りの兄があつた、即ち私の伯父に當る人であるが、當時私はこの人の家に厄介になつてゐたのである。伯父は彼を合はして三人の從兄弟で合名して一つの商店を開いてゐた。で、彼は別のところに小さな借家を借りて家族のものをそこに住まはしてゐた、私が厄介になつてゐたといふのはその家

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のことである。然し彼は私にかつ〴〵衣食の面倒を見てくれてゐただけで、たとへ中學校のにしても、それの學資まで出してくれる餘裕を持たなつかたらしかつた。實際、彼は當時四十四五歲であつたのだが、若い頃放蕩に身を持ちくづして、四十歲近くになる迄親には言ふ迄もなく、親類の誰にも行方を晦まして、消息を絶つてゐたのだつた。そして或日突然歸つて來て、それから心を堅く持つて、やつとさういふ普通人の生活を始めたばかりの時だつたのだから、妻を迎へたのもその二三年前のことであつた。それに、元々彼自身が商人であつたので、私にも小學校を出たら、商家へ見習奉公に這入ることを希望してゐたのである。

が、又別に私の死んだ父の從兄弟に、山崎某といふ金持があつた。父と山崎とも、後の私と公吉とのやうに、たつた二人切りの從兄弟同志で、而も山崎が以前貧乏で困つてゐた頃は私の家に相當の資産があつた時だつたので、父や父の母やが彼を兄弟か子かのやうに色々世話をした緣故があつた。で、その山崎が私に學資の方を負擔してくれてゐたのである。ところが、或時山崎が私に言ふには、中學校といふものはそれ自身が獨立した學校でなく、その上の學校への橋である、だから、やつと難儀してそこを卒業したところが、もう一つその先の學校へ行かなければ一人前の者になれない、それでは父がなくて母一人を持つてゐる私のやうな境遇の者には餘り優長過ぎる道であるから、それよりも今のうちに中學校の代りの商業學校に變つた方がいゝ。今度で二年を終るんだつたな。少し時期が遲過ぎたが、幸ひ私は商業學校の校長と知合ひであるから、何とか相談して見よう」斯う彼は言つたのである。そして間もなく、彼からの手紙に二年修了でもかまはないさうだ、四月十日に編入試驗があるから、是非それを受けた方がいゝだらう、と言つて來た。

けれども、私はとても商業學校へなど氣が向かなかつたし、その頃から私はどうかして、萬難を排して文學を勉强したいと思つてゐたのだつた。殊に最早や三年も進んで來た中學校のことであるから、それ〴〵親しい友達も出來てゐ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た、そして又伯父の家には私を可愛がつてくれてゐる祖母もゐたので、外に家のない私には自分の家のやうな氣がしてゐた。その伯父の家のあるのは大阪で、山崎の家は神戸で、山崎の言ふ商業學校といふのは無論神戸にあつた。すると、その學校へ行くには山崎の家に寄食しなければならなかつた。だから、私には商業學校の學科が厭であつたばかりでなく、親しい友達に別れて、見も知らない人達と机を並べることも、馴れた家に別れて、それは伯父の家などと違つて、下女が七八人に下男が二三人もゐる、煉瓦の竈があつて、雇人は皆ベンチに腰かけて食事するといふやうな、大きな家の一員になることも、極端な内氣者である私には、牢屋へ行くよりも、それを考へるだけで胸が重くなつて、飯が食へなくなつた。と言つて、山崎のをぢ（便宜上をぢさんと彼を呼んでゐた、）の言ふ事に反くのは、同時に明日から學校に行かれなくなることを意味しなければならぬかも知れなかつた。私は思案に暮れた。

その小原の伯父の抱家といふのは或色町（つまり許可地と呼ばれる一劃）の中にあつた。それは五軒づゝの家に挾まれた石疊を敷いた路次の中の、その二軒であつた。どの家も路次に面した側が、さういふ家によくあるやうに、入口の外に一間半乃至二間の格子構へをなしてゐた。そしてその内側は各家に依つて三疊或ひは四疊の間になつてゐたが、私の部屋はその取付きの四疊の部屋の次になつてゐた。だから、私は私の部屋の一方の唐紙を開けて、その四疊の部屋の一枚分の疊の幅を越して、格子から射し込む光線を享樂する外仕方がなかつたのである。格子には障子が嵌まつてゐた。そして、それは天王寺、吉野、嵐山などと、ちらほらと花のたよりの傳はつて來る頃であつた。然し、そんなたよりが直接に聞えて來なくても、それは胸に煩悶のある少年には、殊更に悩ましく感じられる季節に違ひなかつた。私が小さな机に兩方の肱を支へて、一間先の、うらゝかな日ざしを受けた格子の影を刻んでゐる障子を、夢見るやうな目附で眺めてゐると、その前の石疊の路次の中をカチ〳〵と音を立てゝ、殆ど一分と休みなしに右から左へ、左から右へと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

樂しさうな人の影が通つて行くのである。それはその路次の中の十軒の家の中で、呑氣であるのは私の家と外に箱屋とがあつたゞけで、他の八軒が悉く藝者の住居であつたと言へば想像がつくであらうが、その障子に影を映して行くものは七分通りまで女であつた、男ならば隣の博奕打か藝者屋に通つて來る若い衆たちか、或ひは箱屋の類か、稀に八百屋か魚屋かであつた。中にも雛妓が通ると、恰で幻燈でも寫つたやうに、障子に彼女等の赤や青やの着物の色が、日光の反射でそのまゝに映るのである、そして彼女等の交してゐた言葉と言へば、芝居の噂、稽古中の唄の復習、口三味線。さては「今日は、いゝお天氣で、」と箱屋が一軒一軒廻つて來る聲。「友子さん、花田帳を。」「今日は、小政はん、花田帳を。」「今日は、店に何ぞ用事おまへんか？」

さういふ中で、私はどうかして商業學校へ行くことを逃れて、今まで通り中學校に行きつゞける方法がないものかと思案してゐた。だが、それはどんなに考へても、私の考や私の力やでは、何と救ふ方法がないと見えた、が、矢張り私はおつとしておきらめてゐられなかつた。その一ケ月程前から、伯父が商賣の用事で知り合ひになつた、或義太夫語りの夫婦があつて、彼等と彼等の内弟子で、何でも夫の友の連れ子とかになる十七八歳の娘とが、その家の二階を借りることになつて住んでゐた。で、朝から夕方――彼等が寄席に出て行く迄、彼等自身の稽古や、その内弟子や、或ひは外から通つて來る何人かの弟子たちやの「朝顏日記」や「太功記十段目」やの演奏が、恰も私の煩悶に節をつけるかのやうに、絶え間なく私の頭の上で起つてゐた。そして、私の部屋の開かない方の唐紙を隔てた隣の部屋では、一兩日前から臨月の伯母（伯父の妻）が寢てゐたのである。

少し家の中ががや〳〵して來たやうだつた。その二十分程前に、私は祖母に命じられて産婆の家に使に行つた位であるから、そのがや〳〵して來たのは、多分、子が生れる前の騷ぎなのであらう。そこへ祖母が私の部屋の前に顏を出して、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

果して「今、生れさうだから、お前など男の子だから、暫く外へ散歩に行つてお出で、」と言つた。氣がつくと、二階の義太夫の稽古も止んで、例の内弟子の娘が私の部屋の前を彼方此方してゐた、彼女も頼まれてか志願してか、何かその方の手傳ひをしてゐたのであらう。私はもうひよつとしたら被れなくなるかも知れない中學校の帽子を被つて、そして的もなく表に出た。胸に喜びを持つてゐる者には殊に嬉しく、心に悲みを抱いてゐる者には一層惱しく思はせるのは春の畫である。私はその時の町の、魚屋の擔いてゐる天秤棒に光つてゐた日の色も、電信柱の蔭で小便をしてゐた犬の顏も、恐く昨日見た景色のやうに覺えてゐる。やがて二時間ばかりして、恐わ恐わ歸つて見ると、子はもう無事に生れてゐた。それがその私のたつた一人切りの從兄弟の公吉なのである。

私はその後、商業學校の編入試驗の初まる三日前に神戸の山崎の家へ行つたが、到頭明日から試驗の始まると云ふ日の夕方、無斷で大阪へ逃げて歸つて來た。その爲に少しごたごたしたが、結局私の願ひ通り中學校をつゞけることも出來、中學を卒業すると、矢張山崎の保護を受けて、長い間世話になつた伯父の家に別れを告げて、東京へ遊學することも出來た。私が小原の家を出る時、公吉は三歳であつた。私は東京へ出るに就いては、山崎とは或私立大學の高等師範科に入學する約束だつたのだが、これも商業學校同樣私には何と考へても我慢がならない科目だつたので、山崎へは内所で同じ學校の文科に籍を置いてしまつたのである。

小原の伯父はその後公吉が大きくなるにつけて、これ迄の家では周圍が周圍であるから、子の爲によくないといふ理由もあり、二つには彼自身だんだん身體が丈夫でないことを考へて、もう少し空氣のいゝ所に住みたいといふので、大阪から三里ばかり離れた堺といふ町に引越して行つて、例の從兄弟二人で經營してゐる商店の方へは、彼はそこから毎

日通つてゐた。私は東京の學校に來てから毎年夏の休暇にはその堺の彼の家へ歸つて行つた。何方かといふと一國者で、人と餘り交際しなかつた彼は、殊に自分は年とつて子供は少さし、商賣といへば極く堅い商賣であつた代りに儲けも薄く、それも四十歳を過ぎてから始めたのであるから、隨分つましく暮しても、そんなに貯金も出來なかつたのでもあらうし、それに年々彼自身の健康の衰へて行くのが何よりの悲みであつたらうし、段々とこの世の心細さを感じてゐたのに違ひなかつた。彼には又私などと違つて從兄弟の數は數へ切れない程多くあつたが、兄妹は妹である私の母一人切りしかなかつた、而も彼女とはどういふ譯か性分が合はなくて、いつも離れ勝であつた。彼の考としては多分夫に早く別れて、その夫の殘した僅な財産を無計算の爲に失つてしまつた妹を、彼の性質からして非難せずにはゐられなかつたのであらう。又妹は妹で兄でありながら、而も一度は自分が彼の世話もしたことがあるのに、自分が困つてゐる今振り向いてもくれない彼を薄情だと恨んでゐたのであらう。だが、何にしても彼は年をとると共に、急に色々の事が寂しくなつて來たものに違ひない、自然彼は妹を一つ飛ばして、彼女の子である私を愛し、又密かに便依りに思つたものであらう。夏の休暇毎に私が歸ると、無口で無愛想な人ではあつたが、何處か私が段々大人になつて來たのを見ることに滿足してゐたらしかつた。

だが、私は東京に出てから三年もしないうちに、いつとなく學校を止めてしまつてゐた。そして山崎の家からは未だ學校に行つてゐるやうな顔をして、月々の僅かながら學費としての生活費をもらつてゐた。そのうちに當然學校を卒業する筈の年限になつたので、私は山崎の家や小原の家やへ、卒業したやうな顔をして鄕に廻つてから、その年の秋から愈々自活しなければならなくなつたのである。當時、又別の親類の家で厄介になつて、私の卒業を待つてゐた母は、長い間の辛抱のし甲斐があつたと思つて、いそ〳〵とその秋東京の私のところへやつて來た。だが、それから三四年の間

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私は彼女を養ふどころか、自分一人を養ふことさへ出來ない境遇に陥つた。その頃は私の父の從兄弟の山崎は死んでゐて、長男がその後を襲つてゐた、そしてその次男が東京で或會社の重役級の役目になつて、相當な家を構へてゐたので私は出鱈目の口實を設けて、或日母をその家にやつたまゝで、自分は姿を隱してしまつた。私はそこで一年なり二年なり、これまでの不孝の申譯の立つ程の仕事をしようと考へたのである。ところが、私は仕事を成就する代りに女をこしらへて、その女と一年ばかり言ふに言へない難儀をした。彼女は激しいヒステリイで、或時私と別れて私を引受人の名儀にして藝者になつた、が、それを一ケ月と辛抱しないで、私の所へ逃げて歸つて來て、言ふには、ぐづ／＼してゐると抱主からの追手が掛る、若しそれに捉まつたら、無論引受人である私も罪になる、何處かへ二人で直に姿を隱さねばならぬと促した、で、私は僞名をして、彼女と一緒に郊外に貸間を見付けて、そこで暮すことになつた。

その頃、小原の伯父が長い病氣に罹つて、彼はもう間もない死を豫覺したのであらうか、そして長い間離れてつれなく附合つてゐた妹の顔を見たくなつたのであらうか、或ひは折角長い間苦勞をしてその子の成人を待つてゐた甲斐もなく、未だに苦勞をしてゐるらしい不仕合せな妹の身の上を、自分の寂しさにつけて思ひやる心が湧いたのであらうか、鳥でさへその死なうとする時の聲は悲しいといふことである、人である彼はどんな悲しさや寂しさに襲はれたのであらう、彼等は互ひに五十歳の年頃であつた、彼は頻りに彼女に來てくれと手紙を寄越して來た、そして彼女は出かけて行つた。それから彼等は大方二ケ月餘り一緒に暮してゐたのであらうか。それは彼等が未だ親の家にゐた二十歳以前の、少年少女であつた以來の出來事であらう、――彼等がそんなに二ケ月も同じ屋根の下で暮したといふ事は。

そして、彼は彼女に手を取られながら死んだのである。その時、私が僞名して住んでゐるといふことを、毎日程何かの話の次手に病床で言つては、私の身の上を案じてゐた、と私の母は後で私に話したことである。が、私はそんなヒス

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

テリイの女と一緒にゐた爲に、そんなに緣の深かつた伯父であるのに、彼の死顏にも、葬式にも會はなかつたのである。父を失つた公吉はその頃十歲位でもあつたらうか。

伯父が自分の死んだ後のことをひどく心配してゐたのは無理がなかつた。彼は生きてゐた間みつともない程つましい暮しをして貯蓄したにも拘らず、彼は死んだ後に妻子が十年坐食して行くだけのものを殘すことが出來なかつた。更に彼にもつと心掛りであつたのは彼の妻のことであつた。彼女は女によく見るやうな甚しい自分主義者で、目先の事ばかりしか考へられない、無教育な勝氣者で、世間の十人が十人から悉く憎まれるやうな性質の女であつた。彼は妻である彼女のさういふ性質を知らない譯がなかつた。彼女に石井といふ兄があつた、そしてこの井石の妻といふ人が又、彼女の夫（即ち私の伯父）の從兄妹にも當つてゐた、つまりこの兩家は二重の親類關係になつてゐたのである。小原が死ぬ頃、井石は商人としてめき〳〵と成功しつゝあつた。で、彼は自分の妻の兄であり、自分の從兄妹の夫に當る井石に死後のことを何かと賴みたいらしかつた。

ところで、公吉はその後小學校を首尾よく卒業した。彼が小學校を出ると、母親は彼を亡夫が生前その從兄弟たちと共同で經營してゐた合名會社××商店に小僧奉公にやるつもりであつた、それが亡夫の生前の希望でもあつたのだ。彼女は公吉の爲に絣の着物や、紺の前掛などを品々とゝのへて、或日その商店に連れて行つたところが、案外にも斷られて歸つて來た。といふのは、彼女は以前夫が亡くなつた時、その共同經營者に欺かれはしないかといふ女らしい心遣ひからすつかりその分前を金にして取つてしまつたことがあつた、亡夫が生前その從兄弟たちと合同して買つた僅かばかりの地所をさへ、彼の死と共に矢張り彼女は金に代へてもらひに行つたことがあつた。さういふ色々な點で、彼女は悉く反

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

感を買つてゐたものに違ひなかつた。そこで、止むなく彼女は獨斷で、近所の人の勸めに任せて、公吉を町役場の給仕にしてしまつた。

そればかりでなく、もう一つ彼女に最も打撃であつたのは。彼女と井石の家との關係であつた。前に言つた通り、彼女の家と井石の家とは親類としてもそれが二重の關係になつてゐた程、それは濃い血緣の間柄であつたにも拘らず、井石の方からすると、彼女と彼女の家——小原に對して拭ふことの出來ない惡い思出があつた。それは彼女の夫小原が未だ存命してゐて、商賣の方でも相當に發展しつゝあつた時のことに、井石の家は未だ田舍に住んでゐて、可成り苦しい生活をしてゐたが、その頃緣を辿つて井石が小原に××商店のせめて帳面係にでもと言つて職業を求めに來たことがあつた、それを小原が餘り深切に世話しなかつたのがその一つであつた。同じ頃に、井石の長男で古くから××商店に小僧に來てゐて、當時相當な中番頭の位置にゐた者があつたが、彼が店の金を少しばかり費ひ込んだことがあつた、無論それは內々に濟まされはしたが然しその爲に彼は解雇されることになつた、その時にも小原がそれを許してやることに骨を折らなかつたのがその一つであつた。が、それ等の事は未だ我慢が出來るとして、さて石井の家ではその長男が解雇された事と、父親が勤め口を得ることが出來なかつたのが奮發の動機となつて、田舍にあつた少しばかりの田地などを金に代へて、大阪で獨立で或商店を開く事になつたのである、が初めのうち二三年は中々うまく行かなかつた、その時分の或時、到頭困つて、僅か二三百圓の金であつたが、それを借りに小原のところへ來たことがある、小原としては當時その位の金額は何うでもなる筈であつたが、それだけの金に當時の井石には運を左右する程の大切なものであつた、それを貸さなかつたのが（それは彼女が中に這入つて、夫に貸すことを止めたらしいのである）その重要な一つであつた。更にもつと根の深い恨みは、その以前に井石の家が田舍に引込んでゐた頃、彼の田舍は即ち小原の妻の里の田舍でもあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つた、そこには井石の姉妹でもあり、小原の妻の姉妹でもあるところの、つまり井石の妻にとつて小姑に當る大勢の女たちがその近所に住んでゐたが、小原の妻は彼女等と一緒になつて貧乏してゐる井石の妻を苛めたといふ事があつた。それ等の事は、男である井石にとつては、要するに餘り愉快でない思出として殘つてゐる位で、彼は決してそれを恨みに思ふやうな人柄ではなかつた。私はそんなに彼の人となりを詳しくは知らないが、いろ／＼の人の話で聞いたところや、私自身子供の時分に二三度會つた印象やを綜合して考へて見ると、彼はそんなに教養のある人ではないらしかつたが、確に一種の人格者であるらしかつた、そして所謂善人でもあるらしかつた。彼のやうな善人が今日商人として相當に發展もし、相當に資産も誇るやうになつたに就ては、それは彼の惠まれた運に依つてゞもあるだらうが、それにも増して夫である彼をお尻に敷き兼ねない程しつかり者である彼の妻が、あづかつて力があるといふことが人の噂の一致するところである。つまり、彼はさういふ田舍育ちの人の中に時々見受けられるところの、所謂曲つたものは釘でさへ嫌いといふ流儀で、そして人に物を乞はれると拒むことをせず、妻にも子にも嘗て叱りの言葉を發したことがないといふやうな人物であると見えた。そのやうな彼でさへも、彼の妹であるところの、公吉の母には、その夫の死後、度々の經驗で可成り手古摺つてゐる らしかつた、殊には、彼は彼女に對して、妻に對する遠慮も隨分あつたであらう。

大體、公吉の母はそのやり方として、いつも何事でも女らしい淺薄な考へからの獨斷でやつて、そして後で困ることが出來ると、それから親類に相談に行く癖があつた。然し井石のやうな性質の人だから、若しかするとどんなに彼女が馬鹿々々しい相談に來ても、又どんなに圖々しい賴みを持つて來ても、悉くそれを聞いてやつたかも知れなかつた。が彼の妻がそれを遮つた、彼女は女として無理のない感情から、昔の恨を忘れることが出來なかつたに違ひない。だが、可哀さうなのは何にも知らずにさういふ境遇の中に生れて來た公吉であつた。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

然し、彼が役場の給仕になつた時には、流石に「あんな女のする事は放つておいたらいゝ、人がどんな好意のある注意をしてやつても決してそれをよくとらないのだから、」と始終言つてゐた親類の者たちでさへも、寄ると眉をひそめて「小原の家では未だあの子が中學へ行く位の金がない筈がないのに、何といふ思ひ切つた事をする親だらう、」と言つてゐた。公吉の母の心としては、親類の者たちは、そんならせめて公吉の學資の半分も助けてやらうとは言はないで、唯自分のやり方を非難するばかりではないか、それよりも隣家の主人が言ふやうに、公吉がたとへ僅かでも今から月給でも日給でもとつてくれる上に、それも段々と辛抱してゐるうちには次第に立身して行くといふのだから、それで自分は斯ういふ方法をとつたのだ、それが一番いゝ方法ではないか位に思つてゐたのであらう。

公吉は悧好な子であつた、が、その悧好はどうかすると不良少年などに這入り兼ねない悧好さであつた。それは私が少年であつた時分を思ひ比べると、私などゝは違つて彼は決して人恐ぢなどすることなく、どんな人の前に出ても、家にゐる時と同じやうに振舞ひ且つ、物を言ふことが出來た。だから、そんな役場の給仕としても、彼は周圍の者に愛されたに違ひない。だが、半年餘りの後に彼は盲腸炎に罹つて、それ切り役場を止めてしまふことになつた。

そして、それから間もなく彼は東京の私の家へ來ることになつたのである。彼が私の家へ來るに就いては、その頃私の母が死んだ兄（公吉の父）の第何年忌かに當つて、國の方へ出かけて行つた時に、公吉の母や、彼には伯父に當る井石氏やらに會つて、そしてどういふ相談があつた後だつたか、私の家では彼の衣食の面倒を見るだけで、（それは丁度私が中學にゐる頃、彼の父が私にしてくれたと同じ條件だつた、）學資の方は母親から送つて來るといふ話になつたらしかつた。私が一家の主人でありながら、「らしかつた」などと言ふのは、甚だ要領を得ない言ひ分ではあるが、實際、私はその相談には少しもあづからなかつたので、唯母の言ふまゝに應じてゐた譯だつた。それに又斯ういふ親類といふやう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

な者が顏を集めてする話などには、私には唯面倒と煩雜とが感じられるばかりであるから、なるべく私自身直接に觸れないやうにしてゐたのでもある。當時の私だけの考へで言へば、私が少年の頃伯父の家に世話になつてゐた時分は、實際彼の氣質として又境遇として、あれ以上のことは出來なかつたに違ひない。彼は私にも物惜みしたやうに、他の一切のことにも出來るだけの儉約をして暮してゐた。私は彼に比べると、今一錢の貯蓄も持つてゐないが、然し收入の點から言ふと當時の彼よりも今の私の方が幾分か多いやうに思ふ。それで一錢の貯蓄もしてゐない位であるから、月々彼の何倍かの無駄づかひをしてゐる譯にもなる。從つて一人の公吉の中學の學資位は、私には當時の伯父よりも猶々苦痛少なく出すことが出來る。だから、それを出すことも私には不承知でなかつたのである。

が、私の妹などに言はせると、それは餘り差出がましいといふのである。公吉の家には非才といふ最も近いそして有力な親類がある。それぱかりではない、私等が善知つてゐる通り、公吉の母親の性質として、一旦こんな風に話が定つてゐる時に、更にそれはいゝ條件を持出す譯ではあるが、それを此方から申込むと、どんな飛んでもない邪推をして、却つて惡く考へるやうな人である。そのうちに又此方から言ひ出さなくても、そんな事になるかも知れないから、まあお前は默つてゐた方がいゝ、と斯う言ふのである。

さう言ふ母の心には、又別の思惑があつた。といふのは、私に一人不具な兄があつて、彼は十四五歳の時分から前記神戸の山崎の家に引取られてゐた。彼は白痴といふ程ではないが、少し腦の働きに缺陷があつた、が、さういふ人間によく見るやうに、正直といふ點では俗に言ふ馬鹿の隣同志に住んでゐるやうな人間だつた。彼は今年四十歳にもなる。だから、最早や二十五年以上山崎の家の人であるのにつけて、彼の家の大勢の下男や下女たちの、取締とまでは彼のやうな少し謂はゞ低腦な人間には、おしのきかない事で、出來ないが、然し彼等と伍して、彼等よりも正直で、彼等よりも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

山崎の家風に通じてゐて、彼等よりも山崎の家に忠義である故に、今ではその家になくてならない人間になつてゐた。彼はその年になる迄獨身なのである。然し不具と言つても、耳が遠いのと、先に言つたやうに腦に少し缺陷があるだらう外には、別に變つた人間ではないのだから、そんなに長い獨身であることは彼にどんなに苦痛であつたらう。と言つて、隱れ遊びをする事も知らないであらうから、彼は多分四十歲の今まで童貞であるに違ひない。私にしても彼の存在が氣にかゝらない譯ではなかつた、然し彼のやうな人間で、而も何の財產もないところへ、この世智辛い世に誰が嫁づいて來る者があらう、そして又さういふ女を草鞋を穿いて探して廻るだけの餘裕が私たちには今までなかつたのである。が、母として、そんな不束な子であるだけ、彼を不憫に思ふのは、彼女の身が稍々安樂になつて來るに連れて、無理もないのである。そして、現にこの頃になつて、山崎の家でも、私の方から相當の補助をしてやることにして、何とか嫁を探して見たらどうかと言つて來てゐる、而も未だ一度も纏まりはしないが、兩三度嫁の話もあつたことがあるのである。して見ると、母は私になるべく無駄な金を使はさないで、出來るならその兄の爲にも出してやつて欲しい、と心に願つてゐるのに違ひないのである。もつとはつきり言ふと、公吉の學資に出す金は、その兄の方へ廻したいものだ、と親の心として思つてゐるのであらう。然し私も彼女の子であるが、彼女は子の私に對して、さういふ厄介な兄を兄として生んだことを氣兼ねして、さういふ事を口に出すことを親ながら遠慮してゐるのか、決して言つたことはない。

從兄弟の公吉は兎に角さういふ條件で私の家に來たのであつた。彼は中學入學生としては、商店に這入り損なつたり役場に勤めたりしてゐたので、少し年が遲れてゐたものだから、何處の學校へもといふ譯には行かなかつたが、さし當り私の家から最も近い或私立の中學に入學したが、學課は大變よく出來て、いつも一番か二番かの成績をとつてゐた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すると、一年から二年へ進む時に、矢張り私の家から比較的近い或府立中學に編入試驗があると言ふので、それを受けに行つたことがあつた。それは申込者が八百人からあつて、中から二人だけ選抜するといふ大變な試驗であつた。」學課は何とかやれるかと思ひますけど、私は吃音ですから、口頭試驗でどうと心配です、」と彼は言つてゐた。が、それにも首尾よく通つたやうだつた。その中學の校長は中々變つた色々な意見を持つてゐる人らしく、生徒の制服に背廣型のものを採用してゐた。彼は國の母親のところへ早速金を言つてやつて、その背廣の服など着て喜んでゐた。私が少し氣に掛つたのは、學課はそんな風によく出來たが、彼は度々嘘をついて母親から出來るだけの金を澤山取り寄せたり内所で煙草をすつたり、近眼でもないのに表を歩いてゐる時、（家でそんな事をすると私の母が叱るので）眼鏡をかけて歩いたり、――然し考へて見ると、私自身が中學生であつた頃だつて、それと大同小異ではあつたが、然し彼が私などと違つて、何方かと言ふと氣が弱くない方の性質なので、そんな事が矢張私の保護者めいた心配の種になつた。それよりもつといけないのは、彼の母親が休暇の折など歸つて來た彼に、煙草をすふことを公然と許して、あまつさへ「兄さん（私のこと）だつて、中學時分に隱れてずつてたんだもの」といふやうな事を子に對して言ふことである。

然し、そんな風にして、公吉は今年中學の二年を終つた。ところが、此頃彼に可哀さうな事件が起つて來たのである。それも初めのうちは、吃音の癖におしやべりである彼が、妙に沈んでゐるのに氣が附いた外、どういふ事が彼に起つたのか、知らずにゐたのである。それも、沈んでゐると言つても、唯不斷より少しばかり口數が少なくなつたといふ程だつたが、それを私に氣附かしたのは、近頃彼の好きなハモニカの音がしなくなつた事からであつた。私の家も小さな借家で、彼に十分な勉强部屋を與へることが出來なかつた。私が彼の年頃に彼の父の家で與へられてゐた部屋は、先に言つたやうに、物置の三疊であつたが、その中に疊一枚分のところには、使はない火鉢や、建具の類や、色々のもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の選入つた箱などが置いてあつたので、結局二疊の部屋であるとしか言へなかつた、而も他人に妨げられない爲に部屋を密封すると全然暗がりになつてしまふ缺點があつた。それに比べると、今の公吉のは矢張り二疊の間でしかないが、一方と他の一方の半分が壁で、一方と他の一方の半分が障子で殘りの一方が唐紙であつたから、部屋を密封しても暗がりになることはなかつた、殊に一方の障子は緣側に面してゐた、それには尺平方程の硝子さへも嵌まつてゐた。そこからは私たちの庭の唯一本の裝飾である楓の木も眺められるのである。楓の木には春の芽が吹き出してゐた。私は神經質な彼のことであるから、それは季節の變り目の爲に、憂鬱になつてゐるのだらうと考へた。

が、それから二三日後、私は妻にふと「公吉はどうしたんだらう、此頃妙に沈んでゐるやうだね」と聞くと、「その事ですか、私も未だ母さんからよくうかゞつてゐないんですけど」と妻が答へて言ふのに、彼の母が彼をもう中學校を止めさしたい、もうさうするだけの金がないから、と先達て公吉が何かの入用で金を頼んでやつた返事に言つて來たらしいのである。公吉も亦中學生としては私たちに內所で不相應な金を、母親が何にも勝手を知らないのにつけ込んで、屢々言つてやるらしいのである。

この冬の休暇だつたかに、彼が國の家に歸ると、母親は彼の見てゐる前で、もう商賣（一寸した小間物店をやつてゐた）も止めるのだと言つて、それをすつかり人に賣つた上に、公吉の他所行の着物から、長火鉢から、佛壇から、下駄箱まで屑屋に拂つてしまつたといふことであつた。「家はもうそんなに金がないんでせうか、」と公吉がそんな話を私の母にしてゐたのを、私も聞いたことがある。然し、考へ方に依ると、彼の母親は自分の子にさへも、そんな風な事をわざとして見せ兼ねない人であつたから、その眞相は誰にもはつきり考へられない事であつた。そして又、彼女の性質として、親類の者たちにも、彼女の亡夫が末の事を考へて、わざと株券などで彼等に二三分けて托してあつたものを、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

矢張り誤魔化されて取られはしないかと疑つて引上げて來るやうな半面に、否、さういふ風だつたから、町内の噂の人間とか、向ひのお妾のところへ通つて來る男とかの口を盲信して、公吉の將來を托さうといふやうな事が珍しくなかつた、現にこの前の役場の給仕などがその種類らしかつた。

さて、今度の彼女の考といふのは、そんな風に中學校の學資の爲などに金をつかひなくす代りに、公吉を何處かへ出したら、金を出す反對に少しでも這入つて來るといふ考に魅せられたものらしかつた。何でも或カフエーに勤めてゐる人が彼女の家の隣とかにあつて、その人が公吉をそこの給仕ではない、給仕の一つ上の役――それはどんな役だらう?――に世話してやらうといふ話があるらしいのである。そして、今度は彼女はそれを親類の井石やその外二三の人に幾分相談の形で持つて行つた。彼女はもう商賣の方も損を重ねるばかりだから止めたといふ事や、家財道具なども悉く賣つてしまつた事やを話して、今度或人の好意でそこの家の臺所などを手傳ふ約束で、その家の二階を無料で貸してもらふ事になつた、迚もこの上公吉に學資を送つてやる事などは出來ないから、彼にも學校を止めさせようと思つてゐる、といふ風に述べたのである。それを聞かされた親類の者たちは、それがいゝ方法であるか悪い考であるかなどといふ事は傍において、この人にはこの人の思ふ通りをさせる外はない、なまじに此方から忠告などをしても、それを決して好意をもつて受けない人であるから、「それもいゝでせう。」と彼等は答へた。

すると　彼女は親類の者たちは皆薄情者ばかりだ、自分は腹からそんなつもりはないが、一人としてそれはいけないと言ふ者はない、ところを見ると、それはもしさう言へば公吉の學資を自分たちが負擔しなければならないからだらう、――こんな事を小さい公吉に手紙で言つて來たさうである。公吉は年が行かないから、彼女の言ふ言葉をそのまゝに信じて、多少親類の者を恨んでゐるらしかつた。私はその話を母から聞いた時、

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「そんなら　その學資は僕の方で出さうぢやありませんか。公吉も無論學校をつゞけたがつてゐるんでせう。中學校も三年になつた時分は、一番面白い時です。今止めさすのは可哀さうです。若し今まで通り此方に公吉を置いてやつた上に、學資その他を出してやると言つたら、伯母さんは無論承知するでせう」

「それは承知するだらう」と母が言つた。「然し、今は喜んでそれを承知したところが、若し公吉が中學校を出て、それでいゝ人間になればだが、若しよくならなかつたら、あの時あんな入らぬおせつかいをしたからだ、とあの人の事だから言ふに定つてる。」

「そんな事かまはないぢやありませんか。」

「まあ、それは覺悟してとしても、矢張り一度非石さんや何かに相談してから、そんな風にしてやるならやるとしても遲くはないだらう。前々から言つてた通り、この二十日はお前のお父さんの三十年祭に當るから、私は向うへ行つて來ようと思つてゐる。その時私が非石さんや何かにお目にかゝつて相談して來よう。」と彼女は言つた。

　やがて、私の母が岡の方へ行つて歸つて來ての報告に、彼方では親類の人たちは悉く私の考と反對であるとの話だつた。何よりもあの分らずやの公吉の母親が、彼に學校を止めさしたいと言ひ出したことに、傍から助言したり反對したりすることは無駄であるばかりでなく、それは結局惡意を以て報いられるだらう。それに、もつと上の學校に行くのなら別だが、中學校を卒業するだけ位なら、却つて今から銀行でも會社でもへ行つてゐる方が近道でもあり、結果に於いても同じである、そして又今のところ公吉の母親は實際に於いて金錢上からしても、心持からしても、出來るだけ困つてゐるやうに見せかけてはゐるが、案外困つてはゐない、今にもつと本當に困る時が來て、頼まれもしないのにこんな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

おせつかいをする迄もなく、親類として放つておけなくなるやうな時が來るかも知れない、多分來るに違ひない、この時までもつと苦勞の味を嘗めさした方がいゝだらう。——さつと斯う言ふのである。

私は母に、無論中學校を出るからには、その上の學校に行くことをも補助してやるだけの覺悟はしてゐるとその時答へたが、實は私も心の中でだん／＼に公吉の母親の思惑に對する恐怖が擴がりつゝあるのを感じてゐた。實際、そんなに迄して學問をすることが彼の將來に幸福を持つて來るか、或ひはそれとは別の方法で世の中に出て行く方が彼の出世の元になるかは、誰にも知られないことである。殊に學問は出來るが、多少の不良性を持つてゐる彼のことであるから、學校へつゞけて行つた爲に、却つて惡くなるといふ事も考へられないではない、その時彼の母親のやうな人であるから、どんな恨みを私に含むかも知れない、——それが一つであるが、又一つには、私より二十歲も三十歲も年長である彼の親類の人たちがそんな風に決めてゐるのに、私が出て自分はさうは思はない、皆さんがさう云はれるなら、仕樣がないから今日以後の公吉は私が預かつて一人前にして見せませう、などと斷言するには多分の躊躇を感じない譯に行かなかつた。

そして、愈々私の家の近くの公園に櫻の花の咲く時節になつたのである。公吉は多分その結果を私の母から聞いてゐたものであらう、新しい學年が始まらうといふのに、去年のやうに大騒ぎして教科書を買ひに行く樣子も見えない。そして私の注意を更に引いたことには、彼はもう自分の呪はれた境遇にあきらめて、悲む代りにさうして氣をまぎらせてゐるのであらうか、時々ハモニカを吹いてゐた、でない時は、雜誌の口繪などを手本にして、水彩畫をかいてゐた、音樂と畫とが彼の最も得意で且つ好きな科目であつたから。或ひは又、一日に必ず一人か二人かの彼の友達が來て、例の二疊の彼の勉强部屋で英語とか數學とかの研究をしてゐる時間もあつた。その中では公吉がいつも教へ手であつた。「君、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

よく考へて見給へ、こんな答が出る筈がないぢやないか？」と彼はませた口調で友達に言つてゐるのが、茶の間まで聞えて來る、かと思ふと、少し物の出來る者には有勝ちな、相手を輕蔑したやうな調子で、「こんな單語を忘れちや駄目ぢやないか。それに自分でどん〳〵忘れたり分らなかつたりした言葉は、字引を引くやうにしなくちや駄目だよ。」

そんな後で、友達が歸つてから私は彼に如何にも中學生の父兄らしい調子で、「いくら相手が分らないと言つて、それをお前に聞きに來てゐるにしても、決して人を輕蔑したり、まして輕蔑したやうな物の言ひ方をしちやいけないよ」などと誡めた。「でも、あんまり出來ない人ですもの。」「出來なくてもさ。」そして、ふとそのまゝ私たちの間に沈默が來ると、私はそんな風にして友達と一緒に學課の復習をしてゐるものゝ、彼にはもうそれが入らなくなるのだと思つて、甚だ可哀さうな氣がした。私が默つてそんな事を考へてゐる時、彼も亦默つて同じ考に沈んでゐるらしかつた。そこで、私は逃げるやうに立上つて、二階の自分の部屋に歸つて行つた。すると、間もなく下から彼がハモニカを吹く音が聞えて來るのが常であつた。

そのうちに彼が愈々明日歸るといふ日が來たのである。それより前、私の母が公吉にとつて最後の話を國の方から持つて歸つて來て以來、私は何となく彼と目を見合はすことを避けるやうな氣持になつてゐた。言ふのは、私として、私が彼の母親の將來の思惑などを無視して、（それは決して惡い事ではないかも知れないのであるから）そして又私は何も彼の親類たちとは深い關係はないのであるから、唯幾分私の母を苦しめる事を犧牲にして、彼等の意見をも無視して、斷然公吉の世話をしようと申出しさへすれば、それで彼が一時救はれるのであるから、つまり私の心の向け方一つで彼の進退が定まるのであるから、その頃、私を見る彼の目が、例へば物の言へない動物の類が、その願を目の表情に凝らすやうに、私に懇願の表情をしてゐるのを、私は感じない譯に行かなかつたのである。それを、それに答へることを私は

逃げたかつたのだ。それには又斯ういふ者も一方にはあつたのだ、といふのは、今公吉の望み通りにしてやるといふ事は、それは唯私のセンチメンタリズムを滿足させるだけのことで、若しかすると公吉の親類の年長者たちが言ふやうに、長い彼の將來の爲から言つて、最善の策ではないかも知れない、現に私の尊敬してゐる井石氏が——彼はその妻である人の、公吉の母親に對する昔の恨の感情に遠慮して、此際傍觀的な態度をとつてゐるといふ點もあるやうに思はれたが、——私の反對の意見であるといふことが、私に私の意見に傾けさせることを躊躇させるのである、だから、今公吉の目を見て、センチメンタルになることを私は恐れたのでもあつた。

けれども、その日の午後、到頭公吉が私の部屋にやつて來た。「今度の事に就いて、兄さんはどういふお考ですか？」と彼は言つた。

「僕の考は、」と私は多少押され氣味で答へねばならなかつた。「僕は出來ればお前がつゞけて學校に行つた方がいゝだらうと思つてゐた。學校へ行くことゝ、止めてしまふことゝ、何方がお前の將來の爲にいゝか、それは僕にも、誰にも分らないことだが、僕自身お前の年頃に矢張り學校をつゞけるかつゞけないかといふやうな、今度のお前の場合に似た境遇に一度ならず遭つて、その度毎に學校を止めさせられるのは死ぬより辛いと思つた。その時の事を思つて、お前も學校をつゞける方が希望だらうから、僕はさうしてもいゝと思つてゐたのだ。が、お前も聞いたらう通り、お前の親類の人たちはみんなそれに反對なんだ。僕は年も若し、今も言つた通り、お前の將來を考へると、何方がいゝかと言ふ事は言へないのだから、從つてそんなに皆が言ふ事に、僕だけが反對する譯には行かないんだ。」

「親類のおぢさんたちは、僕のお母さんを憎んでゐるので、僕まで一緒に憎んでゐるんぢやないでせうか、」と公吉が言つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「そんな事はないだらう、」と私は言つた。

「兄さんは僕のお母さんをどう思つて居られます？」と彼が聞いた。

「僕は君のお母さんに恨みも何もない、君も聞いて知つてるだらうが、井石さんとか、その外一二軒の親類では君のお母さんを惡く思ふのも無理でない理由がある、君の前でこんな事を言ふのは何だが、實際君のお母さんは惡く思はれても仕樣がないやうな事をしたらしい。だが、僕の場合では、恨みに思ふどころか、僕は中學時代にいろ／＼世話になつた恩こそある、然し、實を言ふと、その恩は恩で、僕にも少し氣に掛ることがある、といふのは、今お母さんがお前に學校を止めた方がいゝと言つてゐる時に、僕がうつかりお前にすゝめてそれを續けさしたとして、もしその後お前がうまく行かなかつた時には、あの時僕が入らぬおせつかいをしたからだなどと、飛んでもない事を考へ兼ねない人だからだ、そんな點で、僕もお前のお母さんを誠にやりにくい人だと思つてゐる。恩になつた僕でさへそんな風に警戒する心になる位だから、外のさうでない、而も以前苦い經驗を嘗めた親類の人たちが、お前のお母さんをよく思はないのは多少無理のない事なんだ。然し、いくらその人たちだからと言つて、君と君のお母さんとをさういふ意味で一緒くたにして考へてはゐないだらうと僕は信じる。」

「僕も僕のお母さんをいゝ人とは思ひません、」斯う公吉は言つて、泣けさうになつて來たのか、折く言葉を切つてから、伯母さん（私の母を指す）は僕のお父さんを矢張りよく思つて入らつしやらないでせう、それで……」

「まあ、然し、ね、公吉、」と私は遮つて言つた。「そんな事は一口に言へないよ。それやお前も聞いてるだらうが、お前のお父さんが四十歲近くなつてから、身體一つで何處からともなく國へ歸つて來た時、伯母さんはもう寡婦になつてゐたが、未だどうにか僕の親父の遺産でやつてゐる時分だつたから、お前のお父さんを二年ばかり養つたことがある、然

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しお前のお父さんがよくなつて、伯母さんの方が惡くなつてからは、お前のお父さんは伯母さんに素氣なくした。そんな譯で伯母さんは女の事だから、よく思つてゐなかつたことはある。然し兄弟なんて變なもので、お前のお父さんの死ぬ時分には、お前も覺えてゐるだらうが、二人は急に仲よくなつて……」そこで私が泣けさうになつて來た。で、私はぐつと唾を呑み込んで、「仲よくなつて、お前のお父さんは伯母さんの……」私はそこで又一つ唾を呑み込んだ。が、それでも未だ言葉をつゞけると淚に破れさうなので、もう一度ぐつと唾を呑んで、「伯母さんの……」又切れて、「伯母さんの手を取りながら……手を取りながら、亡くなつたんださうだ。」

忽ち公吉が泣き出した。それは彼の泣き聲で分つた。何故と言つて、私も目に淚が一ぱいになつたものだから、下を向いて、夢中で火鉢の灰を掻きながら言つたのだつた。私は長い間そのまゝ言葉を切つて、センチメンタルな興奮の鎮まるのを待つてから、

「それに、どういふ譯か、お前のお父さんは僕を大變可愛がつてくれた。僕を大變……その事は屹度お伯母さんだつて自分がお前のお父さんによくせられたよりも一層嬉しく……嬉しく……思つてゐるに違ひないよ。伯母さんは、だからお前の味方であつても、お前を惡いやうにと願ふ筈がない。」

「兄さん、そしたら僕は一體どうしたらいゝんでせう？」

「それはお前が一番いゝ、或ひは一番斯うしたいと思ふ通りにしたらいゝだらう。」と私は言つた。「僕は中學の三年が終つた時、商業學校に入れられさうになつた事があつた。それが厭で厭でたまらないんだが、うつかり厭だと言ふと、そんなら學校を止せと言はれさうだし、學校をすつかり止す位なら、未だ商業學校でも我慢した方がいゝと思はれるし然し到頭試驗の前の日に逃げて來たことがある。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「僕も何とかして學校をつゞけたいと思ふんですが……」
「僕はお前のいゝようにしてやりたいと思つてゐる、」と私は言つた。「然しお前には色んな親類のをぢさんたちがあるその人たちに、お前明日國へ歸つたら、一々會つて、お前の望みを話したらいゝぢやないか。」
「でも、をぢさんたちは皆僕の言ふことを聞いてくれさうにないと思ひます。」
「それを何とか、お前が外の事をするのがどうしても厭なのなら、――厭だけど辛抱して會社へでもカフエーへでも這入つてもいゝといふ氣が少しでもあるなら何だが、――どうしても中學校へ行きたいのなら、さう言ふより外に仕樣がないぢやないか。」
「そんな事を言つたら、勝手にしろと言はれます。」
「つまり勝手にする位のお前に熱心があるならさうしたらいゝぢやないか。」――私はよく舊芝居などにある、口で指圖が出來なくて、腹でその意味を暗示して、萬事他が呑み込んでゐるといふ役目をする役者のやうな、斯ういふ口をきくのが、變にきまりが惡くなつて來た。こんな事は昔の人間のした事で、自分はそんなつまらないことをしないで、はつきりと言つてやればいゝぢやないか、と幾度も反省する氣になるのだが、矢張りそれが出來ないのである。「兎に角お前にはお母さんや、さういふをぢさんたちがあるんだから、先づその人たちを說き落し給へ、と僕としては言はなければならない、が、君が若し例へばそんな人が一人もないとしたら、僕はお前をいつでも引受けてやれるんだよ。」
「……………」公吉は私の言ふ意味が分つてか分らないでか、默つてうなづいてゐた。
「それから、」と私はそれだけでは未だ氣が濟まなかつたので、「お前後で姉さん（私の妻を指す）にも僕に今言つたやうな事を言つて、相談しておいた方がいゝよ。學校はもう始まつてるんだらう。まあ、欠席屆を出しておいたらいゝだら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

うね。」

私は、妻ならば又別の言ひ方で、私たちの意のあるところを公吉に暗示することが出來るかも知れないと思つたのである。私のつもりでは、彼が一度國へ歸つて、親類中を說いて廻つて、それで聞かれなければ、私のところへ逃げて來いといふ意味なのである。

そして、その翌晩彼は神戶行の三等急行列車に乘り込んだのである。彼は一年前に今の中學に編入試驗を受けて這入つた時、錯んで買つた小生意氣な背廣服の中學校の制服を着て、送つてやつた私に「さよなら、」と言はずに、「行つて來ます、」と言つて帽子をとつた。

それから丁度一ケ月が經つのであるが、彼はその後十日程して、「私の頭は今混亂して滅茶滅茶です、私はどうしていゝか分りません、今後の私はどんなになるか分りません、今のところ居所も定りません、」といふ葉書を寄越した切りである。私はそれを見て、混亂といふ、成る程、文字通り混亂といふやうな景色があつて、その中に小さい公吉がぐるぐる廻つてゐるやうな氣がして、非常に感に打たれた。私はもつとはつきりした言葉で彼に指圖してやらなかつたことが後悔もされた。公吉のやうな境遇に置かれた者は、どんな風に生きて行くものだらうか、と夜眠れないで考へられもした。無理に探したら分らないこともないだらうから、大阪までそつと迎へに行つてやらうかとも思つた。

ところが、近頃又前記神戶の山崎の家にゐる私の哀れな兄に一つの事件が起つて、若しかすると、彼が私の家に一緒に住みに來るやうな事になるらしいのである。すると、變なもので、母が彼のことで私に遠慮することがあるように、私もまた公吉のことでは母に遠慮する氣味になつて、ついそのまゝになつてゐるのである。公吉よ、私も亦松尾芭蕉に眞似て、「これ天にして、汝が性のつたなきを泣け、」と言はねばならぬか。

まだ梅雨には間があるのに、昨日も今日も鬱陶しい雨つゞきである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯私語

○

建國の元氣！それは我西郷が明治維新を生んだ元氣だ、レニンがロシヤ革命を遂行した元氣だ！レニンが四人の同志と幾年も、幾年も諸國を流浪し、ロシアを先づ赤化し、世界革命を遂行せんとした元氣！その元氣は今はた、どれほど殘つてをらう。

○

我々はロシアが何故に新經濟政策を採つたか、それが對內的關係からか、對外的關係からか、それを問ふのを休めやう、しかし我々の眼前に展けて來た日露交渉の根本を定めるには此の問題を深く討究する必要があらうと思ふ、そしてロシアが將來新經濟政策で推し通すか、または新々經濟政策を編み出すかをも考へねばならぬ。

○

「私人に國際の交渉を委ねるな」と云ふ刀筆の吏がある、猫眼彼は憲政會總裁である、猫眼よりモット小さい彼の心情憫むべきだ、人道的．哲學的に無學な彼としては止むを得まい、とにかく前世紀の遺物だ、それから私人に功を樹てられるを燒く政友會がある、小さい感情の範圍を一歩も脫することの出來ぬイワシの頭の役人がある、この人達は民人の休戚といふことがわかつてゐるのか。

○

我々はお互に血をすすつて新日本の建設に當面せねばならぬ、小さな體面說に拘泥しておれば國民と國家の大事は去つて仕舞ふ。これ等蟋蟀の徒は輝く新日本の舞台からは一掃すべきだ。

○

當面の人！後藤新平君の大論文は時節柄注目に値する、さぞ中外に廣く論議さるることだらう、わが政治家が苦心した論文を發表して自己の立場を明にしたのは今回が嚆矢だ、とに角政治家の一進歩を表徵する意義ある論文だ。

○

後藤君の論文以外片山、福田、堀江氏苦心の三大論文、瀧井君の百五十枚の力作等登載されて近來にない愉快を覺えた。

○

アインスタイン全集第二卷立派に出來上りました、製本の遲れたのを謝すると共に石原博士その他の苦心に多大の尊敬と感謝を表します。この一項は出版部より頼まれて書きました。

改造定價

壹冊	定價八十錢	郵稅貳錢

半ケ年(四円八〇〇)以上　郵稅不要
特大號臨時號の定價は別に定む

改造廣告

一頁廣告料　一等百貳拾圓　二等九拾圓　三等八拾圓

廣告取次所　日本電報通信社　博報堂　一星社　弘盛社

註文の注意

◇註文は凡て前金とす
◇前金切れの際は發送を停止す
◇見本は發送せず
◇外國發送の註文は別に郵稅(普通號貳拾四錢)を申受く(但し支那を除く)
◇郵便切手代用は壹割增のこと
◇拂込は振替貯金によらるるが最も便利なり

大正拾貳年五月廿日印刷納本
大正拾貳年六月一日發行

編輯兼發行者　平田貫一郎　東京市芝區愛宕下町一ノ一

印刷所　秀英舍　東京市京橋區西紺屋町廿七番地

發行所　改造社　東京芝區愛宕下町一ノ一
電話　芝(長)一六三八　芝二八〇五四　芝四三〇三
振替東京八四〇二三

(本號に限り特價金[illegible]圓)

法學博士 堀江歸一著

續篇 國際經濟と國民經濟

定價二圓五十錢
送料十五錢

最新刊

最近の經濟界の指針たる大抱負を以つて「續編國際經濟と國民經濟」を本日發賣します、混亂せる財界の前途を見んと欲せば本書に就け。（五月二十日發賣）

堀江歸一著

國際經濟と國民經濟（六版）

定價壹圓九十錢
送料十五錢

東京芝區愛宕下町

改造社

振替東京八四〇二番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

梅雨の季節が來ます

薄くて丈夫な英國バーバリー會社製の紳士用防水用レーンコートが二十圓八十錢より、オイルシルク製淑女用東コートが二十一圓五十錢より、通學等に丈夫で最も實用向きな格安ゴム引防水布マントが十三圓三十錢、其他レーンハット洋傘ゴム靴蛇の目傘、高下駄、合羽等の必要品は殘らず取揃てあります

雨の御用意は三越へ

東京市
三越呉服店
駿河町

◆六月の定休日は十一日と廿五日◆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

THE KAIZO, A MONTHLY REVIEW OF POLITICS, LITERATURE, SOCIAL AFFAIRS, ETC.
PRICE: EIGHTY SEN A COPY. TWELVE YEN A YEAR
OFFICE: KAIZOSHA, 1 ATAGOSHITAMACHI SHIBA, TOKIO

熊谷一彌著（新刊）

定價貳圓參拾錢

送料十七錢

四六判上製

改造社運動叢書

テニス

（學校家庭より註文殺到す）

熊谷氏はテニス界の世界的名星です、かの國際競技に於て熊谷の名は「日本」の名よりモット有名です、この世界人が心血を濺いで書き上げた本書は庭球界での世界的權威です、それは實に氏が、世界選手として立つた實驗を基礎として庭球の起原、發達、ストローク、競技、打球、練習その他を語るものであればテニスを語るものの何人も再讀する價値あるべく、そして總ての學校、家庭に於て參考書として一本を備ふることは學校と家庭が兒女に對する義務です。本書が發行匆々、數萬の學校、家庭より殺到するが如き註文に接しつつあるのは我が國の體育の上よりして慶すべきことです。

世界的名著の刊行

東京芝區愛宕下町

改造社

振替東京八四〇二